

319-451



\*1200800701800\*



始



陸軍大學校幹事 坂部十寸穂 序文  
陸軍大學校兵學教官 村上啓作 編述  
陸軍步兵少佐

戰 爭 要 論 全

陸軍大學校將校集會所

319  
451

## 序

戰略戰術兵器築城學等作戰ノ計畫竝其實行ニ必要ナル兵學ハ  
既ニ久シク研鑽討究セラレ今日相當ノ進歩ヲ見タリト雖戰爭  
其物ニ關スル學理的研究竝用兵以外國家ノ戰爭諸行動ノ攻究  
ニ至リテハ今尙甚タ幼稚ニシテ殊ニ本邦ニ於テハ未タ見ルヘ  
キモノ無シト言フモ過言ニアラス今日戰爭ニ關スル國民ノ根  
本觀念一致セス國防施設ニ對スル見解ノ區々ナル故無キニア  
ラスト言フヘシ

敘上ノ事實ト世界大戰ノ教訓トニ鑑ミ曩ニ本校幹事阿部少將  
ハ戰爭ニ關スル學理的研究ヲ希望セラレタリシカ果サスシテ  
轉職セラレ本職亦其必要ヲ認メテ之カ研鑽ヲ命シタリト雖此

序

一



I種  
W



\*1200800701800\*

種ノ攻究ニハ該博深遠ナル學識ト多大ノ日月トヲ要スルコト  
明白ニシテ本書ノ如キハ倉卒ノ間單ニ概要ノ輪廓ヲ劃シタル  
ニ過キス若シ夫レ内容ノ整頓充實ノ如キニ至リテハ則チ今後  
ノ研鑽ノ結果ニ待ツヘキモノ尠カラス  
身ノ軍部ニ屬スルト否トニ拘ラス此種研究ニ關スル資料竝多  
年攻究ノ結果ヲ抱持セラルルノ士ニシテ幸ニ之カ開示ヲ吝ム  
無クンハ獨リ本校ノ幸慶タルノミナラス又實ニ我學界ノ福祉  
タラスンハアラス

大正十四年十二月

陸軍大學校幹事 坂部 十 寸 穗

## 例 言

- 一 本論ハ内外先輩諸氏ノ研究セラレタルモノヲ利用シタル處尠カラスト雖筆  
者獨自ノ創意考察ニ基クモノモ亦鮮少ナリトセス一見生硬ノ感ヲ催サシムル  
説論ノ多クハ即チ後者ニ屬ス
- 二 本論ヲ草スルニ當リテハ常ニ公正妥當ヲ旨トシ不偏不黨只管眞理ニ忠ナラ  
ンコトヲ努メタリ而シテ間々所論ノ徹底ヲ缺クカ如キ箇處ノ存在スルハ眞理  
ハ常ニ中庸ニ在リト信スル筆者ノ考察ノ自然的結果ナリトス
- 三 本論ノ目的ニ鑑ミ餘リ軍事専門ニ立チ入ルコトハ成ルヘク之ヲ避ケタリ從  
テ第三編戰爭ノ計畫準備及其遂行ニ於テモ純軍事の事項ハ之ヲ省略シタリ
- 四 凡ソ事物ノ進歩發達ハ陰陽消極積極保守進歩等反對性ノ拮抗切磋競爭妥協  
調和ノ循環ニ因ルコト多シ本論ニ對スル反對論ノ如キハ此種ノ研究ノ進歩發  
達ノ爲吾人ノ大ニ歡迎スル所タラスンハアラス
- 五 本論ヲ世ニ發表スルニ方リ本研究間種々有益ナル高教ヲ賜ハリタル先輩竝

例言

僚友諸氏ノ芳情ニ對シ衷心感謝ノ意ヲ表ス

大正十四年九月

二

編者識ス

# 戰爭要論 目次

## 第一編 序論

第一章 本論ノ目的

第二章 人生ニ關スル概念

第一節 人類歴史ノ主宰者

第二節 人生ノ理想及道德

第三節 人類生活ヲ支配スル基本法則

第四節 人類ノ國家生活

## 第二編 戰爭ニ關スル理論

第一章 戰爭ノ起因

第一節 生物學的起因

目次

五四

五一

五一

三六

二三

一六

六

六

一

一

第二章 人間ノ慾望及感情ニ基ク起因……………七二

第三章 神秘的觀念ニ基ク起因……………八九

第四章 社會的發達ニ基ク起因……………九八

第一章 戰爭ノ人生ニ及ホス作用……………一〇四

第一節 戰爭ノ淘汰作用……………一〇六

第二節 戰爭ノ智能ニ及ホス作用……………一一二

第三節 戰爭ノ人間ノ情意及神秘的觀念ニ及ホス作用……………一二三

第四節 戰爭ノ道德ニ及ホス作用……………一三四

第五節 戰爭ノ經濟的影響……………一四三

第六節 戰爭ノ社會的及政治的影響……………一五三

第三章 戰爭ノ哲學的意義及平和論……………一六二

第一節 戰爭ノ哲學的意義……………一六三

第二節 「サン、ビエール」及「カント」ノ平和論……………一八四

第三節 國家カ戰爭ヲ決行スヘキ場合……………二〇〇

第四章 戰爭ノ進化……………二〇六

第一節 社會ノ進化ト戰爭ノ生長……………二〇七

第二節 軍制及軍隊ノ進化……………二一五

第三節 交戰方法ノ進化……………二三〇

第五章 戰爭ノ勝敗……………二五四

第一節 戰爭勝敗ノ意義及其素因……………二五四

第二節 戰爭目的ト戰爭ノ勝敗……………二七三

第三節 政略ト戰略……………二八七

第四節 政略ト戰略トヲ協調セシムヘキ機關(戰爭ノ最高指導機關)……………三〇七

第三編 戰爭ノ計畫準備及其遂行……………三二五

第一章 戦争ノ一般計畫及準備 ..... 三二五

第一節 戦争ノ計畫及準備ノ一般綱要 ..... 三二五

第二節 國家總動員計畫準備ノ大綱 ..... 三五四

第三節 國家總動員ノ中央機關 ..... 三七〇

第二章 戦時外交政策 ..... 三七八

第一節 戦時外交ノ一般綱要 ..... 三七九

第二節 開戦前ニ於ケル外交 ..... 三九三

第三節 開戦後ニ於ケル外交 ..... 四〇九

第三章 戦時内政政策 ..... 四三五

第一節 戦争ノ遂行ト立憲政治 ..... 四三七

第二節 治安維持並軍機保護ニ關スル政策 ..... 四五一

第三節 國民ノ精神的團結ヲ鞏固ナラシムヘキ特別政策 ..... 四七一

第四章 戦時財政及經濟 ..... 四八六

第一節 戦争ト財政及經濟 ..... 四八六

第二節 財政及金融上ノ戦争準備 ..... 五〇〇

第三節 戦時財政ノ運用並金融政策 ..... 五二四

第四節 經濟上ノ戦争準備 ..... 五五三

第五節 戦時經濟ノ梗概 ..... 五七一

第五章 和戦及戦後經營 ..... 五九二

第一節 和戦 ..... 五九二

第二節 戦後經營ノ一般著眼 ..... 六〇一

第三節 財政ノ整理及經濟復興 ..... 六一四

戦争要論 目次終

# 戰爭要論

陸軍歩兵少佐 村上 啓 作編述

## 第一編 序論

### 第一章 本論ノ目的

本論ノ目的ハ廣ク人生ノ見地ヨリ戰爭ニ關スル原理ヲ究明シ國家的見地ヨリスル戰爭ノ計畫並其遂行ニ關スル根本要素ヲ攻究スルニ在リ  
本論ハ兵學ノ根基タルヘキ戰爭學ノ胎兒ニシテ他日出生發育ノ後ハ即チ戰爭學トシテ世ニ現ハルヘキモノナリ抑用兵學ハ軍部ノ見地ニ立チ其對象ハ敵軍及我軍隊ヲ主トスト雖戰爭學ニ於テハ戰爭ノ理論ヲ討究スルニ際シテハ即チ人生ノ

第一編 序論 第一章 本論ノ目的



見地ニ立チテ戦争ノ計畫及其指導ヲ研究スルニ方リテハ即チ國家的見地ニ立チテ其對象トスル所ハ彼我ノ國家的戦争全能力ニ在ラサルヘカラス  
用兵學ノ深厚ナル研究ニ任スル者カ兵學ノ根基タルヘキ戦争學ヲ攻究スルノ必要ナルヤ言ヲ待タス大工カ幾何學攻究ノ責ヲ有セサルト等シク軍人カ戦争是非ノ研究ニ加ハルノ任ナシトノ言ハ餘リニ軍人ヲ侮蔑シタルモノニシテ當代ニ其意義ヲ爲ササルヤ明白ナリトス軍部ノ樞要ナル地位ニ在リテ平時國防ヲ計畫シ戦時直接戦争ノ指導ニ參畫スル者ハ當ニ用兵學ニ通曉スルノミヲ以テ足レリトセス須ラク戦争ノ本體ニ關シテ適確ナル哲學的信念ヲ有シ戦時ニ於ケル國家ノ運轉、國民生活、國民思想ノ推移等ニ關シ根柢アル智識ヲ具有セサルヘカラス方今ノ戦争ハ即チ國家全能力ノ統一使用ヲ必要トシ其關スル所頗ル廣大ナルニ於テ特ニ然リ

國家總動員ノ基調ハ實ニ精神動員ニ在リ若シ夫レ國民ニシテ其屬スル職業、政派、階級等ニ應シ戦争ノ本質ニ對スル觀念ヲ異ニシ戦争ニ關係セル重要事項ニ就テ種々ノ見解ヲ有センカ戦時全國民ノ協調得テ期スヘカラス早晚國民心理ノ破綻

ヲ來スヘキヤ明白ナリ世界大戰ニ於ケル獨逸國戰敗ノ原因ハ種々アランモ其最重要ナル原因ノ一ハ統帥部ト政府乃至議會ノ政派トノ一致協力不十分ナリシニ在リ而シテ其協調宜ヲ得サリシ根本原因トシテ吾人ハ戦争ニ對スル觀念ノ不一致ヲ指摘セントス夫レ戦前ノ獨逸ハ世界列強中最モ國民思想ノ統一セラレタル國家ニシテ所謂獨逸思想ハ殆ント總テノ獨逸人ノ頭腦ヲ支配シタルハ周知ノ事實ナルニ拘ラス一旦戦局ノ發展意ノ如クナラサルニ至ルヤ漸ク軍部ト政府トノ協調宜ヲ失ヒ議會ノ意見茲ニ一致ヲ缺キ終ニ外敵國ノ宣傳ニ毒セラレ内國民生活ノ窮迫スルヤ遂ニ國民心理ノ破綻ヲ來シ光輝燦然タル幾多ノ勝戦アリシニ拘ラス彼ノ惨敗ヲ見ルニ至レリルードンドルフ將軍ハ其著戦争回想錄ニ敘シテ曰ク宰相「マック」ハ公爵ニテモアリ且又將校ナレハ能ク此新時代ニ處スルヲ得ヘシト思惟セリ……(中略)……然ルニ彼ハ伯林ニ於ケル一般ノ人士ト同様ニ戦争ノ本質ニ關シ無理解ナリキ

ト諷テ我國ノ現状ヲ觀ルニ戦争其物ニ對スル觀念頗ル區々ニシテ國防施設ニ關スル所見亦種々ナル實狀ニ在リ而シテ全國民ノ思想ヲ而モ細部ニ渉ル觀念迄モ之

ヲ統一セントスルカ如キコトノ到底不可能事ニシテ且又其必要ナキコトハ言ヲ待  
タスト雖少クトモ國民ノ重要ナル或ル部分ノ大體觀念ヲ略、同一ノ軌道ニ導クコ  
トハ決シテ不可能ノ事ニアラス否其能不能ニ拘ラス國家ノ當ニ努力セサルヘカ  
ラサル所ナリトス即チ軍部其他ノ行政各部、政治界、實業界、言論界等ノ重要ナル人士  
間ニ略、一貫セル對戰爭觀念ヲ有セシムルコトハ即チ平時國防施設ニ關スル國論ヲ  
略、歸一セシメ戰時精神動員ヲ容易ナラシメ國家總動員ノ基調ヲ作ル爲極メテ緊  
要事タラスンハアラス戰爭要論最後ノ目標ハ即チ此邊ニ迄到達セサルヘカラス、  
然ラハ方今此種ノ研究ニ關スル現狀ハ如何歐米各國共ニ未タ其完成セラレタル  
モノ無キカ如ク彼ノ「フオン、クラウゼウツ」ノ「Ueber den Krieg」ノ如キモ未タ以テ  
戰爭學ト稱スルニ足ラス本邦ニ於ケル斯學ノ研究亦頗ル閑却セラレアルノ實狀  
ニ在リ第十九世紀ニ於ケル科學ノ發達ト經濟特ニ工業ノ進歩トハ兩者相關聯平  
行シテ進ミ益、専門的智識ノ向上ヲ促シ其最顯著ナルヲ獨逸國トス然ルニ學者學  
徒ノ智識ノ益、専門的トナルニ從ヒ其自然ノ結果トシテ哲學的智識ノ缺乏ヲ來シ  
一般ニ通スル者ノ減少ヲ見ルニ至レリ

此事ハ佛國ニ於テモ然リシカ如ク佛國將官 Cerrigny 氏ノ其著「Réflexion sur l'art de  
la Guerre」ニ於テ

中學校(college)ニ於テ既ニ幼年ノ時ヨリ將來入ルヘキ専門ノ學校ヘノ入學受  
驗ヲ準備スルヲ以テ一般人士ニ必要ナル智識ノ養成ニ於テ缺クル所アリ此  
ノ如クニシテ判斷力ノ爲必要ナル哲學ノ如キハ全然閑却セラレ其課程ニ入  
ラス云々

ト敍シ佛國國民教育制度ノ改善ヲ主張セリ  
方今戰爭及戰鬥ノ益、多岐複雑ト爲ルニ從ヒ分業ヲ重ンシ各専門的智識ノ發達ヲ  
要スルコト勿論ナリト雖而モ此専門ハ全般ニ通シテ後ノ専門ナラサルヘカラス  
殊ニ國家ノ樞要ナル地位ヲ占ムル者ハ其官吏軍人タルト否トニ關セス能ク戰爭  
ノ本質ヲ理解シテ國民ヲ指導スルト共ニ國家全局ノ利害ニ鑑ミ其専門ニ拘泥ス  
ルコトナク協調努力以テ國家終局ノ目的ヲ完全ニ達成センコトヲ期セサルヘカ  
ラス此點ニ關シテハ獨佛ノ將校ニ比シ稍、素人ノ觀アル英國將校ノ長所ヲ認メサ  
ルヘカラス

## 第二章 人生ニ關スル概念

戰爭ハ人類ノ活動中最大ナル事業ニシテ戰爭ノ本質ヲ究メンカ爲ニハ先ツ人生ノ本體ヲ明ニシ人生哲學ニ關スル概念ヲ有セサルヘカラス  
然ルニ哲學タルヤ其本質上自然科學ニ於ケルカ如ク客觀的ノ實驗ニ依リテ絕對ノ真理ヲ證明シ得ヘキモノニアラス事實ヲ科學的ニ觀察スル外ニ幾多ノ事實ヲ主觀的ニ綜合考察シ以テ真理ヲ求メサルヘカラス而シテ既ニ主觀的考察ノ加ハル以上人々ノ考ヘ方ノ如何ニ依リテ意見ノ相違ヲ生スルハ已ムヲ得サル所ニシテ問題ハ如何ナル考ヘ方カ最モ完全ニ事實ヲ説明シ得ルヤニ在リ例ヘハ人生ノ本體ハ何ナリヤノ問題ハ人生ノ本體ヲ如何ナルモノト考フヘキヤノ問題ニ外ナラス

### 第一節 人類歴史ノ主宰者

古代ノ史家ハ國民ヲ支配シ又ハ指導セル若干ノ人物ノ歴史ヲ記シ其歴史ヲ以テ

民衆ノ歴史ト爲セリ而シテ如何ニシテ是等若干ノ人物カ其意志ノ如ク民衆ヲ動かシ得タルカヲ説明スルニ次ノ言ヲ以テセリ曰ク神ハ其ノ選ヒタル或ル人物ノ意志ニ國民ノ意志ヲ從ハシムト然ラハ此等國民ノ支配者又ハ指導者ノ意志ハ何ニ依リ支配セラルルカト云フ疑問ニ對シテハ神ハ其ノ選ヒタル國民ノ支配者又ハ指導者ノ意志ヲ或ル一定ノ目的ニ向ハシムト説明シ神カ直接ニ人類ノ事業ニ干與スルモノトセリ以上ノ説明ハ神ヲ信スル者ニハ完全ニシテ遺憾ナキモ之ヲ信セサル者ハ首肯スル能ハス  
所謂新歴史家ハ神ノ意志ニ依リ直接ニ指導セラルル神權行使者ヲ認メス國民ヲ支配シ指導スル者ハ絶大ナル能力ヲ有スル卓越セル人物即チ英雄豪傑ノ如キ偉人ナリトシ人類ノ向フ目標ハ全人類ノ文明ノ幸福ニ在リトセリ其所論古代ノ史家ト異ナルカ如シト雖

- 一 民衆ノ活動カ或ル若干ノ人物ニ依リ指導セラルルコト
  - 二 人類及國民ノ向フヘキ一定ノ目的ノ存在スルコト
- ヲ是認スル點ハ即チ一ナリ而シテ新歴史家ハ何故ニ民衆カ或ル若干ノ偉人ニ依

リ指導セララルルカヲ説明スルニ「權力」ナル語ヲ以テセルモ此「權力」ニ關スル説明ハ區々ナリ

彼ノ法理學ハ古人カ火ヲ絶對的ノモノト信シタルカ如ク國家及權力ヲ以テ絶對的ノモノト説明スルモ史的觀察ニ依レハ國家及權力ハ恰モ火カ元素ニアラスシテ一ノ現象ニ過キサル如ク人類間ニ於ケル一ツノ社會的現象タルハ明白ナリ或ハ曰ク「權力」トハ民衆ノ選ヒタル支配者ニ對シ自己ノ支配ヲ承認(意志表示)ヲ行ヒ又ハ之ヲ行フコトナクシタル民衆意志ノ聯結ナリト又曰ク「民衆ノ支配者」ハ民衆ノ意志ヲ實行スルヲ以テ權力ヲ有ス民衆支配者ハ自己ヲ以テ民衆ノ意志ヲ表現ス即チ支配者ノ行動ハ民衆行動ノ代表者ナリト然レトモ民衆ノ生活ハ若干ノ支配者又ハ指導者ノ生活中ニ包括セラルヘキモノニアラサルハ明白ニシテ換言スレハ若干偉人ノ生活ハ國民生活ノ一部ニシテ全部ニアラス

權力ヲ有スル支配者又ハ指導者ノ發スル命令—支配者ノ意志表示—若干ノ言辭ハ偉大ナル歴史的事件即チ戰爭等ノ無數ノ個々ノ現象中ノ一現象ニ過キス苟モ超人間的力—奇蹟—ノ之ニ參加セサル限り此一現象カ數百萬ノ人間ノ無數ノ個

個ノ行動ノ唯一ノ原動力タリ得ヘシトハ思惟スルコト能ハス縱ヒ一步ヲ讓リテ此等權力者ノ發スル命令カ偉大ナル事件ヲ惹起シ得ヘシト假定スルモ歴史ハ明ニ次ノ事實ヲ立證ス即チ支配者又ハ指導者ノ發スル其命令ハ屢々實行セラレサルノミナラス時トシテハ命シタルコトト全然反對ノ事件ノ實行セララルル場合ノ尠カラサルコト是ナリ

伯爵「レフ、トルストイ」ハ其著「戰爭ト平和」ニ於テ千八百十二年戰役ヲ哲學的ニ批判論究シテ曰ク「ナポレオン」ハ其部下ニ對シ單ニ露國遠征ヲ實施スヘシト命スルコト能ハス又決シテ之ヲ命シタルコトナシ彼ハ今日「ウキーン」ニ「ベルリン」ニ「ペテルブルグ」ニ所要ノ文書ヲ送り明日陸海軍、兵站等ニ對シ夫々所要ノ命令ヲ與フル等幾多ノ處置ヲ爲シ數百萬ノ命令ヲ發シ此數百萬ノ命令中ノ或ル若干カ恰モ佛軍ノ露國侵入テフ事件ノ發展ニ恰當シタル迄ノコトナリ換言スレハ「ナポレオン」ノ發シタル命令中其實行セラレサリシモノ幾何ナルヲ知ラス而シテ千八百十二年戰役テフ事件ノ進展ニ吻合セル或ル種ノ命令カ實施セラレタルモノナリ而モ此實行セラレタル命令ハ他ノ實行セラレサリシ命令ニ比シ其質ノ優レルカ故ニ實施

セラレタルニアラス唯此等ノ命令ノ實施セラレタルハ即チ必然實現ノ運命ニ在リシ佛軍ノ露國侵入テフ事件ニ恰當シタルカ爲ナリ「ナポレオン」カ英國遠征ノ爲ニ費シタル努力ハ甚大ナルモノニシテ且之カ爲幾多ノ命令ノ發セラレタルニ拘ラス遂ニ其實現ヲ見ルコト能ハス然ルニ彼カ同盟ノ關係ニ在ルヲ有利ナリト考ヘタル露國ニ對シ遠征ヲ行ヒ其遠征ハ實行セラレタリ是レ前者ノ命令ハ事件ノ發展ニ適應セサリシニ反シ後者ハ之ニ恰當シタレハナリト

人生ノ歴史の經驗カ吾人ニ教フル「權力」ノ意義ハ「支配者又ハ指導者ノ意志表示ト民衆ノ此意志實行トノ間ニ存スル關係」ニ過キス故ニ人類ノ事業ハ神ノ干與ヲ認メサル限り或ル人物ノ「權力」カ民衆ヲ活動セシメ人類ノ歴史の事業ヲ爲シ得ルモノトハ思考スル能ハス

今假リニ「ナポレオン」一世ノ「權力」カ露國遠征ヲ實現シ「カイゼル、ウイエルヘルム」二世ノ「權力」カ獨逸國民ヲ驅テ歐洲大戰ヲ開始セシメタリト考フルトキハ「露國ヨリノ「ナポレオン」軍ノ潰走」千九百十八年秋ニ於ケル獨逸皇帝及國民ノ悲劇ヲ如何ニ説明スヘキカ即チ昨ハ「權力」ヲ有セシモ今ハ之ヲ失ヘリト説明スルノ外ナカルヘシ

然ラハ其權力ヲ與ヘ且之ヲ奪フ者ハ誰ナリヤ國民ナリヤ將タ又神ナリヤ若シ夫レ古代ノ史家ノ如ク神ヲ認ムレハ即チ已ム若シ新歴史家ノ如ク之ヲ認メサレハ問題ハ迷宮ニ入ラサル能ハス蓋シ軍兵又ハ國民カ隨意ニ其支配者ノ「權力」ノ與奪ヲ爲シ得ヘシトハ考ヘラレサレハナリ

凡テ歴史の事件ハ必スヤ何人カニ依リテ表示セラレタル意志ト一致スルモ此事實ヲ觀テ某歴史の事件カ或ル一人又ハ數人ノ意志ヨリ起リタリト考フルハ大ナル誤解タルヲ免レス「レフ、トルストイ」伯ハ千八百十二年戰役カ決シテ「ナポレオン」一世又ハ露帝「アレクサンダー」一世若ハ之ヲ圍繞スル大官ノ意志ト其權力トヨリ生シタルモノニアラスト論シ此等數人カ此ノ如キ偉大ナル歴史の事件ヲ實現シ得ルモノニアラスト斷セリ

又現代歐洲ノ碩學佛國心理學者「グスターフ、ル、ボン」氏ハ協商國側ノ多クノ學者、政治家等カ歐洲大戰ヲ希望シ之ヲ惹起シタル者ハ「ウイエルヘルム」二世ナリト唱フルニ對シ「此ノ如キ偉大ナル歴史の事件ハ決シテ一人又ハ數人ノ人間意志ノ能ク起シ得ヘキモノニアラスト」斷シ千九百十四年夏ニ於テハ獨逸、英、佛ノ元首中何人

モ歐洲大戰(埃塞戰ニアラス)ヲ希望シタル者ナキヲ立證シ獨埃塞帝ハ何レモ Autocrat ニシテ海陸ニ於ケル絶對主權者ナリシニ拘ラス其意志ニ反スル大戰ノ勃發ヲ防止スル能ハス其ノ有スル Autocratia ハ畢竟何ノ用ヲ爲シタリヤト喝破シ其超凡ノ卓見ヲ示セリ氏曰ク「古人ノ所謂運命ハ神及人類ヲ制駕シタルノミナラス王者ノ意志ヲモ翻弄セリ」トレフ、トルストイ伯ハ其著「戰爭ト平和」ニ於テ具ニ人生ノ歴史ヲ論シ人類ノ歴史ハ先天的ニ定マレル法則(5)ノ支配スル所ニシテ所謂顯著ナル歴史的人物ハ一般ノ民衆ト共ニ此ノ定マレル法則ヲ實行シタル迄ノコトナリ數世紀ニ互リテ實現セラルヘキ歴史的事件ノ全經過ヲ主宰シ得ヘキモノハ時ノ外ニ超然タル神ノ意志アルノミ唯神ノミ其唯一ノ意志ニ依リ全人類活動ノ一般方向ヲ定ムルヲ得ヘシ人々ハ各、或ル期間タケ活動シ歴史的事件ニ參與スルノミト論結セリ

運命ト言ヒ神ト言ヒ又ハ法則ト稱スルモ要スルニ其大主眼ハ佛ノ「グスタフ、ル、ボン」及露ノ杜翁共ニ一揆ニ出テタリト謂フヘシ吾人カ既往人類ノ歴史ヲ通觀シ認識セサルヘカラサル一事ハ全歴史ヲ通シ一貫セル脈絡ヲ有シ連絡統整アル事

件ノ連綿タル繼續ナルコト是ナリ若シ夫レ各人間ノ意志カ全然自由ニシテ或ル法則又ハ或ル力ノ支配ヲ受ケサルモノトセハ人類ノ歴史ハ全然脈絡統整ナキ偶然ナル出來事ノ接續ト爲ルヘキハ必然ナリ今千年間ニ百萬人中ノ唯一人タリトモ全然自由ニ行動シ得ル者在リトセンカ千古不磨ノ鐵則ニ反スル此一人ノ唯一ノ行爲ハ即チ全人類ノ爲ニ存スル或ル天理ノ存在ノ可能ヲ絶滅スルコトトナルヘシ若シ人類ヲ支配スル唯一ツナリトモ天理在リトセハ自由ナル意志ノ在リ得ヘキ筈ナシ蓋シ人類ノ意志ハ總テ悉ク此天理ニ從ハサルヘカラサレハナリ即チ人生ノ歴史ハ此天理ノ支配ヲ受クル人間意志ノ活動ノ結果タラスンハアラス然ルニ人ハ主觀的ニ自ラ自由ナリトノ自覺ヲ有シ此自覺ノ存スルコトカ即チ人類ノ他ノ動物ト異ナル所ニシテ人間ニ其特有ノ靈性ノ存スル所以ナリ而シテ凡テ人ノ努力ハ其意志ノ自由ヲ擴張セントスルニ外ナラス貧者ヨリ富者ニ、無權者ヨリ有權者ニ、弱者ヨリ強者ニ、病者ヨリ健康者ニ、無識者ヨリ有識者タラント欲スル等何レモヨリ大ナル自由ヲ得ントスルニアラサルナシ唯此ノ人間ノ自覺タル「意志ノ自由」ハ何等ノ經驗又ハ理論ニ由リテ證明セラレタルニアラス單ニ人カ爾ク自覺

スルノミ蓋シ此自覺ナクシテ人ハ其生ヲ理解スル能ハサレハナリ既ニ意志ノ自由ヲ自覺ス故ニ人ハ千八百十二年戰役ヲ觀テ即チ「ナポレオン」一世「アレクサンダー」一世又ハ之ヲ圍繞スル大官カ其自由意志ニ依リ實行シタルモノト考ヘ歐洲大戰ハ「ウイールヘルム」二世ノ方寸ヨリ生シタルモノト思惟スルモ亦宜ナリト謂フヘシ然ルニ人間カ一度自己ノ生存ヲ全人類一般ノ生存ト連結シテ考フルトキ人ハ其意志カ人生一般ヲ主宰スル天理鐵則ノ支配ヲ受クルコトヲ明ニ認識セサル能ハス唯一般ノ人生ト分離シテ唯自己一人ヲ考フルトキノミ其意志ノ自由存在スルノミ前陳ノ如ク全人類ノ歴史ハ先天的ニ決定セラレタル天理ニ從ヒ一定ノ徑路ヲ連續進展スル過程ニシテ人間意志ノ自由ハ單ニ主觀的ニ爾ク感セラルルニ過キス客觀的ニ之ヲ觀レハ皆天理ノ支配ヲ受ケ行動スルモノナリ故ニ英雄時勢ヲ作ルヤ時勢英雄ヲ作ルヤノ問題ハ全然無意義ニシテ英雄モ時勢モ其ニ天理ノ生ム所タラスンハアラヌ天時不如地利地利不如人和ノ言モ亦同様ナリトス此ノ如ク觀シ來レハ人間個性ノ價值ノ如何ニモ微小ナルカ如ク感セラルルモ實ハ然ラヌ却テ小ナル人間ヲ偉大且悠久ナル人生ニ繋キ全人類ニ對スル個性ノ地位ヲ確認セ

シメ無窮ノ人生ニ對スル個性ノ意義ヲ明ナラシムルモノナリ斯クシテ人ハ其靈魂ノ不滅ヲ信シ自己ヲ神ニ繋クヲ得ヘシ唯如上ノ哲學的觀念ヲ穿キ違ヘサルノ注意ハ肝要ナリ彼ノ「マルクス」信者カ屢「道德ヲ蔑視シ殊ニ「マルクス」精神ノ正當ナル繼承者且實行者ヲ以テ任スル「ボリシェウイック」カ全然道德ヲ破壊シ去リタルモノ皆「マルクス」思想ノ根柢ヲ爲セル所謂唯物史觀ニ負フ所尠カラス近時本邦ニ於ケル道德ノ頹廢亦然リトス即チ人間意志ノ自由ヲ認メス強盜スルモ殺人ヲ敢テスルモ皆是レ宿命ニシテ如何トモスヘカラス「斯クスルヨリ外ナカリシナリ」トノ盾ニ隱レテ行動センカ人類ノ靈性ハ其光ヲ失ヒ道德ノ頹廢スヘキハ必然ナリ「カント」曰ク「道德性ハ先天的ノ人間性ニシテ人カ神ノ存在ト意志ノ自由ト靈魂ノ不滅トヲ信スルトキニ於テノミ道德ヲ維持シ得ヘシ」ト然リ縱ヒ全人類ノ歴史ハ先天的ニ決定セラレタル超人カノ天理鐵則ニ從ヒ一定ノ徑路ノ連續進展スルモノナリト雖是レ神ノ事ニシテ人間ノ事ニアラス人間ハ明ニ其意志ノ自由ヲ自覺ス故ニ此自覺ニ基キテ其行爲ヲ律シ天ヨリ與ヘラレタル靈性ヲ發揮セサルヘカラス所謂唯物史觀ハ一ノ事後的ナル經驗的法則ニシテ人生ノ事實ヲ事後的ニ整理觀

察シタル結果ナルヲ以テ人生ノ歴史ヲ客觀的ニ研究スルニ際シテハ方ニ正當ナルモ個人カ其行爲ヲ律スルニ方リテハ即チ其自覺ニ基キ其意志ヲ以テセサルヘカラス即チ個人ハ其行爲ニ關シ自ラ其責ニ任スルヲ要ス

唯人間ヲ客觀的ニ觀察スレハ事自己一人ニ關スル限り意志ハ完全ニ自由ナリト雖一度自己以外ノ者トノ交渉ヲ有スルニ至ルヤ然ル能ハス即チ人間ノ行爲ニ二種アリ一ハ其實行者ノ意志ノミニ關スルモノニシテ他ノ一ハ然ラサルモノ是ナリ然ルニ人ハ屢他人ノ意志ト自己ノ意志トノ交渉ノ結果行ハルルノ事實ト實行者ノ單一ナル意志ニ因リ行ハルル事トヲ混同ス此兩者ノ關係ヲ明確ナラシムルハ即チ心理學ノ主要ナル任務ニ屬ス

## 第二節 人生ノ理想及道德

人類ノ歴史ヲ主宰シ人類活動ノ一般方向ヲ定ムルモノハ人類ノ意志ニアラスシテ天理鐵則ナルコト前陳ノ如シ此天理ヲ宗教的ニ言ヘハ所謂神ニシテ此天理カ一ツノ主神ヨリ出ツトスルモノハ一神教(基督教)ノ如シ善惡二神ヨリ出ツトスル

モノカ二神教(往古波斯ノ「ゾロアスター」教ノ如シ)諸々ノ神ヨリ出ツトスルモノカ多神教(原始的の宗教、日本ノ神道)ナリ而シテ多神教ト一神教トヲ合シ世界其物カ神ナリトシ神ハ世界ノ内存的の目的ナリトスルモノハ所謂萬有教ニシテ佛教之ニ屬ス

人類ノ歴史ヲ如何ナル方向ニ向ハシムルカハ是レ神ノ事ニシテ人ノ事ニアラスト雖而モ人ハ靈性ヲ有シテ神トノ交渉ヲ保チ神ノ事業ニ參與シ活動シ且或ル程度迄人意ハ神意(天理)ト相通ス而シテ前節ニ述ヘタル如ク新舊歴史家共ニ人類ノ向フヘキ一定ノ目的ノ存在スルコトヲ肯定シ古今ノ哲學者ノ多クハ人生ノ現實ヲ以テ最良ノモノトセサルモ而モ全體トシテハ最良世界ニ近ツキツアルモノト思惟スル點ニ於テ一致ス此最良世界ハ即チ人生ノ理想ニシテ其目的タリ是ニ於テカ人ハ現實ニ對スル受動的態度ヨリ脱シテ理想ヲ追求スル活動的の態度ニ移ラサルヲ得ス人ノ倫理的の事業ノ起ル所以實ニ此ニ存ス

然ラハ人生ノ理想ハ如何ナルモノナルカ此理想即チ善ニ到達センカ爲ニハ吾人ノ行爲ハ如何ナル法則(即チ道德)ニ從ハサルヘカラサルカ此問題ハ倫理終極ノ問



題ニシテ最も重要ナルモノナリ古來人生ノ理想ニ關スル哲學者ノ說ニ二アリ一ハ快樂說ニシテ他ハ嚴肅說ナリ

快樂說ノ中ニ個人ノ快樂利益ヲ増進スルヲ以テ目的トスル所謂利己主義ト社會一般ノ快樂利益ヲ目的トスル所謂利他主義功利主義トアリ利己主義論者トシテハ「ホッブス」アリ又「ベンサム」ハ最大多數ノ最大幸福ヲ說キ「ミル」ハ益其說ヲ紹述シ共ニ功利主義ヲ主張セリ

快樂ハ元來主觀的感情ノ狀態ニシテ人ニ依リ各相違アリ甲ノ快樂トスル所ト乙ノ快樂トスル所ト必スシモ同シカラス故ニ功利主義者ノ所謂最大幸福ハ如何ナル單位ニ據リテ計量スヘキカノ問題ニ衝突スルヤ終ニ個人的快樂說即チ利己主義ニ還ルカ若ハ他ノ說ニ轉セサル能ハス然ルニ個人的快樂說モ亦心理學上缺陷ナシトセス即チ人ノ欲求カ單ニ快樂ニ在リト爲スハ明ニ事實ニ反シ人間カ知情ヲ具フルモノタル以上人間ノ欲求ハ知情兩者ヲ満足セシムルモノタラサルヘカラス單ニ感情ノ満足タル快樂ヲ對象トセサルヤ明白ナリ

嚴肅說ハ人生ノ罪惡ハ凡テ其根源ヲ快樂ヲ求メントスルノ心ニ發スト爲シ情慾

ヲ壓伏シ快樂ヨリ遠隔スルコトニ依リ人ハ其善ニ達シ最モ望マシキ生活ヲ送リ得ト爲ス「ストア」學派又ハ佛教此類ナリ然レトモ人ノ事業ハ總テ人ノ欲求ニ因リテ生スルモノナルカ故ニ人ノ快樂即チ欲求ヲ非認センカ人生ノ活動得テ望ムヘカラス是レ實行スヘカラサルノ說ナリ

第十八世紀ノ末葉佛國ノ感覺論者盛ニ極端ナル快樂說ヲ唱ヘ道德ノ危機ヲ生スルニ方リ屹然トシテ時流ノ外ニ立チテ道德ノ無上ナルコトヲ喝破シタル「カント」ト爲ス彼曰ク「善トハ善意ナリ意志善ナラハ其結果ノ如何ニ拘ラス直ニ善ナリ然ラハ善意トハ何ソヤト言フニ唯吾人カ理性ノ自ラ課スル所ノ先天的道德法則ニ從ヒテ行動センコト是ノミ」ト即チ「カント」カ善ヲ動搖不定ノ外界ニ求メス内心ノ作用ニ求メタルハ彼ノ偉大ナル所以タラスンハアラス然レトモ「カント」ノ學說ハ先天論嚴肅論形式論ニ偏シ欲求ト理性トヲ正反對トシテ相對立セシメタルカ如キハ明ニ心理的根據ヲ誤リ且人生ノ理想其者ヲ說クコト詳ナラス是ニ於テカ「カント」ノ說ニ反對スル學者出テ終ニ古哲「アリストテレース」ニ還リ「人生ノ目的即チ至善ハ圓滿ナル幸福ナリ幸福ハ有徳的不斷ノ活動ニシテ人間ノ保存安全及完成ナリ」

トノ說ヲ發展シ「カント」ノ說ト連結スル者ヲ生スルニ至レリ英國「グリーン」ノ自己實現說ノ如キ是ナリ曰ク「欲求ノ對象ハ快樂ニアラス快樂ノ原因タル事物ノ觀念ナリ故ニ吾人ハ吾人ノ欲求ヲ統一シテ完全ナル自我ノ理想ヲ實現スル點ニ於テ究竟ノ満足ヲ得ヘク是レ實ニ人生ノ理想ナリ而シテ個人ハ社會ト有機的關係ヲ有スルヲ以テ其理想ハ常ニ社會ノ安寧即チ一般共通ノ善トシテ實現セララルナリ」ト如何ナル目的ノ爲ニ人間カ創造セラレタルカハ吾人ノ知ル所ニアラサルモ生レタル後ノ吾人ノ目的ハ幸福ナルニ在リ而シテ個人カ其天分即チ人生ノ理想ヲ實現スル爲各個性ノ盡スヘキ分擔任務ヲ完全ニ達成シタルトキ全人類ノ幸福ト爲ルヘク又同時ニ各個性ノ満足トナルヘシ換言スレハ人ハ其靈肉ノ活動ヨリ起ル欲求ヲ統一シ完全ニ其個性ニ與ヘラレタル天分ヲ盡シ個性ヲ充實發揮スルニ由リテ個性ノ満足ヲ得ヘク全人類ノ幸福ニ貢獻スルヲ得ヘシ茲ニ注意スヘキハ個性ノ爲ノ個人ニアラス全人類ノ爲ノ個人ナルコト是ナリ個性萬能ニ偏シテ狹量ナル個人主義ヲ唱フル者ハ自ラ好ンテ個性ノ價值ヲ小ナラシムルモノト謂フヘシ「グリーン」ノ所謂個人ハ社會ト有機的關係ヲ有スナル言ハ更ニ之ヲ擴張シテ個

人ハ人生全體ト有機的關係ヲ有ストスルヲ至當トスヘク而シテ人類ハ全體トシテ其理想ニ對シ不斷ニ活動シツツアルヲ知ルトキ始メテ靈魂ノ不滅ヲ信シ小我ヲ神ニ聯結シ道德ノ價值ヲ確認スルヲ得ヘシ人生ノ現實カ不完全ナルコトハ事實ナリ且部分的ニ之ヲ觀レハ却テ理想ヨリ益、遠隔シ行クカ如キ觀ヲ呈スルモノナキニアラス是レ屢、人生ノ墮落、文明ノ退步、澆季等ノ叫ハルル所以ナリ然レトモ人生全體ヲ永續的ニ且公正ニ之ヲ觀察スレハ確ニ人生ノ進歩ヲ認ムヘク全體トシテハ其目的ニ近ツキツツアルコトヲ認識シ得ヘシ而シテ人生ノ進歩ハ實ニ陰陽、剛柔、消極積極等反對性ノ對立切磋、競争、妥協、調和等ノ結果タラスンハアラス吾人ハ人生ノ理想ニ到達センカ爲如何ナル法則ニ從ヒテ行動セサルヘカラサルカ此法則ノ概念ニ關シ全然背反スルニ派ノ說アリ其一ハ他律說ニシテ他ハ自律說トス他律說ハ道德ノ根源ヲ以テ國家ノ權力、宗教ノ權威、輿論ノ勢力等ニ在リトシ自律說ハ自己ノ心性中ニ此法則ヲ有スト爲ス吾人カ或ル法則ニ服從スルハ其レカ單ニ法則タルノ故ニ因ルニアラスシテ尙其レカ服從スヘキ理由アレハナリ國家、宗教、輿論ノ課シタル法則モ吾人カ之ニ服從スルコトヲ肯セサレハ忽チ其權

威ヲ失フヤ必然ナリ

何人モ自己ノ統一ヲ保有スル以上自己ノ良心ノ課スル法則ニ背ク能ハス是ヲ以テ無上ノ權威ヲ有スルモノト見ルヲ得ヘシ故ニ道德現象ノ説明上自律說ハ他律說ニ優レルコト明白ニシテ人ハ先天的ニ道德ノ素地ヲ備フルカ故ニ人類間ニ道德ノ發達シタルモノト思考スルヲ妥當トスヘシ唯良心ナル作用モ他ノ心性ノ如ク經驗ニ由リ發達スルコトハ疑フヘカラス國家、宗教ノ權威、輿論ノ勢力等カ道德ノ消長ニ大ナル影響ヲ與フルコト勿論ナリトス

道德ノ權威、道德ノ價值ハ自律說ニ依リテ益、高大ト爲ルヘシ蓋シ或ル權力者ノ課シタル法則ニシテ法則其レ自身ニ絕對ノ權威ト價值トヲ有セザランカ其權力ノ滅フルト共ニ其法則モ亦滅フヘク又其權力ニ服從セサル者ノ爲ニ忽チ蹂躪セラルヘキハ必然ナリ然ルニ今日吾人ノ道德トシテ認識スル所ノモノハ權力ノ盛衰ト沒交渉ニ存在シ幾千年間ノ悠久ニ互リ幾十億又ハ幾百億ノ人間ノ自由意思ニ由リテ承認セラレ實驗セラレ而シテ吾人ニ遺サレタルモノナリ換言スレハ既往人類カ其先天的道德性ニ由リテ創造シ培養シ且實驗シテ以テ人生ノ幸福ヲ増進スル

爲最モ有効ナリト確認シタル法則ナリトス此ノ如ク觀シ來レハ所謂舊道德ヲ呪フ者ノ淺膚洵ニ憐ムヘシト言フヘシ然ラハ道德ハ進化セサルモノナリヤ否ヤ人間ノ道德性ハ絕對ナリ故ニ道德ノ根本ハ絕對ニシテ恒久不變ナリトス唯道德ノ形體ハ生長シ進化スルコト疑フヘカラス而シテ其形體ハ年代ニ由リ多少異ナルノミナラス民族ニ由リ亦同シカラス夫レ適者ハ生存ス人間ノ幸福ヲ齎ス爲ノ人間行爲ノ法則即チ道德カ其人間ノ特性ト周圍ノ環境トニ適應セサルヘカラスルハ蓋シ自然ナルヘシ各、特有ノ體質、氣質、能力、趣味等ヲ有シ各特定ノ領土ニ居住シ固有ノ歴史ヲ有スル各民族カ各、固有ノ道德ヲ有スルハ自明ノ理ナリ民族精神トハ即チ其固有ノ道德ノ活動シツツアル精神ヲ謂フ是レ吾人カ民族ノ團體タル國家ハ道德ヲ發達セシムル爲最モ有効ナル社會的生活形式ニシテ道德的世界組織ノ一部ナリト認ムル所以ナリトス愛國心ノ道德上ノ意義即チ此ニ在リ

### 第三節 人類生活ヲ支配スル基本法則

人類ノ生活ハ如何ナル法則ニ由リ運轉セラレ變化セラレ拘束セラルルカ「カール、

マルクスハ彼カ思想ノ根柢ヲ爲ス唯物史觀ニ立脚シ人類ノ政治、宗教、思想、美術、文藝等ノ根基タルモノハ經濟的要素ニシテ經濟上ノ諸法則ハ即チ人生ノ萬事ヲ決スト説ケリ換言スレハ人間ノ思想カ其生活狀態ヲ生ムモノニアラスシテ反對ニ其生活狀態ヨリ人間ノ思想生ルト言フニ在リ然レトモ人間ノ複雜ナル生活ハ單ニ經濟的要素ノミノ支配ヲ受クルモノニアラサルヤ明白ニシテ人間ノ思想カ其生活狀態ヲ生ムコトモアレハ又其生活狀態ヨリ或ル種ノ思想ノ生ルルコトモアリテ必スシモ其一ニ偏スヘキニアラス「ボリシェヴィック」ハ「マルクス」思想ヲ更ニ極端ニ導キ過度ニ物質的ニ偏シ生理的要求ト生理的力トノミヲ重視シテ靈性方面ヲ闕却シ終ニ道德ノ大顛廢ヲ誘致セリ

之ニ反シ極端且純粹ナル唯心論者ハ一切ノ現象ヲ以テ意識的心的ト爲シ物質ヲ以テ不完全ナル精神的原素ノ發現ニ過キスト爲ス

自然ノ本質ハ縱ヒ其外觀ヲ異ニスルモ其根本ハ一ナリトスル一元論中然ラハ其本質ハ精神ニ在リヤ將タ又物質ニ在リヤニ關シ古來一元唯心論ト一元唯物論ト相對立シ又別ニ物質及精神ヲ全然別種ナリトスル所謂二元論アリ是等ニ關スル

詳細ナル説明ハ之ヲ省略スヘキモ哲學ノ大勢ハ一元論ニ在ルコトニ注意スルヲ要ス但シ一元唯物論及一元唯心論ハ物心テフ相異ナレルニ現象ヲ強ヒテ一ヨリ説カントスルモノニシテ兩者共ニ論理ノ徹底ヲ缺クヲ免ルル能ハス此兩論ヲ包括スルモノヲ單ニ一元論ト稱ス

一元論ニ抽象的具體的ノ二アリ多クノ哲學者ハ具體的一元論ヲ以テ最モ合理的ナリトセリ抽象的一元論ニ於テハ物心ト宇宙ノ本體トハ全ク別物ニシテ物心ハ本體ノ屬性ニ過キスト爲ス然レトモ本體ニシテ果シテ別物ナリトセハ如何ニシテ物心ト爲ルカヲ説明スルニ方リ窮セサル能ハス之ニ反シ具體的一元論ニ於テハ本體ト物心トヲ別物トセス同一本體ノ一面カ物ニシテ他面カ心ナリトシ物心ノ關係ハ交渉ニアラスシテ平行ナリ精神現象ト共ニ身體ニ變化アルハ因果ノ關係ニ由ルニアラスシテ兩種ノ現象カ同時ニ相併ヒテ行ハルルモノト爲ス人間ハ心物兩面ヲ最モ明瞭ニ表ハセルモノニシテ心物兩者ノ關係前陳ノ如シトセハ所謂物質文明ノ進歩ハ精神文明ノ衰頹ヲ誘致セリ「テフ言ノ無意義且無價值ナルヲ知リ得ヘク」戰爭ニ於テハ精神主ナリヤ又ハ物質主ナリヤ等ノ愚問モ起ラサルヘシ

如上ノ根本觀念ニ立脚シ人類生活ヲ支配スル法則ヲ舉クレハ左ノ如シ  
一 生物學的法則

人類モ其生存ヲ維持シ子孫ノ繁殖ヲ圖ル爲ノ法則ハ動物ト等シク生物學的法則ニ從ヒ所謂本能ヲ有ス本能ノ作用ハ器械的ノ正確ヲ以テ而モ無意識ニ行ハレ過誤ヲ犯スコトナシ但シ本能ハ盲目的ニシテ教ヲ受クル能ハス故ニ一動物カ新環境ノ中ニ入り來リ其本能カ此環境ニ適應シテ變化スルコトナク其動物カ依然從來ノ正確ヲ以テ行動セハ即チ滅亡ヲ免ルル能ハス是ニ於テカ理性ノ必要ヲ生ス

理性ハ事物ヲ判斷選擇シ一ノ本能ヲ發達セシメ他ノ本能ヲ抑制ス理性ハ其分別ニ於テ又其選擇ニ於テ時ニ過誤ヲ爲スコトアリ然レトモ此過誤ハ自由ノ必然ノ結果ニシテ其反面ニハ教ヲ受ケ得ルノ特長ヲ有ス動物ハ唯其性ニ從ヒ本能ニ由リテノミ生活スルヲ以テ罪有ル者ト爲リ得サルモ其故ニ道德的ニ行動スル能ハス人ハ罪ヲ犯スカ又ハ正シキヲ行ヒ有徳ノ人ト爲ルカノ自由ヲ有スルヲ以テ道德的ニ行動スルヲ得ヘシ人ハ努力ヲ爲ス限リ過誤之ニ伴フ然レト

モ何等ノ過誤ヲ爲サスシテハ努力モ不可能ナリ蓋シ無謬ノ本能ニ隨ウテ道ヲ迪ル人ハ正シキ道ヲ求ムルコトヲ必要トセザレハナリ

本能ハ其生シタル時ハ有用ナリシニ相違ナキモ環境既ニ變化セル後ニ於テ無用且有害ノ本能ノ殘存スルモノ尠カラズ蛾ノ燈火ニ飛ヒ込ム本能ハ往昔燈火ナキ時代ニ太陽ニ向ヒ高キニ向テ飛フトキハ何等ノ危險ナク寧ロ有用ナリシ爲生シタルモノナリ犬カ「アスファルト」道上ニ於テ後足ヲ以テ道ヲ搔ク事象亦然リトス本能ハ環境カ依然不變ナル限リ其存在ニ當然ノ理由ヲ有ス

人ハ其理性ヲ活動セシメ本能ヲ抑制又ハ發達セシメ自ラ變化シ行クノ自由ヲ有スルノミナラス其環境ヲ變更セシムル能力ニ於テ有ユル動物ニ優レリ

二 情意活動ノ法則及理性活動ノ法則

人間ノ感情意志等ハ情意活動ノ法則ニ從ヒテ活動ス該法則ハ動物ニ依リテ同シカラスト雖愛情憎惡嫉妬勇氣忠順等ハ或ル家畜ニ於テハ殆ント人間ト同程度ニ發達セルモノアリ

理性ノ發達ハ人間ニ於テ特ニ顯著ニシテ人間ト動物トノ間ニハ雲泥ノ差アリ

人ハ其理性ヲ以テ判斷シ意志ヲ以テ實行ス即チ人ヲシテ思考セシムルモノハ理性ニシテ行動セシムルモノハ意志ナリ人間ノ行爲ニ於ケル意志ノ任務ハ最モ重大ナリ而シテ意志ノ發育ト理性ノ發達トノ間ニハ何等ノ關係ヲ有セス佛將官 Marnont 曰ク「理性カ意志ヲ制シテ其上ニ立ツヤ意志ハ絶エス動搖シ屢決心及計畫ヲ變ス」ト

人心ニ於ケル感情ノ發展ハ理性ヲ以テ如何トモスヘカラス何人モ其欲スル如ク好愛スルヲ得ス又憎惡スル能ハス人ノ感情ト理性トハ各相異ナル法則ニ從ヒ活動スルヲ以テ相互ニ交渉影響セシムル能ハス一ノ感情ヲ制スルニハ他ノ感情ヲ以テセサルヘカラス決シテ理性ヲ以テ感情ヲ制シ得ヘキニアラス(註、感情ト稱スルハ未タ表面ニ現ハレサル心中ノ作用ヲ指ス)二個ノ痛ミカ同時ニ人體ニ生シタルトキ人ハ其大ナル方ノ痛ミヲ感シ他ノ弱キ痛ミヲ忘ルルカ如ク同時ニ同種ノ感情ヲ生シタルトキハ其強キ方カ弱キヲ制ス歐洲大戰ノ勃發スルヤ各國共ニ其内訌ヲ捨テテ共同ノ敵ニ當リタル如キ即チ是ナリ但シ同時ニ相異ナル感情ヲ生シタルトキハ相互ニ相激成スルコト鮮カラス例ヘハ歐洲

大戰ノ初期聯合國國民ノ對獨憎惡心ハ白耳義ニ於ケル獨軍ノ狂暴ニ對スル激怒及白耳義國民ニ對スル同情ノ念ニ依リ益増大激成セラレタルカ如シ「グスタフ、ル、ボン」ノ說ニ依レハ「各民族ハ各固有ノ傳統的情感ヲ有シ同一事柄ニ對スル見解ヲ異ニス蓋シ人ノ情感カ其力ヲ人ノ思想ニ及ホスヤ人ハ其感覺ニ從ヒテ同一事柄ヲ種々ニ解釋(知覺)スレハナリ人種間ニ存スル感情ノ不和、思想ノ相違等ノ原因即チ此ニ存ス」ト

### 三 神秘的觀念活動ノ法則

神秘 (le mysticisme) ナル語ハ哲學ト宗教トニ依リ多少其意義ヲ異ニシ又時代ニ依リ其解釋區々ナリト雖要スルニ超自然ニ對スル愛好心ニシテ現實界ニ於ケル諸種ノ事件事象ニ或ル最高威力ノ干與ヲ認ムル信念ナリ人類ハ其原始的時代ニ於テハ自然ノ法則ヲ知ラス總テノ自然界ノ現象ハ神ノ仕事ナリト解釋シ其後時代ニヨリ人間ノ有スル神秘的觀念ハ種々ノ形態トナリテ現ハレタリ此神秘的觀念モ亦其特有ノ法則ニ從ヒテ活動ス而シテ情意ノ活動ト同シク全然理智ノ力ノ干涉ヲ許サス神秘的觀念ト理性トハ各交通ヲ許ササル別個ノ世界

ニ存在ス

神秘的觀念ハ靈氣又ハ靈驗ヲ以テ以心傳心ニ之ヲ傳播シ又集團心理ノ作用ニ依リ周人ノ間ニ擴張シ得ルモ理智的手段ヲ以テシテハ之ヲ作興傳播セシムル能ハス理智ハ神秘的觀念ヲ撲滅スルヲ得ルモ之ヲ生ム能ハス人ハ一度信仰ニ入ルヤ之ヲ絶對ノ眞理ト認メ縦ヒ明白ナル事實ノ證明ヲ以テ其信念ノ誤謬ヲ覆サシメントスルモ信者ハ既ニ此ノ如キコトヲ企ツルヲ以テ誤レルモノト思惟ス人ノ神秘的觀念ノ命スル所人ハ物質的要求ヲ捨テテ顧ミス又純理的證明ヲ信セス屢苦痛ヤ個人的利害ヲ忘レ時トシテハ母性愛迄モ失フコトアリ此ノ如クシテ人ハ其有スル最モ高價ナルモノヲモ犠牲トシテ惜マス所謂難行苦業ノ聖徒ノ負フ所即チ此神秘的觀念ノ力ニ在リ

此神秘的觀念ハ精神的傳染ニ由リ容易ニ群集心理ト化シ信仰者ニ大ナル威力ヲ付與ス古代ニ於ケル猶太民族、中世記ニ於ケルアラビア民族、世界大戰前ノ獨逸民族等カ各、神ヨリ世界改造ノ使命ヲ受ケタリトノ信念ヲ懷クニ至リシモノ實ニ此神秘的觀念ノ力ニ因ラスンハアラス何人ト雖多少神秘的觀念ノ威力ヲ

受ケサルモノナシ如何ニ透徹セル理智モ一度大變ニ逢遭スルヤ其精神生活ニ動搖ヲ生シ神秘的觀念勃起シ事實ヲ正視スルノ明ヲ失ヒ理智ハ屢脱線スルニ至ル

從來科學ニ依リ閑却セラレ在リシ神秘的觀念力ハ人類ヲ動カス最モ強力ナルモノニシテ歐洲大戰ノ勃發及其發展カ神秘的力ニ負フ所ノ甚大ナリシハ、グスタフ、ル、ボンノ特ニ力説スル所タリ

以上ハ人間個人ニ就テ述ヘタレトモ人一度社會ヲ作り自己ヲ社會ト連結スルヤ即チ更ニ集團心理ノ法則(*la logique collective*)及民族精神ノ支配ヲ受ク道德ノ如キハ即チ其產物タリ

#### 四 集團心理ノ法則(群集心理ノ法則)

集團ヲ爲シタル時ノ人間ノ精神作用ハ其孤獨ナル時ト同シカラス人類ノ集團心理カ孤獨ナル個人ノ心理ト相異ナルハ尙水カ其成分タル酸素、水素等ト異ナルカ如シ

人類集團ノ心理ニ及ホス理智ノ力ハ微弱ニシテ人類ノ集團ハ理智ノ上ニ於テ

ハ常ニ孤獨ノ個人ニ劣リ感情ノ上ニ於テハ常ニ孤獨ノ個人ニ優ル集團心理ハ個人心理ニ比シ責任觀念及感謝ノ情念等頗ル薄キモ公共ノ利害ニ對スル犧牲心、利他心、勇氣等ハ個人ノ其レニ比シ旺盛トナル庸夫モ集團中ノ一人トナレハ其力量ヲ増加シ卓越セル人物ハ却テ其器量ヲ減ス集團ノ感情ハ旺盛ナルト共ニ變化シ易ク敬愛ノ情ハ忽ニシテ憎惡心ト變スルコト鮮カラス群集ノ心理ハ事ノ能不能ニ就テ深ク顧慮ヲ拂ハス空想ニ生キ神秘的觀念ノ支配ヲ受クルコト甚シク群集ノ希望ヲ最モ巧妙ニ且簡明ニ言明スル指導者ニ絶大ノ力ヲ付與ス「ナポレオン」第一世ノ例即チ是ナリ

精神的傳染ハ集團心理ニ於テ最モ迅速ニ行ハレ群集心理ハ理智ニ暗キヲ以テ宣傳ノ力ハ益々偉大ナリ即チ多クノ妄論迷想ハ群集ニ依リ容易ニ容認セラレ一度群集心理ノ中ニ入ルヤ妄論迷想モ忽チ眞理ト化ス集團ハ指導者無クンハ全然活動力ヲ缺キ又輿論ヲ作り之ヲ指導スル爲ニハ指導者ヲ必要トス輿論ノ勢力ハ頗ル偉大ナリト雖指導者無クシテ輿論ノ起ルコトハ極メテ稀ナリ此指導者ハ必スシモ群集ニ對シ多クヲ語ルヲ要セス國民ノ傳統的的感情及信念ハ一般

ノ情勢ニ刺激セラレ自然ニ大ナル作用ヲ爲スモノナリ然レトモ輿論ノ發源點ハ必スヤ其指導者又ハ大ナル事件ニ在リ指導者自身モ群集心理ノ奔流ニ捲キ込マレ自ラ被指導者トナルコト諺カラサルモ輿論カ多クノ場合個人ノ意見ヨリ生スルモノナルコトヲ非認スヘカラス大宗教ノ起原、政治上ノ大事件(革命等)等ノ跡ヲ討スレハ此間ノ消息ヲ了解スルヲ得ヘシ

群集ノ感情及輿論ヲ作興セシメ又ハ之ヲ控制スルコトヲ能クシ得ルコトハ即チ群集駕御術ノ第一歩ニシテ歐洲大戰ノ初期及中期ニ於テ獨逸カ彼ノ強盛ヲ示シタル原因ノ一ハ獨逸當局カ比較的能ク其國民ヲ指導シ得タルニ在リ

多數人ノ會議(議會等)ノ有スル心理的特性左ノ如シ

理智ノ低級

冷靜ヲ缺キ過度ニ興奮シ易キコト

俄然狂奔シ易キコト

忍耐力ニ乏シキコト

指導者ニ對スル完全ナル服從



多クノ文明國民カ自己ノ運命ヲ托シテ怪マサルバ多クハ國民的大會議(國民議會ノ如シ)ニ在リ此ノ如キ國民議會ノ集團專制ハ個人又ハ或ル種ノ閣ノ專制ニ比シ強力ニシテ困難ニ遭遇スルコト鮮キニ似タリ國民議會ハ屢、險惡ナル國民的危機ヲ救フニ有效ニシテ歐洲大戰間帝政露國カ Douma ヲ召集シタルハ幾多敗戰ヲ重ネタル際ノ最後ノ安全瓣タリキ

平常ノ場合ニ於テハ一團ノ卓越セル人物ノ識量ハ能ク群集ヲ制馭シ得ルモ戰爭又ハ革命等ノ如キ國家ノ大危機ニ際シテハ事體自ラ異ナラサルヲ得ス即チ此ノ如キ場合ニ於テハ若干ノ人物ノ勢力ヨリ生シタル群集ノ力ハ全國民ヲ驅テ一大奔流ノ中ニ投シ全國民ノ思想觀念ヲ一新ス佛蘭西大革命、獨露ノ大革命ハ明ニ如上ノ真理ヲ證明ス

### 五 民族精神

一個人ノ靈魂ハ單ニ某時期タケ存在スルニ過キサルモ民族ノ精神ハ恒久ニ存在シ死滅スルコトナシ此民族精神ハ一朝一夕ニシテ作ラルヘキモノニアラスシテ民族發生以來永年ニ亙ル民族ノ努力活動ノ結果生スルモノナリ文明國民

ノ歴史ハ即チ恒久ニ其存在ヲ保持スル民族精神成形ノ爲ニスル努力ノ發現ニシテ斯クシテ人類ハ未開ノ域ヲ脱シテ文明界ニ出ツルヲ得ヘシ十分鞏固ニ確立セル傳統的民族精神ハ屢、動搖シ易キ個人又ハ集團ノ精神ヲ統制シ國民ニ大ナル精神の支援ヲ與ヘ國民心理ノ動搖散逸ヲ防キ之ニ確實性ヲ付與ス民族ノ危機ニ際シ全國民ノ起チテ協心戮力ノ實ヲ示スモノ實ニ此民族精神ノ賜物タラスンハアラス即チ各種ノ階級ニ屬シ一見社會上ノ利害相反スルカ如キ民衆カ大事ニ際シ一致シテ起ツ所以ハ民族精神カ個人ノ利己的衝動ヲ壓伏スルニ因ラスンハアラス

今日ノ文明國民ハ純一ナル人種ヨリ成ルコト稀ニシテ種々ノ人種ヨリ成ルモノ尠カラスト雖其民族ヲ成形スルニ至リシ所以ノモノハ永年同一狀態ノ下ニ共存シ共同ノ利害ヲ有シタルニ因ル而シテ其連結ノ重大要素ハ言語及宗教ノ同一ニ在リ各民族ハ各、固有ノ國民道德、宗教、文藝等ヲ有シ如何ナル民族ト雖他民族ノ文化ヲ嚙呑ミニスルコトナク必スヤ之ヲ同化シテ自己ニ適用スルモノナリ要スルニ吾人ハ二個ノ精神ノ支配ヲ受ク其一ハ個性ノ靈魂ニシテ他ハ民

族精神是ナリ平常ノ時ハ主トシテ個性ノ精神活動スルモ國家の大事ニ際シテハ即チ民族精神吾人ヲ指導ス而シテ個性ノ精神ノ利己的傾向ヲ有スルハ自然ナリト雖傳統的民族精神ハ個人ヲシテ其民族ノ利害ノ爲ニ自己ヲ犠牲タラシム祖先崇拜ハ即チ民族精神ヲ擁護發達セシムル爲ニ緊要ニシテ本邦ノ如ク純一ナル民族ヨリ成ル民族精神ハ顯著ナル其特長ヲ有ス

前陳ノ各法則ハ各特有ノ性質ヲ有シ一律ノ法則ヲ以テ全部ヲ包括スル能ハス而シテ個人及國民ノ行動ハ理性ノ力ヨリモ寧ロ情意ノ力神秘の力又ハ集團心理ノ力ニ由リ催動セラルルヲ實際トス理智ニ長シタル人カ必スシモ人ノ長タルニ適セス衆人ノ統御ニ於テ德性カ大ナル權威ヲ有スル所以此ニ存ス

#### 第四節 人類ノ國家生活

歷史上國家ハ一ノ現象ナルコト前既ニ之ヲ述ヘタリ人類ノ存在ハ約二百萬年以降ト稱セラルルモ人類カ國家生活ヲ營ムニ至リシハ恐ラク一萬年以來ノコトナルヘク人類ノ出現ト國家ノ發生トノ間ニハ長遠ナル間隔ノ存在スルコト疑ナシ

然ルニ人類ハ其進化ニ伴ヒ國家生活ヲ始メテ以來文化頓ニ進ミ現存スル文明ノ大半ハ皆是レ人類カ國家生活ヲ營ムニ至リテヨリ後ノ產物タラスンハアラス抑人類カ其進化ニ伴ヒ國家生活ヲ開始シタルハ是レ即チ天理ノ然ラシムル所ニシテ大體ニ於テ人類ノ幸福モ亦國家生活ニヨリ向上増進セラレタルハ疑ナシ唯歷史上ノ某時期地球上ノ某局處ヲ捉ヘテ觀レハ國家生活カ必スシモ人類ノ幸福ヲ増進セシムルモノニアラサルヤノ疑問ヲ起サシムルモノナキニアラスト雖人類ノ歴史ヲ通觀スレハ前述吾人ノ言ノ正當ナルヲ肯定シ得ヘシ即チ國家ハ天理ニ從ヒ人間ノ道德性ニ基キ其社交的本能ニ因リ人間ニ生シタルモノニシテ人類カ其幸福増進ノ爲一其理想ニ到達スル爲一ニ踏ムヘキ必然ノ道程ナリトス

「ボリシエウイック」ハ其特有ノ極端ナル一元唯物論ニ立脚シ「國家ハ人間ニ經濟的ニ支配スル者ト支配セラルル者トノ區別生シタル時ニ生シタルモノニシテ支配階級カ我利ヲ達成セントスル爲便宜上採用シタル社會形式ナリ」ト論シ單ニ過渡期トシテ國家ノ存在ヲ認ムルニ過キサルモ是レ明ニ人類歴史ノ真相ト相反ス蓋シ人類ノ歴史ヲ觀ルニ經濟的優越者必スシモ國家ノ主權者タラス經濟的優越者ノ

横暴ハ却テ國家權力ノ薄弱ナル處ニ於テ甚シキハ事實ナルノミナラス彼カ説明スルカ如キ淺薄ナル理由ニ因リ國家カ生シタリトセハ過去數千年ノ久シキニ互リ儼然其存在ヲ保チ總テノ文明文化人ノ社會的生活形式タリ得ヘキ理由ナケレハナリ

「フリーゴロ、グロートゥス」ハ社交的衝動ヲ以テ人間本然ノ性ト爲シ國家ハ人間カ本能的ニ有スル社交的衝動カ認識ノ進歩ニ促サレテ有意的ニ整理精鍊セラレタル結果ナリト斷シ「ホッブス」ハ利己的即チ非社交的衝動ヲ人間本然ノ性ト爲シ自然狀態ヲハ所謂總テカ總テニ對スル戰爭ノ狀態ナリト思惟シ國家ハ人間本來ノ戰爭狀態ヲ緩和シテ利己的衝動ニ満足ヲ與ヘンカ爲ニ起レルモノナリト考ヘタリ兩者其出發點ヲ異ニスルモ國家カ自然狀態ヨリシテ人間ノ本能本性ニ基イテ成立シタルモノトスル點ニ於テハ即チ其揆ヲ一ニス「カント」亦國家ハ其成員ノ相互契約ニ基キテ成立スヘキモノナリト考ヘタリト雖彼ハ「ホッブス」「グロートゥス」等ノ如ク此契約ヲハ人類發展ノ一定段階ニ於テ起レル現實ノ史的事實ナリトハ考ヘス詳言スレハ「カント」以前ノ國家契約說ハ國家ノ經驗的史的起原ノ説明トシテ現ハ

レ居リ人間ハ原初無法無國家ノ自然狀態ニ在リシカ其カ生活ニ不便ナルコトヲ知リ或一定時期ニ於テ互ニ契約ヲ結ヒテ國家ヲ組織シ集合意志ニ服従スルニ至レリト説クモ「カント」ニ取リテハ契約ハ時間的出來事ニアラスシテ「超時間的理念」ナリ政治ニ關スル「統整的理念」ナリ彼ハ自然狀態ト國家契約又ハ國家狀態トカ時間的繼起ノ關係ニ在リト爲サスシテ國家契約ハ「理念」トシテ常住ニ自然狀態中ニ働キ其レニ照シテ吾人ハ國家カ其臣民ノ自由ノ擁護ヲ本分ニ如何ナル程度迄適合スルカヲ知ルヲ得ヘシト説ク

要スルニ「カント」ニ依レハ「自ラ與ヘタル法則ニ依テ自ラヲ律スル」ハ人間ノ本分ニシテ國家ハ實踐理性ノ要求ニ基キ人間ノ意欲ノ衝突乖離ヲ防止調停シ「人格ノ自由」ト品位トヲ擁護スルコトヲ課題トシテ發生存在シ無國家狀態ニ於テハ「法」ノ強制力不完全ナルカ故ニ人ハ人ト衝突スヘク「ホッブス」ノ説キタル如ク無國家狀態ハ應テ戰爭狀態ナリト言フニ在リ

「カント」ノ國家論ハ其根本ニ於テハ尙第十八世紀ノ個人主義ヲ脱セス彼ニ於テハ其レ自身ニ價值ヲ有シ其自體目的ナルモノハ個的人格ノミニシテ國家ハ唯此人

格ノ品位又ハ本分ヲ擁護確保スル爲ノ機關ニ過キス彼ノ直後ニ於ケル「ヘーゲル」ノ如ク國民的者ノ價值、民族精神ノ意義、國家ノ超個人的目的等ハ明確ニ認めラレサルモ既ニ其萌芽ハ「カント」ニモ發生シツツアリタルモノト考フルヲ得ヘシ「カント」ノ偉大ナル點ハ國家ヲ以テ人間ノ道德性ニ基キ成立シタルモノナリトセルニ在リ彼ニ依レハ人ハ他人ヲハ單ナル手段トシテ待遇スヘカラス目的自體トシテ待遇セサルヘカラス然ルニ人間ノ自然狀態ニ於テハ人々法則的ニ行動セス衝動的ニ行動スルヲ以テ一方ノ人ノ無制限ノ自由ノ爲ニ他方ノ人ノ自由ハ蹂躪セラレ目的自體トシテノ後者ノ品位ハ毀損セラレ後者ハ前者ノ爲ニ單ニ手段トシテノミ用ヒラルルト言フコトニ了リ人間共同生活ノ理念ニ悖リ道德ノ根本原理ニ背戾ス是ニ於テカ「法」ヲ必要トス然ルニ法ノ可強制性ハ單ナル個人相互ノ關係ニ於テハ充分ノ效力ヲ有スル能ハス個人ノ意志ヲ超越シタル團體全體ノ「集合意志」ヲ必要トスヘシ此團體ハ即チ國家ナリト言フニ在リ

人生ノ現實ハ不完全ナルモ人生全體トシテハ理想ニ近ツキツツアリトノ眞理ヲ信スル者ハ人生カ其進化ニ伴ヒ開始シタル國家生活ヲ道德ノ一ト認ムルハ蓋シ

自然ナルヘシ唯茲ニ問題トナルハ國家カ絕對ノモノニアラスシテ人類歷史上ニ於ケル一ノ現象ナリトセハ人類ハ向後益々其進化スルニ伴ヒ國家生活ヨリ脱シテ他ノ社會的生活形式ヲ取ルニ至ルヘキヤ否ヤニ在リ所謂「コスモポリット」ハ世界人類間ニ於ケル國家ナル障壁ヲ撤廢シ世界全人類カ一團トナリテ生活スルコトヲ理想トスト雖是レ明ニ人類ノ本性ニ反シ人類ノ進化ヲ無視スルモノナリ抑、人類ハ相異ナル幾多ノ人種ヨリ成ルモ原始人タリシ時代ニ於テハ略、一樣ノ文化ヲ有セシカ「ト」テ「ミズム」的時代ニ入ルヤ各種族ハ各、其特色ヲ發揮シ來リ其特有ノ氣質、能力、體質、風土ニ應シ各、特有ノ文化ヲ作りテ民族ヲ成形シ茲ニ固有ノ風俗、習慣、道德、美術、文藝、宗教等ヲ有シ文化單位タル使命ヲ盡シ來レルコトハ疑フヘカラサル人類進化上ノ一大事實ナリトス此ノ如ク人類ノ文化カ多種多樣ト爲リシコトハ人類進化ノ必然ナル道程ニシテ此種々ナル民族ヲ同一團體ト爲シ同一ノ政治圈內ニ包括シ同一ノ政治形式ヲ以テ統治スルコトハ頗ル不自然ナルノミナラス各民族固有ノ精神及其文化ヲ發揮進展セシムル能ハス結局全人類ノ文化ヲ益々發展セシメ以テ人生ノ幸福ヲ増進セシムルノ目的ニ副ハス

世界ノ真相ハ種々ナルモノヨリ成ルコト是ナリ種々ナル各個性カ其個性ニ相當スル天分(全人類ニ對スル分擔任務)ヲ有スルト同様種々ナル各民族亦其民族ニ適應スル文化單位トシテノ使命ヲ有ス換言スレハ世ノ中ノ實相ハ分業ニ在リ而シテ分離セル分業ニアラス各協調脈絡ヲ有スル分業タラサルヘカラス是レ實ニ民族自決テフ精神ノ生ルル根本哲理ニシテ無意義ナル帝國主義ニ拮抗スル唯一ノ盾タラスンハアラス人類ノ社會的生活ヲ認メサレハ即チ已ム苟モ人間ノ社會的生活ヲ認ムル以上概シテ民族ヲ以テ一團トスル國家生活ハ則チ民族特有ノ文化及文明ヲ益發展シ延イテ全人類ノ幸福ヲ齎スヘキ唯一ノ途タルヲ承認セサルヘカラス

「カント」亦諸多ノ民族ノ獨異性ニ重要ナル價值ヲ附シ各民族カ各自自主權ヲ維持シ其特有ノ民族的素質ヲ保存シ開展シツツ相對立スルコトニ重大ナル意義ヲ認メ所謂「世界共和國」ヲ以テ不可ナリトシ縱ヒ戰爭ヲ惹起スル危險アリトシテモ多數ノ獨立國家ノ並存カ寧ロ理性ノ要求ニ合致セルモノナリト論シ統治ノ範圍擴大スルニ伴ヒテ法律ハ其力ヲ失ヒ其劃一主義ハ人民ノ活力ト自由ノ精神トヲ減

殺シ道義心ヲ癡痺セシメ終局ハ無政府狀態ヲ誘致スヘシト主張セリ

以上ハ一般ノ原理ナリ或ル特種ノ民族カ他ノ親族的又ハ隣リ同志ノ關係ニ在ル某民族ト聯合シテ同一ノ國家生活ヲ營ムハ決シテ不合理ナラサルノミナラス兩民族ノ爲却テ幸福ナルコトアルヘキハ當然ナリ例ヘハ朝鮮民族ト大和民族トノ關係ノ如シ又吾人ハ「民族自決」ノ一般原則ヲ至當ト認メ無意義ナル帝國主義ヲ排スト雖而モ帝國主義常ニ不可ナリトスルハ誤レリ唯無意義ナル帝國主義ヲ不可トスルノミ人類歴史ノ某時期ニ於テハ帝國主義ノ必要ナル時代ナキニアラス蓋シ一般原則トシテハ各民族カ各獨自ノ國家ヲ成形スルヲ以テ自然且必要ナリトスルモ歷史上ノ某時期ニ於テハ優越民族カ其文化ヲ移植シ墮落セル民族ヲ鞭撻覺醒シ之ヲ指導啓發シ又ハ個々ニ發達セル文化ヲ統一完成シ腐敗セル文化ヲ清掃シテ人類ノ活動ヲ清新活潑ナラシムル等ヲ必要トスルコトアレハナリ南北米大陸今日ノ繁榮「アフリカ」ノ開發、印度ノ復活等皆歐洲諸國ノ帝國主義ノ賜物ニシテ「アレクサンダー」大王ノ大帝國、「ローマ」大帝國等ノ東西文化ノ移植、融合等ニ貢獻スルコトノ大ナリシハ世間周知ノ事實ナリトス然ルニ世界大戰カ列強ノ經濟的

又ハ軍國の帝國主義ニ其一部ノ原因ヲ有スルヲ觀テ戰後徹頭徹尾帝國主義ヲ非難スルノ聲盛ナリト雖是レ義ニ懲リテ膾ヲ吹クノ類ニシテ意義アル帝國主義ハ決シテ非難スヘキニアラス唯其實行手段ハ須ラク世界ノ進運ニ適應セサルヘカラサルヲ以テ從來ノ方法ニテ可ナリヤ否ヤハ研究問題ニ屬ス

次ニ個人主義ト國家主義トカ如何ニモ相背反シ撞著スルカ如ク考フル者多キモ是レ個人主義及國家主義ヲ正當ニ了解セス個人ト國家ト相對立セシメ何レヲ重シト見ルヘキカトノ誤レル見解ニ基クモノニシテ前述ノ如ク人生ノ目的ヲ達成スル爲即チ自己ヲ完全ニ充實發展シ自我ノ理想ヲ實現スル爲ニハ人ハ國家生活ヲ行フヲ以テ最モ自然且有效ナリトセハ個人主義ハ即チ國家主義ニ依リ其究竟ノ目的ヲ達成セラルルヲ知ルヘシ「カント」カ個人主義ニ立脚シテ國家生活ノ必要ヲ論シ國家ノ任務ヲ以テ人格ト自由ト品位トノ擁護ニ在リト爲シタル亦此意ニ外ナラス國家ト個人トノ關係ハ小兒ト家族トノ關係ニシテ決シテ惡主人ト奴隸トノ關係ニアラス國家ニ對スル「ボリシエウイック」ノ如キ見解ハ一見新シキカ如クニシテ實ハ甚タ古ク往昔東洋ニ於テ廣ク行ハレ西洋ニ於テモ專制的王權時代ニ屢

主張セラレタル見解即チ國家ヲ以テ君主ノ持チ物ノ如ク考フル思想ト相同シ天下ハ一人ノ天下ニ非ス天下ノ天下ナリ君民協同シ同心一體トナリテ人生ノ理想ニ到達セントスル國民全體ノ永久的結合體ナリトス

誤レル個人主義者ハ國家ノ「強制」ヲ非難スルモ國家カ苟モ統治團體タル以上強制ノ加ハルハ自然且必要ニシテ「治ムル」トハ即チ一面ニ於テ「強制」ヲ加フルノ意ナリ唯國家ノ個人ニ加フル強制ハ正當ナル強制ナリト雖若シ國家無カラシカ個人ハ不正當ナル強制ニ苦悶スルノ結果トナルヘシ要スルニ問題ハ國家カ幾何程度ニ個人ヲ強制スヘキヤニ存シ戰前ノ獨逸帝國ハ國家ノ強制ヲ廣ク且強ク行フヲ主義トシ英、米、佛等ハ最小限ニ國家ノ強制力ヲ行使スルヲ理想トセリ茲ニ留意スヘキハ社會主義ハ國家ノ強制力ヲ最大限ニ行使セントスルモノニシテ此點ニ於テ社會主義國家ハ英、米、佛國人等ノ理想ヨリモ寧ロ戰前獨逸人ノ主義ニ近似セルコト是ナリ

「ピスマー」クハ獨逸帝國ヲ大ナラシメタルモ獨逸人個人ヲ小ナラシメタリト稱セラルルモ社會主義ハ國家ヲモ大ナラシメス個人ヲ小ナラシムルモノナリ故ニ個

人主義ノ敵ハ國家主義ニアラスシテ實ニ社會主義ナリトス觀ヨ極端ナル社會主義(共產主義)ヲ實施シタル「ソウイェット」露國ハ全然個性ヲ沒却シ各個人ヲ道具化シタルニアラスヤ又國家主義ノ敵カ個人主義ニアラサルコトハ最モ個人主義ノ發達セル英國人カ世界大戰ニ際シテ最モ鞏固ナル國家タルコトヲ示シタル事實ニ徴スルモ明白ナリトス敍上ノ真理ハ本邦ノ識者間ニ於テハ多ク誤解セラレル所ナリト雖今ヤ歐洲ノ識者間ニ漸次勢力ヲ得ツツアル信念ナリ

國家生活ヲ非議スル者ノ有力ナル一論據ハ國家對國家ノ戰爭ナリ此事ニ關シテハ後章ニ於テ更ニ詳述スヘキモ要スルニ國家無ケレハ人類間ノ爭鬪ハ更ニ頻出スヘク其慘害モ亦決シテ鮮少ナラサルヘシ何トナレハ國家ノ進化ニ伴ヒ國家ノ行動ハ國民大多數ノ意志ニ依リテ行ハルモノトセハ國家内ノ爭鬪ノ發生ノ公算ノ如キモ國家無キ場合ニ於ケル各團體間ノ爭鬪又ハ各階級間ノ爭鬪發生ノ公算ニ比シ小ナルヘキハ自然ノ數ナレハナリ即チ鞏固ナル國家ノ存スル以上少クモ其國家内ニ於ケル團體ノ爭鬪ヲ防遏シ得ヘシト雖若シ國家ノ存スルナクンハ地球上ノ人類ハ隨處ニ團結ヲ作りテ爭鬪シ得ヘク其人生ノ發達進歩ヲ阻害スル

コト蓋シ甚大ナリト謂フヘシ國家主權ノ薄弱ナル方今ノ支那ノ現狀ニ想到セハ蓋シ思半ハニ過キン

個人完成ノ爲ニ國家生活ヲ必要トスル如ク圓滿ナル國家生活ヲ營ム爲某程度ニ國際主義ヲ尊重スルコトハ緊要ナリ然レトモ所謂國際主義ハ國家主義ヲ認メテ始テ成立スヘク若シ國家主義ヲ認メス國家無カラシカ國際主義ハ全然其意義ヲ失フコトニ注意スルヲ要ス是ヲ以テ國際主義カ國家主義カト言フカ如キ問題ハ起リ得ヘキ性質ノモノニアラス故ニ吾人ハ以下國家主義ヲ認ムル國際主義ニ就テ研究セントス

夫レ如何ナル民族國家ト雖永久ニ繁榮隆昌ヲ恣ニスルモノナク必ス榮枯盛衰ノ免ルヘカラサルハ歴史ニ動カスヘカラサル一大事實ナリ哲學者「ヘーゲル」ハ此現象ヲ説明スルニ神カ甲民族ニ宿ル時代ハ甲國家榮エ其神カ乙民族ニ遷ルヤ甲衰ヘ乙榮ユトノ神秘說ヲ以テセリ其說ノ當否ハ兎モ角一事ノ確實ナルモノハ人類歴史ノ各期ニハ主役者トシテ活動スル或ル民族アリテ其民族ハ隆昌繁榮ヲ極メ其他ノ民族ハ之カ傍觀者、侶伴者、摸倣者又ハ犠牲者タルノ觀ヲ呈スルコト是ナリ

而シテ單ニ其犠牲者ノ見地ヨリスレハ是レ如何ニモ不都合ナリト雖而モ此ノ如クニシテ全人類ノ文明ハ進歩シ其幸福ハ増進シ其時代犠牲者ノ觀ヲ呈シタル民族モ他ノ時代ニ入ルヤ此ノ如クシテ進歩セル文明ノ恩惠ニ浴シ其幸福増進セラレ更ニ他ノ時代ニ進ムヤ自ラ國際間ノ主役者トナリテ繁榮ヲ極ム何故ニ然ルヤハ不明ナレトモ人生ノ事實ハ即チ此ノ如シ

文明進歩ノ原動力ハ個性ニ在リテ多數人ノ團體ニアラス國家ハ各個性ノ協調又ハ調節ノ作用ヲ爲スモ文明ノ原動力タル能ハス一孔子、一釋尊、一基督、一プラトン、一ソクラテス、一カント、一ニュートン、一フランクリン、一ワット、一エヂソン等ノ文明ノ進歩ニ寄與セル所ハ到底百萬ノ凡夫ヨリ成ル團體ノ比ニアラス此見地ニ立チテ社會主義ノ完全ナル適用カ人類文明ノ進歩發展ヲ澁滯阻害スルモノナリト喝破シ「マルクス」心醉者ヲシテ瞠若タラシメタルヲ佛國心理學ノ泰斗「グスターフ、ル、ボン」トス蓋シ社會主義ハ國家ノ強制力ヲ最大限ニ行使セントスルモノニシテ社會主義ノ心理ハ即チ集團專制ニ在リ此ノ如クニシテ能力、境遇等ノ不平等ヨリ生スル各個人間ノ貧富ノ差ヲ平均ニスルコトヲ得ヘシト雖而モ個性ノ自由ナル

發展進歩ヲ控制スルノ結果トナラサル能ハス社會主義ハ貧富ノ凸凹ヲ均ラスヲ得ヘキモ其ノ標高ヲ向上セシムル能ハス然ルニ人類ノ進歩ハ先ツ優秀ナル者カ嶄然聳立シ他カ之ニ刺激セラレ相競ヒ相勵ミテ發奮努力スル結果期シ得ラルルモノトス社會主義ヲ其信者ノ如ク實施センカ人類ノ潑刺タル活動茲ニ已ミ忽ニシテ人生ノ生氣ヲ失フコト新經濟政策實行以前ノ「ソウィエツト」露國ノ實狀明ニ之ヲ證明セリ此ノ如クシテ生産ノ増加ヲ目的トスル社會主義實施ノ結果ハ其期待ヲ裏切り生産大減少ノ結果ヲ招來シタルハ世人ノ記憶ニ新ナル所トス國際主義ノ各民族ニ對スル作用ハ即チ社會主義ノ各個性ニ對スル作用ト全然相同シ是レ吾人カ國際主義偏重ノ結果ハ却テ全人類ノ文明ヲ促進スル所以ニアラスト斷スル主ナル理由タラスンハアラス國家ハ權力ヲ以テ其本質トシ權力無ケレハ國家無ク鞏固ナル權力無ケレハ鞏固ナル國家無シ而シテ國家ノ權力ハ外ニ對シテハ武力ニテ成立シ内ニ對シテハ法律ニ依リテ確保セラル故ニ國家成立ノ初期ハ武斷的ナルヲ自然トシ次ニ經濟的文化的ニ進ムモノナリ茲ニ注意スヘキハ所謂文化藝術及科學ノ力カ國民ヲ滅亡ヨリ救ヒ得サルコト是ナリ其所謂文化ニ於テ希臘



人ハ遙ニ羅馬人ニ卓越シ漢人種ハ北方蠻族ニ比シ優レルコト數等ナリシニ拘ラ  
ス脆クモ低級文化ノ民族ニ滅ホサレタリ  
權力ヲ本質トスル國家ノ最高ノ道德的義務ハ此本質ヲ發展シテ權力ヲ確保シ且  
之ヲ遂行スルコト是ナリ「バウムガルテン」カ言ヘル如ク政治ノ根本律トシテ權力  
即チ強制力ハ正義ニシテ道義タルヤ疑ナシ然レトモ極端ナル國家主義者(戰前獨  
逸ノ極端ナル學者政治家及社會主義者ノ主張スル如ク極端且無條件ニ其強制力  
ヲ行使セントスルコトハ不可能(其理由ハ權力ノ本體ヨリシテ明瞭ナリ、第一節參  
照)ニシテ且文明ノ進歩國家隆運ノ爲ニ害アリテ益ナキコト前既ニ之ヲ述ヘタル  
所ノ如シ内個人ノ發展實現ヲ妨ケサル如ク外國際協調ヲ破ラサル如ク其本質タ  
ル權力ヲ發展行使スルハ即チ政治學終局ノ目的タラスンハアラス

## 第二編 戰爭ニ關スル理論

### 第一章 戰爭ノ起因

從來戰爭ヲ論セシ者ハ概シテ群盲象ヲ評スルニ似タリ即チ哲學者又ハ道學者ハ  
專ラ理性ヲ基礎トシテ戰爭ヲ批評シ詩人文學者ハ只管感情ニ出發シテ戰爭ヲ論  
シ自然科學者ハ生存競爭ニ、宗教家ハ宗教的見地ニ、經濟學者ハ經濟的見地ニノミ  
立脚シテ戰爭ヲ議シ甲論乙駁各其立場ニ從ヒテ所見ヲ異ニシ能ク全豹ヲ捉ヘテ  
正當ナル觀察ヲ爲シタル者極メテ稀ナリ

凡ソ戰爭ノ如キ人生歷史上ノ大事件カ唯一單一ナル起因ニ由リテ惹起セラレ單  
純ナル法則ニ從ヒテ發展スルカ如キコトハ在リ得ヘカラサル所ニシテ某戰爭ハ  
必スヤ數個ノ動機ノ結合遠近ノ由來ノ重疊ニ因リテ起リ種々ノ法則ニ從ヒ發展  
スルモノナリ例ヘハ世界大戰ノ如キモ或ハ獨逸軍國主義ヲ以テ其原因ト爲シ又  
ハ英獨ノ爭覇ヲ以テ唯一ノ起因ト爲ス者アリト雖其正鵠ヲ得サルヤ明白ニシテ  
輕重ノ差異コソアレ政治的起因、經濟的起因、民族的感情ニ基ク起因、神秘的起因、心

理的起因等幾多ノ動機ノ結合重疊ノ結果タラスンハアラス大戦前各國ノ經濟學者ハ何レモ口ヲ揃ヘテ方今ノ大戦争ハ經濟的關係ヨリシテ永續スヘキモノニアラスト唱ヘタルモ世界大戦ハ現實ニ其期待ヲ裏切り人間ノ行動ハ決シテ單ニ經濟的關係ニ由リテノミ律セラルルモノニアラス他ニ之ヲ律スル幾多ノ法則ノ存在スルコトヲ立證シタリ吾人カ前章ニ於テ人間生活ヲ支配スル基本法則ヲ述ヘタル所以實ニ此ニ存ス

戦争ハ固ヨリ個人對個人ノ現象ニアラスシテ人間ノ集團對集團ノ活劇詳言スレハ國家對國家又ハ國家對交戰團體ノ争鬪ナリトス國家ハ一種ノ人格ニシテ人間ト同様ノ性質ヲ有ス故ニ前章ニ於テ述ヘタル人間生活ヲ支配スル基本的諸法則ハ之ヲ國家ニ適用スルヲ得ヘク戦争ノ起因モ亦左ノ如ク分類スルヲ得ヘシ

イ 生物學的起因 (cause biologique) — 人間ノ本能ニ基ク起因

ロ 人間ノ慾望及感情ニ基ク起因 (cause affective) 經濟的起因、民族的感情及觀念、權勢慾等ニ基ク起因、文化ノ衝突ニ基ク起因

ハ 神秘的觀念ニ基ク起因 (cause mystique) 宗教及政治上ノ觀念ニ基ク起因

ニ 社會的發達ニ基ク起因 (cause sociale)

以上ハ即チ抽象的起因ニシテ人生ノ根柢ニ潜在シ其人間活動ノ上ニ發現スルヤ種々ノ combination ヲ作成シテ具體的起因ト爲ルモノナリ戦争ノ遠因近因ヲ通シテ皆然リトス例ヘハ歐洲大戦遠因ノ一タル英獨間ニ於ケル争覇ハ前記(ロトハ)ノ結合シテ成立シタルモノニシテ又其近因ノ一タル千九百十四年夏ニ於ケル獨逸外交當局ノ露英ノ出處ニ關スル判斷ノ誤謬ノ如キハ即チ(ロ)ノ起因ニ坐スルモノナリ

若シ人間カ神ノ如ク聰明ニシテ誤謬ヲ爲サス永久ニ互ル利害ヲ精確ニ算定スルコトヲ得テ誤ラサルカ又ハ普通ノ動物ノ如ク愚昧(蟻、蜜蜂等ハ例外)ニシテ唯無謬ノ本能ニ由リテノミ行動スルモノトセハ戦争ハ起ラサルヤモ知レス神ト動物トノ中間ニ存スル人間ハ半聰明ニシテ半愚昧ナル結果屢誤謬ヲ爲シ其打算ヲ誤リ多クノ戦争ハ誤算誤解ニ因リテ起ル國際間ニ於ケル戦争階級戰共ニ然リ而シテ此誤謬ト努力ト進歩トハ分離スヘカラサル因縁ヲ有シ人間カ進歩スル爲ニハ努力ヲ要シ努力スル限リ誤謬ヲ生ス是レ人間ノ他ノ動物ト異ナル所以ニシテ人間進化ノ一大原理タラスンハアラス換言スレハ人ノ努力ハ前記四箇條ノ衝動ヨリ

生シ更ニ理性加ハリテ分別ヲ行ヒ努力ノ方向ヲ指示ス是等數種ノ心的作用カ合從連衡交錯衝突シ其 equilibriumノ失ハルルヤ茲ニ誤謬ヲ生シ此誤謬ノ結果心的各要素ハ互ニ刺激ヲ受ケテ努力ト爲リ人間ノ進歩ヲ促スモノナリ

更ニ一步ヲ進メテ考察スルニ若シ人間ノ生活ヲ支配スル前記四箇條ノ衝動ニシテ極メテ微温的ナルニ於テハ或ハ戰爭ハ起ラサルヤモ知レス然レトモ是ト同時ニ人間ノ活動ハ微温的且緩慢ト爲リ其進化モ亦遲々輕微ノモノトナルヲ免ルル能ハサルヘシ(白痴其他ノ精神病者ノ活動力)人類ノ進化ニ應シ戰爭ノ動機ノ進歩スヘキヤ論ヲ待タス即チ原始の人間ハ原始的の動機ノ爲ニ戰ヒ進歩セル人間ハ概シテ進歩セル動機ノ爲ニ戰フヲ常トス但シ進歩セル人間ノ戰爭ノ動機カ悉ク進歩セルモノナリトハ斷スヘカラス其數多ノ動機中ニ原始的の動機ヲモ含有スルコトアルヘキハ勿論ナリトス

### 第一節 生物學的起因

狼カ兎ヲ襲ヒ獅子カ羊ヲ攻撃スル場合ニハ危險ナシト雖虎カ虎ト闘フヤ大ナル

危險ヲ免ルル能ハス而シテ總テノ動物ハ本能的ニ危險苦痛ヨリ免レントスルカ故ニ同種動物間ノ闘争ハ甚タ稀ニシテ概シテ言ヘハ動物間ニ於テハ同種相闘ハス却テ本能的ニ同類相重ニスル特性ヲ有ス彼ノ有名ナル淡水産「ポリプ」ノ研究者「アブラハム、ツラムブレ」氏ノ研究ニ依レハ屢水槽ノ腐水中ニ見ル此殆ント顯微鏡的ニ小ナル動物ハ總テノ肉ヲ貪食スルニ拘ラス「ポリプ」ノ他種ニ觸ルルコト極メテ稀ニシテ同種ノモノニハ決シテ觸ルルコトナシト云フ古人モ肉食動物ノ著シキ平和性ヲ認識シ Shafesbury ハ狼ハ其同類ニ對シ極メテ温厚ナリト言ヘリ但シ頭神經ノ著シク發達シ社會的生活ヲ營ム少數ノ動物即チ蟻、蜜蜂、鹿及二三ノ鳥類ノミハ同類相互間ニ戰爭ヲ行フ而シテ是等ノ動物ハ相互ニ協力シテ蓄積シタル財產(蜜、食料、住居等)ヲ有スルコトニ著目スルヲ要ス

共食ヒノ戰爭ハ甚タ危險ナルヲ以テ動物カ其一命ヲ賭シテ戰フ爲ニハ其勝利ノ場合獲得シ得ヘキ高價ナル何物カカ存在セサルヘカラサルハ自明ノ理ナリ生物學者ノ研究ニ依レハ半獸の原人ハ頗ル平和的ニシテ好戰本能ハ人類ノ進化ニ伴ヒ生シタルモノナリト云フ蓋シ同種相戰フノ危險ヲ敢テスル爲ニハ人間ハ少ク

トモ高價ナル何物カヲ所有スル迄ニ發達シ居ラサルヘカラサレハナリ是レ戰爭  
ハ文明ノ徵ナリト言ハルル所以ナリトス

人間カ其原始時代ヨリ平和ナル社會的動物ナリシコトハ先ツ解剖學ノ立證スル  
所ナリ即チ人ハ角モ牙モ爪モ蹄モ甲良モ毒腺ヲモ有セス全然平和的ナル體格ヲ  
備ヘ殺人掠奪ノ用ニ供スルモノ無シ彼ノ無防禦ナリシ祖先即チ猿ハ樹枝上ノ住  
家ニ於テ保護セラレ其生存ヲ全ウセリ手ハ凡テノ動物ニ於テ一種特別ノ器官即  
チ概ネ一ノ武器距又ハ蹄ニ變形セラルルモ猿ノ手ハ手トシテ殘存シ枝ヲ掴ム爲  
ニ用ヒラレ將來人間カ種々ノ器物ヲ取リ扱ヒ偉大ナル發達ヲ遂クルノ素地ヲ爲  
セリ此無防禦ノ祖先ハ唯一ノ武器トシテ社會性ヲ有シ未タ家族生活ヲ知ラサル  
時代ニ於テ既ニ群民トシテ生活シヨリ強力ニシテ且武器ヲ具フル他ノ動物ニ對  
シ能ク其存在ヲ全ウセリ若シ人間カ獨棲動物ナリシナランニハ他ノ動物ノ爲ニ  
絶滅セラレタルヤモ知ルヘカラス

一般ニ野蠻人ハ甚シク社會的ニシテ一度孤獨ニ入ルヤ生理的且心理的ニ殆ント  
死亡スルノ事實ハ即チ原人ノ真相ヲ語ルモノナリ元來談話即チ音聲訓練ノ容易

ナルハ群棲動物ニ限リ鸚鵡、鶴、鷺、鳥、牡雞、臘虎、牝牛等ノ類之ニ屬ス獨棲動物ニ在リ  
テハ縱ヒ肉食鳥ヤ猫、鯨ノ如キ比較的發育高度ノ腦ヲ有スル者ト雖啞ニシテ話ヲ  
爲サス人間カ談話スル動物(人類カ話ス力ノ獲得ト人間ト爲リシハ同時カ又ハ話  
ス方カ早カリシナラント稱セラレ言語學者「ブレック」ガイゲル等ニ從ヘハ原人ハ  
既ニ言語ヲ有シタリト云フタル事實ハ即チ人間ノ先天的社會性ヲ證スルモノニ  
シテ野蠻人ハ一般ニ饒舌ナリト稱セラル

實ニ古哲「アリストテレス」ノ言ヘル如ク人間ハ天性社會的動物ニシテ家族以前  
ニ既ニ群民團體存在シ此事カ人類ヲシテ人間ニ進化スルコトヲ可能ナラシメタ  
ルモノナリ凡ソ生物各個體ハ銘々ノ祖先ノ經來リシ發生階梯ヲ經過スルモノニ  
シテ小兒ノ情緒ハ成長シタル野蠻人ニ於テ見ルカ如キ形式即チ虛榮心、摸倣慾、饒  
舌、片言等ト爲リテ現ハル

人間ノ求血本能即チ殺戮慾ハ生得ノ如ク見ユルモ實ハ然ラス又現時尙食人蠻族  
現存スト雖食人ハ人間カ或ル程度ノ文明ニ進ミテ後生シタル習慣ニシテ食人性  
ナルモノハ決シテ動物ノ蠻性ノ殘餘ニアラス純然タル人間ノ特性ナリトス最古

人類ノ住居ニ於テハ餌食ニナリシ動物ノ骨ハ發見セラレタレトモ未タ嘗テ人間ノ骨ヲ發見シタル者ナキ事實之ヲ證明ス然ルニ人類カ某程度ノ進化ヲ遂クルヤ何レノ民族モ一度ハ食人性ヲ得今ヤ大部分ノ民族ハ既ニ其性ヲ失ヒ唯僅ニ若干ノ蠻民ノ間ニノミ保存セララルニ至レリ千八百七十年頃ノ食人種ノ總人數約二百萬ト稱セラル(リチャード、アンドレー)氏ノ研究此ノ如キハ動物界ニ於テハ殆ント見サル所ニシテ親カ子ヲ食フ(例ヘハ豚)コトアリトハ言フ者アルモ成長シタル者カ同種相食フハ最下等動物ニ於テモ例外ニ之ヲ見ルノミ

食人性ヲ有セシ時代ノ人類ハ多クハ嬰兒ヲ食シ此ノ如クニシテ不適者ヲ殺シ健全強壯ナル子孫ノ爲ニ餘地ヲ作ラントスル生物學の意義ヲ有セリ人カ病者又ハ弱者過剰ノ老人、俘虜等ヲ單ニ藪ノ中ニ捨テ置カスシテ殺ステフコトハ即チ人カ彼等ニ對シ責任感ヲ懷キ居ルコトヲ示スモノニシテ茲ニ某程度ノ進化ヲ見ルヘク社會的ニ比較的高度ノ發達ヲ爲シタル動物例ヘハコウノトリ)ノミカ此ノ如キコトヲ行フト稱セラル

殺シタル者ヲ埋葬スルカ又ハ食フカハ主トシテ實際上ノ食料問題ニ因ルカ如ク

(「ニュー、ジラランド」ニ於ケル「マオリ」族ノ食人習慣)後更ニ迷信加ハリテ食人性ニ力ヲ添ヘタルモノノ如シ

上述ノ如キ社會的本能ヲ有シ平和ナリシ人類カ漸次進化シテ或ル何物カヲ所有スルニ至リ其爭奪ノ爲ニ同類相戰フニ至レルモノニシテ戰爭ノ萌芽ハ經濟的動機ニ發セルモノナリ今日極端ナル理想家カ人間罪惡ノ根源ヲ「所有權」ニ在リトシ資本主義ヲ以テ戰爭助長ノ主義ト爲シ其撤廢ヲ主張スルハ即チ是レカ爲ナリ(「Cassan」曰ク「此地」上ヨリ財產ヲ取り去レ然ラハ爾戰爭ノ苦惱ヲ驅逐セン)ト然レトモ是レ人類ヲ退化シテ原始人ニ逆戻リセシムルコトニシテ當ニ實現不可能ナルノミナラス全然自然ノ天理ニ悖戻ス蓋シ人間ハ進化進步スルヲ以テ天ヨリ與ヘラレタル必然ノ運命ト爲シ「所有」ハ人間進化ノ基礎的第一要件タレハナリ

戰爭ノ對象ハ此「所有物」ノ爭奪ニ在リテ此事ハ進步セル動物例ヘハ蟻、蜜蜂等ノ戰爭ニ於テモ亦然リトス而シテ其「所有物」ナルモノハ婦人ナルコトアリ奴隸ナルコトアリ食料ナルコトアリ道具ナルコトアリ又ハ土地ナルコトアリ若シ何物ヲモ求メサルトキハ戰爭ハ起ラス故ニ「所有物」ナキ動物ハ一般ニ相互ニ平和的ナリ人

間、蟻、蜜蜂及二三ノ鳥類ノ如キ高等ナル動物ハ發達進步セル生活現象即チ所有物ヲ有スルト共ニ同類相戰フコトヲ敢テス

戰爭ハ古代ニ於テハ商業ト同シク一ツノ事業ニシテ「フオン、クラウゼウイツ」モ「戰爭ヲ以テ一ノ藝術ニ比センヨリハ之ヲ貿易ニ比スルニ如カス何トナレハ貿易モ亦人生ノ諸事業及諸利益ノ葛藤ナレハナリ」(Teber den Krieg)ト論シ「ゲーテ」カ戰爭ト商賣ト海賊ヲ行フコトトハ分離スヘカラサル三位一體ナリト言ヘルハ蓋シ戰爭ノ一面ヲ道破セルモノト謂フヘシ

是ヲ以テ戰爭ハ財産、奴隸制ト密接ナル關係ヲ有シ資本主義ト軍國主義トハ相互ニ連絡ヲ有スルヤ明白ニシテ經濟的戰爭ハ今日始マリタルモノニアラス

然レトモ若シ奴隸制ト資本主義ナカリセハ恐ラク今日進步セル文明發達セル經濟ハ實現スル能ハサリシナラン人類進化ノ或ル時期ニ於テハ多數ノ人間カ彼等自身ノ爲ノ絶對的必要量以上ニ働キ其御蔭ニテ他ノ少數者ハ自ラ勞働ニ從事スルコトナク蓄積セラレタル財産ニテ生活シ以テ文明ノ進步ヲ圖リ或ル少數民族カ他ノ民族ノ勞働ノ利益ニ依リテ生活シ同時ニ其餘裕ノ中ニ文化的事業ニ従事

シ得タルコトハ世界文明ノ發達ニ頗ル緊要ナリシナリ又今日經濟ノ發達即チ生産ノ増加、改良及富ノ開發、蓄積、文明的諸事業ノ勃興等カ資本主義ニ負フ所大ナリシハ疑フヘカラス此事ハ單ニ所謂物質文明ノミナラス精神文明ニ關シテモ亦然リ前伯林大學講師「ゲオルグ、エフ、ニコライ」博士ハ「中世紀ニ於テ農奴ト百姓トカ時ノ貴族、領主ノ爲ニ働カサリシナラハ騎士的ノ精神生活ノ發生モ不可能ナリシナラント論セリ吾人ハ本邦ニ於ケル武士道ノ發生及其發達ニ關シテモ亦然リト言ハント欲ス

夫レ文明ノ進步ニハ餘裕ヲ必要トス人ハ衣食足りテ禮節ヲ知ルニアラスヤ精神的文明ノ發達モ亦餘裕ヨリ生スルコトモ極メテ明白ナリ古代希臘ノ社會カ公々然奴隸ヲ存立セシメ人々生活ノ餘裕ヲ有シタルハ周知ノ事實ナリトス人間ニ此餘裕ヲ與フル所謂「財産」ナルモノハ人間ノ努力奮勵ノ目標トナリ且其文明ノ進步ヲ促シタリト雖又他面ニ於テ「盜ミ」ヲ作り戰爭ヲ作りテ罪惡ノ一原因トナリ人類ハ其進化ニ伴ヒ好戰本能ヲ獲得シ人ハ天性愛ノ本能ノ方カ憎惡ノ其レヨリモ強カナルニ拘ラス人生進歩ノ必然的の道程トシテ同類相戰フコトヲ屢ニスルニ至レリ

將來ハ知ラス少クトモ人生ノ既往ニ於テハ「所有」「財産」「資本主義」「戦争」「文明ノ進歩」ハ不可分ノ因縁ヲ有シ戦争ヲ呪フハ無意識否其真意ト正反對ニ文明ノ進歩ヲ呪フノ結果ト爲リシモノナリ「所有權」ヲ以テ罪惡ノ根源ト爲シ個人ノ所有權―財産―ヲ否定シ總テノ人間ニ生理的勞働ヲ課シ其理想ノ實現ヲ期待シタル「ボリシエウイック」施政ノ「ソウイエット」露國ノ實情ハ如何人々餘裕ヲ有セス文明及文化ハ數百年前ノ程度ニ逆戻リ遂ニ當初ノ理想ヲ抛チ新經濟政策ヲ施スノ已ムナキニ至リシニアラスヤ

吾人ハ人間カ其進化ニ伴ヒ好戰本能ヲ獲得シタルコトヲ述ヘタリ本能ハ凡テ其生シタル時ニハ有用ナリシニ相違ナキモ環境全然變化シ既ニ無用有害ノ本能トナリシニ拘ラス尙殘存スルモノ鮮カラサルハ「飛ンテ火ニ入ル夏ノ蟲」ノ例ニ觀ルモ明瞭ナリ何トナレハ本能ナルモノハ非常ニ守舊的ナレハナリ經濟的動機ニ發シタル人類ノ好戰本能モ往昔其生シタル時ハ生存競争ノ爲ニ必要ナリシニ相違ナキモ今尙之ヲ必要トスルヤ否ヤハ研究ヲ要ス

人間ハ今ヤ地球上ノ主人トナリ吾人ノ環境ヲ自ラ變化セシムル能力ニ於テ他ノ

總テノ動物ニ優リ又環境ハ漸次變化シツツアルヲ以テ人間ハ吾人ノ習慣即チ本能ヲ新ナル生活要件ニ適應セシムヘキ義務ヲ有ス

今ヤ法律ハ奴隸制ヲ禁シ且實際奴隸制ハ一部分不可能トナリタルノミナラス資本主義モ既ニ殆ント發達ノ絶頂ニ達セントシ却テ其弊害ヲ呪フ者ヲ觀ルニ至リ戦争本來ノ侶伴者ハ將ニ其存在ノ理由ヲ失ヒ又ハ少クトモ減少セントシツツアリ人間ノ好戰本能ハ人類進化ノ爲ニ必要ナル生存競争ノ爲ニ其存在ヲ保ツヘキ理由ヲ有スルヤ否ヤ「ダーウキン」ヲ述ヘタル如ク生物界ハ競争ニ依リ不適者ハ滅亡シ適者ハ生存ス斯クシテ一ノ種カ完成セラル實ニ適者タル民族ハ勝チ不適者ハ亡フ縱ヒ其レカ殘酷ナリト雖又個々ノ場合ニ於テ文明ハ幾度トナク逆行シ甚タ悼マシキコトナリト雖是レ價值アル者カ劣等者ヨリ分離スル自然ノ法則ナルカ故ニ如何トモスヘカラス

Seneca 曰ク「生クルハ戰フナリ」英人 Young 曰ク「人生ハ戦争ナリ敵ナル困窮ニ對スル永遠ノ戦争ナリ」ト「マルサス」ハ人間ノ生活資料ノ生産増加ト人口ノ増殖トノ間ニハ非常ナル差異(二百年ノ間ニ人口ト食物トハ二五六ト九トノ割合トナリ三

百年後ニハ四〇九六ト一三トノ割合トナルアルヲ以テ人口増殖ヲ抑制セザレハ人ハ食料ニ窮スルニ至ルヘク人口増殖シテ某程度ニ達スルヤ則チ傳染病流行シ又ハ戰爭起リテ生活資料ト人口トノ均衡ヲ圖ルト論セリ

人口ノ増殖ハ明白ナル事實ナリ生存競争ノ必要モ疑フヘカラス然レトモ生存競争ハ他迄生存ノ爲ノ競争ナラサルヘカラス同類相戦ヒ滅亡競争ヲ敢テスルハ生存ノ爲ノ競争ト謂フヘカラス「ダーウキン」ノ生存競争ハ「ゲーテ」ノ理想タル「フアウスト」式競争ヲ以テセサルヘカラス同類相殺戮シ滅亡ヲ賭スル戰爭ハ決シテ「ダーウキン」ノ眞意ニアラスト論シタルヲ前伯林大學講師「ニコライ」博士トス英國ノ「ノルマン」エンゼル亦其著現代戰爭論ニ於テ人類ノ競争ハ宇宙トノ競争ニシテ人ト人トノ競争ニアラスト論シ何レモ露國社會學ノ泰斗「ノーウキン」コフノ「ダーウキン」解釋說ノ亞流ヲ汲メルモノノ如シ左ニ「ニコライ」博士ノ說ト之ニ關スル批判ヲ述ヘントス

「ニコライ」博士ノ說

競争ハ生物間一般的ノ現象ナレトモ競争ノ手段ハ一ナラス人類ノ生存競争ハ即

チ自由ナル精神活動ニ由リテ「エネルギー」ノ精々多量ヲ利用セントスルニ在リ生物ハ凡テ限リナク巨大ナル物ニ生育セントスル傾向ヲ有ス是レ個體ニ於テ然ルノミナラス有機體タル團體ニ於テモ亦然リトス之ヲ生長ノ基本法則ト爲ス總テノ物カ無限ニ生長セントスル傾向ヲ有スルヲ以テ各ノ者ハ必然互ニ衝突スヘシ然ルニ此生長ニ限界ヲ附スルモノハ滲透上ノ極限(單細胞生物)力學的極限(多細胞生物)勢力學的極限(團體)是ナリ多數ノ單細胞生物及多細胞生物ハ集團ヲ成形シテ生活シ滲透及力學的極限ヲ超越シ勢力學的極限ニ迄生長スルヲ得然ルニ或一種ノ生物カ其究極迄繁殖シタリトセハ他ノ生物ノ爲ニ地上ニ餘地ヲ存セサルコトトナル而シテ各ノ生物ハ此目的ニ向ヒ進ムヲ以テ生長ノ法則ハ必然的ニ競争ヲ必要トス

生長ノ阻害セラレサル場合全地球上ニ全ク蔓ル爲ノ年數左ノ如シ

- 二個ノ「バクテリア」ヨリ 〇、〇一年
- 二個ノ兔ヨリ 二〇年
- 二人ノ人間ヨリ 一二〇〇年



二頭ノ象ヨリ

二〇〇〇年

然ルニ事實右ノ如クナラサル所以ハ各生物間ニ猛烈ナル競争存在スレハナリ生存競争トハ廣義ニ於ケル食物ノ爲ナリ然ルニ食物ノ原素タル水素、窒素、酸素、炭素ハ水中、空中、地中ニ過剰ニ存在スルモ火ハ然ラス

地球上ニ於ケル物質的食物ハ  $100 \times 10^{18}$  噸ノ生活物ニ對シテ十分ナルモ之ニ生氣ヲ與ヘ定形ヲ具ヘシムル火即チ狹義ノ勢力學的營養物質ハ  $100 \times 10^{12}$  噸ノ生活物體所要量即チ前記ノ百萬分ノ一タケ存在スルニ過キス換言スレハ競争ハ専ラ「エネルギー」ノ爲ニ行ハルルモノナリ而シテ地球上ノ一平方米ハ平均生活物體二千挺ヲ養フニ足ル「エネルギー」ヲ有スルモ現實ノ情況ハ左ノ如シ

地球上各一平方米上ニ棲息スル生物量

現住人類

〇、四瓦

現住動物

一〇瓦

現在植物

一〇〇〇瓦

即チ生物全體トシテモ極メテ少量ノ「エネルギー」ヲ利用シツツアルニ過キス此「エ

ネルギー」ノ源泉ハ太陽ニシテ太陽ノ「エネルギー」ヲ採リテ食物ヲ作り得ルハ植物ナリ

「エネルギー」ノ爲ニスル競争ノ方法ニニアリ

一 「エネルギー」ヲ攝取シテ之ヲ有スル他ノ者ヨリ奪取スルコト

二 自ラ改善シテ「エネルギー」攝取ノ能力ヲ増進スルコト

第一ノ方法ハ掠奪ニシテ競争ヲ必要トス古代ノ人間ハ天然ニ存在スル「エネルギー」ヲ利用スル爲不完全ナル手段ヲ有スルニ過キサリシヲ以テ直接ニ競争ヲ必要トシタルコトアルモ今ヤ則チ然ラス人間ハ肉體的ニハ他ノ動物ニ優レル所ナキモ、頭腦ノ非常ナル發達ニ由リ人間ハ自己ノ體外ノ「エネルギー」ヲ自體内ヲ通過サセスニ自用ニ供スルコトヲ習得シ殆ント無限量ノ「エネルギー」ヲ自家利益ノ爲ニ利用スル可能性ヲ得タリ即チ人ノ器官ハ特別ニ發達セサルモ人ハ其傍ニ在ル道具ヲ使用スルコトヲ習得シタリ

人類カ簡單ニ動物ノ如ク單ニ目前ニ來レル物ヲ採リテ生活シタル時ニハ僅ニ一億人位ノ人間ノ生活條件ヲ發見シ得タルニ過キサリシモ人間カ動植物界ノ主人

ト爲リ其意思ニ從ヒテ世界ヲ按配シ動物中人間ニ有用ナルモノノミヲ飼育培養スルニ至ルヤ野蠻時代ニ比シ人口ハ十五倍シ今日ハ十五億以上ヲ算スルニ至レリ尙全地球カ極メテ經濟的ニ開發セラレタル曉ニ於テハ一平方吉米上ニ百五十人ヲ生活セシメ得ヘク全地球上ニハ二百二十五億人ヲ收容生活セシメ得ヘシ(註、一平方吉米上ニ於ケル平均人口佛蘭西七四、獨逸一二〇、日本一三九、和蘭一八二、白耳義二五四)然ルニ「エネルギー」ハ尙十萬倍モ多數ノ人ノ爲ニ存在ス目下人間ハ太陽「エネルギー」ヲ間接ニ利用シ居ルニ過キス即チ太古ノ日光中ニ生長シタル森林ノ化シタル石炭、ベンジン等ノ利用是ナリ然ルニ人間ハ其腦ヲ發達セシメ太陽「エネルギー」ヲ直接ニ利用スルヲ得ルニ至ルヲ得ヘク目下太陽「エネルギー」ヲ攝リテ食物ヲ製シ得ルモノハ植物ノミナリト雖人間モ早晚之ヲ爲シ得ルニ至ルヘキ可能性ヲ有ス

古來人間ハ戰爭ヲ以テ自然ノ課スル命令ナリト心得タルモ腦ノ跳躍的進化ニ由リ人間ハ自然ノ強制ヨリ脱出シ意志ノ自由ヲ得タリ此結果手足等ハ別ニ増加セサルモ數千ノ手數萬ノ足ヲ増加シタルト同様ノ結果ヲ齎セリ人間カ此腦ヲ更ニ

活躍セシメ太陽「エネルギー」ヲ直接食物ニ變シテ利用スルコトニ成功セハ地球上ニハ千五百億ノ人間生活スルヲ得ヘシ

今ヤ吾人ハ腦ノ發達ト共ニ自然ヨリ解放セラレ「自身ノ法ノ中ニ生クル」コトヲ得ルニ至リタルヲ以テ最早ヤ人間ノ行爲ハ自然界ノ出來事トハ全然別個ノ或物トナレリ

生存競争ノ爲ニ滅亡競争ヲ行フハ自然ノ奴隸タリシ時代ノ人間ニ於テハ詮方ナカリシナランモ今ヤ人類ノ生存競争トハ此滅亡競争ニアラスシテ増加スル人間ニ對シ其需要物ヲ創造スル競争ナラサルヘカラス即チ人類全體トシテ自然ニ對シ戰爭ヲ行ヒ自然ヲ完全ニ征服利用スルニ在リ

#### 敍上ノ所論ニ對スル批判

「マルサス」ノ所説ニモ一面ノ眞理ナキニアラスト雖前掲「ニコライ」博士ノ所論ニモ一面ノ眞理アリト謂フヘシ殊ニ博士ノ所論ハ理想論トシテハ非難スヘキ餘地ナク「マルサス」カ單ニ土地改良ニ因ル食物ノ増加ヲノミ考察セシニ對シ博士カ太陽「エネルギー」ノ直接利用ヲ提唱セルハ確ニ一家ノ卓見タルヲ失ハス其理想ノ實現

セラルルコトハ吾人ニ取リテ最モ望マシキコトタラスンハアラス  
然レトモ縱ヒ理想ノ實現ヲ見ルヘキ日アリトスルモ其ハ將來ノ事ニシテ今日ノ  
事ニアラス今日ノ人間ハ縱ヒ其レカ理想ニ合セストスルモ遺憾ナカラ往昔生存  
競爭ノ爲ニ必要ナリシ好戰本能ヨリ全然解脱スルニ至ラス人性ノ深底ニハ尙此  
本能ノ殘存シ戰爭ノ可能性ヲ藏スルコトヲ非認スヘカラス故ニ萬物ノ靈長タル  
崇高ナル人間、尊嚴ナル道德性ヲ具ヘテ今日ノ進化ヲ爲セル人間カ生物學的理由  
ヨリ同類相殺戮スル慘事ヲ敢テスルカ如キハ吾人ノ理性ノ是認スルヲ欲セサル  
所相互扶助、相互協力カ如何ニモ望マシキ所ナリト雖亦如何トモスヘカラス人間  
ノ理性ハ「自由」「平等」「友愛」ヲ目的トシテ佛國大革命ヲ起シタルニ拘ラス人ハ人ヲ監  
禁シ慘殺シ全然其理性ノ期待ト逆行背反スルコトヲ實行シタリ是レ洵ニ傷マシ  
キコトナリト雖而モ尙本能ノ殘存セルヲ如何センヤ

「ニコライ」博士ノ論セルカ如ク全地球ヲ適當ニ開發セハ二百億以上ノ人間ノ爲ニ  
要スル生活資料ヲ得ラルヘク「エネルギー」ハ尙其十萬倍ノ人間ニ對シテ存在スル  
トスルモ人間ハ其進歩ニ伴ヒ各人ノ爲ニ要スル食糧及「エネルギー」量モ亦益々増加

スヘク文明的生活トハ要スルニ「エネルギー」消費量ノ増加ヲ意味スルニ過キス是  
ヲ以テ今日ノ人間ニ必要ナル食糧及「エネルギー」量ヲ以テ將來ヲ計量スルハ誤レ  
リト謂フヘシ殊ニ人間ノ欲求ハ益々向上増長シ底止スル所ヲ知ラサルヲ以テ將來  
ノ人間ハ今日ノ人間ノ以テ足レリトスル食糧及「エネルギー」量ヲ以テ満足スヘキ  
ニアラス若シ吾人カ原人ノ如キ生活ニ甘ンシタリトセハ生活ノ爲何等ノ競爭心  
勞モ要セサルヘキモ今日吾人カ生存ノ爲ニ競爭努力スル所以ノモノハ即チ到底  
原人ノ如キ生活ニ甘ンスル能ハス爲シ得ル限り文明的ニ生活セント欲スル欲求  
ノ頑トシテ存在スレハナリ

觀シ來レハ「ニコライ」博士ノ所論モ「マルサス」ノ其レト同シク完璧ト稱スヘカラス  
然レトモ人類ノ進化ニ伴ヒ戰爭ノ起因トシテノ生物學的理由ハ漸次其價值ヲ減  
少シツツアルコト疑ナカルヘシ

「グスターフ」ル、ボン「博士」ハ羅馬帝政ノ末期「ゲルマン」人カ羅馬帝國ノ北境ヲ侵シ戰  
爭ヲ惹起シタルハ獨逸森林中ニ非常ニ増殖シタル「ゲルマン」人カ其生活資料ニ窮  
スルニ至リタル結果ナリトセリ西洋史上有名ナル民族ノ大遷移亦飢餓ニ驅ラレ

タル現象ナリトス其他史上ニ現ハレタル諸戰役ハ多クハ以下述フヘキ他ノ起因ニ由リテ惹起セラレタルモノナリ

## 第二節 人間ノ慾望及感情ニ基ク起因

### 一 經濟的起因

人ノ世ニ活クルヤ先ツ生命健康ヲ維持シ娛樂ヲ求メ藝術ヲ味ヒ智識ヲ廣メ生殖ヲ行フ等人生幾多ノ條件ト目的トヲ有スルモノニシテ是等ノ條件ヲ充タシ是等ノ目的ヲ達セントスルニ方リ多クハ種々ノ不足ヲ感ス此不足ノ感ト之ヲ充サントスル念トヲ併セテ人ノ慾望ト稱シ經濟動作トハ即チ人カ其慾望ヲ満足セシムル爲ニ外界ノ有形物ヲ獲得利用スル活動ヲ謂フ而シテ人ノ經濟動作ハ經濟主義(最少ノ勢力ヲ以テ最大ノ效果ヲ得ントスル主義)ニ據ルモノナリ慾望ノ來歴ニ二種アリ其第一種ハ人ノ生シナカラニシテ有スル慾望ニシテ自ラ其數ニ限アリ自己ノ生存維持及生殖等ニ關スル慾望是ナリ第二種ハ人ノ進化ニ伴ヒ慣習等ニ因リ後ニ發生スルモノニシテ諸種ノ高等高等ト謂フハ重要ト云フノ意ニアラスナル欲求是ナリ此第二種

ノ慾望ハ漸次増加シテ底止スル所ヲ知ラヌ即チ人類ト他ノ動物トノ異ナル所以ナリトス

前節ニ述ヘタル生物學的戰爭ノ起因ハ即チ人ノ第一種ノ慾望ヲ充サントスル本能ニ發シ廣義ニ解釋スレハ經濟的起因ノ一種ト稱スルヲ得ヘキモ其欲求ノ原始的ナルコトニ於テ又其衝動ノ本能的ナルコトニ於テ第二種ノ慾望ヲ充サントスル純然タル經濟的起因ト多少其趣ヲ異ニス

第一種慾望ヲ充足セントスル本能ニ基ク戰爭ノ起因ハ人生ノ發達ニ伴ヒ漸次消滅少クトモ減少スルノ傾向ニ在リト雖第二種ノ慾望ヲ充足セントスルカ爲ニ起ル人類間ノ爭鬪ハ寧ろ增長セントスル傾向ナキニアラス

若シ總テノ人間カ原始的生活狀態ニ甘ンスルトキハ文明ノ進歩セル今日爭鬪ハ起ラサルヤモ知レス然レトモ人類ハ絶エス進化シ文明益進ミ人ノ慾望ハ愈々增長ス所謂文明開化ナルモノノ最モ顯著ナル目標ハ慾望ノ多種多様ナルニ在リ文明人ニ比シ野蠻人カ少數ノ慾望ニ甘ンシ居ルコトハ動カスヘカラサル事實ナリトス

第二種ノ慾望ニ精神的欲求ト物質的欲求トアルハ勿論ニシテ物質的欲求ハ外界ノ有形物ヲ得テ満足セラルルモノ多シ是レ實ニ經濟現象ノ發生スル所以ナリトス精神的欲求ハ一見戰爭ノ起因ト爲ラサルカ如キ觀アルモ實ハ然ラス勿論人ハ平和ヲ好愛シ平和ヲ樂ム欲求ヲ有スト雖又他方己レノ信仰ヲ移シテ他人ヲシテ之ヲ信奉セシメ自己ノ有スル文化ヲ擴衍シテ他民族ヲシテ之ニ光被セシメントスル情念其他權勢慾名譽心虛榮心等ヲ有シ是等ノ精神的欲求ニシテ強大且熾烈ナランカ遂ニ戰ヲ惹起シテ顧ミサルハ人生ノ歴史ノ明ニ立證スル所タリ

物質的欲求ヲ充足センカ爲ニハ必スシモ戰爭ヲ行フヲ必要トセサルノミナラス却テ戰爭ヲ行フハ此目的ニ副ハサルコトアリ是レ正論タルニ相違ナシ蓋シ戰爭ニ於ケル勝利者ハ常ニ必スシモ儲カルモノニアラサレハナリ故ニ人間カ其理性ノ命スル所ニノミ從ヒテ行動スルモノトセハ戰爭ハ起ラス然ルニ物質的欲求ヲ満足セシムル爲ノ外界ノ有形物ノ數量ニハ自ラ限アリ之ヲ獲得センコトハ容易ナラス而モ其欲求猛烈ナルニ於テ情念ハ即チ理性ヲ壓シテ起ツニ至ル況ンヤ戰爭ハ一見經濟主義ニ適應スルヤノ誘惑ヲ有シ而モ他ノ心理的作用ノ交感ヲ受ク

ルニ於テオヤ古來戰爭ニ於ケル勝者ノ儲カラサルコトヲ示シタル戰例ハ多カラス但シ世界大戰ハノルマン、エンゼルノ說ノ如ク勝者ト雖管ニ儲カラサルノミナラス大損失ヲ蒙ルコトアルヲ明示シタリ

人ノ慾望ヲ直接又ハ間接ニ満足スル力即チ效用ヲ有スル外界ノ有形物ハ所謂財貨ナリ而シテ空氣日光等ノ如キ自由財貨ハ其數量無限ニシテ何人モ隨意ニ之ヲ獲得利用スルヲ得ヘキモ經濟財貨ニ至リテハ則チ然ラス其數量ニ限アリ必ス多少ノ犧牲ヲ供スルニアラサレハ之ヲ獲得利用スルコト能ハス從テ常ニ不足ノ狀態ニ陥ラントスルノ虞ナシトセス是レ即チ經濟動作ノ起ル主因ニシテ經濟動作ノ目的及經濟的戰爭ノ目的物ハ專ラ經濟財貨ニ在リト謂フモ不可ナシ

經濟財貨ノ種類ハ慾望ノ種類ノ増加ニ伴ヒテ増加シ野蠻時代ニ於テハ慾望ノ種類多カラサルヲ以テ財貨ノ種類亦隨テ多カラスト雖文明進歩シテ人間慾望ノ増加スルヤ經濟財貨ノ種類モ亦増加シ隨テ戰爭ノ目的物ト爲ルヘキ經濟的物件ノ種類モ亦増加セサルヲ得ス

經濟的戰爭ノ最モ原始的ナル第一ノ形式ハ劫掠強奪ニシテ其對象ハ食料等ノ動

產貨物ニ在リ

七六

第二ノ形式ハ俘虜ヲ獲得スル爲行フ戰爭ニシテ奪掠婚姻ノ爲ノ婦女、奴隸トシテ使役スル強健男子ヲ得ルヲ目的トス

第三ノ形式ハ土地ノ略取ニ在リ土地カ社會ノ經濟的物件ト爲ルハ社會ノ組織進歩シ經濟ノ某程度ニ發達シタル後ナラサルヘカラス(定住生活ヲ爲スハ農耕時代ニ於テ完全ス)而シテ此目的ノ爲ニスル戰爭ハ漸ク大規模ノモノト爲リ有力ナル軍隊ヲ使用ス

第四ノ形式ハ版圖ノ爭奪戰爭即チ侵略戰爭ニシテ土地及其上ニ居住スル住民及之ニ附隨スル一切ノ動産不動産ヲ獲得スルヲ目的ト爲ス

第五ノ形式ハ法權ヲ伴フ版圖ノ獲得ヲ旨トセスシテ唯經濟的實權ノ獲得就中經濟的特權ノ獲得ヲ旨トスル戰爭是ナリ經濟的特權トハ獨占市場ノ獲得、開港若ハ互市場ノ開放、有利ナル關稅ノ設定又ハ關稅ノ撤廢、鐵道敷設、通信機關ノ設置、富源開發、漁業權ノ獲得等是ナリ

此事ハ近時經濟ノ發達ニ伴フ必然的現象ニシテ今ヤ國民ノ商業及工業等ノ繁榮

ニハ必スシモ政治的國境ノ膨脹即チ行政區域ノ擴張ヲ必要トセサレハナリ然レトモ(ノルマン、エンゼル)カ「現代戰爭論」ニ於テ述ヘタル所ハ稍、極端ニ偏シタル嫌ナキニアラス即チ國民ノ政治的及經濟的國境ハ今日必スシモ同一ニアラサルコトハ勿論(否嚴密ニ言ヘハ國境トハ單ニ政治的意義ニ於テ存在スヘキモ思想並經濟上ニ於テハ國境ナシト言フヲ寧ロ至當トスヘシ)ナリト雖國家ノ政治的勢力カ國民經濟ノ消長ニ對シ無關係ナリト斷シタルハ大ナル過誤タラスンハアラス般鑑遠カラス吾人ハ近ク之ヲ加洲、濠洲等ニ於テ體驗シ他國民ノ政治圈內ニ於テハ我同胞ノ經濟的發展モ至難時ニ不可能ナルコトヲ悟リタリ「ノルマン、エンゼル」ノ說明スル如ク今ヤ戰捷者カ敵國民ノ財產ヲ沒收スルノ不可能ナルヤ明白ニシテ償金亦必スシモ之ヲ期スルヲ得サルノミナラス縱ヒ之ヲ得タリトスルモ有效トノミ言フコト能ハサルヘシト雖經濟上ノ所得ハ單ニ償金又ハ財產沒收ノミニ限ラレサルコトニ留意セサルヘカラス西班牙ハ其領土ノ擴張ト共ニ益、貧乏ト爲リタリト雖是レ其施政宜ヲ得サルカ爲ニシテ英國ノ富強ハ其領土ノ増大ト殆ント平行シタルニアラスヤ

第六ノ形式ハ經濟的實權ノ獲得ニ在リ特權ノ欲求ニアラス唯經濟的普通權利ノ獲得ヲ旨トスルモノ是ナリ例ヘハ日本移民ノ加洲ニ對スルカ如キ決シテ特權ノ欲求ニアラス單ニ普通權利ノ享受ヲ要望スルニ過キス而モ加洲ハ經濟的打算ノ上ヨリ種々ノ壓迫ヲ加ヘ普通ノ權利サヘモ與フルヲ欲セス茲ニ葛藤ヲ演出スル次第ナリ(排日ノ主要原因ハ決シテ人種的偏見ニアラス)

今日世界ノ經濟問題中國際紛爭ノ因ト爲ルヘキ諸問題左ノ如シ

イ 移民問題 各國人口ノ密度ニ大ナル差異アルヲ以テ茲ニ人間ノ流動起ラサルヲ得ス移民問題即チ是ナリ

ロ 人口増殖問題 人口ノ密度比較的大ナル國家ニシテ其小ナル國家ニ比シ却テ人口増殖率ノ大ナルモノアリ日本及獨逸等ノ如シ爲ニ人間流動ノ自然的傾向ヲ更ニ激成シ過剩人口整理ノ爲益移民問題ノ緊張ヲ促ス

ハ 資源問題 各國ノ人口ト其有スル生活資源量トノ比率區々ニシテ本邦ノ如キ人口ノ密度大ナル國ニ於テ却テ其有スル生活資源極メテ貧弱ナリ米國ノ如キハ之ニ反ス是ニ於テカ天惠ニ均霑シ經濟的平等ヲ得ントスル民族運

動起ラサルヲ得ス

ニ 資源ノ分布問題 或ル種ノ資源カ其需用國ニ於テ却テ少ク又ハ皆無ニシテ其需用多カラサル國家ニ於テ豐富ナリ例ヘハ英本國ハ多量ノ石油ヲ必要トスルニ拘ラヌ之カ資源ヲ有セサルニ反シ「ペルシヤ」「メキシコ」等ノ如キハ其需用量ヲ遙ニ超過スル石油ヲ有スルカ如シ

ホ 原料生産國ト此原料ヲ精製スル工業國ト必スシモ一致セス例ヘハ日本ノ棉花工業ハ大ニ發達セルモ其原料ハ之ヲ米大陸、印度等ヨリ得サルヘカラサルカ如シ

ヘ 商品賣捌ノ爲ノ市場問題

ト 關稅問題

文明ノ進歩及經濟ノ發達ハ經濟的競爭ヲシテ益激甚ニ赴カシメ從來ノ戰爭ノ中ニモ經濟的原因カ主要ナル動機ト爲リテ起レル戰爭尠カラス北米合衆國ノ南北戰爭、キエバ、西班牙戰爭、英杜戰爭、英佛植民地戰爭、伊土戰爭、阿片戰爭、歐洲大戰等皆此種ニ算フルヲ得ヘク日露及露土兩戰役ノ如キモ露國側ヨリ之ヲ觀レハ太平洋

又ハ地中海ニ對スル完全ナル門戸ヲ設定シ經濟的大發展ヲ策セントシタルコトカ有力ナル一原因タリシナリ又縱ヒ政治的、宗教的動機等カ主因ト爲リテ起レル戰爭ト雖多少經濟的原因ヲ包含スルハ戰爭其物ノ本質上自然ナリトス

第十九世紀ニ於テ經濟ハ異常ナル進歩ヲ遂ケ國際分業、疏通經濟、國際金融組織、信用制度等ニ長足ナル發達ヲ見ルヤ一國經濟ノ繁榮ハ他國ノ經濟ノ繁榮ニ負フ所多ク他國ノ經濟不振ハ自ラ自國經濟ノ不振ヲ招來スルノ結果ト爲ルニ至リ或ル種ノ財政經濟學者等ハ國際戰爭ノ無意義ナルコトヲ痛論シ其愚ヲ嘲笑シテ戰爭ノ勝利ヲ以テシテハ到底一國經濟ノ發展ヲ期シ得ヘカラスト斷シ強國露國民ノ貧乏ナルニ比シ弱國和蘭、白耳義等ノ國民ノ富裕ナルコトヲ引證シテ一國武力ノ優越ハ其經濟的優越ト風馬牛相關セサルコトヲ論證シタリ

然ルニ偶、歐洲大戰亂ノ勃發ヲ見經濟上最モ密接ナル關係ニ在ル歐洲諸國ハ五箇年ノ久シキニ互リテ干戈ヲ交ヘ當ニ自國ノ經濟力ヲ消耗シタルノミナラス敵國ノ經濟力ヲ破壞シ交戰各國共ニ戰前世界經濟界ニ於テ獲得セル地位ヲ失ヒ戰勝者タル英國ノ如キハ其國民經濟ヲ復興スル爲ニ昨日ノ敵タル獨逸ノ經濟復興ヲ庶

幾セサルヘカラサルニ至レリ觀シ來レハ前陳一部財政經濟學者ノ豫言ハ正ニ適中シ經濟上ノ獲得物ヲ夢想シテ起セル戰爭ハ自他ノ經濟力ヲ消磨萎靡セシメ戰勝戰敗兩者ノ爲ニ極メテ不經濟ナル結果ニ於テ終レルニ似タリ但シ此一例ヲ觀テ總テノ戰爭皆然リト斷スルハ失當ニシテ特ニ英、露、佛等ハ獨逸製品ノ最モ重要ナル市場且獨逸ハ英、佛ノ商品、露國ノ生産物ノ重要ナル顧客タルコト竝歐洲大戰カ各交戰國ノ存亡ヲ賭スル戰爭ナリシ爲戰局ノ永續シタルコト等ヲ看過スヘカラス人間經濟上ノ利害ノ分割線カ國境ナリヤ將タ又各國境ニ無關係ナル社會階級層ナリヤハ大ニ攻究スヘキ價值アル問題ニシテ一部ノ論者ハ現代經濟組織必然ノ結果トシテ經濟上ノ利害ノ分割線ハ國境ニ在ラスシテ階級ニ在リト斷シ彼等ハ大ニ Internationalism ヲ高唱ス

然レトモ公平ナル見地ニ立チテ冷靜ニ之ヲ觀察スレハ人間經濟上ノ利害ノ分割線ハ單純ナル國境ニモアラス又單純ナル社會層ニモアラス頗ル複雜ナル曲斷面ヲ成形スルモノト觀ルヲ至當トスヘシ然ルニ國家ハ主權ヲ有シ國內ニ於ケル經濟上ノ利害ノ衝突ニ基ク争闘ハ之ヲ平和的ニ解決シ得ヘキ途ヲ有スルニ拘ラス



國家相互間ノ經濟上ノ爭鬪ニ至リテハ則チ然ラス特ニ資本的帝國主義ノ增長惡用ヲ見ンカ國家相互ノ衝突ノ危險ハ決シテ軍國的帝國主義跋扈ノ時代ニ劣ラサルヘシ或ハ曰ク「經濟的競爭ハ平和競爭ヲ旨トシ資本的帝國主義ノ遂行ニハ國際協調共存共榮ヲ必要トス奚ソ戰爭ノ愚ヲ演スヘケンヤ」ト然リ是レ理性ノ考フル所トシテ洵ニ正當ナリ然レトモ人間ハ屢理性ノ主張スル正當ナルコトヲ實行セス打算ニ合セサル非理ヲ實行スルノ事實ヲ奈何センヤ

### 一一 民族的感情及觀念ニ基ク起因

地球上ニハ生理的形態及心理的性質ニ於テ差異アル幾多ノ民族生活シ其事實上ノ差別トシテ一次的ナル體格ノ差別性格ノ差別及二次的ナル言語、慣習、道德、文化等ノ差別存在ス

體格ノ差別ハ外貌ニ於テ現ハレ民族異同ノ感ヲ惹起スル最モ大ナル效力ヲ有シ開明ノ度未タ進マサル時代ニ於テ人間相互ノ間自他關係ノ遠近親疎ヲ判斷スルニ殆ント常ニ外貌ニ於ケル主要ナル異同ヲ以テス開明ノ程度進メル時代ニ於テ

モ此事象ハ人情ニ影響スルコト案外重大ナリ

民族間ニ於ケル性格ノ差異及習慣ノ差異ハ體格ノ差異ニ比シ後天的ナリト雖民族間ノ感情相互ノ理解意志ノ疏通、親疎等ニ及ホス影響ハ甚々重大ニシテ社交上ニ於テ特ニ然リトス

言語ノ差別ハ最モ重要ナル差別ニシテ八種ノ差別ヲ論スルニ全然言語ノ差別ヲ基トセントスル學者鮮シトセス言語ハ人間實際ノ重要機關ニシテ其差別カ感情ノ睽離相互了解ノ阻絶ヲ來スノ因ヲ爲スハ蓋シ當然ナリト謂フヘシ即チ言語ハ人種異同ノ感ヲ惹起スル殆ント第一ノ要件ト言フモ不可ナシ

民族間ニ於ケル性格、習慣、道德、文化等ノ差別ハ永年ノ間ニ自ラ情感觀念ノ差別ヲ生セシメ各民族ハ多少異ナル傳統的情感及觀念ヲ有ス民族精神即チ是ナリ故ニ各民族ハ同一ノ事柄ヲ種々ニ感シ同一ノ衝動ニ因リテ様々ニ行動ス是レ互ニ理解シ互ニ其感情ヲ分ツノ困難ナル所以ナリ勿論自然科學又ハ技術上ノ問題即チ純然タル理智ニノミ關スル問題ニ就テハ國民ノ異同ニ由リ見解ノ異ナルヘキ筈ナシト雖政治、宗教、社會問題及日常生活問題、精神科學ノ問題、哲學等ニ關シテハ感

情及神秘的觀念加味セララルヲ以テ如何ニ文化ノ程度ノ進メル國民ト雖全然相互ニ理解シ見解ヲ一ニスルコトハ困難ナリトス

殊ニ國民對國民ノ輿論ナルモノハ無意識ノ間ニ國民ノ心理ヲ支配スル傳統的ノ心の分子ノ衝動ヨリ起ルモノナルカ故ニ其一致融合ヲ見ルコトハ一層困難ニシテ此傳統的心の分子カ即チ民族ノ氣質、民族固有ノ魂ヲ成形スルモノナリ大和魂、英國魂、獨逸魂等皆然リ「ルーデンドルフ將軍ノ某日本將校ニ對シ「卿等カ如何ニ獨逸ヲ研究スルトモ獨逸魂ハ了解スルコト能ハサルヘシ從テ此獨逸魂ヨリ發スル吾人ノ言動ヲ真正ニ理解スルハ困難ナラン」ト直言シタルハ一面ノ眞理ヲ道破セルモノト言フヘク佛國ノ「グスターフ、ル、ボン」博士ノ説ト其揆ヲ一ニス博士曰ク「人ハ縱ヒ同一ノ言葉ヲ話ストモ同一ノ言辭ハ人々ノ頭ノ中ニテハ必スシモ同一ノ意味ニ消化セラレス言辭ノ内容ハ之ヲ使用シ之ヲ聞ク人ノ固有ノ精神ニ從ヒ種々ニ變化ス馬、鳥ト言フカ如キ言葉ハ萬人一様ノ意味ニ解釋セラルルモ抽象的言辭例ヘハ精神、自由、本質、道義等ノ如キモノハ全然主觀的ノ言葉ニシテ各人各様ニ之ヲ解釋ス云々」ト傳統的の感情及觀念ヲ有スル各民族相互間ニ於テハ特ニ然ルノ

理亦當然ト謂フヘシ又縱ヒ國際的精神ノ涵養ヲ鼓吹ストモ其結果ニ於テハ大差ナカルヘク「グスターフ、ル、ボン」博士モ「internationalisme」可ナリ然レトモ是レ單ニ理智ノ關スル範圍内ニ於テノミ然リトス既ニ感情ノ範圍ニ入ルヤ「internationalisme」畢竟何ノ用ヲ爲スヤ」ト喝破セリ各民族ハ必スシモ宗教ヲ異ニセスト雖之ヲ異ニスルモノモ鮮カラス而シテ宗教ヲ異ニスル民族相互間ニ存在スル反感、憎惡ノ念ノ強盛ナルコトハ茲ニ贅スルヲ要セス經濟上ノ利害ヲ異ニスル民族間ニ於ケル反感亦然リ

各民族ハ其特性ニ基キ自己ニ適應セル政治上ノ主義及政治形式ヲ採用シ其差異カ民族相互ノ反感ヲ助長スル一因ト爲ルハ「アテネ」「スパルタ」ノ古例ニ鑑ムルモ明白ナリ最近獨逸民族ハ忽ニシテ「プロイセン」ノ極端ナル國家至上主義ニ共鳴シテ之ヲ信奉シ終ニハ之ヲ他民族ニ移シ他國民ヲシテ獨逸式法制ヲ採用セシメントシテ個人ノ自由獨立ヲ尊重シ國家ノ強制力ヲ必要ノ最少限度ニ行使セントスル英、佛人等ノ反感ヲ益、助長セシメタルハ世間周知ノ事實ニシテ英、佛人ハ「獨逸人ハ個性ノ良心ヲ有セス國家ニ指導セラルル集團の良心アルノミ」ト痛罵シ戰ニ敗レテ獨逸

式法制ノ下ニ生活センヨリハ寧ロ「アフリカ」ノ沙漠ニ逃レテ其中ニ生活スルニ如カスト思惟セリ軍國主義對自由民主主義戰爭ノ標語ハ蓋シ此ニ出ツルモノナリ思想觀念ノ爲ニ戰フコトハ最早國際間ニ起リ得ヘキコトニアラス何トナレハ思想問題ニ於ケル分割線ハ國民自身ノ中ニ在リテ政治的國境ヲ横斷シ居レハナリト論シタル「ノルマン、エンゼル」ノ說ハ單ニ盾ノ一面ヲ觀他ノ一面ヲ閉却シタルモノタラスンハアラス既往勞農露國ト其隣邦トノ戰爭ノ如キハ正ニ觀念ノ爲ノ戰爭ナリトス抑或ル種ノ思想ニ關シテハ各國ヲ通シ社會各層間ノ軋轢アリト雖結局國家相互間ノ抗爭ト爲ルコトアルノミナラス又或ル種ノ思想ニ關シテハ依然トシテ國民ト國民トノ對立競爭ノ事實儼トシテ存在スルコトヲ看過スヘカラス例ヘハ社會主義對非社會主義ノ軋轢ノ如キハ一面ヨリ觀レハ各國ヲ通スル社會層間ノ爭鬭ニシテ國境ヲ越エテ其精神的協力行ハレサルニアラスト雖又他ノ一面ヨリ之ヲ觀レハ社會主義的國家ト非社會主義的國家トノ對立抗爭ノ事實存在ス若シ夫レ「モンロー」主義、白人濠洲主義、亞細亞「モンロー」主義、印度人ノ印度主義等ト其反對思想ノ對立ノ如キニ至リテハ其抗爭ノ分割線ハ正ニ政治的國境ニ在リ

ト言ハサルヘカラス

### 三 權勢慾功名心、虛榮心

權勢慾ハ一種ノ本能ニシテ人ハ何人モ其權力其勢力ヲ擴張シ自ラ快トスルモノナリ人間ノ集團タル國家ニ於テモ亦然リ國家ノ此力ノ衝突ハ即チ戰爭ノ起因ト爲リ殊ニ君主專制時代ニ於テ然リトス方今ト雖他ノ動機ト相結合シ戰爭ノ結合ト爲ルコト無シトセス彼ノ帝國主義ノ如キハ即チ權勢慾ト經濟的慾望トノ結合シタルモノニシテ時ニ神秘的觀念ヲ混スルコトアリ又ハ之ヲ混セサルコトアリ權勢慾ヨリ生スル戰爭ハ政治的戰爭ニシテ統治ニ關スル戰爭ナリ換言スレハ統治ノ本質的要素タル權力其物ヲ目的トスル戰爭若ハ其權力ニ附隨スル事物ヲ目的トスル戰爭是ナリ

統治權爭奪ノ戰爭ノ例トシテハ「スペイン」王位繼承戰役、「オーストリア」王位繼承戰役、本邦南北朝間ノ戰爭、往昔支那ニ於テ反覆セラレタル戰爭等是ナリ國內戰ハ多クハ統治權ヲ目的トシテ惹起セラレ政治的革命戰亦此種ニ屬ス

第三國ニ於ケル統治權其者ヲ目的トセサルモ軍事の經濟的ノ實權ヲ獲得セント欲シテ起ル戦争アリ朝鮮ニ於ケル爭覇戰タル日清戰役朝鮮及滿洲ニ於ケル爭覇戰タル日露戰役ノ如キ是ナリ歴史家カ目シテ某君主又ハ某英雄ノ單純ナル權勢慾(功名心)ノミヲ起因トスル戦争ト言フモノアリ豐太閤ノ起セル文祿ノ役ノ如キ是ナリ權勢慾(功名心)ハ戦争起因ノ一ト爲リ得ヘキモ單ニ是ノミヲ起因トシテ戰役カ起リ得ルモノナリヤ特ニ豐太閤文祿ノ役ニ從事セル諸將中昨日迄秀吉ト肩ヲ比ヘテ勢力ヲ振ヒ居タル者尠カラサルニアラスヤ秀吉ノ單純ナル功名心カ是等ノ諸將ヲ驅テ戰役ヲ開始セシメ得タリトハ考フヘカラス他ニ起因ノ存在スヘキハ殆ント疑フヘカラス

#### 四 文化ノ衝突

文化ノ理想カ平和的發達ヲ旨トスルコトハ經濟進歩ノ理想ノ如ク然リ故ニ文化ノ衝突カ戰役ノ起因ト爲リ得ヘキカ如キコトハ到底理性ノ肯スルヲ欲セサル所ナリト雖理性以外ノ他ノ力ニ依リ支配セララルル人間ハ文化ノ競争ヲ以テ戰爭化

スルコト無シトセス

世界ニ於テ性質ヲ異ニスル數種ノ文化ノ對立スルヤ其間ニ於ケル競争ハ避クヘカラス此競争ハ文化ノ潛勢力ノ流動ヨリスル一種ノ自然現象ニシテ高キヨリ低キニ強キヨリ弱キニ向ヒテ流動シ其力學的發現ハ即チ文化ノ壓力ト爲リ他ノ文化ハ之ニ抵抗シ遂ニ戦争ノ起因ト爲ルコトアリ國語問題ニ關スル帝政露國ト波蘭及芬蘭等トノ紛爭、欽明天皇ノ御代佛教ノ採否ニ關スル朝廷ノ爭議—蘇我、物部ノ爭—明治初年西洋文明ノ浸潤ニ憤慨シテ起レル佐賀熊本ノ爭亂、支那ニ於ケル義和團ノ蜂起等ノ動亂ハ無論單ニ文化ノ衝突ヲ動機トシテ起レルモノニアラスト雖文化ノ衝突カ動亂乃至戦争ノ一起因タリシハ疑フヘカラス世界大戰ノ如キモ獨逸文化ト英佛文化トノ衝突カ其一起因タリシハ識者ノ認ムル所ニシテ該戰役カ軍國主義對自由民本主義戦争又ハ十九世紀文化ノ總勘定ト稱セラルル所以實ニ此ニ在リ

#### 第三節 神秘的觀念ニ基ク起因

各民族ハ文明人タルト野蠻人タルトニ論ナク理性ノ力ヨリモ尙強力ナル神秘的觀念ノ支配ヲ受ク而シテ此神秘的衝動ハ理智ニ立脚セサルヲ以テ其威力ハ益々偉大ナルコト前述ノ如シ「グスターフ、ル、ボン」博士曰ク「理性ハ情念又ハ神秘的觀念ヨリ發スル衝動ノ辯護人又ハ奴隸ノ役ヲ勤ムルモ決シテ主人タル能ハス」ト言ヤ稍過キタルカ如シト雖少クトモ戰爭ノ起因ニ關スル限り正當ナルカ如シ

歐洲大戰ノ勃發ニ方リテモ人ノ理性ノ力ノ如何ニ微弱ナリシカヲ明示シタリ露佛人等ニ比シ遙ニ冷靜ニシテ理智ニ長シ打算ニ優レタリト稱セラルル獨逸人ニ於テ特ニ然ルヲ見ル若シ當時獨逸當局者ノ心中ニ於テ理性ノ力カ有力ニ活動シタランニハ彼等ハ如何ナル犧牲ヲ拂フモ極力大戰ノ勃發ヲ防遏スルコトニ努力セサルヘカラサリシナリ獨逸商工業ノ發展、陸海軍ノ増大、各國ニ於ケル獨逸勢力ノ浸潤及獨逸文化ノ擴行等ハ年月ノ經過ト共ニ居ナカラニシテ彼ヲ世界ノ覇者タラシメタルヘキハ火ヲ賭ルヨリモ明ニシテ獨逸ハ五十年間戰フモ尙獲得シ得ヘカラサル效果ヲ戰ハスシテ享受シ得ヘキ境遇ニ在リシナリ即チ彼ノ利益ハ戰爭ノ絶對回避ヲ命ス然ルニ彼ハ之カ爲十分ノ努力ヲ爲サス終ニ大戰ノ勃發ヲ見ルニ

至レル所以ノモノハ即チ情念及神秘的觀念等カ理性ヲ壓シテ活動シタレハナリ純然タル理想又ハ觀念ノ爲ノ戰爭ナク縱ヒ外觀ニ於テ其觀ヲ呈スルモ必ス他ノ動機存在スヘシト説ク者アリ或ハ然ラン然レトモ或ル理想又ハ觀念カ戰爭起因ノ一因子タリ得ヘキコトハ疑フヘカラス

### 一 宗教上ノ觀念

宗教上ノ動機ニ基キ起レル戰爭ハ古來尠カラス彼ノ「アラビヤ」人カ長驅「ヨーロッパ」ニ進入シ劍ト「コーラン」トヲ以テ戰ヒタルカ如キ即チ「マホメット」教ヲ布教シ世界ヲ改造セントスル神秘的觀念ニ催動セラレテ起レル戰爭ニシテ又歐洲人カ十字軍ヲ編成シ聖地恢復ノ爲三回モ土耳其人ト戰ヒタルカ如キ若ハ三十年戰爭ノ如キ天草ノ亂ノ如キ何レモ宗教上ノ動機カ主因少クトモ有力ナル一因ト爲リテ起レルモノナリ近世ニ於ケル土耳其人對「バルカン」民族ノ紛爭、土耳其人對「アルメニア」人ノ爭鬪亦然リトス

宗教ハ其起原ニ遡レハ人種ノ主要ナル屬性ニシテ古代各人種ノ社會ハ各、初等ナ

ル宗教ヲ有シ相對立セリ蓋シ某人種ノ社會的生活經驗ニ於ケル狹隘匱乏ナル内容ハ自然且必然的ニ其心的同調ヲ惹起シ世代ヲ累ヌルヤ傳説口碑ハ益々不純ヲ淘汰シテ純粹ト爲シ小異ヲ捨テテ大同ニ歸シ茲ニ初等ナル宗教的信條起リ人種の社會ノ秩序ノ整フニ從ヒ這般信條ノ外的發現タル宗教的儀式ハ人種の社會ノ一習慣屬性トシテ儼存スルニ至ル

此ノ如クニシテ人種的感情ハ宗教的感情ニ由リ益々強烈熾盛トナリ異人種異教徒ニ對スル反感ヲ助長セシメタリ而シテ人種ト宗教トノ無關係ニシテ如何ナル人種モ如何ナル民族モ唯一ナル神ヲ崇信スル者ハ同一宗教信者トシテ相親ムヘキコトヲ唱ヘ始メタルヲ基督トス多クノ宗教ハ平和ヲ理想トスルカ如シト雖歴史上宗教カ動機ト爲リテ起レル戰爭ノ勢カラサルコト前陳ノ如ク歴史ヲ通觀スレハ宗教ハ平和ニ貢獻セシヨリモ寧ろ戰爭ノ動機ヲ作りタル場合多キニアラサルヤノ感ヲ催サシム

宗教ノ教義其物カ既ニ戰爭的ナル宗教モ亦鮮シトセス殊ニ原始的宗教ニ於テ然リトス古代「スキイト」人カ天地ノ雄大ニ驚嘆シ神ノ觀念成立スルヤ此神ハ軍士ノ

屬性ヲ取り衆神中最初ニシテ最偉大ナル「チイヴス」ハ戰ヲ戰闘ノ神タリ北方人間ニ於ケル極樂ノ理想「ワイハラ」ハ戰闘ノ極樂ナリ「セム」人間ニ於ケル耶和華ハ戰士ニシテ古代「ゲルマニア」人ノ主神「チウ」ハ戰爭ノ神ト爲リ「フロリダ」土人ハ太陽ヲ軍神トシテ崇拜セリ波斯ノ「ゾロアスター」教ハ世ニ善惡ノ二神アリテ恒久ノ戰闘ニ從事スト説キ「マホメット」教ノ如キハ最モ戰爭的ノ教義ナルコト周知ノ事實タリ佛教ノ教義ニハ戰爭的ナルモノナシト雖山僧ノ跋扈、織田氏對一向宗ノ戰爭等佛教徒ノ戰爭乃至戰爭的行動ヲ爲シタル例尠カラス叡山ノ如キ越前ノ朝倉、近江ノ淺井ト通謀シテ信長ニ當リ爲ニ信長ノ攻ムル所トナリ延曆寺ハ信長ノ爲ニ燒カレタリ「カール、マルクス」カ理論上ノ社會主義ノ元祖タルニ對シ理想上ノ社會主義ノ父ト稱セラレル基督ノ創設セル基督教ノ如キモ其教義ハ戰爭的ナル點ヲ含有スト云フ(建部博士著「平和カ戰爭カ」參照)基督曰ク「吾カ來ルハ平和ヲ持チ來サンカ爲ニ非スシテ戰爭ヲ持チ來サンカ爲ナリ」ト彼カ「ローマ」ノ官吏ノ爲猶太ノ獨立ヲ謀ル叛逆者ト誤解セラレ非業ノ最後ヲ遂ケタル所ヨル察スルニ其所說必スシモ平和的ナラサリシコト首肯スルニ難カラズ蓋シ舊觀念(猶太教)ヲ打破シテ新教義

ヲ確立センカ爲ニハ其言動自ラ破壊的ナラサルヲ得サルハ自明ノ理タルヘシ

### 一 政治ニ關スル神秘的觀念

政治的觀念必スシモ神秘的觀念ヨリ來ラス經濟的打算ニ其根原ヲ有スルモノアリ又ハ道德的觀念ニ其基礎ヲ有スルモノアリ唯此處ニハ神秘的觀念ヨリ發スル政治的觀念ニ就テ述ヘントス

政治ニ關スル神秘的觀念カ戰爭ノ有力ナル一因ト爲リタル例トシテハ大革命後ノ佛國カ普、埃、露、英、伊等ト行ヒタル戰爭、世界大戰、ソウイエット露國對聯合國戰爭等ヲ舉クルヲ得ヘシ

佛蘭西大革命後ニ起レル歐洲ノ諸戰役ノ有力ナル一原因ハ佛國ニ於ケル革命精神ニ對スル歐洲諸國ノ反革命精神ノ抗爭ニ在リ千八百十二年佛軍ヲ中心トスル聯合軍ハ西ヨリ東ニ直進シテ「モスクワ」ニ進入シ千八百十四年露軍ヲ中堅トスル聯合軍ハ前ト全然正反對ニ東ヨリ西ニ直進シテ「巴里」ニ入レリ何故ニ當時ノ歐洲諸國民ハ或ル「グルッブ」ヲ作り此ノ如キ一見無意義ノ運動ヲ行ヒタリヤ其起因ノ

人種的感情ニ存セサルヤ明白ニシテ宗教ト何等ノ關係ナキコト言ヲ待タス經濟上ノ打算ヨリスレハ到底考フヘカラサルノ怪現象タリ一部ノ歴史家ハ其原因トシテ露國カ大陸封鎖令ヲ破リテ密カニ英國ト貿易ヲ行ヒタルヲ舉ケ又奈翁カ露國ノ皇妹ヲ娶ラント欲シテ成ラサリシヲ説クモ此ノ如キ動機ノ爲ニ數百萬ノ人間カ彼ノ大活劇ヲ演シ得ヘシトハ思惟セラレス即チ這個ノ歷史的現象ヲ説明シ得ルモノハ實ニ神秘的政治上ノ觀念タラスンハアラス露ノ「レフ、トルストイ」伯ハ千八百十二年戰役ヲ以テ「ナポレオン」一世又ハ「アレクサンダー」一世若ハ其周圍ニ於ケル某々大官ノミノ作業ニアラス之ニ參與セル總テノ人間ノ作業ニシテ是等ノ人間カ天命ヲ實行シタルモノナリト論シ佛ノ「グスターフ、ル、ボン」博士ハ革命精神對反革命精神ノ活躍ノ結果ナリト爲セリ

歐洲大戰亂ノ有力ナル一原因モ亦獨逸民族ニ宿レル神秘的觀念ニ在リ即チ彼ハ世界改造ノ爲ニ神ヨリ特別ニ選ハレタル最優等人種ニシテ世界ヲ征服シ獨逸文化ヲ移植スルハ彼ノ使命ナリト爲ス觀念是ナリ此觀念ハ先ツ「フヒテ」ニ依リテ唱道セラレ「氏」曰ク「獨逸國民沒落スレハ人類ハ衰亡ス」ト「ライチーケ」ランブレヒト

等ノ史家ニ依リ高調セラレ更ニ他ノ學者ノ共鳴宣傳スル所ト爲リ遂ニ獨逸全國民ノ信條ト化スルニ至レリ

此ノ如キ信念ニ立脚スル獨逸民族カ當時世界ノ霸權ヲ握リ獨逸壓迫ノ中心ヲ爲セル英國ヲ以テ其敵ト爲シ極度ニ之ヲ憎惡スルニ至リタルハ自然ニシテ而モ獨逸商工業ノ異常ナル發展、陸海武力ノ急速ナル増大等ハ彼ヲシテ前記ノ信條ノ實現可能ヲ確信セシムルニ至リ其對外政策ハ漸次亂暴ニ傾キ外交家ノ言動亦傲慢ト爲リ遂ニ各國ノ厭忌スル所トナリテ外交上孤立ノ窮境ニ陥リ痛憤焦慮ノ結果彼ノ脫線ヲ敢テスルニ至レリ

「ポリシエウイック」カ世界革命ヲ夢想シ諸國ヲ敵トスルヲ願ミスシテ狂暴ナル内外政策ヲ斷行シ各國ノ不平分子ヲ煽動シテ世界ヲ大禍亂ノ巷ト化シ根柢ヨリ世界ノ社會組織ヲ覆シテ其主義ヲ實現セント企テ遂ニ聯合國ノ武力干涉ヲ惹起シ且波蘭ト戰ヲ交フルニ至リシ主要ナル動機亦實ニ神秘的ナル政治觀念ニ在リ此ノ如キハ日本人又ハ英國人等ノ如キ實利主義ナル國民ニハ甚タ了解ニ困難ナル所ナルモ其處ニ露國人ノ特性ヲ見ルヘク空想ニ活キテ神秘的觀念強盛ナルハ蓋シ「ストラウ

イヤン」民族ノ一大特徴タラスンハアラス彼ノ汎「スラプ」主義、汎「ゲルマン」主義、汎「セルビヤ」主義、世界革命ノ理想ノ如キハ何レモ同一性質ノモノニシテ其根源ハ共ニ神秘的觀念ニ在リ

最後ニ一言スヘキハ時代思潮カ戰爭ト密接ナル關係ヲ有スルコトナリ世界大戰亂モ十九世紀ニ於テ非常ナル發達ヲ遂ケタル國家主義、帝國主義、資本主義、功利主義等ニ負フ所尠カラス是レ思想家カ該大戰亂ヲ以テ十九世紀文明ノ總勘定ト稱スル所以ナリトス

彼上ノ思潮ニ刺激セラレタル各國民ハ軍備擴張競争ニ熱中シ汎「スラプ」、汎「ゲルマン」、汎「セルビヤ」主義等ヲ高唱シ遂ニハ世界主義ナル標語迄モ製造シテ各、膨脹ヲ策シタル爲遂ニ相互ノ扞格衝突ヲ惹起シ彼ノ大戰亂ヲ實現スルニ至リシナリ方今頻リニ高調セララルル國際主義、平和主義等ハ即チ其反動ニシテ動ノ大ナリシタケ反動モ相當ニ大ナリト雖「時」ハ自然ニ該問題ヲ解決スヘク結局落ち著クヘキ處ニ落ち著クヘキハ明白ナリ



#### 第四節 社會的發達ニ基ク起因

政治上ノ權力ハ社會上ノ實力ニ伴フ故ニ或ル社會的團結カ進歩發展シテ其勢力増大スルヤ遂ニ政治上ノ權力即チ統治權ヲ要望シテ起ツニ至ルハ自然ノ理ナリ然ルニ舊統治者カ平和的ニ其統治權ヲ讓ルトキハ事穩便ニ解決スト雖人ノ本性上動ニ對シテハ反動起ラサルヲ得ス特ニ不可分ノ主權ニ關スル要求ニ對シテハ極力之カ抗拒ヲ努ムヘク茲ニ兩者ノ戰爭ヲ惹起スルコト鮮カラス

##### 一 植民地ノ獨立戰爭

植民地ノ社會的發達ニ伴ヒ植民地ハ自個自營ニ利便ナル法制ノ下ニ統治セラレシコトヲ熱望スルニ至リ茲ニ獨立ノ機運ヲ促成ス元來植民地ハ社會トシテ新ナルモノ而モ該地ニ赴キテ新運命ヲ開拓スル植民地人ハ豪快ニシテ活潑不羈自由ヲ愛スル者ニシテ其子孫亦此精神ヲ繼承ス是ヲ以テ植民地ノ社會性ハ母國ノ其レニ比シ大ニ趣ヲ異ニシ且母國ト植民地トノ經濟財政上ノ利害必スシモ一致セ

ス母國ハ植民地ヨリ成ルヘク多クノ利益ヲ搾取セント努ムルハ自然ニシテ且植民地ハ母國及其植民地ノ爲自家ニ必要以上ノ國防費ヲ負擔セサルヘカラス此ノ如クシテ次第ニ分離獨立ノ機運醸成セラレ多クハ戰爭ヲ以テ解決セラル北米合衆國獨立戰爭ノ如キ即チ是ナリ

##### 一 同民族結合シテ大國ヲ成形セントスル 統一戰爭

相互ニ分離シテ微弱ナル小邦ヲ成形シ或ハ他民族ノ治下ニ生存スル民族カ其社會的實力ノ發達ニ伴ヒ同族ノ自覺ニ基キ相結合シテ統一セル國家ヲ成形セントスル爲ニ起ル戰爭是ニシテ第十九世紀ニ於テ此種ノ戰爭ハ屢々惹起セラレタリ伊太利統一戰爭及「プロシヤ」ノ統一計畫ニ基ク普埃戰爭、普佛戰爭等皆此類ナリ

##### 三 征服セラレタル民族カ其羈絆ヲ脱シテ 獨立セントシテ起ル戰爭

征服セラレテ他民族ノ支配下ニ屈伏シ居タル民族カ其社會的實力ノ増大又ハ宗國ノ權力ノ衰微ニ乘シ分離獨立セントスル戰爭ニシテ希臘獨立戰爭(成功)イオランダ(獨立戰爭)成功、波蘭獨立戰爭(不成功)、白耳義獨立戰爭(成功)、匈牙利獨立戰爭(不成功)等皆然リ

何レモ統治權ヲ目的トスル政治的戰爭ニシテ其目的ノ達成セラレルヤ茲ニ新國家成立ス

#### 四 階級戰

民族ノ政治的發達ト衰微トハ民族ト民族トノ戰爭ヲ惹起シ同一民族間ニ於ケル社會ノ發達ハ時トシテ階級戰ヲ招來ス平和ノ裡ニ社會ノ自然ナル發達ヲ遂クルハ理想ニシテ民族ニヨリテハ此理想ノ如ク行ハルルモノ尠シトセス大和民族ノ如キ特種ナル國民性ト歴史ト國體トヲ有スル民族ノ如キ正ニ然リトス

階級爭鬪ハ既ニ古代希臘ニ於テ盛ニシテ「アテネ」市ノ如キ貴族平民ノ軋轢ハ終ニ破裂シテ内亂ト化シ「ソロン」出テテ社會上及政治上ニ大改革ヲ斷行シタリト雖國

内ノ紛亂尙熄マス貴族、商人及貧民ノ三黨互ニ抗爭シ「クリステネス」出テテ「ソロン」ノ政治組織ヲ改良シ民主政體ノ基礎ヲ作ルニ及ヒ多年ノ爭亂茲ニ鎮定スルニ至レリ

古代羅馬ニ於テモ貴族平民ノ軋轢盛ニシテ紀元前四百九十四年羅馬ノ平民ハ聖山ニ籠リテ獨立ノ計畫ヲ爲シ其後紛亂繼續シ紀元前三百六十七年「リキニウス」法案成立スルニ至リ兩族ノ抗爭茲ニ其跡ヲ斷チタリ

階級戰ノ最モ大規模ニ行ハレタルヲ佛蘭西大革命トス第三階級即チ「ブルジョア」(註、當時ノ「ブルジョア」ハ決シテ富者ニアラス)ハ貴族、僧侶ノ掌中ヨリ其支配權ヲ奪取シ貴族、僧侶ノ特權ヲ廢止シ政治的平等ノ理想ヲ實現シタリ抑該革命ノ原因トシテ擧クヘキ幾多ノ事項存在スト雖之ヲ社會的ニ觀察スレハ要スルニ從來社會上ニ獨リ其勢力ヲ振ヒツツ在リシ貴族、僧侶ノ社會的實力衰微シ平民ノ社會的勢力勃興シタルカ爲ナリ

佛蘭西大革命ニ因リ擡頭シタル「ブルジョア」ハ商工業ノ發達ト共ニ遂ニ資本家ト爲リ經濟上ノ利益ヲ壟斷スルニ至レルヲ以テ第四階級民タル勞働者ノ力ヲ以テ

第三階級民タル「ブルジョア」ヲ絶滅シ經濟上ノ平等ヲ實現セント欲シテ行ハレタルヲ千九百十七年秋ニ勃發シタル「ボリシェウイック」革命ト爲ス該革命ノ最モ慘烈ナル階級戰タリシコトハ世人ノ記憶ニ尙新ナル所ニシテ佛蘭西革命カ單ニ政治的革命タリシニ反シ「ボリシェウイック」革命ハ政治兼社會革命ニシテ社會並經濟ノ發達ニ伴ヒ第四階級タル勞働者ノ勢力増加シタル結果タラスンハアラス

「カール、マルクス」ハ革命ヲ是認シ社會的並經濟的發達ノ結果必然的ニ行ハルモノトセリ其亞流ヲ汲メ「ボリシェウイック」ハ暴力ヲ以テスル革命ノ必要ヲ一層高調シテ曰ク「元來「ブルジョア」ハ銃砲刀劍ヲ以テ貴族、僧侶ノ手ヨリ支配權ヲ奪取シタルモノナリ此支配階級ハ決シテ戰ハスシテ其支配權ヲ讓ルヘキニアラス *terreur* ハ吾人ノ發明ニアラス「ブルジョア」ヨリ讓リ渡サレタルモノナリ鐵ヲ破碎スルニハ鋼ヲ以テセサルヘカラス」ト

同シク「マルクス」信者ナル第二「アンテルナショナル」即チ「カウツトスキー」「ワンデリフェルド」「プレファ」ノ「マルトス」「マダドナルド」「アルベール、トーマ」等ノ連中ハ其理想實現ノ爲暴力ヲ以テスル *revolution* 的手段ヲ排シ議會制度ニ依リ *evolution* 的の方

法ヲ以テセントス是レ從來「アムステルダム」第二「アンテル」ト「モスクワ」ノ第三「アンテル」トノ間ニ絶エス論爭ノ行ハルル所以ニシテ各「マルクス」精神ノ正當繼承者ヲ以テ任シ他ヲ目シテ *Robat* ト爲シ遂ニ其中間ナル第二半「アンテル」ヲ生スルニ至レリ歐洲學者ノ多數ハ彼上ノ事實ヲ以テ「マルクス」自身ノ所論ニ於テ明確ヲ缺クニ基因スト言フニ於テ一致ス

歐洲人ノ國民性ヨリシテ考フルモ又歷史上ヨリ觀察スルモ將タ又其團體文明ノ性質等ヨリ推スモ歐洲ノ社會上ノ發達ハ自ラ階級戰ヲ招致スルノ可能性ナシトセス故ニ「マルクス」ノ革命ニ關スル所説モ歐洲ニ於テハ或ハ正當ナルヤモ知レス然レトモ大和民族ノ如キ特種ノ國民性、國體、歴史、文化等ヲ有スルモノニ在リテハ則チ然ラス我大和民族ハ既ニ三千年來社會ヲ成形シ社會トシテ古キコト到底英、佛、獨、露等ノ比ニアラス而シテ此間幾多ノ變遷ヲ經發達ヲ見タリト雖一度モ階級戰又ハ階級軋轢ヲ生シタルコトナク大化改新、明治維新ノ如キ大改革ヲモ流血ヲ見スシテ實行シタリ明治維新ノ際ニ起レル戰爭ハ社會ノ改革ト何等關係ナク政局ノ變動ニ伴ヒ發生シタル政治戰ニシテ依然トシテ横方向ノ戰爭ナリ階級戰ハ少

クトモ其初期ニ於テ縦方向ノ戦争ヲ生スルモノトス

## 第二章 戦争ノ人生ニ及ホス作用

戦争ハ善ナリヤ惡ナリヤ人生ノ進歩發達ヲ促進スルモノナリヤ將タ又人生ノ退化墮落ヲ招來スルモノナリヤ是レ重大ナル問題ニシテ諸家ノ立言甚タ區々ナリ戦争ヲ非認スル者之ヲ是認スル者又ハ人間ハ戦争ノ是非ヲ論スルノ資格ナシトスル者或ハ戦争ハ過去ニ於テ人生ニ益アリシモ今ヤ災禍ト爲レリトスル者等是ナリ抑戦争是非ニ關スル立言ノ此ノ如ク種々ナル原因ヲ探究スレハ左ノ如ク要約スルヲ得ヘシ

イ 萬人ニ共通ナル哲學ナシ從テ純正ノ理性ニ基ク判断既ニ區々タルヲ免ル能ハス

ロ 人間カ事物ヲ觀察判断スルニ際シ主トシテ活動スルハ理性ナリト雖而モ無意識ノ中ニ情感又ハ神祕的觀念ノ混入スルヲ免ル能ハス

ハ 戦争ノ人生ニ及ホス作用ハ複雑廣汎ニシテ全豹ヲ捕捉スルコト頗ル困難

ナリ

ニ 戦争ノ效果ハ直ニ現ハルルモノ(直接作用)ト永年ニ互リ現ハルルモノ(間接作用)トアリ然ルニ人ハ單ニ或ル時期ニ於ケル效果ノミヲ基礎トシ判断スルモノ多シ

ホ 古代ノ戦争ト現今ノ戦争、戦局ノ永續セルモノト然ラサルモノト間ニハ人生ニ及ホス作用ニ著シキ相違アリ

戦争ノ是非ヲ判断スル爲ニハ先ツ戦争ノ人生ニ及ホス作用ヲ嚴密ニ查覈シ遺漏ナキ研究ヲ遂ケサルヘカラス而モ其立脚スル根本觀念即チ哲學觀念ハ人ニ依リ必スシモ同シカラサルヲ以テ戦争ニ關スル批判モ亦區々タルヲ免ル能ハス吾人カ前編ニ於テ人生哲學ニ關シ記スル所アリシハ即チ先ツ本文ノ根本觀念ヲ定メ觀察判断ノ基點ヲ標定シ置カンカ爲ニ外ナラサリシナリ

戦争ヲ非認セル學者中ニハ「セネカ」ラクタンチウス「モンテイニ」ユ「パスカル」ラ「ブリュイエル」フ「エロン」ゾ「オルテール」ジ「ラルダン」ボ「ツシエ」ユ「ゴ」ミ「ルボオ」モ「オバツサン」等アリ而シテ最モ學術的ニ戦争非認説ヲ立テタルモノヲ露國社會學ノ泰斗

「ノーキコフ」トス戰爭ヲ是認セル學者トシテハ「ヘラクライトス」「メイストル」「ヘーゲル」「ブルウドン」「シヨッペン」「ハウエル」「バツクル」「ロエスレル」「ラツソン」「プフライデル」トライチーケ」「イエエンス」等ヲ擧クヘク「メイストル」ハ宗教的見地ヨリ戰爭ヲ是認シ「ブルウドン」「佛國人」ハ社會主義者ニシテ戰爭ヲ是認セリ  
吾人ハ本章ニ於テ戰爭ノ人生ニ及ホス影響作用ヲ討究シ次章ニ於テ戰爭ノ哲學的意義ニ論及セントス

### 第一節 戰爭ノ淘汰作用

戰爭ハ人間ノ淘汰ヲ行フ是レ動カスヘカラサル事實ニシテ何人モ否認スル能ハサル所ナリトス唯問題ハ其淘汰カ積極的ナリヤ將タ又消極的ナリヤニ在リ「フオン」「シユテングル」博士ハ「戰爭ハ民族ノ試金石ニシテ凡テ腐敗セル者ハ滅ホサル」ト言ヒ某宗教家ハ「戰爭ハ神カ麥ト粃穀トヲ吹キ分クル爲ニ用フル大ナル唐箕ナリ」ト稱シタレトモ滅ホサル者カ果シテ腐敗セル者ナリヤ又除カルル者カ果シテ粃穀ナリヤ否ヤニ就テハ全然相反スル二個ノ説アリ

若シ積極的淘汰カ行ハレ優秀者殘存ストセハ人間ヲ進化セシムルコト疑ナキモ之ト反對ニ消極的淘汰カ行ハレ劣惡者殘存ストキハ即チ人生ノ退化ヲ招來スヘキハ疑フヘカラス戰爭ハ人間ノ消極的淘汰ヲ行フモノニシテ人類ノ退化ヲ來スモノナリトスル學者ノ論據ハ概ネ左ノ如シ

#### 戰爭カ消極的淘汰ヲ行フト爲ス説ノ論據

一 戰爭ノ結果適者カ生存スト言フコトハ古代ニ於テハ多少ノ眞理ヲ含有セリ  
元來國家ノ統治權ハ交通状態ニ應シテ擴張シタルモノナルカ古代ニ於テハ其交通状態ハ各國共大ナル差異懸隔アルコトナシ當時種族都市又ハ國家ノ二ツカ相衝突スルトキニ於テハ數量ノコトハ問題ニアラスシテ要ハ質ノ問題ナリ即チ優强者タル適者カ勝利ヲ占メ彼等ハ敗者ノ一族ヲ盡殺シ又ハ幽囚シ敗者ノ婦女ハ殺スカ又ハ之ヲ犯シテ茲ニ「優者タル勝利者ノ子」生ル特ニ婦人ノ掠奪ニ基クカ又ハ少クトモ婦人掠奪ニ終ル戰闘ハ是ナクハ小種族内ニ生活スル人間ニ免レ難キ血族結婚ヲ避クル爲ニ一種生物學的必然ノモノナリシナリ此

ノ如クシテ肉體ノ薄弱ナル者ハ淘汰セララルル結果トナリ少クトモ消極淘汰ハ起テス

二 然ルニ方今ニ於テハ戦争ノ淘汰作用ハ消極性ト爲リ現代ノ戦争ハ生物學的利益ヲ喪失シ殊ニ一般徵兵制ハ却テ適者ヲ害ス其理由左ノ如シ

イ 戦争ハ劣等ナル病者不具者狂者等ヲ保護シ是等人間ノ生命保険タリト雖心身共ニ强健ナル立派ナル男子即チ國民ノ優良分子ヲ滅亡セシム蓋シ方今ノ大國民戰ニ於テハ國家ノ有スル男子中年齡並心身上相當ニ活動能力ヲ有スル者ハ總テ戰場ニ於テ戰ヒ其大部若ハ有力ナル部分或ハ戰死シ又ハ戰傷病氣等ノ結果不具癡疾者ト爲ルニ反シ平時自由ナル競争場裡ニ於テハ到底角逐ニ堪ヘサル精神的肉體的の不具者ノ一團ハ戦争ニ際會スルヤ即チ國內ニ殘留シテ多大ノ收入ヲ貪リ事實上ノ劣等者カ戦争ノ爲莫大ナル利益ヲ得是ヲ以テ健全分子カ縱ヒ無傷ニテ戰場ヨリ歸來ストモ其經濟的打撃ハ甚大ナリトス

ロ 戦争ハ道德的優良分子ヲ殺シ惡人ヲ保護ス

各國共ニ囚人ハ軍役ニ就カス又卑怯狡猾ナル者ハ有ユル手段ヲ盡シテ當局者ヲ誤魔化シ或ハ國內ニ潜伏殘留シ又ハ後方無難ノ勤務ニ就カンコトヲ圖リ戰場ニ在ル者ト雖或ハ脱走逃亡シ甚シキハ國外ニ赴キ又ハ敵側ニ走リテ俘虜ト爲リ生存ス此事ハ世界大戰ニ於ケル露佛埃伊英獨何レノ國軍ニ於テモ經驗セラレタル事實ニシテ何人ト雖否認スル能ハス之ニ反シ勇敢ニシテ聰明ナル人間ハ戰場ニ於テ困難且危險ナル任務ニ使用セラレ其大部少クトモ有力ナル部分ハ陣歿シ又ハ戰傷ノ結果不具癡疾ト爲ルヲ免ルル能ハス是等ノ優良分子ハ勿論危險ヲ避クル能力ヲ有スト雖方今ノ如ク廣大ナル戰場カ到ル處彈丸雨中ノ修羅場ト化スルニ於テ其能力亦大ナル效用ヲ爲サス戦争ノ永續ト共ニ其交戰國民ハ劣等者ノミト爲ルヘク露國及獨國ノ革命大露軍ノ崩壞等ハ何レモ國民ノ優良分子ノ陣歿シ又ハ癡兵ト爲リタルニ乘シ不良分子カ擡頭シタルニ因ラスンハアラス

ハ 戦争ハ子孫ヲ劣惡タラシム

國內ニハ勿論優良分子ノ若干モ殘留スト雖方今ノ制度ニ於テハ概シテ言ヘ

ハ心身優良ナル者ハ戰場ニ赴キ否ラサル者殘留スルコトトナル即チ此殘留セル國民ノ劣等分子カ將來ノ國民ヲ生ムコトトナルヲ以テ其子孫ハ劣惡者タラサルヲ得ス特ニ征服者ノ大軍ハ概シテ敵地ニ在ルニ於テ然リ一方自國內ニ敵ヲ引キ受ケタル國民ニ於テハ有力ナル戰場人種ニ依リ生マルル子孫ハ全體ノ極少部分ニ過キス戰捷民族カ戰敗民族ト婚嫁ヲ通スルハ交戦ノ關係ナカリシ以前ニ劣ルハ千八百七十年戰役前ニ於ケル獨佛兩國國民ノ婚媾ノ數カ當該戰役後ニ於ケルヨリモ多數ナリシ事實ニ徴スルモ明白ナリ民族ノ生理的進歩ハ戰爭ノ效果ニ依ラスシテ愛ト死トノ效果ナリ戰爭ハ勝者敗者ノ別ナク交戦當事者ノ肉體的性質ヲ劣惡ナラシム

戰爭カ積極的淘汰ヲ爲スト主張スル論者ノ說

戰爭ニ於テハ概シテ劣弱者敗亡ノ中ニ入り優强者勝存ノ中ニ殘ル茲ニ民族ノ積極的淘汰行ハル好戰國民タリシ「スバルタ」入ハ生理的ニ優越セル體格ヲ有シ土耳其人ノ體格ノ強壯ナルハ其戰闘立國ノ結果ナリ且戰爭ノ準備ノ爲ニ行ハルル國民訓練ハ筋骨ヲ鍛鍊シ體力ヲ強健ナラシメ規律節制ノ教養ヲ與フ

戰爭ニ於ケル勝者ハ獨リ生理上ノ優者タルノミナラス智能上ノ優者タラサルヘカラス即チ戰爭ノ淘汰ハ智識上ノ劣者ニ向ヒ其優者ハ殘存繁榮ス印度ニ於ケル英人「マダカスカル」ニ於ケル佛人等ノ勝利ハ即チ優等民族カ戰爭ニ於テ勝利ヲ得適者生存繁榮ノ理ヲ示スモノナリ佛人「マビエユ」ノ言ヘル「戰爭ハ弱者ヲ省除シ性格ヲ鞏固ニシ以テ人種ヲ改良スト」ノ說ハ眞ナリ

前記兩說ニ對スル批判

古代蠻人間ニ於ケル戰爭ノ勝敗ヲ決セシモノハ主トシテ生理的力ナリ而シテ古代戰爭ノ形式方法規模等ヨリ考フルモ戰爭カ人間ノ生理的實質ノ向上ニ寄與セシ所アリシハ兩論者ノ是認スル所ニシテ正當ナリト言フヘシ  
方今ノ戰爭ハ其形式方法規模等ニ於テ古代ノ其レト霄壤ノ差アルハ何人モ否ムヘカラサル事實ニシテ現今ノ戰爭ハ寧ロ生理的實質ヲ低下セシムルノ傾向ナシトセス世界大戰直後ニ於ケル獨佛兩國等ニ於テハ屈強ナル壯者ヲ見ルコト甚タ稀ナルニ反シ憐レナル廢兵ハ到ル處ニ徘徊セリ加フルニ戰時生活難ニ伴フ國民榮養ノ不良ハ一般國民ノ保健上ニ惡影響ヲ與ヘ大戰直後一二年間獨逸人ノ顔色

ハ一般ニ蒼白ニシテ特ニ兒童ニ於テ甚シカリキ此生活難ハ戰爭後ト雖某時期迄繼續シ男女風紀ノ紊亂、飲酒享樂ノ氣分ト相俟チテ健全ナル子孫ノ増殖ヲ妨ケ加フルニ惡疫ノ流行ヲ見ルコト鮮カラス(三十年戰役及世界大戰後共ニ然リ)彼上ノ關係ヨリシテ之ヲ觀ルモ方今ノ戰爭カ國民ノ生理的進歩ヲ招來スヘシト思考セラレス少クトモ戰爭後某期間ニ於テハ正ニ然リ況ンヤ世界大戰、三十年戰爭ノ如ク戰局永續セル戰爭ニ於テオヤ但シ戰爭ハ醫學、藥劑學、衛生學等ノ進歩ヲ促シ戰爭ニ基ク經驗亦頗ル貴重ナルモノアルヲ以テ戰役後某期間ヲ經過セハ彼上ノ學術經驗ノ效果現ハレ國民ノ保健榮養良好ト爲リ其生理的進歩ヲ促スコトナシト斷スルヲ得ス要スルニ方今戰爭ノ淘汰作用ハ概シテ國民ノ優強分子ニ向ヒテ行ハルルモノト言フヲ得ヘク戰爭間並戰爭直後ニ生レタル者ノ體格ノ概シテ不良ナルハ古來幾多ノ戰爭之ヲ立證ス唯之ヨリ推シテ戰爭ハ人類ノ生理的退歩ヲ促スモノナリト論斷スルハ過早ナルヘシ

## 第一節 戰爭ノ智能ニ及ホス作用

人類進化ノ大部分ハ體外ノ種々ノ器官ヲ使用シテ行ハルルモノニシテ其根源ハ實ニ腦ニ在リ換言スレハ人間ノ進化ハ腦ノ進化ニ從屬シ腦自身ハ或意味ニ於テ自由ニシテ自ラ獨立ノ發展ヲ爲ス可能性ヲ有ス生物學上人間ノ自由ト稱スルモノ即チ是ナリ

凡テ人間カ進化スヘキ時ニハ腦ノ進化ヲ促進セサルヘカラス戰爭ハ腦ニ如何ナル作用ヲ及ホスヤ是レ研究ヲ要スル重大問題ナリトス

動物中社會的動物ハ最モ頭腦ノ發達セルモノナリ抑社會的生活ヲ實行スル爲ニハ各個體ハ彼レノ意志ヲ表ハササルヘカラス即チ或種ノ相互理解ノ手段(言語)ヲ有スルヲ要ス而シテ彼レハ他ノ者ノ意志ヲ重シシ又他人ノ意志ヲ理解セサルハカラス即チ彼レハ「習フ力」ヲ具備スルヲ要ス言語ト理解ト習得力トカ發達進歩ノ根本要素ニシテ是等カ知性ヲ成形ス是ヲ以テ猿、海狸、象等ノ如キ社會的動物ハ肉食動物(肉食動物ハ食物ノミノ關係ヨリ論スレハ一般ニ草食動物ニ比シ賢キ理ナリ是レ動物ヲ食フ爲ニハ草ヲ食フヨリモ賢ナラサルヘカラスレハナリ)ニ比シ遙ニ發達セル頭腦ヲ有シ特ニ猿類ニ至リテハ習得摸倣ニ於テ異常ナル能力ヲ有シ



言語ヲ理解シ又一見發達不十分ナル言語ヲ有スルモノスラアリ肉食本能ハ叡智ヲ増加スト雖一方其以上ニ社會的本能ノ發達ヲ妨ケ叡智ノ發達進歩ヲ阻害スルコト頗ル大ナリ

「フーバー」(Huber)ハ眞實ナル戰爭ヲ行ヒ奴隸ヲ使役スル「アマゾン」産ノ蟻ヲ研究シ其退化ヲ發見シ「蟻」ニ於テ掠奪生活ハ勞働ヲ嫌惡セシメ寄生生活ニ入ラシメ多方面ナル叡智ヲ喪失セシムト論結セリ尙「マレー」人及「インヂアン」人ニ關スル某學者ノ研究ニ依レハ掠奪又ハ狩獵ヲ行フ民族ハ其五官良好ナラス叡智ノ發達幼稚ナリト云フ

戰爭ハ人間ノ社會的本能ニ反シ人間カ餘リ長ク戰爭ニ從事スルトキハ其精神ハ健全性ヲ失ヒ病的ト爲ルヲ免ルル能ハス此事實ハ歷史上ニモ明白ニ現ハレタル所ニシテ彼ノ「ハンニバル」ノ軍ハ數年間「スベイン」ニ於テ戰ヒ「アルプス」ヲ越エテ伊太利平野ニ進入シ第一年ハ戰勝ヲ以テ送り第二年ニハ「カンヌ」ノ大捷ヲ博シ「カプア」ニ於テ冬營セシカ此數年間ニ互ル幾多ノ戰鬪ノ結果軍中自ラ破壞作用行ハレ遂ニ「マーケルス」ノ鎧袖一觸ノラニ於テ慘敗スルニ至レリ「ナポレオン」第一世ノ末

期ニ於テ其軍力ノ衰微セルハ佛國ノ國力ノ疲弊軍需補給ノ困難新募未熟ノ兵ノ加ハレル事實等ニ基クニ相違ナキモ而モ他ノ有力ナル一原因ハ多年ノ戰爭カ皇帝「ナポレオン」始メ諸將軍ノ精神力ヲ衰頹セシメタルニ在リ彼ノ千八百十四年頃ニ至ルヤ奈翁モ神經過敏ト爲リ部下些細ノ過失ニ對シ憤怒嚴罰シ小捷ニ誇リ小蹉跌ニ憂悶シ小策ヲ弄スルニ至リ往時ノ精神上ノ均衡ハ喪失セラレタリ彼レノ部將ノ如キハ累進シテ既ニ元帥ト爲レル者多シト雖其軍隊統帥能力ハ著シク減退シ皇帝自身屢痛歎シタルコト史上ニ明ナル所ナリ「グロース」アスペルン「ニ於テ名將「ランヌ」カ其臨終ニ際シ奈翁ニ直言シタル事ハ今ヤ當ニ事實ト爲リテ現ハレタリ

某程度ノ戰爭ハ人間ヲ鍛鍊ス將士カ從軍シ或期間ノ後最高度ノ戰鬪能率ニ達スルハ總テノ戰史家ノ認ムル所ニシテ其期間ハ或ハ半年ト言ヒ又ハ一年ト稱セラレ然レトモ其期間ヲ過クルヤ戰爭ハ人間ノ精神ヲ破壞スルモノナルコト七年戰爭「ナポレオン」戰役北方戰爭「チャールス」十二世「世界大戰」ノ明證スル所タリ戰爭ハ多クノ潜在セル病根ヲ喚起シ神經ヲ刺激擾亂シ屢人間ヲ發狂ニ導ク又縱

ヒ發狂セサル迄モ夜眠ル能ハスシテ床上ニ煩悶シ又ハ睡リテ惡夢ニ襲ハレ平和人ノ信スヘカラサル程ニ興奮シ勇者モ些細ナル事ニ泣クニ至ル即チ人ハ自ラ自己ノ心ヲ制スル能ハサルニ至ル者尠カラス而シテ戦局ノ永續ニ伴ヒ戦争ノ恐怖ニ對スル苦惱ハ漸次深刻ニ心底ニ印刻セラル「ヒンデンブルグ」將軍カ「最強力ナル神經ヲ有スル者ニシテ最後ノ勝利ヲ得ヘシ」ト斷シタルハ千古ノ眞理ヲ道破セルモノト言フヘシ特ニ此等重大ナル精神的障礙ハ其人カ戰場ヨリ歸郷シ故郷ノ平和トノ對照ヲ體驗シタル時ニ勃發スルコト多ク歐洲大戰末期ニ於テハ一度歸郷シタル者ニシテ逃亡潛伏スル者莫大ノ數ニ達シ各國當局者ハ精々歸休期間ヲ短縮スルコトニ努メタリ

彼ノ「ハンニバル」軍ノ懦弱ト爲リシハ「カプア」ニ於ケル安逸ナル冬營ノ爲ニアラス其根本原因ハ數年ニ互レル幾多ノ交戦ニシテ冬營ハ即チ最近大戰時ニ於ケル歸休ト同様ノ作用ヲ爲シタルニ過キス要スルニ戦争ハ交戦者ノ腦ノ爲強壯劑ト爲ラスシテ衰弱劑ト爲リ交戦久シキニ互レハ頭腦ヲ鈍ラシメ精神力ヲ衰弱セシムルコト事實ニシテ特ニ方今ノ戦争ニ於テハ國家ノ全力ヲ傾倒スルヲ以テ戦局永

續ト共ニ國民生活益々逼迫シ一般國民ト雖生活難近親ノ不幸戰地ヨリ來ル報導等ヨリ益々神經ヲ刺激セラレ過度ノ勞働榮養ノ不良ト相俟チテ腦ニ惡作用ヲ受クルコト必然ナリ

是ヲ以テ概言スレハ戦争ハ一般人間ノ叡智ヲ一時低下セシメ且智能ノ活動ヲ制限スルモノト言フヲ得ヘシ然レトモ茲ニ注意スヘキハ一般人民ノ智能ノ一時ノ低下ハ必スシモ人文ノ退化ヲ意味スルモノニアラサルコト及或ル種ノ智的作用ハ却テ戦争ノ爲向上スルコトニシテ人間言語ノ發達ハ戦争ニ負フ所大ナリト稱セラル人間叡智ノ一時ノ停頓低下ハ他日ノ飛躍向上ノ準備タルコト尠カラサルノミナラス文明及文化進歩ノ原動力ハ人間ノ集團ニアラスシテ天才ニ在リ數百萬乃至數千萬ノ人間ノ叡智ハ縱ヒ若干低下スルモ「ニュートン」「カント」ヲ生メハ文明進歩ノ爲遙ニ有利ナルハ前編ニ於テ述ヘタル所ノ如シ而シテ戦争ハ一般民人ノ智能ヲ一時低下セシムルモ偉人天才ヲ生ムハ古今ノ歴史ノ證明スル所ナリトス

戦時ハ直接戦争ニ關係ナキ方面ハ閑却セラレ易キモ戦争ニ關係アル事項ハ全力

ヲ盡シテ討究鍊磨セララルヲ以テ人生或ル種ノ智能ハ發達向上セラレ幾多ノ發明行ハレ戰後ニ於ケル文明開展ノ素地ヲ作ル戰爭ノ爲發達スル人間ノ智能ハ概ネ左ノ如シ

一 組織及運用能力

方今ノ大國民戰ヲ實施スル爲ニハ幾千萬ノ人間ト國家ノ利用シ得ヘキ總資源トヲ最モ適切ニ之ヲ組織シ運用セサルヘカラス而シテ戰爭ハ國民死活ノ關スル所ナルヲ以テ交戰國民ハ全力ヲ盡シテ組織法、運用法ヲ研究鍛鍊スル結果此種能力ノ發達ヲ促ス世界大戰ハ實ニ敍上ノ事實ヲ立證シ國家總動員ノ如キ即チ其一大產物タラスンハアラス

二 軍用技術ニ關スル諸種ノ發明進歩

軍用技術ハ平和的諸技術ト連繫ヲ有スルヲ以テ軍用技術ノ進歩ハ延イテ平和的諸技術ノ進歩ヲ促ス

三 或ル種ノ科學ノ發達

醫學、衛生學殊ニ外科醫學ノ進歩ヲ促ス千八百五十七年乃至千八百七十七年間

歐洲ニ於ケル醫學就中外科ノ發達ハ當時戰爭ノ相繼續セル結果ナリト稱セラ  
ル「グスターフ、ル、ボン」氏ハ心理學ノ如キ從來理論ニノミ偏シ易キ科學ハ戰爭ノ  
經驗ニ依リ一層適確ナル根據ヲ得ト言明セリ  
其他物理、化學、冶金、鍛工、造船、建築、航空等ノ科學モ亦戰爭ノ爲其進歩ヲ見ルコト  
アリ

四 或ル種ノ藝術ノ進歩

戰爭ハ淫靡懦弱ナル文學藝術ヲ一掃シ剛健清新ナル文學藝術ヲ興スニ有效ナ  
リ「ナポレオン」戰後ノ普國ノ如キ正ニ然リトス武器ノ裝飾カ古代人間ノ美術ノ  
衝動タリ造型美術ノ始原タリシ徵史上ニ明ナル所ニシテ古代大戰爭ノ後ニ於  
テ大美術ノ作興ヲ見タル例亦尠カラス波斯戰爭後ノ「アテネ」美術ノ勃興ニ於ケ  
ル「ナポレオン」戰役後ノ佛國美術ニ於ケル皆其例ナリ

但シ歐洲大戰ノ初期獨逸當局者ハ多數ノ畫家ヲ戰場ニ招致シ戰爭ノ現出スル  
偉大ナル光景ニ接シ之ヲ描ク爲多大ノ利便ヲ與ヘシカ藝術的方面ノ進歩ニハ  
大ナル效果ナカリシト云フ「リュエスト」曰ク「戰爭ハ藝術ト學問ト德トヲ促進セ

シムト之ニ反シ「マース」(軍神)ハ「ムーゼ」(美ノ神)ノ敵ナリト言フ者アリ要スルニ戰爭ハ少クトモ古代ニ於テハ美的ニシテ本邦往昔ノ戰鬥ノ如キ特ニ然リ「エーリッヒ」シユミットハ曰ク「獨逸語ヲ傷クルノミナリシ「フリードリッヒ」大王ハ七年戰爭ヲ以テ同時ニ獨逸文學ヲ創造セリト

以上ハ戰爭ノ人間智能上ニ及ホス良作用ナリト雖而モ此良作用ニモ自ラ一定ノ限度アリ故ニ戰爭カ或ル程度ヲ越エテ永續セハ前記ノ良作用モ惡作用ニ變スルコトナシトセス

戰爭ノ人間智能ノ開展増進上ニ與フル效果中見逃スヘカラサルハ各民族ノ文化ノ融合統整調和促進ヲ爲ス作用ニシテ特ニ古代ノ戰爭ニ於テ然リトスアレクサ「ンダー」大王ノ遠征カ東西文化ノ融合移植希臘文化ノ發展ニ寄與セシ所大ナリシハ史上ニ明ナル所ニシテ大王ハ波斯ノ朝禮ヲ採用シ波斯風俗ヲ輸入シ且東西諸種ノ宗教ヲ統一シ權威アル宗教ヲ創設セント企テシカ此最後ノ企圖ハ成功ヲ見ルニ至ラサリシト雖基督教出現ノ一動機ヲ爲シタルハ否ムヘカラス  
十字軍戰役カ「アラビア」及東洋文化ヲ歐洲ニ輸入シ以テ文藝復興ヲ促進シ其文藝

復興カ宗教改革ノ導因ト爲リ燦然タル歐洲文明發現ノ素因ヲ爲シタルハ世間周知ノ事實ナリトス人或ハ曰ク「戰爭ニ於テハ暴力蠻勇勝ヲ制シ賢者文明人葬ラルルヲ以テ戰爭ハ文明及文化ヲ破壊シ滅亡セシム」ト然レトモ人生ノ歴史ヲ審ニ檢スレハ蠻人カ文明人、文化人ヲ征服シタルコトモアレハ又文明人、文化人カ蠻人ヲ征服シタルコトモアリ勝者必スシモ蠻勇民族ニアラス敗者必スシモ文化人ニアラス特ニ戰爭ノ進化ト共ニ文明ヲ戰爭ニ利用スルコト益、必要トナルニ於テ然ルトス且夫レ人生ノ某時期某局處ニ於テハ武力ヲ以テ征服セラレタル文化人カ却テ文化ヲ以テ征服者タル未開人ヲ征服シタル事實存在ス漢人種ノ北狄ニ對スル實例ノ如キ即チ是ナリ故ニ文化人カ征服セラレ敗者タルコトハ必スシモ文化ノ没落ヲ意味スルモノニアラス加之文明人、文化人カ未開人ヲ征服シ其文明ヲ移植シタルハ米大陸及「アフリカ」ニ於ケル歐洲人ノ例ニ觀ルモ明白ナリトス此ノ如ク觀シ來レハ「戰爭ハ決シテ文明、文化ヲ破壊没落セシムルモノニアラスト言フヲ得ヘク戰爭ニ因リテ滅ホサル文明、文化ハ即チ似而非文明、似而非文化又ハ病的文化ニアラサルコトヲ誰カ保證シ得ル者ソ

近代ノ大戰爭カ幾多ノ學者、技術者、藝術家ヲ滅ホスハ事實ナリ然レトモ前ニモ述ヘタル如ク文明及文化ノ進歩退化ハ彼上ノ人間ノ數ニ關スルモノニアラス之ヲ要スルニ戰爭ハ一時一般人ノ智能ニ暗影ヲ投シ其悟性ヲ曇ラシメ且其活動ヲ或ル範圍ニ局限シ感情ノ交感神秘的觀念ノ勃興ハ理性ノ光ヲ滅殺スト雖特種ノ人物(天才)及特種ノ智能ハ却テ其光彩ヲ發揮シ平時ニ於テ見ルヘカラサル發達ヲ遂ケ以テ文明及文化開展ノ素地ヲ作り人文進歩ノ動機ト爲ルコト尠カラズ「ペルシヤ」戰爭ハ希臘文化ヲ極度ニ發達セシメ「フイヒテ」「シエーリング」「ヘーゲル」等ノ理想哲學ハ精神力ヲ最モ緊張セシメタル解放戰爭ニ因リテ發生シタリト稱セラレ古昔羅馬國ニシテ若シ攻略ヲ行ハサリシナラハ歐洲文化ノ發展ニ強大不朽ノ衝力ヲ與フルヲ得サリシナラント傳ヘラル「ブルーム」戰略論參照

人文ノ開展上智能ノ進歩カ戰爭ニ負フ所ハ古代ニ大ニ近世ニ小ナリト説ク者アリ然リ原始民族ハ戰爭ノ如キ強烈ナル刺激アルニアラサレハ其智能的活動活動ナル能ハサルハ眞理ニシテ「ブッシュ」種族等ノ依然原始的的文化ニ止ルハ戰爭ナキカ爲ナリ「グント」民族心理學然レトモ第十九世紀ハ大戰爭ノ最モ頻繁ニ行ハレ

タル時代ナルニ拘ラス人間ノ智能的活動最モ盛ニシテ前代未聞ノ文明ノ進歩ヲ見タルコトヲ忘ルヘカラス

### 第三節 戰爭ノ人間ノ情意及神秘的觀念ニ及ホス作用

本作用ハ他ノ作用ノ如ク戰後ニ永ク其影響ヲ及ホスモノニアラス主トシテ戰時及戰爭直後ニ互リ發現スルモノナリ戰爭ハ概シテ人間ノ悟性ヲ鈍ラスニ反シ感情ヲシテ益、銳敏アラシメ且神秘的觀念勃起ノ機會ヲ多カラシム以下逐次其主要ナルモノニ關シ説述セントス

#### 一 戰爭ト個性

今ヤ戰爭ハ進化シテ大國民戰ノ形式ヲ採リ舉國起テ敵ニ當リ國民各員ノ心底深ク藏セラレタル傳統的民族精神茲ニ活躍ヲ始メ個人ノ利己的感情ヲ壓伏シ民族ノ利害ノ爲ニ個人ヲ犧牲タラシム此事實ハ世界大戰ニ於ケル英國、佛國等ノ示

セル所ニシテ縦ヒ戰役末期ニ於テハ彼ノ破綻渦亂ヲ生シタリト雖開戰當初ニ於ケル露國獨國ノ實情亦前陳ノ原理ヲ證明セリ

加之戰時個性ハ一層強ク群集心理ノ支配ヲ受クルヲ以テ茲ニ個性沒却セラレ易ク人ハ無主義無批判無反省ト爲リ客觀性及個性ノ確乎タル信念ヲ失フニ至ルコト多シ是ニ於テカ人間ハ皆同一ノ假面ヲ冠リシ如ク似來リ戰爭ハ茲ニ萬人ノ「整平者」ト爲ル即チ詩人ノ個性モ失セ政治家ノ個性モ影ヲ潛メ「カイゼル」ノ言ヘル如ク「最早ヤ何等ノ政黨モ存在セサル」是ハ聊カ形容ニ過クルモニ至ル勿論國民ノ全部カ然リト言フコト能ハサルモ其大半ハ正ニ然リトス此結果ハ卓越ナル指導者ニ全然信賴シテ其意ノ如クニ動キ強大ナル集團威力ヲ發揮スルト共ニ一旦其指導者ヲ失フカ又ハ大變動ニ逢遭スルヤ容易ニ根據ナキ流言ニ惑ハサレ理由ナキ宣傳ニ乘セラレ易シ平時個人ハ客觀性ニ富ミ批判ニ長スルヲ以テ縦ヒ偉人アリト雖人ハ冷靜ニ其長短兩面ヲ觀各人其所見ニ從ヒテ之ヲ批判シ其偉ナル點ヲ認ムルト共ニ又反面ノ缺陷ヲモ發見スルヲ以テ全然偉人ニ信賴シ渴仰ノ中心ト爲シ心身ヲ委ヌルヲ得ス平時偉人ノ傑出スル能ハサル所以實ニ此ニ在リ然ルニ戰

時又ハ革命ノ如キ大事變ニ際スルヤ敍上ノ民衆心理ハ偉人ヲ更ニ偉大化シ忽然トシテ大勢力ヲ有スル英雄ヲ生ムニ至ル「ナポレオン」一世ノ如キ「レニン」ノ如キ即チ前述ノ民衆心理ノ生ミタル一大產物タラスンハアラス即チ戰爭ハ個性ヲ破壊スルト共ニ偉大ナル個性ヲ發展完成セシムルモノト謂フヘシ

戰時ニ於ケル宣傳ノ效力ノ平時ニ比シ遙ニ偉大ナルコトモ亦敍上ノ理由ニ基クモノニシテ戰時革命ノ勃發シ易キ所以此ニ在リ千九百十八年獨國革命ハ即チ這般ノ消息ヲ傳フルモノナリ

## 一一 國民的自己中心主義

音樂會ニ於テ人ハ演奏者タルカ又ハ聽手タルカニ在リ絞罪ノ時ハ絞首者タルカ又ハ絞首セララル罪人タルカニ在リ然ルニ戰爭ニ於テハ人ハ撃チツ撃タレツスル者ト爲リ同一人間カ戰爭ノ主體ニシテ同時ニ客體ト爲ル即チ人ハ二重ノ立場ニ置カルルモノニシテ國民亦然リトス

「カント」ノ言ヘル如ク主體及客體ヲ同時ニ考フルコトハ不可能ナリ是ニ於テカ一

般的自己中心主義(利己主義ニアラス)ハ戰爭ノ爲ニ非常ニ強烈ト爲リ自己及自國民ヲ價值アリ且正義者ニシテ敵ハ無價值且不正義ナル者ト信シ縦ヒ敵ノ行爲ニ相當ノ理由アリ申分アルニシテモ之ヲ認容シ理解シ其意ヲ酌ムコト能ハス國民ハ Chauvinisme ニ酔ヒ國民的誇大妄想ヲ生シ戰爭勃發ト同時ニ總テノ敵ハ悉ク一躍惡人ト爲リ自國民及其同盟國民ハ一切善人ト化ス加フルニ敵愾心憎惡ノ感情之ニ加ハリ諸種ノ宣傳行ハルル結果國民ハ正當ニ且冷靜ニ敵ノ價值敵ノ心理ヲ理解スル能ハス講和交渉ヲ開始スルノ時機ノ捕捉及其條件ノ決定等ノ至難ナル理由實ニ此ニ存ス

世界大戰ニ於テハ交戰各國共ニ對内及對外宣傳ニ腐心シ各種ノ宣傳行ハレタルハ周知ノ事實ニシテ彼上ノ交戰者心理ニ此宣傳ノ加ハリタル爲各對手國ノ眞意ヲ捕捉スル能ハス且猜シ且疑ヒ遂ニ戰局ノ永續ヲ見ルニ至レリ特ニ中央同盟側ニ於テ此感ヲ深カラシム即チ戰爭諸資源ノ總量ニ於テ到底聯合國ニ及ハサルノミナラス經濟外交宣傳戰總テニ於テ全然包圍圈内ニ陥リシ中央同盟側トシテハ成ルヘク速ニ戰局ヲ切り上クルコトニ著意シ此大方針ノ下ニ軍事的努力ヲ爲ス

ト同時ニ外交的努力ヲ爲ササルヘカラサリシナリ然ルニ遂ニ適當ナル時機ニ於テ戰局ヲ切り上クルコト能ハサリシモノ實ニ彼上ノ心理ニ基クモノト謂フヘシ「ルーデンドルフ」將軍ハ所謂妥協平和論者ヲ痛罵シ此種ノ徒ハ大戰ノ本質ヲ辨ヘス敵ノ心理ヲ解セサル者ニシテ歐洲大戰ハ彼倒ルルカ我倒ルルカニ依リテノミ決セラルヘク妥協平和ニ耳ヲ藉シタル者ハ即チ敵ノ陷穽ニ陥リタル者ナリト論結セリ或ハ然ラン何レニシテモ一事ノ疑フヘカラサルモノハ妥協平和論者カ又ハ軍事當局者カ何レカ敵ノ心理ヲ解スル能ハサリシカ爲獨逸ヲ彼ノ慘敗ニ導キタルコト是ナリ

### 三 殘忍化ト人命輕視

戰爭ハ人間ヲ粗暴ナラシメ且殘虐化スルコトハ古來ノ戰史ノ明證スル所ニシテ人間ノ「デリケート」ナル諸種ノ情緒ヲ消滅又ハ滅殺ス「スタインメッツ」ハ「戰爭ハ概ネ之ニ從事スル者ノ情操生活ニ野蠻的影響ヲ與フ」ト思惟セリ  
彼上ノ影響ハ戰爭後ニ於テモ或ル期間殘存シ最モ注目スヘキ作用ハ人命ノ輕視

ニ在リ即チ我カ生命ヲ輕ニスルト共ニ他人ノ生命ヲ輕視スルノ習慣ヲ馴致シ其結果動モスレハ道德ノ根本ヲ動搖セシムルニ至ルコトナシトセス蓋シ道德ノ根本ハ「人」ノ尊重ニ在リ而シテ「人」ノ尊重ト人命ノ尊重トハ常ニ必スシモ同シカラスト雖人命輕視ノ勢ハ人ヲ驅テ「人間輕視」ノ傾向ニ導キ易シ「カント」カ人間ノ尊嚴ヲ盾トシテ戰爭ニ反對スル所以實ニ此ニ存ス

「フオン、ホルランダー」ハ一年半戰爭ニ從事シテ曰ク「戰爭ハ我々ノ故郷トナリ本職ト爲レリ軍隊ハ國民ト懸ケ離レタル別種ノ民衆ナリ非常ナル事カ月次ト爲リ平時狂氣トカ迷妄トカ言ヒタル事ハ戰爭ニ於テ日常ノ茶飯事ト爲レリ」ト

戰爭ニ依ル人間ノ殘忍化ヲ最モ明瞭ニ語ルモノハ凡テノ戰爭後ニ於テ現ハルル暴行罪ノ増加ニシテ千八百七十年七十一一年戰後ニ於ケル獨逸之ヲ證明シ最モ冷靜穩和ヲ以テ聞エシ英帝國議會モ世界大戰後ニ於テハ未曾有ノ騷擾ヲ惹起シタリ世界カ有史以來類例ナキ文明ノ域ニ達シタル時ニ起レル這般ノ大戰ニ於テハ非常ナル殘忍性發揮セラレ大戰間ニ起リタル露國「ボリシエウイック」革命ハ「フランス」革命以上ノ慘事ヲ現出セシメタリ

抑、世界大戰間ニ於ケル殘忍行爲ハ彼我ノ宣傳ノ爲一層激成セラレタルコトハ識者ノ認ムル所ニシテ彼我國民ノ敵愾心ヲ陵り敵ニ責任ヲ轉嫁セントスル目的ヲ以テ敵ノ殘忍行爲ヲ針小棒大ニ誇張宣傳シ又ハ故意ニ捏造シテ言ヒ振ラシタル結果無識ノ兵士、國民共ニ敵ニ對スル憎惡心ヲ増大シ蠻行ヲ多カラシメタルハ事實ナリ此點ニ關シ政府當局特ニ言論機關ノ責任大ナリト言ハサルヘカラス大戰後ニ於ケル歐洲人ハ口ヲ揃ヘテ日露戰爭ノ人道的ナリシヲ賞讚シ特ニ露西亞人、波蘭人等ニ於テ然リトス

#### 四 戰爭ト人間ノ破壞的性質

戰爭ハ必スシモ破壞ノミニアラズ破壞ト同時ニ建設ノ作用ヲ爲スハ明白ナリ然レトモ戰爭ノ破壞作用ハ頗ル大ナルモノアリ故ニ戰爭ハ不知不識ノ間ニ人間ノ破壞的性質ヲ増長セシメ人命ヲ輕視シ財產ヲ輕視シ道德及制度ヲモ輕視シテ遂ニ大革命ヲ起スニ至ルコトアルハ露國革命、獨逸革命等ノ例ニ觀ルモ明白ナリ「ボリシエウイック」ハ其主義ノ本質ニ於テ破壞的ナルハ論ヲ待タサル所ナリト雖若シ



「ボリシエウイック」革命カ平時ニ於テ起リタリトセハ彼ノ如キ悲惨ナル大破壊ハ行ハレサリシナラン當時露國民ノ爲シタル大破壊作用ハ即チ露國國民性及「ボリシエウイック」並戰時國民ノ心理ニ基因スルモノト言フヘシ

方今ノ戰爭ハ嘗ニ敵軍ヲ破壊スルヲ以テ足レリトセス敵國ヲ破壊センカ爲ニ大ナル努力ヲ敢行セサルヘカラス世界大戰ニ於テモ彼我此目的ノ爲ニ大ニ力ヲ盡シ獨逸當局ノ如キハ其主義ト全然正反對ナル主義ヲ有スル人物即チ「レニン」「ケースメント」(愛爾舉兵ノ中心人物)ヲ友トシ敵國ノ破壊ノ爲ニ利用シ其目的ハ露國ニ對シ完全ニ達成セラレタリ敵國ニ對シ適用スル破壊的手段ハ不知不識ノ間ニ自國民ヲ毒シ敵國民ノ破壊作用ハ自國民ニ感染スルコトナシトセス獨逸ニ於ケル革命ノ如キ即チ其好例ナリトス方今獨逸ニ於ケル達識ノ士ハ嘆シテ曰ク「獨逸國民ハ未タ曾テ千九百十四年開戰當時ノ如ク協同一致ノ美德ヲ發揮シタルコトナク又今日ノ如ク(戰役末期ヨリ戰爭後ニ互リ)一致セサルコト未タ曾テ有ラサリキ」ト蓋シ戰爭ノ破壊作用ハ戰爭自ラノ振起助長セシメタル犠牲心協同心奉公心等ニ迄モ及フコトアルヲ語ルモノタラスンハアラス

## 五 戰爭ト本能

元來戰爭ハ人間ヨリ其假面粉飾虚禮體裁等ヲ剝キ去リ人間ヲシテ赤裸々タラシムルモノナリ故ニ眞面目ナル點ニ於テ戰爭ノ上ニ出ツルモノナシ戰爭ニ方リ人ハ單ニ粉飾虚禮體裁等文明ノ假面ヲ脱キ棄ツルノミナラス道德的拘束力ヨリ脱出シ本能ニ歸ラントスル傾向ヲ生ス是レ戰爭ニ際シテハ俄然トシテ人間ノ本能ノ擡頭スル所以ナリ

抑、生死ヲ決スル場合人ハ手段ヲ擇ハス行動スルヲ常トシ而シテ最モ容易且迅速ニ人ノ行爲ノ衝動ト爲ルモノハ實ニ本能ナリトス

彼ノ「フランス革命」ハ「自由」「平等」「友愛」ノ理想ニ因リテ起リタリト雖事實之ヲ實行スルニ方リテハ人ハ大規模ナル殺人本能ヲ發揮シ革命ノ理想ト全然相容レサル慘事ヲ現出セシメタリ千九百十七年初春露國ノ「ミリュエーコフ」「ロヂヤンコ」一派カ中心ト爲リテ行ヒタル革命カ是等人士ノ期待ヲ裏切り遂ニ「ボリシエウイック」革命ニ進展シ又其「ボリシエウイック」革命カ其頭首「レニン」等ノ期待ト全然反對ノ現象ヲ誘致

シ「レニン」ヲシテ「ボリシエウイズム」ノ敵ハ所謂「ボリシエウイツク」ノ徒輩ナリト絶叫セシムルニ至リタリ今日達識ナル學者ハ冷靜ニ過去ヲ顧ミ評シテ曰ク「露國ノ三月革命カ「ボリシエウイツク」革命ト爲リ「ボリシエウイツク」革命カ彼ノ慘事ニ導キタルハ人間ノ心理竝生物學上自然ノ歸結ニシテ此自然的推移ヲ未然ニ洞察達觀シ得サリシ點ニ於テ「ミリユーコフ」モ「レニン」モ共ニ同罪ナリト要スルニ戰爭又ハ革命等ノ大事變ニ際シテハ之ヲ始メタル者ノ理想目的ノ如何ニ論ナク之ニ參加シ之ヲ實行スル群集ハ其本能ヲ發揮シ其理想目的ト全然相反スル行動ニ出ツルコトアルハ特ニ注目ヲ要スル所ナリトス或ハ「正義人道」ヲ標榜シ又ハ「文化ノ擁護」ヲ旗幟トシテ行ハレタル世界大戰カ彼ノ慘事ヲ示シタルノ理亦此ニ存ス

## 六 戰爭ト神秘的觀念

戰爭ハ人間ノ死生ヲ決シ國民ノ興亡ヲ定ムル大事變ナルヲ以テ人ハ或ハ超人的ノ力ニ頼ラントシ又ハ科學哲學ノ教フル範圍外ノ理ヲ信セントスル傾向ヲ生ス即チ人間ノ胸奥ニ秘藏セラレタル神秘的觀念忽然トシテ活躍シ來ル古來明將ハ

人ノ此神秘的觀念ノ利用ニ勉メ織田信長ノ桶狹間戰鬪前熱田神宮ニ於ケル新田義貞ノ鎌倉攻撃ノ際稻村崎ニ於ケル皆其例ナリ千八百五年十二月二日「アウステルリッツ」ニ於ケル燦然タル旭光ニ鑑ミ爾來佛軍カ好日和ヲ以テ戰勝ノ前兆トシ所謂「アウステルリッツ」ノ大陽ノ語ヲ生シタルモ亦這般ノ心理ニ基クモノタラスンハアラス

「ボリシエウイツク」ノ徒ハ極端ナル唯物論ヲ主張シ既往ノ宗教ヲ認メス寺院、教會、僧侶等ニ對シ侮蔑虐待到ラサルナカリシト雖而モ民衆ノ宗教心ハ却テ勃興シタルノ事實アリ是レ大戰並大革命ニ刺激セラレタル民衆ノ心理的傾向ヲ語ルモノニアラスシテ何ソヤ戰爭革命等ノ大事變ニ際シテハ人ハ餘リニ其力ノ微弱ナルヲ直感スルカ如ク神秘的觀念茲ニ勃起シ民衆ノ此心理的傾向ニ乘シ諸種ノ迷信邪教カ其勢力ヲ逞ウスルニ至ルコト無シトセス

心理學者ノ中ニハ音樂、ダンス、酒等ノ人間ノ神秘的觀念ヲ満足セシムル作用ハ宗教ト同一ナリト論シ大戰後歐米ニ於ケル音樂、飲酒、ダンス等ノ流行ヲ以テ人間ノ神秘的要求ノ發現ニ外ナラスト言フ者アリ

#### 第四節 戰爭ノ道德ニ及ホス作用

古來戰爭ノ是非ニ關スル所論ノ主要ナル分歧點ハ實ニ戰爭ノ道德上ニ及ホス作用ニ對スル見解ノ相違ニ在リ即チ戰爭ヲ呪フ者ノ多クハ戰爭カ道德ヲ頽廢蹂躪スルモノト看做シ戰爭ヲ讚美スル者ノ多クハ戰爭ハ道德ヲ向上振起スルモノナリトノ見解ニ立脚ス

「スタインメッツ」ハ其著「戰爭哲學」第六卷ニ記シテ曰ク「各人ハ戰爭ヲ第一位ノ不道德的因子ト看做ササルヘカラス交戦ハ概ネ交戦者ノ情操生活ニ野蠻的影響ヲ與フ」ト「テオドールカール」博士ハ其著「戰爭ノ意義」ニ就テ「ニ敍シテ曰ク「戰爭ハ道德ノ根本タル人間ノ自覺心ヲ低下セシム」ト「ウォルテール」ハ「戰爭ハ奸惡ト暴虐ト盜掠トヲ極端ノ程度ニ結合セル作業ナリ」ト言ヒ「モンテイニ」ハ「戰爭ハ人々相殺ス作業ノ謂ナリ人類自個ヲ絶滅スル作業ノ謂ナリ是レ實ニ禽獸ニモアルマシキ事ナラスヤ」ト唱ヘ「ジラルダン」ハ「戰爭ハ殺人強盜ナリ政府カ人民ニ命シ人民ニ教ヘテ爲サシムル所ノ殺人強盜ナリ」ト叫ヘリ之ニ反シ「戰爭讚美者」ノ立言ヲ舉クレハ左ノ如シ

「キユルペ」 戰爭ハ個人主義、利己主義、功利主義及自然主義ニ對スル有力ナル說教者ナリ

「モルトケ」 戰爭ナクンハ世界ハ物質主義ニ墮落スヘシ戰爭ハ幾多重要ナル人間の社會的德義ヲ生産シ且促進ス人間ノ高貴ナル德義即チ勇氣、義務觀念、獻身の犧牲心等ハ戰爭ニ由リテ開展ス

「ラツソン」 力萎微シ氣力沈滞シ精神退嬰セル社會ノ無限ナル逸樂ノ爲ニ國家及一切ノ理想的福利ハ沒落スルニ至ル狹小ナル意向又ハ俗物的感情ハ徐々ナレトモ確實ニ人生ノ道義的建物ヲ覆滅セシム

「グイウエス」 戰爭ハ實ニ和合ノ促進者ナリ

「グスターフ、ル、ボン」 歐洲大戰ハ佛國人ノ精力、勇氣、冷靜、服從、忍耐、犧牲的奉公心、努力ノ繼續等ノ諸德ヲ發達セシメタリ

前述諸家ノ立言ハ何レモ一面ノ真理ヲ語ルモノニシテ戰爭ハ一面ニ於テ或ル種ノ德ヲ振興發展セシムルト同時ニ他面ニ於テ某種ノ惡德ヲ助長セシムルコト歴史ノ明證スル所タリ

抑、道德的善惡ノ影響ヲ計量スル尺度ナキノミナラス其計量法モ亦有形の影響ノ其レト同シカラサルヲ以テ人ハ適確ニ之ヲ較量スルコト困難ニシテ單ニ各々自己ノ尺度ヲ以テ計量シ又ハ感覺ヲ以テ其見解ヲ定メ漠然ト之ヲ概言スルニ過キス客觀的ニ公正ニ判斷スレハ戰爭ハ一方ニ於テ教育者、說教者、裁判官、懲戒者トシテ作用シ或ル種ノ道德ヲ向上振起シ他方ニ於テハ有害ナル惡德ヲ助長セシメ或ル種ノ道德ヲ破壊スルモノト言フヘク其影響ノ善惡及程度ハ戰爭ノ行ハルル時代、戰爭ノ繼續年限、交戰方法、交戰國民ノ境遇等諸種ノ關係ニ依リテ異ナルモノトス近代ノ戰爭ト往古ノ戰爭トヲ比較シ戰爭ノ人生特ニ道德ニ及ホス影響ハ往昔ノ戰爭ニ於テ比較的良好ナリシト唱フル學者アルモ直ニ之ヲ信スヘカラス何トナレハ同一程度ノモノニシテモ年代ヲ隔ツルコト大ナルニ從ヒ異様ニ見ユルハ免ルヘカラサル所ニシテ此ノ如キ形而上ノ事項ノ比較較量ハ到底精確ヲ期スヘカラサルハ明白ナレハナリ同一戰爭モ國民ノ境遇ニ應シ之ニ與フル道德的影響同シカラス即チ世界大戰ノ獨、奧國民ニ與ヘシ道義的影響ト英、佛國民ニ與ヘシ其レトノ間ニハ大ナル運庭ノ存在スルコトハ否ムヘカラス

戰爭呪咀者タル、ゲオルグ、エフ、ニコライ博士曰ク「戰爭ニ於テハ道德的偉大ナル行爲ト下劣ナル行爲トハ相共ニ行ハル參戰者カ戰爭ニ因リテ益、道德ノ力ヲ得ルカ又ハ益、不仁ト爲ルカハ恐ラク夫々ノ人格ニ由ルナラン」ト「テオドール、カール」博士ハ「自由ハ精神界ヲ支配ス個々ノ人ハ戰爭カ意識の鮮明ノ發達ヲ促進スルヤ將タ又妨碍スルヤヲ自由ニ決定スト論セリ

永續スル戰爭カ短期ノ戰爭ニ比シ人間ノ道德ニ惡影響ヲ與フルハ自明ノ理ニシテ應仁ノ亂ノ如キ三十年戰爭ノ如キ道德ノ大顛廢ヲ招來シタルハ史上ニ明ナル所ナリ世界大戰ハ一面ニ於テ道德ヲ蹂躪紊亂シ伯林市ノ如キハ裁判官ノ不足其他ノ事情ヨリ些細ナル犯罪ハ檢舉セラレザリシモ少年ノ犯罪數ハ平時ノ五割以上増加シタリト稱セラル戰勝國タル英、佛等ニ於テモ此ノ如キ事例尠カラス「ロンドン」地下鐵道ニ於テモ戰時ニ至リ始メテ「拘摸」搔ツ「凌ヒ」等ヲ見ルニ至レリト若シ夫レ男女貞操ノ紊亂、成金ノ跋扈等ニ至リテハ各國皆然リト言フモ過言ニアラサルヘシ然ルニ一方ニ於テハ「勞働者ノ人格尊重」少クトモ「人格ノ承認」「地主、貴族等ノ自製」「民族ノ自由」「少數民族ノ保護」「侵略ノ否定」「國際協調」等ノ諸德起リ往日ノ「ケルナー」

ハ今日「ヘル、オーバー」ト呼ハルルニ至リ猶太人ニ對スル侮蔑的言行モ尠クナリ少數民族ハ到ル處ニ擡頭シテ各自由國家ヲ創立シ兎モ角モ國際聯盟成立シ彼ノ混亂ニ陥リシ露國モ他國ノ侵略ヲ被ルコトナク能ク其領土ヲ全ウシタル所以ハ實ニ前陳諸德ノ賜物タラスンハアラス

「グスターフ、ル、ボン」氏ハ其著「Premières conséquences de la guerre」ニ敍シテ曰ク「吾人佛蘭西人ハ漸次精力意志ノ鞏固責任觀念努力ノ習慣等ヲ失ハントシツツアリシカ歐洲大戰ハ正ニ此 *décadence* ノ傾向ニ在リシ吾人ヲ救濟セリ」ト

戰爭ノ道德上ニ及ホス作用中良影響ヲ舉クレハ次ノ如シ

一 戰爭ハ民族精神ヲ振起シ個人的利己心ヲ壓伏シテ義勇奉公ノ觀念及義務心ヲ喚起向上シ民族共同ノ利害ノ爲個人ノ利益ヲ犧牲タラシム

大戰前世人ノ多クハ戰爭ノ開始セラレルヤ佛國露國ニハ必然的ニ叛逆的賣國事件ノ起ルヘキヲ豫期シ英國ハ愛蘭問題ノ爲到底舉國一致シテ起ツ能ハサルヘシト思惟セリ然ルニ事實ハ此種人間ノ期待ヲ全然裏切リタリ

唯戰局餘リニ長ク解決セス國民ハ戰禍ヲ滿喫シ塗炭ノ苦ヲ味フニ至ルヤ却テ

民族精神萎靡消磨シ最早ヤ國家民族ノ利害ヲ考量スルノ遑ナク自己ノ生存ニ專念スルノミナル状態ニ陥ルコトアルハ獨逸露ノ實例之ヲ立證ス戰爭ハ一種ノ「モルヒネ」ニシテ能ク死ニ瀕セル病者ヲ救フト同時ニ又却テ健康者ヲ殺スコトアリ

二 戰爭ハ國民思想上ニ於ケル病根ヲ一掃シ墮落ニ瀕セル思想ヲ矯正又ハ洗滌シ新ナル道德ヲ發生ス

獨逸ノ軍國主義露國ノ官僚主義英國ノ個人主義及功利主義佛國ノ自由主義等モ過去ニ於テハ夫々各民族ノ發達進歩ニ貢獻シ彼等ノ隆昌強盛モ敍上ノ主義ニ負フ所大ナルハ否ムヘカラス而モ年月ノ經過ト共ニ各思想各主義共ニ極端ニ偏シ茲ニ其弊害ヲ露呈シ來ル世界大戰ハ即チ彼我ニ一大鐵槌ヲ加ヘ各國民ヲ刺激シテ之ニ新ナル思想上ノ方向ヲ與ヘタリ侵略主義ノ低頭資本主義ノ自制的民族自決國際協調思想ノ勃興等世界大戰ニ負フ所大ニシテ世界大戰ハ個人的道德ヲ犧牲トシテ社會的國際的道德ノ向上ヲ促進シタルヤノ觀ナキニアラス

三 戰爭ハ文弱淫靡享樂等ノ頹廢的風潮ニ鐵槌ヲ加ヘ人生ノ防腐劑社會ノ洗滌

作用ヲ爲シ剛健ナル氣風ヲ作興シ人間ノ性格ヲ鍛鍊ス即チ精力、努力心、忍耐力、服従心、名譽心、勇氣等ハ戰爭ニ由リテ増大セラレ東西武士道ノ發達亦戰爭ニ負フ所頗ル大ナリ但シ戰爭カ某程度ヲ超ユルヤ却テ人間ヲ墮落頽廢セシムルコト恰モ藥モ飲ミ過クレハ却テ人體ニ害ヲ爲ス作用ト相同シ

四 戰爭ハ交戰民族ノ嚴正ナル裁判官ニシテ其正邪曲直ニ對シ斷乎タル判決ヲ與フ「イエニス」曰ク「戰爭ノ判決ハ常ニ神ノ判決ナリ」ト「スタインメツ」曰ク「戰勝ハ諸徳ノ總和ナリ」ト「古代ローマ」ハ大ナル勢力ヲ有セシモ不道義ト悖徳トノ爲ニ滅亡セリ斯クシテ墮落者淘汰セラレ又ハ敗者ノ反省奮起ヲ促シテ之ヲ復活セシム

次ニ戰爭ノ道德ニ及ホス破壞作用ヲ探究スレハ左ノ如シ

一 戰爭ニ於テハ民族精神俄然トシテ勃興シ人ハ集團心理ノ支配ヲ受クルコト大ナル結果個性ハ沒却セラレ易ク人ハ無自覺、無主義、無批判、無反省ニ陥リ易シ然ルニ道德ノ根本ハ自覺ニ在リ是レ戰爭ノ道德的危機ヲ誘致シ易キ第一原因ナリ且戰爭ニ於テ人ハ集團心理ノ支配ヲ受ケ集團的ニ行動シ個人ノ自由ヲ確

認スルコト平時ノ如クナラス是ニ於テカ責任感自ラ減セサルヲ得ス蓋シ「イブセン」ノ言ヘル如ク自由ノ中ニ在リテ人ハ責任觀念ヲ感スルモノニシテ責任觀念ハ即チ倫理ノ基礎タレハナリ

二 戰爭ハ人ヲシテ人命ヲ輕視スルニ至ラシメ此人命輕視ハ應テ「人間輕視」ニ推移ス然ルニ道德ノ基礎ハ「人間ノ尊重」ニ在リ是ニ於テカ戰爭ハ人間ノ道德的基礎ヲ動搖セシムルコトト爲ル加之戰爭ハ人間ノ破壞的性質ヲ增長セシメ人命ノミナラス財産制度、道德等ヲ輕視シ之ヲ破壞スルニ至ラシムルコトアリ

三 人間ノ道德的行爲ヲ律スルモノハ良心ニ在リ而シテ良心トハ人性全體ノ作用ナリ即チ良心ハ吾人ノ行爲ニ就テ善惡ヲ判定ス此點ニ於テハ知的作用ト言フヘク又良心ハ行爲ノ善惡ニ就テ賞讚責罰シ之ニ由リテ生スル快樂苦痛ノ感情ヲ包含ス此點ニ於テハ情的作用ナリ且又良心ハ同時ニ善ニ就キ惡ヲ避クハキコトヲ命令指定ス此點ニ於テハ即チ意的作用タリ由是觀之健全ナル良心ハ知、情意ノ圓滿ナル發達ヨリ生ス然ルニ戰爭ニ於テハ前陳ノ如ク人間ノ悟性曇リ情操一方ニ偏シ人ノ精神ノ Equilibre 是ニ失ハレ良心ノ作用モ亦健全嚴正ヲ

缺クニ至ル加フルニ人間ノ本能ハ忽然トシテ擡頭スルニ於テ然リトス

四 勝者ハ戰勝ノ權威ヲ確定センカ爲往々敗者ニ於ケル最强者ヲ殺シ又ハ放逐スル等壓迫ヲ加フルヲ以テ弱者無氣力者ノミ殘存シ敗者ヲ墮落セシムルコトアリ波蘭人、猶太人等ノ卑屈、阿附、虛言等ノ惡徳ヲ有スルハ是カ爲ナリト稱セラ

ル又勝者ハ心傲リ奢侈贅澤ノ風ヲ増大シ輕佻、浮薄、遊蕩ノ習俗ヲ生シ易シ普佛戰役後ノ獨逸、日露戰役後ノ日本亦此例ニ漏レス

五 人心ノ緊張ニハ自ラ一定ノ限度アリ戰爭ノ永續スルヤ却テ反動的傾向ヲ生シ人ハ前途ノ不安ヲ感シ其生活ヲ急クニ至リ權道ヲ選ヒ享樂ヲ充タサントス獨逸ニ於ケル風紀ノ紊亂ハ千九百十七年ニ入り頓ニ甚シカリシト稱セラル特ニ戰時ハ概シテ金廻リ良ク且大小成金簇生シ人ハ投機、射利、享樂ヲ追及スルニ至リ益、人心ヲ墮落ニ導ク是レ文明時代ノ戰爭ノ特徴ニシテ世界大戰間竝其直後ニ於テ最モ顯著ナリ

六 洋ノ東西ヲ問ハス道德ノ根源カ家庭ニ在ルコトハ達識ノ士ノ悉ク承認スル所タリ然ルニ戰時ハ家庭生活破壊セラレ家庭ニ於ケル教養監督十分ナラス而

モ社會的制裁弛ミ教育者、警察官吏等ノ數ノ減少又ハ素質ノ低下ハ免ルル能ハサルヲ以テ益、國民道德ヲ低下セシムル虞アリ

### 第五節 戰爭ノ經濟的影響

古今幾多ノ戰爭ノ後ニ於テ最モ困難ナル事業ハ經濟復興ニ在リ換言スレハ戰爭ハ國民經濟ニ甚大ナル打擊ヲ與フルモノニシテ特ニ近代ノ戰爭ニ於テ然リトス彼ノ三十年戰爭、ナポレオン戰役、世界大戰ノ如キ其尤ナルモノニシテ獨逸統一戰爭ノ如キモ戰爭直後ニ於テハ獨逸國民經濟ノ不振ヲ惹起シタルハ左ノ諸事實之ヲ立證ス

イ 經濟不振ノ結果普魯西ヨリノ外國移民ハ著シク増加シ千八百六十六年以前ハ毎年四萬人ナリシニ千八百七十三年ニ於テハ十五萬人ニ達シ爾後千八百八十年迄ハ獨逸ハ大不景氣ノ襲フ所ト爲レリ

ロ 千八百七十年前ニ比シ其後ノ蒸汽機關ノ數ノ増減左ノ如シ

獨逸	30% 減
佛、米	増減無シ
英	15% 増

ハ「ザクセン、ボヘミア」汽船會社ハ千八百五十年ヨリ千八百六十五年ニ互ル十五年間ニ十四隻ノ汽船ヲ増加シタルニ次ノ十五年間ニハ僅ニ三隻増加シタルニ過キス

ニ 千八百七十二年乃至千九百二年ノ三十年間ニ世界ノ全貿易額ハ四百九十四億「マーク」ヨリ九百四十二億「マーク」即チ八十七「パーセント」増加シタルモ歐洲諸國ハ其全額ニ對スル百分率ニ於テ減少シ佛國ハ三七「パーセント」獨逸ハ九「九」「パーセント」減少シタリ「米、日、加」等ノ増加モ一原因

ホ 普魯西ニ於テ馬、豚、山羊、牛ノ増加ハ千八百五十五年ヨリ羊ノ増加ハ千八百六十四年ヨリ始マリ漸次増加ノ傾向ニ在リシカ普佛戰後増加ハ一時停止ス  
ヘ 病的投機流行シ下ラヌ事業濫興シ經濟的恐慌ノ原因ヲ作レリ  
ト 金利ハ却テ佛國ニ於ケルヨリモ騰貴シ預金ハ減少ス

世界大戰後ニ於ケル交戰諸國ノ經濟カ殆ント破滅ニ瀕スルノ慘狀ヲ呈シタルハ周知ノ事實ニシテ戰爭呪咀論者ノ主要ナル論據ノ一ハ實ニ戰爭ノ經濟上ニ與フル打擊ノ甚大ナル點ニ在リ

吾人亦戰爭ノ經濟上ニ與フル慘害ノ莫大ナルハ之ヲ承認スルニ吝ナラスト雖戰爭カ結局ニ於テ經濟ノ退化ヲ結果スヘキヤ否ヤニ關シテハ疑ナキ能ハス之ヲ史上ニ徵スルニ最モ頻繁ニ大戰争カ、繰リ返サレタル十九世紀ニ於テ世界ノ經濟界ハ前古未曾有ノ進歩發展ヲ遂ケ又普佛戰役直後一時經濟不振ニ陥リタル獨逸帝國ハ其後年ヲ累ヌルニ從ヒ經濟上長足ノ進歩ヲ爲シ獨立戰並南北戰役後ノ北米合衆國亦然リトス

千八百八十年以後獨逸經濟ノ勃興ハ「ビスマーク」ノ保護關稅政策並科學ノ進歩等ニ負フ所多大ニシテ必スシモ戰爭ノ效果ニノミ歸スヘカラサルカ如シト雖茲ニ頗ル面白キ現象ハ戰敗國ニシテ莫大ナル償金ヲ拂ヒタル佛國ノ經濟モ亦年ヲ逐ウテ著シク勃興發展シタルコトニシテ千八百七十三年ニ於テハ企業著シク勃興シ貿易亦盛況ヲ呈シ特ニ輸出貿易ノ増加ハ頗ル顯著ナルモノアリ即チ左ノ如シ

- 一八七〇年 一一〇、二三〇、〇〇〇
- 一八七一年 一一四、六四二、〇〇〇
- 一八七二年 一四七、一六〇、〇〇〇



一八七三年	一五一、四九二、〇〇〇
一八七四年	一五五、一〇〇、〇〇〇
一八七五年	一六〇、〇〇〇、〇〇〇

此ノ如ク巨額ノ正貨ハ流入シ莫大ナル償金モ戰後間モナクシテ支拂フコトヲ得タルノ有様ナリ

北米合衆國ヲシテ農業國ヨリ轉シテ農業兼工業國タラシメタルモノハ其獨立戰爭ニシテ英國ノ對ナポレオン戰爭ハ同國ノ産業革命ヲ促シ機械工業就中棉絲、獸毛等紡績業ノ發達ニ與リテ力アリシヤ言ヲ待タサル所ナリトス但シ兩國共ニ最後ノ戰勝者タリト雖戰勝戰敗ノ二方面ヲ包含スル南北戰爭後ノ北米合衆國ハ平和克復ト共ニ一般經濟界ハ活氣ヲ呈シ通貨膨脹物價ノ騰貴ハ人々ノ企業心ヲ刺激シテ産業俄ニ勃興シ外國資本ヲ流入顯著ニシテ富源ノ開發、大工業ノ發達大ニ見ルヘキモノアリ千八百七十年ニ於テハ既ニ戰爭ノ創痕ハ殆ント悉ク醫セラレタリト云フ就中鐵道ノ如キハ千八百六十年僅ニ三萬哩ナリシモノ千八百七十年ニハ五萬三千哩、千八百八十年ニハ九萬三千哩更ニ千八百九十年ニハ十六萬四千哩

ト爲リ千八百八十年ヨリ九十年ニ亙ル十年間ハ米國鐵道史上最モ顯著ナル發展ヲ見タル時代ニシテ一年間平均七千百哩宛ノ延長ヲ爲シタリ

由是觀之戰爭ハ必スシモ結局ニ於テ經濟ノ退化逆轉ヲ結果スルモノナリト論斷スルノ妥當ナラサルコト明白ニシテ戰爭ノ經濟上ニ與フル影響中ニハ善惡二方面ノ存在スルコトヲ推想スルヲ得ヘシ

今戰爭ノ經濟上ニ與フル惡影響ヲ研究スルニ左ノ如シ

- 一 戰爭ハ概シテ「エネルギー」ノ大濫費者ニシテ經濟上ノ生産ハ甚タ尠シ戰爭其レ自身ノミナラス戰爭ヲ目的トスル總テノ勞働ハ概シテ言ヘハ「エネルギー」ノ濫費ニシテ生産的ニ使用セラルルモノ鮮少ナリ
- 二 戰爭ハ資本ヲ破壊消盡スルノミナラス勞働ヲ盡滅ス蓋シ戰爭ヲ行フ爲ニハ人ト物ト動物トヲ犠牲ト爲ササルヘカラサレハナリ是ニ於テカ經濟ヲ攪亂シ經濟的活動ノ原動力ヲ減殺シ經濟的活動ヲ萎靡セシム
- 三 資本及勞働ノ消盡ハ必然的ニ國民ノ生産力ヲ減少低下セシメ生活必需品ノ缺乏、物價及勞銀ノ昇騰ヲ招來シ國民生活ヲ逼迫セシメ延イテ人心惡化ヲ誘致ス

戰時資本及勞働ハ專ラ戰爭其レ自體又ハ戰爭ヲ目的トスル事業ニ集中セラ  
ル結果一般ニ經濟的事業萎靡シ或ル種ノ製造工場ハ或ハ閉鎖セラレ又ハ軍  
需品製造ニ轉業シ國民生活ニ直接必要ナル諸事業停頓ス  
世界大戰間米國ニ於ケル鐵道ハ約三千哩減少セリ是レ鐵價暴騰セシ爲「レール」  
ヲ賣却スル者ヲ生シタレハナリ

五 戰時ハ運輸交通機關モ亦戰爭ノ用ニ供セララルモノ多キヲ以テ物資ノ輸送  
配給圓滑ヲ缺クニ至ルヲ免ルル能ハス

六 戰時ハ通貨膨脹シ公債ノ發行増加スル結果紙幣ノ購買力減少シ公債及有價  
證券ノ價格下落シ人々相互ノ債權債務ノ關係ヲ攪亂ス

千八百七十年「プロシヤ」カ佛國ニ對シ宣戰スルヤ伯林取引所ニ於ケル株式(銀行、  
鐵道、會社等)ノ下落ハ三十五「バーセント」、國債市價ノ下落ハ二十「バーセント」戰後  
ニ於ケル總體證券價格ノ下落ハ株式ニ於テ二十七「バーセント」、國債ニ於テ十四  
「バーセント」ナリ

世界大戰後ニ於ケル各國ノ通貨ノ購買力減少ハ實ニ驚クヘキ程度ニ達シ露、奧、

獨、佛、伊等ノ下落ノ莫大ナリシハ周知ノ事實ニシテ英貨ト雖其下落ヲ免ルル能  
ハサリキ

七 戰時ハ信用減少シ金融ノ梗塞ヲ來シ易シ戰爭初期ニ於テ特ニ然リ

八 有價證券ノ下落、通貨購買力ノ減少、物價ノ騰貴等ニ依リ一般人民ハ莫大ナル  
損害ヲ蒙ルニ反シ或ル種ノ商工業者、船舶所有者、鑛業者等ハ莫大ナル利得ヲ獲  
得シ茲ニ大小ノ戰時成金簇生シ風教紊亂ノ毒素ヲ製造傳播ス

九 戰爭終ルヤ戰時好景氣ニ在リシ商工業者、船舶所有者等ハ茲ニ大打撃ヲ蒙リ  
經濟恐慌ヲ惹起シ破産者及失業者ノ續出ヲ見ルコト世界大戰ノ示シタル所ノ  
如シ加フルニ資本缺乏シ信用減少スル結果經濟的事業起ラス且交戰國ノ多ク  
ハ財政困難ニ陥リ其貨幣ノ對外價值減少シ外國ヨリ原料其他國民必需品等ヲ  
購買スルコト困難ト爲ル

十 政府ハ戰後財政整理ノ爲非常ナル困難ニ遭遇スルコト這般ノ大戰後ニ於ケ  
ル各交戰國及日露戰役後ノ日本ノ明示スル所ニシテ從テ諸種ノ國家的經濟事  
業(例ヘハ鐵道ノ敷設、港灣ノ修築、通信機關ノ整備等)起ル能ハス(南北戰爭後米國

ノ經濟界カ活氣ヲ呈シタルハ主トシテ外資ノ輸入ニ依ル)

十一 兵戰ノ巷ト爲リ荒廢セラレタル地方ノ經濟復興ハ莫大ナル經費ヲ要シ戰後窮乏セル國庫ニ大ナル負擔ヲ課シ國力ヲ消磨セシム

十二 交戰國ノ増加、戰爭規模ノ増大ハ全世界ニ於ケル生産消費ノ均衡ヲ破壞シ

世界ノ經濟界ニ大變化ヲ與ヘ一般ニ經濟ノ萎靡不振ヲ結果ス

要スルニ戰爭ノ直接影響ハ概シテ經濟上ニ不利ナルモノ多シト雖其間接ノ作用ハ却テ經濟振興ノ素因ト爲ルモノナキニアラス第十九世紀ハ最モ頻繁ニ大ナル

戰爭ノ行ハレタリシニ拘ラス前古未曾有ノ經濟的發達ヲ爲シタルコト前陳ノ如ク又彼ノ十字軍戰役ハ東西兩洋ノ通商貿易ノ勃興ヲ誘致シ「ベネチア」「ジェノバ」「ビザ」等ノ繁榮ヲ促シタルハ史上ニ著明ナル事實ナリトス

今戰爭ノ經濟上ニ與フル良作用トシテ認ムヘキモノヲ舉クレハ左ノ如シ

一 戰爭ハ經濟組織ノ進步ヲ促進ス

戰爭ハ經濟ノ根本要素タル資本ト勞動トヲ不生産的ニ消費シ國民ハ經濟的危機ニ瀕スルヲ以テ全力ヲ盡シテ經濟組織ノ向上進步ヲ策シ最少ノ資源ト勞力

トヲ以テ最大ノ效果ヲ發揮センコトヲ期シ茲ニ生産組織、分配組織、金融組織等ノ發達ヲ促ス但シ如何ニ組織良好ニシテ遣リ繰リカ巧ナルモ無ハ有ヲ生セス故ニ戰爭直後經濟ノ不振ハ免ルル能ハス而モ爾後某期間ヲ經過セハ茲ニ其效果現ハルルハ多クノ戰例ノ示ス所タリトス

二 戰爭ハ經濟的技術ノ進步ヲ促ス

戰時ハ諸種ノ經濟的技術上ノ發明行ハレ工業、農業、鑛業等ノ技術ノ進步ヲ見ルコトハ世界大戰ニ於ケル交戰各國ノ實況之ヲ證明シ特ニ獨逸ニ於テ然リ今日ノ化學工業、鍛工、冶金、通信技術、造船術等ノ著大ナル進步ハ戰爭ニ負フ所頗ル大ナリトス戰時軍用技術ノ發達顯著ナルハ自明ノ理ニシテ此軍用技術ノ發達ト經濟的技術ノ進步ト密接ナル關係ノ存在スルハ是レ亦明白ナリトス

三 戰爭ハ經濟進步ノ基礎タルヘキ或ル種ノ科學例ハ物理、化學等ヲ發達セシメ代用品ノ研究ヲ促シ諸種ノ發見行ハル戰爭ノ益、科學的トナレル方今及將來ニ於テ特ニ然リトス

四 戰爭ハ或ル種ノ工業特ニ戰爭ト關係ヲ有スル工業ヲ發達セシメ又農業國ヲ

シテ農工業國タラシムルコトアリ加之工業國ニ於テモ從來自國ニ於テ生産スル能ハスシテ其補給ヲ外國ニ俟チタル物ヲ自國ニテ製造セサルヘカラサルニ至ラシムル結果此種工業ノ進歩ヲ促ス例ヘハ北米合衆國カ獨立戰爭ノ結果農業國ヨリ農工業國トナリ最近大戰間獨逸ニ於ケル窒素工業ノ創造ノ如キ即チ是ナリ

五 戰爭ハ經濟思想ヲ向上普及セシメ且一面一般社會ノ「エネルギー」ヲ増大ス其他戰爭ハ國際間並國民各階級間ニ於ケル富ノ分布狀態ヲ一變スルコトアリ債務國タリシ米國ハ大戰ノ結果一躍シテ大債權國ト爲リ國際金融ノ中心地ハ一時倫敦ヨリ紐育ニ移リ大戰ハ雷ニ國境ヲ變シタルノミナラス世界ニ於ケル富ノ分布狀態ニ一大變化ヲ與ヘ又大戰ノ結果交戰各國ノ中産階級ノ經濟的地位ハ概シテ零落シ勞働階級ノ經濟的地位ハ概シテ向上シタルノ觀ナキニアラス十字軍戰役ノ結果王侯武士ノ財力消盡セラレ其零落ヲ誘致シタルハ史上ニ明ナル所ナリトス

## 第六節 戰爭ノ社會的及政治的影響

### 甲 戰爭ノ社會的影響

戰爭ノ社會的影響中道德ニ關スルモノハ既ニ述ヘタルヲ以テ以下其他ノ主要ナル影響ニ就テ說述セントス

#### 一 戰爭ト人口

戰爭ハ人口上ニ大損失ヲ與フルモノニシテ世界大戰ノ如ク大規模且永續セル戰爭ニ於テ特ニ然リトス即チ該大戰ニ於テ死亡又ハ不具癘疾ト爲リタル者ノ數ハ約千五百萬人ニシテ內露國約三百十萬獨國約二百八十萬佛國約二百五十萬奧國約二百十萬英國約百四十萬人ト稱セラル

戰爭ノ人命ヲ拉シ去ルコト彼上ノ如ク莫大ナリト雖而モ古今ノ歴史ハ人口ノ恢復ノ比較的容易ナルコトヲ示シ概シテ言ヘハ戰役直後ノ出生率ハ増加スルヲ一般トス革命戰爭後ノ佛國、普佛戰後ノ普國等皆然ラサルナシ千七百九十九年乃至

千八百十五年間ノ諸戰役ニ於テ佛國民ノ絶對損耗ハ二百二十五萬(バツシイ)又ハ三百萬(リシエ)ト稱セララルモ既ニ千八百四十年ニハ該戰役前以上ノ人口ト爲レリ戰時中ハ生産率少ク死亡率大ニシテ歐洲大戰ニ於テ特ニ顯著ナリ千八百七十年戰後ニ於テモ開戰後九箇月ニシテ俄然出產數減少シ平和克復九箇月ニ至ル迄依然其狀態繼續セラレタリ  
古來幾多ノ戰爭繰リ返サレタルニ拘ラス世界人口ハ漸次増大セリ戰爭ハ單ニ一時人口ノ規整調節ヲ爲スニ過キス

### 二 戰爭ト階級勢力ノ消長

戰爭ハ階級ヲ發生シ又ハ階級ノ社會的勢力ノ移動ヲ促スコトアリ武士階級ノ發生及其社會的勢力ノ増大カ戰爭ニ負フ所大ナルハ東西其揆ヲ一ニス而シテ歐洲ニ於ケル武士階級ノ衰微モ亦戰爭ニ因由セリ蓋シ十字軍戰役ノ結果諸侯及武士ハ或ハ戰死シ又ハ貧窮ニ陥リテ其所領ヲ賣却シ其勢力衰頽ノ端ヲ開キタレハナリ歐洲ニ於ケル奴隸階級モ亦戰爭ニ因リテ發生シタリ即チ往昔ノ戰爭ニ由リテ生

シタル捕虜カ奴隸ト爲リシモノナルコトハ歴史ノ教フル所ナリ此奴隸モ世運ノ進歩ト共ニ解放セラレテ自由勞働者ト爲リ資本主義經濟ノ發達ハ同時ニ勞働者ノ數及其勢力ヲ増大シ世界大戰ノ結果ハ俄然トシテ此第四階級ノ勃興ト爲リ露國ニ於テハ内實ハ兎モ角名義タケハ第四階級即チ「プロレタリア」ノ專制政治ヲ見ルニ至レリ其他ノ列強ニ於テモ亦戰前ニ比シ勞働階級ノ勢力ヲ増大シ英國ニ於テハ有史以來始メテ勞働黨内閣ノ出現ヲ見タル次第ナリ  
貴族、僧侶ノ特權階級沒落シ所謂第三階級タル「ブルジョア」ヲ勃興セシメタル佛國大革命モ亦「ルイ」十四世以來連年ノ戰爭カ其有力ナル一因タリシハ世人周知ノ如シ

### 三 戰爭ト宗教心

戰爭ハ人間ノ神秘的觀念ヲ勃興セシメ從テ宗教心ノ發動ヲ促スコト前陳ノ如シ

### 四 戰爭ト犯罪

戰時犯罪ノ増加ニ就テハ前述ノ如ク千九百十三年柏林市ニ於ケル少年男子犯罪數ハ千九百九名ナリシニ千九百十五年ニ於テハ千七百九十名ニ増加シタリ是レ一般道徳ノ低下、教養監督ノ不十分ヲ語ルモノタラスンハアラス

### 五 戰爭ト風俗

戰爭ハ概シテ剛健素朴ノ氣風ヲ作興シ文弱ヲ排シ惰風ヲ洗滌ス唯其極端ニ走ルヤ粗暴殺伐ノ風ヲ馴致スルコトナシトセス尙戰爭ノ爲ニ繁文褥禮廢棄セラレ儀禮、服裝其他ノ社交形式ノ簡素ト爲ルコトハ世界大戰ノ證明スル所ナリ唯戰時及戰爭直後人ハ非常ナル苦難ヲ嘗ムルヲ以テ一方大ナル慰安ヲ求ムル欲求ヲ生シ且神秘的觀念ノ之ニ加ハルアルヲ以テ人間ノ享樂氣分モ亦增長スルコトヲ免レズ世界大戰ノ如キ戰局永續シ民衆ノ艱苦痛烈ナリシニ於テ特ニ然リ戰勝國民カ戰後一般ニ奢侈ニ流ルルモ亦敍上ノ心理ニ基クモノト謂フヘシ

### 六 戰爭ト社會思潮

戰爭ハ人生ニ於ケル一大變動ニシテ時ニ人間ノ思想ニ大動搖ヲ生セシメ從來ノ思潮ニ大變革ヲ與ヘ又ハ忽然トシテ新思潮ヲ生ス

彼ノ軍國主義、帝國主義、侵略主義、資本主義等ハ歐洲大戰ノ結果俄然其勢力ヲ失墜シ「デモクラシー」、平和主義、文化主義、國際主義、社會主義等ノ大流行ヲ見ルニ至レリ勿論其中ニハ美ニ懲リテ胎ヲ吹ク類ノモノモ多シト雖而モ大觀スレハ是レ人間ノ進歩社會ノ發達ニ要スル必然的過程ナルカ如シ特ニ注目スヘキハ普佛戰爭ニ於ケル戰勝者タル獨逸ニ於テハ戰後社會主義ノ異常ナル發達ヲ見タルコトナリトス

### 七 戰爭ト文化

本邦ニ於テ文化 (culture) ト文明 (civilisation) トハ屢々混淆シテ使用セララルルモ culture 本來ノ意義ハ培養、勞作、開拓等ヲ意味シ一國ノ文化トハ其國民カ開拓涵養シ來レル精神生活ヲ稱ス即チ哲學、宗教、藝術等是ナリ文明トハ數學及自然科學ニ基キテ技術的ニ自然ヲ征服シテ得タル結果ヲ稱シ文明的事項ハ各國到ル處共通ニ

シテ全然「アンテルナショナル」ノ性質ヲ有ス即チ電車、汽船、紡績器械、化學工業、印刷術等ハ倫敦ノモノヲ移シテ直ニ東京ニ適用シ得ヘク伯林ニ於テモ紐育ニ於テモ巴里ニ於テモ共通ノモノナリ然ルニ文化的事項タル音樂、宗教、文學、哲學ノ如キハ民族的特徴ヲ有シ國民的ノモノニシテ獨逸音樂ハ獨逸的特徴ヲ有シ英國哲學ハ英國的特徴ヲ有ス即チ文化ハ常ニ民族的色彩ヲ有シ國民ノ歴史的背景ニ據ルモノナリ是ヲ以テ佛國人ノ好ム音樂ハ必スシモ獨逸人ニ讚美セラレス獨逸人ノ正ナリト思考スル哲學ハ必スシモ英國人ノ贊スル所トナラス獨逸文學ヲ眞ニ理解シ得ルモノハ唯獨逸人ノミニシテ露西亞文學ノ眞諦ヲ捕ヘ得ルモノハ唯露西亞人ノミニナリ然ルニ文明事項タル電車ノ如キ英ノ理解スル所モ獨、佛、日、米人ノ理解スル所モ全然同一ニシテ英人ナルカ故ニ理解シ得ルモ日本人ナルカ故ニ理解シ得スト言フ所ナシ

所謂文化ノ眞正ノ意義ハ前陳ノ如シ是ヲ以テ翻譯思想ヤ翻譯文學ヤ摸倣音樂摸倣演劇ノ如キ斷シテ眞正ノ文化ニアラス況ンヤ米式ノ建物ニ住マキ洋式家具ヲ使用シ歐米風ノ服裝ヲ爲シテ以テ文化生活ト心得ルカ如キオヤ苟モ文化ト稱ス

ル以上ハ國民的特徴ヲ有シ民族ノ精神生活ヲ象徵スルモノタラサルヘカラス換言スレハ眞正ノ文化主義トハ即チ國粹主義ナリ國民自身カ涵養開拓シタル民族的產物ナリ歐人ハ「米國ニハ文明アレトモ文化ナシ」ト稱ス言ヤ味フヘシ戰爭ハ即チ國民ノ文化ヲ擁護シ又ハ腐敗墮落ニ傾カントスル文化ヲ洗滌又ハ清掃シ或ハ似而非文化ヲ破碎シテ眞正ノ文化ヲ復活振興シ若ハ文化ヲ擴衍ス最近ノ大戰ニ於テ獨逸ハ「獨逸文化」ノ擁護ヲ「モットー」トシテ戰ヒ聯合國ハ「世界文明」ノ擁護ヲ旗幟トシテ戰ヒタリ

元來國民ノ精神生活ノ表現ヲ文化ト稱シタルハ獨逸ニ始マリタルモノノ如ク觀念論唯心論的獨逸哲學ノ影響ナルカ如シ

抑「自國ノ文化」ノミヲ認メテ他國民ノ文化ヲ認メサルコト又ハ「自國ノ文化」ヲノミ至高至善ナリトシテ尊重シ他國ノ文化ヲ蔑視スルコト等ハ必スシモ賞スヘカラサルカ如シト雖文化本來ノ意義ハ敍上ノ如ク此見地ヨリスレハ「世界文明ノ擁護」ト言フカ如キハ意味ヲ爲ササルカ如シト雖此旗幟ハ衆愚ヲ誘フニ便ニシテ自己ノ味方ヲ作ルニ恰適ナリ即チ學理上無意義ナルモ政治上頗ル有效ニシテ聯合國

カ能ク大小ノ中立國民ニ對スル宣傳其效ヲ奏シ是等ヲ悉ク味方ノ中ニ引キ込ミ得タル一原因ハ即チ此ニ在リト言フヘシ

### 乙 戰爭ノ政治的影響

戰爭ハ政治的意義ニ於テ國家ノ建設者國家ノ膨張者タルト同時ニ國家ノ破壞者國家ノ分解者タリ一方ニ於テ國家ノ發達膨張ヲ促シ他方ニ於テ國家ノ衰微分解ヲ招來ス戰爭ハ幸福ノ移動ヲ行フト共ニ權力ノ移動ヲモ行フ即チ此權力ノ移動ハ一ノ國家ヨリ他ノ國家ニ又ハ同一國家内ニ於ケル某階級ヨリ他ノ階級ニ對シ行ハル戰爭ナクンハ世界ノ政治史ハ茲ニ停止スヘキヤ必セリ  
世界ノ文明及各國民ノ文化ヲ健全ニ發達セシメ人類全般ノ幸福ヲ齎ス爲ニハ或ハ群小ノ國家ヲ統一シタル大帝國ヲ出現セシメ又ハ小邦對立ノ形勢ヲ發生セシムルコト必要ニシテ人生過去ノ歴史ハ幾度カ之ヲ繰リ返シ所謂霸權ハ時代ヲ劃シテ甲民族ヨリ乙民族ニ更ニ丙丁等ノ民族ニ移動セリ吾人ハ此ノ如キ事實ヲ以テ人文ノ發達人類ノ進歩ノ爲必要ナルモノト認ム蓋シ兎ニ角此ノ如キ過程ヲ經テ

今日ノ文明及文化ヲ見ルヲ得タレハナリ世人中動モスレハ世界大戰後歐洲ニ於ケル小邦ノ簇生ヲ觀テ悲觀說ヲ爲ス者アリト雖現下ノ歐洲ハ其發達ノ必然的過程ヲ踏ミツツアルモノニシテ決シテ悲觀スヘキニアラス但シ悲觀スヘキニアラスト言フ意ハ大戰爭ハ起ラスト言フノ意ニアラス或ハ大戰爭ノ起ルヤモ知レス然レトモ人類ノ進歩テフ大局ヨリ觀テ其大戰爭モ悲觀スルニ及ハスト言フノ義ナリ  
戰爭ノ政治上ニ及ホス影響中見逃スヘカラサル一事ハ戰爭ハ法理的進歩ヲ促スコト是ナリ戰爭ハ國民ノ全能力ノ發揮ヲ要求スルヲ以テ社會ノ統制上諸種ノ立法ヲ必要トシ其立法ハ悉ク時宜ニ適シタルモノノミニアラサルヘシト雖而モ此ノ如クニシテ法政ノ進歩ノ行ハルルコトハ否認スヘカラス且戰爭ハ階級勢力ノ消長思潮ノ變化ヲ招來スルヲ以テ政體及權利義務ノ關係ヲ律スル法律モ亦改變セラルルコトアリ「プロシヤ」王カ國民ニ憲法發布ノ約束ヲ爲シタルハ千八百十三年露國皇帝カ其憲法ヲ布告セシハ千九百五年獨逸皇帝カ普通選舉ヲ與ヘタルハ千八百七十年ニシテ千九百十七年ニハ「プロシヤ」ノ選舉法ヲ改正シ一般平等無記名直接ノ選舉法ト爲シ且上院ハ勞働者及官吏ヲ除ク外各種ノ職業ニ互リテ資格



ヲ認メラレ普國王ノ勅選權ハ二百五十名ニ制限セラレタリ  
若シ夫レ甚シキニ至リテハ國體ノ變更ヲ見ルコト稀ナラス世界大戰後ニ於ケル  
帝政王政ノ覆滅、普佛戰役間ニ於ケル佛國帝政ノ滅亡等世人ノ記憶ニ尙新ナル所  
ナリトス古來革命ト戰爭トハ密接ナル關係ヲ有シ、フランス革命ノ如ク先ツ革命  
起リテ後戰爭ヲ惹起スルコトアリ又ハ戰爭ノ結果革命ヲ惹起スルコト世界大戰  
ノ如キアリ

世界大戰間各交戰國共ニ種々ナル立法ヲ見就中英米ノ徵兵令、獨逸ノ祖國補助勤  
務法、佛國ノ「ダルクワイズ」法、「ムーリエ」法等著名ニシテ所謂社會政策的立法ノ進歩ニ  
至リテハ世界大戰ニ負フ所頗ル大ナリト言ハサルヘカラス

### 第三章 戰爭ノ哲學的意義及平和論

吾人ハ第一章ニ於テ戰爭ノ起因ニ關シ、第二章ニ於テ其人生ニ及ホス作用ヲ分析  
研究シタリ本章ニ於テハ百尺竿頭更ニ一步ヲ進メ前章ニ於テ討究シタル所ヲ綜  
合觀察シ以テ戰爭ノ哲學的意義ヲ闡明シ尙平和論ニ及ハントス

何故ニ戰爭起ルヤ是レ第一ニ解決スヘキ問題ニシテ此解決ヲ待チテ始メテ永久平  
和可能ナリヤ若シ可能ナリトセハ其實現ノ爲ノ條件如何又若シ永久平和ノ實現  
期スヘカラストセハ少クトモ戰爭ノ數ヲ減スル方策如何等ノ問題ヲ解決シ得ヘ  
シ戰爭ハ善ナリヤ惡ナリヤ人生ニ必要ナルモノナリヤ將タ又不必要ナリヤ是レ  
亦重大ナル問題ニシテ本問題ノ解決ヲ待チテ吾人ノ戰爭ニ對スル態度ヲ決定シ  
得ヘク且國民ハ如何ナル場合ニ劔ヲ執ツテ起ツヘキヤノ問題ヲ解決スルヲ得ヘシ

#### 第一節 戰爭ノ哲學的意義

吾人ハ第一章ニ於テ戰爭ノ起因ヲ研究シ生物學的起因、人間ノ慾望及感情ニ基ク  
起因、神秘的觀念ニ基ク起因、社會發達ニ基ク起因等ヲ舉ケタリ  
敘上ノ抽象的各起因カ人間ノ活動上ニ發現シ種々ノ combination ヲ作り具體的起  
因(覇權ノ爭奪、經濟發展ノ競争等)ト爲ルモノナルコト前章ニ於テ述ヘタル所ノ如  
シ而シテ以上ハ戰爭ノ起因ヲ橫斷的ニ分析觀察シタル結果ナリト雖更ニ之ヲ縱  
斷的ニ一貫シテ綜合觀察シ何故ニ戰爭起ルヤヲ探究シ且戰爭ノ哲學的意義ヲ闡

一 戰爭ノ根本原因トシテノ人間意志ノ自由

人類ハ各特性ヲ有スル數多ノ個性ヨリ成ルト同時ニ各特性ヲ有スル數多ノ民族ヨリ成立シ各個性及各民族ハ各其特性ヲ究極迄發展セシムルノ權利即チ主觀的ニ意志ノ自由ヲ有シ此人間意志ノ自由ニ基ク反對性ノ對立、競争、妥協、調和ノ反覆カ自然淘汰性慾淘汰ト相俟チテ人類ノ進化ヲ促進スルモノナリ而シテ人各其意志ノ自由ヲ有スルカ故ニ自己ノ存在ヲ意識シ其存在ヲ保タンカ爲内ニ向ヒ且外ニ向ヒテ絶エス戰ハサルヘカラス世ニ善人ト惡人ト正義者ト不正義トヲ生シ各惡ヲ倒シ不正義ヲ除カント欲スル所以ノモノハ實ニ人各其意志ノ自由(主觀的ニ)ヲ有スレハナリ各個人各民族カ皆相同シキモノナラハ善惡ノ別ヲ生スルコトナシト雖又一方各個體各民族ニ分レ居ル必要モ之ナキナリ神ハ至善ニシテ至正ナリ故ニ進歩セル宗教ハ概ネ一神教ニシテ幼稚ナル宗教ノミ多神教ニ屬ス而シテ多神教ニ於ケル神ハ至正至善ニアラスシテ多クハ半神半人ノ性質ヲ有シ個人ト等シク人生ノ

高貴ナル一面ヲ表現スルニ過キス是ニ反シ一神教ニ於ケル神ハ即チ人生ノ高貴ナル總テノ諸面ヲ表現スルモノナリ人類ハ各特性ヲ有シ相異ナル十數億ノ人間ヨリ成リ各人ハ又各特性ヲ異ニスル各民族團體ニ屬シ管ニ先天的稟性ヲ異ニスルノミナラス其發達ノ歴史、習慣、風尚、道德、宗教等換言スレハ其文化ヲ異ニスル結果縱ヒ純正理性ノ範圍内ニ於テモ形而上ノ事項ニ關シテハ其觀念及見解ニ多少ノ相違アリ即チ甲民族ハ自己ノ行爲ヲ正當ナリト確信スル場合ニ於テモ乙民族ハ甲民族ノ行爲ヲ不正ナリト思惟スル場合尠カラズ況ンヤ各民族ハ各獨特ノ神祕的觀念ニ支配セララルルノミナラス人ノ心的作用ニハ純粹ノ知的作用ト言フモノナク多少情意ヲ混シ而モ人間ノ分別ニハ幾多ノ誤謬存在スルニ於テオヤ相反目スル個性相軋スル民族ハ相互ニ對者ヲ惡人ト正義者ト思惟ス例ヘハ從來獨逸民族ハ佛蘭西民族ヲ以テ惡人ト正義者ト信シ佛蘭西民族ハ獨逸民族ヲ以テ惡人ト正義者ト爲ス何レカ正シキヤハ神ニアラサレハ確定スル能ハサレトモ兎ニ角此ノ如キ事實ノ存在スル所以ハ世界ニ各特性ヲ有スル數多ノ個性ト數多ノ民族存在シ各意志ノ自由ヲ有スルニ因ル千九百十二年二月一日「モーニングポスト」

ハ論シテ曰ク「大戰爭ハ權利ニ關スル意見ノ衝突ヨリ起レルモノニシテ戰爭ノ最モ危險ナル原因ハ權利若ハ正義ト言フ事ニ關シ反對意見ノ存在スルカ故ナリ」ト所論吾人ノ説ト其授ヲ一ニスルカ如シ

動物ハ只管其性ニ從ヒテ行動シ器械的精確ヲ以テ活動スル本能ニ由リテノミ生活スルカ故ニ有徳者ト爲リ得サルモ又罪有ル者ト爲ルヲ得ス人ハ意志ノ自由ヲ有シ自然ノ強制ヲ脱シテ其意志ニ基ク活動ヲ爲サントスル結果完全且安全ナル自然ノ天地ニ懊惱、悲哀、不安、混惑等ヲ齎シ人類ト共ニ世界ニ罪惡カ現ハレタルモ又一方ニ於テ徳モ同時ニ來レリ何故ニ人類ノミ獨リ然ルヤハ知ルコト能ハスト雖神ト動物トノ中間ノ地位ヲ占ムル人間ノ現實ハ正ニ前陳ノ如シ是レ實ニ人間ノ人間タル所以ニシテ人類ハ兎モ角モ此ノ如クシテ進化セラレ今尙進化ノ道程ニ在リ第一章ニ於テ述ヘタル如ク原始人ハ極メテ平和的ナリシカ人類ノ進化ト共ニ戰爭ヲ生シ人生ノ進歩ト共ニ人ハ益其意志ノ自由ヲ發揮シ戰爭ハ益大規模ト爲リ文明及文化ノ異常ナル發達ヲ遂ケタル第十九世紀ニ於テハ最モ頻繁ニ大戰爭繰リ返サレ直接間接ニ戰爭ノ爲失ハレタル人命ハ約三千萬人ト稱セラレ

要スルニ人類カ種々ナル特性ヲ有スル個性及民族ヨリ成リ各人カ意志ノ自由ヲ有スルコトカ人類ノ進化人文ノ進歩ノ根本原因タルト同時ニ恰モ此先天的ノ人類ノ本質カ戰爭ノ根本原因タラスンハアラス

人類間ニ善惡、正義、不正義ヲ生スル根本原因ハ既述ノ如シ而シテ世ニ絶對的ノ善、正義アリヤ將タ又絶對的ノ惡、不正義アリヤハ茲ニ斷言スルヲ得ス二元論ニ立脚スル哲學、宗教等ニ於テハ絶對的ニ善惡ノ二元アリトシ波斯ノ「ゾロアスター」教ノ如キハ世ニハ善神ト惡神トアリテ恒久ノ戰鬥ニ從事スト爲シ基督教ノ如キモ善惡二元ヲ認メ「カント」亦根本惡ヲ認メテ絶對的ニ人生ノ根本惡ヲ拔キ去ルコト不可能ナリト斷言セリ

原始佛教ニ於テハ必スシモ然ラサルモ無始以來煩惱アリ三毒アリトシ此煩惱ハ即チ惡ナリ唯吾人カ感覺及思惟シ得ル即チ認識シ得ル世界ハ其感覺及思惟ノ形式ニ適合スル世界ニシテ相對的且現象的ナリトセハ是レ同時ニ吾人ノ智識カ結局其性質上相對的ナルコトヲ意味スルモノナリ換言スレハ吾人カ認識スルコトハ外物相互間ニ關係ヲ附スルコトニ外ナラス果シテ然ラハ吾人ハ如何ニ努力ス

トモ此相對的智識ヲ以テ彼ノ絕對的本體ヲ認識スルコト能ハサルノ理ナリ  
 彼上ノ如ク觀シ來レハ世ニ絕對的善惡アリヤ否ヤハ遠ニ之ヲ斷スルヲ得サルミ  
 ノナラス同一本體ノ一面カ善ニシテ他面カ惡ナリ惡ハ善ヲ成就セシメンカ爲ノ  
 モノナリトスル一元論モ強チ否定スルコト能ハサルモノト言フヘシ儒教ニ於テ  
 ハ性ハ善ナリト稱シ人生ノ根本惡ヲ認メサルモノノ如シ

## 一一 戰爭ノ根本原因トシテノ人間ノ意志力

本體ハ兎モ角吾人ノ認識スル現象界ニ於テハ善惡正義不正義ノ存在スルハ動力  
 スヘカラサル事實ニシテ互ニ惡ヲ憎ミ不正義ヲ倒サント欲ス而モ其意欲ニテ微  
 温的ナランカ人ハ必スシモ其生命ヲ賭スル冒險事ヲ敢行セサルヘシト雖是ト同  
 時ニ大ナル進歩發達ヲ遂クルヲ得サルヘキハ明白ナリ何トナレハ縱ヒ惡事ニシ  
 テモ之ヲ敢行セントスル意志力アリテ之ヲ斷行スルカ爲ノ膺懲ヲ受ケ惡人モ變  
 シテ善人ト爲ルコトヲ得ルモノナリ若シ夫レ人カ惡心ヲ有スルモ斷然之ヲ敢行  
 セントスルノ意志力ヲ缺キ爲ササルニアラス爲スニアラス微温的慢性的ニ經過

スルモノトセンカ遂ニ惡ヲ是正矯正スルノ機會ナク徐々トシテ人生ノ善性ヲ腐  
 蝕スヘキヤ論ヲ待タス例ヘハ獨逸軍國主義カ惡ナリト假定スルニ此惡カ膺懲是  
 正セラレタル所以ハ實ニ飽迄之ヲ敢行シタル獨逸國民ノ強烈ナル意志力ニ在リ  
 若シ獨逸國民ニシテ敢然之ヲ斷行スルノ意志力ヲ缺キ彼カ實際ニ行ヒタル如ク  
 露骨且大膽ニ實行スルコトナカリセハ彼ノ大戰亂ヲ惹起セシテ濟ミタルヤモ  
 知レス然レトモ其代リニ此軍國主義ハ永ク膺懲セラレルコトナク從テ其改悛是  
 正ノ機會モナク徐々トシテ人生ヲ毒シタルヤ必然ナリ(但シ獨逸軍國主義ヲ惡ナ  
 リトノ假定ニ基ク)

人生ノ理想ニ向ヒテ邁進努力スヘク運命ツケラレタル人類ハ其生命ヲ賭スル冒  
 險ヲ敢テシテ迄モ尙且自己ノ惡ト信スルモノヲ除キ不正義者ト認ムルモノヲ倒  
 シテ善ヲ起シ正義ヲ發展セシメントスル意志力ヲ有ス此強烈ナル意志力ノ存ス  
 ルカ故ニ人類ハ有ユル障碍ヲ排除シ不斷ノ進歩發展ヲ爲スモノニシテ實ニ人生  
 進化ノ原動力タルト同時ニ又戰爭ヲ惹起スヘキ根本的原因ノ一タラスンハアラ  
 ス「シヨッペンハーワー」曰ク「世界ノ根源ハ意欲ナリ意欲ノ世界ハ同時ニ不満足、爭鬭、

苦痛ノ世界ナリト是レ氏ノ厭世の哲學ノ色彩ヲ濃厚ニ現ハシタルモノナリト雖  
又一面ノ眞理ヲ道破セルモノト言フヘシ

### 三 戰爭ノ根本原因トシテノ感情、情慾及 理性ノ本質

「アリストテレス」ノ言ヒタル如ク人ノ自然ノ感情及情慾ハ皆過クルカ及ハサル  
カノ兩極端ニ走ラントスル傾向ヲ有ス愛既ニ然リ憎惡亦然リ而シテ人間ハ理性  
ヲ有シ此理性カ取捨、選擇、調節、抑制ノ作用ヲ爲スヘキ責任ヲ有ス然ルニ前既ニ述  
ヘタル如ク人ノ理性ハ絶對聰明ニアラスシテ時ニ誤謬ヲ爲シ分別ヲ誤リ時ニ感  
情ノ交感ヲ受ケ情慾ノ猛威ニ犯サレ且神秘的觀念ニ影響セララルヲ以テ益、誤謬  
混惑ノ機會ヲ多カラシム此人間自然ノ感情及情慾ノ極端ニ走ラントスル傾向ト  
理性ノ半聰明トカ實ニ戰爭ノ根本原因ノ一ナリトス  
若シ人ノ感情及情慾ニシテ微温的ナルモノトセハ自己ノ身命ヲ賭シ他人ノ生命  
ヲ奪フカ如キ極端ナル慘事ヲ敢行セサルヘク又人ノ理性カ神ノ如ク聰明ナリト

セハ眞ハ唯一無二ナルヲ以テ人ノ觀念中ニ善惡ノ二元ノ生スル筈ナク從テ敵味  
方ノ別ヲモ生セサルヘシ甲ナル者ノ觀テ善ト爲ス所ヲ乙ナル者カ觀テ惡ト爲ス  
ハ何レカノ理性カ聰明ナラサレハナリ

抑、人間ノ感情及情慾カ極端ニ走ラントスル傾向ヲ有スルコトハ人ヲシテ罪ヲ犯  
シ時ニ戰爭ノ慘事ヲ爲サシムルコトアルト同時ニ人間ノ活動ヲシテ活潑ナラシ  
メ人生ニ生氣ヲ與ヘ人間ノ進歩ヲ促ス所以タラスンハアラス微温湯ハ特ニ害ヲ  
爲ササルモ機關車ヲ動カス能ハス大ナル「エネルギー」ヲ發揮シ汽車ヲ走ラシムル  
モノハ危險ナル熱湯ナリトス人間ニ於ケル感情及情慾ハ即チ熱湯烈火ノ危險ヲ  
包藏スト雖又人間ヲ活動セシメ其進歩發達ヲ促動スル一大原動力タラスンハア  
ラス

民族心理學ノ泰斗「ウイエルヘルム、ヴント」ハ「ブツシユマン」及「ニグリート」等ノ原始  
人ノ文化カ停滞シタル所以ヲ研究シ彼等ノ智的素質カ毫モ文明人ト異ナルコト  
ナキヲ證明シ其文化停滞ノ根本的原因トシテ左ノ二項ヲ擧ケタリ「ヴント」氏著民  
族心理學參照

一 原始人ハ無慾ナルカ故ニ高キ文化ノ諸產物ヲ受ケ入レントセス却テ之ヲ排斥スルコト

二 他ノ種族トノ交渉ナク混交移住、戰爭等ヲ行ハサル爲ナルコト  
即チ戰爭ハ文明ノ徵ナルト共ニ文明ノ促進者タル所以ヲ道破セルモノト言フヘシ人ノ理性ノ半聰明ナルコトハ人ヲシテ屢誤ヲ繰リ返サシメ本能ニ從ヒテノミ生活スル動物ニ比シ過誤ヲ多カラシメ從テ戰爭ヲ惹起スル原因ト爲ルハ事實ナリ然レトモ是レ即チ人間努力ノ由ツテ來ル根本原因ニシテ又人生進化ノ根本動機タリトス何トナレハ無謬ノ本能ニノミ依リテ生活スル動物ニハ正シキ道ヲ求ムル爲ノ努力ヲ要セサルモ人ハ過誤ヲ爲スカ故ニ努力ヲ必要トシ此努力カ即チ人間進化ノ根本原因ヲ爲スモノナリ

#### 四 戰爭ノ根本原因トシテノ平和

戰爭ノ根本原因ハ實ニ人類ノ進化人間發達ノ根本要素ノ中ニ含有セラレ神ハ不漸ノ進化發達ヲ爲スヘキ運命ヲ人類ニ與フルト同時ニ戰爭ヲ惹起スヘキ素質ヲ

モ與ヘタリ故ニ人類間ノ戰爭ヲ根本的ニ絶滅セント欲セハ人類ヨリ其人類特有ノ素質進化發展ノ要素ヲ奪ヒ去リ人間ヲ低下シテ動物(蟻、蜜蜂、コオノトリ等ヲ除ク)ノ程度ニ逆戻リセシムルカ又ハ人間ヲ向上セシメテ神ノ域ニ達セシメサルヘカラス將來ハ知ラス目下神ト動物トノ中間ニ存在シ進化ノ道程ニ在ル人類ハ遺憾ナカラ戰爭ヲ惹起スヘキ先天的ノ素質ヲ有ス

甲戰爭カ乙戰爭ノ原因タリシコトハ古來稀ナリトセス人々亦之ヲ承認スト雖多クノ人ハ平和カ戰爭ノ原因ヲ爲スコトヲ閉却セリ按スルニ前陳ノ戰爭根本原因換言スレハ人生進化ノ根本的要素ハ平和ノ時ニ於テ其活動最モ盛ニシテ遂ニ極端ニ達セントシ且人口ノ増加社會ノ發達ハ平和時ニ於テ最モ顯著ナリ觀ヨ平和ノ永續スルヤ人ハ益其意志ノ自由ヲ發展セシメントシ互ニ其極端ニ達セントスルヤ茲ニ相互ノ激烈ナル衝突ヲ惹起シ又人間ノ慾望ハ平和時ニ於テ愈出テ愈旺盛慾望ハ更ニ慾望ヲ生ミ其不可能ナル事迄モ遂行セント欲ス彼ノ日露戰爭前ニ於ケル露國ノ野望ノ如キ歐洲大戰前ニ於ケル獨逸ノ野心ノ如キ彼等カ始メテ其慾望ノ達成ノ不可能ナリシヲ悟リシハ正ニ戰爭ノ判決ヲ受ケタル後ニシテ戰

爭前ニ於テハ其實現可能ヲ信シ居タルモノナリ

永續セル平和ハ人ヲシテ戰爭ノ慘禍ヲ忘レシメ容易ニ劔ヲ執ツテ起ツノ心理ヲ醸生ス戰爭ト平和トノ關係ハ恰モ健康ト病氣トノ關係ニ相似タリ甲ノ病氣カ乙ノ病氣ノ原因タリ得ルコト甲ノ戰爭カ乙ノ戰爭ノ原因タリ得ルト相同シク又健康其者カ病氣ノ原因タリ得ルコト平和カ戰爭ノ原因タリ得ル理ト相似タリ即チ人カ健康ニ慣ルルヤ兎角節制ヲ忘レ易ク非衛生ナル事柄ニモ頓著ナク食ヲ擇ハス空氣ノ不淨ヲ問ハス或ハ暴飲暴食ヲ爲シ又ハ氣温ノ變化ニ留意スルコト鮮ク歡樂ヲ追ウテ飲酒喫煙夜更シヲ爲ス等凡テ病氣ノ直接間接ノ原因ハ實ニ健康時ニ於テ醞釀セラル然ルニ人一度病ニ臥スルヤ則チ曰ク感冒カ實ニ其原因ナリト又曰ク下痢カ即チ其原因ナリト而モ數多ノ直接間接ノ原因カ感冒又ハ下痢以前ニ重疊累積シツツアリシコトヲ語ル者尠シ

人々平和ニ慣レテ平和裡ニ幾多戰爭ノ動機ヲ作リナカラ戰爭ノ勃發ヲ見テ其根本原因カ實ニ平和ニ在ルコトニ氣著カサル者比々皆然ラサルナシ

彼ノ歐洲大戰亂ノ如キ實ニ三四十年間ニ互レル歐洲平和ノ產物ニシテ此ノ平和

ナル三四十年間ニ培ハレタル人間ノ意志ノ自由人間ノ慾望ハ最モ強烈且旺盛ニ發展シタルト反比例ニ戰爭ノ慘禍ヲ忘レ茲ニ彼ノ執拗ナル大戰亂ヲ演出シタリ彼上ノ人間心理ヲ最モ鮮明適確ニ證明スルモノハ大戰直後ノ歐洲ニシテ大戰直後ノ歐洲ニ於テハ戰爭ノ原因タリ得ヘキ幾多ノ大問題發生シ「フイユーム問題」「シニレジア問題」「ウイテルナ問題」「テッペン問題」「沿バルチック海問題」「ルール問題」「近東問題」「匈牙利問題」等何レモ「サラエボ」事件ト同様若ハ其以上ノ重大國際問題ニシテ大戰前ノ民衆心理ニ投セハ其一問題ノミニ因リテモ優ニ大戰亂ヲ惹起シ得ヘキニ拘ラス大戰ノ慘苦ヲ滿喫セシ歐洲人ハ何レモ不平不滿長恨痛憤ノ情ヲ懷キナカラ兎ニ角大戰亂ヲ惹起スルニ至ラス是レ實ニ過去ノ大戰亂ノ御蔭ニシテ歐洲大戰ハ即チ豫防接種ノ作用ヲ爲シタルモノナリ今日獨逸國民ハ何カ故ニ彼ノ屈辱ヲ忍ヒツツアリヤ「ポリシェウイック」カ赤軍ヲ以テ企圖セル世界革命ハ何故ニ成功セザリシヤ聯合國ノ對露武力干涉ハ何故ニ失敗ニ歸シタリヤニ想到セハ蓋シ思半ハニ過キン「人心ハ絶エス活動シ靜止スルヲ好マス故ニ人ハ永ク同一不變ノ狀態ノ下ニ在ルヲ欲セス晴天ノ續クヤ雨天ヲ欲シ雨天ノ續クヤ晴天ヲ希ヒ夏ニ冬ヲ戀ヒ冬ニ夏

ヲ慕フハ人情ノ常ナリ是ヲ以テ人ハ永ク平和ノ裡ニ在ルヤ不知不識ノ間ニ變亂ヲ希望スルノ情萌スニ至ル況ンヤ半聰明ナル人間ノ活動及其事業ハ結局ニ於テ行キ詰ラサルヲ得サルニ於テオヤ而シテ此ノ行キ詰レル人生ノ活動及事業ニ新正面ヲ打開スルモノ即チ戰爭ナリトス歐洲大戰亂ノ如キモ一面ヨリ之ヲ觀レハ獨逸外交ノ行キ詰レルニ發シ又一部ノ經濟學者ハ資本主義ノ行キ詰レル結果ナリトセリ六十六年戰ノ如キモ埃國霸權ノ行キ詰レル結果ニシテ普佛戰役ハ「ナポレオン」三世ノ對外政策ノ行キ詰レル結果ナリト觀ルヲ得ヘシ

### 五 戰爭ハ善ナリヤ惡ナリヤ

人類ハ戰爭ヲ惹起スヘキ先天的素質ヲ有シ人類ノ進化ト共ニ戰爭ヲ生シ人類ノ進歩發達ト戰爭トハ不可分ノ關係ニ在ルコト既述ノ如ク「カント」モ亦好戰慾ヲ以テ人性ニ固有ナルモノト爲セリ而シテ第二章ニ於テ詳ニ分析研究シタル如ク戰爭ノ人生ニ及ホス作用中ニハ害惡ノ存スルト共ニ效益モ亦尠シトセス以上ハ事實ニシテ動カスヘカラサル史實ニ立脚ス此一ナル事實ヲ批判シ種々ナ

ル見解ノ生スル所以ハ人々其信スル哲學的觀念ヲ異ニシ萬人共通ノ哲學ノ存在セサルニ因由ス

「ヘーデル」ノ言ヒタル如ク事實ハ客觀ニシテ天下ノ公ナリ是非ハ主觀ニシテ一人ノ私ナリ人類カ各個性ヨリ成立スル以上客觀的同一事實ニ對スル是非ノ異ナルハ免ルヘカラサル自然ノ理數ニ屬ス歴史哲學ヲ奉シ史實ハ即チ善ナルヲ認ムルノ見地ニ據ル者ハ戰爭ヲ是認シ最強者ノ主張ハ斷乎トシテ最善ナリト信ス「カウフマン」曰ク勝者即チ權利者ナリ勝戰即チ法律擁護者ナリト是レ確ニ一種ノ見解ニ相違ナシ

佛ノ「ブルウドン」曰ク「戰爭ハ神聖ナル事實ナリ理想ノ示現ナリ戰爭ハ人間社會ノ發達ニ缺クヘカラス云々」ト英ノ文明史家「バックル」ハ其唯物史觀ニ立脚シ戰爭ノ文明的價值ヲ説キ天然ニ大原因ヲ有スル不可避ノ事實ナリトセリ

二元的世界觀ニ立脚スル者ハ戰爭ヲ惡ト爲シ人生ニ於ケル病氣ナリト爲ス此論者ハ人性ノ中ニ根本善ト根本惡トノ兩元ヲ認メ人生ノ活動ハ凡テ此善ト惡トノ爭鬭ナリトシ其根本惡ノ累積重疊スルヤ茲ニ戰爭ヲ醸生スト爲ス是レ亦一種ノ



見解ニ屬ス

自然ノ本質ニ關シテ唯物論の見解ヲ執ル者ハ其變化ヲ器械論的ニ説明シ戰爭ヲ以テ火ノ如キ自然現象ト看做シ其結果ニハ善惡アレトモ戰爭其レ自體ハ善ニモ惡ニモアラスト爲ス者アリ是レ火ノ如キ自然現象ト戰爭ノ如キ人間意志ニ基ク事業トヲ同一視スルモノニシテ茲ニ其弱點ヲ有ス

既ニ前編第二章ニ於テ述ヘタル如ク哲學上最モ合理的ナルモノハ一元論ナリ吾人ハ此一元論ニ立脚シテ戰爭ノ善惡ヲ判定セントス現象ヨリ觀レハ世ニ善ト惡トノ存在スルコトハ疑フヘカラス然レトモ「ライブニッツ」ノ言ヒタル如ク此世界ハ最完全ニシテ善惡ハ唯其完全ヲ成就スルノ方便ナリト觀ルヲ至當トスルカ如シ禪ニ曰ク「善惡不二、正邪一如」ト即チ「ライブニッツ」ノ説ト同意義ニ屬ス

一時ノ現象トシテノ善惡カ却テ永年ノ後善良ナル結果ト爲リテ現ハルルコト尠カラス戰爭亦然リトス現象トシテノ戰爭ハ人生ノ惡ナリ而モ此惡ハ善ヲ完全ニ成就セシメンカ爲ノ方便ニ外ナラスト觀ルヲ當レリトスルニ似タリ人ノ健康ヲ善ナリトセハ疾病ハ正ニ惡ナルヘシ而モ疾病カ却テ健康ヲ増進スルノ原因タル

コト尠カラス佛ノ「ボルタリス」カ戰爭ヲ以テ人類ノ一生存狀態ト看做シ強健ナル人ノ發育上ノ病ニ比シタルハ吾人ノ意ヲ得タルモノナリ

植物ノ發育ニ日光ト雨トヲ要スル如ク人類ノ發達ニモ亦平和ト戰爭トヲ要ス人生ノ目的ハ人生其者ヲ發展向上セシムルニ在リテ平和カ目的ニシテ戰爭カ其手段ナルニアラス又戰爭カ目的ニシテ平和カ其手段ナルニモアラス而シテ晴天カ雨天ノ原因タリ雨天カ晴天ノ原因タル如ク平和ハ戰爭ヲ生シ戰爭ハ平和ヲ産ム若シ永久ニ平和ノミ續クトキハ人生ハ沈滯萎靡混濁ヲ免レサルコト恰モ晴天ノミ續ケハ植物カ自然ニ生氣ヲ失ヒ枯死スルト同理ニシテ又若シ人生戰爭ノミ繼續スルトキハ遂ニ其破滅ヲ免レサルコト雨天ノミ續ケハ植物カ發育セサルト同理ナリ羅馬世界帝國ハ數百年間ヲ通シ如何ナル外敵ヨリモ脅カサルコトナク内ニハ不道義悖德充滿シ人々結婚ヲ厭ヒ避妊盛ニ行ハレ其領土内ノ住民數減少シ遂ニ獨逸民族ノ爲ニ掠奪セラルルニ至レリ而シテ過度ニ戰ヲ好ミ武ヲ濫用セシ國家カ其滅亡ヲ速メタル實例ニ至リテハ古今ノ史上ニ尠シトセサルヘシ「スタインメッツ」ハ最モ穩健ナル態度ヲ以テ社會學上ヨリ戰爭ヲ研究シ斷案ヲ下シ

テ曰ク

「人間ノ状態及品位ノ向上ハ平和ニ由ラスシテ戦争ニ由ル是ニ由リテ人間ハ一步一步其理想ニ接近スヘシ唯此眞摯ナル理由アリ乃チ予ハ戦争ヲ辯護スヘシ而モ決シテ戦争ノ慘禍ヲ忘レヌ又其間接ノ不利益ヲ看過セサルナリ」ト悉ク當ラスト雖正ニ一面ノ眞理ヲ道破セルニ庶幾キカ如シ  
「イエンス」ハ戦争ヲ讚美シテ曰ク

「戦争ハ往昔ニテモ現今ニ於テモ最モ強キ文明ノ進歩者ナリ恐ラク曾テハ今ヨリモ強カリシナラン而モ今尙然リ將來亦然ルヘシ但シ戦争ノ數ハ減スヘシ而モ決シテ絶滅スヘカラス戦争ノ絶滅ハ却テ人文ノ障碍タラン夫レ戦争ハ最モ嚴正ナル試験證明ナリ戦争ノ判決ハ毎ニ神ノ判決ナリ生命ヲ賭シテ始メテ生命ヲ得ヘシ」

ト言ヤ過キタルカ如シト雖亦一面ノ眞理ヲ含ムモノト言フヘシ

戦争ハ過去ニ於テハ人生ニ利福ヲ齎シ文化ノ發展ニ有效ナリシモ今ヤ實ニ災禍ナリト主張スル者アリ「フランク」及「ルヴェン」ノ如キ即チ此派ニ屬ス安政ノ地震ヨリ

モ大正ノ地震カ東京市ニ與ヘタル慘害ノ莫大ナリシハ否認スヘカラス文明文化ノ進歩ト共ニ地震、戦争等ノ慘害ノ大規模劇甚トナルヘキハ自然ノ理數ニ屬ス唯戦争ノ慘害ノミ益増大シ其效益カ益減少スルヤ否ヤハ遽ニ斷スルヲ許ササルモノト言フヘシ

以上ハ人生ノ目的即チ至善ハ圓滿ナル幸福ニ在リト爲ス哲學說ヲ根據トスル批判ナレトモ哲學界ノ巨星「カント」ハ其獨自ノ哲學ニ立脚シ戦争ヲ批判シ戦争ヲ以テ道德上ノ惡ト爲セリ其理由ハ戦争カ人類ノ福祉ヲ損スルト言フ點ニ存セスシテ人格ノ品位ヲ破壊シ自由ヲ毀損スト言フ點ニ在リ是レ「カント」獨特ノ主張ニシテ世ノ功利主義的又ハ博愛主義的ノ平和論ト全然理論的根據ヲ異ニス蓋シ「カント」ニ依レハ自ら與ヘタル法則ニ由リテ自らヲ律スルハ人間ノ本分ニシテ此人格ノ自律ノ理念ニ基キ人ハ道德的行動ノ主體トシテ自己目的又ハ目的自體ニシテ決シテ他ノ爲ノ單ナル手段ト爲ルヘキモノニアラス

國家ハ實踐理性ノ要求ニ基キ人間ノ意欲ノ衝突乖離ヲ防止調停シテ人格ノ自由ト品位トヲ擁護スルコトヲ課題トシテ存在スルモノナルカ故ニ自律的ニシテ目

的自體タルヘキ多數ノ人格ノ共同立法ニ基キ成立スル自主的存在者タルヘキ以上其レ自身モ亦他ノ國家ニ對シテハ目的自體ナラサルヘカラス此意味ニ於テ國家ハ儼然タル道德的人格ナリ今戰爭ニ依リ即チ其自身立法ニ參與セル法ニ由ラスシテ國家相互ノ要求ノ正邪カ決セラルル場合ニハ究極其交戰國ノ一方ハ暴力ノ爲其意志ヲ曲ケサルヘカラサルニ至リ他ノ一方ノ爲ニ目的自體トシテ認メラレスシテ唯ノ手段ト考ヘラルルコトト爲ル

斯クテ「カント」ニ依レハ國際間ノ戰爭モ亦個人間ノ爭鬪ト等シク實踐理性ノ要求ニ背戾シ法ノ權威ヲ毀損シ人間ノ道德の本分ニ背反ス即チ道德上ノ惡ナリト言フニ在リ

「カント」ハ人間ハ一面理性的的存在者タルト共ニ他面一種ノ獸類ナリト考ヘ人性ニ於ケル根本惡ヲ認メ戰爭ハ人性ノ根本惡ニ根柢ヲ有スルモノナルカ故ニ其絶滅ハ不可能ナリト斷セリ

抑「カント」ニ依レハ道德上善ト稱シ得ヘキモノハ唯善意アルノミ意志善ナラハ其結果ノ如何ヲ問ハス直ニ皆善ナリ此ノ如キ哲學觀念ニ立脚シテ戰爭ヲ論スルニ

人若シ其理性ノ命スル所ニ從ヒ戰爭ヲ斷行シタリトセハ決シテ之ヲ惡ト認ムヘカラサルカ如シ即チ戰爭カ善ナリヤ惡ナリヤハ之ヲ實行セントスル者ノ意志如何ニ關スルコト性慾ノ遂行カ當事者ノ意志如何ニ由リテ善トモナリ惡トモナルノ理ト同一ニ解シ得サルヤ否ヤ吾人「カント」研究ハ遺憾ナカラ未タ室ニ入ルニ至ラス本問題ノ解決ハ之ヲ後日ノ研究ニ讓ラントス

戰爭ハ全然法ヲ超越セル現象ナリヤ戰爭ハ法ノ認許スル所ナリヤ將タ又戰爭ハ法ノ禁スル所ナリヤ否ヤニ關シテモ古來種々ノ學說存在シ「ケルゼン」ハ戰爭ヲ法律上ヨリ觀察シ「法」ノ許セル戰爭「法」ニ關係ナキ戰爭「及」不法ナル戰爭「ノ三種ヲ認メ或ル學者ハ戰爭ヲ以テ法律手段「國際法違反者」ニ對スル強制手段」ナリトシテ之ヲ法律現象ナリト認ム

吾人ヲ以テ之ヲ觀ルニ戰爭ハ元來純然タル人間理性ノ產物ニアラス情、意、神秘的觀念等理性以外ノ作用カ原動力ト爲リテ起ルコト頗ル多シ故ニ戰爭ハ法ノ防カント欲シテ防キ得サリシモノ即チ法ヲ超越シタル現象ナルコト屢ナリト言ハサルヘカラス

## 第二節 「サン、ビエール」及「カント」ノ平和論

永久平和ヲ理想トスル思想ハ既ニ太古ヨリ存在シ支那聖人ノ教誨ニ於ケル「平天下百姓輯睦」ノ理想ノ如キ「プラトーン」ノ理想國ニ於ケル平和ノ理想ノ如キ又法華經ノ寶塔品ニ於テ「通シテ一佛土タラン」ト述ヘ神力品ニ於テ「十方世界通達無礙如一佛土」ト言ヘルハ將來人類社會カーノ平和國ト爲ラントノ意ニシテ結局永久平和ノ社會狀態カ社會終局ノ理想タルコトヲ述ヘタルモノナリ

基督教ニ先タテル猶太教亦宗教的ニ平和思想ヲ鼓吹セルコト周知ノ事實ニ屬ス基督教ハ希臘哲學ノ四海同胞主義思想ト猶太ノ「メシア」思想トノ融合ヲ以テ茲ニ宗教的世界國家ノ觀念ヲ作り事實ハ兎モ角理想トシテハ無抵抗平和思想ヲ宣傳セリ

平和思想鼓吹ノ爲ニ努力セル人物トシテハ古代ニ於テ「シセロ」「セネカ」「マルクス、オレリウス」等アリ近世ニ於テハ「アルベリクス、ジエンテիրリス」「ウイリヤム、ペン」「ゴー、グロテウス」「パスカル」「ライブニッツ」「カント」「サン、ビエール」「ルソー」等ヲ舉クルヲ

得ヘシ

平和主義ノ思想ヲ類別スレハ宗教的平和主義及學理的平和主義ノ二種ト爲スヲ得ヘク宗教的平和主義ハ多ク宗教的信念ニ基キ神ノ力ニ頼リテ實世界ニ永久平和ヲ招來セシメントシ學理的平和主義ハ人間理性ノ欲求ニ從ヒ古今社會ノ歷程ニ鑑ミ學理的根據ニ立チテ平和ノ理想ヲ宣傳シ主トシテ法理學ヲ楯トシ法ノ力ニ據リ法政的實現機關ヲ通シテ平和ノ實現ヲ圖ラントス

然ルニ平和ヲ理想トスル宗教カ事實ニ於テ無用ナル紛騷ヲ繰リ返シ却テ戰亂ノ動機ト爲リシコト一再ナリトセス法ノ力ニ據リテ永遠ナル平和ヲ招來セントスル努力ハ幾多ノ曲折ヲ經テ遂ニ兎モ角モ今日ノ國際聯盟ノ組織ヲ見ルニ至レリ「西歐古代ニ於ケル平和論ハ理想ヲ過去ノ黃金時代ニ置ク夢想的回顧的平和論多ク將來的世界平和論ハ「アレクサンダー」大王ノ大帝國建設カ機會ト爲リ「アリストテレース」及「ストア」派等ノ所說ニ現ハレタリト云フ

中世紀ニ於テハ連續セル戰亂ニ因リ平和思想ハ一時其姿ヲ潛メタリト雖第十四世紀ノ伊太利人「ダンテ」アリギエリ「世界帝國ヲ建設シ永久平和ヲ維持スヘキヲ切

論セリ近世歐洲諸國家ノ固定シ始ムルニ及ヒ平和論ハ新ニ擡頭シ來リ「アルペリクス、ジエンティリス」ハ千五百八十八年始メテ「國際戰時法」ヲ「フリーゴ、グロートイウス」ハ千六百二十五年「戰時及平和法」ヲ著ハシ法ヲ以テ戰爭ヲ防止シ少クトモ之ヲ緩和センコトヲ企圖セリ

然レトモ是等ノ國際法學者ハ未タ國際聯盟ニ依リ國際法ヲ權威アルモノタラシムルノ著意ヲ缺キシカ千六百三十四年佛國王「アンリ」四世ノ考案ト稱セラルル宰臣「シユリー」ノ國際聯盟ノ「大計畫現ハレタリ該計畫ニ依レハ十五箇ノ基督教國ハ其代表者ヲ以テ國際委員會ヲ組織シ其共通問題繫爭事件ヲ處理セシメ且聯合軍ヲ置キテ強制ノ力ヲ備ヘ最高裁判所ヲ設置シテ國際爭議ヲ判決セシメント言フニ在リ

「ウトレヒト」ノ和議後千七百十三年ヨリ同十六年ニ互リテ「サン、ビエール」ノ「永遠的平和草案」三卷出版セラレ次テ「ルソー」ハ千七百六十一年此大著ノ拔萃ヲ編纂シ平和思想ノ宣傳ニ勉メタリ

「サン、ビエール」ノ平和論ハ彼ニ先行セル法理學者ノ説論ト實際政治家ノ考案トヲ

基礎トシテ成立シタルモノニシテ彼ノ提案タル國際聯盟ハ彼以前ノ「フリーゴ、グロートイウス」及「ホップス」等ニ依リテ説カレタル國家ノ成立ニ關スル契約説ヲ出發點トシ彼ハ是等ノ説ニ立脚シテ國際聯盟ノ成立セサルヘカラサルコトヲ力説セリ抑「グロートイウス」ハ社交的衝動ヲ以テ人間本然ノ性ト爲スニ反シ「ホップス」ハ利己的即チ非社交的衝動ヲ以テ人間本然ノ性ト爲シ自然狀態ハ「總テノ者ノ總テニ對スル戰爭」ノ狀態ナリト考ヘタリ

「グロートイウス」ハ國家ハ人間カ本能的ニ有スル社交的衝動力認識ノ進歩ニ促サレテ有意的ニ整理精鍊セラレタル結果ナリトシ「ホップス」ハ國家ヲ以テ人間本來ノ戰爭狀態ヲ緩和シテ利己的衝動ニ満足ヲ與ヘンカ爲ニ起レルモノナリト爲スト雖國家カ自然狀態ヨリ契約ニ基キテ成立スルトスル點ニ於テハ兩者其揆ヲ一ニス

「サン、ビエール」ハ此契約説ヲ出發點トシテ次ノ如ク考ヘタリ  
若シ「ホップス」ノ言ヘル如ク各個人カ互ニ敵視シテ抗爭シ又「グロートイウス」ノ考ヘタル如ク共存共榮ノ生活ヲ求メナカラ其社交的衝動力極メテ不完全ニ充足セラレ

在リシ無法ノ自然狀態ヨリシテ法ニ依テ支配セララルル公民社會即チ國家カ起リ  
 タリトスレハ同様ノ進化カ各國家間ニモ起リ數多國家ヲ成員トスル協同體カ成  
 立シ得サル理由ナカラシ此ノ如キ國家聯合ハ小規模ニ於テハ既ニ歷史上ニ現ハ  
 レ居リ瑞西「ネーデルラント」合衆國及獨逸帝國即チ是ナリト

敍上ノ考察ノ下ニ彼ハ「永遠的平和草案」ヲ提唱シタリ其要項左ノ如シ

一 歐洲ノ二十四基督教國カ永遠的平和聯盟ヲ組織シ爲シ得レハ回教國ヲモ之  
 ニ參加セシメ此聯盟ノ代表機關トシテ「ウトレヒト」ニ常設國際委員會ヲ置クコ  
 ト

二 聯盟ハ之ニ屬スル國家カ其規定ニ背反セサル限り其内政ニ干涉スヘカラサ  
 ルコト

三 各聯盟國ハ六千人以上ノ常備軍ヲ有スヘカラサルコト

四 一切ノ領土的变化ハ侵略ノ結果ナル場合ハ勿論相續、贈與等ニ依ル場合ト雖  
 絶對的ニ禁止セララルヘキコト

五 一切ノ國際的爭議ハ國際委員會仲裁裁判ニ依リテ調停セララルヘキコト

千七百九十五年「カント」(Zum ewigen Frieden) (永遠的平和ノ爲ニ)ヲ著ハシ永遠的平  
 和ヲシテ可能ナラシムヘキ諸條件且永遠的平和カ實現セララルル形式ヲ論述シタ  
 リ當今平和論者ニ依リ屢引用セララルモノ即チ是ナリ

「カント」ノ平和論ハ其先行者タル「サン、ビエール」ルソー等殊ニ前者ニ負フ所尠カラ  
 スト雖其説論ハ「カント」獨特ノ哲學的觀念ニ由リテ一貫セラレ現實ニ因ハレス功  
 利ニ墮セス且空想的憧憬若ハ感情的博愛主義等ヲ離レ超然トシテ純理論的ニ其  
 平和主義ノ基礎ヲ確立シタル高邁ナル識見ニ至リテハ燦トシテ正ニ暮夜ノ明星  
 タルノ偉觀ヲ呈ス

抑「カント」ノ理想ノ崇高悠遠ナル屹然トシテ群ヲ拔キ何人ト雖近ツキ易カラサルカ  
 如シト雖他面又彼程深ク人間性ヲ意識シタル者尠ク彼ハ人間ノ社交性妥協調和性  
 ヲ認ムルト共ニ非社交的衝動、抗爭排他的衝動ヲ認メ人間ハ一面理性的存在者タ  
 ルト共ニ又他面一種ノ獸類ナリトシ人格ノ神聖ヲ意識スルト共ニ人間ノ不神聖  
 ヲ知ルカ故ニ空想ニ偏セス現實ニ因ハレス所謂「カント」一流ノ哲學觀ヲ生シタリ  
 「カント」ハ戰爭ヲ以テ道德上ノ惡ト爲シ平和主義ニ確乎タル哲學的並倫理的基礎

ヲ與ヘ永遠的平和ヲ以テ人生ノ理想ナリト主張シ之ヲ可能ナラシムル爲ノ諸條件及永遠的平和ノ實現セラルル形式等ヲ論シタリト雖而モ彼ハ此永遠的平和ノ完全ナル實現ハ不可能少クトモ不可保證的ナリト考ヘタリ是レ「カント」カ他ノ平和論者ト其選ヲ異ニシ彼ノ偉大ナル所以ノ一ナリ

「カント」ハ永遠的平和ヲ實現セシムル爲ノ第一條件トシテ各國ハ共和政體ヲ採用セサルヘカラサル旨ヲ主張セリ但シ「カント」ノ所謂共和政體トハ今日普通ニ解釋セラルル共和政體トハ其意義ヲ異ニシ唯立法權カ執行權ヨリ嚴密ニ區別セラレ而シテ其レカ代議士ヲ通シテ總テノ公民ノ手ニ在ルヘシト言フノ意義ナリ是ヲ以テ「カント」ノ所謂共和政體ハ君主政體(普通ノ意味ニ於ケル)ト反對ノ意味ノモノニアラサルノミナラス却テ凡テノ者カ立法者ニシテ且執行者タラント欲スル民主制ハ「カント」ノ意味ニ於ケル共和政體ニアラスシテ立法權ノ所有者ハ出來得ルタケ多ク、最高執行權ノ所有者ハ爲シ得ル限り少キ政體即チ立憲君主政體カ自由ト強制トヲ調和連絡スト言フ法ノ理念ニ合シ法ノ確保ヲ職分トスル所ノ國家ノ理念ニ最モ適合シタルモノナリ然ルニ「カント」ハ此永遠的平和ノ實現ノ第一條件

即チ共和政治ノ精神カ遺憾ナク充足セラレ國家契約說ノ理念ニ完全ニ契合スル如キ政治ノ實現ハ不可能ナリト考ヘタリ何トナレハ彼ニ依レハ人間ハ一面理性的存在者タルト共ニ又他面一種ノ獸類ニシテ理性的存在者トシテハ總テノ人ノ自由ヲ制限スル所ノ法則即チ法律ヲ要求スト雖其利己的獸的傾向性ハ其自由ヲ濫用シ機會ヲ求メテ自己ノミヲ其法則ノ拘束ヨリ除外センコトヲ努ム是ヲ以テ共同生活ヲ行フ人間ヲシテ其利己的意志ヲ壓伏シテ法ニ服從セシメンカ爲ニハ或ル權威者ヲ要ス然ルニ此權威者モ亦等シク人間ナルカ故ニ其私心ヲ制壓センカ爲ニハ其レ自身モ亦他ノ權威者ヲ要スル獸類ナリ權威者(一人又ハ多數)ハ絕對的正義ノ維持者ナラサルヘカラサルニ拘ラス是レ亦私心ニ支配セラレ易キ獸類トシテノ人間ナリ斯クテ法カ純粹ニ且完全ニ威力ヲ發揮スヘキ社會ノ實現ハ到底不可能ナリト言フニ在リ而シテ「カント」ハ「吾人カ自然ニ依テ課セラルルハ唯此理念ヘノ接近ノミ」ト説キタリ

永遠的平和實現ノ爲ノ第二ノ條件トシテ「カント」ハ國際聯盟ノ必要ヲ舉ケタリ彼カ他ノ平和論者ノ如ク世界共和國ノ實現ヲ理念トセス各民族カ各自主權ヲ維持

シ自由ナル國家生活ヲ營ミツツ相對立スルコトニ哲學的倫理的意義ヲ認メ此等ノ自由國家ノ聯盟ノ成立ヲ理念トシタルハ其識見ノ超凡ナル所以ノ一ナリ  
彼惟ラ共和政體ノ國家カ漸次増加シ和戰ノ決カ人民ノ意志ニ依リテ行ハルル如クナラハ單ニ人間ノ道德的自覺ニ由ルノミナラス其本能的傾向性ノ結果トシテ國際聯盟ノ必要ハ漸次納得セラルルニ至ルヘク其成立ノ可能性存在スト  
然レトモ國際聯盟カ完全ニ成立シ一切ノ戰爭ヲ終熄セシメンカ爲ニハ一方爲シ得ル限リ聯盟ノ範圍ヲ擴大シ終局ニ於テハ總テノ國家ヲ包含スル普遍的國際聯盟ト爲スヲ必要トスルモ他方ニ於テ範圍カ擴大スレハ其施政ハ次第ニ困難且不完全ト爲リ最後ニ不可能ト爲ルコトナシトセス然ルニ若シ國際聯盟カ普遍的トナラスシテ若干ノ聯盟カ對立並存スルニ於テハ其聯盟相互間ニ戰端ヲ開ク危險ヲ包藏ス是ヲ以テ「カント」ハ國際聯盟ニ因ル永遠的平和モ畢竟「不可達成」の理念ナリト斷シタリト雖彼ハ永遠的平和ヘノ不斷ノ接近ニ必要ナル國際聯盟ヲ組織スヘキ政治的原則ハ「不可實行」ニアラスト説キタリ  
永遠的平和實現ノ爲ノ第三ノ條件トシテ「カント」ノ主張セルハ世界公民的社會又

ハ世界一家主義ノ實現是ナリ彼ニ依レハ世界主義的素質ハ人性ノ根柢ニ存在シ人間ハ世界公民的社會ヲ作ルヘキ本分ヲ有スルノ自覺ヲ有ス然レトモ人性ノ他面ニハ非社交性排他的素質存在スルヲ以テ此第三條件モ亦完全ニ實現セラルルコト不可能ニシテ「不可達成」の理念ナリト爲セリ

要スルニ「カント」ニ依レハ永遠的平和招來ノ爲ノ必要條件タル共和政體モ國際聯盟モ世界公民的社會モ其完全ナル實現ヲ見ルコトハ不可能ナリ從テ之ニ因リテ實現セラルヘキ永遠的平和モ亦「不可達成」の理念ナリ人間ニ可能ナルハ此永遠的平和ヲ理念ノ完全ナル實現ニアラスシテ其レヘノ「不斷ノ接近」ナリ是ヲ以テ「カント」ノ所謂永遠的ハ超時間的ノ義ト解スヘク即チ「カント」ノ永遠的平和狀態ハ一定時間ニ實現セラルヘキ狀態ニアラス永遠ノ課題超時間的ニ妥當スル理性ノ課題ナリトス「法理學」ノ形而上學的基礎ノ末尾ニ於テ彼ハ明瞭ニ「永遠的平和カ事實ト爲リテ現ハルルモノナリヤ否ヤハ問題ニアラス其レハ恐ラク事實ト爲リテ現ハレサラン然レトモ吾人ハ現ハルルモノナルカノ如ク行動セサルヘカラス云々」ト論述セリ「抑「カント」ニ依レハ永遠的平和ハ「不可達成」の理念ナリト雖永遠的平和ノ理念ハ實



踐理性ノ要求トシテ絶對的妥當性ヲ有ス縱ヒ戰爭ノ終熄ト謂フコトノ完全ナル實現ハ結局單ナル敬虔ナル願望タルニ止マルトスルモ之カ爲ニ間斷ナク努力スルハ即チ人間ノ義務ナリト言フニ在リ

永遠的平和ノ理念ノ不可達成ナルコトヲ認メタリトイフ理由ヲ以テ永遠的平和ニ對スル「カント」ノ愛著ト熱誠トヲ疑フ者アラハ其ハ大ナル誤解ニシテ是レ「カント」ノ理念ノ意味ヲ正解セサル罪ニ坐スルモノト謂フヘシ「カント」ハ哲學上及倫理上理念ニ重大價值ヲ附シ縱ヒ其達成カ絶對的ニ不可能ナリトスルモ儼然タル價值ヲ有スト爲シ經驗ニ矛盾ステフ理由ヲ以テ理念ノ價值ヲ非認スルハ最モ有害ナリト斷シタリ何トナレハ倫理、法律、宗教等ノ領域ニ於テハ現實ノ經驗的事實ヨリシテ其原理カ歸納導出セラルヘキニアラスシテ原理トシテノ理念カ始メテ此ノ如キ經驗ヲ可能ナラシムルモノナリ理念ノ實現ノ不完全ナル原因ハ人性其者ニ不可避的ニ存スルコトアランモ其最モ主要ナル原因ハ寧ロ理念ノ意義ヲ認メテ其完全ナル實現不可能ナリトノ理由ヲ以テ直ニ之ヲ空想トシテ排斥シ其代リニ經驗ヨリ導出セラレタル粗笨ナル概念ヲ原理ト爲スニ因ルト言フニ在リ

從來ノ平和論者カ多ク直ニ招來シ得ヘシト信シタリシ永久平和又ハ單ナル空想トシテ輕蔑セラレタル永遠的平和ハ「カント」ニ於テ明確ニ永遠的超時間的ノ課題ト爲リ縱ヒ其完全ナル實現不可能ナリトスルモ之ニ接近センコトヲ勉ムルハ吾人ノ義務ナリト斷シタル所ニ「カント」ノ超凡ニシテ偉大ナル點ヲ認ムヘク彼カ他ノ多クノ平和論者又ハ理想無キ物質主義者ト全然其選ヲ異ニスル所以タラスンハアラス

永遠的平和ヘノ間斷ナキ接近ハ果シテ可能ナリヤ可能ナリトセハ其ハ如何ナル道程ヲ經テ爲サルルヤ是レ次ニ考查スヘキ重大問題ナリ「カント」ハ惟ヘラク永遠的平和ヘノ間斷ナキ接近ハ人生ノ歷史上ニ實現スルヲ得ヘク而シテ之カ實現ハ二個ノ力ノ協力ニ由ル其一ハ道德的洞見ニ基ク吾人ノ「當爲」ノ意識ニシテ「戰爭アルヘカラス」ナル實踐理性ノ絶對的禁令ハ永遠的平和ノ招來ニ貢獻セサルヘカラスル義務ヲ吾人ニ課シ此義務意識ハ種々ノ障礙ヲ排シテ此理念ノ實現ニ努力スルカヲ吾人ニ與フ其二ハ自然運命ニシテ人類カ其レヲ欲スルト欲セサルトニ拘ラス人類ヲ強制シテ此方向ニ進マシムト

「カント」ノ考フル所ニ依レハ自然(運命)ハ人類ヲシテ完全ナル國內法、國際法及ヒ世界公民法ニ依リ永遠の平和ナル崇高ナル道德的目的ヲ實現セシムルコトヲ終局ノ目標ト爲シ此目的達成ノ爲其萬能力ニ依リ自然界ヲ設備シ人間ニ自然的傾向性ヲ與ヘタルモノノ如シト即チ

- 一 自然ハ地球上到ル處ニ人間ノ生活シ得ル如ク設備ス
- 二 斯ク設備セラレタル各地ニ人類ヲ分布センカ爲ニ之ニ賦與シタル好戰的傾向性ヲ利用ス例ヘハ「サモエド」族ハ好戰的ナル蒙古人種ニ壓迫セラレ「アルタイ」山脈ノ同族ヨリ割カレテ北氷洋沿岸ニ移轉シ「フィン」族ハ「ゴート」族ニ壓迫セラレ同族タル「ウンガル」族ヨリ別レ北方遠隔ノ地ニ移レリ
- 三 此戰爭慾ハ自ラ人間ヲ連結シ法カ或ル程度ニ於テ權威ヲ有スル所ノ團體即チ幼稚ナル形ニ於ケル國家ヲ成形セシム何トナレハ一民族カ他民族ト對抗シ其壓迫ヲ免レ若ハ優勝ノ地位ニ立タンカ爲ニハ鞏固ナル團結ヲ成形セサルヘカラサレハナリ而シテ團結中最モ鞏固ナルモノハ一切ノ成員ニ洩レナク服從ヲ要求スル所ノ集合意志ニ基ケル團結即チ國家ナリ

自然ハ敍上ノ如ク成立セル團體ヲシテ國內法、國際法、世界公民法ヲ實現セシムヘク進ミ第一ニ道德的理由ニ基カス人間ノ自己保存ノ理由ヨリシテ即チ自然的機械作用ノ結果トシテ徐々ニ彼等ヲハ法ニ從ヒテ行動シ平和状態ニ於テ生活セントスル善良ナル公民ニ仕立テ上クルモノナリ

第二ニ自然ハ諸民族ノ融合混淆ヲ妨ケテ之ヲ分立對抗セシメテ其間ニ國際聯盟ノ理想ヲ實現セシメントス國際聯盟ハ數國家ノ並立ヲ豫想ス若シ自然ニ放任スルトキハ其等ノ國家ハ戰爭状態ニ在ルヘシト雖而モ諸民族カ悉ク一普遍的國家ニ融合スルニ比スレハ遙ニ理性ノ要求ニ適ス何トナレハ統治ノ範圍ノ擴大スルニ從ヒ法律ハ其力ヲ失ヒ劃一的主義ハ人民ノ活力ト自由ノ精神トヲ滅殺シ道義心ヲ麻痺セシメ終局無政府状態ヲ誘致スレハナリ自然ハ諸民族ノ併合又ハ融合ヲ妨クヘク國語及宗教ノ相違ヲ手段トシテ利用ス

以上ノ如クシテ分離セラレタル諸民族ヲ結合又ハ聯合センカ爲自然ハ人間ノ自然的傾向性ヲ利用ス即チ人間ノ自然性タル利己心ハ利得慾ヲ産ミ利得慾ノ結果商業起リ民族間ノ通商貿易盛ントナルニ從ヒ國際戰爭トノ調和困難トナリ成ル

ヘク之ヲ避クルコトニ努メシム斯克テ政治及道德ヨリシテ全然獨立ニ人間ノ自然性ノ機械的作用ヨリシテ次第ニ國際法、世界公民法カ力ヲ有スルコトト爲リ徐々ニ永遠的平和ノ理念ニ接近スヘシ

以上ハ「カント」自身一ノ假說ナリト稱シ而モ物理的假說ニアラスシテ超物理的假說ナリ何トナレハ「運命」又ハ「自然」ノ意圖ト言フカ如キモノハ可能的經驗ノ對象ニアラサレハナリト言明ス「カント」ハ永遠的平和ヲ招來センカ爲ノ積極的條件トシテ左ノ三項ヲ擧ケタリ

一 各國家ノ憲法ハ共和的ナラサルヘカラス(註、共和的トイフ意味ハ普通ノ共和的ノ義ニアラサルコト前述ノ如シ)

二 國際法ハ自由ナル國家ノ聯合ニ基礎ヲ置カサルヘカラス(註、換言スレハ自由國家ヨリ成ル國際聯盟ノ必要)

三 世界公民法ハ普遍的好遇ノ制約ニ制限セラルヘシ(註、人ハ如何ナル國家ニ於テモ其人民ノ爲敵トシテ待遇セラルルコトナク訪問權ヲ與ヘラレ又單ニ之ノミニ制限セラルヘシ)

次ニ「カント」ハ永遠的平和ヲ不可能ナラシムル如キ事項ノ禁止ヲ目的トスル左ノ諸條項ヲ必要ナリト主張セリ

一 將來ノ戰爭ニ要スル材料ヲ秘密ニ保存スヘク設定セラレタル一切ノ平和ハ無効タルヘシ

二 獨立ノ國家ハ其大小ニ論ナク相續、交換、賣買又ハ贈與等ニ由リテ他ノ國家ノ所得トセラルルコトアルヘカラス

三 常備軍ハ漸次全廢セラルヘシ(註、「カント」當時ノ常備軍ハ徵兵制度ニ依レルモノニアラス職業的兵士トシテノ傭兵ノ集團ナリ)

四 國家ノ對外紛爭ニ使用セラルヘキ國債ヲ起スヘカラス

五 總テノ國家ハ暴力ヲ以テ他ノ國家ノ憲法又ハ政府ニ干渉スヘカラス

六 戰時中如何ナル國家モ將來ノ平和ニ於テ相互ノ信賴ヲ絶滅スルカ如キ對敵行動例ヘハ暗殺者又ハ毒殺者ノ使用、降服條約ノ違反、敵國ニ於ケル謀叛ノ教唆等ノ如キ行動ヲ取ルヘカラス

以上ノ禁止事項ハ「カント」カ認メテ以テ國民相互間ノ敵意ヲ刺戟シ民族相互間ノ

憎惡心又ハ恐怖心ヲ惹起シ以テ平和ヲ攪亂スルモノト爲シタルノミナラス其事  
項自體カ道德又ハ法ニ背戾スト爲シタルモノナリ

### 第三節 國家カ戰爭ヲ決行スヘキ場合

國家カ如何ナル場合ニ於テモ戰爭ヲ企圖スルハ即チ武ヲ贖スモノニシテ罪惡タ  
ルト等シク如何ナル場合ニ於テモ平和ニ眷戀タルモ亦罪惡ナリトス「ラッソン」カ「國  
王ハ平和ノミヲ好愛スヘカラサルト共ニ戰爭ノミヲ好愛スヘカラス國家カ平和  
ヲ要スル場合ハ平和ヲ愛スヘク國家カ戰爭ヲ要スル場合ハ戰爭ヲ恐ルヘカラス」  
ト述ヘタルハ至言ナリト謂フヘシ

基督ノ無抵抗主義ノ如キ當時ノ殺伐好戰時代ニ於ケル人心ヲ緩和スル爲ノ道德  
的價值ハ之ヲ認ムヘシト雖而モ人間無抵抗主義ニ終始セハ人生ノ諸活動ヲ望ム  
ヘカラス況ンヤ人文ノ進歩ヲヤ此無抵抗主義ハ痛ミニ對スル鎮痛劑トシテ有效  
ナルモ之ヲ濫用セハ即チ人生ノ魔睡劑ト爲ルヘキハ明白ナリ蓋シ抵抗ハ存在ヲ  
證スル唯一ノ要素ニシテ抵抗ナケレハ即チ存在セサルコトヲ證明スルモノナル

カ故ニ人物電氣總テノ存在物ハ性トシテ抵抗ヲ有スルモノナレハナリ

民ニ抵抗カアリテ國民存在スルコト個人ニ抵抗カアリテ個人存在スルト同理  
ナリ故ニ國民ハ戰爭ヲ必要トスル場合ニハ斷々乎トシテ之ヲ決行スルノ勇ナカ  
ルヘカラス是レ國家當然ノ道德上ノ義務ナリ是ヲ以テ要ハ如何ナル場合ニ國家  
ハ戰爭ヲ必要トスルヤノ問題ニ歸スヘシ抑、各國家ハ各、自主權ヲ保持シ自由ナル  
人格者トシテ相對立シ各、固有ノ文化的道德的使命ヲ有スルモノナルカ故ニ其自  
主權カ侵害セラレ其自由ナル存立條件カ脅カサレタル場合戰爭ヲ決行スルハ正  
ニ道德上國家當然ノ權利ナリトス是ヲ以テ古今東西ヲ問ハス權利擁護戰(存立條  
件、名譽、文化的使命ノ防禦)ノ正當ナルコトニ關シテハ何人ト雖之ヲ否認スル能ハ  
サル所ニシテ名ノ正シキヲ求メンカ爲何レノ戰爭ニ於テモ其當事國ハ權利擁護  
戰ナルカノ如ク裝ハンカ爲有ユル外交並宣傳ノ手段ヲ講スルヲ常トス彼ノ世界  
大戰ニ於ケル聯合國側勝利ノ一因ハ實ニ其戰爭原因論ノ高唱、戰爭責任者ノ糾彈  
ニ在リト言フヲ得ヘシ國際法ノ始祖「グロチユス」ハ其不朽ノ名著「平戰條規」ニ於  
テ戰爭ノ正當ナル場合如何ヲ論述シ「權利ノ侵害」ニ對シテ行フ戰爭ヲ正戰(bellum

Justum)ナリト認メ此論ハ古來ノ識者ノ賛成是認シタル所ニシテ「ケルゼン」ノ所謂法ノ許セル戰爭即チ是ナリトス

權利擁護ノ爲ニスル戰爭カ正戰ナルコトハ何人モ了解シ得ヘキ所ナルヘシト雖其他ノ戰爭例ヘハ「利益擁護」ノ爲ニスル戰爭ハ果シテ如何更ニ此等防禦戰(權利擁護、利益擁護)以外能働的ニ行フ戰爭ハ悉ク邪戰ナリヤ否ヤ是レ頗ル重大ナル問題ニシテ古今ノ哲學者、倫理學者、法學者等ノ所論必スシモ一致セス

國家ノ政治的發達ヲ認メ其政治的發達カ戰爭以外ノ方法ヲ以テシテハ遂行セラレサル場合ニハ戰爭ヲ必要トストノ見地ニ立脚スル者ハ此ノ如キ目的ノ爲ニスル能働受働ノ兩戰爭モ亦正當ナリト認メ古來戰爭ハ多ク法律的理由ヨリハ軍口政治的理由ニ基キ起リタルコトヲ引證ス

各國家ハ自主權ヲ保持シ自由ナル存在者タリト雖實際ナク其自由權ヲ行使スルトキハ他國ノ自主自由ナル存在ヲ脅カスニ至ルコトナシトセス道德的世界組織ノ一部タル國家ハ人格者トシテ常ニ國際道德ヲ遵奉シ自國ノ自主權、自由權ノ確保ヲ期スルト同時ニ他國ノ自主權、自由權ヲ尊重セサルヘカラス蓋シ各國民ノ有

スル特別使命ハ全人類ニ課セラレタル使命ノ鏈鎖中ノ一節ニ過キサレハナリ(ブルーム)「戰略論」故ニ濫ニ自由權ヲ振り廻シ自己ノ政治的發達ノ爲必要ナリトノ理由ノ下ニ無制限ノ戰爭權ヲ是認スルハ妥當ナリト言フヘカラス

然ラハ權利擁護戰以外ノ戰爭ハ總テ不正當ナリヤト言フニ吾人ハ必スシモ然ラスト信ス希臘、合衆國等ノ獨立戰爭ノ如キ伊太利統一戰爭ノ如キ何レモ權利擁護ノ受働的戰爭ニアラスシテ自發的能働的權利主張ノ戰爭ナリト雖世人ハ之ヲ認メテ正當ナル戰爭ナリト爲スニ躊躇セス各民族ハ各其使命天分ヲ有スルコト各個人ノ如シ是ヲ以テ一民族カ其民族的使命(文化的使命及自然的發達ノ使命)ヲ果ス爲ニ戰爭以外ノ方法ヲ以テスル能ハス戰爭ヲ絕對必要ト言フコトハ民族的使命ヲ果ス爲ニ有效ナルコトヲ意味ス(ナリト確信スルトキニ戰爭ヲ決行スルハ其レカ權利ノ主張權利ノ擁護ニ在ルニセヨ)將タ又利益ノ擁護ニ在ルニセヨ常ニ正當ナリト言フヲ得ヘシ「ラッソン」カ戰爭ヲ以テ「國家間交渉ノ繼續ニ過キス」ト唱ヘ又「國家ハ自己ノ完全ナル自覺ヲ戰爭ニ依リテ始メテ達スルヲ得」ト言ヒ「トライチーク」カ「戰爭ヲ行フ國家ハ其存在ヲ最高ニ實現スル國家ナリ」ト述ヘ「ヂンチリ

ス「カ均勢主義ニ基ク能働的戰爭ヲ認メタルハ蓋シ彼上ノ意義ニアラサルナキカ  
甲民族ノ自覺スル其使命天分ハ必スシモ乙民族ノ了解シ得ヘキ所ニアラス故ニ  
一民族カ正當ナリト確信スル事モ他民族ヨリシテ之ヲ觀レハ不正當ナリト思惟  
セラルル場合尠カラス是ニ於テカ吾人須ラク「カント」ニ從フヲ要ス彼曰ク「意志善  
ナラハ其結果ノ如何ニ拘ラス皆善ナリ」ト例ヘハ歐洲大戰爭前獨逸民族カ眞ニ其  
民族の使命ヲ果ス爲ニ戰爭ヲ必要ナリト思惟シ我起テ戰ハサレハ獨逸民族ハ  
居ナカラニシテ滅亡ノ運命ヲ免ルル能ハスト確信シ戰爭ヲ開始シタリトセハ縱  
ヒ其カ他民族ノ爲ニハ荒唐無稽ナル如ク考ヘラレ且又事實ニ於テ其不合理ナリ  
シコトヲ證明セラレタルニセヨ吾人ハ獨逸民族ノ開戦ノ決心ヲ正當ナリト斷ス  
ルニ躊躇セス其結果ノ所信ト相違セルハ是レ人間ノ不明ノ致ス所如何トモスヘ  
カラス罪ハ獨逸民族ニアラスシテ人間ノ半聰明ナルニ存在ス但シ獨逸民族總テ  
ノ者カ彼上ノ自覺ヲ有セシヤ否ヤニ就テハ疑ナキ能ハス（ブルーム）ハ其戰略論ニ  
於テ更ニ戰爭ヲ決行スル動機ハ多ク文明文化的理想又ハ自覺ニアラスシテ人類  
及ヒ國民ノ情熱不完全不徳ノ致ス所ナリト論セリ）

縱ヒ同一國民中ニ於テモ甲ノ以テ當該民族ノ使命天分ナリト考フル所ノモノ必  
スシモ乙ノ認メテ以テ然リトスル所ニアラス彼ノ千八百十二年戰役ニ於テ露軍  
カ「ナポレオン」軍ヲ露國國境外ニ驅逐スルヤ露軍總司令官「クツゾフ」將軍ハ既ニ  
露國民ノ使命ヲ果シタリト信シ更ニ進撃シテ露國將士ノ血ヲ流スカ如キハ全然  
無用ノ事業ナリト思惟シタルニ拘ラス當時ノ露帝ハ全然之ト反對ノ意見ヲ有シ  
露國民ノ使命ハ單ニ「ナポレオン」軍ヲ露國內ヨリ擊攘スルヲ以テ充サレタリト言  
フヘカラス長驅「ナポレオン」軍ヲ殲滅シ其根據地「巴里」ヲ衝キ奈翁ヲ倒シテ全歐洲  
ヲ「ナポレオン」ノ放恣壓迫ヨリ解放スルヲ必要ナリト認メ遂ニ「クツゾフ」將軍ノ  
辭職ヲ見ルニ至リタルハ史上ニ明ナル所ナリトス世界大戰ノ當時聯合國ハ切リ  
ニ我國ニ對シテ歐洲派兵ヲ要請シタルコト今尙世人ノ記憶ニ新ナル所ニシテ戰  
後一部ノ人士間ニハ當時派兵ヲ斷行セサリシヲ悔ユル者ナキニアラス功利主義  
ニ立脚スル者ノ論トシテハ一應ノ理ナキニアラスト雖吾人ハ斷シテ此種ノ論者  
ニ與スル能ハス蓋シ歐洲派兵ノ如キ帝國ノ自由ナル存在又ハ大和民族ノ使命ト  
毫モ相關スル所ナキノミナラス何等カノ代價ヲ約シテ一國ノ軍隊ヲ他國ニ貸與

(名目ノ何タルニ拘ラス事實ハ貸與ナリ)スルカ如キハ軍隊ノ尊嚴神聖ヲ毀損スルモノナレハナリ「カント」亦此見地ニ立チ國民ノ權利ト同様其義務モ亦私法的契約ニ依リテ左右セラレヘキモノニアラサルヲ力説セリ

彼ノ「カブール」カ伊太利軍ヲシテ「クリミヤ」戦争ニ參戰セシメタルハ伊太利カ露國ニ對シ何等抗爭ノ原因ヲ有シタルニアラスト雖彼ハ伊太利統一ヲ以テ伊太利民族ノ使命ナリト信シ此國民的的使命ヲ遂行センカ爲ニ伊太利ノ列強間ニ於ケル實際的地位ヲ向上セシメ他日ノ素地ヲ作ルヲ以テ急務ト思惟シタレハナリ是ヲ以テ伊太利ノ「クリミヤ」戰參加ハ日本ノ歐洲派兵トハ全然其趣ヲ異ニスルヲ知ルヘシ

#### 第四章 戦争ノ進化

戦争ノ動機カ人類ノ進化ニ應シ進化シ來レルコト前既ニ之ヲ述ヘタリ即チ原始人ハ食料ノ獲得、婦人奴隸ノ爭奪等概シテ原始的動機ノ爲ニ戰ヒ文明文化人ハ概シテ進歩セル動機ノ爲ニ戦争ヲ誘起シ最近ノ大戰ニ於テハ「正義人道」ナル標語ノ下ニ驟起セル大國民アリ以テ戦争ノ防遏ニ努力スルノミカ必スシモ正義人道ニ

合セルモノニアラサルヲ知ルヘシ

戦争其レ自體モ亦人生ノ進歩ト共ニ進化スヘキハ自然ニシテ戦争ノ規模、交戦ノ形式、交戦手段、戦争道德等ハ時勢ト共ニ變化シ來リ其重要ナル素因ハ實ニ國家ノ發達、社會ノ進歩、兵制ノ改革、軍事工藝技術ノ發達ニ伴フ戦用資材ノ改良進歩、思想ノ變遷等ニ在リ

#### 第一節 社會ノ進化ト戦争ノ生長

人間最初ノ戦争状態カ個人ノ争闘乃至個人ヲ主體トスル數人ノ争闘ナリシヤ將タ又「人群」間ノ争闘ナリシヤニ關シテハ古來學者ノ説ク所一定セス「ウイルヘルム、グント」ゲオルグ、エフ、ニコライ「博士」等ハ人間最初ノ戦争状態ヲ以テ個人ノ争闘乃至個人ヲ主體トスル數人ノ争闘ナリト説ケリ而シテ此種論者ハ戦争 Bellum カ決闘 Duellum ヨリ生シタル事實並「人群」ナルモノハ無組織亂雜ノ集團ニシテ首長ナカリシ事實動産ノ所有ハ既ニ「共有」ニ先チテ「私有」ノ時代アリシ事實等ヲ舉ケテ其説ノ根據ト爲スモノノ如シ又其反對論者ハ「戦争」ニ關スル言葉ハ戦争ヲフ事實ヨ

リ遙ニ後レテ生シタルモノニシテ人間言語ノ發達ハ却テ戰爭ノ賜物ナリ(註、多クノ人間ノ爭鬭行動ヲ協調セシムル爲ニハ言語ヲ必要トシ群ノ爭鬭ヲ爲ス動物鳥蛙等ハ種々ノ音聲ヲ發スト稱ス)又縦ヒ首長ナクトモ戰爭カ防戦ノ性質ナル場合ニ於テハ能ク人群ノ爭鬭行爲ヲ協調セシムルヲ得ヘク戰爭ノ起原ハ防戦ナリ且物ノ「共有」ハ「私有」ニ先チテ存在スト論證ス

言語ノ發生ニ先チテ戰爭ヲ事實ノ存在セシコトハ事實ナルカ如シト雖戰爭ノ起原ヲ防戦ト爲スハ不合理ナリ是レ人群ト他ノ動物トノ戰爭ナラハイサ知ラス苟モ人群カ人群ニ對シ防戦スル以上攻戦ト防戦トハ同時ニ存在スヘキモノナレハナリ寧ロ人群カ他ノ動物ノ襲來ニ對シ防戦セシ爲ニ言語發達シ其結果首長カ戰鬭ヲ指導シ得ルニ至リタリト觀ルヲ至當トスヘシ「共有」カ「私有」ニ先チテ存在セシコトハ事實ナランモ是レ不動産ニ關スル限りニシテ或ル種ノ動産ノ「私有」ハ却テ「共有」ニ先チテ存在シタリト觀ルヘキ理由ナシトセス

吾人ハ人間最初ノ戰爭狀態ハ個人ヲ主體トスル爭鬭ニシテ其個人ノ緣故者カ夫々闘士ニ加擔スルニ至リ戰爭ハ漸ク其規模ヲ増大シ「ト」テミズム「時代」ニ入り種

族ヲ一體トシテ意識スルニ及ヒ種族間ノ戰爭ト爲リ種族ノ移住ニ由リ更ニ促進セラレタルモノナリト信ス

彼ノ「ホメロス」ノ時代ニ於テ世界史上ノ一事實トシテ傳ヘラレタルコトハ僅ニ數十ノ希臘貴族カ若干ノ郎黨ヲ引キ具シテ「トロイヤ」町ノ如キ中等大ノ田舎町ヲ攻圍シタル事ナリ「トロイヤ」町ノ微小ナル或走者(Hektor)ハ其城壁ヲ二周シタレトモ毫モ其戰鬭力ヲ減スルニ至ラザリシト言フ史實ニ徵スルモ想像スルニ難カラス「Kunaxa」ニ於テ戰ヒタル希臘軍一萬ハ既ニ大軍ニシテ羅馬時代ニ於テモ交戦兵力ハ概シテ八乃至四萬ノ間ニ消長シ當時世界ノ三大洲ニ互レル羅馬ノ有セシ總兵力ハ二十萬ヲ越エザリシト傳ヘラル

彼上ノ事實ハ東洋ニ於テモ亦同様ニシテ古代ノ戰鬭ハ洋ノ東西ヲ問ハス一騎打ナリシナリ文明文化ノ一時退步セルヤノ觀ヲ呈シタル歐洲ノ中世紀ニ於テハ交戦兵力ノ數ハ却テ減少シ三十年戰爭ニ於テモ大軍ト稱セララルモノモ三萬ヲ越ユルコト稀ニシテ一度「ネルドリンゲン」ニ於テ五萬ノ兵ノ集マリシハ既ニ破天荒ト稱セラレタリ



「ルイ十四世ノ時代ニ於テ軍隊ノ兵力ハ始メテ十萬ニ達シ「フリードリッヒ二世ハ千七百五十七年春十五萬ノ兵ヲ集メタリ荒唐無稽ナル支那人誇張ノ兵數又ハ「ダリウス」ノ大軍ニ關スル數字ノ如キ當時ノ兵制ニ想到セハ到底信スヘカラサルハ勿論ナリトス佛蘭西革命ノ勃發スルヤ佛國ハ一般徵兵制ヲ布キ有史以來最初ノ國民的軍隊成立シ其召集兵員七十萬ニ達シ千八百七十年ニ於ケル普軍ノ兵數ハ百萬ヲ突破シ「ガンベッタ」ノ集メタル兵力ハ二百五十萬ニ達セリト云フ而シテ世界大戰ニ於テ列強ノ運用セル兵力ハ左ノ如シ

英軍 百七十二萬 （後方ニハ略野戰軍ト同數ノ兵力存在スルヲ通常トス但シ國軍ニヨリ多少ノ差異アリ）

佛軍 百九十萬

伊軍 百二十八萬

米軍 百十三萬

獨軍 三百九十四萬

奧軍 百七十四萬

此ノ如ク戰爭ノ規模ハ社會ノ進歩ト共ニ漸次増大シ特ニ注目スヘキハ社會ノ進化頓挫シ外形の文明ノ多クノ點ニ於テ退歩ヲ爲シタリト稱セラルル歐洲中世紀ニ於テハ交戰兵力却テ其以前ニ比シ減少シ其後文藝復興シ國家主義發達シ來ルヤ戰爭ハ再ヒ大規模ト爲リ且頻繁ニ惹起セラレ國家主義ノ發達最モ著大ニシテ文明文化ノ進歩最モ顯著ナル最近ニ於テハ前古未曾有ノ大戰爭ヲ演出シタルコト是ナリ即チ戰爭ノ規模ハ社會ノ進化文明文化ノ進歩ニ相應シテ漸次増大シ來レルハ歴史ノ明證スル所ナリトス

「ホメロス」曰ク「人ハ同族同類同士相戰フモノニアラスト」即チ戰爭ノ規模増大シ交戰兵力ノ激増シタルハ人間ノ社會的衝動發達シ同族同類同士ナリト互ニ感シ合フ間柄換言スレハ社會的團結増大シタルカ故タラスンハアラス抑人間ノ社會的團結ノ原初ハ遊牧民群ニシテ次ニ部落ト爲リ都市トナリ次テ國家現出シ遂ニ數國家ノ聯盟ヲ見ルニ至レリ

人間ノ社會的團結ノ増大スルニ從ヒ其社會的團結間ノ戰爭ノ規模ノ概シテ増大スヘキハ蓋シ自然ノ理ニ屬シ社會的團結ノ増大ハ即チ人間社會性ノ發達、交通通

信機關ノ進歩、政治經濟ノ發展換言スレハ人文ノ發達カ實ニ其根本原因タラスン  
ハアラス

縦ヒ社會的團結増大シ國家ノ成立ヲ見ルモ社會組織、社會各階級間ノ連絡調和ノ  
未タ完カラサル時代ニ於テハ戰爭ハ單ニ元首及之ヲ圍繞スル一部階級ノ事業ニ  
過キス即チ天下カ一人ノ天下又ハ一部階級ノ天下ナリシ時代ニ於テ戰爭ヲ行フ  
モノハ其首長及其郎黨換言スレハ社會的團結ノ概シテ上層階級ニシテ其後等  
上層階級カ其犬馬ノ勞ヲ取ラシムル爲ニ下層ノ民衆ヲ雇傭スルニ至リ漸次交戰  
兵力増大スルニ至レリ

人間ノ社會意識進歩シ社會組織、政治組織ノ發達ヲ促シ各階級ノ連絡密接ト爲リ  
民衆ノ權利義務ノ觀念向上スルニ從ヒ天下ハ天下ノ天下ニシテ一人ノ天下ニ非  
サルト同時ニ天下ノ事ハ天下之ヲ決スヘシテフ思想勃興シ遂ニ軍隊ヲ國民化シ  
戰爭モ亦國民化セラレ全國家ノ各階級各分子カ其自覺ニ基キ決行スル國民的事  
業ト爲リ今ヤ遂ニ完全ナル大國民戰ヲ見ルニ至レリ

「ルーデンドルフ」將軍ハ其著「戰爭回想錄」ノ冒頭ニ記シテ曰ク「這次大戰ニ於テ陸海

軍ノ使用セル戰鬪資材ハ從來既ニ人ノ知レル所ノモノニシテ特別ニ新奇ナルモ  
ノナシ唯其量ニ於テ莫大ナリシニ過キス世界大戰ノ眞ニ獨特ナリシコトハ軍ノ  
背後ニ親シク全國民カ跟隨シ且全國民カ軍ニ入りシコトナリ從前ニ於テハ千八  
百七十年七十一一年戰役ニ於ケル佛國ノミ此ノ如キ實例ヲ示シタルニ過キス最近  
大戰ニ於テ人ハ何處ニ軍隊カ始マリ何處ニ平和ナル市民カ終レルヤノ區別ヲ爲  
シ能ハサル程軍隊ト國民トハ全然融合混淆セリ。是レ眞ニ文字通りノ舉國民戰ナ  
リシナリト

之ヲ要スルニ戰爭ノ最モ原始的ナルモノハ前述ノ如ク二人ノ決闘ニシテ之ニ其  
近親僚友ノ馳セ參スルヤ眞ノ戰爭ト變セリ此事實ハ即チ人間ノ社交的衝動ノ存  
在活動ヲ證スルモノニシテ既ニ個人ノ爭鬪ニ對シ他ノ者カ加勢ニ來ルコトハ其  
爭鬪シツツアル者ノ要求ニ道理アリト考ヘタルコトヲ立證スルモノナリ是ヲ以  
テ戰爭ハ個人ノ爭鬪ヨリ更ニ高等ナル社會的進歩ヲ爲シタル事件ナリト言フヲ  
得ヘシ此ノ如ク觀シ來レハ戰爭ノ増大其事自身ハ人間カ益、好戰的ト爲リ行クノ  
證據ニアラスシテ寧ロ人類友愛ノ情ノ彌増シ互ニ益、親ミ行クノ徵タラサルヘカ

ラス

元來生物學上ノ原則トシテ生長ノ極限ニ到達セシ巨大生物ハ自然ニ絶滅ス是レ一個體ノミナラス一種族ニ於テモ亦然リトス凡ソ最小動物ハ同時ニ最多動物ナリ獨逸ニ於テハ「ハツカネヅミ」ハ絶滅セサレトモ野牛、熊、狼等ハ漸次滅亡シ今ヤ鹿モ將ニ滅亡セントシツツアリト云フ有ユル巨大生物ハ拔キ挿シナラヌ生長ノ法則ニ從ヒテ可能ノ極大限ヲ突破シタルモノナルカ故ニ滅亡セサルヘカラス又實際自然界ニ於テハ常ニ巨大生物ノミカ滅亡シツツアリ

彼上ノ生物學上ノ原理ヲ戰爭ニ適用シ戰爭モ亦其生長ノ極限即チ全世界ノ人類カ二派ニ分レテ互ニ輸贏ヲ争ヒ人類ノ一半カ他ノ一半ヲ征服スヘキ時機ヲ最後トシテ絶滅スヘシト論スル生物學者アリト雖空想ニ了ラスンハ幸ナリ但シ方今政治的並經濟的國際關係複雜密接ト爲リタル結果一強國對一強國ノ戰爭カ容易ニ發展シテ數國家對數國家ノ大國際戰ト化スルノ傾向ナシトセス戰爭其レ自體ノ進化ハ其主體客體タル軍隊乃至國民ノ進化ニ伴隨ス是ヲ以テ次節ニ於テハ先ツ軍隊進化ノ徑路ヲ研究シ次ニ交戰方策ノ進化ニ及ハントス

## 第二節 軍制及軍隊ノ進化

原始時代ノ戰爭ハ極メテ幼稚ニシテ單純ナリシカ故ニ戰爭行動モ他ノ生活習慣ヨリ現今ノ如ク懸ケ離レタルモノニアラスシテ人々特別ノ技能ヲ必要トセザリシナリ是ヲ以テ當時ハ軍隊ト言フ特種ノモノヲ設ケ置クハ無意味ニシテ戰爭ノ起ルヤ皆出テテ戰士ト爲リ戰終レハ人々其生業ニ就クヲ常態ト爲セリ之ヲ社會的ニ觀察スレハ人類ノ原始時代遠隔ノ地ニ分散住居セン諸種族カ具體的概念トシテ思考シ得ル最高ノ社會ハ一血族ノ社會ニ外ナラス即チ此一血族ノ一國カ國民ニシテ同時ニ有事ノ際ノ軍隊タリトス今日或ハ國民皆兵ト稱シ又ハ舉國武裝ト唱ヘラルルモ實際輪廻ハ完結シ再ヒ古代ニ立戻リタルモノナリ

人類ノ進歩ト共ニ社會モ亦進化シ戰爭ハ益々大規模ト爲リ且人智ノ發達ト同時ニ戰爭ハ複雑面倒ト爲リ特別ナル戰爭技術ヲ要スルニ至リ毎日生業ニ從事シツツアル平和ナル市民ハ最早ヤ有事ノ日ニ於テ直ニ之ヲ戰爭ノ用ニ供スル能ハサルニ至レリ是ニ於テカ戰爭ハ分業ヲ要求シ遂ニ職業的軍人(少クトモ指揮官格ニ於

テ)ヲ必要トシ軍人ナルモノ生シ同一體ナリシ市民ト軍隊トハ外形上茲ニ分離シ分業ノ時代ト爲リ所謂「常備軍」ノ現出ヲ見ルニ至レリ社會ノ進歩ニ伴ヒ人類ノ社會的團結ノ増大スルヤ此社會的團結ハ最早ヤ從前ノ如ク一血族ノ團結ニアラス而シテ之ヲ統治シ之ヲ率キル者ハ或ル權力者ニシテ職業的軍人ヨリ成ル軍隊ノ所有者モ亦此權力者(中古ハ貴族、近古ハ君主)タルハ理ノ自然ナリ而シテ軍隊ハ遂ニ此等權力者ノ器械ト化シ一般ノ民衆ヨリ益、隔絶スルニ至レリ此間唯一個ノ除外例アリ之ヲ我帝國ト爲ス其詳細ハ後段ニ於テ之ヲ述フヘシ

社會ノ増大時勢ノ推移ニ伴ヒ益、大ナル警察力ヲ必要トシ且王侯ノ身邊ヲ絶エス護衛スルノ必要アリ是常備軍現出ノ第二ノ理由タリ按スルニ常備軍ノ生シタル最モ主要ナル原因ハ外敵ニ對スル戰爭ノ必要ト言ハンヨリハ寧ロ王侯ノ身邊ノ護衛、秩序ノ維持ニ在リシモノノ如ク各國共其常備軍ハ王侯ノ衛兵ニ由來セリ我國ニ於テモ可美真手命(物部氏ノ祖)道臣命(大伴氏ノ祖)等ノ所謂將帥ハ何レモ衛兵ノ長ニ過キサリシナリ

歐洲ニ於テハ羅馬ノ Praetoria 英ノ近衛兵、獨ノ禁衛隊、佛ノ Maison du roi ノ戟兵等

ハ何レモ常備軍ノ濫觴ナリト云フ唯我國古代ノ禁衛兵乃至軍隊ト歐洲等ニ於ケル其レトノ間ニハ非常ナル差異ノ存スルコトニ注意セサルヘカラス即チ我國ノ禁衛兵又ハ軍隊ハ皇室ニ近親ノ關係アルモノヨリ成立シ斷シテ大和民族以外ノ者ヲ採用セシコトナキニ反シ古代ノ歐洲ニ於テハ禁衛隊又ハ常備軍ニハ自國民ヲ編入セサリシコト是ナリ其理由ハ歐洲ニ於テハ我帝國ノ如ク萬世一系ノ皇室ヲ有セス時ノ強者即チ統治者ニシテ此強者ハ多クハ暴力ヲ以テ天下ヲ取リタルモノナルカ故ニ何時自國民中ヨリ復讐者、叛逆者現ハルルヤモ知レス常備軍ハ即チ之ニ備フルモノニシテ之ヲ適用スヘキ主要ナル對象ハ自國民ニ在リ是レ獅子身中ノ蟲ヲ除外シタル所以タラスンハアラス

之ヲ史乘ニ徵スルニ羅馬ノ常備軍ハ獨逸人ト「バルチア」人トノ傭兵ヨリ成リ羅馬帝政ノ末期其北方ニ在リシ獨逸民族ハ屢、羅馬ノ邊境ヲ侵シ帝國ノ危機ニ瀕セルニ拘ラス之ヲ拒支スルノ實力ヲ有セサリシノミナラス内ニハ傭兵タル獨逸人實權ヲ握リ帝王ヲ廢立シ遂ニ傭兵ノ長、オドワケル「ハ西羅馬帝國ヲ滅ホシタリ又佛蘭西ニ於テモ其近衛兵ハ瑞西人ニシテ「ホーヘンツォルレルン」家最初ノ近衛兵

第十七世紀「ゲオルグ・ウイールヘルム」選定侯時代ハ「ブランデンブルグ」ノ國土ニ何等關係ナキ南獨逸出身ノ傭兵ヨリ成立シ「プロシヤ」獨立戦争ノ頃迄外國ニ於テ募兵スルヲ好マシキコトト爲シ又三十年戦争後期ニ於ケル瑞典軍ノ大部特ニ騎兵隊ハ全然瑞典人ヲ有セス獨逸人ノミヨリ成リシト傳ヘラル而シテ自國國民ヲ以テ常備軍隊ヲ編成シタルハ普魯西王「フリードリヒ」大選定侯ヲ以テ元祖トスルカ如シ

以上ノ事實ヲ「レニン」禁衛隊カ主トシテ外國人ヨリ成リ「ワルシヤウ」クラカウ等ノ往時ノ要塞カ市街其物ノ防禦ヲ目的トセス寧ロ市街ヲ脅威スル爲ニ有利ナル位置ニ設置セラレ在ル事實ト對照考察スレハ頗ル興趣アル事件タラスンハアラス

常備軍出現ノ第三ノ理由ハ人類ノ平和憧憬ノ心情ニ在リ即チ戦争無カラシカ爲ニ豫メ之ニ備フルヲ必要トセシナリ要スルニ常備軍ノ生シタル根本原因ハ左ノ如ク要約スルヲ得ルカ如シ

一 戦争カ複雑面倒ト爲リ分業ヲ必要トセシコト

二 王侯ノ自衛ノ爲(歐洲ニ於テハ權利ヲ剝奪セシ者ノ復讐ニ對シ王侯カ恐怖心ヲ懷キタル爲)

三 民衆カ戦禍ヲ恐レ平和ヲ追求シタル爲

換言スレハ常備軍ハ其由來ニ從ヘハ一般ニ侵略的戦争ノ爲ニ作ラレタルモノニアラス防衛ノ爲ナルカ如シ

歐洲古代ノ常備軍ハ殆ント凡テ傭兵ナリシコトハ「兵士」(soldat)ノ語カ「支拂」(sold)ヨリ生シタルニ徴スルモ明白ナリ是ニ於テカ國際的軍人「ブローカー」ヲ生シ其有名ナルモノヲ「クセノフォン」「ビルルス」「フォン」「ブルンツベルヒ」「ガッテメラータ」等トス特ニ獨逸ノ小貴族ハ「補償金」ヲ得ルヲ目的トシ其旗下ノ傭兵隊ヲハ英國ニ貸與シテ其用ニ供シ英國「丁抹共」ニ獨逸人ノ傭兵ヲ使用シテ不平農民ノ謀反ヲ壓伏シ又一方「ハップスブルグ」家ハ伊太利兵ヲ以テ反革命運動ヲ鎮壓セシメタリ千八百十三年頃「プロイセン」ノ新軍隊ハ愛國心ニ燃エタル義勇兵ヲ含ミタリシカ其舊軍隊ハ世界各地ヨリ「ベテント」強迫トヲ以テ寄せ集メタルモノナリト傳ヘラル

古代軍隊ノ進化ノ大勢ハ前陳ノ如シト雖仔細ニ歴史ヲ檢スレハ古代ニ於テモ單

ニ職業兵士ノミナラス國民ニ基礎ヲ有スル軍隊即チ民兵隊ノ參加セル戰爭亦尠カラス而シテ其民兵ノ成績ハ職業兵士ニ比シ概シテ良好ナリシト云フ例ヘハ希臘「エバミノンダス」ノ率キシ「テーバ」ノ民兵ハ代々戰場ヲ往來セシ「スバルタ」兵ヲ擊破シ羅馬ノ農民兵ハ紀元前二百七十五年「ベネウエンツム」ニ於テ「エビルス」王幕下ノ希臘備兵ニ勝チタルノミナラス「ハンニバル」ノ統率セシ「カルタゴ」ノ職業的精兵ヲモ擊破セリ（但シ「カンヌ」ノ戰ニ於テハ「カルタゴ」軍ニハ多數希臘民出身ノ兵卒ヲ有セシト稱セラル）

又「シシリヤ」ノ都市民兵ハ捷チ誇レル「アフリカ」兵ヲ破リ「モルガルテン」ニ於テハ「西」ノ農兵ハ「埃太利」レオボルド幕下鋒々タル武士ヲ塵殺シ「オルレアン」ノ市民兵ハ「ジャンダーク」引率ノ下ニ武名世ニ轟キシ英軍ニ勝チ「ワシントン」旗下ノ米國民兵ハ最初敗北ヲ重ネシカ遂ニ「サラトガ」ニ於テ英國正規兵ヲ破リ佛蘭西革命ニ際シ集合セル民衆ノ軍隊ハ老巧ノ戰士タル「プロイセン」及「埃太利」軍ヲ擊退セリ往昔戰術ノ單純簡易ナリシ時代ニ於テハ「寧ロ」志氣ノ優秀「カ」技巧的訓練「ヨリ」モ重大ナル戰勝ノ要素ナリシヲ以テ訓練不十分ノ民兵軍隊カ却テ老巧ノ備兵ヲ擊破シタ

ル場合尠カラサリシナリ今日ト雖此事ハ或ル程度ニ於テ眞理ナルヘシト思考セラレサルニアラス然レトモ千九百十四年秋ニ於ケル「フランダ」會戰ノ經驗ニ鑑ルトキハ如何ニ志氣旺盛ナル軍隊モ教育訓練不完全ナルトキハ其完全ナル備兵軍隊ニ對シ到底戰勝ノ望ナキコト明ナリ蓋シ方今ノ戰鬪ハ複雜面倒ニシテ相當ノ訓練ヲ必要トスレハナリ千九百十四年秋「フランダ」ノ會戰ニ使用セラレタル獨軍ハ所謂第一次豫備軍ニシテ其素質ハ多ク二十歳前後ノ義勇志願者（大學生等多シ）ニ約二三箇月ノ速成教育ヲ施シタル者ヨリ成リ志氣極メテ旺盛ニシテ敵愾心ニ燃エツツアリシ軍隊ナリシカ主トシテ英ノ正規軍（勿論備兵）ニ對シ戰鬪シ失敗セリ又千八百十四年春奈翁一世ノ新徵兵軍ハ志氣旺盛ニシテ「ラ、ロチエール」ク「ラオンヌ」「モントロー」等ニ於テ勇戰シタリト雖作戰末期奈翁ハ嘆シテ曰ク「新近衛軍ハ融クルコト雪ノ如シ舊近衛軍ハ能ク久シキニ堪ユ」ト

「カール」大帝ハ農民階級ニ征服シタル土地ヲ與ヘテ之ヲ解放シ其生活ヲ向上セシメ有事ノ際農民ヨリ兵ヲ得ンコトヲ企テ所謂屯田兵兵制ヲ制定セシカ之モ失敗ニ歸シ「カロリング」王朝治下ニ於ケル特有ノ屯田兵ハ國外ニ於ケル戰爭ニ不適當

ナルコトヲ證明セリ是レ本來職業的軍人ニ非サル者ハ主從ノ關係繼續シテ行ハレサレハナリ

國家主義ノ發生及發達ニ伴フ國防ノ必要人民ノ社會意識ノ發達ハ國家ノ防衛ハ國民全體ノ義務ナリトノ思想ヲ勃興セシメ又他方ニ於テ戰爭ハ屢々惹起セラレ一層強大ナル兵力ヲ要スルニ拘ラス備兵ハ頗ル高價ニシテ國家ノ財政上ノ大打撃ナルノミナラス其價值亦低劣ナルヲ以テ茲ニ國防兵役又ハ一般徵兵制ノ採用ヲ見ルニ至レリ然レトモ當時尙國民ノ國防ナル觀念薄ク有産階級中ニハ金子ヲ以テ其義務ヲ賠フ者多ク依然トシテ備兵多數ナリ而シテ最モ早ク一般徵兵制ヲ採用セルハ瑞西「ヂットマルシユ」等ノ民主國ナルコトハ特ニ注目スヘキ事實ナリトス

此ノ如ク史的由來ヨリスルモ將タ又法理論上ヨリスルモ備兵軍隊ハ非デモクラシー的ニシテ一般義務徵兵制ハ「デモクラシー」的ナルコト明白ニシテ社會黨カ備兵制度ヲ排斥シ一般義務徵兵制ヲ主張スル論據亦實ニ此ニ存ス  
前陳ノ如ク既往ノ歐洲ニ於テハ一般國民ニ基礎ヲ有スル軍隊ハ當時ノ社會的情

況上王侯ノ利益トナラス即チ自家ノ防衛ニ不便ナルノミナラス外征ニモ適セス又民權ノ伸張ヲ主張スル不逞内地人ノ鎮壓ノ爲ニモ有利ナラサリシヲ以テ主權者ノ側ヨリ民衆軍隊ヲ希望セサリシナリ  
然ルニ國際競爭ノ激甚トナルヤ一方強大ナル外敵ノ壓迫アリ他方國家財政方面ヨリスル脅威アリ政治ノ民主化ニ伴ヒ遂ニ一般國民ニ基礎ヲ有スル國民的軍隊ノ創設ヲ見ルニ至レリ

我帝國ノ軍隊ノ進化ハ全然歐洲ノ其レト徑路ヲ異ニシ有史以來軍隊ハ國民ヲ基礎トシテ成立シアリシカ中頃封建制度ヲ生シ軍隊モ亦一時變態的現象ヲ呈シ明治維新ト共ニ再ヒ國民的軍隊ノ復活ヲ見タルハ普ク人ノ知ル所ノ如シ  
歐洲ニ於テ一般義務兵制ニ基礎ヲ有スル國民的軍隊ノ發生ノ由來前述ノ如シト雖外敵ノ侵寇ニ際シ舉國起テテ防衛ニ任スルヲ義務トスル主義ハ古クヨリ存在セシカ如ク唯外征ニ參加スルコトハ各人ノ自由ニ委セアリシカ如シ好戰國民ト稱セラレシ古「ゲルマニア」民族ニ於テモ亦然リトス彼上ノ主義ハ今尙英國ニ於テ踏襲セラレアルハ周知ノ事實ニ屬ス獨逸語ノ Landwehr (徵兵令ニ依ル)ノ語ハ既ニ

千六百十三年ノ公文書ニ現ハレ居リ其後十年ヲ經選舉侯「ゲオルグ、ウイールヘルム」ハ「プロイセン」諸階級ノ代表者ト會見シ「Landwehr」十名ニ就テ一名ハ國境ニ迄進出スル者ト定メ殘餘ハ國防ノ爲内地ニ留ルヘシ「ノ契約ヲ結ヒタリト稱セラル」フ「ドリップヒ、ウイールヘルム」一世ハ決シテ國外ニ引率シ出ツヘカラスト確保ヲ與ヘタル民兵ヲハ訓練不完全ノ理由ヲ以テ廢止シ一時國內募兵ヲ全然禁止シタリシカ其後財政上ノ理由ヨリ再ヒ之ヲ許可シタリト雖當時ノ應募者ハ獨逸ノ他ノ諸國ト同様主トシテ最下層ノ階級ノミニ限ラレタリ「埃帝「マリア、テレサ」ノ軍兵亦然リトス

近代式軍隊ノ父「プロイセン」陸軍ノ創設者ト稱セラル「フリードリッヒ、ウイールヘルム」一世ノ軍隊ハ小規模ニシテ且今日ノ國民的軍隊ト全然正反對ノモノナリシカ國民ノ危機ニ漸スルヤ國民自身奮起シテ祖國ノ爲ニ戰ヒ「コリン」(collin)ノ敗戦後「pommeren」ノ諸階級ハ進ンテ王ニ武装セル五千ノ民兵ヲ提供シ「マルク」地方ノ町「マ」グデブルグ「ハルベルスタート」領亦之ニ倣ヘリ

一般民衆ニ基礎ヲ有スル國民的軍隊ノ優越且有能ニシテ其必要ナルコトヲ事實

上ニ痛感セシメタルモノヲ「ブルミー」ジ「マール」等ニ於ケル佛國革命軍ノ勝利及「jena」ニ於ケル普軍ノ敗北トス抑大革命ニ由リ民主國ト爲リタル佛國ハ千七百九十二年義勇兵ヲ募集シ革命軍隊ヲ編成シ翌千七百九十三年全國ニ向テ徵兵令ヲ布キ一般義務兵役制ヲ定メ茲ニ一般國民ニ立脚スル(國民皆兵主義國民的軍隊ヲ組織シ普、英、西等ノ傭兵軍隊ヲ擊退シ世界ニ國民的軍隊ノ威力ノ優秀ナルヲ示シ普國亦「napo」ノ敗戦後軍制大改革ヲ斷行シ近世式軍制ノ基ヲ作レリ

元來「プロイセン」政府ハ從來「フリードリッヒ」大王ノ軍隊ニ信賴シ國民皆兵主義ニ基ク國民的軍隊ハ外敵ニ對シ有利ナラサルノミナラス武装セル民衆其レ自身危險ナリトノ舊式ナル思想ヲ有セシカ千八百六年戰役ニ於ケル大敗「ナポレオン」一世ノ極端ナル「プロイセン」壓迫特ニ其常備軍兵額ノ大制限ハ一般國民ニ基礎ヲ有スル國民皆兵主義ノ採用ヲ餘儀ナクセシメ茲ニ「グナイゼナウ」「シャルンホルスト」等ノ軍制改革案ヲ見ルニ至レリ

然ルニ時恰モ「ナポレオン」一世ハ露國遠征ニ失敗シ獨逸國民ハ復讐ノ念ニ燃エテ奮起シタレトモ當時常備軍ハ微小ニシテ民兵ハ全然存在セザリシカハ「プロイセ



シノ各階級ヨリ召集シタル國防軍ヲ新ニ編成セサルヘカラサリキ即チ千八百十三年二月「ケーニグスベルヒ」決議ニ基キ左ノ條件ノ下ニ軍ノ編成ヲ見タリ

一 國防軍ハ敵軍カ國境ヲ越エテ侵入シタル時ニ限り召集スヘク又當該地方ニノミ使用セララルヘキモノトス(第一條)

二 該軍ハ一般徴兵ヲ基礎トス但シ「特ニ資格有ル司祭、牧師一切」ノ外宗教家及ヒ各種教師ヲ除外ス(第二條)

三 士官ハ文官ノ參加ノ下ニ任命セララル(第七條)

概シテ現今ノ米軍ニ於ケル護國軍、英軍ニ於ケル地方軍等ト略シ同性質(一般徴兵、文官參加ノ件等ヲ除キ)ノモノニシテ「シヤルンホルスト」ノ地方軍編制假計畫モ亦大體之ニ相似タルモノナリ但シ當時尙「シタイン」「シエー」等文治派ノ勢力大ナリシカハ彼等ノ意見ノ大部分カ採用セラレタルハ當然ナリトス

然ルニ千八百十四年一月約七千ノ國防軍ハ「ブリュッヘル」ニ率キラレ「ライン」ヲ越エテ敵地ニ進入シ茲ニ内地防禦ノ性質ハ一變シテ外征軍隊ト爲リ千八百十四年九月三日ノ法律ヲ以テ「戰時」一時的的存在「ノ性質ヲ廢止シ國家ノ永續的軍事編制ノ

根本制度ト改メ國民皆兵主義ニ立脚スル基幹隊常備軍組織ノ基礎茲ニ確立セリ即チ以前ニ於テハ常備軍ト國防軍トハ各々獨立シ相對立セル別個ノ軍事組織ナリシカ(佛國ニ於テモ大革命ニ際シ巴里市ノ壯丁ヲ徵集シ始メテ護國軍ヲ編成セリ其長官ヲ「ラファイエット」トス)爾今此兩者ハ全然合一シ常備軍ハ國防軍ノ第一線ニシテ戰時編制ノ基幹隊トシテ平時ヨリ存在シ戰時ハ第一國民三十二歳迄ノ者ハ外征ニモ使用シ得ルコトニ定メラレ「グナイゼナウ」「シヤルンホルスト」等軍人派ノ主張茲ニ貫徹セラレタリ

爾後普國軍制ハ軍國的國家ノ兵制ノ模範ト稱セラレシカ最近大戰ニ於ケル獨逸慘敗ノ後漸ク獨逸兵制ヲ非議スル者ヲ生シ就中獨逸軍隊ノ將校ハ殆ント貴族、地主階級ノ獨占ニ歸シ將校兵卒間ニ越ユヘカラサル溝渠ヲ劃セラレ眞個ノ國民的軍隊ニ非サルヲ難スル者多シ而シテ普國軍隊ニ此ノ如キ制度ヲ植エ附ケタル者ハ實ニ「フリードリッヒ、ウイヘルム」一世ナリトス(古來普國ニ於テハ身ヲ徴賤ニ起シタル一市民又ハ外國人ニシテ首相、大臣ト爲レル者ノ多キコト他國ニ其比ヲ見ス)

佛國ニ於テハ大革命後一般徵兵制ヲ採用シタリト雖其後替玉ヲ出シ又ハ金子ヲ出シテ兵役義務ヲ免ルル者多ク一方當時空虛ナル自由ヲ高唱シ理窟ヲ捏ネ廻シテ軍紀ヲ紊ル者ハ有産智識階級ニ多カリシヲ以テ軍部モ亦是等分子ノ入隊ヲ喜ハス却テ財政上ノ見地ヨリ兵役賠償ヲ歡迎スルノ風アリシヲ以テ眞箇ノ國民的軍隊ト稱スヘカラサリシナリ然ルニ普佛戰爭ニ於ケル大敗ハ大ニ佛國人ヲ覺醒セシメ該戰役後眞ノ國民的軍隊ノ實現ヲ見ルニ至リ世界大戰ニ於テハ常ニ聯合軍ノ中堅ト爲リ赫々タル戰捷ヲ收メタリ

近時文明ノ進歩ト共ニ經濟萬能ノ思想勃興シ成ルヘク軍費ヲ減少センコトヲ希望スル者輩出シタリト雖一方有事ノ際ハ強大ナル兵力ヲ要スルコト明白ナルヲ以テ國民皆兵主義ハ依然トシテ之ヲ維持セサルヘカラス況ンヤ該主義ハ最モ民本的ニシテ且法理上至當ナルニ於テオヤ是ニ於テカ國民皆兵主義ニ立脚スル經濟的軍備ナルモノヲ高唱スル者多キニ至レリ其要項左ノ如シ

- 一 幹隊タル常備部隊ハ必要ノ最少限ニ止ム
- 二 全壯丁ニ短期ノ軍事教育ヲ施シ有事ノ際ノ國民總動員ヲ準備ス

結局從來ノ制度ト異ナル所ハ單ニ形式ニ在リテ精神ニアラス而シテ多クノ國家ハ米國式民兵制度備兵ヲ不可トシ瑞西式一般義務民兵制ヲ可ナリトスル點ニ於テ一致シ露國現政府ノ方針モ逐次赤軍ヲ解散シ一般義務民兵制度ヲ以テ之ニ代ヘ軍事組織ト經濟組織トヲ爲シ得ル限り緊密ニ近接セシメントスルニ在リ

歐米ニ於ケル兵制進化ノ跡ヲ討ヌレハ一般民衆ニ基礎ヲ有スル所謂國民的軍隊ハ元來防禦戰ヲ目的トシテ成立シ往昔外征ニ任セシ者ハ備兵又ハ強制募集兵中ノ有志者ニシテ元首ハ一般國民ニ外征ノ義務ヲ課スルコトナク國民亦之ヲ肯セサリシコト明白ニシテ最モ發達セル軍國タル獨佛ニ於テモ亦然リシコト既述ノ如シ此ノ如キ精神ヲ依然踏襲シ是ヲ以テ建軍ノ主義ト爲セルハ英米兩國ナリシカ最近大戰ニ於テハ兩國共ニ一時敍上ノ精神ヲ放棄シ建軍ノ主義ヲ變更スルノ已ムナキニ至リ遂ニ徵兵令ヲ施行シ以テ外征軍ヲ組織セサルヘカラサリシコト普ク人ノ知ル所ノ如シ但シ兩國共大戰ノ終熄スルヤ從前ノ主義ニ復歸セルモ是レ兩國ノ特殊ノ地理的位置及國民性ニ負フモノタラスンハアラス

我帝國軍制ノ進化ハ全然歐米ノ其レト趣ヲ異ニスルハ蓋シ其國體ノ特殊ナルニ

### 第三節 交戰方法ノ進化

交戰方法ノ進化ハ社會ノ進化、軍制及軍隊ノ變遷、軍事工藝就中武器築城ノ進步等ニ伴フハ自然ナリ以下其梗概ヲ述ヘントス

#### 一 社會及國軍ノ進化ト交戰方法

原始戰爭ノ主體及客體タリシモノハ一人ノ中心人物及其一族郎黨ニシテ次テ種族、部落、都市ト爲リ遂ニ國家タルニ至レルコト前陳ノ如シ而シテ縱ヒ戰爭ノ主體及客體カ相當大ナル國家ト爲リシ場合ニ於テモ其社會組織ノ未タ進步セサル時代ニ於テハ眞ニ戰爭ノ主體タリ客體タリシモノハ國民ノ一部階級ニ過キス當時戰爭ノ目的物ハ即チ或ハ某中心人物及其一族郎黨又ハ部落、都市、國家ノ武裝團體ニシテ此武裝セル集團ヲ破レハ茲ニ戰局終結スヘク交戰ノ形式ハ比較的單簡ナリシナリ

普佛戰役ニ於ケル佛國ハ有史以來始メテ全國民即チ軍力ナル實ヲ示シ縱ヒ其軍隊ヲ失ヒタリト雖國民ハ更ニ民衆ヲ組織シ交戰能力ヲ發揮シタリ  
今ヤ戰爭ノ主體及客體ハ全國民(嚴密ニ言ヘハ國民ノ大部)ナルヲ通常トシ開明ノ度ノ劣等ナル國家ノミ奮態ヲ保持スルニ過キス是ヲ以テ方今戰爭ノ目標ハ通常敵國民全體(嚴密ニ言ヘハ大部)ニ在リテ單ニ敵軍ノミニアラズ即チ敵軍ヲ擊破スルコトハ戰爭目的ヲ達成スル緊要ナル一手段タルニ相違ナキモ而モ是レ全部ニアラス縱ヒ一國ニシテ其軍隊敗北又ハ全滅セラレルモ國民ノ繼續意志尙鞏固ニシテ國民的團結ヲ維持シ戰爭資源ヲ有スルトキハ尙抵抗ヲ繼續スルヲ得ヘシ殊ニ露、米等ノ如ク廣大ナル領土ヲ有スルカ又ハ同盟國ヲ有スル場合ニ於テ然リトス之ニ反シ敵ノ交戰組織ヲ破壞シ敵國民ノ繼續意志ヲ壓伏挫折セシムルトキハ縱ヒ其國軍ヲ殲滅セサルモ戰爭ハ茲ニ終結ヲ見ルヘシ千八百十四年春同盟軍ハ「ウイットリ」附近ニ在リシ奈翁一世軍ヲ願スシテ巴里ニ向ヒ直進シ又千八百六十六年「ケーニッヒグレーツ」附近會戰後奧軍主力ハ「オルミラツ」方向ニ退却シタルニ拘ラス普軍主力ハ維納ニ向ヒ前進シ戰爭ノ終結ヲ見タリ

方今戰爭ノ要ハ敵ノ交戰組織ヲ破壊シ我ニ敵對スル國民ノ繼戰意志ヲ覆ス爲有  
 ユル方策ヲ講スルニ在リ而シテ文物ノ進歩セル現代ニ於テハ往時ノ戰爭ニ比シ  
 交戰方法ハ多岐多樣ナリト雖敵ニ宣傳ノ好餌ヲ與ヘサルコトニ就テハ十分ノ注  
 意ヲ拂ハサルヘカラス交戰方法中最主要ナルモノハ武力ノ角逐ニシテ戰ニ於テ  
 敵軍ヲ擊破スルコトノ最重要ナルハ古今ヲ通シテ渝ラス是レ敵ノ交戰組織ヲ破  
 壞シ敵國民ノ繼戰意志ヲ顛覆セシムル爲ノ最モ確實ナル方法タレハナリ唯方今  
 ノ戰爭ニ於テハ武力ノ角逐以外諸種ノ副手段ノ價值ノ増大セルコトニ留意スル  
 ヲ要スルノミ往時ニ於テモ戰爭ハ單ニ武力戰爭ノミヲ以テ終始セシニアラス彼  
 我相當ノ交戰副手段(例ヘハ宣傳)ヲ用ヒタルハ史上ニ明ナリト雖當時戰爭ノ規模  
 比較的小ニシテ文明文化ノ程度比較的低級ナリシヲ以テ其副手段ノ數モ尠ク且  
 之カ適用モ亦小規模ナリシコトハ免ルル能ハス  
 交戰副手段ノ主要ナルモノヲ舉クレハ左ノ如シ

- 一 「プロバガンダ」ヲ以テ敵軍及其國民ノ戰勝ニ對スル希望ヲ絶滅シ其繼戰意  
 志ヲ顛覆シ國民團結ノ分解弛廢ヲ誘致ス(思想戰)

二 經濟的壓迫ヲ加ヘ戰爭諸資源並軍需品軍資ノ調達ヲ困難ナラシメ且敵國  
 民ノ生活ヲ脅威ス

三 敵國ノ非戰論者及其團體ヲ支援シ政治的分解作用ノ促進ニ勉ム  
 彼ノ南北戰爭ニ於テ合衆國政府ハ(二)ノ手段ヲ使用シテ南方ヲ苦シメ日露戰爭ニ  
 於テハ(三)ノ手段ノ有效ニ行使セラレタルハ周知ノ事實ナリト雖敍上ノ交戰副方  
 策ノ最モ大規模且有效ニ使用セラレタルハ世界大戰ヲ以テ尤ト爲ス而シテ這次  
 大戰ニ於テ此等ノ副手段カ戰局ノ解決ニ甚大ナル影響ヲ與ヘタルハ蓋シ彼我ノ  
 武力略均衡シ戰局持久ニ陥リ生活ハ窮迫ニ瀕シ戰ニ飽キテ只管平和ヲ翹望スル  
 民衆ノ心理ニ投合シタレハナリ是ヲ以テ常ニ必スシモ最近戰役ニ於ケルカ如キ  
 效果ヲ期待スルコトハ一考ヲ要ス  
 抑前陳ノ交戰副方策ハ武力ノ運用ト最モ緊密ナル連絡ヲ保チテ行使セラレルコ  
 ト緊要ニシテ且是等ノ副手段ヲ有效ニ運用センカ爲ニハ對手國ノ政治、經濟、社會  
 組織及國民心理ノ特性ヲ知悉シ其缺陷ヲ遺憾ナク利用スルヲ要スルヲ以テ之カ  
 畫策指導ニ任スル者ハ深厚該博ナル智識ノ所持者タラサルヘカラス

社會ノ進化國軍ノ變遷ハ武力ヲ以テスルノ外前記交戰副方策ノ使用ヲ必要且有  
效ナラシメタルノミナラス武力ノ運用其物ニ關シテモ亦若干ノ變化ヲ與ヘタル  
コトニ注意セサルヘカラス

世界大戰開戦ノ初期中央同盟軍ノ主作戰ヲ東西何レノ方向ニ指向スヘキヤノ問  
題ニ關シ多クノ論者ハ直ニ千八百十二年戰役ニ於ケル史實ヲ引用シ露國領土ノ  
廣大國民性ニ基ク露軍防勢作戰ノ特徵ヲ理由トシ主作戰東向案ヲ排スルモ千八  
百十二年當時ノ露國ノ社會狀態及其社會心理ト歐洲大戰當時ノ其レトヲ比較較  
量シ大局ノ上ヨリ觀察シタル者殆ント之ナシ然ルニ既ニ現役ヲ去リ頽齡ニ漸セ  
ル老將軍「ヒンデンブルグ」カ具ニ過去現在ニ於ケル露國ノ社會組織民衆心理ノ推  
移ヲ達觀シ彼カ東方司令官ノ職ニ就クヤ先ツ東方ニ於テ戰ヲ決スヘキヲ上申シ  
タル達識ニ至リテハ洵ニ吾人ノ意外トシ驚嘆ニ堪ヘサル所ナリトス「ヒンデンブ  
ルグ」將軍著戰爭回想錄參照以テ偉大ナル老將軍ノ頭腦ハ若輩後進ノ徒ヨリモ新  
シク彼カ一介ノ武弁ニ非サルコトヲ知ルヘシ

既往ノ如ク交戰兵力ノ尙莫大ナル數ニ達セサル時代ニ於テハ國軍ノ殲滅必スシ

モ期スヘカラサリシニアラス殊ニ太古種族間ノ戰爭ニ於テハ所謂絶滅戰ヲ目的  
トシ之ヲ實行シ得タル場合尠カラス現今戰場ノ局部ニ於ケル小軍ノ交戰ニ於テ  
モ亦然リトス然レトモ方今ノ如ク平時周密ナル調査ヲ遂ケ必勝ヲ期シテ開戦ニ  
決シタル兩交戰國軍ノ實力ニハ其平時調査ニ非常ナル過誤ノ存在セサル限り大  
ナル逕庭アルヘキ筈ナク又縱ヒ相當ニ實力ノ懸隔アリトスルモ方今列強ノ國軍  
ノ如キ容易ニ殲滅シ得ヘキモノニアラス敵ノ武装兵力ヲ全滅スルヲ得ハ最モ可  
ナリ然レトモ不可達成ノ空想ヲ憧憬シ過望ヲ懷キテ失望ノ原因ヲ作ランヨリハ  
確實ニ達成シ得ヘキ目的ヲ定メ之ニ邁進スルヲ賢トス大「モルトケ」カ普佛戰爭後  
獨逸ノ作戰計畫ヲ策定スルニ方リ佛軍ノ殲滅ヲ不可能ナリト判斷シタル高邁ナ  
ル識見ニ至リテハ洵ニ三嘆ヲ禁スル能ハサラシム

若シ夫レ千九百十四年當時ノ獨逸當局ニシテ果シテ佛軍ノ擊破ヲ信シタリトセ  
ハ是レ其根本觀念ニ於テ既ニ誤レルモノニシテ事實開戦劈頭其作戰計畫ハ根本  
的蹉跌ヲ見ルニ至レリ

方今ノ大國民軍ノ特性ヲ擧クレハ左ノ如シ

- 一 全國民ニ立脚シ其精神の並物質的の支援ノ下ニ立チテ以テ一般國民ト聲息相通シ軍ハ國民の精神及其感情ヲ反映シ愛國心ニ富ミ志氣旺盛ナリ此見地ヨリスレハ大國民軍ハ大ナル韌強性ヲ有ス
- 二 軍兵ノ補充容易ニシテ戰時最大多數ノ兵員ヲ得ルニ便ナリ而モ一人宛ノ軍費比較的低廉ナルノ利アリ
- 三 兵員ハ各階級各種職業ノ者ヲ網羅スルヲ以テ各種ノ智識ヲ軍ニ移入シ軍ノ進化ヲ促進ス
- 四 戰時大軍ニ對スル軍需ノ補給ハ其數量莫大ナル爲國家ノ總動員ヲ必要トシ且甚大ナル戰爭資源ヲ有スルニアラサレハ戰爭ヲ持續スルコト困難ナリ
- 五 戰時國家ノ勞働力ノ大部ハ軍ニ編入セラルル結果經濟界ニ於ケル勞働不足ヲ告ケ經濟上ノ打擊甚大ナリ其他ノ資源動物、交通機關、食料、鐵等ニ關シテモ亦同シ從テ國民ノ經濟ヲ壓迫スルコト甚シク國民生活ヲ困難ナラシム
- 六 大國民軍ハ各種ノ分子ヲ含有スルヲ以テ國民ノ精神の團結鞏固ナラス思想上ノ睽離衝突甚シキトキハ忽チ軍隊ニ其影響ヲ及ホシ軍精神ノ危機ヲ生ス

七 大國民軍ハ後方ノ國民心理ノ交感ヲ受クルコト銳敏ニシテ國民ノ志氣阻喪シ戰意弛廢スルトキハ直ニ軍ノ志氣ヲ頹廢セシム又賢愚混淆ノ結果敵ノ宣傳ニ對シ好個ノ目標ヲ與フ

八 大國民軍ハ指揮ノ組織完全ナルニアラサレハ其能力ヲ發揮スル能ハス要スルニ方今ノ大國民軍ニハ強味モアレハ弱味モナキニアラス一方韌強性ヲ有スルト共ニ他方ニ脆弱性ヲモ含ム交戰ノ要訣ハ即チ此弱點ニ乘スルニ在リ特ニ大國民軍ハ指揮ノ組織補給ノ組織完全ナルニアラサレハ全然其活動力ヲ喪失スルヲ以テ徒ラニ不可達成の目的タル殲滅ヲ期シテ失望ノ種子ヲ蒔カンヨリハ寧ロ彼上ノ「交戰組織」ノ破壞ヲ目的トシテ作戰ヲ指導スルヲ有利トスル場合尠カラス是ニ於テカ軍後方ノ價值ハ從前ニ比シ著ク増大セリ即チ方今戰場ニ使用セラるル各種戰用資材ノ數量ハ實ニ莫大ノ數ニ達シ其製造輸送ニ任スルモノハ實ニ軍ノ後方諸機關ニシテ戰線ニ對スル兵員補充及精神の支援ノ源泉亦軍ノ後方ニ存在ス(軍ノ後方トハ廣義ノ意味ニ於ケル後方ナリ)是ヲ以テ國軍ノ急所トスル所ノモノ後方ニ尠カラサルノミナラス其弱點モ亦今ヤ後方ニ頗ル多シ繼戰意志ノ

挫折弛廢、志氣ノ銷磨頽廢、敗戰ノ感想、戰勝絶望ノ疑惑等ハ凡テ戰闘ニ從事セサル者ノ間ニ先ツ起ルヲ常トシ「マルモン」ハ敗北ノ信號ヲ爲ス者ハ常ニ軍ノ後方ニ於テ働ク人間ナリト斷セリ千九百十七年ニ於ケル露軍ノ崩壊モ亦軍ノ後方ニ於テ先ツ其端ヲ發シ同年佛軍ニ於テ最モ危險ナル分子トシテ算ヘラレタルモノハ後方ノ補充隊ヨリ來ル兵卒又ハ歸休ヨリ歸隊スル兵卒ニシテ軍後方ノ部隊ノ軍紀ノ紊亂實ニ甚シカリキ

千九百十八年秋第一線ニ於ケル獨軍ノ將士ハ勇敢ニ敵ト相戰ヒツツアリシニ拘ラス後方部隊ノ兵卒ハ或ハ三色旗ヲ倒シテ赤旗ヲ押シ立テ又ハ將校ノ肩章ヲ剝キ取り處々ニ勞兵會ヲ組織シテ狼藉ヲ逞ウシタルハ世人ノ記憶ニ尙新ナル所ナリトス獨逸カ屈伏ノ已ムナキニ至リシ時戰場ニハ約四百萬ノ野戰軍存在シタリ堂々タル此大軍モ一度交戰組織ノ破綻ヲ來スヤ今ヤ如何トモスヘカラス又日露戰爭ニ於テ露都ニハ將ニ革命勃發セントシ露帝カ和ニ決スルノ已ムナキヲ覺リタル時滿洲ニ於ケル露軍ハ數上日軍ニ優リ戰闘ヲ繼續センコトヲ欲シ居タルナリ以テ敵軍ノ後方ニ對シ有ユル破壞的方策ヲ講シ之ヲ擾亂スルノ如何ニ重要ナ

ルカヲ知ルニ足ルヘシ

概シテ稠密ニ居住シ商工業ヲ營ム國民ハ疎散ニ分布シテ居住シ農耕牧畜等ニ從事スル國民ヨリモ其神經銳敏ニシテ容易ニ昂奮シ易ク又容易ニ冷メ易キヲ通常トス而シテ戰爭ノ慘禍ハ前者ニ對シ甚大ナルヲ以テ戰爭ヲ呪フノ聲モ亦前者ニ早ク發スルカ自然ニシテ政府ノ掣肘ヲ受クルモ亦前者ニ於テ甚タシ而シテ彼此共ニ最モ銳敏ナル神經ヲ有シ或ハ非戰論ノ發生地ト爲リ又ハ非國家的事件ノ勃發スルハ都市就中工業都市ニシテ是レ實ニ敵ノ後方擾亂ノ爲主要ナル目標ト爲ルモノナリ

方今民本主義ノ思想強盛トナリ政治ノ組織亦民本化セラレルモノ多ク從テ國家ハ其國民ノ意志ヲ無視シテ開戦ニ決スル能ハス少クトモ國民大部ノ意向ノ開戦ニ傾クニアラサレハ戰爭ヲ開始スルハ極メテ危險ナリ最近大戰ニ於テモ輿論ノ勢力ノ如何ニ重大ニシテ爲政者カ之ニ對シ如何ニ甚深ノ注意ヲ拂ヒタルカハ世間ニ普ク知ラルル所ナリトス而シテ國家カ一旦戰ニ決スルヤ其犧牲ノ如何ニ甚大ナルカハ世界各國民ノ親シク體驗セル所ナルヲ以テ向後輕忽ニ大國民戰ヲ開

始スル國家ハ極メテ稀ナルヘシ即チ民族ノ存亡國家ノ興廢ノ爲真ニ戰爭ノ已ムヘカラサルヲ最モ明確深刻ニ認識確信シタル場合ニ於テノミ開戦ニ決スルヲ通常トスルナラン果シテ然ラハ戰フ者ハ一部ノ階級ニアラスシテ國家ノ全國民ナリ世界大戰既ニ然リ將來ノ戰爭モ亦然ルヘキ公算最モ多シト言ハサルヘカラス是ヲ以テ一方大戰爭ハ容易ニ惹起セラレサルヘシト雖他方苟モ一度戰爭ノ開始セラレンカ舉國武裝ノ大國民戰ト爲リ戰爭ハ韌強性ヲ増加シ且益々激烈ト爲リ而モ戰局永續スヘキ公算多シ但シ以上ハ強國間ノ國際戰爭ニ就テ述ヘタルモノニシテ希土戰爭乃至支那大陸ニ於ケル慢性的戰爭ノ如キハ此限ニアラサルヤ勿論ナリトス

國際關係益々複雑トナルヘキ將來ニ於テハ某強國對某強國ノ戰爭ハ直ニ他ノ國家ヲ吸引シ大國際戰ト化スルノ傾向ナシトセス是ニ於テカ戰局永續ノ原因更ニ増加ス唯茲ニ注意セサルヘカラサルハ社會ノ複雜化思想ノ錯綜是ナリ一見鞏固偉大ノ觀ヲ有スル國家モ其當路者乃至外國人ノ豫想外ナル弱點ヲ包藏シ大堤ノ蟻穴ヨリ潰ユル如ク案外脆ク倒ルル場合ナシト言フヘカラス又國際間ノ離合モ且

ニタヲ測ルヘカラサルモノ無シトセス將來戰ニ於テ戰局ノ比較的短期ニ解決スルコトアリトセハ恐クテ其ハ彼上ノ原因ニ基クナランカ

## 一 軍事工藝技術ト兵制及戰鬪法トノ關係

軍事工藝ハ多ク一般工藝ノ跡ヲ追ウテ進ミ之ヲ超越シテ進ミタルコト極メテ稀ナリ蓋シ人生ノ大部分ハ平時ニシテ戰爭ハ時々起ルニ過キス文明ノ進歩ハ平和的事項ニ於テ著大ナレハナリ是ヲ以テ軍事工藝ノ進歩兵器築城ノ發達等ハ他ノ經濟的工藝技術ノ發達ニ比シ概シテ遅々タルハ自然ノ理ニ屬ス今ヤ經濟界ニ於テハ機械カ人ノ手ヲ離レ其レ自ラ絶大ナル仕事ヲ爲シ得ル如ク發達シタリト雖戰鬪ニ於テハ依然トシテ多數ノ人間ヲ要シ銃手カ銃ヨリモ重要ニシテ砲手カ砲ヨリモ重要ナルコトハ到底勞働者對機械ノ關係ニ比スヘカラス  
原始人ノ武器ハ「ダント」ノ民族心理學ニ依レハ弓矢ニシテ原始人ハ日常生活ニ於テ經驗スル木竹ノ反撥現象ヲ觀察シ之ヲ長ク張り置ク爲ニ絃ヲ附クルコトヲ工夫シ更ニ矢ヲ工夫シタルモノナリト云フ而シテ「ダント」ハ石器時代ニ先チテ木器



時代存在セシモ木器ハ腐朽シテ後世ニ遺ラサリシナリト説明ス然レトモ弓矢カ武器トナル以前ニ於テ棍棒等存在シタルナルヘク狩獵ト共ニ弓矢發達進步シ農耕時代ニ入ルヤ其生業用器具ノ變形タル刀、槍等ノ類發達シタルモノト觀ルヲ至當トセヌヤ或ル學者ハ刀ヲ以テ犁ノ嘴トシテ發明セラレタルモノナリト唱ヘ「オスカー・ペツシエル」ハ弓矢ハ狩獵種族ニ於テノミ發達シタリト説ケリ

武器異ナレハ戰鬪法モ亦異ナラサルヲ得サルハ明白ニシテ戰術ハ軍事工藝、軍用技術ノ發達ト共ニ變化シタリト雖古希臘羅馬時代ヨリ十九世紀初年ニ至ル間即チ職業的軍人ノ軍隊(傭兵隊)ニシテ未タ國民的軍隊ノ出現セサル時代ニ於テハ戰爭材料モ兵法モ共ニ大ナル進步ヲ爲ササリキ唯第十四世紀ノ歐洲ニ於テ黑色火藥ヲ射撃ニ利用スルコト發明セラレ(火藥其物ノ發明ハ民衆娛樂ノ爲ナリシト稱セラル)千三百四十六年Ortizニ於テ世界最初ノ大口徑銃滿天下ヲ震撼セシメタルヲ異觀トスルノミ然レトモ爾來久シキニ互リ火器ハ他ノ武器ト併用セラレ「マキアベリ」ハ十七世紀初年ニ於テ其著「戰術七書」ニ步兵隊ノ一半ハ「羅馬兵式」ニ刀ト楯トヲ以テ他ノ半部ハ「瑞西式」ノ槍及弩弓石銃ヲ以テ裝備セシムルヲ可トスト記シ

西班牙陸軍ニ於テハ楯ハ十七世紀迄殘存シ當時ノ陸軍ノ戰鬪法ハ所謂密集戰法ナリ而シテ千八百十三年獨立戰爭ノ際ニ於テモ普魯西國防軍ノ約三分ノ一ハ尙槍ヲ所持シタリト傳ヘラル大體ニ於テ第十九世紀ノ初年ニ於テハ軍隊裝備ノ大部分ハ銃砲ニ歸シ陸軍ニ於テハ漸ク散開戰鬪法現出シ爾後火器ノ進步極メテ著大ナリ而モ十九世紀初年ニ於ケル小銃ハ單獨兵ニ對シ百米以内群兵ニ對シ二百米以内ニアラサレハ命中困難ニシテ降雨ノ際ハ不發彈多キ状態ニシテ砲ノ效力界ハ八百米以内最大射程二千米ニ達セス

我國ニ於テハ種子ヶ島以來徳川治下三百年銃器ハ毫モ進步ヲ見サリシコト周知ノ如ク軍事工藝技術ノ著大ナル進步ヲ見火器ノ發達最モ顯著ナル方今ト雖尙依然トシテ白兵ノ價值ハ認メラレ歐洲大戰ニ於テハ再ヒ原始的兵器(鉞斧、鐵槌、棍棒等ノ類)現出シ「ハンニバル」カ或ハ毒蛇ヲ入レタル土器ヲ敵軍中ニ投入シ又ハ蜂ノ巢ヲ用ヒタルト同シク世界大戰ニ於テモ東「アフリカ」ノ獨兵ハ蜂ノ巢ヲ使用シ伊太利「チロール」山地ニ於テハ石合戰演セラレタリ若シ夫レ「タンク」ニ至リテハ田單火牛ノ計ヲ器械化シタルニ過キス

殺上ノ事實ニ鑑ミ皮相ノ觀察ヲ爲ス者ハ戰爭ノ時代遅レナルコトヲ云爲スルモ  
 文明文化ノ進歩セル今日戀愛ノ形式カ何等進歩ヲ見サル實情ニ想到スレハ必ス  
 シモ獨リ戰爭ノミ時代遅レニアラサルヲ知り得ヘク元來人間ノ本能ニ負フ所ノ  
 大ナル事件ハ極メテ守舊的ナル眞理ヲ悟了スルヲ得ヘシ  
 一般ノ科學工藝カ軍事ニ應用セラレ軍事工藝軍用技術ノ進歩武器ノ發達ヲ促シ  
 タルモノハ第十八世紀ノ末期ヨリ現ハレタル軍隊ノ國民化ノ賜物ニシテ國民的  
 軍隊創設セラレ軍隊ノ國民化セララルヤ茲ニ一般國民ノ智識移入セラレ軍隊ハ  
 既成發明ヲ利用スルニ至レリ即チ先ツ爆發藥主トシテ改良セラレ千八百年 Edwa-  
 rd Howard ハ雷酸水銀ヲ發明シ越エテ十八年 Egg ハ之ヲ以テ雷管ヲ造リ Schönbein  
 ハ千八百四十六年棉火藥ヲ發明シ後數年 Sobrero ハ Pelouze 指導ノ下ニ「ニト」ロ  
 リセリンヲ發明セリ Nobel カ最初ノ「ダイナマイト」ヲ製造シタルハ實ニ其後二十年  
 フ經タル時ナリトス(彼ノ目的ハ戰爭用ニアラス鑛山業ノ爲ナリ)  
 爆發藥ノ改良進歩ト共ニ銃器モ亦改良セラレ「ナポレオン」一世旗下ノ兵ハ燧發銃(前  
 裝火索)ヲ以テ戰ヒタリシカ千八百二十七年 Dreyse ハ針發銃(後裝擊針)ヲ千八百三

十一年「コルト」ハ連發拳銃ヲ發明シ後「モーゼル」銃(千八百六十三年)「マンリヘル」銃(千  
 八百七十八年)等製造セラレ遂ニ自働小銃現出シ機關銃亦近代非常ナル發達ヲ爲  
 シタルコト普ク人ノ知ル所ノ如シ砲亦後裝砲ト爲リ砲身後坐式發明セラレ口徑  
 益増大シ最近四十二瓏砲ノ戰闘ニ使用セララルニ至レリ(韃靼王拔都汗ハ投石器  
 ヲ以テ巨大ノ石ヲ放射シ「キエフ」ヲ陷レタリト傳ヘラル「モニエ」ノ案出セル鐵筋「コ  
 シクリート」「グラアム、ベル」ノ電話「マルコニ」ノ無線電信「シュツケルト」ノ探照燈其他電  
 信、鐵道、自動車、航空機等ノ發明ハ他ノ目的ノ爲ニ行ハレタルモノナリシカ今ヤ何  
 レモ戰爭ニ利用セラレ必要缺クヘカラサルモノト爲レリ  
 方今陸軍戰術上ノ革新ヲ招來シタルモノハ實ニ(一)機關銃ノ發達(二)毒瓦斯電氣光  
 線等ノ利用ノ進歩(傳説ニ依レハ千二百四十二年韃靼人ハ窒息性瓦斯ヲ以テ波蘭、  
 獨逸ノ軍勢ヲ潰亂セシメタリト云フ)(三)航空機ノ著大ナル進歩(四)火炮威力ノ増進  
 (五)交通通信機關ノ發達ナリ  
 原始戰闘ハ勿論陸上戰ノミニシテ戰爭規模ノ増大艦船ノ發達ニ伴ヒ河上、湖上、海  
 上ニ擴張セラレ火器威力ノ増進築城ノ進歩ニ從ヒ地中ニ及ヒ潛航艇、航空機、通信

機關ノ發達スルヤ遂ニ水中空中ニ迄擴張セラレ今ヤ完全ナル立體戰闘形式ヲ取ルニ至レリ

陸上戰闘ニ於テハ「トローヤ」原ノ戰モ中世紀ノ武士ノ戰モ主トシテ一騎打ニシテ其後交戰兵數ノ増大遠戰武器ノ發達ニ從ヒ集團對集團ノ戰法ト化シ火器ノ進歩ニ伴ヒ戰闘態勢漸次疎散ト爲リ今ヤ空虚ナル戰場ヲ現出スルニ至レリ  
交戰兵力ノ増大戰闘規模ノ擴大火器ノ進歩ハ必スシモ戰場ニ於ケル戰闘兵員ノ損耗率ヲ大ナラシムルモノニアラス寧ロ七年戰爭以後漸次遞減ノ趨勢ニ在リシカ近來再ヒ増大ノ傾向ニ在ルハ注目ニ値ス

七年戰爭時代各主要會戰ノ平均損傷 全力ノ

「ナポレオン」戰爭時代

23.5%

「クリミア」戰爭時代

19%

普奧戰爭(六十六年戰)時代

15%

”

”

12%

普佛戰爭時代

”

12.5%

(以上「オット、ベルンド」大尉ノ研究)

日露戰爭

14乃至15%

歐洲大戰ニ於ケル英軍

26%

同 佛軍

39%

千九百十八年三月「ピカルヂー」會戰ニ於ケル獨軍

35%

(世界大戰以前ニ於テハ概シテ小銃ニ依ル死傷ハ火砲ニ依ル死傷ヨリモ大ナリシカ世界大戰ニ於テハ全然其比ヲ顛倒セリ)

若シ夫レ戰場附近ノ一般住民及戰場ノ後方國內一般住民ニ與フル兵火ノ慘禍ニ至リテハ近時火器ノ進歩、戰爭規模ノ増大、交戰手段ノ複雜化殊ニ航空機ノ發達等ニ伴ヒ益甚大ニシテ今ヤ戰場ヨリ遠隔セル國內モ其慘禍ヲ免ルル能ハサルニ至レリ就中狹小ナル領域上ニ稠密ナル住民ヲ有シ商工業ノ殷盛ナル國家ニ於テ

益然リトス之ニ反シ生活狀態單純ニシテ疎散シテ居住シ農耕、牧畜等ニ從事スル國民特ニ自給自足ノ經濟狀態ニ在ル國民ハ比較的戰禍ヲ受クルコト輕微ナリ

國家ノ諸經濟機關ノ密集ハ危險ニシテ製造工場、倉庫、交通通信ノ諸機關等ハ之ヲ分散配置シ戰時對空防禦ノ施設、警報傳達ノ裝置、消防隊ノ編成等ヲ必要トシ一般ニ軍後方兵員ノ増加セントスル趨勢ニ在リ

### 三 戰爭道德ノ變化

奈翁第一世「フリードリッヒ」大王ノ如キハ人心ヲ收攬スル技術ニ於テ卓越シ大小幾多ノ戰爭ヲ實施シタリト雖一度モ「人道」ノ爲ニ「ナル言ヲ發シタルコトヲ聞カサルニ反シ歐洲大戰ノ勃發スルヤ」人道」ノ爲ニ劍ヲ執リテ起テタル大國民アルノミナラス恐ラク世界大戰中程「正義人道」ノ高唱セラレタル戰爭ハ未タ曾テ之アラサリシナラン勿論仔細ニ研究スレハ當事國民又ハ其當事者ノ叫フ「人道」ナルモノハ結局「自家ノ利益」ノ代語ニ過キササルモノ尠カラサルヘシト雖免モ角モ「人道」ノ爲ニ戰

且戰爭ヲ「人道的」ナラシムルコトカ一般民衆ノ心理的要求ニ投合シ大歡迎ヲ受ケタル事實ハ否認スヘカラス是レ近代の戰爭ノ一大特徴タラスンハアラス

社會主義カ概シテ資本主義ノ旺盛ナル國家ニ於テ最モ盛ニ高唱セラルルト等シク人カ「人道」ヲ絶叫スルハ多ク其神聖ナル人道カ人間ニ課シタル義務ヲ履行セサル時ニ於テ甚シト言フ說モ亦一面ノ真理ヲ傳フルモノタルニ相違ナシ彼ノ「條約破棄」「毒瓦斯ノ使用」「文化的建設物ノ破壊」「無制限潛航艇戰」「飢餓政策」「反政府陰謀ノ煽動援助」等算シ來レハ世界大戰ニ於ケル彼我ノ非人道的行為實ニ尠シトセス然レトモ之ニ對シ嚴正中庸ノ批判ヲ下サント欲セハ戰爭參加人員ノ莫大、彼我敵愾心ノ旺盛、戰爭規模ノ廣大、戰爭ノ永續、彼我宣傳ノ劇烈等ヲモ參酌セサルヘカラス例ヘハ世界大戰ニ於テハ個人的蠻行ノ如キハ比較的多カラサリシモノノ如ク民族ノ存亡國家ノ興廢ノ爲已ムヲ得ス極端ナル交戰手段ニ訴ヘタルモノ尠カラサルカ如シ是ヲ以テ這次大戰カ果シテ從前ノ戰爭ヨリモヨリ以上ニ蠻的非文明的ナリシヤ否ヤ容易ニ之ヲ斷シ得ヘキニアラス

往古或ル時代ノ戰爭カ現時ノ戰爭ニ比シ美的ニシテ詩歌繪畫等ノ好題材タリシ

ハ事實ニシテ殊ニ氏文ヲ大音聲ニ讀ミ上ケ一騎打ノ果シ合ヒヲ行ヒタル本邦古代ノ戰鬪ニ於テ特ニ然リトス彼ノ衣川ノ合戰ト言ヒ一ノ谷屋島壇ノ浦ト言ヒ何レモ一個ノ藝術ノ如ク武將ハ正ニ一大藝術家タルノ觀ナシトセス若シ夫レ戰爭ノ道德ニ至リテハ武士ハ相見互ト稱シ謙信カ信玄ニ鹽ヲ送リタルカ如キ獨逸國民ヲ餓死セシメント企テタル英國等ノ到底夢想タモ及ハサル所ナルヘシ

歐洲ニ於テモアレクサンダー大王ノ時代ニ於テハ夜襲ハ嚴禁セラレ居リフロレンス人ハ奇襲ヲ不徳ト考ヘ宣戰布告四週以前ヨリ特ニ設備セラレタルマルチネラノ鐘ヲ鳴ラシタリト稱セラレ又古ゲルマン人ハ敵ニ對スルトキハ太陽風ノ關係モ敵味方共ニ都合ノ好キ位置ヲ占メ狡猾ナル矢ハ非難セラレタリト稱セラ

ル

第二ラテラン會議(千百三十九年)ハ基督教徒相互間ニ於ケル弩弓ノ使用ヲ嚴禁シ一般ニ日曜金曜ノ兩日ハ休戰セラレタリ蠻人ノ戰爭ノ道德ニ於テモ毒ヲ塗リタル武器ノ使用ヲ禁シ敵手ヲハ自己ノ腕前又ハ手練ヲ以テ倒スヲ本則トシタリト云フ

然レトモ前述ノ如キ戰爭ノ禮式作法ノ慣例ノ遵守セラレタルハ味方ノ勝利ニ就テ大ナル自信ヲ有スルトキニ限り然ラサル時ハ有ユル窮策ヲモ適用シタルモノノ如シ既ニ最古ノ戰爭「トローヤ」ノ戰ハ彼ノ密輸入セラレタル木馬ノ爲ニ勝敗決シ「ソクラテス」ノ門弟「クセノフォン」ハ數多戰場ノ狡策ヲ推獎シ且又彼ノ「アナバシ」ニ於テ之ヲ實行シタリト云フ

概シテ戰鬪カ一騎打ナリシ時代ニ於テハ戰爭ノ禮式作法ノ比較的良ク遵守セラレタルハ自然ナリト雖遠戰武器發達シ戰鬪カ集團戰ト爲リ殊ニ百姓町人ノ鐵砲カ武士ノ刀槍ヨリモ強力トナルヤ特別ノ武士道モ時代錯誤ト爲リ一見戰爭ノ道德ハ低下セルヤノ觀アリ

歴史ハ概シテ美ナルモノヲ傳ヘ事實ハ年代ヲ經ルニ從ヒテ美化ス此見地ニ立チテ古今ノ戰爭ヲ通觀スルニ戰爭ノ道德カ必スシモ漸次衰頽ノ趨向ヲ辿リ戰爭カ非人道的ニ墮シツツアリトモ考フルコト能ハス彼ノ原始戰爭ノ如キハ全然無法ノ戰爭ニシテ種族ノ絶滅ヲ圖リ男子女子子供等悉ク之ヲ屠殺シ其肉ヲ食シタルコト尠カラサルコトハ生物學者ノ所說ノ一致スル所ナリ後俘虜タル男ヲ勞働ニ女

子ヲ妾ニ使用シテ之ヲ奴隸ト爲シ蠻性ハ大ニ緩和セラレ其後ハ單ニ首長ノミヲ殺シ其所領ヲ占領スルニ止マリ遂ニハ領地ノ占領ズラモ行ハス貢稅ヲ課スル位ニ迄進歩シタリ

慘憺タル三十年戰爭ノ後「フリーゴロ、グローチウス」ハ「平戰法規論」ヲ著ハシ戰爭ニモ亦遵守スヘキ「法」ノ存在スルコトヲ明ニシ其主張ハ千七百一年—千七百十四年西班牙王位繼承戰役ニ於テ實行セラレ其後各文明國ノ容認スル所ト爲リ遂ニ「ジュネーブ條約」(千八百六十四年八月二十二日)「巴里宣言」(千八百五十六年)「倫敦宣言」(千九百八年)第一回及第二回海牙協約(千八百九十九年及千九百七年)「ワシントン協約」(千九百二十二年)等ノ成立ヲ見今ヤ陸海戰法規ハ益大成セラレントスルノ機運ニ在リ世界大戰ノ勃發スルヤ前記諸條約ノ協定ヲ無視シタル國家アリシカ舉世之ヲ攻撃非難シ之ヲ膺懲セスンハ已マサルノ有様ニシテ人間カ人道ヲ憧憬スルノ情ハ必スシモ衰頹シタリト言フコト能ハサルカ如シ

往昔ノ戰爭ト方今ノ戰爭トハ其戰士ニ要求スル所必スシモ相同シカラス例ヘハ今ヤ智力ハ腕力ヨリモ重要ニシテ器械ノ巧妙ナル使用能力ハ手練手管ノ武藝ヨ

リモ緊要ナルニ至リ能ク他人ト協調ヲ保チ全體中ノ一員トシテ節度アル行動ヲ爲スコトハ往昔ノ個人的勇氣ヲ發揮スルコトヨリモ重要視セララルルニ至レルカ如シ戰爭カ一騎打ノ果シ合ヨリ集團戰法ニ變スルニ從ヒ各戰闘員ノ責任觀念ノ減少スルコトハ心理學ノ教フル所ナリ是レ本來責任觀念ハ自由ノ存在自我觀念ノ明確ナル意識ト密接ナル關係ヲ有スルモノニシテ人一度群集中ノ一員トシテ行動スルニ至ルヤ一騎打ノ場合ヨリモ自由ヲ有スルコト尠ク且群集心理ノ作用ヲ受ケ自我觀念減少シ爲ニ自ラ責任觀念ノ薄ラクニ至ルハ自然ナレハナリ是ヲ以テ單ニ此見地ノミヨリスレハ集團戰闘法ハ個人ノ戰爭道德ヲ低下セシムルモノト言フヲ得ヘキカ如シ

國內戰ト國際戰トハ多少其趣ヲ異ニスルモノナシトセス即チ國內戰ニ於テハ變節離反等比較的屢惹起セラレ從ヒテ投降者亦多數ナルヲ通常トス本邦往昔ノ國內戰及當今ノ支那最近ノ露國ニ於ケル國內戰皆ナ然ラサルナシ但シ國內戰ト國際戰ト何レカ人道的ナリヤ何レカ殘忍ナリヤハ遽カニ斷言スルヲ得ス日露戰爭又世界大戰爭ニ於ケル露國人ハ最近ノ革命ノ戰ニ於ケル時ヨリモ人道的ニ行動

シタレトモ支那人ノ如キハ其國內戰ニ於テハ日清戰役ニ於ケルカ如キ殘忍性ヲ發揮セサルモノノ如シ概シテ階級戰カ殘酷ナルコトハ佛蘭西革命、露國革命ニ鑑ムルモ明白ナリトス

## 第五章 戰爭ノ勝敗

戰鬪ノ勝敗ニ關スル研究ハ純然タル戰略戰術ノ範圍ニ屬スルヲ以テ之ヲ省キ本章ニ於テハ戰爭全局ノ勝敗並戰鬪ノ勝敗ト戰爭ノ勝敗トノ關係ニ就テ述フヘシ

### 第一節 戰爭勝敗ノ意義及其素因

凡ソ戰爭ハ手段ニシテ目的ニアラス如何ナル國家ト雖戰爭センカ爲ニ戰爭ヲ行フモノナシ必スヤ其達成スヘキ國策上ノ目的ヲ有セサルヘカラス換言スレハ戰爭ハ國家カ外國ニ對シ其意志ヲ貫徹スル爲ニ用フル手段ニ過キス是ヲ以テ戰爭ニ於ケル勝利トハ交戰スル國家カ其意志ヲ貫徹シタルヲ謂ヒ之ニ反スル場合ヲ

### 敗戰ト稱ス

以上ハ普通ノ解釋ナリ然レトモ更ニ一步ヲ進メテ考フルニ國家ノ意志ハ時ト共ニ變化スヘキ性質ヲ有ス敍上ノ國家ノ意志トハ何レノ時期ニ於ケル國家ノ意志ト見ルヘキカ之モ普通ニ考フレハ開戰當初ニ於ケル國家ノ意志ナルヘキハ理ノ當然ナリトス即チ國家カ其開戰當初ノ意志ヲ貫徹シ得ハ是レ明ニ完全ナル勝利ナリ然レトモ元來勝敗ハ相關のナリ縱ヒ國家ノ開戰當初ノ目的ハ達成セラレサルモ比較的我ニ有利ナル條件ニ於テ平和ニ到達スルヲ得ハ之ヲ勝利ト稱シテ毫モ不可ナカラシ

學者ノ中ニハ國家民族ノ消長興亡ニ關スル數個ノ史實ヲ引證シ戰敗國民カ結局ノ戰勝者ナリト論スル者アリ此種ノ論者ハ

イ 戰敗國民ノ愛國心ハ戰勝國民ヨリモ強盛ト爲リ遂ニ戰勝者ト爲ルコト

ロ 支那民族、波蘭民族ノ如キ戰敗民族ノ増殖率ノ大ナルコト

等ヲ證據トスルモ是レ明ニ詭辯ニシテ單ニ數個ノ特例ヲ基礎トシ全般ヲ斷スルノ誤謬ニ墮スルモノタラスンハアラス自己ノ意志ノ正シキヲ信シテ干戈ニ訴フ

ル國民ハ飽迄其意志ノ貫徹ヲ期セサルヘカラス是レ交戰國民當然ノ義務ナリトス

敵ヲ壓伏シ我カ意志ヲ貫徹スルト言フコトハ必スシモ敵國ヲ滅ホスノ意ニアラス往古ノ戰爭ハ種族ノ絶滅國家ノ覆滅等ヲ目的トシテ實施セラレタルモノ多シト雖今日ノ國家ハ世界經濟有機體ノ一部トシテ生活スルモノナルカ故ニ敵國ヲ滅ホシ其産業ヲ衰亡セシムルコトハ國家經濟上不利ナル場合尠カラサルハ理ノ當然ニシテ敵國ヲ滅ホステフコトハ政治上ニ於テモ亦必スシモ有利ナラサルコトアルヲ記セサルヘカラス(第十八及十九世紀ニ於ケル獨逸ノ關係)加之今日ニ於テハ國家カ大ナル損害ヲ敵國ニ加フル場合ニハ戰後自ラモ亦不幸ナル位置ニ陥ラサルヘカラサルコトスラ無シトセス是レ國際經濟關係ノ益密接ト爲リ國際政治關係ノ變轉極リナキ當然ノ歸結タラスンハアラス此ノ如ク觀シ來レハ勝利トハ必スシモ敵國ノ覆滅ヲ意味セスシテ我戰爭目的ノ達成ニ在ルコトヲ了解スルヲ得ヘシ

戰勝ノ第一要件ハ戰爭行動ヲ以テ敵ヲ屈伏セシムルニ在リ第二要件ハ平和交渉

ニ於テ戰爭行動ニ因ル成果ヲ全收スルニ在リ即チ戰爭ノ收穫ハ講和交渉ニ於テ行ハルルモノトス第一ノ要件ヲ達成シ得ハ即チ戰ニ勝チタルニハ相違ナシ然レトモ第二要件ヲ達成セサレハ國家ノ目的ハ成就シタリト言フヘカラス農事ニ於テ耕作播種灌溉等固ヨリ重要ナルニハ相違ナキモ收穫モ亦重大ナルト等シク戰爭ニ於テ第一要件ノ達成ノ必要ニシテ重要ナルハ勿論ナリト雖モ第二要件ノ充足モ亦極メテ重大ナリトス若シ夫レ露土戰爭ニ於ケル露國ノ土耳其ト締結セルサン、ステファンノ平和條約カ英、獨等ノ干涉ニ依リ伯林會議ノ爲ニ蹂躪セラレ日清戰役ノ結果日本ノ獲得セル遼東半島ハ三國干涉ノ爲放棄スルノ已ムナキニ至リ世界大戰後ニ於ケル伊太利ハ千九百十五年倫敦協約ニ依リ與ヘラレタル約束物ヲ享受セサリシ事例ニ想到スレハ蓋シ思半ハニ過キン

講和交渉ノ時機ニ於テハ從來ノ局外中立國ノ干涉ナシトセサルコト前陳ノ如シ向後國際關係ノ愈密接ト爲ルニ於テ益然リトス是ヲ以テ此時期ニ於テモ全國民ハ戰爭當時ト同様ノ緊張ヲ以テ事ニ從ヒ全國民ノ旺盛ナル元氣ト其活動トヲ以テ之ニ臨マサルヘカラス即チ政府、陸海軍ハ勿論、議會、言論界、經濟界共ニ大ナル緊



張ヲ以テ繼戰意志ノ鞏固ヲ表示シ一致協力多大ノ努力ヲ爲スニアラサレハ決シテ戰爭行動ニ因ル成果ヲ全收シ國家終局ノ目的ヲ達成シ得ヘキニアラス單ニ外交當局ニ放任シテ傍觀スルカ如キハ斷シテ成功ヲ博スル所以ニアラスト言フヘシ

講和交渉ニ於テ有利ナル地位ニ立チ我外交ヲシテ威力アラシメ敵國ニ我欲スル條件ヲ強ヒ而モ第三國ノ干涉ヲ豫防スル爲ニハ須ラク左ノ諸條件ヲ具備セサルヘカラス

一 戰爭行動(大小ノ會戰、宣傳戰、經濟的壓迫等)ニ依リ敵ニ有形無形ノ大打撃ヲ與ヘ其戰勝ノ希望ヲ絶滅スルコト

二 我國民ノ精神的團結繼戰意志極メテ鞏固ニシテ政治的並社會的ニ安定シアルコトヲ實證スルコト

三 國家カ尙戰爭諸資源ヲ有スルコト

抑戰爭行動ニ依リ敵ニ有形無形ノ大打撃ヲ與ヘ其戰勝ノ希望ヲ絶滅スルコトハ最モ緊要ナル第一ノ要件ニシテ此條件ナクハ決シテ有利ナル平和ヲ期待スル

ヲ得ス而シテ此重大ナル任務ヲ盡スモノハ主トシテ陸海空軍ニシテ此三者ハ全國民ノ有形無形ノ絶大ナル支援ノ下ニ戰爭行動ニ從事シ先ツ敵ノ整備セル兵力ノ擊破ニ勉ム

敵ノ主力軍ヲ擊破スレハ既ニ戰勝ノ第一步ニ入りタルニ相違ナシト雖未タ以テ勝利ニ到達シタリト言フヘカラス勿論普埃戰爭ノ如キ特別ナル戰爭ニ於テハ一會戰ニ於ケル國軍ノ敗北ヲ以テ直ニ戰爭ノ終局ヲ見タルコト無キニアラサルモ是レ寧ロ例外ニ屬シ該戰役ハ埃國ノ爲毫モ存亡ヲ賭スルノ戰ニアラサルノミナラス普國モ亦埃國ヲ滅ホスノ意志ナク單ニ兩者ノ勢力範圍ヲ確定スルヲ目的ト爲シタルモノナレハナリ

之ニ反シ普佛戰役ニ於テ普國カ佛國民ヲ屈伏セシメ得タルハ其整備セル兵力ヲ殲滅シタル後尙三箇月ヲ要シタリ敵主力軍ノ戰敗カ直ニ其國民ノ交戰意志ノ挫折ト爲ルハ交戰兩國ノ政治的、經濟的、社會的狀態カ殆ント相同シキ場合ニ於テノミ起ルヘク然ラサル場合ニ於テハ縱ヒ敵ノ整備セル兵力ヲ殲滅シ其領土ノ大部分ヲ蹂躪スルモ常ニ必スシモ敵國民ヲ屈伏セシメ得ルモノニアラス

千八百十二年戰役ニ於テハ露軍ノ敗北モ首府ノ占領モ露國ヲシテ屈伏セシムルニ至ラス遂ニ連戰連勝ノ佛軍ノ慘澹タル退却ト爲リ北米南北戰爭ニ於テハ南軍殆ント終局ニ至ル迄勝利ヲ收メタリシモ合衆國及其人民ヲ屈伏セシメ以テ平和ヲ強フルノ力ナカリシ爲ニ敗北ニ歸セリ

「フオン、デル、ゴルト」將軍ハ其著「Krieg führung」ニ記シテ曰ク「敵ノ本軍ヲ殲滅スレハ最早戰爭目的ヲ達セルニ等シト考フル者アリ是レ大ニ過テリト言フヘシト之ニ反シテ世界大戰ハ敵國民ノ經濟的、心理的若ハ社會的危機ニ際シ之ニ一大打擊ヲ加フレハ縱ヒ其國軍ヲ殲滅セサルモ敵國民ヲ屈伏セシメ得ルコトヲ立證セリ

國土廣大ニシテ且疎散ナル住民ヲ有シ其住民カ主トシテ農耕牧畜ニ從事シ自給自足經濟ヲ爲スモノナルトキハ縱ヒ其國軍ヲ擊破スルモ其國民ヲ屈伏セシムルコト困難ニシテ鮮少ナル領土上ニ稠密シテ居住シ商工業ニ從事シ且生活又ハ軍需ノ諸資源等ヲ外國ニ仰クモノニ在リテハ之ニ反ス世界大戰中ニ於ケル「ベルギー」ノ如キハ特殊ナル國際的地位ヲ占メタルモノニシテ寧ロ例外ニ庶幾シト見ルヲ至當トス

要スルニ戰爭行動ニ依リ敵ヲ屈伏セシムル爲ニハ先ツ敵ノ主力軍ニ大打撃ヲ與フルヲ要シ爲シ得レハ之ヲ擊破スルヲ可トス而シテ縱ヒ敵ノ主力軍ヲ擊破シ得タリトスルモ之ヲ以テ満足スルコトナク敵國民ニ平和ヲ強要スル爲ニハ如何ナル手段ヲ必要トスヘキカ又有利ナル講和條件ニ調印セシメンカ爲ニハ如何ナル事ヲ爲シ置クヲ要スルヤヲ考ヘサルヘカラス而シテ此手段ハ或ハ首都ノ占領或ハ港灣、經濟ノ中心地、主要交通線、補給資源地、軍需製造所、要塞等ノ占領又ハ經濟封鎖、宣傳等ノ交戰副手段タルコトアルヘシ

敵ノ主力軍ヲ破リタル後ハ交戰法亦其性質ヲ變シ自軍ヲ維持スルノ顧慮ハ以前ヨリモ重要ニシテ其力ヲ長キニ互リテ消盡セシメサルノ注意ヲ必要トス

第二項ニ就テハ特ニ説明ヲ附スルノ要ナキモ特ニ議會、言論機關等ノ自重戒心ヲ必要トスルコト大戰間獨逸ニ於ケル議會及或種ノ言論機關ノ不謹慎ナル言動カ如何ニ獨逸國家ヲ禍シ又千九百十七年ニ於ケル佛國議會及或種ノ新聞ノ言論カ如何ニ佛軍ヲ荼毒シタルカニ鑑ムレハ明白ナリトス

第三項ノ條件ハ甚タ望マシキモノナレトモ常ニ必スシモ之ヲ期スル能ハス又第

一項ノ目的ヲ達成センカ爲第三項ヲ犠牲トセサルヘカラサルコト屢ナリ特ニ戰爭諸資源ノ貧弱ナル國家ニ於テ然リトス然レトモ日露戰爭ニ於ケル明瞭ナル戰勝者タル日本カ講和交渉ニ於テ何故ニ賠償ノ要求ヲ放棄セサルヘカラサリシカ世界大戰ニ於テ最モ勇戰健闘シ最モ大ナル犠牲ヲ拂ヒタル佛國カ比較的薄ク酬イラルルニ反シ何故ニ英國カ比較的有利ノ地位ヲ保持シツツアリヤ又伊太利ハ何故ニ講和會議ニ於テ其約束物ヲ授ケラレサリシヤ等ニ想到スレハ爲シ得レハ國家ハ講和交渉ノ際ニ於テ戰爭諸資源ヲ有シ國力ノ尙相當ニ大ナルコトノ極メテ望マシキ事タルヲ了解シ得ヘシ此事ハ聯合國ノ一員トシテ交戦スル場合ニ於テ特ニ必要ニシテ就中打算ニ長シタル老獪國ト提携シ戰爭ニ從事スル場合ニ於テ益然リトス

米國參謀學校幹事「ウイルアム、ケー、ネーラー」大佐ハ其著「戰略ノ諸原則」ニ記シテ曰ク「戰勝ヲ得ルモ國家ノ資源涸渴シ有利ナル條約ヲ締結シ得サルカ如キハ不可ナリ國家ノ資源ハ之ヲ顧慮シテ徵用スルヲ要ス」ト

以上ハ戰爭ニ於ケル勝利ノ意義竝之ニ到達スヘキ順序ナリ以下戰勝ノ素因タル

ヘキモノヲ探究シ國力ノ涵養戰爭準備ノ資ニ供セントス而シテ勝利ノ素因ハ左ノ如ク要約スルヲ得ヘキカ如シ

一 國民ノ精神力(道德力及智力)及精神的團結ノ優越

二 戰爭諸資源(人、動物、資材、工業力、交通機關等)ノ質ノ優越ト數ノ相對的豐富換

言スレハ財力、經濟力ノ優越

三 戰爭諸資源統一運用組織ノ優越及戰爭ノ直接準備ノ優越

四 外交ノ巧妙

五 運命(人間ノ豫見シ得サル力)

國民ノ精神力即チ道德力及智力ノ優越カ戰爭ニ於ケル勝利ノ素因タルヘキハ論ヲ待タサル所ニシテ舉國武裝ノ大國民戰ニ於テ殊ニ然リトス戰爭哲學ノ泰斗Steinmetzハ「勝利ハ一ノ德ノミナラス數多ノ德ノ總和ニ依リテ得ラル其德トハ即チ忠實、責任感、忍耐、良心ニ忠ナルコト、教育、發明力、節儉、富、身體ノ健康ト力量等ナリ」ト述ヘタリ

國民ノ精神力ヲ優秀ナラシメンカ爲ニハ社會、學校及家庭ニ於ケル協調統制アル

完全ナル教育ヲ必要トス就中家庭生活ハ最モ重大ナル意義ヲ有シ家族生活破壊セラルレハ全國家カ滅落スルコト歴史ノ教フル所ナリ羅馬ハ強盛ヲ極メ偉大ナル勢力ヲ有セシニ拘ラス人々淫逸遊蕩ニ流レ結婚ヲ厭ヒ避妊ノ手段ヲ講スル等道義地ヲ拂ヒ悖德行爲盛ニ行ハレシカハ其住民數減少シ當時人口増殖ノ盛ナリシ獨逸民族ノ爲ニ滅ホサレ又舊波蘭ノ沒落ハ上流智識階級家庭ノ腐敗墮落ニ負フ所極メテ多シ

抑家庭生活ノ中心點ハ母親ニシテ犧牲心ノ根源亦母親ニ在リ「シエーレル」カ「母親ハ就中戰爭ノ結果ヲ決定ス」ト言ヒ又國民及人類ノ運命ハ母親及婦人ノ犧牲力ニ依リテ定メラル「ト斷シタルハ蓋シ至言ナリト謂フヘシ

國民各個ノ精神カ優秀ナルモ其精神的團結鞏固ナラサレハ國民ノ心理ニ破綻ヲ生シ國民的團結ノ弛廢ヲ來シ敗戰ノ一原因ト爲ルヘシ而シテ國民ノ精神的團結ヲシテ鞏固ナラシメンカ爲ニハ政治、經濟、社會組織ヲ公明正大ナル基礎ノ上ニ設立シ且時勢ノ實情ニ適應セシメ以テ先ツ國民各階級各層間ノ感情ノ睽離不平ノ素因ヲ除キ全國民ヲシテ民族ノ使命天職ヲ正視了解セシメ其思想ヲ善導スルコ

ト必要ナリ

元來如何ナル思想ト雖思想其物ハ「直ニ危險トモナラス（危險ト爲ルヘキ可能性ハアリ）又有益トモ爲ラス之ヲ實行ニ移スカ故ニ或ハ危險ト爲リ又ハ有益ト爲ルモノナリ而シテ思想カ實行セラルル爲ニハ感情之ニ加ハリテ人間ノ意志（強弱十弱）ト爲ルヲ要スルコト心理學ノ教フル所タリ是ヲ以テ一方智的方面ヨリ國民指導（所謂思想善導）スルト同時ニ他方國民ノ實生活ヲシテ安固愉快ナラシメ國民ノ感情ノ惡化ヲ豫防スルコト緊要ナリトス（所謂善政）善政ナキ思想善導ハ效果渺キト同理ニ於テ善政ノミヲ以テ思想ヲ善導セントスルコトモ亦片手落ナリ即チ爲政治家ト教育家、思想家トノ協力ヲ要スル所以ニシテ如何ニ教育家思想家カ妙法ヲ説キ正道ヲ教フルモ實生活ヲ律スル施政宜ヲ得サレハ實效得テ期スヘカラス古來革命ナルモノハ多ク先ツ民衆ノ感情惡化シ此惡化セル地盤上ニ破壊的思想カ生育爆發シテ生シタルモノナリ而シテ感情ノ惡化ノ原因ハ多ク惡政ニ存スルヤ疑ナシ

戰時ニ於ケル國民ノ精神的團結ヲ鞏固ナラシメンカ爲ニハ平戰兩時ヲ通シ當局

及國民ノ一致セル努力ヲ必要トスルノミナラス名ノ正シキ戰爭タルコト極メテ必要ナリ換言スレハ國家ハ眞ニ民族ノ運命國民ノ死活ニ關スル問題ヲ決スル場合ニ於テノミ開戦シ戰爭ノ目的ハ極メテ純一鮮明ニシテ何人ニモ了解シ易ク其成否ハ國民ノ死活存亡ニ關スルモノタルヲ要ス

次ニ戰爭諸資源ノ質ノ優良ト數ノ相對的豊富ノ戰勝ニ缺クヘカラサル要件タルコトハ茲ニ喋々スルノ要ナシ何トナレハ戰爭ヲ行ハンカ爲ニハ莫大ナル人ト動物ト財帛ト資材トヲ要スルコト明白ナレハナリ是レ國家カ其國力ヲ充實シ戰勝ノ基礎ヲ確實ナラシメント欲セハ經濟力ノ充實、財政ノ整備、人馬ノ保健衛生、工業ノ發達等ニ努力セサルヘカラサル所以ナリ

然レトモ單ニ優良ナル戰爭諸資源カ莫大ナル數量ニ於テ存在スルノミニテハ未タ以テ足レリトスヘカラス須ラク是等ノ資源ヲ最モ有效且經濟的ニ統一運用スルノ組織ヲ有セサルヘカラス是ヲ以テ平時ヨリ戰爭諸資源ヲ十分ニ蓄積シ置クコトノ必要ナルト共ニ又之ヲ最モ迅速ニ且最モ有效ニ運用スルノ組織ヲ有スルコト極メテ必要ニシテ國家ノ制度戰爭準備ノ緊要ナル所以實ニ此ニ存ス

彼ノ普佛戰役ニ於ケル佛國ノ大敗ハ愛國心モ豊富ナル資源モ準備以上ニ大ナル價値ヲ有セサルコトヲ明示シタリ世間動モスレハ世界大戰前ニ於テ戰爭準備ノ不十分ナル英米カ戰爭準備ニ於テ優越セル獨逸ニ對シ勝利ヲ博シタルヲ觀泥繩式尙侮ルヘカラスト爲シ戰爭準備ノ如キ之ヲ一笑ニ附シ單ニ産業ノ發展富力ノ増進ノミヲ主張スル者ナキニアラス而シテ其一ヲ知リテ其二ヲ知ラサル短見ヲ憐マス此種ノ說ニ附和雷同スル者ノ多キニ至リテハ洵ニ言語道斷ナリト言フヘシ

彼ノ準備ナキ英米ノ泥繩カ辛ウシテ實用ニ間ニ合ヒタルモノハ平時戰爭準備ノ爲ニ大ナル犠牲ヲ拂ヒタル佛軍、露軍殊ニ前者ノ健闘勇戰ノ賜物タラスンハアラズ即チ佛露ノ犠牲アリタレハコソ英米兩國ハ其泥繩式戰爭準備ノ爲ニ要スル時間ノ餘裕ヲ得タルモノナリ若シ夫レ佛露兩軍ニシテ擊破セラレタリトセンカ英米ノ富力モ畢竟何ノ用ヲ爲シタリヤ

實ヲ言ヘハ獨逸ノ戰爭準備モ聯合國ニ比シ單ニ小ナル範圍ニ於テ優越セルニ過キス國家全能力ノ發揮ニ必要ナル總動員準備ナカリシコトハ彼我共ニ同一ナリ

是レ中央同盟側カ徹底的ニ戰備不十分ナル聯合國軍ヲ擊破スル能ハス戰局持久ニ陥リ聯合國平時ニ於ケル戰爭準備ノ不十分ヲ補フノ時日ヲ與ヘ他日ノ戰敗ノ素因ヲ作リタル根本原因タラスンハアラス

次ニ戰爭ノ勝敗ニ大ナル關係ヲ有スルモノハ外交ナリトス巧妙ナル外交ニ依リ我カ欲スル時機ニ於テ開戰シ且我與國ヲ増加シ少クトモ我ニ好意ヲ有スル中立國ヲ多カラシムルコトハ戰勝ヲ確實ナラシムル爲ニ必要ナルノミナラス武力ノ運用ニ連繫シ好機ヲ捕ヘテ平和交渉ヲ開始シ有利ナル條件ノ下ニ成ルヘク速ニ平和ニ到達センコトヲ勉メサルヘカラス其詳細ニ關シテハ更ニ章ヲ改メテ述フル所アラントス

最後ニ戰爭ノ勝敗ヲ左右スル一要素ハ實ニ人力ノ如何トモスヘカラサル運命ナルコトヲ知ラサルヘカラス人ニハ決シテ其欲スル所ノモノヲ必ス達成シ得ヘキ能力備ハラス蓋シ運命ハ常ニ人生ノ萬事ニ干與スレハナリ是ヲ以テ人ノ義務ハ人事ヲ盡スニ在ルノミ最後ノ決定ハ其盡セル人事ト運命トノ交渉ニ因リテ行ハル「フオンクラウゼウイッツ」ハ「Ueber den Krieg」ニ記シテ曰ク「凡ソ戰爭ノ諸行爲ハ

必然ノ結果ヲ期スルニアラスシテ恐ラクハ然ランノ結果ヲ賭スルモノナリ交戰者ハ必然ノ缺クル所ヲ補フニ運命若ハ僥倖ヲ以テスト米國參謀學校幹事「ネーラ」大佐ハ其著「戰略ノ諸原則」ニ「獨逸人ハ不斷ノ軍事研究ニ依リ其推定及計算ニ誤謬ナキモノト確信シタル結果遂ニ最近大戰ニ於テ敗北セリ」ト述ヘタリ

之ヲ要スルニ戰勝ヲ獲得センカ爲ニハ少クモ人事ヲ盡ササルヘカラス即チ全國民ヲ以テスル一致ノ大努力ヲ必要トス而シテ全國民ノ努力ヲ統一指導シ之ヲ具體化スルモノハ政府及國軍(陸、海、空)ニシテ國軍ハ主トシテ交戰ニ任シ政府ハ內政外政ノ實施ニ任ス國民ノ意志ヲ表明シ政府及國軍ヲ支援スヘキ議會ト內政外政ノ實施ニ任スル政府ト交戰ニ任スル國軍トノ一致協力ノ如何ニ必要ニシテ重大ナルカハ般鑑遠カラス獨逸敗戰ノ跡ヲ觀レハ極メテ炳乎タリ

現時ノ戰爭ニ於テ戰爭ヲ實施スルモノハ單ニ陸、海、空軍ノミニアラス內政外政ノ實行ニ當ル政府ハ實ニ戰爭實施ノ重大ナル任務ヲ負擔スル點ニ於テ決シテ陸、海、空軍ニ讓ルモノニアラス何トナレハ陸、海、空軍ヲ維持增強シ之ニ活動力ヲ付與シ且其活動ノ成果ヲ全收スル者ハ政府ナレハナリ

是ニ於テカ戦争ニ於テ勝利ヲ得ンカ爲ニハ優秀ナル國軍ヲ必要トスルト同理ニ優秀ナル内閣ヲ必要トスルコトヲ忘ルヘカラス若シ夫レ有爲強力ナル内閣無カラシカ如何ニ優秀ナル軍隊カ陸ニ海ニ而シテ空ニ勇戦奮闘ストモ戦争全局ノ勝利得テ望ムヘカラス

世界大戦ニ於テ獨逸ノ軍隊カ其質ニ於テ遙ニ聯合軍ヲ凌駕シ殊ニ統帥部ノ技能ノ優劣彼此同日ノ論ニアラサリシコトハ周知ノ事實ニシテ戰場ニ於ケル勝利ノ大部分ハ獨逸軍ノ獲得セル所ナリキ而モ是等ノ赫々タル戰場ノ勝利カ何等決定的效果ヲ齎ラササルノミナラス最後ノ時機ニ於ケル蹉跌ノ爲ニ全然水泡ニ歸シ彼ノ敗戦ノ悲運ニ際會セシ一半若ハ過半ノ責ハ獨逸政府之ヲ負擔セサルヘカラス之ニ反シ聯合國軍カ戰役間幾多軍事上ノ失敗ヲ重ネタルニ拘ラス遂ニ終局ノ勝利ヲ獲得シタルモノ實ニ「ロイド、ジョージ」クレマンソー及「ウイイルソン」等ノ率キタル優秀強力ナル政府ニ負フ所實ニ多大ナラスンハアラス

彼ノ六十六年戰役及普佛戰役ニ於ケル獨逸ノ大勝利ハ「ビスマー」ノ率キタル内閣ニ負フ所多大ニシテ今日獨逸憂國ノ士カ「ビスマー」ク無キヲ嘆スル亦宜ナリト

謂フヘシ又大政治家カ「ブル」微リセハ名將「ガリバルヂー」ノ率キタル軍隊モ果シテ伊大統一戦争ノ目的ヲ達シ得タリヤ否ヤ疑ハシ千八百六十六年普國領土カ「ナポレオン」軍ノ爲ニ蹂躪セラレ殆ント滅亡ノ厄ニ遭ヒタルハ勿論軍制ノ不良、軍部ノ腐敗、軍裝備ノ劣惡等ニ基因スルモ亦當時ニ於ケル政府ノ庸劣無能力其主要ナル原因タリシハ「フオン、クラウゼウイツ」ノ痛論スル所タリ

今日有識ノ獨逸人カ痛歎スル如ク偉大ナル人物ハ常ニ必スシモ出現スルモノニアラス故ニ偉大ナル人物ヲ待ツニアラサレハ所望ノ效果ヲ收メ得サルカ如キ制度ハ決シテ善良ナル制度ト言フヘカラサルニ似タリ然レトモ他ノ一面ヨリ之ヲ觀レハ庸劣ノ人物跳梁シテ有能ノ士用ヒラレス偉人ノ出テサルハ制度ノ不良ニ基クコト極メテ多シ勿論制度ノ運用ハ人ニ存ス其人ヲ得レハ制度ノ缺陷ヲ補ヒ其效果ヲ發揮スヘキヤ明白ナリ唯不良ナル制度ノ悲ムヘキハ肝腎ナル人物ヲ要位ニ拉シ來ルコト能ハサルニ在リ古今敗戦ノ跡ヲ討ヌルニ概シテ有爲有能ノ士ノ用ヒラレタル時ニ於テ戰勝アリ敗戦ハ多ク庸劣ノ小人要位ニ在リテ跳梁ヲ極メタルニ原因ス

識者ハ千八百六年普國ノ大敗戰ノ根本原因ノ一トシテ政略上ノ大過失ヲ舉クルモ當時如何ナル人物カ普國ノ廟堂ニ在リシカニ想到スレハ蓋シ思半ハニ過クヘシ千八百五年「ボツダム」協約成立後「ナポレオン」トノ談判ニ派遣セラレタル「伯爵」バウグウイツ」ノ如キ即チ其代表的庸劣人物ノ一人ナリ

「ウイルヘルム」二世ノ帝位ニ即クヤ間モナク「ビスマーク」ヲ斥ケ其後「ヒンデンブルグ」將軍ノ如キ名將ヲ野ニ下ラシメタリ吾人ハ其事自身ニ獨逸敗北ノ徵候ヲ既ニ看取スルヲ得サルヤ否ヤ「ベートマン」ホルウエッヒ」ノ無能小「モルトケ」ノ勇斷ノ缺如ヲ責ムル者ハ須ラク何故ニ此ノ如キ人物カ顯要ノ地位ヲ占メ國家ノ樞機ヲ把握シタリシヤヲ究メサルヘカラス

「ジョッフ」將軍ハ千九百十四年「マルヌ」ノ大勝戰ヲ以テ戰略的形勢ノ改善ヨリモ寧ロ凡庸ナル將官ノ職首更迭ニ負フ所大ナリト言明セリ「ベタン」將軍ト言ヒ「ジョッフ」將軍ト言ヒ其戰爭間ニ於ケル赫々タル武功ニ驚歎スル者ハ百尺竿頭更ニ一步ヲ進メテ彼等カ平時「國軍ノ制度」及「軍人ノ生活」ノ改善ニ如何ニ大ナル努力ヲ拂ヒタルカヲ看取セサルヘカラス

## 第一節 戰爭目的ト戰爭ノ勝敗

戰爭ハ平時ニ追及セラレタル對外國策ノ結果ニ外ナラス是レ實ニ政治ノ繼承ニシテ唯最後ノ非常手段ニ訴ヘテ對外國策ヲ遂行セントスル國家ノ威力の自由行動ノミ是ヲ以テ戰爭目的ハ一國ノ國是ヨリ生スルモノニシテ某時期ニ於テ國是ノ命スル遂行目的ナリトス故ニ國家カ確乎タル國是ヲ有セサルトキハ戰爭目的モ亦確立セス動搖ヲ免レサルハ理ノ當ニ然ルヘキ所ナリ(方今戰爭ノ目的カ敵國ヲ滅ホスノ意ニアラサルコト既述ノ如シ)

國家ノ戰爭目的定マリテ後國家ノ戰爭指導ノ大方針決定セラルヘク國軍ノ作戰計畫及國家總動員ノ計畫等ハ皆此戰爭指導ノ大方針ニ基キテ策定セラレサルヘカラサルノミナラス戰爭ノ指導實施モ亦此國家ノ戰爭指導ノ大方針ニ準據シテ遂行セラレサルヘカラス

高等統帥部ハ勿論政府及議會モ亦國家ノ戰爭目的ヲ了解シ國軍ノ運用内政外政ノ指導立法等皆悉ク此國家ノ戰爭目的ニ基ク戰爭指導ノ大方針ニ適應吻合セシ



メソコトヲ勉メサルヘカラス此ノ如クニシテ始メテ能ク國民ノ全能力ト國家ノ全資源トヲ一定セル目的ニ向ヒ集中シ之ヲ統一運用シテ最大ノ效力ヲ發揮セシムルヲ得ヘシ

之ヲ古今ノ史實ニ徴スルニ戦争目的確立セサルカ又ハ戦争目的國家ノ實力及四圍ノ情勢ニ相應セサルトキハ必ス敗戦ニ終ルヲ常トス殊ニ方今國民ノ全能力ヲ擧ケテ戦フ場合ニ於テハ單ニ政府又ハ軍部ニ於テ戦争目的ヲ有スルノミニテハ不可ナリ全國民カ一致承認シ明確ニ意識スル國民的唯一ノ戦争目的存在セサルヘカラス千八百六年ニ於ケル普國千八百七十年ニ於ケル佛國ノ如キハ一定セル國策ヲ有セサリシ結果其外交政略ハ動搖常ナク容易ニ好餌ノ爲ニ釣ラレ老獪ナル術策ニ欺カレ開戦ノ後ト雖明確ナル戦争目的確立セス從テ國軍ノ作战方針絶エス動搖シ軍ハ主働的作战ヲ斷行スル能ハス彼ノ惨敗ヲ見タルハ世間普ク知ル所ノ如シ日露戦争ニ於ケル露國ハ明瞭ナル侵略的國策ヲ有シタリト雖其國策ハ自己ノ實力及四圍ノ情勢ニ適應セサル過望ナリシカハ遂ニ失敗ニ終レリ

之ニ反シ英國カ縱ヒ其軍隊ハ屢不利ナル會戦ヲ交ヘタルニ拘ラス常ニ戦争終局

ノ目的ヲ達成シ其對外政策概シテ成功ヲ博セルハ其確乎不動剛毅雄大ナル一貫セル國是ヲ有シ之ニ基キテ明確適切ナル戦争目的ヲ策定シ交戦ニ從事シタルニ負フ所大ナラスンハアラス「ナポレオン」戦争、英佛植民地戦争、南阿戦争、世界大戦争然ラサルナシ

然ラハ最近ノ大戦ニ於ケル獨逸ハ如何世人ノ多クハ獨逸敗戦ノ根本原因トシテ或ハ其外交ノ拙劣ヲ擧ケ又ハ其政府ノ無能ヲ説クト雖「予」ハ信ス此ノ如キハ副動機ニシテ決定の原因ニ非スト「馭シタル者」ヲ現代心理學ノ泰斗 Wilhelm Wundt ト爲ス (Die Zukunft der Kultur 1920) 氏曰ク「敵國ハ大戦當初ヨリ明確ナル目的ヲ有シタルニ拘ラス獨逸ハ確乎タル戦争目的ヲ缺キタリ佛人ハ「エルザス、ロートリンゲン」ヲ奪還セントシ英人ハ獨逸ノ經濟的優勢ヲ打破セントシ「スラフ」人ハ獨逸勢力ヨリ脱逸セント欲ス云々」ト

大戦當初ノ獨逸參謀總長「モルトケ」將軍ハ千九百十二年十二月ノ Memoires 記シテ曰ク

「露國ハ埃甸國ヲ擊破シ汎「スラフ」主義ヲ實現シ「セルビア」ヲ通シテ「アドリアチック」

海ニ出ントスル明確ナル企圖ヲ有ス埃匈國ハ之ニ對抗シ其企圖ヲ妨害セントスルニ過キス佛國ハ千八百七十年戰ノ復讐ヲ行ヒ當時失ヒタル領土ヲ奪還セントス獨逸ハ其有スルモノヲ保持セントス英國ハ其盟邦ノ援助ニ依リ獨逸海軍力ノ發展ヲ壓倒挫折セントス獨逸ハ英國海軍ノ擊滅ナトニ就テハ夢想タニセス單ニ自衛ヲ完ウセントスルニ過キス觀シ來レハ凡テノ點ニ於テ協商側ノ目的ハ攻勢的ニシテ同盟側ハ守勢的ナリ此事ハ即チ開戰ノ場合ニハ協商側ノ團結ハ同盟側ノ團結ヨリモ鞏固ナルヘキコトヲ意味ス何トナレハ明確ナル目的ニ向テスル努力即チ攻勢的ナルモノハ最モ強大ニシテ此事ハ政略ノ指導上ニ於テモ又作戰ノ實施上ニ於テモ然リトスレハナリ

ト文人ノ説ク所武將ノ述フル所正ニ一揆ニ出テタリト言フヘシ  
今暫ク大戰間ニ於ケル獨逸國內ノ狀況ヲ按スルニ開戰當初ヨリ既ニ戰爭ニ反對セシモノハ社會民主黨中ノ萬國派(獨立社會黨)ニシテ戰局ノ推移ト共ニ該派ノ主張益々勢力ヲ占メ遂ニ革命ヲ惹起シタルコト周知ノ如シ  
社會黨ノ多數派ハ開戰當初兎ニ角戰爭ニ贊成セシカ獨逸ノ作戰計畫ノ遂行ニ踈

跌ヲ來スヤ漸ク其主張ヲ變シ千九百十五年頃ヨリ所謂妥協平和ヲ唱道シ始メ戰局益々不如意ニ陥リ國民生活益々逼迫スルニ從ヒ益々其聲ヲ大ニシテ遂ニ獨立社會黨ト相呼應シテ民衆ヲ魅了セリ是ニ於テカ非戰派ノ勢力頓ニ増大シ斷乎トシテ戰爭ヲ繼續セントスル軍部及之ヲ支援スル主戰派トノ間ニ反目軋轢ヲ生シ獨逸國民ノ心理ハ茲ニ破綻ヲ生シテ獨逸ハ精神的破產者ト爲リ幾多ノ軍事的成功ニ連絡スルニ未曾有ノ敗北ヲ以テスルニ至レリ觀シ來レハ獅子身中ノ蟲ハ既ニ開戰當初ヨリ獨逸ニ存在セシカ戰局ノ持續暗澹生活ノ窘窮逼迫敵ノ破壞的宣傳等ニ依リ培養育成セラレ遂ニ母體ヲ食ヒ倒スニ至リシコト明白ニシテ此ノ如キ惡分子ヲシテ遂ニ名ヲ成サシメタルハ實ニ獨逸一般人民ノ思想ニ是等ノ「パチルス」カ乘スヘキ弱點傳播繁殖スヘキ地盤ノ存在シタルニ因ル

然ラハ獨逸國民思想ノ弱點ハ如何 Wilhelm Wundt ハ其著「民族心理學」第十卷開化及歴史ニ於テ左ノ如ク論述セリ其說ノ當否ハ別問題トシテ其高邁ナル識見ハ大ニ參考トスルニ足ル氏曰ク

元來日耳曼民族ノ道德生活ヲ支配シタルモノハ個人個性ノ生存以上ニ超越セ

ル公共的の道德ニシテ Hegel カ Sittlichkeit ノ語ヲ以テ表ハシタルモノ即チ是ナリ此觀念ハ數世紀ヲ通シ獨逸生存協同體ノ團體精神中ニ發現セラレ遂ニ獨逸文化ノ核心ヲ爲セル獨逸ノ唯心主義哲學ト爲リ Fichte, Hegel 等ニ依リテ高調セラレタリ

然ルニ英國ニ生シタル功利主義道德觀念ノ獨逸ニ移入セラレルヤ即チ技術工業等ハ著大ノ進歩ヲ爲シタリト雖人々其物質的利益ヲ計ルニ汲々トシテ物質主義唯物主義ニ墮スルニ至リタリ蓋シ功利主義ハ純然タル私慾主義ト唯心主義トノ中間ヲ取レルモノナルモ寧ロ私慾主義ノ方ヘ傾ケルモノニシテ私利的私慾的道德カ心理的動機ニ媒介セラレテ變形シタルモノナレハナリ獨逸民族本來ノ唯心主義的思想ニ英國ノ功利主義的思想ノ混入スルヤ茲ニ「フエルヂナンド、ラッサル」ヲ出シ彼ハ Fichte ノ思想ヲ曲解シ社會階級闘争ノ教義ヲ揚言スルニ至リ更ニ Marx 及 Engels ノ徒ヲ出タシ彼等ハ Hegel ノ歴史哲學觀ヲ穿キ違ヘ Fichte ニ發セル國家社會主義ノ唯一ノ正當ナル道德的基礎ハ全然其反對方向ニ曲ケラレ遂ニ現今ノ社會民主主義ヲ生シ國家國民ノ利害ヨリモ

個人黨派ノ利害ヲ重要視スルノ徒ヲ產出セリ云々

古ゲルマン民族ノ道德的個性ヲ認メサル集團道德必スシモ可ナルニアラス英國ニ發セル功利主義必スシモ不可ナルニアラスト雖半熟生硬ノ翻譯的外國思想カ獨逸思想ヲ毒セルノ一事ハ疑フヘカラサルカ如シ但シ此中毒カ將來ノ進歩ノ原因ト爲ルヘキヤ將タ又退化ヲ結果スヘキヤハ茲ニ斷スヘキ限ニアラス

元來一國民ノ思想ハ其民族固有ノ性情及歴史氣候風土等ノ生ミタル民族傳統ノ精神ノ上ニ發育スルモノナルヲ以テ他民族ノ思想ヲ「如實」ニ理解スルコトハ頗ル困難ナルヲ免ルル能ハス是ヲ以テ甲民族ノ思想ヲ乙民族カ受ケ入レテ直ニ之ヲ具體化セントスルノ可否ハ別問題トスルモ此ノ如キ場合ニ相當ノ犠牲ヲ拂ハサルヘカラサルハ理ノ當然ナリトス而シテ最近ノ獨逸露國等ノ實例ニ徴スレハ何人ト雖其犠牲ノ頗ル高價莫大ナルヲ看得シ得ヘシ

更ニ歴史ヲ討ヌレハ千八百六年ニ於ケル普國亦此犠牲ニ供セラレタルコト明白ナリ即チ當時佛國ニ勃興セル民主的思想ハ「ナポレオン」軍ニ先チテ既ニ普國ニ侵入シ普國政府亦此風潮ニ順ヒテ游泳スルヲ以テ其壓迫ヨリ免ルル最好手段ナリ

ト信シ生硬ノ自由主義ヲ穿キ違ヘ軟弱無爲ナリシコトカ抑、普國大敗ノ根本原因タリシコト「フオン、クラウゼウツ」ノ痛論スル所タリ

抑、思想異ナレハ同一事物ニ對スル觀察亦異ナラサルヲ得ス順境ニ於テ衆聲ニ和シ唱フル所ノ言辭ハ縱ヒ相同シト雖一皮ヲ剝キ去レハ則チ相同シカラス其不同相違ハ偶、逆境ニ處シテ始メテ暴露ス是レ即チ獨逸最近ノ實例ナリ殆ント全國民ハ熱狂シテ開戰ヲ歡迎シ社會黨迄モ戰爭ニ賛成シタリト雖各人ノ心ノ底ヲ割リテ見レハ開戰ヲ歡迎シ戰爭ヲ讚美セシ動機ハ各、相同シカラサリシナリ是ニ於テカ事一タヒ志ト違ヒ前途暗澹タルニ至ルヤ則チ其本性ヲ暴露シ本聲ヲ發シ來ル是レ衆道一點ニ會スルモ元來ノ方向ハ各、相異ナルヲ以テ忽ニシテ岐レテ本來ノ方向ニ進ムカ如シ

全國民ヲシテ同一ノ目的ニ殉セシメント欲セハ先ツ國民思想ヲ統一スルヲ必要トスルカ如シ少クモ戰時ニ於テ然リ今日識者ハ獨逸ノ戰敗ヲ以テ彼等カ國基殊ニ精神的國基ヲ固メス過早ニ世界政策ヲ夢想シテ世界ノ荒海ニ乗り出セル爲ナリト爲ス蓋シ一個ノ識見タルニ庶幾シ

之ヲ要スルニ最近大戰ニ於ケル獨逸戰敗ノ跡ニ鑑ルモ戰爭目的ハ左ノ要件ヲ具備セサルヘカラサルコトヲ知ルヘシ

- 一 國家ノ戰爭目的ハ其國是ニ基キテ確立セラルヘク民族ノ使命ニ適應シ其成否ハ全國民ノ運命及其利害ニ重大ナル關係ヲ有シ且之ヲ達成シ得ハ戰爭ノ犧牲ヲ償ヒ得ルモノタルヲ要ス
- 二 唯一無二ニシテ全國民ノ明確ニ意識シ承認シ熱誠ヲ以テ其貫徹ヲ期スルモノタラサルヘカラス朝野、階級、職業、政派ノ別等ニ因リ戰爭目的ニ關スル見解ニ秋毫モ相違アルヘカラス是カ爲爲政者ハ單ニ戰爭目的ヲ確立スルノミナラス之ヲ全國民ニ徹底セシムル爲大ナル努力ヲ爲ササルヘカラス
- 三 國民ノ實力ニ相適シ且四圍ノ情勢ニ適應シ實現ノ可能性確實ナルヲ要ス
- 四 最モ單純簡明ニシテ何人ニモ直覺的ニ理解シ得ラルヘク秋毫モ疑義ヲ挿ムノ餘地ノ存セサルヲ必要トス尙當代ノ國民心理ニ吻合シアルヲ便トス此意味ハ受働的ニ國民思潮ニ迎合スルノ意ニアラス爲政者自ラ先驅ト爲リテ國民思想ヲ指導シ國論ヲ統一作興スルヲ要ス

五 我對外對內宣傳ニ利便ニシテ敵ノ宣傳ニ不利ナルヲ可トス  
第一項ニ就テハ特ニ說明ヲ附加スルノ要ナキモ國運ヲ賭シテ行フ大國民戰ハ眞ニ民族ノ存亡全國民ノ死活ニ關スル問題ヲ決スル場合ニアラサレハ企圖スヘキニアラス而シテ國家ノ名譽體面ヨリ重要ナルニ相違ナキモ得失相償ハサル戰爭ヲ行フハ不可ナリ是レ無益ニ國民ノ血ヲ流スハ國家最大ノ不名譽ナレハナリ今ヤ此ノ如キ觀念ニ立脚シテ國民ヲ率ルニアラサレハ全國民ヲシテ國家ノ爲ニ殉セシムルコトハ困難ナリト言フヘシ

第二項ハ第一項ト直接相關聯ス外交部ノ追及スル戰爭目的ト軍部ノ追及スル其レトカ緊密ニ一致シアルコトハ特ニ必要ニシテ然ラサルトキハ國家ノ和戰ノ時機ヲ得シメ所望ノ平和條件ヲ得ルコト不可能ナリ最近大戰ニ於ケル獨逸ノ如キ即チ其一例タラスンハアラス而シテ日清日露兩戰役ニ於ケル日本カ適當ノ時機ニ戰爭ヲ切リ上ケ和戰ノ機ヲ得シメ無益ノ犧牲ヲ拂フコトナク能ク其目的ヲ達成シ得タルハ即チ國家ノ戰爭目的確立シ軍部及政府ハ全然同一目的ノ爲ニ協調努力シ國民ハ滿腔ノ信賴ヲ當局ニ寄セタルニ因ルモノニシテ全國民カ此ノ如ク

熱誠ニ當局ヲ支援シ奉公ノ誠ヲ致シタルハ戰爭目的カ公明正大ニシテ我大和民族ノ使命ニ適應シ其成否ハ國家ノ興廢ニ關スルモノタリシカ故ナリ

國民ノ實力及四圍ノ情勢ニ適應セサル戰爭目的ハ結局國民ノ失望落膽ヲ招キ或ハ之ヲシテ自棄ニ陥ラシメ遂ニ敗戰ト爲ルヘキハ明白ナリ而シテ實際ニ於ケル國民ノ實力四圍ノ情勢就中彼我實力ノ比較ハ開戰後ニ於テ逐次明白ト爲ルモノニシテ戰前ニ於テハ單ニ一ノ推定ニ過キサリシモノ開戰殊ニ彼我主力軍ノ衝突後此推定カ幾何程度ニ實情ニ適合セルヤカ漸次判明ス例ヘハ歐洲大戰ニ於テ開戰前ニ於ケル獨逸當局ノ推定ノ正否ハ彼ノ「マルヌ」會戰ニ於テ大體判明セルカ如シ是ニ於テカ困難ナル問題ヲ生ス戰爭目的ハ此判明セル實情ニ照ラシ修正變更スヘキモノナリヤノ問題はナリ

世界大戰ニ於テ戰局持久シ勝敗ノ決逆賭スヘカラサルニ至ルヤ諸交戰國家ニ於テ俄然トシテ戰爭目的ノ論爭起リ妥協平和無併合無賠償ノ聲、戰爭續行ノ叫交、起コリ開戰當時一致セル國論モ茲ニ龜裂ヲ生セントシタル所以ハ交戰各國民カ方ニ彼上ノ難問題ニ衝突シタレハナリ

此際輿望ヲ擔ヒ全國民ノ信賴ヲ集メタル政府ハ未然ニ國論ノ破裂ヲ防キ得タルニ反シ無爲無能ノ政府ヲ有スルカ又ハ政府及軍部ヲ信憑セサル國民ハ遂ニ其精神の破産ニ陥リ戰爭遂行ノ能力ヲ失ヒ敗北ノ運命ニ沈淪シタルコト世人ノ記憶ニ尙新ナル所ナリトス

世界大戰間高唱セラレタル無併合無賠償ノ妥協平和ノ如キ甚タ滑稽ナルモノニシテ無併合無賠償ニテ濟ムヘキモノナレハ彼ノ如キ大戰爭ヲ始ムルノ要無カルヘク又苟モ大戰ヲ開始シ莫大ナル國民的犧牲ヲ拂ヒタルコトヲシテ有意義ナラシメント欲セハ何物カ得ル所無クシテ已ムヘキニアラサルハ自明ノ理ナリ當時獨逸ノ軍事當局カ極力此妥協平和論者ヲ痛罵シ大戰ノ本質ヲ知ラサルノ徒ナリト爲セシモノ洵ニ理由アリト言フヘシ

然レトモ驟テ考フルニ戰爭ハ元來人間ノ純然タル理智的產物ニ非ス況ンヤ戰爭ノ計畫及其指導ニ直接ノ關係ヲ有セサル一般民衆ニ於テオヤ彼等カ開戰當初戰爭ヲ謳歌シ之ヲ歡迎シタル所以ハ多ク冷靜ナル考察思索ノ結果ト言ハンヨリハ寧ロ群集心理一般ノ主戰的氣分ニ魅セラレタル結果トスルヲ中レリトスルニ似

タリ是ヲ以テ事一タヒ豫期ニ反スルヤ直ニ驚愕不安疑惑ノ念ヲ生シ政府及軍部ニ對スル不信ト爲リ惡宣傳ニ乘セラルルニ至ルハ當ニ自然ノ歸結タラスンハアラズ結局其本ヲ討スレハ責ハ國民ノ指導ニ任スヘキ政府ニ在リト言ハサルヘカラス

冷靜慎重ナル當局カ遠大ナル先見ノ明ヲ以テ能ク大局ノ推移ヲ洞察達觀シ嚴密周匝ナル研究ノ結果確立シタル戰爭目的ハ比較的實相ニ適合シ其變更ヲ要スルコト尠カルヘシト雖實戰ニ際シ平時ノ推定ノ適中スルモノハ概シテ多カラス從テ戰爭目的モ戰爭間其實相ノ判明ニ從ヒ之ニ適合スル如ク若干ノ修正變更ヲ加フルコト寧ロ當然ナリト言フヘシフオン、グラウゼウクラウゼウ曰ク「政略上ノ目的ハ戰爭ノ繼續間屢變化ス」ト蓋シ戰爭目的ハ實現ノ可能性ノ確實ナルコトト戰爭ノ犧牲ヲ償ヒ得ルモノタラサルヘカラス而シテ此事ハ開戰後ノ實情ニ依リ始メテ判明スルモノナレハナリ

單純簡明ニシテ何人モ直覺的ニ理解シ得ヘキモノナルコトハ戰爭目的ニ具備スヘキ要件ノ一ナリ而シテ人カ最モ良ク最モ速ニ了解シ得ルモノハ自己ニ直接ノ

利害關係ヲ有スルモノナリトス世界大戰ノ末期ニ於ケル日本ノ西比利亞出兵ハ何故ニ一般國民ニ依リ冷眼ヲ以テ迎ヘラレタリヤ滿洲ニ於ケル露軍ハ何故ニ其國民ニ支援セラレサリシヤ

思想戰ニ於テ勝ヲ制シ我國民心理ヲ結束シ中立國民ノ同情奮起ヲ促シ敵國民ノ心理ニ疑惑ヲ生セシムル爲ニハ我戰爭目的ハ當代民衆ノ心理ニ適合シ宣傳ノ爲有利ナルコトヲ要ス世界大戰ニ於ケル聯合國ノ眞ノ戰爭目的ハ獨逸ノ其レニ比シ善良ナリシヤ否ヤハ別問題ナリトスルモ少クモ其表面上ノ標語ハ能ク當代一般ノ思潮ニ適應シタルヤ疑ナシ

往古種族間ノ戰爭ハ種族ノ絶滅ヲ目的トシテ行ハレタル場合ノ尠カラサルコト既述ノ如シト雖方今民族ノ絶滅ト言フカ如キハ當ニ不可能ナルノミナラス此事ハ自己民族ノ爲ニモ亦決シテ有利ナリトセス是ヲ以テ方今戰爭ノ一般目的ハ敵國民ノ殲滅ニアラスシテ其意志ノ屈伏ニ在リ敵ニシテ我カ意志ヲ承服セハ即チ可必スシモ其殲滅ヲ必要トセス敵ニ打擊ヲ與フルハ手段ニシテ目的ニアラス又敵國民中我意志ニ共鳴賛同スル者ノ如キハ即チ我カ敵ニアラスシテ友ナルコト

ヲ忘ルヘカラス

又將來ニ於ケル國際關係ヲ考慮シ今日ノ敵ニ對シ必要以上ノ打擊ヲ與ヘス其國カヲ過度ニ衰頹セシメサルヲ必要トスル戰爭アリ彼ノ千七百四十年ノ「フリードリック」大王ト墺國トノ戰爭千八百六十六年ノ普墺戰役ノ如キ即チ此範例ニ屬ス

### 第三節 政略ト戰略

政略ナル語ニ關スル見解ハ從來必スシモ一致セサルカ如シ因襲ノ久シキ此語ヲ以テ政治上ノ權變詐術ト解スル者尠カラス政治カ尙幼稚ニシテ政治道德ノ低級ナリシ時代ニ於テハ此解釋ハ寧ロ實際ニ吻合シタルヤモ知レス「フォン」クラウゼウ「ウ」若シ因襲上ノ意義ヨリ見テ政略ヲ以テ勉メテ威力ヲ阻礙シ用心遠慮ノ一邊ニ傾キ機智ヲ役シ時トシテハ奸黠權詐ヲ避ケサルモノト爲ストキハ云々「Ueber den Krieg 第一卷」ト記シタレトモ彼ハ別ニ政略ナル語ニ對シ「擬人シタル國家ノ智力」ナル意義ヲ與ヘタリ

今ヤ人々ノ自覺ニ基キ政治モ亦進歩シテ公明正大ナル政治ヲ理想トスルニ至リ

政治道德向上シテ權謀、譎詐、欺瞞等ヲ排斥スルニ至リシカハ政略ニ對スル觀念モ亦自ラ往昔ト異ナラサルヲ得ス否此語本來ノ意義ニ歸リ國家ノ政治運用ノ綱略ヲ政略ト稱スルヲ至當トス即チ政治ニ於ケル政略ハ用兵ニ於ケル戰略ニ對比スヘキモノナリ

### 一 政略ト戰爭目的ト戰爭ノ性質

戰爭ハ政略ノ繼續ニシテ政略ハ既ニ戰爭ニ先チテ存在シ戰爭間ヲ通シ戰後尙存在スルモノナリ換言スレハ戰爭ハ政略遂行ノ一手段ニシテ政略的行爲ニ過キス從テ戰爭ニ目的ヲ與ヘ其進ムヘキ一般方向ヲ指示スルモノハ政略詳言スレハ一國ノ國是ヨリ生スル對外政略ナラサルヘカラス

更ニ他ノ方面ヨリ觀察スルニ戰爭ハ人、動物、資材、財貨、交通通信機關、工業力等戰爭諸資源ヲ運用シテ行ハルルモノナリ而シテ是等ノ諸資源ヲ開拓整備充實シテ戰爭ノ用ニ供スルモノハ政治ニシテ戰略ニ非ス是ヲ以テ國家ノ舉ケ得ヘキ武力ヲ正當且精確ニ算計シ戰爭ノ達成シ得ヘキ目的ヲ定メ其ノ進ムヘキ主道ヲ示シ

得ルモノハ政略ナラサルヘカラス即チ是一國政府ノ責任ナリトス「ビスマーク」ハ其遺著ニ記シテ曰ク「戰爭ノ目的ハ干戈ヲ以テ國是ノ要求スル平和ヲ得ルニ在リ戰爭ノ目的ヲ定メ其程度ヲ決定スルハ戰爭開始前モ戰爭中モ政治家ノ任トス」ト此際政府カ戰爭ノ本質ヲ無視シ彼我武力ノ評價判斷ヲ誤ルトキハ實情ニ適應セサル戰爭目的ヲ生シ國軍ニ對シ無理ナル要求ヲ爲スコトト爲ルヘク千八百六年ニ於ケル普國千八百七十年ニ於ケル佛國ノ如キハ即チ敍上ノ過失ヲ犯セルモノナリ「フオン、クラウゼウ」カ「政治家及將帥ハ戰爭ニ求ムルニ戰爭ノ能ハサル所ノモノヲ以テスヘカラス之ニ求ムルニ其本質ニ背キタルモノヲ以テスヘカラス」ト述ヘタルハ至言ニシテ一國ノ政治ノ運用ニ任スル者ハ少クトモ戰理ノ大綱ニ通曉セサルヘカラス

政略上決定セラレタル戰爭目的ハ戰爭ノ性質ヲ定ムルモノナリ戰爭カ交戰國民ノ死活存亡ニ關スル重大ナル動因ノ爲ニ起コリ彼我敵國ヲ根本的ニ擊破セントスルモノナルトキハ「フオン、クラウゼウ」ノ所謂戰爭ノ近準(近目的)ト政略ノ遠準(遠目的)ト愈、合一シ戰爭ヲシキ戰爭ヲ生シ戰爭ハ愈、其本質ニ近ツクモノナリ



今日歐洲ニ於ケル達識ノ士ハ過去ノ大戰ニ於テ獨逸カ有ユル交戰手段ヲ盡シ國運ヲ賭シテ最後ノ瀬戸際迄奮闘シタル事實其物ヲ論證ト爲シ彼ノ抱懷セル戰爭目的ノ決シテ尋常ナルモノニ非サリシコトヲ論斷スルハ恰モ「ルーデンドルフ」將軍カ「妥協平和論者」ノ如キハ歐洲大戰ノ本質ヲ解セサルノ徒ナリト喝破シタルト一揆ニ出テタルモノト謂フヘシ

戰爭ノ動因比較的弱ク其目的ノ比較的輕微ナルトキハ政略上ノ目的ト戰爭本來ノ理想トハ愈々相離レ戰爭ハ專ラ政略ノ劃スル線上ヲ進リテ進ミ其性質ハ愈々政治ノ性質ニ接近シ戰爭ノ純概念ヨリ益々遠カリ戰爭指導上ニ於テモ屢々戰略戰術上ノ原則ノ文字通りニハ適用セラレサルコトアリ日獨戰爭日本ノ西比利亞出兵ノ如キ即チ此類ニ屬ス千八百六十六年戰役モ亦此種ノ戰爭ニシテ普塊兩軍ノ一決戰ニ於テ終局ヲ告ケ六週間ニシテ平和ノ克復ヲ見タル所以實ニ此ニ在リトス千七百四十年ノ普塊間「ジュレジア」戰爭亦然リトス

之ニ反シ普佛戰役ハ全然其趣ヲ異ニシ獨逸軍ハ佛國ノ整備セル國軍ヲ全滅シタリト雖尙佛國國民ノ國民的抗戰ニ遭遇シ「ナポレオン」三世ノ軍隊殲滅後平和克復

迄ハ尙三箇月ヲ要シタルコト世人周知ノ如シ

世界大戰ニ於テモ獨逸ノ對東方政略ト對西方政略トハ相同シカラス從テ東方ノ敵ニ對スル戰爭目的ト西方ノ敵ニ對スル戰爭目的トノ間ニハ若干ノ相違アリ是ニ於テカ東西戰場ニ於ケル戰爭ノ性質ノ相同シカラサリシハ理ノ當ニ然ルヘキ所ナリ即チ西方戰場ニ於ケル戰爭カ激烈、慘澹、殘酷等戰爭ノ本質ヲ發揮シ戰爭ラシキ戰爭ノ行ハレタルニ反シ東方戰場ニ於ケル戰爭ハ政略的色彩比較的濃厚ニシテ所謂政略的攻勢ノ實施ヲ見タルハ多ク對露正面ナリシコト周知ノ如シ

高等統帥ハ能ク戰爭目的ヲ知悉シ作戰ノ計畫及其指導ヲシテ之ニ適合セシメサルヘカラス「ツムリーツ」將軍カ「ウアルミー」戰團後再ヒ戰團ニ入ルコトナク單ニ普魯西軍ニ追躡セルハ當時佛國カ其領土ヲ敵手ヨリ自由ナラシメントスル戰爭目的ニ適應シタルモノナリ戰ニ敗レ惡疫ニ襲ハレ「ライン」河方向ニ退却シツツアリシ普魯西軍ニ對シ強テ戰鬪ヲ求メンカ勝利ノ場合ニ於テハ徒ラニ兵員ノ損害ヲ招クニ過キス失敗ノ場合ハ却テ普魯軍ノ巴里侵略ノ企圖ヲ再燃セシムルノ虞ナシトセス而シテ當時ノ佛軍ハ革命ニ際シ急遽徵集シ訓練不十分ナル烏合ノ衆ナリシ

コトニ鑑レハ其然ル所以ヲ了得シ得ヘシ  
千八百十二年「ナポレオン」軍ノ「モスクワ」ヨリ退却スルニ方リ之ヲ追躡シタル「クツ  
ーゾフ」將軍ノ作戰指導亦然リトス

千八百六十六年「ケーニッヒグレート」ノ會戰後敗北シテ退却スル墺軍ニ對シ殲滅的  
打撃ヲ與ヘサリシ普軍ノ作戰指導亦其特異ナル戰爭目的ニ由來スルモノナリ  
之ニ反シ英杜戰爭ニ於ケル「ボアー」軍ノ最高指揮官タル「ジューベル」將軍ハ戰爭ノ  
目的ヲ適確ニ理解セス南阿ニ於ケル英國ノ勢力ヲ壓倒シ「ケープロコーニー」附近ノ  
「ボアー」軍ヲモ誘引スル爲大規模ノ攻勢ヲ取ルノ必要アリシニ拘ラス此策ニ出テ  
ス又其元首「クリューゲル」之ヲ要求セサリシカ爲遂ニ本來ノ目的ヲ達成スルコト能  
ハスシテ止ミタリ

世界大戰間佛軍ノ戰法ヲ非難シ所謂人命尊重戰法ナリト稱シ其莫大ナル鐵量ノ  
消費ヲ笑ヒタル者鮮カラス然レトモ佛國國民ニ取リテ最モ貴重ナリシハ佛蘭西  
人ニ在リ鐵量ハ如何ニ莫大ニ之ヲ消費ストモ英米ヨリ其補給ヲ受クルコト敢テ  
困難ナリトセス然レトモ「フランス」民族ノ血ヲ享ケ「フランス」魂ヲ有スル人ハ如何

又戰後ニ於ケル佛國ヲ如何セントスルヤ觀シ來レハ佛軍當時ノ戰法ヲ笑ヒシ者  
ハ寧ロ戰略戰術以外ノモノヲ知ラサル井蛙ノ見タラスンハアラス  
抑、戰爭目的ハ戰略戰術ノ原則ヲ超越シタルモノニシテ作戰ノ高等指導ハ縱ヒ戰  
略戰術普通ノ原則ニ相反ストモ戰爭目的ニ適應セシムルコト緊要ナリトス  
國內戰ト國際戰トハ其戰爭ノ目的ニ大差アルヲ以テ戰爭ノ性質ニ大ナル差異ア  
ルハ自然ナリトス國內戰史ニ於ケル史例ヲ學ンテ直ニ之ヲ敵地ニ於テ相異ナル  
國民トノ戰鬪ニ適用セントスルカ如キハ一考ヲ要スル問題ナリ

## 一 一 政略ト戰略トノ關係

政略ト戰略トノ關係ハ二様ノ意味ニ解釋スルヲ得ヘシ即チ概念トシテノ政略ト概  
念トシテノ戰略トノ關係ハ其一ニシテ其概念相互ノ關係交渉ハ同一人物ノ頭腦中  
ニ於テモ行ハルヘク其二ハ政略ヲ掌ル人物ト戰略ヲ掌ル人物トノ人的關係是ナ  
リ以下主トシテ政略戰略ノ概念相互ノ關係交渉ヲ敘シ次ニ人的關係ニ及ハントス  
抑、戰爭ハ政治ニ從屬スルモノナルカ故ニ國家カ開戰及和戰ノ決ヲ爲スニ方リ其

斷案ヲ下シ戰爭目的ヲ定メ戰爭指導ノ大方針ヲ決定スルモノハ政略ニシテ實ニ一國政府ノ責任ナルコト前陳ノ如シ唯此際戰略ヲ無視シ軍事の考慮ヲ缺クトキハ甚タ危險ニシテ他日ノ敗戦ノ素因ト爲ルコト無シトセス是レ軍事の狀況ヲ熟知スルコトト之ヲ正確ニ算定スルコトトハ戰爭ニ決心シ政略上ノ目的ヲ確定スル爲ノ重大ナル基礎ヲ爲スモノナレハナリ

是ヲ以テ國家大局ノ上ヨリ戰爭目的及戰爭指導ノ大方針ヲ決定スル際ニ於テ主人タル地位ニ立ツモノハ政略ニシテ戰略ハ其家人タルヘク首將タルモノハ政略ニシテ戰略ハ其部下タラスンハアラス換言スレハ決定スル者ハ政略ナレトモ其決定ヲ爲スニ方リテハ須ラク其家人部下タル戰略上ノ考慮ヲ缺クヘカラス家人ハ其主人ヨリ軍隊ハ其首將ヨリ目的ヲ知承シ其任務ヲ受ケ自己ノ行動ヲ律スルト等シク戰略ハ政略ノ定メタル目的ヲ知承シ其レ自身ノ行動ヲ律スルヲ本則トス而シテ政略カ戰略ニ要求スルニ其本質ニ悖戾スルモノヲ以テスヘカラサルコトハ猶主人カ其家人ニ對シ不可能ナルモノヲ求メ首將カ其軍隊ニ對シ不可能ナルコトヲ要求スヘカラサルカ如シ

從來政略カ戰略ヲ左右スルヲ不可トシ政略ハ斷シテ戰略ニ干涉スヘキモノニアラストフ意見各國軍事界ニ盛ニシテ多クノ兵家亦之ヲ主張セルコト周知ノ如シ此說モ解釋ノ仕様ニ依リテハ必スシモ不可ナルニアラス其理由ハ追テ判明スヘシ最モ大規模ニシテ政略戰略ノ最モ錯綜セル世界大戰ノ試鍊ヲ經ルヤ歐米各國ニ於テ漸ク政略對戰略觀念ニ變化ヲ見ルニ至リ政略至上主義ヲ唱フル者續出スルニ至レリ此觀念モ亦解釋ノ仕様ニ依リテハ正當ナレトモ政略戰略ノ「分限」ヲ顧ミス無條件ノ政略至上主義ヲ唱フル者アラハ是レ大ナル誤解タルヲ免レス

古來政略カ戰略ヲ左右シ又ハ之ニ干涉シテ戰爭ニ惡影響ヲ及ホシタル實例ハ決シテ尠カラス然レトモ是レ多クハ左ノ原因ニ基クモノナリ

イ 政略其レ自身カ背理ニシテ四圍ノ情勢ニ適應セス國家全般ノ利益ニ副ハサリシコト(概念及人的)

- ロ 政略ハ正當ナレトモ干涉ノ時機方法當ヲ得サリシコト(人的)
- ハ 政略正當ニシテ干與ノ時機方法適切ナルモ政略、戰略ノ運用ニ任スル人物ノ協調宜シキヲ得サリシコト(人的)

## ニ 戰略ノ指導運用ニ任スル人物ノ庸劣ナリシコト(人的)

政略カ背理ニシテ一般ノ情勢ニ適應セザルモノナルトキハ其戰略ニ與フル影響ノ不良ナルヘキコト勿論ニシテ其干涉カ概念トシテノ干涉タルト人ニ依ル干涉タルトヲ問ハス戰爭ノ結果ヲ不良ナラシムヘキハ論ヲ俟タス日露戰爭ニ於ケル露國ノ滿鮮占領政略、世界大戰ニ於ケル獨逸ノ汎獨政略等ノ如キ政略其レ自身カ其實力ト四圍ノ情勢ニ適セザリシカハ結局其政略ニ基ク戰爭ハ失敗ニ終レリ千八百六年ニ於ケル普國、千八百七十、七十一年ニ於ケル佛國ノ敗戰亦然リトス

背理ナル政略ノ戰略ニ干涉シテ惡結果ヲ招來シタル史例ハ尠カラス千八百七十年八月、ナポレオン三世軍ノ「セダン」ニ向フ退却(概念ノ干涉)及當時ノ佛國首相「バリカオ」伯ノ「マクマホン」軍ノ行動ニ對スル干涉(人的干涉)南北戰爭ニ於ケル北米聯合政府ノ「マクレラン」將軍ノ統帥ニ對スル干涉(人的干涉)千九百十五年一月英國海相「チャーチル」ノ主張ニ基ク「ダーダネル」ニ對スル海軍單獨攻撃(概念ノ干涉)千九百十四年開戰初期奧國カ比較的多數ノ兵ヲ「セルビア」戰場ニ使用シ主作戰タル對露戰場ニ使用スル兵力不十分ナリシコト(概念及人的干涉)等何レモ此種ニ屬ス若シ夫レ

滿洲ニ於ケル「クロバットキン」將軍ノ作戰、千八百七十年「バゼーヌ」將軍ノ作戰ヲ困惑セシメタル國內ニ於ケル愚論ノ如キハ即チ政略ト稱スヘキ程ノモノニアラスシテ紛々タル道途ノ蛙鳴ニ過キス

之ニ反シ合理的ナル政略ノ戰略ニ對スル干與カ好果ヲ齎シタル史例トシテハ千八百六十四年丁抹ニ對スル戰爭間普國ハ英國ノ丁抹ニ加擔センコトヲ虞レテ奧艦隊ノ東海遊弋ヲ禁シ千八百六十六年戰「ケーニヒグレート」會戰後ニ於テ「ビスマ」  
「ク」カ皇帝ニ切言シ「ウキン」ニ向ヒテスル普軍ノ大追撃ヲ中止セシメタル事實等ヲ舉クルヲ得ヘシ(人的干與)

戰爭ノ目的及其大方針ヲ決定スル場合政略ハ主タリ戰略ハ從タリト雖愈敵ト輸贏ヲ決セントスル時ハ兩者其地位ヲ顛倒シ戰略主ト爲リ政略從ト爲ルモノナリ換言スレハ戰爭ヲ計畫スル場合ニ於テハ政略ハ主タリト雖之ヲ實行スル場合ニ於テハ戰略カ主タラサルヘカラス、首將外ニ在レハ王命モ聽カサルコトアリトハ即チ此謂ナリ「フオン、モルトケ」將軍カ「軍統帥部」ハ政略上ノ目的ヲ達成スルニ便ナル作戰目標ヲ選定スルモ作戰ノ指導ハ全然軍事上ノ顧慮ニ基キ實施スヘキモノ

ナリト言ヒタルハ至言ナリ

抑主人首將ニハ主人首將ノ分限アルト等シク家人部下ニハ家人部下ノ分限アリテ存ス主人首將タルカ故ニ常ニ其家人部下ノ行動ニ干涉シテ可ナルモノニアラス即チ首將ハ部下軍隊ニ目的の方針ヲ示シ任務ヲ與ヘ以テ其行動ヲ律スト雖濫ニ殊ニ不適當ナル時機ニ於テ適當ナラサル方法ヲ以テ部下軍隊ノ行動ニ干涉スルカ如キハ縱ヒ其意志善ナリトスルモ絶對ニ不可ナルコト明白ナリトス加之戰況ニ依リテハ首將カ部下軍隊ノ意見ニ聽從セサルヘカラサルコト屢ナリ政略戰略ノ關係モ亦然リ政略ハ戰略ニ對シ單ニ目的の方針ヲ指示スヘキモ非常特別ノ場合ニアラサレハ戰略ノ實行ニ干涉スヘキモノニアラス殊ニ人的干涉ニ於テ然リトス吾人ハ之ヲ稱シテ「統帥ノ獨立」ト稱ス即チ輸送指揮官ハ船舶ニ對シ其向フヘキ目標經由スヘキ主道ヲ示スモ船舶ノ操縦ニ關シテハ之ヲ船長ニ一任シ之ニ干涉スヘカラサルコトヲ本則ト爲スト同理ナリ首將カ部下軍隊ノ行動ニ干涉スヘカラサルヲ本則トスト雖干涉ノ權利ヲ有シ特別ノ場合此權利ヲ行使スルト齊シク政略モ亦戰略ノ實行ニ干涉セス統帥ノ獨立ヲ尊重スヘキヲ要スト雖非常特別ノ

場合ニハ干與ノ權利無シト言フヘカラス「ケーニヒグレート」會戰後ニ於ケル「ビスマーク」ノ干與ノ如キ即チ是ニシテ此干涉ハ時宜ヲ得タルコト周知ノ如シ

千八百七十年十一月中旬巴里要塞ノ攻略ニ關シ「ビスマーク」ハ政治的見地ヨリ干涉シ軍ノ攻勢作戰ノ中止及巴里前面ニ於ケル停止待機ハ第三國ニ本戰役參與ノ機會ヲ與フルノ虞アルヲ以テ攻撃材料ノ到着ヲ待ツコトナク現在ノ材料ヲ以テ迅速ナル攻撃ヲ開始スヘキヲ主張セリ是レ明ニ戰略ノ實行ニ對シ戰略ノ本質ニ反スルコトヲ要求スルモノニシテ適當ナリト言フヘカラス「モルトケ」將軍及第三軍司令官ノ之ニ對シ絶對的反對ヲ爲シタルハ至當ナリ但シ其意志ハ掬スヘキモノアリ政略其物ハ正當ナルヲ以テ皇帝カ唯攻撃材料ヲ最大速度ヲ以テ輸スヘキヲ命シタルハ宜ナリト言フヘシ

千九百十四年夏埃匈國ハ露國ニ對スル判斷ヲ誤リ戰爭ハ埃塞間ニ局限シ得ヘキモノト信シ對露塞作戰ノ場合ニ「ガリシヤ」方面ニ使用スヘキ計畫ナリシ第二軍ヲ最初セルビア戰場ニ輸送セサルヘカラサリキ然ルニ其後統帥部ハ成ルヘク速ニ第三軍ヲ「ガリシヤ」戰場ニ轉送セント欲シタルトモ外相「ベルヒトード」伯ハ對巴爾幹政

策上強大ナル兵力ヲ使用シ塞國ニ大打撃ヲ與フルノ必要ヲ力説シテ統帥部ノ企圖ニ反對シ匈牙利首相チスツア伯亦之ニ和シテ皇帝ニ建言スル所アリ爲ニ優勢ナル露軍カ將ニ「ガリシヤ」ノ埃匈軍主力ニ殺到セントシ一兵ノ招致ヲモ必要トスル戰略上重大ナル時機ニ於テ維納ノ政府ト「ブルゼミツスル」ノ統帥部トハ連日無用ノ論争交渉ヲ繰リ返シ此間巴爾幹軍司令官「ボチオレック」大將ハ陰ニ外相ヲ支持シ（註、當時「ボチオレック」大將ハ總軍司令官ニ隸シ皇帝ノ直屬ニアラス）且竊カニ宮廷ニ運動シ總軍司令官「フリードリッヒ」太公ノ隸下ヲ脱シテ皇帝直屬ト爲ラント欲シ外相「ベルヒトード」伯亦之ヲ支援シ容隊スル所アリ益事態ヲ紛亂セシメ總參謀長「コシラード」將軍ヲシテ終ニ「埃匈國」ノ戰爭指導ノ總統帥ハ目下誰ナリヤ皇帝ナリヤ侍從武官長ナリヤ將タ又外務大臣ナリヤト絶叫セシムルニ至レリ此ノ如クシテ第二軍ノ「ガリシヤ」ニ向テスル轉送ハ著シク遅レ八月下旬既ニ彼我兩軍ハ衝突シ「ガリシヤ」ニ於ケル大會戰ハ方ニ開始セラレタルニ拘ラス尙第四軍團ハ無爲ニ「サブツク」河畔ニ停止シ在リ八月二十六日總軍司令官ハ皇帝ニ電報シテ曰ク「第四軍團ノ無キハ最モ危險ナリト」

「コンラード」元帥ノ記セル「外務大臣カ同盟國ヲ得ルカ爲先ツ軍事上ノ成功ヲ待タントスルカ如キハ失敗政策ノ迷信ナリト」ノ言カ果シテ正當ナリヤ否ヤハ別問題トスルモ一國ノ外相カ兵力ノ具體的運用ニ迄干涉シ且統帥權問題ニ容隊シタルカ如キハ全然其分限ヲ辨ヘサルモノニシテ人的干涉ノ最モ不適當ナル事例タラスンハアラス

政略正當ニシテ其干涉ノ時機及方法適切ナリシニ拘ラス政略戰略ノ運用ニ任スル人物ノ協調宜シキヲ得サル爲ニ戰爭ニ惡影響ヲ與フルコト尠シトセス人間ノ感情問題ハ此間大ナル役割ヲ演ス人的干涉ノ理論上正當ナル場合ニ於テモ其實績ノ概シテ不良ナルハ即チ這個ノ人間心理ニ基クモノタラスンハアラス加之人物相互ノ協調ヲ缺クハ一面思想觀念ノ相違ニ基クコトヲ看過スヘカラス戰略ノ指導ニ任スル者カ政略眼ヲ有シ政略ヲ指導スル者カ戰略ニ關スル十分ナル理解ヲ有スルコトハ兩者ノ協調ヲシテ圓滑ナラシムル所以ナリトス

戰略ノ運用ニ任スル人物庸劣ナルトキハ或ハ背理ノ政略ニ聽從シ或ハ政略トノ協調宜シキヲ得ス軟弱盲從又ハ頑固衝突等百弊ノ生スルハ自然ナリ彼ノ獨逸カ千

八百六十六年戰役及千八百七十年戰役ニ於テ概シテ戰略政略ノ協調ヲ保チ大過ナキヲ得タルモノ「モルトケ」將軍ノ人格識量ニ負フ所大ナラスンハアラス此點ニ於テハ「ルーデンドルフ」將軍ノ如キ徒ラニ政府當局ヲ罵倒スルヲ以テ能事トセス須ラク反省スル所ナカルヘカラス若シ夫レ日露戰爭ニ於ケル「クロバットキン」將軍普佛戰爭ニ於ケル「マクマホン」「バゼーヌ」將軍ノ如キニ至リテハ論スヘキ限ニアラス「觀シ來レハ政略戰略何レカ主ナリヤノ問題ハ全ク「時」ト「場合」トニ關スルモノニシテ常ニ必スシモ政略至上ナルニアラス又常ニ必スシモ戰略至上ナルニアラサルヲ知ルヘシ是ヲ以テ政略主ナリヤ戰略主ナリヤノ問ニ對スル答解ハ無條件ニ之ヲ發スヘキニアラス心スヤ「時」ト「場合」トニ關スル條件ナカルヘカラス或ル場合ニハ戰略政略ニ從屬スヘク或ル場合ニハ政略戰略ニ從屬スヘシ但シ何レノ場合ニ於テモ各其分限掌域ヲ恪守スルコト緊要ナリ

概シテ政治ハ將帥ニ其願望目的ヲ告クルニ止マリ其達成ノ手段即チ戰略ニ干涉スヘカラサルハ政略ノ分限ニシテ軍事の成敗ニ鑑ミ時宜ニ適スル政略ヲ指導スルハ其義務ナリ何トナレハ政略ノ定メタル目的ヲ如何ニ達成スヘキヤヲ決定ス

ルハ用兵ノ事項ニ屬シ軍事的成功無ケレハ政略的好果得テ期スヘカラス此軍事的動作ノ成功ハ政略ノ範圍外ナル條件ニ關スルモノナレハナリ政治的情況ヲ考慮シ政略ノ目的ヲ理解シ作戰一般ノ指導ヲシテ政略上ノ目的ニ適合セシメンコトヲ勉ムルハ戰略ノ義務ナリ

能ク戰略ノ本質其可能ノ限度ヲ考慮シ實情ニ適合シ國家全般ノ利益ニ適應スル政略上ノ利害ト戰略上ノ利害トハ大綱ニ於テ一致スヘキモノニシテ其一致セサルハ何レカニ無理ノ包藏セラルルカ又ハ是カ運用ノ任ニ當ル者ノ觀念ノ相違ト實行上ノ協調ノ缺如ニ基因ス

戰爭目的ノ相違即チ戰爭ノ性質ノ相違ニ因リ作戰ノ指導上ニ加味セラルル政略的顧慮ニ大小ノ差異アルハ自然ニシテ西比利亞出兵ノ如キハ比較的多少政略的顧慮ヲ要スル作戰ナリシナリ

戰略ノ成否カ政略ヲ左右シ政略ノ運命ヲ決スル場合亦稀ナリトセス般鑑遠カラス露國ノ極東政略ハ日露戰爭ニ於ケル敗戦ニ依リ一變シ獨逸ノ汎獨政略亦最近大戰ニ於ケル失敗ニ依リ挫折セラレタリ首將ハ即チ首將タリト雖直接首將ニ成

功ヲ齎スモノハ部下軍隊ニシテ一面ヨリ觀レハ首將ハ部下軍隊ノ運命ヲ決シ政略ハ戰略ノ運命ヲ決スルモノノ如キモ他面ヨリ之ヲ觀レハ軍隊ハ首將ノ運命ヲ定メ戰略ハ政略ノ運命ヲ定ムルニ似タリ

政略戰略各其本分限ヲ守リ協調宜シキヲ得時ト場合トニ應シ其關係ヲ適當ニ律スルハ戰勝ノ根本原因ニシテ人ノ教養ノ完全ト「制度」ノ善美トヲ有スルニアラサレハ庶幾スヘカラス世界大戰ニ於テモ英國ノ戰爭實施ハ政略偏重ノ色彩濃厚ニシテ獨逸ノ其レハ戰略偏重ノ傾向歷然タリ是レ固ヨリ人物分布ノ關係國民性ニ負フ所大ナリト雖又軍事的成功ノ大小ニ關スル所尠カラサルヲ看過スヘカラス即チ獨逸カ戰略偏重ノ趨勢ヲ馴致シタルハ素ヨリ其軍部ニ優越ナル人物多カリシト國民性トニ基クナランモ亦一面戰場ニ於ケル赫赫タル戰勝ノ副產物タラスンハアラス是レ軍事的成功ノ大ナルニ從ヒ軍部ハ益々自重自制スルノ必要ナル所以ナリトス

「フオン、クラウゼウヰツ」ノ思想モ亦大體ニ於テ吾人ノ其レト同シキモノノ如ク左  
 『Über den Krieg』中ヨリ若干ノ要項ヲ摘録スヘシ

「若シ戰爭ニシテ其純概念ヨリ演繹スル所ノ如ク威力ノ完全無礙絕對ナル表現ナランニハ縱ヒ最初政略ニ基カンモ其一度開始セララルヤ既ニ政治ノ爲ニ干渉セララルコトナク自ラ政治ニ代リテ唯自家ノ法則ヲ奉スヘキコト一度導火セラレタル地雷ノ必ス定メラレタル方向ヲ守リテ毫モ變スルコトナキカ如クナルヘキコト明白ナリ從來政治ト戰略トノ間ニ調和ヲ缺ク毎ニ理論的ニ之ヲ考察研究シタル者ハ多ク敍上ノ結論ニ達シタリ然レトモ此觀念ハ實際ニ背キ根柢ヨリ誤レリ」

「戰爭ハ之カ主謀タル智力ニ左右セラレサルコト能ハス智力ノ戰爭ヲ左右スルヤ主ナル動因ト爲ス所ノモノハ彼ノ戰爭ヲ惹起シタル所ノ政略上ノ目的タルヘキコト理ノ當然ナリ唯政略上ノ目的ハ自肆ノ立法者ニ非スシテ能ク手段ノ本質註、戰爭ノ本質ニ從ヒテ變化スルノミ此故ニ政略ハ戰爭ノ全體ヲ通シテ其爆發性アル本質ノ容ルル限リ終始之ニ影響ス」

氏ハ戰爭ハ政略ノ繼續ナルカ故ニ政略ハ戰爭ノ全經過ヲ通シ終始之ニ干與スヘキモノナリトノ思想ヲ有シタルコト明白ニシテ戰爭ハ一ノ政略上ノ行爲タルノ



ミナラス真正ナル政略上ノ器械ナリト斷セリ又曰ク

「開戦トハ外交政略ノ戰爭ト言フ他ノ手段ヲ用ヒテ繼續セラルルヲ謂フニ過キ  
ス戰爭ノ特色アルハ專ラ其手段ノ本質ニ基ク故ニ政略ニ求ムルニ其方向及目  
的ノ戰爭ト稱スル手段ニ戻ラサルコトヲ以テスル事ハ兵學ノ權利ニシテ又將  
帥ノ權利タリト

之ヲ前記政略上ノ目的ハ自肆ノ立法者ニ非スシテ能ク手段ノ本質ニ從ヒテ變化  
スト述ヘタル所ト對照スレハ政略カ其目的ヲ定メ方針ヲ決定スルニ方リテハ戰  
略ノ本質ニ鑑ミ其要求ヲ考慮セサルヘカラサルノミナラス戰略ニ求ムルニ其本  
質ニ背戻スルモノヲ以テスヘカラサルノ意ナルコト明瞭ニシテ且此間政略ノ分  
限戰略ノ權利モ臆氣ナカラ窺フヲ得ヘシ又曰ク

「戰爭ノ政略上ノ目的ニ及ホス影響ハ縱ヒ如何ニ大ナランモ必ス變更ノ範圍内  
ニ在リテ決シテ全然自ラ之ニ代ルニ至ラサルモノナリ何トナレハ政略上目的  
ハ目的ナリ戰爭ハ手段ナリ而シテ目的無キ手段ハ未タ曾テ有ラサレハナリト  
是レ戰略ノ成否ハ政略上ノ目的ノ變更ヲ招來スヘキヲ認メタルモ依然トシテ政

略カ根本タルコトヲ道破セルモノト言フヘシ

普國將官ブルームハ其著「戰略論」ニ於テ「戰爭ニ於テハ内治外交ノ運用ニ軍事的協  
議ヲ要シ軍事的統帥ニ政治的考慮ヲ要ス」ト述ヘタリシカ此事ハ數國對數國ノ戰  
爭ニ於テ特ニ必要ニシテ聯合軍ノ一員トシテ數國ノ敵ト戰フ場合ニ於テハ一國  
對一國ノ戰爭ニ比シ政略戰略ノ交渉ハ一層頻繁密接ニシテ政略的見地カ戰略上  
ノ基準ト爲ルコト尠カラス

#### 第四節 政略ト戰略トチ協調セシムヘキ機關

(戰爭ノ最高指導機關)

戰爭ニ於テ政略戰略ノ協調極メテ必要ナルニ拘ラス實際ニ於テハ屢「支吾扞格」ヲ  
惹起シタル場合尠カラス而シテ是レ一ニハ當事者タル人物ノ如何ニ關シ一ニハ  
其思想ニ關シ又實ニ制度ノ良否ニ相關スルコト多シ古來前方ニ猛進セントスル  
軍人精神ト政略ノ熟考的方式トハ根本的ニ相違スト稱セラレ  
千八百十五年佛國ノ占領中普國首相「ハルデンベルヒ」ト總司令官「ブリュッヘル」トノ

乖離ハ益、險惡ナル形相ヲ呈シ普魯西軍閥ノ無遠慮ナル行動ハ危險ナル葛藤ニ導カントシタリ普軍最高司令官「ブリュッヘル」將軍ハ七月十六日政治ト軍事トノ當局者ノ面前ニ於テ乾杯シテ曰ク「願ハクハ軍カ鮮血ヲ以テ購ヒタル處ヲ外交官カ再ヒ失ハサランコトヲ」ト蓋シ同盟軍タル「ウエリントン」軍カ全然普軍ノ豫想ヲ裏切リタル行動ニ出テタレハナリ當時「ブリュッヘル」ハ辭職ヲ申出テタリシカ「グナイゼナウ」ノ政治的手腕ニヨリ能ク之ヲ和解シ十月三日政治問題ニ關シテハ最高統帥部ヲ首相ノ下ニ置クニ至レリ

千八百六十四年普魯西ト丁抹トノ戰爭ニ於テ「デユッセル」堡壘攻略ニ關シ普國ノ政治家ト軍事當局者間ニ意見ノ相違ヲ生シ「註」政治家ハ英佛ノ脅迫的干涉ヲ虞レ直ニ突撃ヲ開始スルヲ要スト思惟シタリ又千八百六十六年普魯戰爭開戦前ニ於テハ第八軍團ノ召致ニ關シ、開戦後ニ於テハ「ケーニッヒグレート」ノ會戦後、ニコリスブルグニ於テ、普佛戰爭ニ於テハ「巴里」ノ前面ニ於テ宰相「ビスマルク」ト「モルトケ」將軍トノ間ニ意見ノ衝突ヲ惹起シタリト雖皇帝ノ賢明ト賢相名將ノ雅量トニ因リ大過ナキヲ得タリ

世界大戰ノ當初、埃匈國外相ト其最高統帥部間ニ意見ノ衝突ヲ來シ其戰略上ニ大ナル惡影響ヲ與ヘタルコトハ既ニ述ヘタル所ニシテ同大戰間獨逸ニ於テモ政府ト軍部トノ協調ヲ缺キ宰相「ベートマンホルウ」ト「ヒンデンブルグ」ト「ルーデンドルフ」將軍ト正面ノ衝突ヲ爲シ獨逸ノ戰爭能力ノ發揮上ニ大ナル支障ヲ來シ遂ニ「ベートマンホルウ」ハ宰相ノ職ヲ辭スルノ已ムナキニ至レリ戰場ニ於ケル大小幾多ノ戰勝ヲ博シタル獨逸ニ於テハ軍部ノ勢力俄ニ増大シ政府ヲ壓シテ全獨逸ヲ自ラ率キテ立ツノ概アリ政府ハ自然其下風ニ立チテ不精無性軍部ノ背後ニ跟隨スルノ觀ヲ呈シタリシカ總勘定ノ日ニ於テ遂ニ敗者ト爲リ開戦以來戰場ニ於テハ幾多ノ失敗ヲ重ネ幾度カ統帥部ノ權威疑ハレタル協商聯合國側ニ於テハ其敗戦ニ刺激セラレテ鞏固強力ナル政治中樞ヲ確立シ此政府カ全國民ヲ掌握シテ立チ國軍ニ確乎不拔ノ目的方向ヲ指示シ且軍ノ要求ヲ充足シ以テ最後ノ勝者ト爲リタル事ハ頗ル研究ニ値スル所タラスンハアラス抑、政略軍略ノ協調宜シキヲ得ルト否トハ半ハ「人」ニ關シ半ハ「制度」ニ關ス「ウイエルム」老帝ハ「ビスマルク」モルトケ」ノ性格ニ鑑ミ普佛戰爭ニ於テハ六十六年戰ノ如

ク「ビスマーク」ヲ大本營軍事會議ニ出席セシメス（普埃戰爭普佛戰爭ニ於テ概シテ此ノ概シテニ注意スルヲ要ス）政略戰略ノ協調ヲ保チ大過ナキヲ得勝戰ニ違シタル時ノ獨逸モ世界大戰ニ於テ敗北シタル時ノ獨逸モ其外形上ノ制度ニ於テ大差ナク唯此制度ノ運用ニ任スル人物ニ於テ差異アリシニ過キス而シテ獨逸制度ヲ非難スル論者ハ彼上ノ事實ハ之ヲ容認スルモ彼等ノ言フ所ハ即チ「ウイールヘルム」老帝「ビスマーク」「モルトケ」等ノ如キ天才偉人ノ出現ヲ必要トスルカ如キ制度ハ決シテ良制度ト言フヘカラス偉人天才ハ常ニ必スシモ出現セサルヲ以テ單ニ常識及愛國心ノミヲ有スル人物ヲ以テ運用シ效果ヲ收メ得ヘキ制度タルヲ要スト言フニ在リ

言ヤ善シ故ニ此ノ如キ制度アラハ則チ甚タ佳ナリ然レトモ獨逸ノ失敗ノ跡ヲ觀テ直ニ聯合國ノ制度カ良好ナリシト思惟スル者アラハ是レ其一ヲ知リテ其二ヲ知ラサル者ト言ハサルヘカラス何トナレハ聯合國ノ成功モ制度其物ノ優秀ナリシ結果ト言ハンヨリハ寧ロ適當ナル人物ヲ得タルニ存スト觀ルヲ至當トスヘケレハナリ觀ヨ「ベートマン」「ホルウラヒ」「ヘルトリング」「ミハエリス」「マック」中誰カ「クレ

マンソー」「ロイド」「ジョーヂ」「ウイールソン」等ニ比肩シ得ル者ソ又觀ヨ「クレマンソー」「ロイド」「ジョーヂ」等ノ出ツル迄ハ英佛ハ寧ロ其制度ノ弱點ヲ暴露シツツアリタルニアラサリシカラ

建國以來獨逸帝國ノ根本制度タル武權（參謀本部）文權（政府）ノ對立ヲ不可トシ英佛、米等ノ如ク武權ヲ政府ニ從屬セシメ總司令官又ハ參謀總長ハ政府又ハ閣員中ノ數名ヲ以テ組織スル戰爭內閣（War Cabinet）或ハ戰爭會議（Comité de Guerre）ニ隸屬セシムヘシト主張スル者尠カラス

概念トシテノ戰略ハ概念トシテノ政略ニ從屬スル場合アルコト及概念トシテノ戰略カ主ト爲リ概念トシテノ政略カ從タル場合ノ存在スルコトハ前屢之ヲ述ヘタリ而シテ概念トシテノ戰略カ概念トシテノ政略ニ從屬スルト言フ事ハ軍略ヲ掌ル者カ政略ヲ掌ル者ニ從屬スヘシト言フノ義ニアラス概念ノ關係ト人的關係トハ全然別個ノ問題ニ屬ス既ニ政治ニ於テモ立法ハ政治ノ基礎ニシテ行政ハ立法ニ從屬スヘキモノナルコトハ政治ノ概念上至當ナリト雖而モ行政ノ府タル政府ハ決シテ立法ノ府タル議院ニ從屬スヘキモノニアラス何レノ立憲國ニ於テモ

立法ノ府ト行政ノ府トハ相對立スルコトヲ以テ立憲政治ノ本義ト爲シ實際ノ政治制度モ亦現ニ然リトス政治ニ於テ尙且然リ況ンヤ軍事ニ於テオヤ理想トシテハ國家ノ文武兩權ハ真正ニ有能ナル「ナポレオン」ノ如キ一人ノ手ニ掌握シ之ヲ運用スルヲ可ナリトスヘシ然レトモ政務軍務ノ廣大複雜ナル政略戰略ノ錯綜セル統帥ノ廣汎ナル今ヤ「ナポレオン」乃至「ウイヘルム」老帝時代ノ比ニアラス是ヲ以テ上述ノ理想ハ其實行ニ於テ至難ナルコト多智多能ヲ以テ謳ハレタル「ウイヘルム」ニ世ニシテ尙且文武兩權ノ上ニ立チテ十分ニ其行司役ヲ果スコト能ハサリシ事實ニ徴スルモ明白ナリトス是ニ於テカ元首ノ下ニ戰爭内閣又ハ戰爭會議ノ如キ戰爭指導ノ最高機關ヲ設置セントスルノ思想ヲ生ス以下大戰間ニ於ケル英佛ノ最高統帥機關ノ變遷ノ梗概ヲ敘シ其可否ノ論究ニ及ハントス

從來極端ナル責任内閣主義ヲ保持セル英國ハ國軍ノ統帥モ亦内閣ノ責任トシ陸海軍大臣ヲ以テ軍政並用兵ノ直接責任者ト爲セリ

然ルニ開戰後戰爭規模益増大シ新軍ノ創設軍需品ノ補給等軍政事業尤大ト爲リタル爲大臣ノ業務ハ俄ニ廣汎複雜ト爲リ且作戰上ノ畫策ニ專任スル權威アル軍

令機關ノ必要ヲ痛感シ參謀本部ノ權限ヲ向上シ參謀總長ニ陸軍ノ作戰ニ關スル「政府」ノ命令ヲ發行スル權ヲ與ヘ同官ヲシテ最高統帥直接ノ責任者ト爲シタリト雖用兵ニ關スル命令權ハ依然政府ニ存シ參謀本部ハ總理大臣帷幄ノ一機關タリ

英國ハ開戰以來戰爭會議又ハ戰爭内閣ト稱スル若干ノ閣員ヨリ成ル會議ヲ以テ戰爭指導ノ重大問題ヲ討究決定スルノ方法ヲ採リシカ一般内閣ヨリ超然獨立セル堅固ナル戰爭内閣ノ成立ヲ見タルハ實ニ千九百十六年十二月「ロイドジョージ」内閣ノ成立後ナリト同年十二月七日發表ノ内閣員左ノ如シ

總理大臣 「ロイドジョージ」

樞密院議長 「カーゾン」

無任所大臣 「ヘンダーソン」

無任所大臣 「ミルナー」

大藏大臣「ボーナー」  
ロー氏ハ其主務ニ妨ナキ時ニ於テノミ戰爭内閣ニ出席スルコトトセリ而シテ本内閣ニ軍部大臣ノ參與セサルハ一見甚タ奇ナリト雖「ロイドジョージ」

一ジ氏ノ意圖ハ職務繁忙ナル國務大臣ヲ拉シ來リ其主務ノ遂行ヲ妨クルノ不可ナルト勉メテ船頭ノ數ヲ減少シ氏ノ獨裁ニ便ナル帷幄機關ヲ編成セントスルニ在リタルモノノ如シ然ルニ千九百十七年七月十八日更ニ無任所大臣一名及海軍大將「スマツツ」氏ヲ増加シ戰爭内閣ノ閣員ハ六名ト爲レリ(註、千九百十六年十二月以降ノ陸相ハ「ダービー」卿ナリ)

佛國ニ於テハ大統領ハ陸海軍ヲ統帥スルノ權利ヲ有スト雖平時軍政ヲ掌リ事實上全軍ヲ指導スル者ハ軍部大臣ニシテ同大臣ハ議會ニ對シ責任ヲ有ス尙數名ノ協定ヲ要スル國防上ノ諸件ヲ討究スル爲國防會議アリテ内閣議長、陸海軍、外務、大藏植民ノ各大臣及其他ノ顧問ヨリ成ル(註、戰前ノ英國ニモ存在セリ)

千九百十四年八月一日全陸軍動員セララルヤ當時ノ參謀總長中將「ジョッフ」ハ對獨作戰軍ノ總司令官ト爲リ平時陸軍大臣ノ隸下ニ在リシ參謀總長カ今ヤ直接大統領ニ隸屬シ陸軍大臣ト相對立セル最高統帥部茲ニ成立セリ

千九百十五年十二月從來陸相ノ隸下ニ在リシ「バルカン」作戰軍モ亦「ジョッフ」將軍ノ麾下ニ入り軍令ハ完全ニ獨立シ千九百十五年十月迄ハ國防會議ノ開催セラレ

タルコト無カリシト云フ

然ルニ戰局意ノ如ク進捗セス全國民ノ能力ト全國家ノ資源トヲ統一シ一目的ノ爲ニ集結運用スルノ必要ヲ痛感シ千九百十六年十二月戰爭會議ノ成立ヲ見タリ其議員左ノ如シ

内閣議長兼外務大臣 「ブリアン」

陸軍大臣 「リョター」

海軍大臣 「ラカーズ」

兵器彈藥大臣 「アルベ、ルト、トーマス」

大藏大臣 「リボー」

總司令官「ジョッフ」將軍及軍令部長ハ顧問トシテ戰爭會議ニ列席ス

抑佛國ニ於ケル戰爭會議創設ノ趣旨ハ從來政府ト對立セシ總司令部ノ權限ヲ縮小シ戰爭指導及之ニ伴フ諸般ノ軍事施設ヲ政府ノ權限内ニ統一綜合セントスルニ在リ是ニ於テカ佛國戰場總司令官「ニヴェール」將軍及「バルカン」戰場總司令官「サライユ」將軍ハ共ニ戰爭會議ニ隸屬スルコトト爲レリ

次テ間モナク全軍總司令官兼戰爭會議顧問タル「ジョッフル」將軍ハ元帥ニ昇進シ引退スルコトト爲リ參謀總長及軍令部長ハ顧問トシテ戰爭會議ニ列ス  
 千九百十七年春ブリアン「内閣倒レ」リポー「内閣成立セルモ依然戰爭會議ヲ編成シ以テ戰爭ノ高等指導ニ任セシメ且參謀總長ノ權限ヲ擴張シ事實上ノ陸軍大臣ト看做シ得ル程度ニ達セシメタリ戰爭會議ハ戰爭ノ終局迄存續セラレ最高統帥及軍政ハ舉テ同會議ノ掌握スル所ト爲リ開戰當初政府ト對立シ元首ニ直隸セシ總司令部ハ遂ニ政府ニ從屬スルコト英國ノ如ク爲レリ

抑英佛兩國カ共ニ戰爭ノ進行ニ伴ヒ元首ノ下ニ數名ノ閣員ヲ以テ合議機關ヲ組織シ戰爭指導ノ最高機關タラシメ國軍統帥部ヲ之ニ隸屬セシムルニ至リタルモノ固ヨリ國體國情ニ由ルト雖亦左ノ諸因ニ基クモノト言フヘシ

一 戰爭ハ全然平時ニ於ケル豫想ヲ裏切り大規模且持續戰ト爲リ平時ノ準備ヲ以テ戰爭スト言ハンヨリハ寧ロ開戰後根本的ニ戰爭ノ準備ヲ樹テ直シ所謂國家總動員ヲ實行シテ戰爭ヲ繼續セサルヘカラサルニ至リタル關係上從來ノ戰爭ノ如ク開戰後平時ノ準備ニ基キ用兵萬能ヲ以テ終始スル能ハス從

前ト雖用兵ノミナラス軍政即チ補給補充ノ大事業アリタルモ其程度ニ大ナル運庭アリ作戦實行ノ外國家ノ戰備充實ヲ併セ行ハサルヘカラサル運命ニ陥リ作戦ノ機敏神速ヨリモ寧ロ全國民ノ全能力ノ經濟的發揮ヲ必要トシタルコト

二 戰局豫想外ニ擴大シ敵國及聯合國ノ數増加シタル爲戰時外交ハ益多端複雜ト爲リ而モ外交ノ指導ト作戦ノ實施トハ極メテ緊密ナル協調ヲ保ツヲ要シ且聯合國間相互ニ戰爭諸資材ノ融通財政ノ相互援助協同作戦等協定スヘキ緊要事項ノ増加シタルコト

三 戰局持續シ生活逼迫シ漸ク戰ニ飽キントスル民心ヲ鼓舞作興シ國民ノ精神の團結ヲ維持シ戰爭ノ最高指導ニ任スル機關ヲ國民ニ近接セシメ以テ國民ノ信賴ヲ集ムルノ必要ナリシコト

之ヲ要スルニ英佛ノ制度ハ特殊ナル情況ニ處スル特殊ナル制度ト觀ルヲ至當トスヘク特殊ナル戰局ノ現出シタルニ拘ラス依然トシテ從來ノ主義ヲ保持シ武權對文權ヲ以テ終始シ大本營ハ常ニ政府ト相對立セルノミナラス寧ロ政府及國民

ヲ率キテ立ツノ觀ヲ呈シタルヲ軍國獨逸ト爲ス

元來甲國ノ爲ニ適スル制度必スシモ乙國ニ適セス衆力ヲ統制調節シ其能力ヲ發揮セシムヘキ制度ノ要ハ一ニ「人」ニ適應スルニ在リ是ヲ以テ最良ノ制度トハ國民ノ性格、教養、風習等ニ適應シタルモノナラサルヘカラス獨逸ノ最高統帥部ノ組織權限ノ大戦間秋毫ノ變化モ見サリシハ統帥ノ成功ニ負フ所大ナルヘシト雖又己レヲ率キル者ヲ信用スル獨逸人ノ性情教養ニ因ル所鮮カラサルヘシ

歐米人必スシモ吾人ヨリモ賢明ナラス國體、國民ノ性格、教養、社會組織等彼我ノ相違ハ頗ル大ナリ加之將來ノ戰爭ノ性質ハ必スシモ歐洲大戦ト同一ナルモノト斷定スルヲ得ス是ニ於テカ吾人ハ徒ラニ彼等ノ糟粕ヲ嘗ムルコトナク獨自善美ノ制度ヲ工夫創設セサルヘカラス而シテ此戰爭最高指導ノ機關ノ組織タルヤ國民ノ性格、教養、國家總動員計畫準備ノ有無、當時ノ政情、就中内閣ノ性質及人物ノ配置狀態等ニ關スヘク必スシモ一定ノ規範存セスト雖憑據スヘキ根本原則ヲ擧クレハ左ノ如シ

i 戰爭ノ實施ヲシテ機敏果斷ナラシムル爲成ルヘク船頭ノ數ヲ尠カラシメ

寡頭主義ヲ採用スヘシ

ii 政略軍路上ノ智識ヲ綜合統一シ其圓滿ナル協調ヲ策シ國家大局ノ利益ニ適應スル如ク戰爭ヲ指導シ且國民ノ信望ヲ集ムル爲文武兩權ヲ代表スル人物ヲ一機關内ニ包括スヘシ

iii 文武兩權ハ政略戰略ノ本質上之ヲ對等ノ地位ニ置キ偏文偏武ヲ避クヘシ數名ノ閣員ヲ以テ組織シタル戰爭内閣又ハ戰爭會議ヲ以テ戰爭ノ最高指導機關トシ參謀總長ハ單ニ顧問トシテ列席シ出征軍總司令官ヲ戰爭内閣又ハ戰爭會議ニ隸屬セシメタル英佛ノ制度カ吾人ノ根本原則ニ背戾スルモノタルハ明白ナリ而モ獨逸ノ制度ニモ亦缺陷無シトセス

平時ヨリ國家總動員ヲ計畫シ其準備ヲ爲ストキハ開戦後ニ於ケル主要ナル戰爭事業ハ作戰ニシテ戰爭ノ性質ハ從來ノモノニ接近スヘク且平時教育ノ力ニ依リ國防思想ヲ普及シ國民ノ戰爭ニ對スル根本觀念ヲ統一スルヲ得ハ戰時政略ト軍略トノ協調ヲ圓滑ナラシムル施設ハ左ノ要領ニ據ルヲ得ヘシ

i 國家第一流ノ人物ヲ網羅スル舉國一致内閣ヲ組織シ其首班ニハ軍事及政

治ニ通曉シ勢望一世ヲ壓スル大人物ヲ以テ之ニ充ツ

ii 要スレハ大本營ノ重要會議ニハ勅命ニ依リ總理大臣副總理格タル大臣(大藏又ハ外務)又ハ其他ノ必要ナル大臣ヲ顧問トシテ列席セシムルコトアルヘシ陸海軍大臣ノ陪スルコト現制ノ如シ(註)普埃戰役ニ於テハ「ビスマーク」ハ常ニ大本營會議ニ列席ヲ許サレタレトモ普佛戰役ニ於テハ然ラス是レ大ニ參考トスルニ足ルヘシ)

iii 重要ナル閣議ニハ參謀總長軍令部長ハ顧問トシテ參與ス

IV 軍事機關ト政治機關トノ情報交換ヲ適切圓滑ナラシムルノ施設ヲ行フ

V 作戰實施ノ大元帥ニ對スル責任者ハ參謀總長及軍令部長トシ内政外政ニ關シ議會ニ對スル責任者ハ政府タルコト從來ノ通リトス

作戰遂行ノ責任(議會ニ對スル)ヲ明ニスル爲參謀總長及軍令部長ヲ無任所大臣トシテ内閣ニ列セシムヘキ案ハ立憲政治萬能ヲ信スル者ノ議論トシテ一應ノ理由ナキニアラス獨逸人「テオドル、カール」博士ハ其著「戰爭ノ意義」ニ就テ「ニ彼シテ曰ク「高級將帥ハ之ヲ閣員タラシメサルヘカラス」ト又佛將官 palat ハ其著「La philoso-

phie de la Guerre」ニ於テ「總司令官ハ閣員タルヘキコト」ヲ述ヘタリト雖何レモ稍極端ノ意見タルカ如シ參謀總長軍令部長等ノ進退ハ内閣ノ運命トハ沒交渉タルヲ便トシ此ノ如クスルモ其責任ヲ明ナラシムルコトヲ得ルハ大戰間ニ於ケル獨逸軍參謀總長ノ交迭ニ鑑ルモ明白ナリトス

總理大臣及副總理格タル大臣ヲ大本營ノ編制上ノ一員トスルコトハ統帥ノ責任ヲ明ニスル爲適當ナラサルノミナラス統帥ノ敏活ヲ阻碍スルコトハ歐洲大戰初期ニ於ケル獨逸大本營ノ實績之ヲ證明シ其後獨逸大本營ノ政治機關ハ分離シテ伯林ニ歸還スルニ至レリ

戰爭指導ニ關スル責任ヲ何人カ負擔スヘキヤハ立憲政治ヲ採用スル國家ニ於テ屢問題トナルモノナリ茲ニ特ニ注意ヲ促シ置クコトハ「戰爭指導ノ責任」ト言フ問題ハ「立憲政治」國ニ於テ始メテ其意義ヲ有スルモノニシテ其責任ハ即チ議會ニ對スル責任ナルコト即チ是ナリ

立憲政治萬能ニ立脚シ立憲主義ヲ飽迄徹底セシメントスル國家ニ於テハ所謂責任内閣制ノ適用ヲ廣範圍ニ及ホシ元首ノ有ユル大權ノ發動ニ就テ必ス其責ニ任



スヘキ者、勿論議會ニ對シテ必要トシ從テ議會ハ統治ニアレ軍ノ統帥ニアレ總テノ大權行使ニ關シ干與シ之ヲ質問シ批評シ其責任ヲ糺彈スルコトヲ得ヘシト爲ス英國ノ如キ即チ然リ

然ルニ立憲政治ノ反面ニ於ケル缺陷ヲ認メ適當ニ之ヲ調節緩和スルノ必要アリトノ思想ニ立脚スル國家ニ於テハ必スシモ元首ノ有ユル大權行使ニ就テ其責任スヘキ者ヲ必要トセス從テ議會カ大權行使ニ關シ質問シ批評シ責任ヲ糺彈シ得ル範圍ヲ適當ニ制限ス本邦ノ如キハ正ニ此種ニ屬スル立憲國ニシテ純然タル統帥大權ノ發動ニ就テハ議會ハ其責任ヲ問フノ權利ヲ有セス換言スレハ作戰ノ指導ニ關シテハ何人モ議會ニ對シ責任ヲ負フモノナク議會ノ干與ヲ許ササル至尊ノ大權ニ屬ス此事ハ帝國建國ノ根本義ニシテ肇國以來ノ歴史、明治大帝ノ參謀本部、軍令部、元帥府、軍事參議院等ノ創設、戰時大本營條例制定ノ御趣旨、明治十五年陸海軍人ニ賜ハリタル勅諭等ニ照シ明白ニシテ帝國憲法亦此大精神ニ基キ制定セラレアリ

開戰和戰及國軍ノ統帥以外ニ於ケル戰爭指導即チ戰爭目的ノ確立、國軍ノ維持増

強ノ爲ノ軍事政策(此中ニハ廣義ノ意味ニ於ケル統帥ニ屬スルモノアリ)戰時内政、外政ノ指導等ニ關シテハ議會ニ對シ其責任ヲ負フ者無カルヘカラス是レ即チ政府ノ責任ニ屬ス

### 第三編 戰爭ノ計畫、準備及其遂行

#### 第一章 戰爭ノ一般計畫及準備

戰爭ノ計畫ト戰爭ノ準備トハ之ヲ區別シテ觀察セサルヘカラス計畫ハ人智ノ欲スルカ儘ニ之ヲ爲スヲ得ヘシ何トナレハ計畫其レ自身ハ國政ノ運用、國民ノ生活ニ何等ノ損益ヲ與ヘサレハナリ

然ルニ計畫ニ基ク準備ニ至リテハ則チ然ラス苟モ戰爭ノ準備ヲ爲スコトトナレハ計畫ノ一部ハ「實行」ニ移ル既ニ實行ニ移ルヤ茲ニ國政トノ交渉ヲ生シ國民生活ト觸接スルニ至ルカ故ニ如何ナル準備ヲ幾何程度ニ實施スヘキヤハ政治、經濟、社會ノ實情ニ適應シ緩急形式其宜シキニ適セサルヘカラス

#### 第一節 戰爭ノ計畫及準備ノ一般綱要

凡ソ國家ノ戰爭計畫及準備ハ左ノ四段ノ過程ヲ經テ實現セララルモノナリ

#### イ 廣義ノ戰爭計畫ノ策定

ロ 右ニ基ク戰爭ノ準備

ハ 狹義ノ戰爭計畫ノ策定(具體的戰爭計畫ノ策定)

ニ 右ニ基ク戰爭ノ準備(直接戰爭準備)

計畫ノ熟スルハ恰モ胎兒ノ生育スルカ如ク漸ク進ムモノニシテ當初漠然タルモノ漸ク明瞭ト爲リ次第ニ其形態整備セラレ遂ニ整然タル定型ヲ具備スルニ至ルモノナリ計畫ニ基ク準備ノ進化亦然リトス

國家當局ハ須ラク炯眼ヲ以テ時勢ノ要求ヲ看破シ其施設ヲシテ時宜ニ適セシメサルヘカラス即チ廣義ノ戰爭計畫ニ基ク廣義ノ意味ニ於ケル戰爭ノ準備ヲ主眼トスヘキカ又ハ具體的戰爭計畫ニ基ク戰爭準備ヲ主眼トスヘキヤヲ決定スルコトハ最モ緊要且重大事ニ屬シ其緩急ヲ誤ランカ或ハ國力ノ涵養充實ヲ妨ケ又ハ敗戰ノ素因ヲ胚胎スヘシ

彼ノ明治十七年朝鮮事件後日清戰役ニ至ル間及日清戰役後日露戰爭ニ至ル間ニ於テ爲シタル帝國ノ戰爭計畫及準備ト今日帝國ノ爲スヘキ戰爭ノ計畫及準備トハ管ニ其規模ノ大小、形式、手段等ニ於テ差異アルノミナラス實ニ戰爭ノ計畫及準備ノ主眼方針ヲ異ニスルコトニ注意セサルヘカラス

備ノ主眼方針ヲ異ニスルコトニ注意セサルヘカラス

明治十七年乃至二十七年同二十八年乃至三十七年ニ互ル各十年間ニ於ケル我帝國ノ戰爭ノ計畫及準備ハ明瞭ナル敵ニ對シ明確ナル戰爭目的ノ下ニ具體的戰爭ノ計畫ヲ策定シ且之ニ基ク直接ノ戰爭準備——狹義ノ戰爭準備——ヲ爲シタルモノニシテ此期間ニ於テハ國防ノ第一線タル陸海軍ノ充實整備ニ最大ノ努力ヲ傾倒セラレタルコト世間齊シク知ル所ノ如シ

世界大戰後國際政局ニ多大ノ變化ヲ來シタルノミナラス人心ノ趨向亦大ニ異ナルモノアリ勿論將來帝國ノ敵タルヘキ國家ヲ推想シ得サルニアラスト雖而モ此推想ト日清日露戰役前ニ於ケル推想トノ間ニハ多大ノ懸隔アルコトヲ知ラサルヘカラス固ヨリ今日ト雖具體的戰爭ノ計畫不必要ナルニアラス又之カ直接準備モ閑却スルコト能ハス而モ大局ヨリ觀テ廣義ノ戰爭計畫ノ策定及其準備ハ更ニ一層切要ナラスンハアラス

然ラハ何ヲカ廣義ノ戰爭計畫及準備ト謂フカ

既ニ前編ニ於テ述ヘタル如ク戰爭勝利ノ素因ハ左ノ數項ニ要約スルヲ得ヘシ

イ 國民ノ精神力即チ國民ノ道徳力科學ノ智識力及體力ノ優越並精神的團結ノ鞏固

ロ 戰爭諸資源ノ質ノ優越ト數ノ豊富

ハ 戰爭諸資源統一運用組織ノ優越及直接戰爭準備ノ優越(軍備ノ充實整備)ニ外交ノ巧妙

彼上ノ戰勝ノ素因中直接戰爭ノ準備タル軍備ノ整備充實及開戰直前ニ於ケル外交ヲ控除シタルモノハ即チ廣義ノ意味ニ於ケル戰爭ノ準備ニ依リテ培養セララルモノニシテ其目的ヲ達成スル爲ノ手段ハ左ノ如シ

イ 家庭、學校、社會ニ於ケル徳育、智育、體育ノ振興、國民精神ノ陶冶、社會政策ノ實施

ロ 國民ノ經濟力ノ充實發展、財政ノ整備

ハ 國家諸制度組織ノ改善就中軍制ノ整備

ニ 外交上ノ努力

要スルニ一言以テ之ヲ掩ヘハ第一線ノ武力ヲ整備シ且其根源タル國力ヲ涵養充實シ尙有利ナル國際的地位ヲ開拓スルニ在リ此國力ノ涵養充實ト有利ナル國際

的地位ノ開拓トハ一國ノ根本的戰爭準備トシテ甚タ緊要ニシテ大戰前ノ獨逸ノ如キハ前者ノ増進ト反比例ニ後者ノ低下ヲ招來シタルノ感ナクンハアラス國力充實スレハ其國際的地位ノ向上スルハ自然ナリト雖其地位ノ向上ハ必スシモ其地位ノ「有利」ナルコトヲ意味セス動モスレハ國力ノ充實發展ト共ニ其國民ノ態度言動傲慢ト爲リ他國ノ嫉妬猜疑心ヲ刺激シ却テ不利ナル國際的地位ニ陥ルコト稀ナリトセス般鑑遠カラス大戰前ニ於ケル獨逸帝國ノ實例ハ正ニ然リ

廣義ノ意味ニ於ケル戰爭計畫ハ遠ク將來ヲ洞察達觀シ遠大廣汎ナル範圍ニ互リ畫策スヘキモノニシテ之ヲ策定スルニ際シ討究決定スヘキ主要ナル一般問題ハ次ノ如クナルヘシ但シ内政、外交、財政、經濟ニ關スル具體的問題ハ後章ニ於テ研究セントス

一 帝國カ國力ヲ賭スル大戰爭ヲ決行スヘキ場合及此際我カ敵ト爲リ得ヘキ國家並其大戰爭ノ性質如何

本問題ノ解決ハ國策ニ基イテ行ハルヘキモ抽象的ニ之ヲ論スレハ則チ我國民ノ民族の使命ヲ果ス爲ニ必要ナル國運ノ開展阻支セラレ國民生活ノ保障蹂躪

セラルヘキ「セラレタル」ニ非ス場合ナリト言フヲ得ヘシ是ヲ以テ國家ハ其國運ノ開展及國民生活ノ保障ノ爲ニ必要ナル最少限度ノ政治的及經濟的並文化的對外要求ヲ決定シ置カサルヘカラス此最少限度カ即チ外交ノ窮極ニシテ平和外交カ變シテ戰爭ト化スヘキ境界線ナリトス從テ戰爭ノ國家的目的モ亦此最少限度ノ要求ニ準シテ決定セラルルヲ自然ナリトスヘシ但シ其要求カ四圍ノ情勢並國民ノ實力ニ相應シタルモノタルヲ要スルコト勿論ナリトス

更ニ具體的ニ之ヲ述フレハ我帝國ハ先ツ其國運ノ開展國民生活ノ保障ノ爲ニ必要ナル國策即チ國是ヲ確立シ此國是ニ基キ支那、西比利亞、加洲、太平洋、南洋等ニ於テ國力ヲ賭スルモ尙其貫徹ヲ期スヘキ政治的、經濟的及文化的要求アリヤ否ヤ若シ之アリトセハ其要求ノ内容並其最少限度如何又植民地問題ニ於テハ如何ナル程度迄讓歩シ得ルヤ否ヤ等ヲ研究シ和戰ヲ決スヘキ限界ヲ決定シ置カサルヘカラス

千八百六十六年以前ニ於テ普國カ奈翁ニ對スル開戰ノ機ヲ失シ、ナポレオン三世カ普國ニ對スル開戰ノ機ヲ誤リタル主要ナル一原因ハ實ニ前陳ノ用意ノ足ラサ

リシニ在リ國家若シ前述ノ研究ヲ怠リ漫然世界ノ外交界ニ浮動センカ恰モ能無キ舟ノ波間ニ漂フカ如ク當ニ其外交ノ指導ニ一定ノ毅然タル方針ヲ缺クノミナラス其外交的活動ニ氣魄權威ナク常ニ追隨受働ニ陥リ乘スヘキ好機ヲ捉フル能ハス自ラ退嬰自屈ニ墮スヘキハ蓋シ明白ナリ外交ノ要ハ追隨スルカ如クニシテ實ハ指導シ受働ナルカ如クニシテ主働ナルニ在ルヘシ而シテ是カ爲ニハ遠大ナル先見ノ眼識ト深刻周匝ナル研究準備トヲ必要トスルヤ論ヲ俟タサル所ナリトス

政治的、經濟的、文化的對外要求ノ最少限度ヲ決定シ和戰ノ限界ヲ明確ニシ以テ國際政局ニ處スレハ自主的ニ開戰ノ機ヲ決定シ外交ノ指導ヲシテ能ク此目的ニ適應セシムルヲ得ヘシ方今ノ如キ大國民戰ヲ實行センカ爲ニハ國民ノ精神的及物質的多大ノ準備ヲ必要トシ我カ豫期シタル時機即チ我ニ好都合ナル時機ニ開戰シタル國家ト否ラサル國家トノ利不利ノ懸隔ハ實ニ霄壤モ當ナラサルモノアリ賣ラレタル喧嘩ハ買ハサルヘカラスト言フ者アレトモ我カ不本意ナル時機ニ之ヲ買フハ賢ナリトセス寧ろ陰忍自重以テ遺憾ナキ準備ヲ整ヘ機

ヲ見テ主動的ニ起ツヲ要ス此ノ如クシテ始メテ戰局ヲ自主的ニ指導シ我計畫ノ如ク運命ヲ開拓スルヲ得ヘシ遼東還附後ニ於ケル帝國國民ハ親シク敍上ノ眞理ヲ體驗シタリ

政治的經濟的並文化的對外要求ノ最少限度ヲ慎重ニ討究シ之ニ關スル國民ノ輿論ヲ一致セシメ置クコトハ管ニ開戰ノ爲ニ緊要ナルノミナラス戰爭ヲ適時ニ切リ上クル爲ノ講和交渉ノ時機ノ發見及條件ヲ決定スル爲ニモ亦甚タ必要ナリトス

戰爭ノ場合敵ト爲リ得ヘキ國家ヲ正當ニ判斷シ戰爭ノ計畫及準備ヲ爲スノ必要ナルコトハ論ヲ俟タサル所ニシテ平時ニ於ケル經濟關係ノ設定平戰兩時ニ於ケル外交ノ指導等ヲ適切ナラシムル爲ニモ此判斷ノ正鵠ヲ得ルコト極メテ切要ナラズンハアラス又戰爭ノ性質ヲ明確ニ意識シテ戰爭ヲ計畫、準備スルニアラサレハ開戰後思ハサル蹉跌ヲ來スヘキコトハ最近歐洲大戰ノ雄辯ニ證言スル所タリ從來ノ意味ニ於ケル戰爭ノ準備ニ於テ殆ント到ラサル所ナカリシ獨逸ノ戰爭計畫カ開戰後忽ニシテ蹉跌シタル主要ナル原因ノ一ハ彼カ大戰ノ性質ヲ徹底的ニ

意識セス從テ其戰爭準備カ此大戰ノ性質ニ適應セサリシニ在リ世人動モスレハ獨逸ノ戰爭計畫ノ蹉跌ノ原因トシテ彼ノ千九百十三年ニ策定セル軍備充實案ノ不完全、國境會戰計畫ノ適否、マルヌ河畔ノ退却等ヲ舉クルモ吾人ヲ以テ之ヲ觀レハ此ノ如キハ抑、枝葉ノ副原因ニシテ斷シテ其根本的大原因ニアラス

二 帝國カ國力ヲ賭スル戰爭ヲ決行スル場合我利用シ得ル戰爭諸資源ノ關係ハ幾何年月ノ戰爭繼續ヲ可能ナラシムルヤ又其戰闘並國民生活ノ資源ヲ確保スル爲確實ニ領有シ置クヘキ海陸領域ノ限界及此領域内ニ來リ得ヘキ敵ノ兵力並之ヲ領有スル爲ニ必要ナル我陸、海、空軍ノ兵力如何

又戰時陸、海、空軍ノ活動ヲ容易且有利ナラシムル爲平時設置スヘキ海陸ノ設備如何

國防方針ノ確立、陸海空軍兵力ノ決定、要塞、軍港、根據地、戰略鐵道、航空路、通信機關ノ設置等ノ計畫ハ凡テ前項ノ研究並第五項ノ討究ヲ基礎トセサルヘカラス大戰前ノ獨逸カ其作戰ヲ計畫スルニ方リ「ライン」河畔ノ工業地帯ノ絕對確保「シレジア」ノ富源ノ掩護等ニ對シ如何ニ甚深ナル注意ヲ拂ヒタルカハ齊シク人ノ

知ル所ニシテ資源分布ノ状態、國民ノ生活資源消費ノ狀況、各種資源移動ノ景況、就中不足資源ノ補給等ニ關スル調査モ不完全ナカラ免ニ角實行セラレアリタルカ如シ此事ハ帝國ノ如キ資源ノ貧弱ナル邦家ニ取リテ特ニ緊要ナルハ論ヲ俟タサル所ナリトス

戰時陸、海、空軍ノ活動ヲ容易且有利ナラシムル爲平時設置スヘキ海陸ノ設備ハ成ルヘク經濟上ニモ之ヲ利用シ得ルヲ理想トスヘク若シ全然經濟上ニ利用シ得サルモノナルトキハ即チ資本ヲ死藏スルモノニシテ極メテ不經濟ナルノミナラス年月ノ經過ト共ニ舊式トナリ戰時有效ニ使用スルコトヲ得サルニ至ルヘキヲ顧慮セサルヘカラス故ニ此ノ如キ不經濟ナル設備ハ絶對必要ノ最少限度ニ止メ有事ノ日速ニ築設シ得ル如ク科學ノ研究、工業力ノ發達資材ノ準備等ニ力ヲ用フルコト肝要ナリトス

三 我カ企圖スル戰爭ヲ決行スル場合同盟國ヲ要スルヤ否ヤ之ヲ要ストセハ其可能性ヲ有スル國家如何又資源ノ補給ヲ容易ナラシムル爲少クモ好意ノ中立ヲ守ラシムヘキ國如何

露國トノ開戰ノ已ムヘカラサルヲ察スルヤ帝國ハ先ツ其戰爭準備ノ第一著手トシテ日英同盟ヲ締結シ獨逸トノ戰爭ノ避クヘカラサルヲ豫見セル英國カ英佛、英露協商ヲ結ヒテ其用意ヲ整フル所アリシハ周知ノ事實ニシテ國際關係ノ益、複雜錯綜スヘキ將來一大戰爭ヲ斷行セント欲セハ更ニ一層大規模且周匝ナル外交上ノ準備ヲ必要トスヘシ即チ國際的有利ナル地位ヲ作ラサルニ先チテ干戈ニ訴フルカ如キハ大ナル過失ニシテ大戰前ノ獨逸ノ如キ多少此憾無クンハアラス

開戰ノ場合少クモ我ニ對シ好意ノ中立ヲ保持セシメ爲シ得レハ我側ニ起タシメントスル第三國ニ對シテハ平時ヨリ成ルヘク多クノ借金ヲ爲シ置クヲ有利トス換言スレハ政治的ニ我ニ隨伴セシメントスル外國ニ於テ借金シ敵タルヘキ公算アル外國ニ對シテ投資セサルコトハ最モ緊要ナリトス千九百十四年夏佛國カ無條件ニテ蹶起シ米國カ協商諸國ノ戰勢ノ不利ナルヲ觀テ之ニ與シテ起チタル主要ナル動機ノ一ハ實ニ佛國ノ對露債權者タリ米國ノ對聯合國債權者タリシニ在リ此事ニ關シテハ「ルードン」將軍モ其「戰爭回想錄」ニ於テ明

記シ佛人「グラッソン」氏亦其著「將來ノ戰爭」ニ於テ「若シ假ニ戰前獨逸カ米國ニ借金シアリシナラハ米國ハ恐ラク獨逸ニ對シ宣戰セサリシナラン」ト斷言セリ  
何故ニ米國カ國際聯盟ニ加入セス「ヴェルサイユ」會議後歐洲問題ヨリ手ヲ引キタルヤ又何故ニ最近賠償問題ノ紛糾國內金貨ノ過剩ヲ觀テ再ヒ歐洲問題ニ干與セントシ所謂「ドウズ」案ナルモノノ出現ヲ見タルヤニ想到スレハ蓋シ思半ハニ過クヘシ

四 政略的ニ豫想敵國ヲ包圍シテ孤立ニ陥ラシメ或ハ數國連合ノ敵ニ對シ政略的各個擊破ヲ行フ爲我カ對外政策ヲ如何ニ指導スヘキカ又其外交政策ノ運用ヲ容易利便ナラシムル爲ノ對外宣傳ヲ如何ニ組織シ如何ニ之ヲ實施スヘキヤ  
此事ハ莫大ナル富力ヲ擁シ世界ノ政治經濟上ニ大ナル威力ヲ振ヒ各國羨望ノ的トナレル巨大國ト開戦スルノ已ムナキ場合ニ特ニ必要ニシテ之ニ對スル戰爭準備ノ第一歩ハ彼ノ「エドワード」七世ノ獨逸ニ對シテ行ヒタル外交政策ノ適用ナラサルヘカラス即チ國際的ニ之ヲ包圍シ彼ヲシテ外交上ノ孤立ニ陥リ以テ世界ノ驕兒タラシメ益、其不謹慎且傲慢ナル舉動ヲ頻出セシメ先ツ他ノ大國

ヲ驅ツテ之ト開戦セシムル如ク雄大周匝サル外交ノ指導ヲ必要トスヘシ  
彼上ノ外交指導ハ極メテ巧妙ナルヲ要シ陽ニ追隨受動ノ態ヲ裝ヒ陰ニ指導能動ノ實備ハラサルヘカラス而シテ一度此外交ノ成功ヲ見ンカ茲ニ戰勝ノ基礎確實トナルヲ以テ始メテ干戈ヲ執ツテ起ツヲ得ヘシ但シ豫期ノ如ク外交ノ成功ヲ博スルヲ得ルヤ否ヤハ固ヨリ斷定シ得ル限ニアラス

開戦前ニ於ケル外交ノ指導ヲ有利ナラシメンカ爲ニハ對外宣傳ノ組織ヲ完備シ且宣傳ノ方法時宜ニ適スルコトヲ最モ必要ナル條件トス之カ爲豫メ世界各主要地ニ宣傳機關ヲ配置シ且國際通信網ヲ迅速確實ニ利用シ得ル如ク準備シ置クコトト我文化ヲ擴衍セシメ置クコト緊要ナリ是ヲ以テ海外ニ於ケル我新聞通信社ノ設置、通信權ノ獲得、通信網ノ設置及文化的施設等ハ忽ニスヘカラサル重大事タラス

五 戰時國家總動員ヲ如何ナル方針ニ基キテ實行スヘキヤ戰爭諸資源ノ開拓組織並其按排運用ノ大綱如何又右ニ基キ平時ノ行政、産業、貿易、交通、金融等ノ組織及其運營ヲ如何ニスヘキカ不足資源ヲ如何ニシテ準備シ又如何ナル補給ノ途



平時國防ノ第一線ヲ寡弱ニシ莫大ナル富力ヲ擁シテ持久戰愈可ナリトスル英、米ノ如キ國家ト資源貧弱ニシテ戰局ノ迅速ナル解決ヲ要望スル我國トハ國家總動員ノ方針ニ於テモ亦其趣ヲ異ニスルモノ無クンハアラス  
又戰爭ノ解決ヲ陸上ニ於テスヘキヤ空中ニ於テスヘキヤ將タ又海上ニ於テスヘキヤ海上ニ於テモ大艦巨砲ヲ以テスヘキヤ若ハ潛航艇戰ヲ以テスヘキヤ等ニ因リ陸海空軍兵力ノ決定及是等ニ對スル戰爭資源ノ配當要領ヲ異ニスヘキハ當然ナリトス故ニ戰爭ヲ計畫スルニ方リテハ先ツ戰局解決ノ根本方針ヲ決定セサルヘカラス千九百十七年獨逸カ陸上ノ決戰ヲ斷念シ所謂無制限潛航艇戰ニ依リ海上ニ於テ戰局ヲ解決セントシタルハ周知ノ事實ニシテ彼ノ巨費ヲ投シテ建設セル大艦モ遂ニ帶ニ短シ擲ニ長シノ狀態ニテ終始シタルハ世人ノ記憶ニ尙新ナル所ナリトス戰局ノ解決ヲ迅速ナラシメンカ爲ニハ成ルヘク速ニ國家總動員ヲ完了シ敵ニ先ンシテ優勢ナル戰爭資源ヲ開拓整備シ之ヲ要點ニ集結シテ運用スルヲ緊要條件トス世界大戰ノ持久戰ニ陥リシハ各交戰國共

ニ平時總動員ヲ準備セス開戰後逐次ニ其資源ヲ開拓整備シツツ逐次ニ之ヲ戰爭ニ使用シタルト元來兩交戰國ノ實力ニ大ナル懸隔ナカリシトニ由來ス  
縱ヒ平時ヨリ國家總動員ヲ準備シ置キ開戰當初ヨリ國家ノ全資源ヲ動員シテ交戰スルモ兩交戰國ノ實力ニ大差ナク國際離合ノ關係ニ變化ナクンハ戰局ハ可ナリニ持久スルコト無シトセス是ヲ以テ一方速戰速決ヲ主義トシ之カ準備ヲ爲スト共ニ持久戰ニ陥ルモ尙且有利ニ戰爭ヲ續行シ得ル如キ計畫ト準備トヲ缺クヘカラス戰爭ノ性質カ國民ノ死活ヲ決スヘキ眞面目ノモノト爲リ且交戰兵力ノ増大スルニ從ヒ戰爭ハ益々鞏強ト爲ルハ自然ニシテ而モ平時ノ調査算定ノ方法進歩シテ兩交戰國ノ開戰等ニ於ケル判斷ニ大ナル誤謬ナシトセハ互ニ勝利ヲ期シテ起チタル兩交戰國ノ實力ニハ大ナル逕庭ナキヲ理論上至當トスヘキヲ以テ戰局永續ノ可能性益々増大スルモノト見サルヘカラス唯社會人心ハ益々複雜錯綜紛糾スヘキ傾向ニ在ルヲ以テ意外ノ突發事變カ案外速ニ戰局ノ解決ヲ促スコト無キヲ保スヘカラサルノミ  
聯合國ノ一員トシテ他國特ニ打算ニ長シタル老獪國ト相提携シテ交戰スル場

合ニハ過早ニ國力ヲ消耗セサル注意ヲ必要トシ國家總動員ノ趣旨モ亦大ニ異ナルモノ無クンハアラス

平時ノ行政、産業、貿易、交通、金融等ノ組織並其運營方法モ成ルヘク戰時國家總動員ノ根本方針ニ適應セシムルコトヲ努ムヘク此ノ如キ軍事的要求ト他ノ文化的經濟的要求トヲ如何ニ調和セシムヘキカハ一ニ爲政者ノ手腕ニ待タサルヘカラス若シ夫レ不足資源ニ對スル考慮ニ至リテハ極メテ重大ニシテ其増加又ハ補給ヲ確實ナラシムル爲ニ斷乎タル政策ノ實行ヲ要スルコト論ヲ俟タサル所ナリトス

六 國民ノ教育訓練ノ方針ヲ如何ニ定メ如何ニ其制度ヲ設定スヘキヤ  
國家及國軍ノ境遇、將來戰ノ要求ニ鑑ミ國軍ノ組織編制、裝備及其練成ノ主義方針ヲ如何ニ定ムヘキヤ

古來戰爭ノミニ從事シ文化的事業ヲ閑却シタル國民カ案外速ニ凋落シタルハ歴史ノ明證スル所ニシテ韃靼人然リ土耳其人亦然リトス之ニ反シ文化的事業ニノミ没頭シ戰爭準備ヲ閑却セル國民モ亦其隆昌繁榮ヲ續クルコト能ハス衰

亡ノ悲運ニ陥ルヘキコト明白ナリ燦然タル文化カ國家ヲ其滅亡ヨリ救出スル能ハサルハ希臘沒落ノ歴史之ヲ立證ス人間ノ完成ニ文徳ト武徳トヲ要スル如ク國家ノ圓滿ナル發達ヲ期スルカ爲ニハ文武兼備ハラサルヘカラス是ヲ以テ國民ノ教育方針及國民各自ノ修養ノ主義ハ文武併行ナラサルヘカラス一國家ノ施設ハ直接ノ武備ヲ修ムルト同時ニ文化的事業モ亦忽ニスヘカラス一方ニ於テ産業ノ發展、國富ノ増進、社會政策ノ實施、文教ノ振興等ヲ策スルト同時ニ他方直接戰爭ノ準備ヲ懈ルヘキニアラス況ンヤ戰爭ハ人間ノ根本性ニ由來シ平和ハ戰爭ノ有力ナル一原因タルニ於テオヤ  
國民教育ノ方針國家施設ノ主義カ文武併行主義タルヘシト言フ事ハ學理上ノ原則ニシテ此原則ヲ實世間ニ於テ具體化スルニ方リテハ宜シク其時代ノ實情ヲ參酌シ之ニ適應セシメサルヘカラス元來人間ノ思想及其事業ハ何レカノ一方ニ偏スル性質ヲ有シ哲學者「ヘーゲル」ハ辯證法ニ於テ其根本原理ヲ説明セリ實際世ノ中ノ傾向ハ多ク偏文カ偏武何レカノ趨向ヲ取ルヘク世界大戰前ノ如キハ各國共ニ偏武ニ傾キ所謂軍備擴張競爭ヲ演出シ大戰ノ有力ナル一原因ヲ

作リタリシカ大戰後ハ又其反動トシテ極端ナル平和主義擡頭シタルコト世人ノ知ル所ノ如シ

敍上ノ次第ナルカ故ニ國家當局ノ國民ノ指導及實際ノ施設ハ左ノ如キ考慮ヲ以テ文武併行主義ノ具體化ヲ努メサルヘカラス

イ 國民ノ思想文弱ニ流レ極端ナル平和主義、文化至上主義流行スル時ハ極力尙武思想ノ作興ニ勉メ教育指導ノ實際的施設ハ寧ロ世人ノ觀テ以テ武斷偏武ト爲ス位カ恰當ナリ

ロ 殺伐粗暴文教ヲ輕視スル傾向ニ在ル時ハ大ニ文ヲ興シテ時弊ヲ匡救ス國軍ノ組織、編制、裝備並其練成ノ主義方針カ其境遇ニ適應セサルヘカラサルコトハ論ヲ俟タサル所ニシテ其弱點ヲ補フコトニ努力スルト共ニ大ニ其長所ヲ發揮セシメンコトヲモ勉メサルヘカラス徒ラニ我國軍ノ編制、裝備カ歐米列強ニ比シ劣レルヲ悲觀シ單ニ歐米軍ヲ摸倣追隨スルノミヲ以テ能事了レリトスルカ如キハ斷シテ不可ナリ大戰前獨逸ハ英海軍ノ強勢ヲ觀テ之ニ追隨センコトヲ企テシカ實際戰爭トナルヤ巨費ヲ投シテ建設セル大艦モ遂ニ格別ノ效用

ヲ爲サス遂ニ潛航艇戰ヲ以テ戰局ヲ解決セントスルノ方針ヲ採ルノ已ムナキニ至リタリ若シ夫レ獨逸ニシテ豫メ大勢ヲ洞察達觀シ戰前ヨリ既ニ潛航艇戰ヲ以テ戰局ノ解決ヲ圖ル方針ヲ確立シ其大艦建造ニ投セシ巨費ヲ以テ豫メ準備スル所アリシナランニハ其效果果シテ如何

今日佛國ノ有識ノ士カ英ノ海軍ニ拮抗スルニ佛ノ空軍ヲ以テセントスルカ如キ實ニ其財力、資源、科學力、技術能力ニ適應シタル方針ニシテ吾人ノ鑑戒ト爲スニ足ルモノ無クンハアラス

就中武器兵器ノ追隨ヲ圖ルカ如キハ最モ戒ムヘキ事ニシテ兵器武器ハ常ニ他國ヲ超越シテ進マシムルノ覺悟ナカルヘカラス日進月歩ノ科學工藝ハ今日ノ武器ヲシテ既ニ明日ノ骨董ト化シ去ルコト無シトセサルノミナラス武器ノ追隨ハ極メテ不經濟ナルコトヲ考ヘサルヘカラス

敵ノ意表ニ出テ敵ヲ急襲、爲シ得レハ奇襲スルコトハ戰勝ノ要訣ニシテ此目的ヲ達成センカ爲ニハ一ニハ戰略戰術ノ運用ノ妙ヲ以テスルト共ニ他ノ一面ニ於テハ新兵器(敵ノ知ラサル兵器)ノ意ヲ以テ技術上ノ奇襲ヲ試ムルコト極メテ

緊要ナラズンハアラス速戰速決ヲ方針トスル國軍ハ須ラク大々的技術奇襲ヲ計畫シ且準備シ置カサルヘカラス今日歐洲具眼達識ノ士ハ將來ノ戰爭ハ決シテ世界大戰ト同一ナラサルヘシト斷言シ這個ノ大戰ニ於テ使用セラレタル兵器ヲ今日製造充實スルノ愚ヲ笑ヒツツアリ

要スルニ大局ヨリ觀テ今日ノ急務ハ「タンク」「ドレツトノート」等ノ製造ニアラスシテ斬新獨創ノ新兵器ノ發明ニ要スル「人物」ノ養成竝其「研究機關」ノ整備ニ在リト言ハサルヘカラス

今日ノ戰爭ニ於テモ依然人ハ兵器ヨリモ重要ニシテ兵器カ死物トシテ終ルヘキ場合アルニ反シ人ハ彈性ヲ有シ生命ヲ有ス人物ノ養成ハ物品ノ製造ニ比シ遙ニ經濟的ナルコトヲ記セサルヘカラス

國軍ノ練成ニ於テ摸倣追隨ノ不可ナルハ更ニ一層切實ニシテ民族ノ心理的生理的實情ニ投合シ精神竝肉體上ノ特長ヲ遺憾ナク利用發揮スルヲ主眼トシ兼ネテ其弱點ヲ補正スルノ注意ヲ必要トス

七 戰時植民地トノ通信連絡交通等ヲ確保スル爲平時如何ナル施設ヲ爲シ置ク

ヘキヤ

又戰時植民地ノ人心ヲ安定シ母國ト協同シ遺憾ナク其犧牲心ヲ發揮セシムル爲植民地ノ統治及植民地人同化教育ノ方針ヲ如何ニ定ムヘキヤ

植民地ハ母國ノ危機ニ際シ或ハ有力ナル援助者ト爲リ又ハ叛亂革命等ヲ起シ却テ母國ノ交戰能力ヲ減殺スルコトアリ而シテ是レ植民地人ノ性格、歴史就中母國トノ人種的及歴史的關係竝文化的關係等ニ依ルヘキモ亦植民地人ノ統治同化教育方法ノ宜シキヲ得ルト得サルトニ關スルコト大ナリ波蘭人カ獨逸ノ治下ニ在ルヨリモ寧ロ埃匈國又ハ露國ノ治下ニ在ルヲ希望シ英國各植民地カ母國ニ對シ大ナル援助ヲ惜マサリシニ反シ愛蘭カ最後迄英帝國ノ危險分子タリシコトニ想到スレハ蓋シ思半ハニ過キン

八 戰時思想戰ニ於テ攻勢ヲ採リ且敵ノ行フヘキ破壊的行爲ニ對シ我國民ノ精神の團結ヲ防護シ其勝利者タランカ爲ニハ國家ハ平時如何ナル施設ヲ爲シ置カサルヘカラサルカ對内對外宣傳ノ組織、治安維持ノ方策、國民各階級ノ利害ヲ協調緩和セシムル爲ノ政策如何

戰時思想戰ノ勝利者タランカ爲ニハ敵ノ思想ヲ攪亂スルヲ要スト言フコトハ吾人ノ屢耳ニスルノ論ナリ然レトモ審ニ之ヲ考察スルニ元來思想ニハ國境無キモノニシテ基督ノ所謂爾ニ出テタル者ハ爾ニ歸ルノ根本哲理ハ思想ノ本質ヲ道破シタルモノナルコト吾人ハ最近大戰間獨逸ノ露國革命助成竝獨逸其レ自身ノ革命事實ニ於テ之ヲ實見シタリ故ニ敵ノ思想ヲ攪亂破滅セシメント欲セハ我ニ安全ニシテ敵ニ危險ナル方法ニ依ラサルヘカラス病菌ヲ散布シ敵ヲノミ苦メ得タリトシテ晏如タルカ如キハ甚タ危險ナリト言ハサルヘカラス是ニ於テカ我ニ安全ニシテ敵ニ危險ナルヘキ思想攪亂方法存在スルヤ否ヤノ問題ト爲ルモ此方法ハ我ニ弱點ヲ有セス單ニ敵ノ弱點ヲ有スル時ニ於テ發見スルヲ得ヘク然ラサル場合ニ於テハ絕對ニ不可能ナリト斷スルヲ得ヘシ即チ平時國家ノ政治組織、經濟組織、社會組織ノ缺陷ヲ艾除シ公正妥當ナル政治ノ實現ト國民ノ精神的教養訓練ニカヲ效ササルヘカラサル所以實ニ此ニ存ス短見者流ハ露國勞農政府ノ宣傳ノ巧妙及其威力ヲ無條件ニ賞讃スルカ如キモ吾人ヲ以テ之ヲ觀レハ彼ハ文化ノ低級ナル露國國民又ハ其レト同程度ノ他民

族ニ對シテコソ相當ノ成功ヲ博シタレ苟モ露國以上ノ文化ヲ有スル國民ニ對スル宣傳ハ悉ク失敗ニ終リタリト言フヲ得ヘシ抑思想戰ニ於ケル勝利トハ對者ヲシテ我思想ヲ承服セシムルニ在リ我思想ニ同化スルニ在リ敵ノ思想ヲ攪亂スルコトハ破壞ニシテ未タ以テ勝利ニアラス其破壞ハ纏テ我ニ及フヤモ知ルヘカラス是ヲ以テ同化建設ヲ目的トセサル思想ノ攪亂者ハ決シテ思想戰ニ於ケル最終ノ勝利者タルコトヲ得ルモノニアラス即チ正シキ思想ノ把持者ニシテ始メテ思想戰ニ於ケル勝利者タルヲ得ヘシ觀シ來レハ思想戰ニ對スル準備ハ決シテ一部ノ人士ノ考フルカ如キ陰險ナル小策惡辣ナル暗中活動ノ準備ニアラス我カ文化ノ向上ハ最善ノ根本的準備ナルコトヲ銘心スルヲ要ス光ト闇トハ何レカ人間ヲ引キ寄スル力ヲ有スルヤ敢テ淺薄ナル卑俗ノ徒ヲ戒ム以上ハ廣義ノ戰爭計畫ヲ策定スヘキ場合ノ一般著眼ニシテ觀シ來レハ所謂文化的事業モ亦一種ノ戰爭準備ニ屬シ文教ノ振興、國富ノ増進、保健衛生ノ向上、社會政策ノ實施等何レモ其施設ヲ誤ルナクハ即チ廣義ノ戰爭準備ト爲ルコトヲ知り得ヘシ廣義ノ戰爭準備ハ國力ノ充實、民力ノ涵養ト毫モ矛盾スル所ナキノミナラ

ス概シテ何レノ國家ヲ敵トスル場合ニ於テモ徒爾ニ歸スルコトナク其效果ヲ發揮シ得ルノ融通性ヲ有スト雖間接的戰爭準備タルニ過キスシテ戰機迫レル時期ニ於テハ更ニ直接ノ戰爭準備ノ十全ヲ期スルノ必要ナルコト論ヲ俟タス

狹義ノ戰爭計畫ハ即チ陸、海、空軍作戰計畫、同動員計畫及直接之ニ關聯セル交通財政等ノ諸計畫ニシテ是等ノ計畫ハ須ラク當時ノ實情ヲ基礎トシ具體的且相當綿密詳細ニ策定セラレ直ニ明日ノ用ニ供セラレサルヘカラス而シテ是ニ基ク戰爭準備ハ國防ノ第一線タル陸、海、空軍ノ充實整備、戰用資材及軍需工業力ノ増加、軍動員ノ準備、要塞ノ整備、豫想敵國ノ武力ニ關スル調査等ヲ主眼主體トスヘキモノニシテ時ニ文化的事業ノ發展ヲ犧牲トセサルヘ、カラサル場合アルノミナラス又時ニ民力涵養、國富増進ノ方策ト撞著スル場合無シトセス是ヲ以テ此種ノ戰爭準備ハ宜シク時ノ緩急ニ適應スル如ク其程度ヲ律スルヲ要スト雖苟モ戰爭ノ避クヘカラサルニ至ルヤ萬事ヲ犧牲トシテ之ヲ敢行セサルヘカラス其詳細ハ軍事専門ノ事項ニ屬スルヲ以テ茲ニ之ヲ述ヘス

要スルニ一國武力ノ根蒂ヲ培養シ第一線武力ノ根源ニシテ且其豫備隊タル國力

ノ充實ヲ圖ルヘキ廣義ノ戰爭準備ト第一線武力ノ整備充實ヲ主體トスル直接戰爭準備トハ何レモ必要ニシテ此兩準備兼テ備ハリテ戰勝ノ基礎始メテ確實ト爲ルヘシ而シテ此兩者ニ對シ如何ナル比率ヲ以テ國家ノ財帛ト國民ノ努力トヲ配當スヘキヤハ宜シク時ノ大勢ニ適應セサルヘカラス

是ヲ以テ國家當局ハ常ニ世界人心推移ノ傾向國際政局回轉ノ狀態ヲ注視シ未然ニ將來ノ形勢ヲ洞察達觀シテ時宜ニ適スル戰爭ノ準備ヲ爲スコト極メテ緊要ナリトス一面ヨリ之ヲ觀レハ國民ノ運命ヲ決スルカ如キ大戰爭ハ急速ニ突發スルモノニアラサルカ如ク戰雲カ化シテ沛雨ト爲ル爲ニハ可ナリノ年月ヲ要スルモノノ如シ千八百六年戰役、千八百七十年戰役、日清日露戰役、世界大戰何レモ其戰機ノ熟スル迄ニハ相當ノ年月ヲ要シタリト雖一抹ノ暗影ヲ認メテ戰雲ノ將來ヲ察スル爲ニハ非凡ノ炯眼ヲ要シ千八百六年戰役當時ノ普國當局、普佛戰役當時ノ佛國當局ノ如キハ戰雲ノ既ニ天空ニ漲リタルニ拘ラス沛雨ノ早晚來ルヘキヲ思ハス戰爭準備ヲ閉却シテ大敗ノ素因ヲ作りタルコト前述ノ如シ

又早晚戰爭ノ起ルヘキコトヲ豫期シナカラ其戰爭ノ性質ヲ適確ニ判斷セスシテ

戰爭準備ノ大著眼ヲ誤リタル例尠カラズ現ニ歐洲大戰ニ於ケル歐洲列強ノ如キ即チ此例ニ漏レス獨逸ト雖大「モルトケ」ノ遺訓アリタルニ拘ラス持久戰ノ爲ニ要スル廣汎ナル準備ヲ缺キ今ヤ「獨逸」ハ其國軍ノ動員ヲ五分毎ニ刻ミテ精密周匝ニ計畫準備シタリシカ國家ノ總動員ニ關シ何等ノ準備無カリシハ如何ト冷笑セラ

ルニ至レリ  
人ノ判斷分別ニハ誤謬ヲ免ルル能ハス且戰機ノ熟スル爲ニハ相當ノ年月ヲ要スヘキモ其醞釀熟成セラレタル戰機ノ爆發ハ多ク人ノ豫期セサル不虞ノ事變ニ因ル世界大戰ノ如キ亦實ニ然リ是レヲ以テ飽迄自己ノ推定ニ誤リ無キモノト確信スルハ危險ナリト言ハサルヘカラス是レ國家カ常ニ萬一ニ備フルノ準備用意ヲ缺クヘカラサル所以ニシテ縱ヒ大局ノ判斷上廣義ノ戰爭計畫ニ基ク廣義ノ戰爭準備ヲ必要トスル時代ニ於テモ常ニ具體的戰爭計畫ニ基ク絕對必要ノ直接戰爭準備ヲ缺クヲ許サス

今國家ノ有スル第一線武力カ國際政局ノ間ニ立チテ「物ヲ言フ」ト言ハハ直ニ之ヲ以テ舊思想ナリトシテ排スル文化至上主義者平和萬能論者アランモ吾人ハ舊思

想ナル故ニ眞理ナリト斷言セントス

抑時代ノ產物時ノ流行ハ其時代ニ於テノミ新シク且眞理ヲシク見ユルモ時ト共ニ變化スヘキ本質ヲ有ス然ルニ古來數千年間ヲ通シ儼トシテ淪ラス依然トシテ存在スルモノハ時ノ外ニ超然タル眞理ニシテ其唯一ノ確證ハ「古キコト」ニ在リ現ニ世界大戰後極端ナル平和主義思想カ勃興シタルニ拘ラス邦家ノ第一線武力ハ儼トシテ古ノ如ク「物ヲ言ヒツツアル」ニアラスヤ世人ハ疲弊窮貧極度ニ達セル佛國ノ強硬ナル外交ノ裏ニ存在スル力ヲ看過スヘカラス如何ニ低能ナル佛人ト雖豈ニ目下ノ獨逸ノ復讐ヲ懼ルヘケンヤ極度ノ財政難ニ苦ミツツアル佛國カ今尙強大ナル武備ヲ擁スル所以ハ即チ速ニ其財政難ヨリ免レンカ爲ナルヲ知ラスヤ經濟的軍備必スシモ不可ナルニアラス唯吾人ハ近眼若ハ盲目ナル經濟的軍備ヲ排スルノミ

軍備ヲ經濟的ナラシメンカ爲ノ第一要件ハ「戰爭ノ起ルヘキ時期」及其戰爭ノ性質ヲ先見シ且其戰爭ノ要求ヲ適確ニ判斷スルニ在リ此事ハ兵器其他戰用資材ノ準備ニ於テ特ニ必要ナルノミナラス有ユル戰爭ノ準備ノ爲ニ極メテ要用ナリトス

然レトモ是レ望ムヘクシテ期スヘカラス神ナラサル人間ハ單ニ人事ヲ盡シテ前記ノ先見判定推斷ノ適中ヲ努ムヘキモ事實適中スルヤ否ヤハ頗ル疑問ナリト言フヘシ是ニ於テカ保險ノ必要ヲ生ス平時ニ於ケル軍費ハ即チ國家ノ保險料タルニ過キス準備シタル兵器器材カ使用セラレス訓練シタル人間カ戰ニ用ヒラレスシテ濟メハ是既ニ保險ノ目的ヲ達シタルモノニシテ最モ結構ナリ失ヒタル保險料ヲ悔ユルカ如キハ其愚論スルニ足ラスト言フヘシ

世界大戰前ニ於ケル列強軍備擴張ノ競争カ大戰ノ間接的原因ト爲リタルハ明白ナリ從テ戰後平和維持ノ爲ニ列強ノ軍備ヲ相當ニ縮小セントスル理想ハ一理アリト言フヘシ然レトモ繚テ考フルニ軍備ノ過度ノ縮小モ亦戰爭ノ一原因ト爲ルコト爲シトセス是レ強大ナル力ヲ有スル者カ強盜ヲ敢行スル心理ト自ラ強大ナラサルモ他人ノ薄弱ナルヲ觀テ強盜スル心理トハ全ク同一ノ根據ノ上ニ立ツモノナレハナリ是ヲ以テ軍備擴張競争カ戰爭ヲ生シタル如ク軍備縮小競争カ却テ戰爭ヲ生ム場合無シト言フヘカラス

各國侵略的企圖ヲ有シ好戰慾ノ鬱勃タル時代ニ於ケル強大ナル軍備ハ直ニ平和

ノ脅威タルヘシト雖世界滔々トシテ安怡生活ヲ要望シ文化至上主義平和萬能思想ノ流行スル時代ニ於テハ列強ノ比較的強大ナル軍備モ決シテ平和ノ脅威ト爲ルモノニアラサルコトハ大戰後ノ歐洲明ニ之ヲ立證ス

要スルニ軍備カ或ハ平和ノ脅威ト爲リ又ハ平和ノ保障ト爲ルハ一ニ時代思潮ニ關ス世界大戰前ニ於ケル如キ思潮ノ時代ニ於テハ強大ナル軍備カ直ニ平和ノ脅威ト爲ルヘシト雖現時ノ如ク偏文思想流行シ人々只管安怡享樂ヲ要望スル時期ニ於テハ軍備ハ毫モ平和ノ脅威ト爲ルモノニアラス蓋シ軍備ノ運用ニ任スル人々自身カ之ヲ戰ニ使用スルヲ欲セサレハナリ此ノ如キ時代ニ於テハ寧ロ軍備ノ過度ノ縮小カ却テ戰爭ノ原因ト爲ルコトアルヘシ何トナレハ只管安怡享樂ヲ要望シ偏ニ難キヲ避ケントスル人心モ他國ノ軍備ノ薄弱ナルヲ觀事ヲ構フルノ容易ナルヲ觀レハ茲ニ事ヲ構ヘテ更ニ安怡享樂ヲ増大セントスルノ野心ヲ生シ易ケレハナリ此際他國ト同様自己ノ軍備モ亦薄弱ナルニ相違ナシト雖薄弱ナル軍備相互ノ惹起スル戰爭ハ強大ナル軍備相互ノ戰爭ニ比シ一見易々タルノ誘惑ヲ有スルハ識者ヲ俟チテ後知ラサルナリ



## 第二節 國家總動員計畫準備ノ大綱

普佛戰役ニ於ケル佛軍敗戦ノ一原因ハ平時ニ於ケル軍備充實就中國軍動員計畫ノ不適當並其準備ノ不完全ナリシニ在リ日露戰役ニ於ケル露軍ノ動員モ亦其計畫及準備ノ不適當不完全ナリシ爲ニ其實施ニ幾多ノ支障ヲ生シ作戰遂行上ニ一大障礙ヲ與ヘタルコト世間周知ノ事實ナリトス

歐洲大戰前ニ於ケル各列強ハ何レモ軍ノ動員準備ニ多大ノ努力ヲ費シタル結果獨軍ハ勿論佛軍露軍ト雖軍隊動員ハ極メテ迅速圓滑ニ實施セラレ英軍ノ如キモ其正規軍ノ動員ハ頗ル順調ニ進歩シタリ是レ運輸通信機關ノ發達ニ負フ所大ナルヘシト雖又其計畫及準備ノ周到ナルニ因ラスンハアラス

然レトモ各列強ノ大戰前ニ於ケル戰爭準備ノ著眼狭小ナリシ爲其動員モ亦小規模ノ計畫ニ止マリ陸海軍以外ノ動員計畫及其準備ノ如キ殆ント皆無ニ庶幾ク戰爭途中新ニ諸種ノ動員ヲ計畫シ之ヲ實施シツツ戰爭ヲ續行スルノ已ムナキニ至レリ

抑國家ノ總動員ハ如何ナル戰爭ニ於テモ常ニ必スシモ必要ナルニアラス唯國力ヲ擧テスル大國民戰ヲ實行スル場合ニ於テハ極メテ必要ニシテ是レ有限ノ國力ヲ統制シテ戰爭遂行ニ集中指向シ最モ經濟的ニ之ヲ使用シ最大ノ能率ヲ發揮セシムル爲ノ基礎的條件タリトス

世界大戰前各國カ戰爭準備トシテ計畫シタル所ハ陸海軍作戰計畫及同動員計畫、戰時財政及交通動員ノ一部計畫ニ過キスト雖世界大戰ハ苟モ一大國民戰ヲ決行スル爲ニハ更ニ廣汎大規模ナル戰爭計畫及動員計畫ノ必要ナルヲ明示シ且其準備ヲ爲シ置クヘキヲ訓ヘタリ

### 一 國家總動員ノ意義及其內容

國家ノ全資源ト國民ノ全能力トヲ最モ有效且經濟的ニ運用シ戰爭ヲ行ハンカ爲ニハ先ツ國家諸般ノ組織ハ平時狀態ヨリ戰時活動ノ狀態ニ改變セラレサルヘカラス詳言スレハ戰爭ノ要求ニ適應スル如ク或ハ平時機關ヲ改變シ又ハ新ニ戰時機關ヲ設置シ且是等諸機關ノ從屬連絡ノ系統ヲ設定スルヲ要ス而シテ其主要ナ

ル機關ハ軍動員機關、軍需工業動員機關、交通動員、食料燃料動員及金融動員機關並資源統制機關等ナリトス。是レ文化的發展ヲ主目的トスル平時組織ハ戰爭ノ要求ニ適應セサルモノ尠カラサレハナリ。

彼上ノ如ク動員セラレタル國家諸機關ハ國家ノ戰爭諸資源ヲ消化組織整備シ以テ戰爭ノ要求ヲ充足ス而シテ資源ハ最モ經濟的ニ之ヲ消費セサルヘカラサルヲ以テ國家最高ノ意志ヲ以テ大體ノ統制ヲ行ヒ戰爭遂行ノ大目的ニ適スル如ク需要ノ輕重要否ニ從ヒ適當ニ各動員機關ニ按排配當セサルヘカラス。但シ資源ノ統制ハ過度ニ立チ入りテ之ヲ實施スルコトナク動員機關ノ活動ヲ拘束セサルノ注意肝要ナリトス。

國家總動員中ニ包含セラルヘキ動員ノ種類左ノ如シ

陸、海、空軍動員

軍需工業動員(之ニ要スル官廳ヲ含ム以下同シ)

交通動員

食料及燃料動員

金融動員

一 國家總動員ノ準備

廣汎多岐ナル國家總動員ヲ圓滑迅速ニ實行シ國力ヲ經濟的ニ使用シ且最大ノ能率ヲ發揮センカ爲ニハ左ノ諸準備ヲ必要トス

イ 諸動員ニ必要ナル機關ノ骨幹ハ平時ヨリ之ヲ設置シ其基幹人員ニハ豫メ教育訓練ヲ施シ置クコト

ロ 産業ノ發達、經濟力ノ充實ニ努メ優良ナル素質ノ諸資源ヲ豐富ニ有スルコト即チ優良ナル人、動物、資材ヲ豐富ニ所有シ工業力ヲ強大ナラシメ交通通信能力ヲ増大シ必要ナル國防資源ノ自給自足ヲ期スルコト

ハ 國家ノ行政、産業、交通、教育、金融等ノ諸組織ヲ完備シ戰時迅速且容易ニ整然トシテ戰時組織ニ移リ得ルコト

ニ 教育ノ振興、國民ノ訓練、保健衛生ノ向上、社會政策ノ實施ヲ勵行スルコト  
ホ 戰時利用シ得ヘキ諸資源ノ數量及其分布移動ノ狀態等ヲ調査シ置クコト

ヘ 國民生活ノ維持ニ絕對必要ナル經濟資源及交通力ヲ調査シ代用品ノ研究調査ヲ爲シ置クコト  
ト 財政ヲ整備シ其基礎ヲ鞏固ナラシメ置クコト

### 三 國家總動員計畫策定ノ一般著眼

イ 國家總動員ノ計畫ハ戰爭指導ノ大方針(戰局解決ノ根本方針)ニ適應セサルヘカラス從テ戰爭諸資源ノ按排配當及其運用等ハ此大方針ヲ基礎トシテ實施セラルルヲ要ス

ロ 戰爭遂行ノ手段トシテ最モ確實有效ナルモノハ交戰ニ依リ敵ノ整備セル武力ヲ破碎殲滅スルニ在ルヲ以テ直接交戰ニ任スル陸、海、空軍ノ作戰能力ヲ最高度ニ發揮セシムルコトヲ主眼トシ諸計畫ヲ策定シ兼ネテ國民生活ノ維持、志氣ノ振作、愛國奉公心ノ鼓舞等ニ顧慮スヘシ

之カ爲國民生活ニ絕對必要ナル最少限ノ經濟資源ヲ調査研究シ其餘ノ資源ヲ如何ナル順序ニ依リテ之ヲ開拓整備シ戰爭ノ用ニ供スヘキカヲ決定スルハ實

ニ 國家總動員ノ主要事項タリトス

ハ 國家諸機關ヲシテ能ク協調ヲ保チ戰爭遂行ノ爲全能力ヲ發揮セシメ且全國民ノ力ヲ統制使用スル爲ニハ國家ノ強制力ノ適用固ヨリ必要ナリト雖成ルヘク國民ノ自由意志ニ基ク犧牲心ヲ尊重利用シテ其目的ヲ達成センコトヲ努ムヘシ

ニ 敵ニ先ンシテ成ルヘク多數ノ國民ノカト國家ノ資源トヲ迅速ニ動員シ之ヲ交戰ニ使用スルハ希望スル所ナリト雖急激ニ全國家ノ組織ヲ變更シ人及ヒ其他ノ資源ヲ動員スルトキハ國政ノ圓滑ナル運轉ヲ阻碍シ國民ノ生活ヲ攪亂シ國民ニ與フル社會的並經濟的打撃ハ實ニ甚大ニシテ却テ國力ノ發揮ニ不利ヲ來スコトアルヘキヲ以テ國家總動員ハ逐次漸ヲ追ウテ進ミ秩序的ニ整然トシテ行ハルルヲ肝要トス之カ爲計畫ハ實施ノ容易ナルヲ必要トシ戰時急遽ニ現狀ヲ根本的ニ改變スルカ如キ計畫ハ縱ヒ理論上一見可ナルカ如キ場合ニ於テモ慎マサルヘカラス

ホ 各種ノ動員計畫ハ相互ノ連繫調和ヲ保チ統一セル方針ヲ以テ一貫セラルル

ルヲ要ス而シテ總動員ノ核心ヲ爲スモノハ實ニ軍ノ動員計畫ニ在ルコトヲ忘ルヘカラス

ヘ 計畫ノ繁簡精粗ハ動員ノ種類ニ因リ相違アリ例ヘハ國軍動員計畫ノ如キハ精細嚴密ニ相當ノ深度ヲ以テ策定スヘキモ軍需工業動員計畫ノ如キハ基礎タルヘキ大綱ヲ規定スルニ止メ開戦後ノ狀況ニ應シ逐次之ヲ補足完備スルヲ可トスル場合多キカ如シ

#### 四 資源配當ノ一般標準

國家總動員ノ主眼ハ國軍ノ作戰能力ノ最大發揮ニ在ルヲ以テ其計畫ノ核心ト爲リ基調タルヘキモノハ軍隊ノ動員ニ在リ是ヲ以テ先ツ軍隊動員ノ要求ヲ充足スルヲ旨トシ資源ノ配當ヲ律スルヲ肝要トス今世界大戰ノ經驗ニ鑑ミ主要ナル資源配當ノ一般標準ヲ述フレハ左ノ如シ

イ 人員

戰時國家カ幾何ノ兵員ヲ出タシ得ルヤノ問題ハ國民體質ノ保健狀態、國家ノ

組織等ニ關スルコト勿論ナリト雖國家諸般ノ組織ヲ戰時ノ要求ニ從ヒ改變スルトキハ普通ノ國家ハ概ネ其男子總數ノ約二十五「パーセント」ヲ軍兵トシテ出タスモ尙國家ノ運轉、國民ノ生活、軍需品ノ製造等ニ支障ナキカ如シ此二十五「パーセント」ノ壯丁ニ完全ナル裝備ヲ爲シ得ルヤ否ヤハ全ク別個ノ問題ニシテ是レ一ニ國家ノ利用シ得ル資源並平時ニ於ケル兵器被服等ノ準備ノ程度ニ關ス

世界大戰ノ末期ニ於ケル列強ノ兵員總數ノ其男子總數ニ對スル概略ノ比率左ノ如シ

- 佛 國 二七「パーセント」
- 獨 國 二五「パーセント」
- 英 國 二三「パーセント」
- 伊 國 二〇「パーセント」

前記二十五「パーセント」ノ兵員ハ戰場兵員及後方兵員換言スレハ野戰軍ト後方勤務諸部隊トノ二者ニ區分セラルヘク其比ハ概シテ相等シキヲ通常トス

ルヲ以テ一國男子總數ノ約十二「パーセント」半ノ男子カ野戰軍トシテ活動シ  
 殘餘ノ半部カ後方ニ活動スルコトト爲ル

軍需工業動員ニ要スル人員ハ戰場兵員ノ約二倍ヲ要スルヲ通常トスルカ故  
 ニ縱ヒ老幼婦女等ヲモ使用スルトシテモ一國男子總數ノ少クモ二十「パーセ  
 ント」内外ヲ必要トスヘシ果シテ然ラハ其他ノ各種業務ニ服スル男子總數ハ  
 約五十五「パーセント」内外ナルヘシ

戰時俄ニ多數ノ人員ヲ必要トスル動員ハ軍隊動員及軍需工業動員等ニシテ  
 其他ノ動員ニハ平時ノ要員ヲ少シク増加スレハ足レリトスルカ如シ英佛ノ  
 統計ニ依レハ交通要員ノ如キモ平戰兩時ニ大ナル懸隔無カリシト云フ

軍隊ニハ男子ノ最良分子ヲ配當スルコト必要ナリト雖戰局ノ永續ニ從ヒ後  
 方勤務者ニシテ比較的の老齡且體格不良ナルモノト雖交代シテ戰線勤務ニ服  
 セシムルコトハ人心ノ安定志氣ノ振作上極メテ重要ナリトス

戰爭二箇年間ニ於ケル總損耗(一時及絕對損耗)ハ歐洲戰ニ於テハ略ホ戰場兵  
 員數ニ相等シ而シテ一時損耗ト絕對損耗トノ比ハ大略四對六ナリ是ヲ以テ

理論上交戰三年半ニ及ヘハ絕對損耗ハ全戰場兵員ノ數ニ達スヘシ

ロ 馬匹

世界大戰末期ニ於ケル英佛獨、奧、伊各國軍ノ平均ヲ觀ルニ戰場使用馬數ハ戰  
 場兵員ノ約三分ノ一ニ相當ス故ニ軍用總馬數ハ其總兵員ノ少クモ五分ノ一  
 ヲ要スヘシ過去戰役ノ統計ニ徵スルニ機械的輸送力ノ進歩顯著ナルニ拘ラ  
 ス兵員ニ對スル馬ノ割合ハ逐次増加シツツアリ  
 戰爭ニ使用セシ兵員百ニ對スル馬匹ノ割合左ノ如シ

普奧戰爭 一五、二

普佛戰爭 一七、四

日露戰爭 一九、七

歐洲大戰 三〇、五

民間ニ幾何ノ馬匹ヲ要スルカハ一國ノ運輸機關ノ狀態、農耕法等ニ關ス世界  
 大戰開戰後二箇年間ニ於テ交戰各國ノ徵用セシ馬數ノ國內總馬數(驛、驢ヲ含  
 ミ輸入馬ヲ含マス)ニ對スル百分比左ノ如シ

英國	一六
佛國	二二
獨國	四六
右平均	二八

由是觀之國內總馬數ノ半數ヲ徵用セントスルカ如キハ機械的輸送機關ノ頗ル發達セル國家ト雖頗ル困難ナルヲ知ルヘク運輸、農耕等ニ比較的多數ノ馬匹ヲ要スル本邦ニ於テ特ニ然リトス

又戰役末期戰場ニ使用セシ馬數ノ國內總馬數(騾驢及輸入馬ヲ含ム)ニ對スル百分比ハ次ノ如シ

英國	二四
佛國	二一
伊國	一七
獨國	二五
埃國	一八

右平均 二一

ハ 鐵

歐洲大戰末期即チ千九百十七年頃ニ於ケル英、佛、獨ノ平均使用鐵量ハ戰場兵員一人ニ對シ毎日三噸ナリ但シ前屢述ヘタルカ如ク各列強共ニ開戰前國家總動員ノ準備ヲ缺キタル爲戰役途中ヨリ之ヲ開始シ新ニ戰爭準備ヲ爲シツツ戰爭ヲ繼行スルノ已ムヲ得サルニ至リ且交戰團ノ實力略ホ相均衡セシカハ是ニ戰局持續ノ爲ノ陣地戰ト爲リタルコト及交戰久シキニ從ヒ軍隊ノ素質著シク低下シ人間能力ノ低劣ヲ補フニ鐵量ヲ以テセサルヘカラサルニ至リタルコトヲ忘ルヘカラス

軍隊ノ素質低下スレハ兵器彈藥ノ多數ヲ要スルコト自然ノ理ニシテ羅馬ノ末期ニ於ケル戰爭モ各壕ヲ深クシ有ユル物質的材料ヲ使用シタリト傳ヘラル

重量大ニシテ運搬ニ不便且原料ニ限アル鐵ヲ多量ニ使用セサルヘカラサルハ理想ニアラス是ヲ以テ將來ハ各國共ニ專ラ化學ノ研究利用ニ勉メ鐵ヨリ

モ輕量且體積小ニシテ原料豊富而モ威力ノ之ニ劣ラサルモノヲ工夫發見シ  
鐵ニ代ラシムルコトヲ努ムルナラン

ニ 戰費

世界大戰ニ於ケル陸軍兵員一人ニ對スル毎日ノ純陸軍戰費左ノ如シ

國名	第一年	第二年	第三年
英	二一	一四	一二
佛	四	五	六
露	三	四	四、三
伊	五	三、七	四
獨	四、五	五	四、四
奧	四、五	四	三、八

(註、戰前獨逸ノ財政經濟學者ハ一人一日ノ戰費ヲ約六馬克ト計算セリ)

日露戰役ニ於ケル我陸軍兵一日一人ノ戰費ハ約二圓三十錢ナリ

世界大戰ニ於ケル交戰各國軍一日陸兵一人ニ對スル總戰費ハ平均十六圓ナ

リト稱セラル此數字ハ稍疑ナキ能ハスト雖暫ク記シテ參考ニ資セントス

五 組織ノ改變又ハ新設

イ 國軍動員

戰時國軍動員ノ基幹ト爲ルヘキ人員及部隊ハ必ス平時ヨリ之ヲ設置シ且第一  
動員ニ要スル戰用資材即チ武器被服等ハ必ス之ヲ準備シ置カサルハカラス是  
レ國軍動員ヲ迅速ニ完結スルコトハ戰勝ノ第一歩タレハナリ基幹部隊及武器  
ノ準備不十分ナリシ英軍ハ其新軍ヲ創設スルニ方リ非常ナル困難ニ遭遇シタ  
リ

世界大戰ニ於ケル列強ノ動員ノ跡ヲ觀ルニ開戰當初ニ於ケル陸軍動員總兵數  
ハ平時兵員ノ約六倍ニ達シタリト雖野戰部隊數ノ膨張率ハ獨軍約二倍半佛軍  
二倍露軍一倍半ニ過キス

大戰爭ヲ實施スル爲ニハ開戰劈頭既ニ平時既教育兵ノ殆ント全部ヲ動員スル  
ヲ通常トスルヲ以テ新設兵團ノ大部分ハ未教育壯丁ヲ教育シテ之ヲ編成セサ

ルヘカラス而シテ將校ノ養成ニハ少クモ四乃至五箇月ヲ要スルヲ以テ第一次ノ新設兵團ノ編成ヲ終ルハ開戦後約半年ノ後ナルヘク而シテ此ノ如キ新編成師團ノ獨力戦闘ヲ遂行シ得ルニ至ルハ英軍ノ例ニ徴スレハ編成完結後約二箇年ヲ要ス

平時ヨリ將校要員ノ多數ヲ養成シ置クトキハ戦時新軍ヲ編成スル爲非常ニ利便ナルハ勿論ナリトス

#### ロ 軍需工業動員

軍需工業組織ハ概ネ平時工業組織ヲ基礎トセサルヘカラス即チ先ツ平時工業機關ヲ利用シ之カ組織ノ變更擴張等ニ依リ逐次生産品ノ種類數量等ヲ軍ノ需要ニ應スル如ク改變増大シ已ムヲ得サル場合ニ於テ戦時工業機關ヲ新設ス新工場ノ能力ヲ發揮シ得ル時日ハ歐洲戦争ノ經驗ニ依レハ四乃至六箇月ナリ民間工業機關ハ要スレハ政府ニ於テ管理又ハ使用若ハ收用スヘシト雖成ルヘク政府ノ直接干渉ヲ少クシ自治協力以テ國家全般ノ目的ニ向ヒ努力セシムルヲ可トス之カ爲工業ノ種類ニ從ヒ適宜合同又ハ聯合シ自治工業團體ヲ組織セ

シムルヲ便トス

軍需工業ハ短時日ニ大量生産ノ目的ヲ達成セサルヘカラス故ニ此願慮ヲ以テ組織ヲ決定シ直接技術上ノ生産能率ノ増加手段ト相俟チテ其效果ヲ擧ケサルヘカラス之カ爲通常分業法及大工業組織ヲ採用シ工場管理ノ方法ヲ適切ナラシムルコトニ願慮スルヲ要ス

#### ハ 交通動員

戦時ニ於ケル交通組織モ亦成ルヘク平時組織ヲ基礎トスヘキコト勿論ニシテ交通機關ハ相互相關聯シテ其機能ヲ營ムルモノナルカ故ニ各機關ノ統一連繫ヲ旨トシテ組織スルコト極メテ緊要ナリトス是ヲ以テ一國ノ運輸通信ハ成ルヘク一機關ヲシテ統轄セシムルヲ可トス若シ鐵道、海運、通信等ヲ各別ノ機關ヲシテ統轄セシムル場合ニ於テハ特ニ相互ノ連絡ニ注意ヲ拂ハサルヘカラス官有ノ交通機關ハ交通動員ト共ニ直ニ動員組織ニ編合スルニ何等ノ支障ナシト雖共有民有ノモノニ在リテハ適當ナル方法ヲ以テ其使用權ヲ政府ノ手ニ收ムルコト必要ナリ



### 第三節 國家總動員ノ中央機關

國家總動員ヲ管掌スヘキ主要ナル國家中央機關ハ內閣各省トスルヲ便トシ各省ハ平時主管ノ事項ニ關スル戰時ノ動員ヲ計畫準備シ置キ開戰ト爲ルヤ先ツ各省自ラ戰時組織ヲ採リ其主管事項ノ動員ヲ管掌シ又ハ其一部ヲ分離獨立セシメ新省ヲ設置シ之ヲ管掌セシム

世界大戰間交戰各國ニ於ケル總動員中央機關モ多クハ內閣各省ニシテ戰時ノ要求ニ鑑ミ或ハ各省ノ組織ヲ改編擴張シ又ハ新省ヲ設置シ國家總動員ヲ管掌セシメタリ今其梗概ヲ述フレハ左ノ如シ

一 獨逸

千九百十六年「ソナム」戰ノ苦キ經驗ニ鑑ミ國家總動員ノ必要ヲ痛感セシ獨逸ハ陸軍大臣ノ下ニ戰時局ヲ設ケ國家總動員ノ中央機關トシテ其業務ノ殆ント全部ヲ管掌セシメタリ

戰時局ノ編制ハ左ノ如シ

戰時補充及勞働課

武器彈藥調辨課

戰時原料課

輸出入課

國民給養課

局附屬顧問及調査機關

戰時局ノ地方機關ハ次ノ如シ

戰時局支部(工業區トシテ重要ナル地方ニ置ク)

戰時局派出所又ハ代表者(軍需工業ノ重要ナル地點ニ置ク)

留守軍團司令部

戰時農務署(各州ニ置ク)

戰時局ノ巡回員(戰時局支部又ハ出張所ヲ巡回ス)

地方仲介機關

尙外ニ千九百十四年八月內務大臣ノ隸下ニ勞働仲介本部ヲ設ケ勞働ノ需要供

給ヲ統制セシメタリシカ是ハ總動員ヲ目的トナシタルモノニアラスシテ寧ロ  
失業者救済ノ爲ノ社會政策的施設ト觀ルヲ當レリトスヘシ  
戰局意外ニ永續シ國民ノ食料問題及衣服問題ノ重大トナルヤ千九百十七年八  
月食料及衣服ヲ管掌スル機關ヲ戰時局ヨリ分離シ宰相ノ直下ニ戰時食料局及  
被服局ヲ設置セリ

獨逸ノ國家總動員ノ圓滑ニ實施セラレサリシハ一ハ被包圍ノ境遇ニ在リテ戰  
争諸資源ノ補給意ノ如クナラサリシニ由ルト雖又其制度ニ缺陷アリシ爲ナリ  
ト論スル者アリ即チ論者ハ其制度ノ主要ナル缺點トシテ一切合切軍部ノ手ヲ  
以テ總動員ヲ實施シ統帥權ヲ以テ殆ント全部ノ資源統制ヲ實施シタルコトヲ  
指摘ス

## 二 英國

英國ニ於テハ國家總動員ノ必要ニ迫ラレ其機關トシテ平時ヨリ存在スル省ヲ  
利用スル外左ノ諸省ヲ設置シタリ(平時ノ省ヨリ分離又ハ全然新設)  
勞働省

國民勞務役省(徵兵業務並戰時必要ナル勞務力統制ヲ掌ル)

食料省

航空省

軍需品省

封鎖省

救恤省

石炭總監

船舶省

情報省

尙前記ノ外總理大臣ノ直下ニ財政機關アリ

戰役後右諸省ノ中勞働省、航空省、救恤省ヲ除ク他ノ諸省ヲ廢止ス

總動員ノ最高統制指導機關ハ戰爭内閣ニシテ此機關ハ同時ニ戰爭統帥ノ最高  
機關タルコト前陳ノ如シ

英國カ情報省ヲ新設シ宣傳ヲ統一指導セシメ「ノースクリフ」ハ對敵宣傳部長ト

ルナルトハ對中立國宣傳部長「サー、ロドリック、ジョンズ」ハ對聯合國宣傳部長トシテ大活動ヲ爲シタルコトハ戦争ノ進行上ニ非常ナル效果ヲ齎シ能ク聯合國ノ結束ヲ維持シ獨塊ヲ崩壊セシムルコトニ貢獻シタル功績ハ實ニ偉大ナルモノアリ獨逸ノ如キハ宣傳ヲ統一指導スヘキ中央機關ヲ缺キタル爲宣傳ノ指導上不利頗ル大ナルモノアリシハ「ルーデンドルフ」將軍ノ其回想録ニ於テ痛論スル所タリ

### 三 佛 國

大戰間佛國ニ於ケル國家總動員管掌ノ中央機關ハ大體英國ノ其レト相似タリ彼ノ戦争會議ノ如キ即チ戰役半ハニシテ英國ノ戦争内閣ヲ模倣シテ創設シタルモノニ過キス此戦争會議ハ佛國國家總動員ノ最高指導機關ニシテ且統帥ノ最高機關ナリトス

戦争會議以外佛國ノ戰時新設シタル國家總動員ノ中央機關左ノ如シ

兵器彈藥省  
補給省

封鎖省

關係各省連合委員

現員調査局

特別除役委員

造船監督委員會

財政機關

獨逸ノ如ク國家總動員ヲ軍部ノ一手ヲ以テ實施セントスルコトハ一考ヲ要スル所ニシテ事實獨逸ニ於テモ戰役末期行政ノ運用上ニ諸種ノ支障ヲ生シ遂ニ戰時食料局及同被服局ヲハ陸軍省ヨリ分離獨立セシムルノ已ムヲ得サルニ至リタリ内閣各省ヲシテ各其主務ニ從ヒ總動員ノ業務ヲ分掌セシムルコトハ最モ自然ニシテ之カ爲戰時各省其物ヲ動員シテ戰時ノ組織ニ移ラシメ要スレハ某省ノ一部ヲ分離シテ獨立省ヲ新設スルヲ可トス世界大戰前ニ於テハ各交戰國共ニ總動員ヲ考慮セサリシ結果開戰後全然新奇ニ新設シタル省アリト雖少クトモ其骨幹基礎タルヘキモノハ平時ヨリ某省ノ一部ニ存置スルヲ要スルヤ明白ナリ

縦ニ區分セル各種ノ動員ヲ横ニ連絡統制シ且各動員相互ノ調和ヲ圖ルヘキ機關ヲ必要トスルノミナラス國家全局ノ利害ニ鑑ミ各種ノ動員ヲ高處大局ヨリ統一指導シ各種動員ニ其向フヘキ一般目標、準據スヘキ一般方針ヲ指示スル超然タル最高機關ヲ必要トスヘシ

英國ニ於ケル戰爭内閣、佛國ニ於ケル戰爭會議等ハ即チ彼上ノ目的ニ供セラレタルモノニシテ兼ネテ戰爭ノ最高統帥ニ任シタリ然レトモ是等ハ皆數名ノ閣員ヨリ組織セラルルモノニシテ其閣員ハ政變ト共ニ變スルモノ多ク且諸動員ノ爲ニ必要ナル各般ノ智識ヲ具備スルコトハ到底不可能ナルノミナラス其研究ノ時間ヲモ有セス是ヲ以テ總理大臣ノ直下ニ國家總動員統轄ノ爲ノ常置機關ヲ設置スヘシテフ意見戰後ノ各國ニ盛ニシテ其至當ナルヤ勿論ナリトス而シテ此機關ハ少クモ左ノ組織ヲ有セサルヘカラス

總動員ニ關スル法制ヲ掌ル機關

事務機關

資源ノ調査、統計ヲ掌ル機關

科學研究、發明等ヲ掌ル機關

情報及宣傳ヲ掌ル機關

諮詢機關

朝野ノ識者練達ノ士ヲ網羅シ政府ノ諮詢ニ答ヘ且必要ナル意見ヲ上申ス

右ハ總理大臣帷幄機關ノ最少限ニシテ其骨幹タルヘキモノハ平時ヨリ之ヲ常設シ置クコト緊要ナリトス

前陳事務機關及諮詢機關ノ研究調査シタル資料及智識ヲ基礎トシ各種動員業務ノ統整連絡調和ヲ圖ル爲各動員機關ヲ統一指導スヘキ「政治機關」ハ即チ内閣或ハ若干ノ閣員ヲ基幹トスル會議體ナルヲ自然トスヘシ是レ國家總動員ハ各省ノ關係セル重大ナル戰時ノ國務ナレハナリ而シテ英佛等ニ於テハ此會議體ニ戰爭ノ最高統帥ノ權限ヲモ與ヘタリト雖其制度ノ我國ニ適用スヘカラサルハ明白ナリ是レ統帥ハ天皇ノ軍令大權ノ發動ニシテ一般國務ノ外ニ獨立シ國務大臣輔弼ノ範圍外ニ在ルモノナレハナリ

國家總動員ノ業務ハ統帥ト異ナリ重大ナル戰時國務ニシテ各省ノ協力ヲ俟チテ始メテ圓滿ナル實施ヲ見ルヲ得ルモノナルカ故ニ其最高指導機關モ亦國務大臣

ヲ主體トシテ組織セラルヘキモノナリトス抑、帝國憲法ニ於テハ各省大臣ハ各省ノ長官トシテ總理大臣ノ統轄ヲ受クルト同時ニ國務大臣トシテ各、天皇輔弼ノ責ニ任スルモノニシテ英國ノ制度ト稍、其趣ヲ異ニス英國ニ於テ、總理大臣ヲ以テ國家總動員ノ最高指導者トスルモ法理上妨ナキニ反シ帝國ニ於テハ則チ然ラス實際英國ニ於テモ政治的必要ヨリ法理上採用シ得ヘキ制度ヲ採用セス若干ノ閣員ヲ基幹トスル會議體ヲ以テ之ニ充テタルコト前述ノ如シ

平時ヨリ國家總動員ノ計畫準備ヲ行フ爲ニ内閣ニハ前記ノ總動員中央機關(事務機關及諮詢機關)ノ骨幹ヲ常設シ置クコト緊要ナルト同時ニ廣義ノ戰爭計畫ヲ審議シ之ニ基ク外交、教育、國民經濟及軍事施設等ニ關スル諸政策ヲ決定スル爲ノ政治機關ヲ必要トスヘシ此政治機關ハ憲法上ノ責任ヲ明ニスル爲國務各大臣ヲ主體トシテ組織セラルヘキハ勿論ナリト雖樞密院議長、貴衆兩院議長及參謀總長、軍令部長等ヲ顧問トシテ之ニ參與セシムルヲ可トセン

## 第二章 戰時外交政策

外交指導ノ技術的方面並其手續等ハ外交專門ノ事項ニ屬シ本研究ノ範圍外ナルヲ以テ茲ニ之ヲ述ヘス本章ニ於テハ專ラ戰時外交指導上ノ一般的著眼ヲ敘スルニ止メントス

### 第一節 戰時外交ノ一般綱要

抑、一國外交上ノ成果ハ一面外交指導ノ巧拙ニ關スルト共ニ他面國家ノ實力ニ關スルモノナリ古來巧妙ナル外交的活動ニ依リ國家ノ實力以上ノ成功ヲ收メ得タル實例ハ史上ニ稀ナリトセス世界大戰後、ウエルサイユ講和會議ニ於ケル希臘ノ如キ正ニ然リ然レトモ國家ノ實力ニ相應シタル成果ニアラサレハ縱ヒ一時之ヲ獲得スルモ久シキニ互リテ維持スルコトノ至難ナルハ最近ノ希臘ノ事例亦之ヲ立證ス是ヲ以テ原則トシテハ外交上ノ成果ハ其指導ノ巧拙ト國家ノ實力トノ兩者ニ相關スルモノト言フヲ至當トスヘク國家ハ先ツ其實力ニ相應シタル成果ヲ獲得スルヲ以テ満足セサルヘカラス國家ノ實力即チ其經濟力、武力(狹義ノ意味)並文化的勢力等ノ増大スルニ從ヒ其國際的地位モ亦向上スルハ勿論ナリト雖一面

國力ノ増大ハ他國民ノ嫉妬猜疑ノ情ヲ増大シ外交ノ指導ヲシテ益々困難ナラシムル場合アルコトヲ忘ルヘカラス

若シ夫レ此ノ如キ場合ニ於テ國民ノ自負心其實力ヲ超越シテ昂上シ自重自制ニ意ヲ須ヒス遠大周匝ナル用意ヲ缺カンカ忽チ國際的不利ナル地位ニ墮シ去ルノ危險免ルヘカラス世界大戰以前ノ獨逸國民ノ如キハ其經濟的、軍事的、文化的實力ノ増大スルニ從ヒ其自負心亦昂上シ其外交不謹慎無遠慮輕率ト爲リ之ニ正比例シテ他國民ノ嫉妬猜疑ノ念ヲ増大セシメタリシカ遂ニ之ニ反比例シテ其國際的地位ヲ不利ニ導キ結局外交上ノ窮地ニ陥リ煩悶焦慮ノ結果最後ニ彼ノ大脫線ヲ爲スニ至リタルコト世人ノ知ル所ノ如シ

外交ノ指導ヲシテ巧妙ナラシメント欲セハ先ツ他國民ノ國民心理ヲ正當ニ理解シ此理解ヲ基礎トシテ之ニ對スル外交ヲ指導セサルヘカラス是レ即チ敏活ニ機ヲ捉ヘ機宜ニ適スル外交的措置ヲ實行スル爲ノ根本要件ナリトス過去ニ於ケル獨逸外交失敗ノ素因カ獨逸民族ノ心理的缺陷タル他國民ノ心理ヲ正當ニ理解スルノ能力ニ乏シキコトニ胚胎セルハ今日識者ノ認ムル所ニシテ心理學ノ泰斗「グ

スタープ、ル、ボン」氏ノ特ニ力説スル所ナリ

次ニ外交指導ノ巧妙ヲ期センカ爲ニ必要ナル要件ハ遠大周匝ナル根本的大計畫ヲ確定シ此根本的大計畫ニ基キ敏活ニ機會ヲ捉ヘ機ニ投スル外交的措置ヲ爲スニ在リ若シ此遠大周匝ナル根本的計畫ヲ有セサルトキハ捉フヘキ機會モ之ヲ捕フル能ハス利用スヘキ情況モ之ヲ利用スル能ハス或ハ局面ノ小變化ニ依テ周章狼狽シ又ハ好餌ニ依リテ籠絡セラレ常ニ機先ヲ制セラレテ結局追隨受働ニ陥ルヘキハ明白ナリトス加之對外國是確立セス牢乎タル方針計畫ヲ缺カンカ外交ノ指導ニ必要ナル宣傳ハ統一ヲ失ヒ外交各機關ノ活動ニ協調統整ヲ缺キ遂ニ國際信用ヲ失墜シ外交上ノ成績ノ擧ラサルハ必然ナリト言フヘシ

但シ戰ニ於テ戰略巧ナルモ戰術拙ナレハ勝利ヲ獲ルコト能ハサルカ如ク外交ニ於テモ其成功ニハ略ト術トノ巧妙ナル一致ヲ必要トシ如何ニ遠謀深慮巧妙卓拔ナル外交計畫ヲ有スルモ其實施ノ術ニ於テ拙劣當ヲ得サランカ其成果ノ得テ期スヘカラサルハ勿論ナリトス

「ビスマーク」ノ獨逸統一ノ計畫ヲ確定シ政略的各個擊破ノ方針ヲ樹ツルヤ機ヲ見

テ同盟又ハ協約ヲ結ヒ開戦和戦共ニ好機ニ投シ乘スヘキ機會ヲ巧ニ利用シタル、又普佛戰役後歐大陸ニ於ケル獨逸ノ地位ヲ鞏固ナラシムヘキ根本計畫ヲ策定スルヤ敏活ニ好機ヲ捉ヘテ其方針ニ適應セル外交的措置ヲ實行シ其目的ヲ達成シタルハ普ク世人ノ知ル所ニシテ「エドワード」七世カ機ニ投シ日本ト結ヒ露國ト妥協シ佛國ト提携シ伊國ヲ懷柔シテ獨逸包圍ノ大計畫ヲ實現スルヲ得タルモノ亦實ニ其遠大周匝ナル根本的計畫ト其巧妙ナル實行トニ依ラスンハアラス。凡ソ巧妙ナル外交指導トハ表面追隨スルカ如クニシテ實ハ指導シ受働ヲ裝ヒテ却テ主動ノ地位ヲ失ハス利他ノ名ニ據リテ利己ノ實ヲ收メ圓轉滑脱對者ニ覺ラルルコトナクシテ之ヲ操縱シ焦ラス迫ラス悠揚ノ間常ニ先手ヲ打チテ著々豫定ノ計畫ヲ遂行スルニ在リ而シテ是カ爲ニハ能ク未然ニ大勢ノ推移ヲ洞察達觀スルノ明ヲ有シ且常ニ冷靜ヲ持シテ大局ヲ把握シ而モ機ヲ逸セサルノ活眼ヲ具備セサルヘカラス彼ノ「アングロサクソン」ノ外交ノ概シテ成功ヲ博シタルハ即チ英人カ彼上ノ性格ヲ有スルニ負フ所多大ナリトス獨逸人カ英人ニ比シ割合ニ感情ニ制セラレ易ク且沈靜悠揚遠大ナル著眼ヲ有スル點ニ於テ彼ニ及ハサルコトハ

即チ從來獨逸ノ外交カ常ニ英國ノ外交ニ制セラレタル主要ナル一原因ニシテ「ル」  
「デンドルフ」將軍ノ如キモ亦之ヲ承認シ居ルコト其「回想錄」ニ徵スルモ明白ナリ  
彼ノ「ピスマーク」ノ如キモ機敏活眼ナル外交家タルニハ相違ナキモ遠謀深慮徐ロ  
ニ大勢ノ趨向ヲ察シテ悠々國際政局ヲ指導スルノ技倆ニ於テ到底「エドワード」七  
世ノ比ニアラス殊ニ普佛戰役後佛國ノ復讐心ヲ轉向緩和シ海外發展ニ於テ英國  
ト衝突セシメントシタル政策ハ其豫期ニ反シ却テ他日獨逸ノ海外發展ノ餘地ヲ  
失フノ結果ト爲リ又露土戰爭後ノ伯林會議ニ於テ露國ノ憤怨ヲ買ヒ且三國同盟  
ニ露國ヲ加ヘスシテ伊太利ヲ引入レ歐洲大戰ニ於ケル敗因ノ一桶ヲ作りタルカ  
如キハ今日識者ノ非難ヲ免レサル所ナリトス駐千八百七十三年ノ所謂三帝協商  
ノ際露國トノ協約ハ單ニ「モルトケ」及「バルヤチンスキー」兩元帥ニ依リ署名セラレ  
タルノミニシテ「ピスマーク」ハ副署セス抑事ニ順序アリ「ピスマーク」在世當時獨逸  
ノ急務カ歐洲大陸ニ於ケル獨逸ノ地位ヲ鞏固ナラシムルニ在リシヤ論ヲ俟タサ  
ル所ナリト雖其眼光ノ及フ所一歐洲ニ限ラレ獨逸ノ現狀ニ局限セラレタルノ憾  
無クンハアラス

外交上ニ反映スル重大ナル要素タル國家ノ實力ハ國家ノ財力、經濟力、文化的勢力及狹義ノ武力等ノ總和ナルコトハ何人モ之ヲ認ムル所ナリト雖尙國家ノ對外實力トシテ外交上輕視スヘカラサルモノハ一國ノ國際信用是ナリ一國外交ノ指導上其國際信用ノ極メテ重大ナル意義ヲ有スルコトハ恰モ一國ノ紙幣ニ對スル國際信用カ國際經濟界ニ於テ重大ナル意義ヲ有スルト同様ニシテ若シ夫レ外交上何等ノ價值ヲ齎ササルコト大戰後ノ「マーク」紙幣「ルーブル」紙幣ト異ナルコトナシ機敏狡猾ナル「ビスマーク」ノ外交ハ當時幾多外交上ノ成果ヲ收得シタルニ似タリ偉大ナル外交家トシテ世人ノ敬仰スル亦一理ナキニアラス然レトモ翻テ考フルニ「ビスマーク」ノ外交ハ「物」ニ於テ得タル代リニ獨逸ノ國際信用ニ於テ失ヒシ所亦決シテ鮮少ナリトセス此ノ如クニシテ釀成セラレタル獨逸外交ニ對スル國際信用ハ千九百十四年夏歐洲列強ノ外交折衝ヲシテ遂ニ水泡ニ歸セシメ獨逸其者ノ欲セサル大戰亂ヲ誘發シ又其大戰間獨逸ノ講和提議ヲシテ不成功ニ終ラシメ且戰後尙賠償問題ノ紛糾ヲ來シタル主要ナル一原因タラスンハアラス

一時國際信用ヲ全然喪失シタル露國過激派政府ノ外交モ亦幾多ノ難關ニ遭遇シ其意ノ如ク進捗セサルコトハ世人ノ齊シク實見セシ所ナリ堂々タル大國ノ外交指導ニ於テハ眼前ノ小利ヲ獲得セント欲シ小策ヲ弄スルコトナク寧ろ眼前ノ小利ヲ失フモ先ツ國際信用ヲ増大シテ他日ノ所得ヲ大ナラシムルコトヲ期セサルヘカラス千九百十四年夏歐洲大戰ノ勃發スルヤ我國ハ日英同盟ノ義ニ據リ直ニ起チテ英國ニ與シ對獨宣戰ヲ決行シ大ニ帝國外交ニ對スル國際信用ヲ向上セシメタルコト世人ノ知ル所ノ如シ然ルニ或ハ當時日本ノ參戰ヲ以テ過早且輕忽ノ舉ナリトシ須ラク聯合國ト相當ノ交渉ヲ重ネ或ル種ノ利益ヲ確保シタル後參戰セサルヘカラスト論スル者無キニアラス然リ伊太利、羅馬尼、勃牙利等ノ參戰ハ正ニ論者ノ意見ノ如クニ行ハレタリト雖彼ト我トハ諸種ノ事情ヲ異ニスルノミナラス論者ノ說ノ如キハ斷シテ大國民ノ襟度ニアラスト言フヲ得ヘシ

外交ニ於テ信用ノ重大ナルコト及打算ノ必要ナルコトハ恰モ商業取引ニ於ケルト異ナルコトナク或意味ニ於テ外交ハ商業取引ニ似タル所無キニアラス然レト



モ外交全部ヲ以テ商事ニ擬スルハ是レ外交ノ本質ヲ知ラサル俗論タラスンハアラ  
ス

一國ノ外交ヲシテ權威アラシメ其外交的活動ニカアラシムル根本要素ハ國力及  
國際信用ナルコト前陳ノ如シ而シテ他ニ重要ナル一要素トシテ閣却スヘカラス  
ルモノハ輿論ノ支援及宣傳ノ效力是ナリ國家ノ財力、經濟力、文化的勢力及第一線  
武力等即チ國力强大ナル國家ノ優秀ナル外交家カ如何ニ機敏ニ活動スルモ其外  
交ニシテ國內輿論ノ支援無ク又其對手國及其他ノ諸國ノ輿論ノ排斥スル所トナ  
ランカ到底豫期ノ成功ヲ期スヘカラスハ明白ナリ是ヲ以テ内ニハ輿望ヲ擔フ  
鞏固ナル政府カ全國民ノ支援ノ下ニ國論ノ要求スル對外政策ヲ實施シ外ニハ海  
外諸國就中對手國ニ對スル宣傳時宜ニ適應スルコト緊要ニシテ「アングロサクソ  
ン」外交成功ノ裏面ニハ即チ敍上ノ原因ノ存在スルコトヲ看過スヘカラス  
外交ノ指導ヲシテ容易且利便ナラシムル爲内外各要地ニ宣傳機關ヲ配置シ全世  
界ヲ掩フニ宣傳網ヲ以テシ當局ハ機ニ投スル宣傳ヲ行ヒ我對外交政策遂行ヲ援ク  
ル内外輿論ヲ作興シ且之ヲ指導スルコト極メテ肝要ナリトス少クトモ國家ハ内

外ニ對シ其國民的意志ヲ發表スル國民的言論通信機關ヲ有セサルヘカラス「ルト  
デンドルフ」將軍ハ其戰爭回想錄ニ敍シテ曰ク「英國ハ其國民的意志ヲ發表スル爲  
ニ「タイムズ」ヲ有シ佛國ハ「ルタン」ヲ有シ露國亦「ノイウニ、ウレミヤ」ヲ有シタリト  
雖獨逸ノ大新聞ハ不幸ニシテ國民的性質ヲ有セス却テ「アンテルナシナル」的ナリ  
シヲ以テ國家ノ宣傳ハ多大ノ不便ニ逢遭シタリト「英米兩國カ海底電信、無線電信、  
大通信社、大新聞、活動寫眞、フィルム」製造大會社、蓄音器「レコード」大會社等ヲ有スル  
コトハ其宣傳ニ利スル所實ニ莫大ニシテ又一國ノ國際間ニ有スル文化的勢力モ  
大ニ其國ノ宣傳ヲ助クルモノナリ英語佛語及英佛文學等ノ國際間ニ有スル勢力  
ハ即チ彼等ノ宣傳ヲ助クル大ナル支援者タラスンハアラス是ニ於テカ外國殊ニ  
隣邦ニ對スル文化的施設モ宣傳機關ノ配置ト相俟チテ間接ニ我對外交政策遂行ノ  
一助ト爲ルモノナルコトニ注意スルヲ要ス

以上述ヘタル所ハ平戰兩時ヲ通シテ淪ラサル所ナリト雖戰時外交ノ指導ニ於テ  
ハ更ニ戰爭ノ人間心理ニ及ホス影響ヲ稽ヘ能ク當時ノ人心ノ機微ニ投スル手段  
方法ヲ採用セサルヘカラス元來外交ニ於テハ大小遠近ノ差コソアレ各國共ニ其

利益ノ打算ヲ主トシテ活動スルモノナリト雖而モ此間國民相互間ノ國民的感情及外交折衝ニ任スル人物相互間ノ個人的感情ノ決シテ輕視スヘカラサル役割ヲ演スルモノナルコトニ留意スルコト緊要ナリ人生ノ大事件タル戰爭ノ場合ニ於テ特ニ然リトス今戰時外交指導上注意スヘキ心理的事項ヲ舉クレハ左ノ如シ

イ 戰時ニ於ケル國民思想ハ國民的自己中心主義ニ陥リ易ク交戰國民ハ自國民ヲ絶對ナル正義者ニシテ敵ハ不正義、無價值ノ權化ト信スルニ至リ敵國民ニ對スル信用ハ茲ニ殆ント破壊喪失セラル加フルニ敵愾心、憎惡ノ感情熾烈ニシテ敵國民ノ價值ヲ正當ニ判斷シ其心理ヲ如實ニ理解スルコトハ難事トシテ難事タラスンハアラス是ヲ以テ外交上ニ於ケル敵ノ言動ハ總テ虛偽、欺瞞、誑詐、奸策ナリト信シ易ク爲ニ眞面目ナル平和交渉ニ移ルコト頗ル困難ナリ此事ハ彼我宣傳ノ盛ナル現今ニ於テ特ニ甚シト言ハサルヘカラス彼ノ世界大戰カ戰局持久ニ陥リ雙方共ニ戰勝ノ望明瞭ナラサルニ拘ラス依然戰ヲ持續シタル一原因ハ實ニ彼上ノ戰時心理ニ在リト言フヲ得ヘシ

ロ 戰爭ハ人間生活上ニ於ケル一大變動ニシテ人間心理ノ平衡ヲ破リ人々事物

ニ對スル冷靜公平ナル批判ヲ缺クニ至リ其判斷ハ往々一方ニ偏シ易キ傾向ヲ生ス加フルニ神經過敏ト爲リ且神秘的觀念勃起スルヲ以テ一般ニ理性ノ作用ヲ鈍ラシムルノ虞アリ是ニ於テ人々偉大ナル事件ノ徐々ナル發展ニ氣著カス却テ眼前ノ小事件ノ爲ニ注意ヲ奪ハレ瑣事ニ對シ焦慮離散シテ却テ大事ヲ逸スルニ至リ易シ是レ能ク大勢ノ趨向ヲ明察シ常ニ大綱ヲ握リテ外交界ニ善處スヘキ爲ニハ冷靜卓拔ナル大人物ヲ要スル所以ナリ

ハ 戰時人間ノ心理ハ事ヲ急キ物ニ焦リ易キニ至ルモノナリ戰局意ノ如ク發展セス生活難ノ愈、加重スルニ於テ益、然リ彼ノ鈍重ナル露國民カ革命ヲ起シ比較的冷靜打算ニ長シタル獨逸人カ革命ヲ起シタルモ要スルニ人々急キ且焦リタルノ結果ナリト言フヲ得ヘシ然ルニ人間カ一度急キ且焦ルニ至ルヤ一般ニ近眼又ハ盲目ト爲リ遠大ナル著眼考慮ヲ缺クニ至ルハ自然ノ理ニシテ遠大周匝ナル計畫ノ下ニ焦ラス迫ラス徐々トシテ進ムヘキ外交モ亦彼上ノ心理ニ影響セラレ事ヲ誤ルノ虞無シトセス能ク國民ノ激越ナル感情ヲ抑制シ自重以テ當局ニ信賴セシムル爲ニハ確實ニ國民ヲ掌握シ之ヲ制御シ得ル鞏固有力ナル政

府ト平時ノ國民的修養訓練トヲ必要トスルヤ論ヲ俟タサル所ナリ  
 開戦前ニ於ケル外交特ニ開戦直前ニ於ケル外交ハ戰時外交ト密接ナル關係ヲ有  
 シ且頗ル重要ナルヲ以テ其大要ヲ研究スルノ必要アリ而シテ其要ハ外交上ノ戰  
 争準備ヲ十全ニシ外交斷絶ノ時機ヲシテ能ク軍事上ノ準備ニ適應セシメ且戰爭  
 開始ノ責任ヲ敵ニ歸セシムルニ在リ

戰時外交ハ對敵國外交及對中立國外交並對同盟國外交ノ三種ニ區分スルヲ得ヘ  
 シ

對敵國外交ノ主眼トスル所ハ我カ陸海空軍並其他ノ諸機關ノ戰爭行動ニ依リテ  
 得タル成果ヲ全收シ成ルヘク速ニ我カ所望ノ條件ノ下ニ平和ヲ招來シ戰爭目的  
 ノ完全ナル達成ニ努力スルニ在リ戰爭ノ目的トスル所ハ戰爭其物ニアラスシテ  
 我對外要求貫徹ニ在ルヤ論ヲ俟タサル所ニシテ成ルヘク速ニ且最小ノ犠牲ヲ以  
 テ之ヲ貫徹達成スルヲ得ハ是レ最モ有利ナリ而シテ國家ノ戰爭行動ニ因ル成果  
 ヲ適時收穫シ彼上ノ目的ヲ達成スヘキモノ實ニ外交ノ任タラスンハアラス唯熟  
 セサル成果ヲ過早ニ收穫セントスルノ愚ヲ慎ムヘキノミ動員下令ト共ニ戰爭其

物カ本來ノ目的物トナリ戰略行爲止ミタル後始メテ政略再ヒ作用スル稱スル者  
 ノ如キハ戰爭カ他ノ手段ヲ以テスル政治ノ繼續ナルコトヲ解モス戰爭及軍隊ハ  
 唯軍ニ政治ニ使用セラルル一手段ニ過キサコトヲ辨ヘサルノ罪ニ坐スルモノ  
 ナリ「ピスマーク」曰ク「參謀本部カ予ニ向ヒ使用シ且軍事學トシテ習得シタリト稱  
 スル學理ハ統帥部カ平和ヲ結フヘキ時來レリト判斷シタル時外務大臣ハ始テ發  
 言スルコトヲ得ト稱ス然レトモ戰爭ヲ交フル國家ハ常ニ戰場ノミナラス他ノ方  
 面ニモ頭ヲ廻ラシ在ル必要アリ統帥部ノ任務ハ敵兵力ノ殲滅ニ在リ然レトモ戰  
 争ノ目的ハ國家ノ政策ニ必要ナル條件ノ下ニ平和ヲ獲得スルニ在リ」ト蓋シ至言  
 ト謂フヘシ

對中立國外交ノ要ハ成ルヘク之ヲ吸引シテ我ニ與セシメ少クモ我ニ對シ好意ノ  
 中立ヲ恪守セシメ我カ物資軍需ノ補給資金ノ調達諜報宣傳等ノ利便ヲ得ルニ在  
 リ之カ爲平時ヨリ財政經濟及文化上密接ナル關係ヲ保チ且戰時之ニ對スル宣傳  
 ノ利便ヲ有シ要スレハ武力的脅威ヲ與ヘ得ルヲ可トス

戰時對同盟國外交指導ノ主眼トスル所ハ之ヲシテ忠實且熱心ニ同盟ノ義務ヲ遂

行セシメ全力ヲ盡シテ共同ノ敵ニ對シ交戦セシムルト共ニ其利益ノ壟斷ヲ防止シ戰後ニ於ケル我カ獲得物ヲ確保スルニ在リ抑、最小ノ努力ヲ以テ最大ノ利益ヲ得ントスルコトハ聯合軍ニ於テ特ニ甚シク成ルヘク自國ノ國力ヲ愛惜使用シ同盟國國民ノ努力及其資源ヲ利用シ成ルヘク多クノ利益ヲ獲得セント努ムルハ各國共通ノ心理ニ屬シ聯合軍ノ統帥、獲得セル領土及利權ノ處分、資源ノ融通等ニ關シ相互ノ扞格軋轢ヲ生シ疑懼、猜疑、嫉妬、不和等ノ續出スルコト古今ノ歴史ノ證明スル所ニシテ世界大戰間ニ於ケル協商側同盟側共ニ此弊害ヨリ免ルル能ハサリシハ世人ノ記憶ニ尙新ナル所ナリトス

聯合シテ戰爭ニ從事スル以上共通ナル戰爭目的ノ存在スルハ必然ナリト雖各國ノ戰爭目的ハ常ニ必スシモ全然一致スルモノニアラス或ハ各自ノ利益ヲ敵ヨリ奪ハント欲シ共同ノ戰爭ニ從事スルコト千九百十二年第一巴爾幹戰爭ノ如キアリ又一國カ他國ノ一定ノ利益ヲ壟斷スルヲ妨クル目的ヲ以テ強テ他國ノ聯合ニ割リ込ミタル實例稀ナリトセス吾人ハ最近シベリアニ對スル共同出兵ニ於テ之ヲ經驗シタリ

同盟國ニ對スル外交ハ中立國ニ對スル場合ト同シク寬嚴宜シキヲ得ルコト緊要ニシテ嚴ニ失センカ途ニ反目乖離ヲ來シ寬ニ過キンカ勞セスンテ利益ヲ壟斷セラルル虞尠カラス乃チ對同盟國外交ノ決シテ容易ニ非サルヲ知ルヲ得ヘシ

## 第二節 開戦前ニ於ケル外交

一國ノ戰爭準備トシテ外交上ノ準備ノ甚タ重要ナルモノナルコトハ既ニ前章ニ於テ述ヘタル所ニシテ苟モ此準備無ク輕舉ニ開戦ヲ敢テセンカ勝算甚タ疑ハシト言ハサルヘカラス蓋シ方今豫想敵國ニ對スル調査研究ハ各國ノ大ニ努力スル所ニシテ且其方法モ亦大ニ進歩シアルヲ以テ豫想敵國ノ實力ニ對スル判斷ノ如キモ既往ニ於ケルカ如ク大ナル誤算ニ陥ルコト尠カルヘク勝利ノ希望ヲ懷イテ起チタル兩交戦國ノ勝算ハ理論上大ナル遲延ナカルヘク其勢力ノ均衡ヲ破ルモノハ實ニ第三國ノ直接間接ノ援助ニ在ル場合多カルヘケレハナリ現ニ歐洲大戰ニ於ケル交戦兩國體ノ實力均衡ヲ破リ勝敗ヲ決シタルモノハ米國ノ參戰ナルコト世人ノ知ル所ノ如シ

之ニ反シ既ニ外交上ノ準備成リ有利ナル國際的地位ニ在リテ開戦センカ正ニ戰勝ノ第一歩ニ入リタルモノト言フモ過言ニアラス左ニ若干ノ史例ヲ引證シ外交上ノ戰爭準備ノ如何ニ重要ナルモノナルカヲ立證セントス

千八百六年ニ於ケル普國ハ風雲既ニ急ヲ告ケ「ナポレオン」一世軍ノ侵襲ハ單ニ時日ノ問題タルニ過キサリシニ拘ラス尙戰爭ヲ避ケ得ヘシト信シ速ニ英露兩國ト交渉シ條約ヲ締結シテ其援助ヲ確保スルコトヲ爲サヌ遲クモ千八百六年九月中ニ倫敦ニ於テ締結スヘキ條約ヲ「ハイエナ」ニ於ケル大敗戰ノ後即チ十一月「オトスト」プロイセンニ於テ始メテ其締結交渉ヲ開始シ千八百七年一月其成立ヲ見タルモ既ニ十日ノ菊ト爲レリ露國トノ交渉モ亦時機ヲ失シ爲ニ千八百六年十一月中旬ニハ「オーデル」河畔ニ到達シ得ヘキ露國ノ援軍モ實際ニ於テハ十一月始メテ國境ヲ越エ前進シタルニ過キス尙「ヘツセン」ニ對スル外交軟弱ナリシ結果其軍隊ヲ戰爭ニ參加セシムルコト能ハス「サクソニー」軍隊ノ一部ハ之ヲ味方トシテ吸引スルヲ得タリト雖條約ノ成立遲レタルヲ以テ其軍隊ノ會戰地到著ハ數日ノ遲延ヲ見タリ

前記外交上ノ不準備ハ軍事の準備ノ大缺陷ト相俟チテ遂ニ普國ノ大慘敗ヲ招來シタルモノニシテ其根本原因ハ即チ未然ニ大局ノ推移ヲ洞察達觀スルノ明ヲ缺キ從テ外交方針ノ確立セサリシニ在ルヤ論ヲ俟タサル所ナリトス

千八百七十年ニ於ケル佛國ハ彼我ノ實力ニ關スル判斷ヲ誤リ且伊太利、埃太利ト確實ナル條約ヲ締結シ其援助ヲ確保スルコトヲ爲サヌ伊太利來リ與スヘシ埃太利亦來リ投スヘシテ「フ」單ナル空想ニ依頼シテ過早ニ開戦ヲ敢テシタル結果愈、戰爭ト爲ルヤ事悉ク其豫期ト違ヒ彼ノ大敗北ヲ見ルニ至リタルハ世人ノ普ク知ル所タリ

世界大戰ニ於ケル中央同盟側敗北ノ一遠因モ亦其開戦前ニ於ケル外交上ノ準備ノ不十分ナリシニ在リト言フヲ得ヘキニ似タリ彼ノ千九百十四年ニ於ケル獨埃ノ國際的地位ハ決シテ樂觀ヲ許ササルモノアリ即チ土耳其ハ既ニ疲弊シ伊太利ノ頼ムヘカラサルハ千九百十二年同國參謀本部カ「ライン」上流地方ニ對スル其第三軍(五軍團ヲ基幹トス)ノ派遣ヲ拒絕シタル以來殆ント明白トナリ羅馬尼トノ間ニハ密約アリト雖信賴スルニ足ラス是ニ於テカ其國運ヲ賭スル大戰爭ヲ決行ス

ル爲ニハ極力外交上ノ準備ニ意ヲ須ヒ國際關係ノ改善ニ努力シ先ツ「アンタント」ノ政略的包圍ヲ突破スルノ必要アリシナリ然ルニ偶、千九百十四年夏ノ危機ニ際シ露佛英國民ノ心理ヲ誤解シ自重自制ノ足ラサリシ爲遂ニ不本意ナル大戰ヲ惹起シ大戰ノ元兇トシテ目セララルニ至リ益、其國際的地位ヲ不利ニ陥ラシメ世界ヲ舉ケテ敵トシタル事實其敗戦ノ根本原因タリト言フヲ得ヘシ

未然ニ戰爭ノ避クヘカラサルヲ先見シ周匝ナル外交上ノ準備ヲ整ヘテ開戦シタルモノ多クハ戰捷ノ榮冠ヲ得タリ埃國女帝「マリヤ、テレサ」ノ普魯西ニ對スル復讐ヲ企圖スルヤ先ツ露國女帝「エリザベタ」索遜選帝侯「アウグスト」三世ヲ誘ヒテ對普同盟ヲ締結シ且佛國及瑞典ヲモ此同盟ニ加入セシメ遂ニ機ノ熟スルヲ見テ普國ト開戦シ大ニ「フリードリッヒ」大王ノ軍隊ヲ擊破シ大捷ヲ收メタルハ史上ニ有名ナル事實ナリトス

「サルヂニア」カ伊太利ノ獨立統一ノ大業ヲ成就スル爲埃國ト一戦スルノ必要ヲ看破スルヤ賢相「カーブル」ハ先ツ其第一準備トシテ英佛聯合軍ヲ援ケ「クリミア」戰爭ニ參加シ「サルヂニア」ノ國際的地位ヲ高メ次ニ千八百五十八年「ナポレオン」三世ト

「プロンビエル」ニ會合シ伊太利ニ對スル軍事的援助ヲ約セシメ機ノ熟スルヲ待チテ埃國ニ對シ開戦シ「マジエンタ」ソルフェリノ「會戰」ニ於テ大ニ埃軍ヲ破リ伊國統一ノ基礎ヲ作りタルハ世人ノ知ル所ノ如シ若シ夫レ「ビスマーク」ニ至リテハ最も機敏ニ政略的各個擊破ヲ策シ大成功ヲ博シタル第一人ニシテ縱ヒ其成功ノ一半ハ對者ノ庸劣ニ負フ所鮮少ナラサルヘシト雖又彼カ炯眼遠識ニ因ラスンハアラス普魯西カ獨逸統一ノ大業ヲ完成セントスルヤ彼ハ先ツ其第一著トシテ互ニ敵視セル埃國ト協力シテ抹戰爭ヲ實行シテ從來丁抹ノ支配下ニ在リシ同族ヲ併セ次ニ埃國トノ戰爭ノ必要ヲ察スルヤ千八百六十五年八月「ナポレオン」三世ト「ピアリツ」ニ會合シ利ヲ以テ佛國ヲ欺キ將ニ來ルヘキ戰爭ニ對スル中立ヲ約セシメ又千八百六十六年四月伊太利ト攻守同盟ヲ締結シ機ヲ見テ埃國ト開戦シ千八百六十六年七月「ケーニッヒグレーツ」ニ於テ埃軍ヲ擊破スルヤ直ニ今日ノ敵ト握手シテ明日ノ敵ニ備ヘ千八百七十年遂ニ佛國ト開戦シテ之ヲ破リ遂ニ獨逸統一ノ大業ヲ成就シタリ

英國ノ「ナポレオン」一世ニ對スル及最近ノ獨逸ニ對スル外交ハ即チ政略的包圍ヲ

以テ成功シタルノ實例ニシテ多年ノ苦心經營ノ效空シカラス結局最後ノ勝利ニ到達シ得タルハ偉大ナル外交上ノ事績タルヲ失ハス

抑、敵國ニ對スル大規模ナル戰略的包圍ハ政略的包圍ヨリ導カルルヲ自然トシ大規模ナル各個擊破ハ先ツ政略的各個擊破ヲ行フヲ以テ先要ト爲ス世界大戰以前ニ於ケル獨逸當局ノ如キハ單ニ戰略的各個擊破ニノミ專念シ政略的各個擊破ノ大著眼ヲ缺キタルノ憾無クンハアラス

一國ノ戰爭指導計畫ト之ニ基ク外交上ノ準備トハ最モ緊密ナル關係ニ在ルヲ要シ外交上ノ戰爭準備ハ一國ノ戰爭指導ノ大方針ニ適應セサルヘカラス加之外交上ノ具體的戰爭準備ハ國軍ノ作戰方針作戰方針ハ軍事的且政略的考慮ノ下ニ策定セラルヘキモノナリニ基キ周密ニ準備セラルルコト必要ナリトス世界大戰前獨逸統帥部ハ其ノ作戰計畫ニ於テ白耳義ヲ通過シ佛國ニ進襲スル如ク計畫シ置キタルニ拘ラス外務省ハ白耳義問題ニ關シ全ク通報ヲ受クルコトナク又之ニ關スル參謀本部ノ處置ヲ強テ知ラサランコトヲ努メタリト稱セラルルV. Echarstein(千九百二年頃ノ倫敦駐在獨逸大使)ハ此重要ナル問題カ政府ト參謀本部トノ間ニ

全ク眞面目ニ討議セラレタルコトナキヲ信シテ疑ハスト主張ス其眞否ハ尙研究ノ餘地アルヘキモ開戰當時白耳義問題ニ關スル外交上ノ處置ニ關シ何等準備無カリシコトハ事實ナルカ如ク千九百十四年八月二日白耳義ニ與ヘタル最後通牒ハ參謀總長「モルトケ」ノ起案セルモノニ基ケリト云フ又「チルビツ」ノ記スル所ニ依レハ軍令部ノ立案セル海軍作戰計畫ノ如キモ陸軍ト豫メ打合セヲ行ハスシテ策定セラレ海相ニ對シテモ秘密ニセラレアリシカ如シ

政略戰略ノ協調ノ極メテ必要事タルコトハ既ニ述ヘタル所ニシテ此兩者ノ協調ハ既ニ戰爭準備ニ於テ始マリ戰爭間ヲ通シ尙平和交渉ノ時機ニ於テモ維持セラレサルヘカラス然ルニ獨逸カ既ニ開戰前ヨリ此兩者ノ協調宜シキヲ得サリシコトハ即チ戰役間ヲ通シ兩者ノ關係ノ圓滿ニ收マラサリシ所以ニシテ又其敗戰ノ一原因タラスンハアラス此ノ如ク觀シ來レハ大戰前英佛兩國ニ存在セシ國防會議ノ如キ機關ヲ必要トセサルヤ否ヤノ疑問ノ生スルハ必然ナリ然レトモ既ニ前編第五章ニ於テ述ヘタル如ク相互ノ協調ハ半ハ人ニ關シ半ハ制度ニ關スルモノナルコトヲ記セサルヘカラス

戰爭ノ準備トシテ先ツ國際的有利ナル地位ノ成形ヲ勉ムルノ必要ナルコト彼上ノ如ク大戰爭ノ準備ノ決シテ容易ナラサルコトヲ看取シ得ヘシ突發的事變ノ爲ニ眩惑逆上シ何等周匝ナル外交上ノ準備無クシテ開戦スルカ如キハ最モ戒ムヘキ事ニ屬シ大國民戰ヲ實行セントスル場合ニ於テ特ニ然リトス

一國ノ有利ナル國際的ノ地位ヲ作ランカ爲ニハ國家ノ實力及國際信用ヲ經トシ外交ノ妙ヲ緯トシ兩者相俟テ其目的ノ達成ヲ努メサルヘカラス此際各國民間ノ政治的、經濟的、社會的及文化的關係ヲ審ニシ各國ノ國情就中其國民心理ヲ如實ニ正解シ未然ニ國際政局ノ推移ヲ先見スルコトハ外交ノ妙ヲ發揮スル基礎的條件ニシテ此ノ如クニシテ敏活ニ好機ヲ捕捉シ機宜ニ適スル外交的措置ヲ爲スヲ得ヘシ而シテ機宜ニ適スル對内對外宣傳ヲ行ヒ其成功ヲ確實ニスルコト亦緊要ニシテ内外ニ於テ我カ欲スル輿論ヲ作興シ得ハ既ニ外交成功ノ第一歩ニ入りタリト稱スルヲ得ヘシ

露骨且躁急ナル外交的行爲ハ容易ニ其肚裏ヲ見透カサレ却テ對者ニ乘セラレ又ハ翻弄セララルルカ或ハ其反抗心ヲ挑發スルノ虞アルヲ以テ悠揚迫ラス而モ著々

トシテ堅實ナル歩武ヲ進ムルヲ必要トス之カ爲ニハ遠大周匝ナル計畫ヲ有シ確乎タル大方針ノ確立シアルコト最モ肝要ナリトス

次ニ開戦前ニ於ケル外交ニ於テ重要ナルハ外交斷絶ノ時機ヲシテ能ク我カ軍事的準備ニ適應セシムルニ在リ換言スレハ我ニ最好都合ナル時機ニ於テ外交ノ破裂スル如ク努力スルヲ要ス是カ爲ニハ自主的外交ヲ必要トシ追隨ノ不可ナルヤ論ヲ俟タサル所ナリト雖表面追隨ヲ裝ヒ内實自主タルコトハ外交術ノ要諦タルコトヲ忘ルヘカラス

機ヲ失セス戰爭ヲ準備シ適當ノ時機ヲ捉ヘテ開戦センカ爲ニハ和戰ヲ決スヘキ限界ヲ考定シ對手國ノ真意ヲ看破スルノ明無カルヘカラス詳言スレハ國家ノ其國運ノ開展及國民生活ノ保障ノ爲ニ必要ナル政治的、經濟的並文化的對外要求ノ最少限度ヲ考定シ和戰ノ限界ヲ決定シ置キ對手國ハ此最少限度ノ要求ヲ容ルルヤ否ヤヲ迅速適確ニ判斷スルコト肝要ナリ是カ爲ニハ對手國ノ國情就中其政治、經濟文化的利害ノ關スル所ヲ究メ其國民心理ニ精通シ且輿論ノ趨向政府當局ノ人物及是等ノ人物ニ影響ヲ及ホス内外諸勢力等ヲ注視スルコト極メテ緊要ナリ



トス

國運ヲ賭スルモ尙其貫徹ヲ期スヘキ政治、經濟、文化的對外要求ノ最少限度ハ一國ノ國是ニ基キテ決定セラルヘキモノニシテ此事カ戰爭準備ノ重要ナル一事項タルコトハ既ニ前章ニ於テ述ヘタル所ナリ而シテ此外外交ノ窮極タル對外要求ハ須ラク我カ實力及四圍ノ情勢ニ適應シ(換言スレハ實現ノ可能性確實)且戰爭ヨリ生スル犧牲ヲ償ヒ得ルモノナラサルヘカラス然ラサレハ縱ヒ其要求ヲ貫徹スルモ國家ハ結局戰爭ニ依リテ得ル所其失フ所ニ及ハス戰爭ノ爲却テ大損失ヲ爲スコトトナルヘケレハナリ但シ茲ニ得失ト稱スルハ單ニ物質的得失ノミヲ意味スルモノニアラス精神物質兩方面合計ノ得失ナルコト勿論ナリトス是レ戰爭ノ博奕ニ似テ非ナル所以タラスンハアラス

繁爭問題ノ輕重戰爭ニ因ル得失等ヲ慎重周密ニ比較考量シ戰爭ヲ交フルヲ絕對ニ不利トスル國家又ハ少クモ某期間開戦ヲ避クヘキ國家ニ對シテハ此根本方針ノ下ニ其外交ヲ指導セサルヘカラス然レトモ我カ眞意ヲ輕忽過早ニ表白スルハ外交上必スシモ有利ナラサルヲ以テ時ニ假面ヲ必要トシ又ハ強硬ナル態度ヲ裝

フヲ必要トスルコトアルヘキヤ論ナキ所ナリ但シ千九百十四年夏ニ於テ露國ヲ威嚇シ事件ノ發展ヲ單ニ塊塞間ニ局限セント欲シタル獨塊ノ強硬ナル態度ハ其豫期ニ反シ却テ不本意ナル大戰ヲ誘發シタルコトハ注目ニ値ス

既ニ外交上ノ危機ニ入ルヤ彼我當局及彼我國民ノ神經ハ極メテ銳敏ト爲リ日常ノ瑣事モ重大ナル結果ヲ招來シ過早不利ナル開戦ト爲ルコト無シトセス是ヲ以テ當局及國民共ニ自重自制シ所謂滿ヲ持シテ發セサルコト最モ肝要ナリトス即チ國民的修養訓練ノ必要ナルト共ニ確實ニ國民ヲ掌握シ輿論ヲ指導シ得ヘキ堅固強力ナル政府ノ必要ナル所以ナリ

開戦ノ場合戰爭開始ノ責任ヲ敵ニ歸セシムル如ク外交ヲ指導スルコトハ極メテ必要ニシテ之カ爲ニハ豫メ周匝緻密ナル用意ヲ要シ當局及國民ハ自重自制氷ノ如キ冷靜ト泰山ノ如キ沈著トヲ維持セサルヘカラス粗笨輕忽ノ言動カ思ハサル不覺ヲ取ルニ至ラシムルコトハ世界大戰明ニ之ヲ立證ス特ニ當局ハ深ク其言動ヲ慎ミ飽迄平和ヲ好愛追求スルノ誠意ヲ表現スルコトニ努メ敵ノ宣傳ニ利用セラルルカ如キ言辭ヲ發スヘカラス千九百十四年開戦劈頭ニ於ケル獨逸當局ノ不

用意不謹慎ナル暴言カ如何ニ敵國ノ宣傳ニ利用セラレタルカニ想到スレハ蓋シ思半ハニ過キン

開戦ノ機切迫スルモ國家ハ自重自制飽迄慎重ナル態度ヲ持スルコト必要ナリト雖自重ニ過キテ敵ニ機先ヲ制セラレサルノ用意ヲ缺クヘカラス此際受働ヲ裝ヒテ實ハ主動シ追隨スルカ如クニシテ却テ指導スルノ必要ハ特ニ切要ナリトス能ク此外外交上ノ要求ト軍事上ノ要求トヲ調和シ國家ノ大局ヨリ觀テ其根本目的ニ合スル如ク政局及戦局ヲ指導スル爲ニハ偉大ナル政治家ト卓拔ナル統帥者トヲ必要トシ政府ト軍部トハ協心戮力最モ緊密ニ連繫シ一體ト爲リテ國家全般ノ利益ノ爲ニ努力セサルヘカラス

國家ノ和戦ノ決ヲ爲スハ政略ノ任ナリトハ古キ原則ナリ「ブルーム」ハ「戰略論」ニ敍シテ曰ク「戰爭ハ政略ノ一手段ナレハ和戦ノ決ニ方リテ其斷案ヲ下スモノハ政略ナルコト明ナリ云々」ト唯此際軍事上ノ判斷ヲ缺クノ不可ナルノミ然ルニ千九百十四年夏獨逸ニ於テハ統帥部ハ軍略偏重ニ過キテ政略眼ヲ缺キ政府ハ無定見無氣力ニシテ「ビスマー」クノ如ク政略上ノ必要ヲ斷乎トシテ主張スルノ熱心ト勇氣

トヲ有セサリシモノノ如シ

露國ニ對スル宣戦ノ問題ニ關シテハ宰相「ベートマン」ハ其自ラ記スル所ニ依レハ「モルトケ」大將ノ意見ニ從ヒタリト云フ「ベートマン」曰ク「獨逸ノ存亡カ一ニ懸リテ軍事行動上ニ在ル時作戦ニ全責任ヲ有スル「モルトケ」カ立テタル全然決定的ノ論據ニ反對スルコト不可能ナリキ」ト然ルニ事ハ正ニ獨逸カ露國ニ對シ宣戦スヘキヤ否ヤヲ決スヘキ時機ニシテ作戦ヲ如何ニ指導スヘキヤヲ決スルノ時機ニアラス政略カ軍略ニ目的ヲ指示スヘキノ時機ニシテ軍略ノ自由行動ニ委スヘキ時機ニアラサリシナリ宰相ハ過早ニ政略ノ任務ヲ拋棄シタルモノト言フヘシ又佛國カ中立ヲ守リタル場合佛國ニ要求スヘキ事項トシテ「巴里駐劄獨逸大使」ニ與ヘラレタル訓令ハ軍事上ノ理由其主體ヲ爲セリ曰ク「獨逸ハ確乎タル擔保ヲ要ス軍事上ノ判斷ニ依レハ之カ爲戰爭間「ツール」及「ベルダン」ヲ占領シアルヲ要スト」即チ政略カ主人タルヘキ場合ニ既ニ軍略ノ膝下ニ屈シ其軍略カ如何ニ政略眼ヲ缺キタルカヲ知ルニ足ルヘシ縱ヒ佛國カ中立ヲ守ルヘキ意志ヲ有シタリト假定スルモ突然敍上ノ如キ要求ノ來ルアラシカ直ニ起チテ干戈ニ訴フヘキコトハ火ヲ賭ル

ヨリモ明瞭ナルニアラスヤ

白耳義ニ對スル最後通牒カ「モルトケ」ノ起案ニ基キタルモノナルコトハ前陳ノ如ク「ペー」トマン「ハ其」回想録ニ敘シテ曰ク「西方攻勢成功ノ爲ニハ軍事當局ノ意見ニ依レハ白耳義ノ通過必要ナリ茲ニ政治上及軍事上ノ利害全ク相衝突ス白耳義ニ對スル不正義ハ明瞭ナリ此不正義ノ爲蒙ル外交上ノ結果ハ容易ニ了解スルヲ得ヘシ「モルトケ」ト雖決シテ之ヲ知ラサリシニアラサルモ軍事上ノ必要ハ絶對ナリト述ヘタリ予ハ予ノ考ヲ彼ニ一致セシメサルヘカラサリキ」ト當時ハ既ニ露佛ト開戦シタル後ニシテ其作戰計畫ハ既ニ決定セラレアリシヲ以テ宰相カ統帥部ノ意見タル作戰ノ絶對的要求ニ聽從シタルハ正當ナリト言フヘシ然レトモ其作戰計畫カ餘リニ軍略偏重ニ過キテ政略的大著眼ヲ缺キ且政府殊ニ外務省ト何等ノ連絡無クシテ決定セラレタルコトニ就テハ幾多非難ノ餘地アルヘク若シ宰相カ開戦前作戰計畫ノ策定ニ參與シタリトセハ政路上ノ見地ニ基イテ軍部ヲ承服セシムルノ可ナリシヤ論ヲ俟タサル所ナリトス

國家カ開戦ニ決スル迄ハ政略主ニシテ戰略ハ未タ其權利ヲ振フノ時機ニアラス

此際主トシテ活動スヘキモノハ外交當局ニシテ軍事當局ノ活動範圍ハ未タ廣カラサルコト勿論ナリト雖軍事當局モ亦應分ノ活動ヲ行ヒ國家ヲシテ開戦ノ機ヲ誤ラサラシメ且軍事的準備ヲ外交ノ推移ニ適應セシムルコトヲ努メサルヘカラス」

世界大戰前埃匈國軍ハ單ニ「セルビア」ノミヲ敵トスル場合ト露國及「セルビア」ヲ敵トスル場合トニ應スル爲ニ二個ノ作戰計畫ヲ有シタリシカ千九百十四年夏外交當局ハ戰爭ヲ埃塞間ニ局限シ得ヘク露國ハ蹶起セサルモノト判斷シ統帥部ハ此外務當局ノ判斷ニ基キ軍ニ塞國ノミヲ敵トスル場合ノ動員並集中ヲ實施シタリ然ルニ露國ノ出處埃匈外務當局ノ判斷ヲ裏切り遂ニ劍ヲ執ツテ起チタル爲茲ニ作戰遂行上ニ思ハサル支障ヲ生シ對露作戰ノ爲「ガリシヤ」ニ輸送セラレヘキ第二軍ノ如キハ既ニ「セルビア」國境ニ集中中ニシテ爾後該軍ヲ「ガリシヤ」ニ轉送スル爲多大ノ困難ニ遭遇シタルハ當時ノ參謀總長「コンラード」元帥ノ明記スル所ナリ此ノ如キハ其責埃匈外交當局ニ在ルカ如キモ統帥部亦其責ヲ免レサルハ明白ニシテ特ニ其軍事謀報機關ノ一大失策ナリト言ハサルヘカラス以上ノ事實ニ鑑ルモ開戦ノ機切迫セル場合如何ニ外交當局ト軍事當局トノ一致協力カ必要ナルカヲ

認知シ得ヘシ

以上陳ヘタル所ハ主トシテ戰爭ノ主體ト爲ルヘキ國家ノ外交指導ニ關スト雖前記ノ諸原則ハ隨伴的ニ參戰スル國家例ヘハ世界大戰ニ於ケル日本、伊太利、羅馬尼、勃牙利、土耳其等ノ如キ境遇ニ在ル國家ノ外交指導ニ對シテモ亦之ヲ適用スルヲ得ヘシ

他ノ強大國ニ隨伴シテ參戰セントスル場合ニ於テハ特ニ豫メ締結シタル條約ノ拘束ヲ受ケサル限リ飽迄行動ノ自由ヲ保留スルコト緊要ニシテ徐ロニ戰局ノ推移發展ヲ監視シ明確ニ其前途ヲ判斷シ得ル迄ハ和戰兩様ノ準備ニ在リテ參戰條件ノ交渉ヲ行ヒ參戰後ニ於ケル確實ナル援助及戰後享有シ得ヘキ利益ヲ確實ニ約束シタル後機ヲ見テ參戰ヲ決行スルヲ可トス

縱ヒ他ノ強大國ト隨伴的ニ參戰スル場合ト雖參戰ハ民族ノ使命及國運ノ開展ト直接ノ關係ヲ有シ且其名正シカラサルヘカラス然レトモ此種ノ戰爭カ國民ノ實生活及民族ノ興亡ト直接ノ關係ヲ有セサルヘキコトハ分明ナリ從テ國民ニ國家ノ戰爭目的ヲ徹底的ニ理解セシメ輿論ヲ作興シ敵愾心ヲ勃起セシムル爲ニハ多

大ノ時日ト努力トヲ要スヘク最近ノ西比利亞出兵ハ吾人ニ此間ノ消息ヲ傳フルモノナリ

### 第三節 開戰後ニ於ケル外交

國家カ某國ニ對シ戰ヲ宣スルヤ茲ニ敵國ヲ生シ爾餘ノ外國ハ或ハ同盟國ト爲リ又ハ中立國ト爲ルヘク從テ開戰後ノ外交ハ次ノ三種ニ區分スルヲ得ヘシ對敵國外交、對中立國外交及對同盟國外交是ナリ

#### 一 對敵國外交

對敵國外交ノ主眼トスル所ハ我カ陸、海、空軍並其他ノ諸機關ノ戰爭行動ニ因リテ得タル成果ヲ全收シ成ルヘク速ニ我カ所望ノ條件ノ下ニ平和ヲ招來シ戰爭目的ノ完全ナル達成ニ努力スルニ在ルコト前陳ノ如シ戰爭ハ政治ノ手段ニシテ目的ニ非ス成ルヘク速ニ且最少ノ犠牲ヲ以テ其目的ヲ貫徹シ平和ヲ招來スルヲ得ハ是レ國家ノ最モ幸慶トスル所ナリト言フヘシ

彼上ノ目的ヲ達成スル爲外交及軍事當局ハ常ニ彼我ノ戰爭目的及戰爭行動ニ因ル成果ニ鑑ミ且嗣後ニ於ケル戰局ノ推移ヲ明察シ尙敵國民ノ心理ヲ正當ニ觀察判斷シ如何ナル時機ヲ捉ヘ如何ナル方法ヲ以テ如何ナル條件ノ下ニ講和交渉ヲ開始スヘキカヲ注視シ在ラサルヘカラス是カ爲外務當局ト國軍統帥部トハ最も密接ニ連繫協同シ形影相伴フノ實ヲ得ルコト極メテ緊要ナリトス千八百七十年戰役間「ビスマーク」ハ「ウイエルヘルム」國王ニ對シ屢大本營ト政府トノ間ノ情報交換及連絡ヲ一層緊密ニスヘキ希望ヲ申出テ曰ク「陛下ハ政治問題ニ觸ルルカ又ハ之ニ影響ヲ及ホスヘキ帷幄上奏ニハ臣ヲ立會ハシムヘキヲ命令シ且要スレハ外務大臣若ハ首相トシテ知ルヲ要スヘキ軍事上ノ情況ニ關シ參謀本部ニ質問シ得ルノ權限ヲ與ヘラレタシ」ト而シテ此意見ハ聽許セラレタリ（註、六十六年戰役ニ於テハ「ビスマーク」ハ常ニ軍事會議ニ列席ヲ許サレタレトモ普佛戰役ニ於テハ然ラス）世界大戰間ニ於ケル獨逸政府ハ自ラ進ンテ統帥部ト連絡シ軍事上ノ情況ヲ明ニスルノ點ニ於テ遺憾トスル所尠カラサリシモノノ如シ

如何ナル時機ニ於テ講和交渉ヲ開始スヘキヤノ解決ハ最も困難ナル問題ニシテ

從來敵ニ與ヘタル打擊ト戰局將來ノ推移トヲ適確ニ判斷シ敵國民就中其當局ノ心理ヲ如實ニ正解スルニアラサレハ好機ノ捕捉殆ント不可能ニ庶幾ク常ニ彼我ノ戰爭目的ヲ明確ニ爲シ置クコト亦頗ル要用ナリトス過早ナル講和交渉ノ開始ハ却テ敵ノ戰意ヲ強メテ平和ノ到來ヲシテ益、遲延セシムル場合無シトセス又其ノ時機ヲ失スレハ無益ニ國力ヲ消耗スルノ不利ニ陥ルコトアルヘシ

敵カ我カ欲スル條件ノ下ニ平和ヲ承認スルヤ否ヤハ敵ノ戰爭目的及敵ニ對ヘタル物質並心理的打擊ノ大小戰局ノ前途ニ對スル希望ノ如何ニ關ス而シテ先ツ敵ノ整備セル武力ヲ破摧スルコトハ即チ敵ノ心理ニ偉大ナル打擊ヲ與ヘ其戰局ノ前途ニ對スル希望ヲ失ハシメ遂ニ戰爭目的ヲ拋棄セシムル爲ニ最も有力ナル一手段ニシテ其他敵ノ繼戰意志ヲ打破シ我カ欲スル條件ノ下ニ平和ヲ強制スル爲有ユル方策ヲ用ヒサルヘカラス整備シタル敵ノ武力ヲ粉碎スルモ尙敵ニ講和ヲ強フルヲ得サリシ史例ノ乏シカラサルハ既ニ陳ヘタル所ニシテ又縱ヒ敵ノ整備セル武力ヲ破摧セサルモ他ノ方法ニ依リ敵ノ心理ニ大打撃ヲ與ヘ其戰勝ノ希望ヲ絶滅スルトキハ我カ欲スル平和ヲ招來スルヲ得ヘキ場合無キニアラス

之ヲ要スルニ講和交渉ヲ開始スル時機ハ敵カ我カ欲スル講和條件ヲ承認スルコト確實ナルヘキ場合ニシテ之ヲ適當ニ捕捉シ得ルヤ否ヤハ敵ノ國民及其當局ノ心理ヲ正當ニ理解シ得ルヤ否ヤニ關シ敵ノ心理ハ其戰爭目的及敵ニ與ヘタル打擊ノ如何ニ關スト言フヲ得ヘシ若シ敵ノ戰爭目的ニシテ深キ根柢ヲ有セス且餘リ重大ナラサルトキハ敵ニ與ヘタル打擊ノ爾ク甚大ナラスト雖能ク其繼續意志ヲ挫折シ平和ヲ強要スルヲ得ヘシ彼ノ普塊戰役及日露戰役ノ如キ即チ此例ナリ特ニ前者カ僅ニ「ケーニッヒグレート」ノ一會戰ヲ以テ終結シ奧國カ普國ノ課スル講和條件ヲ承諾シタル所以ハ即チ此戰役カ毫モ奧國ノ存亡ヲ賭スル戰ニアラサリシカ故ナリ而シテ日露戰役ニ於ケル露國カ尙其全力ヲ使用セサルニ先チ講和ニ調印シタルハ一面國內ノ政治的並社會的情勢ノ輕視スヘカラサルモノアリシニ因ルト雖又實ニ極東ニ於ケル戰爭カ露國ニ取リテ爾ク重大ナル意義ヲ有セス其日本ニ對スル戰爭目的カ深キ根柢ヲ有セサリシニ由ラスンハアラス

次ニ如何ナル方法ヲ以テ再ヒ敵國トノ外交折衝ヲ開始スヘキカヲ研究スヘシ抑、戰爭ハ交戰兩國相互間ノ信用ヲ殆ント破壊シ去ルノミナラス互ニ直接交渉ノ連

絡機關ヲ缺クヲ以テ戰時交戰兩國ノ外交談判ノ開始ハ頗ル困難ナルヤ論ヲ俟タル所ナリトス若シ兩交戰國ニ對シ相當ノ權威ヲ有スル中立國ノ存在スルトキハ兩者ノ媒介者調停者ト爲リ前陳ノ困難ヲ排除シ得ルノ見込無キニアラスト雖然ラサル場合ニ於テハ交戰國ノ一方カ全然戰意ヲ喪失スルカ又ハ兩交戰國カ困憊其極ニ達スルニアラサレハ平和交渉ヲ開始シ得サルコト屢ナリト言フヘシ歐洲大戰間米國ノ尙中立國タリシ時期ニ於テハ兩交戰國間ノ平和交渉ニ便宜ヲ有シタリシカ其後米國ノ參戰ト共ニ平和交渉ハ極メテ困難ニ陥リ遂ニ戰爭ハ中央同盟ノ瓦解獨逸ノ屈伏ニ至ル迄繼續シタルハ周知ノ事實ニシテ數強國對數強國戰爭ノ比較的永續スル原因ノ一ハ有力ナル調停國又ハ干涉國ヲ缺如スルニ因ルト言フモ過言ニアラス彼ノ三十年戰爭ノ如キ亦實ニ此例ニ屬ス

千八百七十七年戰ニ於ケル戰捷者タル露國カ比較的速ニ土耳其ノ講和提議ニ應シタルハ英國ノ干涉ノ來ルヘキコト明白ナリシカ故ニシテ日露戰爭、第一、第二、巴爾幹戰爭等ハ何レモ調停者ノ力ニ依リ兩交戰國何レモ尙交戰能力ヲ維持シツツ平和ヲ迎フルヲ得タリ

交戰國自ラノ發意ニ基ク講和提議ハ其ノ直接敵國ニ對シテ行フト將タ又中立國ヲ介シテ行フトニ論ナク却テ敵ノ志氣及自信力ヲ増大シ其繼戰意志ヲ鞏固ナラシムルノ結果ニ終ルコトナシトセス戰局ノ將來講和提議國ニ對シ不利ナルヘキ兆アルカ又ハ戰爭資源十分ナラサルカ或ハ國內ノ政局及人心ノ安定セサル傾向アル場合ニ於テ特ニ然リトス是ヲ以テ交戰國自ラノ發意ニ基ク講和提議ハ我國内ノ情況比較的有利ニシテ戰局我ニ有利ニ開展シツツアルカ又ハ開展セントスルノ時機ヲ捉ヘ實行スルヲ可トス

戰局ノ將來我ニ不利ナルヘキヲ明察達觀シ現ニ我ニ不利ナル幾多ノ兆アルニ拘ラス斷然講和ノ提議ヲ斷行セサルヘカラサルコトアルヘシ此場合ト雖或ハ局部的戰捷ノ機ヲ捉ヘ又ハ特ニ所謂政略的攻勢ヲ實行シテ有利ナル機會ヲ作り此機會ニ乘シテ講和ノ提議ヲ行フト可トス世界大戰間將來ノ戰局ノ樂觀スヘカラサルヲ悟リシ中央同盟側ハ千九百十六年十二月羅馬尼亞軍ヲ擊破シ其首都「ブカレスト」ヲ占領シタル機會ニ於テ講和ヲ提議シタルハ世間周知ノ事實ナリトス此ノ如キ場合ニ於テハ政府、議會、軍隊及一般國民ハ協心戮力一體ト爲リ毅然トシテ國

民的團結ノ鞏固ヲ立證シ堅確ナル意志ヲ表明セサルヘカラス此際成ルヘク直接敵國ニ講和ヲ提議スルコトヲ避ケ權威アル中立國ヲシテ其發意ニ基ク如クニ裝ヒテ調停ノ勞ヲ執ラシムルヲ有利トス

如何ナル場合ト雖確乎タル信念無クシテ行フ中途半端ノ講和ノ提議ハ百害アリテ一利ナク得ル所ハ單ニ我カ國民殊ニ軍隊ノ繼戰意志ヲ消磨衰頽セシメ且敵ノ自信力及志氣ヲ増大振作シ或ハ我ニ對スル猜疑誤解ノ念ヲ深カラシメ却テ講和ノ成立ヲ遅カラシムルニ過キス是ヲ以テ我カ欲スル如キ講和成立ノ條件ヲ作ラシカ爲戰爭ノ遂行ニ努力スルコトナク徒ラニ講和提議ニ腐心スルカ如キハ大ナル誤謬ナリト言フヘシ而シテ我カ欲スル如キ講和成立ノ爲最モ確實ナル條件ハ陸、海、空軍及其他ノ機關ノ戰爭行動ニ依リ敵ノ心理ニ大打撃ヲ加フルニ在ルコト吾人ノ屢陳ヘタル所ナリトス

世界大戰間獨逸軍部ノ講和ニ對スル態度カ果シテ當ヲ得タリシヤ否ヤニ就テハ幾多研究ノ餘地アルモノノ如キモ其政府ノ講和交渉ニ處スル亦宜シキヲ得タリト稱スヘカラス獨逸ノ禍ハ講和ニ關シ軍部、政府、議會及一般國民間ニ確乎不拔一

致セル定見ノ存在セサルニ在リタリ而シテ此一致ノ定見ノ缺如セルハ即チ獨逸國民ノ追求スル戰爭目的ノ一致セサルニ因由スルコト明白ナリトス

宰相「ベートマン」及議會多數派ノ唱道セル妥協平和論モ一應ノ理由ナキニアラス又軍部特ニ「ヒンデンブルグ」「ルーデンドルフ」將軍等ノ主張セル如ク大戰ノ性質ハ我斃ルルカ敵斃ルルカニ在ルヲ以テ毫モ講和ニ耳ヲ藉スコトナク全力ヲ盡シテ一意奮闘スヘシト言フ主義モ亦大ニ理由アリ故ニ右カ左カ何レカ一方ニ獨逸全國民ノ努力ヲ傾倒スルヲ得タリトセハ或ハ彼ノ如キ不幸ニ陥ラサリシヤモ知ルヘカラス然ルニ獨逸國民ノ講和ニ對スル觀念一致セス從テ其輿論亦統一ヲ失ヒ和ヲ欲スルカ如ク欲セサルカ如ク益敵ノ猜疑ノ念ト侮蔑ノ情トヲ增長シ講和交渉ヲシテ益困難ニ陥ラシメ内ニハ一般民衆ヲシテ其適從スル所ニ迷ハシメ當局ニ對スル疑惑ノ念ノ増大ト信賴ノ度ノ減少トハ惡宣傳ニ乘スヘキ各個ノ地盤ヲ與ヘ遂ニ國民心理ノ破綻ヲ見ルニ至リタルハ洵ニ故アリト言フヘシ

全國民ノ意見ヲ一致セシムルヲ得ハ最モ佳ナリ然レトモ若シ思想上ノ一致ヲ期シ得サル場合ニ於テハ制度ノ力ニ依リ思想上ノ不一致ノ戰爭遂行上ニ及ホス惡

影響ヲ局限スルコトヲ努メサルヘカラス

講和條件ハ我カ戰爭目的ヲ基礎トシ當時ノ實情ヲ參酌シテ決定スヘキモノトス戰爭目的カ開戦後ノ彼我ノ實力及國際離合ノ關係ニ應ジ進化スルノ妥當ナルコトニ就テハ既ニ前編ニ於テ述ヘタル所ニシテ講和條件モ亦戰爭目的ノ進化ニ隨伴スヘキハ當然ナリ若シ戰爭目的ニシテ確立セサランカ講和條件モ亦絶エス動搖シ平和交渉ヲ進捗セシムル能ハサルコトハ理ノ當ニ然ルヘキ所ナルヘシ

以上ハ自主的ニ講和ノ條件ヲ決定スヘキ場合ニ就テ述ヘタリト雖敗戦ノ場合ニ於テハ敵ノ課スル條件ニ屈伏スルノ已ムヲ得サルニ至ルヘキコトアルハ自然ニシテ此際我ト若干利害ヲ同ウスル第三國ノ干涉ヲ誘致シ敵ノ課スル條件ヲ緩和スルコト必要ニシテ之カ爲ニハ既ニ敵トノ講和交渉開始ニ先チ適當ニ當該第三國トノ交渉ヲ進メ置カサルヘカラス日清戰役ニ於ケル李鴻章ハ即チ此方法ニ因リテ一時的的成功ヲ贏チ得タリ

數國聯合ノ敵ニ對シテハ巧ニ其戰爭目的及其他ノ政略上ノ不一致ヲ洞察利用シ隨伴的ニ戰爭ニ從事スル敵ト單獨講和ヲ策シ其主體タル敵國ノ勢力ヲ減殺スル



コトヲ努ムヘシ但シ徒ラニ小策ヲ弄シ徹底ヲ缺クトキハ却テ敵ノ戒心ヲ促シ其  
 結束ヲ固ウスルノ虞アルコトニ注意セサルヘカラス世界大戰間ニ於ケル獨逸ノ  
 外交政策ノ如キ多少此憾ナシトセサルカ如シ

## 一 對中立國外交

中立國ハ爲シ得レハ之ヲ我ニ與セシメ少クトモ我ニ對シ好意ノ中立ヲ維持シ我  
 カ外債ノ募集、物資ノ補給、諜報、宣傳等ノ爲利用シ得ルヲ要ス是ニ於テカ大戰ノ  
 場合彼我ニ重大ナル關係ヲ有スル中立國ニ於テハ忽チ彼我ノ外交戰、宣傳戰、經濟  
 戰等ノ惹起セラルヘキコト世界大戰ノ明示スル所ニシテ大戰前獨逸軍事當局ハ  
 歐洲大戰ノ際米國カ彼我情報ノ蒐集地ト爲ルヘキヲ豫想シ米獨間ノ通信ニ就テ  
 考慮スル所アリシハ事項事ニ似タリト雖當時ノ著眼トシテ賞讃ニ値スト言フヘ  
 シ中立國カ彼我何レニ傾クヘキカハ主トシテ其國民ト交戰兩國國民トノ政治、經濟、  
 文化的關係、感情等ニ關ス戰時我ニ隨伴セシメントスル外國ニ於テ平時成ルヘク  
 多クノ借金ヲ爲シ置クヲ有利トスルコトハ既ニ述ヘタル所ニシテ其他經濟的、文

化的關係ヲ密接ナラシメ係爭原因ト爲ルヘキ政治問題ヲ解決シ置クコト並之ニ  
 對スル宣傳ノ利便ヲ有スルコト亦必要ナリトス

政治、經濟、文化的關係及感情等ノ外戰時中立國ノ向背ヲ決スル重要ナル要素ハ交  
 戰國軍ノ軍事的成功ノ程度及當該中立國ニ對スル宣傳通信等ノ便否ナルコトヲ  
 關却スヘカラス我カ軍ノ軍事的成功ノ大ナルニ從ヒ中立國ニ對シ外交上ノ目的  
 ヲ達成シ政略上我ニ服從セシムルコト愈容易ナルハ自然ニシテ既往ノ戰役ニ於  
 テモ中立國ノ向背ヲ決スルコトカ重要ナル目的ノ一トシテ企圖セラレタル戰  
 稀ナリトセス千九百十五年協商國ノ企圖シタル「ダーダネル」作戰、同年獨逸ノ斷行  
 シタル對塞攻勢作戰ノ如キ即チ是ナリ

中立國ヲ我側ニ吸引スル爲宣傳ノ重要ナルハ世界大戰ノ明證スル所ニシテ當時  
 伊太利、羅馬尼、勃爾牙利、希臘等ニ於ケル彼我ノ宣傳戰ハ頗ル猛烈ニシテ就中「ロ  
 マ」ソフキヤ「ブカレスト」「アテネ」等ニ於テ最モ激甚ヲ極メ千九百十四年八月獨逸總  
 軍司令部總參謀長「コンラード」將軍ハ聯合側カ「ローマ」ニ於ケル新聞操縦ノ爲莫大  
 ナル黃白ヲ散布シツツアルヲ知リ外相ニ勸告シ敵ニ劣ラサル費用ヲ以テ宣傳ヲ

敢行スヘキヲ以テシタリ

態度疑ハシキ中立國ニ對シ萬一ノ場合ヲ顧慮シ豫メ國境要塞ニ戰備ヲ命シ所要ノ築城ヲ施ス等軍事的作業ヲ實施スヘキヤ又ハ是等ノ軍事的處置カ中立國國民ノ心理ニ及ホス惡影響ヲ慮リテ之ヲ遠慮スヘキヤハ頗ル困難ナル問題ニシテ世界大戰ノ勃發スルヤ埃匈國ハ正シク彼上ノ難問題ニ直面シタリ當時埃匈軍統帥部ニ於テハ伊太利國境ノ要塞ノ戰備ヲ嚴ニシ且所要ノ築城ヲ施シ住民ニ武裝セシムル等必要ナル軍事的處置ヲ斷行セントシタレトモ外相「ベルヒトード」伯ハ伊太利國民ノ惡感ヲ挑發センコトヲ恐レテ之ニ反對シタルノミナラス同外相ハ對「セルビア」戰ノ爲「アルバニア」軍ヲ編成中ナル「スパイク」大佐ニ對スル軍需品ノ輸送中止迄モ要求シ一意伊太利ノ機嫌ヲ損セサランコトヲ努メタリ兩者ノ當否ハ別問題トシテ戰時此ノ如キ事件ノ爲外交當局ト軍事當局トノ間ニ意志ノ扞格ヲ來スヘキコトアルニ注意セサルヘカラス

成ルヘク多クノ與國ヲ作り敵國ヲ包圍スルトキハ單ニ經濟的、軍事的の包圍ノ效果ヲ收メ得ルノミナラス思想戰ニ於テモ亦包圍ノ利益ヲ收得シ宣傳戰及外交戰ニ

於ケル勝利ヲ確實ナラシメ遂ニ政略的の包圍ヲ導クニ便ナリ世界大戰間ニ於ケル協商側ハ正ニ此ノ如クニシテ戰勝ノ途ヲ拓キタリ抑、政略的の包圍ハ縱ヒ何等ノ軍事的效果ヲ齎ササル場合ト雖彼我ノ國民ニ與フル心理的效果ハ實ニ侮ルヘカラスアルモノアルコトニ注意セサルヘカラス戰局彌久絶望ニ垂ントスル交戰國民ニ對シ特ニ然リ世界大戰間支那、暹羅等ノ對獨宣戰ノ如キ其軍事的效果ノ見ルヘキモノ無キハ明白ナリト雖交戰兩國國民並其他ノ中立國民ニ與ヘシ心理的影響ノ輕視スヘカラサルモノアリタルハ今日識者ノ首肯スル所ナリトス

中立國ハ雷ニ資金ノ調達、物資ノ補給、諜報、宣傳ノ根據地トシテ利用スルノ外尙之ヲ講和交渉ノ媒介者トシテ利用スルヲ要スルコトアリ何レノ場合ニ於テモ其國民ノ我ニ對スル感情ヲ良好ナラシムル如ク努力スルコト緊要ナリトス最近大戰間中央同盟側カ初メ米國ヲ介シテ講和交渉ヲ進捗セシメント欲セシカ其外交指導當ヲ得ス雷ニ其目的ヲ達成シ得サリシノミナラス遂ニ之ヲ敵トスルニ至リ敗戰ノ決定的一因ヲ作りタルハ世人ノ記憶ニ尙新ナル所ニシテ其對米外交ノ不遜無禮ニシテ結局大統領「ウイilson」ノ感情ヲ害シタル原因ノ一ハ從來米國民及「ウ

イルソン大統領ノ協商側ニ對スル偏頗ナル援助ニ憤慨シツツアリシ獨逸當局者ノ感情カ自然ニ對米外交上ニ反映シタル結果ナルコトハ「ヒンデンブルグ」及「ルト」デンドルフ將軍等ノ其「戦争回想録」ニ記スル所ニ依ルモ明白ナリ本問題ハ頗ル重大ニシテ研究ノ價值アリト信スルカ故ニ左ニ當時ノ真相ヲ略記セントス

獨逸政府ハ千九百十六年九月「ウイルソン」大統領ニ對シ講和斡旋ヲ懇請セシカ同年十一月「ウイルソン」大統領ノ調停者トシテ起タントスルノ企圖ヲ有スル旨ノ報ニ接セリ然ルニ大統領改選終了スルモ尙實現セサリシヲ以テ十二月十二日直接協商諸國ニ講和ヲ提議セリ

十二月十八日米國大統領ハ交戦諸國ニ對シ其戦争目的及要求條件ノ開示ヲ提議シ獨逸政府ハ十二月二十一日該通牒ヲ受領セシカ之ニ答ヘサル内即チ十二月二十六日協商諸國ニ對シ中立國ニ於テ其代表者ト會見シ講和ヲ議シタキ旨ヲ提議シ大ニ「ウイルソン」氏ノ面目ヲ踏ミツケタリ

十二月三十日協商諸國ハ斷然獨逸ノ提議ヲ拒絶スルノ通牒ヲ發ス千九百十七年一月一日獨逸政府ハ之ヲ受領シ「ブレス」ニ於テ御前會議ヲ開キ無制限潛航艇戦開

始ノ決心ヲ爲セリ

協商諸國ハ一月十二日「ウイルソン」氏ノ通牒ニ對スル回答ヲ送付シ其要求條件ヲ言明シタレトモ獨逸政府ハ未タ答ヘス一月十六日駐米大使「ベルンズドルフ」伯ニ對シ「獨逸政府ハ米國トノ國交ヲ斷絶スヘク要スレハ米國トノ開戦ヲ辭セサル」旨ヲ通報ス

是ニ於テカ「ベルンズドルフ」伯ハ外務大臣ニ電報シ「絶對必要ノ軍事的要求アルニアラサレハ無制限潛航艇戦ノ開始ヲ延期セラレタク米國大統領ハ總テノ國民ニ對シ平等ノ基礎上ニ平和ヲ實現スルノ可能ナルヲ信シ居ル」旨ヲ報告シタルヲ以テ外相ハ海相ニ對シ無制限潛航艇戦開始ヲ延期セラレンコトヲ請フ其後獨宰相及外相ノ言フ所ニ依レハ「ベルンズドルフ」伯トノ通信頗ル困難ニシテ通信文亦明瞭ヲ缺キタリト云フ

一月二十八日「ベルンズドルフ」伯ヨリ「ウイルソン」大統領カ公然講和仲介者タルヘキ意圖ヲ有スル旨ヲ報告シ且我具體的要求條件ヲ開示スヘキコトヲ懇懇シ來リタルヲ以テ一月二十九日宰相「ヴェーグマン」及外相「チンメルマン」ハ「ブレス」ニ赴キ

同地ニ御前會議開催セラレ同日宰相ハ駐米大使ニ獨逸ノ講和條件ヲ電報シ此條件ヲ「ウイールソン」ニ開示スルハ該電到著直後カ又ハ他日ノ機會ニ於テスヘキヲ訓電セリ

之ヨリ先キ獨逸ニ於テハ二月一日ヲ以テ無制限潛航艇戰ヲ開始スヘキヲ決シ居タリシカ其決心ハ飽迄變更セズ遂ニ米國トノ國交斷絶ヲ見ルニ至レリ  
以上ノ事實ニ徴スルモ獨逸當局ノ平和交渉ニ對スル誠意熱心ノ程度ヲ疑ハサルヲ得ス又縱ヒ米國民及其大統領ニ對シ反感ヲ有シ居タリトハ言ヘ其感情ヲ外交折衝ノ上ニ反映セシメタルカ如キハ其愚寧ロ憐愍ニ値スト言フヘシ其米國大統領ノ提議ニ答ヘサルニ先チ直接協商諸國ニ對シ其代表者ト會商センコトヲ提議シタルカ如キハ或ハ敵ノ眞意ヲ探ル目的ナルヤモ知レスト雖雷ニ外交上ノ儀禮ヲ失シ對者ノ感情ヲ損シタルノミナラス對獨猜疑心ヲ益増大セシメタルヤ疑ナキ所ナリトス

當時駐米大使ハ米國ヲ介シテ行フ講和交渉ニ對シ最モ熱心ニシテ且大ニ囑望シアリシカ如ク獨逸最高統帥部ハ平和提議ニハ贊成シタレトモ最初ヨリ其成否ニ對シ疑ノ眼ヲ以テ之ヲ迎ヘ從テ其熱心ノ程度比較的薄ク宰相「ベートマン」ハ兩者ノ間ヲ彷徨スルノミニシテ確乎タル信念ヲ有セザリシニ似タリ而シテ其結果ハ交戰兩團體間ノ唯一ノ橋梁ヲ輕々ニ破壊シ去リ當時宰相「ベートマン」ノ唱ヘタル「無制限潛航艇戰ノ開始ハ本戰爭ノ終結ヲシテ反テ長引カスルモノト覺悟セサルヘカラス」ノ言カ適中スルニ至レリ唯彼ニ「ビスマーク」ノ自信ト勇斷ト無カリシヲ惜ム

我軍事的成功疑ハシク勝算ハ却テ敵側ニ多キ時ハ對中立國外交ハ最モ緊要ニシテ此際極力第三國ノ敵側ニ與スルヲ防遏シ且要スレハ第三國ノ干涉ヲ招致スルコトヲ努ムヘシ殊ニ不利ナル戰況ニ於テ和ヲ請フノ已ムヲ得サル時ハ豫メ第三國ト交渉シ成ルヘク其干涉ヲ促シ以テ敵國ノ課スヘキ講和條件ノ緩和ヲ圖ルコト千八百七十七年露土戰役ニ於ケル土耳其古日清戰役ニ於ケル清國ノ如クナルヲ要ス之ヲ要スルニ戰時對中立國外交モ亦極メテ重大ニシテ外交當局ハ緊密ニ軍事當局ト協調ヲ保チ一致ノ努力ヲ以テ國家全般ノ目的ヲ達成スルコトヲ期セサルヘカラス千九百十四年八月埃匈國外務當局カ日本ト其外交關係ヲ斷絶セントスル

ノ決定ヲ爲スニ方リテハ總軍司令官ニ何等ノ協議ヲ爲ササリシモノノ如ク八月二十六日「コンラード」將軍ハ外相「ベルヒトード」伯ニ電報ヲ送リテ曰ク「此種重大ナル決定ヲ爲スニ方リテハ總軍司令官ト豫メ協議スルコトヲ考ヘサルヤ」ト蓋シ埃國ノ對日國交斷絶ハ「シベリア」露軍ノ歐洲戰場ヘノ西送ト大關係ヲ有スレハナリ

### 二 對同盟國外交

戰時對同盟國外交ノ決シテ容易ナラサルコトハ世界大戰間ニ於ケル獨逸ノ對埃國及對勃爾牙利外交並協商諸國間ノ外交ノ例ニ徴スルモ明白ナリ殊ニ其同盟國ニシテ實力不相當ノ名譽慾及利權慾ヲ有シ他力ヲ利用シテ只管自己ノ利益ヲ策スル極端ナル利己的國家ナルカ又ハ國內ノ政情安定セス對外交策絶エス動搖シ其國民ニシテ信義ノ觀念薄弱ナル國家ナルトキハ對同盟國外交ハ頗ル困難ナリトス

戰時對同盟國外交ニ於テ重要ナル問題ハ左ノ如シ

#### イ 聯合軍ノ統帥ニ關スル問題

ロ 占領地及獲得セル利權等ノ處分ニ關スル問題

ハ 物資及資金ノ融通補給ニ關スル問題

ニ 平和克復後ノ狀態ニ關スル問題(各國ノ享有スヘキ利益ノ問題)

最近大戰ニ於テハ協商側同盟側共ニ其聯合軍統帥問題ニ關シテハ幾多ノ難關ニ遭遇シ常ニ獨逸ニ指導セラレ獨逸ノ後ニ跟隨セルノ觀アリシ埃國モ事實ニ於テハ其軍ノ統帥ニ關シ屢々獨逸トノ間ニ軋轢ヲ生シ兵略上當然獨軍司令官ノ指揮下ニ入ルヘキ埃國軍隊モ千九百十六年夏頃迄ハ其實現ヲ見ル能ハス埃國最高統帥カ「プロデュー」以北ニ在ル埃國軍隊ヲ獨軍東方總司令官「ヒンデンブルグ」將軍ノ指揮下ニ置クコトヲ承諾シタルハ實ニ千九百十六年夏露國「ブルシロフ」軍ノ攻勢ニ因リ同年七月「プロデュー」ノ攻略セラレタル後ナリトス但シ「ヒンデンブルグ」元帥ハ獨逸最高統帥部ニ隸屬シ「ブリベツト」南方地域ニ在ル軍隊ノ統帥ニ關シテハ豫メ埃國總軍司令部ノ了解ヲ受クルヘキ約束ヲ爲セリ

全中央同盟軍ノ統一的統帥ニ關シテハ土耳其古ノ「エンベルバシヤ」及「ブルガリヤ」王等ハ獨逸皇帝親ヲ其任ニ當ルヘキコトヲ希望シタルモ埃國ノ同意ヲ得ルコト

困難ニシテ千九百十六年夏獨逸ハ其連絡將校「クラモン」中將ヲシテ左ノ提議ヲ爲サシメタリ

獨逸皇帝ハ統帥上共同事業ニ關シ統一指揮權ヲ執ル其機關ニハ獨逸參謀總長之ニ任ス

埃甸總軍司令官「フリードリッヒ」親王ハ之ニ同意シタレトモ參謀總長「コンラード」ハ斷乎トシテ之ニ反對シ直ニ皇帝ニ對シ辭職ヲ申出テタリ然ルニ皇帝「フランツ、ヨセフ」ハ「コンラード」ノ辭職ヲ聽許セス對案ヲ出シ交渉ヲ繼續スヘキヲ命セリ  
「ヒンデンブルグ」カ獨逸軍參謀總長ノ職ニ就クヤ更ニ左ノ協定案ヲ提議シ埃甸總軍司令部及同外務大臣之ニ同意シ千九百十六年九月六日「ヒンデンブルグ」「コンラード」共ニ其元首ノ委任ニ依リ署名シ勃國及土國亦之ニ調印シタリ

#### 中央同盟軍事協定案

一 獨逸皇帝ハ最高統帥權ヲ把持スルモ同盟國ノ其軍隊ニ對スル主權ヲ侵ス  
コトナシ獨逸皇帝ノ指揮權ハ統一的ニシテ全般ノ情況ニ必要ナル施設及重大ニシテ特ニ共同目標ニ對スル作戰ノ實行使用スヘキ兵力及命令關係ノ規

#### 正ニ制限ス

二 提議ハ各國統帥部之ヲ出タスヲ得ルモ其商議ハ獨逸最高統帥部之ヲ指導ス  
三 獨逸皇帝ノ訓令ハ獨逸野戰軍總參謀長之ヲ取扱フ  
四 鐵道及補給ハ同盟各國ノ特種事項タリトス  
右協定ノ成立ト共ニ獨逸間ニ於テハ「コンラード」將軍ノ努力ニ依リ左ノ密約成立セリ

一 獨逸皇帝ハ作戰ノ指導及凡テ統帥ニ關スル處置ヲ爲スニ際シ埃甸國ノ防衛ト其利益ヲ獨逸國家ノ其レト同様ニ尊重スルヲ原則トシテ行フノ義務ヲ有ス

二 埃甸國大本營ニシテ最高統帥部ノ提議ニ同意スルヲ得サルトキハ「ウキルヘルム」皇帝ハ「フランツ、ヨセフ」皇帝ト親シク協議セララルヘシ  
本協定ハ他ノ同盟國ニ對シテハ秘密トシ是等ノ諸國ヨリ同様ノ希望ノ出ツルヲ防止シタリ

協商側ニ於テモ千九百十六年頃ヨリ聯合軍統一作戰ノ必要ヲ痛感シ「ジョッフル」將

軍ノ如キ最モ熱心ニ其必要ヲ主張シ英首相「ロイドジョージ」亦聯合軍最高統帥部ノ設置ヲ提唱シタリト雖容易ニ此大問題ヲ解決スルニ至ラス千九百十七年十月「カポレット」ニ於ケル伊太利軍ノ大敗ニ驚キ協商聯合國ハ始メテ「ヴェルサイユ」高等軍事會議ヲ設立シ戰爭指導ニ關シ聯合各國軍ノ協調ニ任セシメタリト雖是レ單ニ「集會」ニ過キスシテ完全ナル統帥部ニアラス越エテ千九百十八年ニ入ルヤ獨軍掉尾ノ勇ヲ振ヒ西方戰場ニ決勝の大攻勢ヲ斷行スヘキコト明瞭ト爲リシニ拘ラス同年三月「ピカルヂ」地方ニ在リシ英軍カ大敗シ將ニ英佛兩軍カ分斷セラレントスルノ危機ニ際會スル迄ハ統一指揮問題ノ解決ヲ見ルニ至ラサルノミナラス此聯合軍ノ危機ヲ見テ英佛政府首腦カ「ドゥーラン」ニ會合シ決定シタル所ノモノハ「フオッシュ」將軍ニ與フルニ佛國戰場ニ於ケル英佛兩軍ノ作戰ヲ協調セシムヘキ任務ヲ以テシタルニ過キス「フオッシュ」將軍カ始メテ聯合軍總司令官ニ任命セラレシハ實ニ四月三日英米佛代表者ノ「ボーグエー」會議ナリトス

西方戰場ニ於ケル聯合軍ノ統帥ノ如キ戰理並實戰ノ明確ナル經驗カ統一指揮ノ切要ナルヲ明示スルニ拘ラス事實問題ノ解決ノ至難ナリシコト夫レ此ノ如シ豈

ニ鑑ミサルヘケンヤ

占領地及獲得セル利權ノ處分ニ關スル問題モ亦頗ル解決困難ナル問題ニシテ埃匈軍カ未タ攻勢ニ前進セサルニ先チ既ニ獨逸間ニ於テ波蘭處分ニ關シ論爭始マリ其後波蘭問題ニ就テハ獨逸當局共ニ其解決ニ苦ミ「ドブルヂャー」問題就中「チエルナヲーダ」コンスタンツァ「鐵道問題」ハ獨逸勃國間外交上ノ癥ト爲リ遂ニ勃國カ中央同盟ヨリ離脱スルノ一因トナリタリ

同盟國カ某重要地方ノ單獨占領又ハ某利權ヲ壟斷スルヲ防遏センカ爲特別ナル外交手段ヲ用フルヲ要スルコトアルヘク又時トシテハ戰略上ノ不利ヲ忍ブモ我軍隊ヲ分遣シ政略的利益ノ獲得ヲ圖ルヲ要スヘキ場合尠カラズ世界大戰間近東及「シベリア」方面ニ於テ此種ノ現象ヲ演出シタルハ世人ノ記憶ニ尙新ナル所ナリトス

同盟國相互ニ彼此不足ノ物資就中軍需及資金等ヲ融通補給スルノ必要ナルハ論ヲ俟タサル所ナリト雖本問題ハ事實頗ル困難ナル問題ニシテ戰局持久、物資軍需ノ益、窮乏ニ陥ル際ニ於テ特ニ然リトス大戰間匈牙利、勃爾牙利等ノ如キハ其豐富ナル食料ヲ同盟國ニ分割供給スルコトヲ惜ミタルニ拘ラス莫大ナル軍需ヲ獨逸

ニ請求シ其補給ヲ受ケタルハ周知ノ事實ニ屬ス  
 千九百十六年一月十九日獨、埃、匈、勃、土四箇國ハ「ドレスデン」ニ於テ經濟會議ヲ開キ  
 中歐製造品ヲ勃國及土耳其古ニ工業用原料品ヲ「ドナウ」諸州小亞細亞「メソポタミヤ」  
 ヨリ獨、埃、匈國ヘ輸入スル事ニ關シ熟議ヲ遂クルト共ニ曩ニ柏林及維納ニ於テ爲  
 シタル決議ニ基キ同盟諸國ハ豫メ其共同ノ經濟上ノ利益ヲ知リ且與國間特種經  
 濟關係ノ調和ヲ圖リ平和會議ノ際一致シテ其主張ヲ貫徹センカ爲戰爭終結前之  
 カ研究ヲ爲シ置クコトヲ議決シ尙柏林、維納「ドレスデン」ニ於テ爲シタル決議ヲ實  
 行スル爲各國代表者ヨリ成ル實行委員ヲ設置シ細部ノ問題ヲ研究セシメタリ  
 戰時同盟各國間ノ交易運輸ノ關係ヲ調整スル爲關稅問題鐵道河川ノ管理及使用  
 連絡等ニ關シ相互ノ協定ヲ要スル事項尠カラズ大戰間獨逸ハ埃、匈國ノ存在スル  
 爲巴爾幹諸國トノ交易ニ多大ノ不便ヲ感シ又勃、牙、利、カ、ベル、グ、ラ、ド「ソフィ  
 ヤ」コンスタンチノール「ボル」鐵道ヲ管理シタル爲獨逸土耳其古間ノ運輸交易上ノ不  
 利尠カラズ是ヲ以テ獨逸ハ「チエルナブーダ」コンスタンツア「鐵道ヲ飽ク迄其管  
 理下ニ置カント欲シ勃、牙、利トノ間ニ反目軋轢ヲ生シタルコト前陳ノ如シ

共同目的の達成ノ爲ニ同盟國ヨリ供給セラレタル軍需物資等ニ對スル支拂ヲ如何  
 ニスヘキカハ外交上ノ重要問題ニシテ大戰後歐米諸國ノ共ニ其解決ニ惱ミシ所  
 タリ豫メ明確ナル協定ヲ要スルハ勿論ナルヘシ  
 平和克復後同盟各國ノ獲得スヘキ利權ニ就テモ適時適當ノ機會ヲ捉ヘテ協定ヲ  
 爲ササルヘカラス世界大戰間協商諸國ハ千九百十五年倫敦秘密協約ニ於テ之ヲ  
 議定シタルハ世人ノ知ル所ノ如シ  
 聯合國ノ對「ナポレオン」一世戰爭ハ豫メ彼上ノ準備無クシテ實行セラレタル爲千  
 八百十四年九月維納ニ始マリシ聯合國會議ハ將ニ決裂セントシテ「ナポレオン」一  
 世ノ再舉ト爲リ再ヒ對奈翁一世戰爭開始セラレ又千九百十二年ノ第一巴爾幹戰  
 爭亦前陳ノ準備ヲ缺キタル結果其獲得物ノ分取ニ關シ同盟國相互間ニ戰爭ヲ惹  
 起シ第二巴爾幹戰爭ヲ見ルニ至レリ  
 要スルニ戰時對同盟國外交モ亦決シテ容易ナルモノニアラス聯合ヨリ生スル軋  
 轢ヲ除去シ共同目的達成ノ爲ニ忠實ニ努力セシメ而モ利益ノ壟斷ヲ防遏スル爲  
 ニハ多大ノ努力ヲ要スルコトヲ記セサルヘカラス「サルヂニア」ハ賢相「カブール」ノ



敏腕ニ依リ佛國ト同盟シ千八百五十九年「マジエンタ」ソルフエリノノ戰ニ於テ埃軍ヲ擊破シ他ノ諸小國モ亦來リ應シ伊太利統一ノ大業將ニ成ラントセシカ同盟者タル「ナポレオン」三世ハ俄ニ埃太利ト「ヴィラ」フランカニ於テ休戰ヲ約シタレハ明主「ヴィクトリア」エンマニエ「賢相」カブールモ如何トモスルコト能ハス伊國統一事業茲ニ大頓挫ヲ來スニ至リタリ世界大戰末期ニ於ケル獨埃ノ對勃爾牙利外交亦功ヲ奏セス遂ニ勃國ノ同盟離脱ト爲リ聯合國ハ其對露外交ニ於テ苦キ經驗ヲ嘗メタルコト周知ノ事實ニ屬ス

是ヲ以テ政府ハ常ニ同盟國內ニ於ケル民心ノ趨向、政治的勢力ノ消長並政局ノ推移ヲ監視シ陽ハニ内政ニ干渉スルコトナクシテ陰ニ之ヲ指導シ必要ナル援助ヲ與ヘ成ルヘク我ト主義方針ヲ同ウスル政府ヲシテ長ク存續セシメ且當該政派ノ勢力ノ維持増大ニ努力スルヲ可トス

大戰間勃國ノ「ラドスラフ」内閣瓦解シ「マリ」ノ「内閣」成立シタルニ拘ラス獨逸ハ無爲ニシテ自然ノ推移ニ放任シ爲ニ勃國ノ中央同盟離脱ノ時機ヲ早カラシメタルハ獨埃ノ對勃外交上ノ大失策タラスンハアラス但シ能ク大勢ノ趨ク所ヲ先見シ

適當ニ大局ノ推移ヲ判斷シ機ヲ失スルコトナク適宜ノ處置ヲ爲スニアラサレハ多大ノ努力モ遂ニ徒爾ニ歸スヘキコト大戰末期ニ於ケル聯合國ノ對露干渉ノ實驗ノ明示スル所タリトス

### 第三章 戰時内政政策

方今ノ戰爭ニ於ケル内政政策ノ重要ナルコト亦往日ノ比ニアラス直接ノ交戰外交ノ指導ト相並ンテ國家ノ戰爭事業中ノ重大ナルモノニシテ勝敗ノ重要ナル素因タルコト前陳ノ如ク現時ノ大國民戰ニ於テハ軍ノ交戰、外交及内政ノ指導ノ三拍子揃ヒテ遺憾ナキニアラスンハ戰爭終局ノ勝利得テ期スヘカラス

直接交戰ニ任スルハ軍隊ナリト雖此軍隊ヲ維持増強シ之ニ有形無形ノ支援ヲ與ヘ其活動力ヲ發揮セシメンカ爲ニハ内政ノ指導實施ノ宜シキヲ得ルヲ必要トスルヤ明白ニシテ方今ノ大國民軍ハ後方組織ノ安全ナルニ於テ始メテ活動力ヲ有シ且國內民衆ノ心理ヲ銳敏ニ感受シ其消長ハ直ニ軍精神ニ反映スルニ於テ特ニ然リトス

現時ノ戰爭ニ於テハ彼我共ニ敵國ノ内部ニ對シ有ユル破壊的行動ヲ逞ウスヘク其手段ハ一ニシテ足ラスト雖航空機ヲ利用シテ行フ破壊的行動各種ノ經濟的壓迫宣傳ヲ以テスル思想ノ攪亂間諜又ハ國內不逞ノ徒ヲ利用シテ行フ陰謀等ハ蓋シ其主要ナル方策タルヘシ交戰ニ從事スル國家ハ須ラク彼上ノ敵ノ破壊的行動ニ對シ嚴ニ備フルト同時ニ國力ヲ統一シ民心ヲ作興シテ最モ有效ニ國民ノ全能力ヲ發揮センコトヲ努メサルヘカラス

世界大戰ニ於ケル露國ト言ヒ獨逸奧匈國ト言ヒ何レモ先ツ國民ノ精神弛廢シ國內ノ秩序紊亂シテ軍後方ニ於ケル交戰組織破壞シ遂ニ野戰軍ノ敗戰又ハ崩解ト爲リ遂ニ繼戰能力ヲ失ヒタルコト周知ノ事實ニ屬ス

戰時內政ハ頗ル廣汎多岐ニシテ之ヲ詳述セントスルカ如キハ當ニ本論ノ目的ナラサルノミナラス吾人ノ能クスル所ニアラス本章ニ於テハ單ニ戰時特別ノ考慮ヲ要スル重大ナル內政事項ニ關シ之カ運用上ノ著眼點ヲ敘スルニ止メント欲ス而シテ戰時財政及經濟ハ戰時內政中頗ル重要ニシテ特別ノ考慮ヲ要スルモノナルカ故ニ章ヲ改メテ特ニ研究スヘシ

## 第一節 戰爭ノ遂行ト立憲政治

立憲政治ノ特色トスル所ハ國家主權ノ行使國民ノ權利義務ヲ規定セル憲法ヲ有シ此憲法ニ據リテ國政ヲ運用シ且國民ノ代表ト見做サルル國會カ立法ニ參與シ事實上行政ヲ監督スルコトニ在リテ立憲政治ノ在ル處必ス議會アリ議會ノ在ル處必ス政黨政派存在ス既ニ議會アリ政黨政派ノ存スル以上國政ニ關スル論議ノ縱橫ニ行ハルルハ當然ニシテ且政黨政派ノ對立競爭ノ現象ヲ生スルモノ亦自然ナリト言フヘシ立憲政治カ當代人間ノ進歩程度ヲ以テシテハ先ツ最モ妥當ナル政治形式タル事ハ否ムヘカラサル所ニ屬スト雖而モ未來永劫ニ互リ變更スヘカラサル理想的制度ナリヤ否ヤニ關シテハ何人ト雖斷言スルコト能ハサルハ明白ナリ蓋シ人間ハ絶エス進歩又ハ退歩シ人生ハ不斷ニ變動推移シツツアルモノニシテ制度ハ其人間ノ進歩又ハ退歩ノ程度ニ適應スルヲ自然ナリトスレハナリ抑立憲政治ニ於テ看過スヘカラサルハ此政治形式カ一ノ假定ニ立脚スルコトニシテ即チ議會カ國民ヲ代表シ此國民代表ト見做サルル機關ノ國政參與カ國民全

般ノ幸福ヲ招徠スヘシテフ假定即チ是ナリ

吾人ハ立憲政治既往ノ歴史ニ徴シ前述ノ假定カ果シテ正當ナリヤ否ヤニ關シ未  
タ斷案ヲ得サルモ兎ニ角今日ノ人間文化ノ程度ヲ以テシテハ立憲政治ニ優ルヘ  
キ他ノ政治形式ノ存在カ事實ニ於テ未タ立證セラレサル事タケハ明瞭ナリトス  
就中平時國政ノ運用ヲシテ穩健妥當ナラシメ過激ナル現狀打破ヲ回避スヘキ時  
代ニ於テ特ニ然リ唯問題ハ國家カ非常ニ際シ機ニ投シテ斷乎タル政策ヲ遂行セ  
ントスル場合立憲政治カ果シテ如何ナル關係ヲ有スルヤノ一事ニ存シ今暫ク既  
往ノ歴史ヲ討ネント欲ス

彼ノ普國ノ「ウイヘルム」老帝宰相「ビスマーク」等カ獨逸統一ノ大業ヲ企圖スルヤ  
内外ノ情勢上軍備大擴張ノ必要ヲ痛感シ將ニ其政策ヲ實行セントスルニ方リ茲  
ニ下院ト大衝突ヲ惹起シ政府ハ解散ニ繼クニ解散ヲ以テシ遂ニ一時憲法ノ中止  
案ヲ提出シタルコト憲法史上著名ナル事實ニシテ當時「ビスマーク」ハ斷言シテ曰  
ク「今日ノ事多數者ノ演說議論若ハ下院ノ投票等ニ因リテ決スヘキニアラス唯血  
ト鐵トニ由リテ決定センノミ」ト然ルニ國民ノ不平ハ其極ニ達シ「ビスマーク」ノ非

立憲的言動ヲ非難スル者多カリシカ彼ハ斷然軍備擴張ヲ斷行シ以テ千八百六十  
六年戰役ニ於ケル普軍勝戰ノ基ヲ築キ普軍カ奧軍ヲ敗リテ凱旋スルヤ普魯西議  
會ハ彼ニ感謝ノ意ヲ表シタルコト周知ノ如シ

舊波蘭王國ハ歐洲大陸ニ於テ最モ早ク代議政治ヲ採用シタル國家ナリシカ波蘭  
議會ハ連年政爭ヲ事トシ毎年豫算ハ不成立ト爲リ國家危急ノ際王國ハ必要ナル  
施設ヲ爲スコト能ハス國勢ノ益、萎靡スルヤ遂ニ露、獨、奧ノ乘スル所ト爲リ滅亡ノ  
厄ニ遭ヒタルハ世間ニ普ク知ラルル所ナリトス

以上ハ往時國民ノ政治思想比較的的低級ニシテ且選舉法カ著シク現時ト異ナレル  
時代ニ於ケル事例ナリト雖方今ニ於テモ亦事態頗ル相似タルモノ無クンハアラ  
ス彼ノ千九百十七年春佛國軍隊並其國民間ニ精神的危機ヲ生シ將ニ一大叛亂ノ  
勃發セントシタル(軍隊ノ小叛亂ハ事實發生シタリ)ハ固ヨリ露國革命並攻勢失敗  
等ノ諸因ニ基クト雖識者ハ其有力ナル一原因トシテ當時ノ議會及新聞紙ノ不謹  
慎ナル言動ヲ指摘ス若シ夫レ大戰間ノ獨逸ニ至リテハ明ニ代議政治ノ缺陷ヲ暴  
露シ「ルーデンドルフ」將軍ノ言フ所ニ依レハ獨逸國民ノ存亡ヲ決スルノ秋ニ方リ

議會ノ或ル政黨ハ國家全般ノ利害ヨリモ自己政派ノ利害ヲ重シ利己的亡國の行動ヲ敢テシ遂ニ獨逸國民ヲ破滅ニ導キタリト云フ  
 大戰間獨逸帝國議會ノ不謹慎ナル言論カ偶敵ニ對シ獨逸國民ノ思想上ノ不一致其繼戰意志ノ動搖ヲ表白スルノ結果ト爲リ一方聯合國側ノ繼戰ノ希望ヲ増大シ其戰意ヲ固メタルノミナラス却テ他方ニ於テ獨逸國民ノ思想ヲ荼毒シ同盟國民ノ信賴ヲ失ヒ遂ニ敗北ノ有力ナル一原因ト爲リタルハ掩フヘカラサルカ如シ獨立社會黨ノ如キハ千九百十四年八月二十一日「スツツトガルト」ニ於テ既ニ戰爭反對ノ運動ヲ起コシ爾後極力戰爭反對ノ宣傳ニ努力シ多數社會黨ハ開戰當時ハ兎ニ角戰爭ニ賛成シタリト雖戰局意ノ如ク進展セサルヲ見ルヤ漸ク戰爭ニ對スル態度ヲ變シ千九百十五年一月ニハ「何故ニ吾人ハ飽迄戰爭ヲ繼續セサルヘカラサルカ」テフ愚問ヲ發表シテ國民ヲ惑ハシメ同年冬其代表者ハ議會ニ講和條件質疑案ヲ提出シテ曰ク「今ヤ交戰國中ニテ平和ヲ唱フル者無キニアラス獨逸ニシテ土地併合ノ慾望タニ放棄センカ即チ平和ヲ促進スル必スシモ難キニアラス吾人ハ斯カル平和條件ヲ提出シ以テ世界史上ニ於テ戰慄スヘキ此大戰ヲ終結スルニ至

ラシメタル芳名ヲ千載ニ垂レンコトヲ希望シテ已マス」ト而シテ千九百十七年「ベトマン」ホルウエッヒ「内閣瓦解シ」ミハエリス「宰相ノ任ニ就クヤ獨逸帝國議會ハ奇怪ナル平和即チ無併合無賠償平和ヲ議決シ同年「プロシヤ」議會ハ選舉法ノ改正ヲ政府ニ迫リ益一般國民ノ志氣ヲ衰頽セシメ埃土勃等同盟國ノ信賴ヲ失ヒ中央同盟瓦解ノ一因ヲ作り反對ニ聯合國側ノ戰意ヲ強メ却テ平和交渉ヲシテ困難ニ陥ラシメタリ

吾人ハ獨逸最高統帥部ノ思想竝其講和交渉ニ對スル態度ヲ無條件ニ是認スルモノニアラス又帝國議會ニ立脚セサル官僚政府而モ餘リ有能強力ナラザリシ官僚政府ヲ存在セシメタルコトノ可否ニ就テモ研究ノ餘地アルモノト認ムト雖而モ一事ノ明瞭ナルコトハ獨逸帝國議會ノ言動カ戰爭指導上ニ甚大ナル惡影響ヲ與ヘ延イテ敗北ノ根本原因ヲ爲シタルノ事實即チ是ナリ換言スレハ獨逸敗北ノ責任ノ一半ハ獨逸帝國議會之ヲ分タサルヘカラス  
 露國ハ歐洲大戰ニ於テ幾多ノ敗戰ヲ重ネシカハ民心緩和策トシテ Douma ヲ召集シ國民ニ國政論議ノ自由ヲ與ヘタリシカ議會ハ政府ト衝突シ所謂祖國ニ對スル

好意ノ革命ヲ起シ政客國民共ニ國政論議ノ自由ヲ極度ニ利用シテ元來理想ニ走リ且空論ヲ好ム露國上下ハ日夜論議橫議ニ耽リ各政黨政派ノ政權爭奪ノ競争ハ益激甚ト爲リ遂ニ國家ノ統一ヲ失ヒ國民ハ四分五裂混亂ノ恐怖時代ヲ現出シタリ勞農政府カ憲法議會ノ召集ヲ肯セス國政是非ノ論議ヲ禁シ「ビスマーク」ノ所謂鐵血政策ヲ以テ國內ノ平定ヲ企圖シタルモノ一ハ其根本的哲學觀念ニ基クト雖又實ニ露國國民ノ性情、非常時代ノ要求ヲ看破シタルニ由ラスンハアラス

吾人カ前記ノ史實ヲ引證說述シタルハ非常時代即チ戰爭等ノ場合ニ於テ立憲政治ノ有害無用ナル事ヲ立證センカ爲ニアラス唯戰ノ如キ國家非常ノ場合ニ於テハ十分ナル節制戒心ヲ以テ代議政治ヲ運用スルニアラサレハ國家百年ノ計ヲ誤ルコトアルヲ示サンカ爲ニ外ナラス特ニ政治的訓練ノ不十分ニシテ文化的教養ノ足ラサル國民ニ於テ然リトス

最近大戰ニ於テ英國議會並其政黨政派ハ國家全局ノ目的ニ對シテ概ネ能ク協調シ、彼ノ勞働黨ノ如キモ徵兵令ノ施行ニ對シ特別ノ反對ヲ爲サス從來對立拮抗シ來レル保守自由ノ兩黨ハ聯立內閣ヲ組織シ大體ニ於テ舉國一致ノ美ヲ示シタル

ハ固ヨリ英國國民ノ性情、教養、就中其政治的訓練ノ優越ニ負フト雖又實ニ英國國民ニ對スル戰爭ノ打擊カ獨逸國民ニ對スル其レノ如ク甚大ナラス且經濟並國際關係ニ於テ遙ニ有利ナル地位ニ在リシカ爲タラスンハアラス

夫レ立憲政治ハ多數政治ニシテ同時ニ中庸政治、妥協政治ナリ非常ノ秋ニ方リ國家カ思ヒ切ツタル行動ヲ果敢ニ決行セントスル場合ニ不便ノ尠カラサルコトハ疑ヲ挿ムノ餘地無ク事實世界大戰ニ於テ英國カ其ノ新軍編成並兵員補充ノ爲絶對必要ナリシ徵兵令ノ制定カ彼ノ如ク滯遲延シ且其戰爭指導カ動モスレハ政略偏重ニ陥ラントシ且支作戰ニ兵力分散ノ過失ヲ犯シタル實情ヲ知ル者ハ即チ這般ノ真理ヲ了解スルヲ得ヘシ

最近大戰ニ於テ交戰立憲國ハ何レモ其國民ノ自由權即チ言論ノ自由、經濟行爲ノ自由、移轉ノ自由等ヲ或ル程度ニ制限拘束シタルノミナラス國民ニ勞役ヲ強制シタル國家亦尠カラサルハ勿論議會ノ最重大ナル權利タル豫算ノ審議權ヲモ議會自ラ著シク控制シ又ハ一時之ヲ放棄シタルカ如キ觀アルモノスラ無キニアラス千九百十四年大戰ノ勃發スルヤ英國ハ信用投票ナル形式ヲ用ヒ豫算年度内ニ於

ケル戰爭ノ經費トシテ一億磅ヲハ其内容ヲ區分セス一般豫算ノ追加トシテ議會ノ承認ヲ經其後支出ノ濫費ヲ豫防スル爲信用投票ニ若干ノ制限ヲ加ヘタリ  
 佛國ハ從來大戰爭ノ初期ニ於テ政府ハ戰時所要ノ法律案ヲ議會ニ提出シ其承認ヲ經タル後議會ヲ閉鎖シ議會ノ掣肘ヲ受クルコトナク戰爭ヲ遂行スルノ主義ヲ採リシカ千九百十四年八月五日ノ法律ヲ以テ政府ハ議會ノ閉鎖間平時豫算ニ規定セラレタル科目ニ關係無ク總テ國防ニ必要ナル經費ヲ豫算シ臨時財源ヲ設定スヘキ權能ヲ享有セリ即チ佛國議會ハ千九百十四年十二月下旬迄閉鎖セラレタリシカ此間政府ハ國防上必要ナル經費トシテ不定ノ額ヲ支出スルノ權能ヲ有シ此國防上必要ナル經費ト稱スルモノノ中ニハ雷ニ軍事費ノミナラス應召員家族手當、避難民救助、聯合國ヘノ貸付、地方人民ノ爲糧食貯藏費等ヲ包含シタリ  
 佛國政府ハ一般豫算ノ變更ヲ斷行シ緊縮シ得ヘキモノハ之ヲ緊縮シ軍國ノ要求ニ適應スル如ク之ヲ處理シタリ千九百十四年末議會召集後モ議會ハ政府ノ戰時財政ノ處理ニ大ナル自由ヲ與フルノ主義ニ基キ一定期間ノ一括的信任豫算ノ形式ヲ用ヒ該豫算ニハ形式的科目ノ區分ヲ行フモ必要ニ應シ大統領令(Decree)ヲ以

テ各省各科目ノ變更ヲ行ヒ得ルコトト定メ其後議會ノ豫算審議ニ關スル要求ハ漸次増大シ政府豫算ノ枝葉ハ時々修正セラレタルコトアルモ一括的信任豫算ノ精神ハ最後迄繼承セラレタリ但シ其支出ハ議會ノ豫算委員之ヲ點檢シ國防上秘密ヲ漏洩セサル程度ニ於テ議會ニ報告スルヲ例トセリ

獨逸ハ千九百十四年八月四日ノ法律ヲ以テ戰費支辨ノ爲追加豫算トシテ一括シタル廣意義ノ一定金額ヲ支出スルノ權限竝所要ノ公債發行ノ權能ヲ政府ニ與ヘ略ホ英國ニ類似スル形式ヲ採用セリ

抑方今ノ大國民戰ニ於ケル國家ノ交戰手段ハ軍ノ作戰以外頗ル廣汎多岐ニシテ其企圖書策等ハ戰時豫算ヲ以テ遂行セラルヘク若シ議會ニシテ軍國ノ豫算ヲ自由ニ討議センカ國家ノ戰爭指導ノ畫策竝諸般ノ企圖ハ忽ニシテ敵ノ知ル所ト爲ルヘク又嚴密ニ拘束規定セル豫算ヲ政府ニ與フルハ政府ヲシテ機宜ニ適スル縱橫ノ戰爭行動ヲ自由ニ斷行セシムル所以ニアラス是ヲ以テ議會カ某程度ニ豫算ノ審議權ヲ自ラ控制又ハ放棄シ其他國政ノ論議ヲ慎重ニシ自制以テ事ニ當リ且政府ニ必要ナル權限ヲ付與シテ機ニ投シ縱橫自在ノ手腕ヲ發揮セシムルコト極

メテ緊要ナラスンハアラス是カ爲ニハ國民大多數ノ信賴ヲ荷フ權威アル政府ノ存在ヲ必要トスルヤ勿論ニシテ單ニ某階級又ハ一部ノ政治的勢力ヲ背景トスル政府ノ不可ナルヤ論ヲ俟タサル所ナリトス

立憲政治ハ三權分立政治ト稱セラルル如ク權力ノ分立均衡政治ニシテ現狀維持ヲ目的トスル爲ニハ最モ恰適ナリト雖國家カ其存亡ヲ賭スルノ場合大事ヲ斷行セント欲セハ專ラ權力ノ分散ヲ避ケ之ヲ集結シテ偉大ナル動力ヲ發揮セシメサルヘカラス人生史上最モ偉大ナル事業ハ總テ某一國又ハ某英雄或ハ某階級某機關ニ總テノ權力カ集中セラレタル時代ノ產物ニシテアレクサンダー大王ノ大帝國、羅馬大帝國、成吉思汗、ナポレオン等ノ偉業皆然ラサルナシ世界大戰間ニ於ケル獨逸ハ一面ヨリ觀レハ最高統帥部政府議會間ニ權力分散セラレ統一の大威力ヲ發揮スルコト能ハサリシニ反シ英國ハロイドジョージヲ中心トシ佛國ハクレマンソーヲ中心トシテ權力ヲ集結シ彼等ノ專制ヲ見ルニ至リ其國力ヲ統一シ偉大ナル力ヲ發揮シテ遂ニ戰勝ニ到達シタリ

權力カ始終某一國ニ集中セラレ絶エス大帝國ノ專擅行ハルル事ハ決シテ世界ノ

幸福ニアラスシテ某時代ニハ權力集中シテ大帝國ノ現出ヲ見某時代ニハ權力分散シテ小國分立ノ狀ヲ呈スルコトハ人生ノ進歩發達ニ缺クヘカラサルコトニ屬シ同一國家内ニ於テモ或ル時代ニハ某階級某英雄某機關ニ權力集結セラレテ寡頭強力政治行ハレ某時代ニハ再ヒ分散セラレテ多數中庸妥協政治ノ行ハルルコト必要ナリトス是レ自然界ニ晝夜晴雨寒暖ノ循環ヲ必要トスルト同理ニ屬シ自然及人生ハ共ニ彼上ノ根本原理ノ上ニ推移回轉スルモノナレハナリ是ヲ以テ權力分散ヲ意味スル「デモクラシー」常ニ必スシモ可ナルニアラス「オートクラシー」又ハ資本主義決シテ無意味ニ之ヲ排斥スヘキニアラス時ニ民族自決小國分立可ナリ時ニ大帝國主義亦頗ル必要ナリト言フヘシ

國家非常ノ秋國家國民ノ最大能力ヲ集中發揮セント欲セハ極力權力ノ分散ヲ避ケ其集結ヲ圖ラサルヘカラス適當ナル中心ヲ求メテ之ニ權力ヲ委任集結スルノ雅量ナキ國民ハ到底大事ヲ決行スルノ資格ナキ國民ナリ「ロイドジョージ」クレマンソー等ヲ偉ナリトスル者ハ須ラク是等ノ偉人ニ權力ヲ集結ヲ圖リタル英國國民佛蘭西國民其レ自身ノ偉大ヲ認識セサルヘカラス妄ニ相猜シ相疑ヒ離心の行動

ノミヲ考フル國民ハ決シテ偉大ナル事業ヲ敢行スルコト能ハサルヘシ「デモクラ  
 シ」萬能論者ハ深ク猛省スル所無カルヘカラス  
 以上ハ理論ナリ然ルニ現下世ノ中ノ實相ハ「デモクラシ」萬能論者齊平運動者、唯  
 心的又ハ破壊的言動ノミヲ行ハントスル者等種々雜多ニシテ今ヤ往昔ノ如ク單  
 純ナラス是ヲ以テ戰時は等數多ノ方向ニ走ラントスル人心ヲ或ル一定ノ方向ニ  
 導キ全國民ノ力ヲ統一シ偉大ナル動力ヲ發揮セント欲セハ戰爭指導者ハ偉大ナ  
 ル努力ヲ爲ササルヘカラサルト同時ニ此指導者ハ眞ニ國民ノ中心ト爲リ全國民  
 ノ信望ヲ集メ得ル者ナラサルヘカラサルハ理ノ當ニ然ルヘキ所ナリトス  
 尙戰爭ノ指導ニ任スル者ノ留意セサルヘカラサル事ハ現時ノ世相ヲ以テシテハ  
 千八百十二年露國カ奈翁一世ニ對シテ行ヒタルカ如キ思ヒ切ツタル行動ヲ爲サ  
 シカ爲ニハ極メテ周匝且大規模ノ準備ヲ必要トスルノミナラス縦ヒ此準備アリ  
 トスルモ尙且其實行ニ於テ多大ノ障礙ニ逢遭スヘキコト即チ是ナリ千九百十四  
 年開戦ニ方リ露軍カ「ワイクセル」西方露領波蘭ヲ開放セントスルヤ波蘭ノ人心ハ  
 大ニ動搖シ其請願團ハ總軍司令官「ニコライ、ニコラエウ」チ「大公ノ本營ニ蟬集シ

タリ彼ノ埃甸軍カ「ガリシヤ」ノ恢復ヲ焦リ獨逸軍カ東普ニ侵入セル露軍ノ掃蕩ヲ  
 急キテ西方戰場ヨリ過早當事者ハ過早トハ思惟セサリシモノノ如キモ事實ハ過  
 早ナリニ有力ナル兵團ヲ轉向セシメタルカ如キハ能ク現代ニ於ケル戰爭指導者  
 ノ苦衷ヲ語ルモノニシテ開戦當初國境會戰後ニ於ケル「ジヨッフル」ノ英斷佛國國民  
 ノ態度ノ如キニ至リテハ近代稀ニ見ルノ壯舉タラスンハアラス  
 立憲政治ノ一大通弊ハ爲政家カ屢々俗論ニ媚ヒ只管人氣ヲ失ハサランコトヲ是レ  
 努ムルニ在リ然ルニ戰爭ハ人生ノ非常事業ニシテ卓越セル偉人カ斷乎トシテ其  
 所信ヲ決行スルコトニ因リテ戰勝ニ到達シ得ル場合多シトス就中軍ノ統帥ニ任  
 スル者ニシテ微塵タモ人氣ヲ顧慮スルコトアランカ百弊續出戰敗ノ悲慘ヲ見ル  
 ヘキコトハ千八百七十年戰役ニ於ケル「ナポレオン」三世失敗ノ跡ニ鑑ルモ明白ナ  
 リトス「將帥ハ世間ノ毀譽褒貶ノ上ニ超然タラサルヘカラス」ノ原則ハ立憲政治ノ  
 今日特ニ其意義ノ重大ナルコトヲ銘心スルヲ要ス  
 戰略政略ノ協調ニ關シテハ立憲政治ハ相當ノ便益ヲ有スルト共ニ其不便モ亦決  
 シテ尠シトセス是レ船頭ノ多キ立憲政治ノ本質上然ルヘキ所ニ屬ス古來ノ戰史



ヲ討スルニ政戰兩略ノ反目軋轢衝突等ハ既ニ立憲政治ニ先テ存在シ立憲治下ニ於テモ屢之ヲ觀ル蓋シ政戰兩略ノ協調如何ハ半ハ制度ニ關シ半ハ人ニ關スルモノナレハナリ

若シ議會ニシテ眞ニ國家全局ノ利害ニ鑑ミテ行動シ政戰兩略ノ協調ヲ十分ナラシムルノ誠意ヲ發揮センカ戰爭ノ指導ハ極メテ圓滑ニ行ハルベク國力ヲ綜合統一シ偉大ナル威力ヲ發揮スルニ便ナルヘシ但シ是カ爲ニハ國民ノ政治的並軍事的訓練ノ十全ト議會其物ノ組織ノ完璧トヲ先要トスルコト勿論ナリ然ラサル場合ニ於テハ動モスレハ不當ナル政略カ不適當ナル時機ニ於テ而モ不適當ナル方法ヲ以テ戰略ニ干涉スルノ弊ヲ免ルル能ハサルコト既往ノ歴史ノ明證スル所ナリトス

概シテ戰爭ノ要求ヲ顧ミス立憲政治萬能ヲ以テ終始センカ其戰爭指導ハ政略偏重ニ傾クハ自然ニシテ之ニ反スルトキハ戰略偏重ニ陥ルハ理ノ當ニ然ルヘキ所ナリトス是ヲ以テ能ク現代戰爭ノ要求ヲ看破シ此要求ニ適スル如ク立憲政治運用ノ妙ヲ發揮スルコト緊要ニシテ平戰兩時ノ差別ヲ辨ヘス立憲政治萬能ニ偏ス

ルカ如キハ國家休戚ノ場合好シテ立憲政治ノ弊實ニ墮スルモノナリト言ハサルヘカラス

## 第二節 治安維持並軍機保護ニ關スル政策

戰時國家ノ戰爭諸行動ヲ圓滑ニ進捗セシメ國民精神ヲ作興シ國力ヲ統一シテ戰爭目的ニ傾倒セシメント欲セハ國內治安ノ維持ヲ必要トスルコト言フ俟タサル所ニシテ國軍ノ交戦ヲ有利ナラシムル爲軍機保護ノ重要ナル亦極メテ明白ナリトス而シテ治安ノ維持ト軍機ノ保護トハ其實施ノ方策ニ於テ互ニ連絡ヲ有スルカ故ニ茲ニ一括シテ説述スヘシ

戰時ノ治安維持並軍機保護ノ爲ニハ特別ナル方策ヲ講スルコト必要ニシテ政府ハ斷乎タル處置ニ出テサルヘカラス是カ爲全國民ノ信望ヲ荷ヒ鞏固強力ナル内閣ノ存在ハ何ヨリモ必要ナリト言フモ過言ニアラス世界大戰間獨逸最高統帥部ハ獨立社會黨ノ暗中飛躍及聯合國側ノ宣傳ノ極メテ重大且危險ナルコトヲ察知シ屢、政府ヲ促シテ斷乎タル措置ヲ取ラシメンコトヲ努メタリト雖政府ハ微力無

爲ニシテ大勢ノ進行ヲ阻支スル能ハス遂ニ國民ノ精神的團結ニ龜裂ヲ生シ民心惡化シテ千九百十七年四月始メテ開戦後第一回ノ同盟罷工起リ次テ水兵ノ革命的陰謀事件ヲ觀千九百十八年一月ニハ未曾有ノ大同盟罷工(三十萬)勃發シテ戒嚴令ヲ布告スルノ已ムナキニ至リ同年秋年來ノ暗雲化シテ大颶風ヲ捲キ起コシ遂ニ彼ノ革命ノ慘事ヲ觀ルニ至レリ

革命後ノ露國臨時政府タル「ケレンスキ」内閣カ遂ニ過激派ニ乘セラレタルモノ一面ヨリ觀レハ革命當然ノ歸結タルカ如シト雖亦其斷乎タル對內政策ノ缺如ニ因ラスンハアラス過激派政府及獨逸革命政府ハ能ク此間ノ消息ヲ理解シタルカ故ニ斷然強力政策ヲ敢行シ兎ニ角一般秩序ヲ安定スルヲ得タリ

國內治安ノ維持タル固ヨリ單ニ強力政策ノミニ依リテ得ラルヘキニアラス合理的ニシテ時宜ニ適スル他ノ幾多ノ方策ヲ講スルノ必要ナルコト疑ナキ所ナリト雖斷乎タル強力政策ノ必要ナルコトハ古今ヲ通シテ論ラサル所ナルカ如シ憲法ノ保障スル國民ノ自由權ハ成ルヘク之ヲ尊重シ妄ニ且必要以上ニ之ヲ制限拘束スルコトヲ慎ムヘキハ勿論ナリト雖國家ノ生存國民全般ノ幸福ノ爲ニハ或ル程

度迄國民ノ自由權ヲ制限拘束スルハ已ムヲ得サル所ニ屬シ帝國憲法亦明瞭ニ之ヲ承認ス

敵國ト境ヲ接シ且社會相ノ樂觀ヲ許ササルモノアリシ獨佛等ニ於テハ或ハ動員ニ先チテ(獨)又ハ其直後(佛)ニ於テ全國ニ戒嚴ヲ令シ軍ノ動員及集中實施ヲ圓滑ナラシムル爲極力國內秩序ノ維持ニ努力シ其後一般ノ戒嚴令ハ撤廢セラレタリト雖種々ノ規定ヲ設ケ全戰役間ヲ通シ或ル程度ニ國民ノ自由權ヲ制限拘束シ必要ニ際シテハ直ニ戒嚴ヲ宣告シタリ

我國ト歐洲諸國トハ國情自ラ相同シカラサルモノアルハ明白ナリト雖社會相ノ益、複雜錯綜化スヘキ將來ニ於テ特ニ開戦ト同時ニ敵航空機ノ襲來、間諜ノ跳梁、不逞國民ノ妄動等ノ虞アルニ於テハ動員ニ先チ又ハ動員ト同時ニ戒嚴ヲ宣告スルノ已ムヲ得サルハ蓋シ明白ナリト言フヘシ又縱ヒ情熱ノ緩和ト共ニ戒嚴ヲ撤廢シタル後ト雖治安維持並軍機保護ノ爲ニ必要ナル諸般ノ法令規定ヲ公布シ國民ノ自由權ヲ或ル程度ニ制限拘束シ民衆ヲシテ嚴ニ之ヲ遵守セシムルコト肝要ニシテ政府ハ法理的ニ強力ナルト共ニ政治的ニモ亦強力ナルコトヲ必要トス

現時ノ戰爭ニ於テハ往時ノ戰爭ニ比シ國內留守部隊ニ有力ナル健全分子ヲ殘置スルコト極メテ必要ニシテ人心惡化世相ノ險惡ナルニ從ヒ益然リ彼ノ露獨革命ノ跡ニ鑑ルモ補充隊、守備部隊等カ甚タ危險ナルモノト化スルコトアルハ明白ニシテ戰線ニ在ル軍隊ノ志氣ハ常ニ其後方部隊ニ比シ優秀ナルヲ一般トス

戰時警察力ノ充實ハ頗ル重要ナルニ拘ラス交戦久シキニ互ルニ從ヒ兵員ノ補充其他ノ關係上十分ナル警察力ヲ備フルコト能ハサルハ世界大戰ノ明證スル所ニシテ國內治安維持ノ任ヲ單ニ警察ノミニ委スルコト能ハサルハ明瞭ナリ須ラク軍部警察相協力シ且地方自治團體ヲ利用シ其目的ヲ達成センコトヲ期セサルヘカラス軍機ノ保護亦單ニ軍憲ノミノ努力ニ因リ全ウスルコトヲ得ルモノニアラス文武兩權並地方自治團體ノ一致協力極メテ必要ナラスンハアラス以下治安ノ維持並軍機保護ノ爲實行スヘキ各種ノ手段ニ就テ記述スヘシト雖時ノ緩急ニ應シ取捨其宜シキヲ得サルヘカラサルヤ勿論ナリトス

### 一 外國人ノ取締

抑、國家カ戰時自衛ノ必要上外國人ノ取締ニ關シ諸種ノ規定ヲ設ケ要スレハ外國人ノ入國ヲ拒絕シ又ハ既ニ居住スル外國人ノ放逐ヲ行ヒ得ヘキハ國際法ノ認ムル所ニシテ史上ニ其實例尠シトセス蓋シ是レ國家ノ獨立權並自衛權ノ當然ナル作用ナレハナリ是ヲ以テ國家ハ開戦後直ニ外人ノ取締ニ關シ所要ノ規定ヲ設ケ之ヲ公布スルヲ必要トス最近大戰ニ於テ英佛諸國ハ開戦直後外人取締規定ヲ定メ直ニ之カ實施ニ移リタリ外國人ハ其取扱上之ヲ一般外國人ト敵國人トニ區別スルヲ要シ一般外國人中同盟國人ト中立國人トニヨリ多少其取扱ニ差異アルヘキハ當然ニシテ又齊シク中立國人タリト雖我カ外交ノ方針國家相互ノ關係等ニ從ヒ其取扱ニ寬嚴ノ差アルヘキハ自然ナリトス例ヘハ大戰間獨逸カ瑞典人ニ對シ比較的寬大ナリシカ如シ

#### 甲 一般外國人ノ取締

一般外國人ハ概ネ左ノ方法ニ依リ取締ルヲ可トスルカ如シ

イ 在留一般外國人ハ政府ノ定ムル所ニ從ヒ其住居、身分、職業等ヲ居住地警察

署ニ届出テシメ當該警察署ハ之ニ身元證明書ヲ授ケ當人ヲシテ常時之ヲ帶同セシム又住居ヲ變更シタル時ハ直ニ之ヲ届告スルノ義務ヲ課ス

ロ 外國人ヲ其家庭ニ有スル者及外國人ト共ニ居住スル者ハ之ヲ警察署ニ通報スルノ義務ヲ負ハシム

ハ 政府指定ノ港灣又ハ指定ノ國境點以外ヨリ外國人ノ出入ヲ禁止ス

ニ 一般外國人ノ出入禁止地域ヲ定メ之ヲ公布ス

ホ 外國人ニシテ國內ヲ旅行スル者ハ到着並出發毎ニ該地警察署ニ届告セシメ旅館下宿屋等ノ主人ニモ亦其義務ヲ負ハシム大戰間英佛等ニ於テハ旅行者自身警察ニ出頭スルヲ要シタリ

ヘ 外國人ニシテ入國セントスル者ハ必ス自己ノ寫眞ヲ添附セル旅券ヲ帶同シ其旅券ニハ自國領事ノ査證ヲ受ケシム其他當該旅券ニ具備スヘキ形式査證ノ方法等ヲ嚴密ニ規定ス

ト 國境ニ於テハ出入外國人ニ對シ嚴重ナル検査ヲ行ヒ其人物携帶品等ヲ審査ス

## 乙 敵國人ノ取締

戦時敵國人ノ取締ハ一般外國人ノ取締ニ比シ一層嚴重ナルヘキハ理ノ當然ニシテ最近大戰ニ於テモ交戦列強何レモ其取締ヲ嚴ニシ獨逸ノ如キハ敵國人ノ生命ノ危険ニ對スル保護ノ責任ヲ負ハサル旨ヲ宣告シタリト稱セラル

開戦ノ際自國ニ在ル敵國人ノ取扱ニ關シテハ往時ニ於ケル諸交戦國ノ實施シタル所區々ニシテ一定ノ慣例ヲ見ス千八百三年奈翁カ英國ニ對シ宣戦スルヤ勅令ヲ發シ當時佛國ニ在リシ十八歳以上六十歳以下ノ英人ヲ抑留シ千八百十四年ニ至レリ千八百七十年普佛戦争ニ際シテハ佛國政府ハ「セイヌ」州ニ居住セル普國人全部ニ退去ヲ命シ日清戦争ノ初期日本ハ明治二十七年八月四日ノ勅令ヲ以テ平和ノ業務ニ従事スル清國臣民ノ引キ續キ日本ニ留ルコトヲ認メ且之ニ保護ヲ加フヘキコトヲ命シ日露戦争ニ際シテハ日本政府ハ在留露國臣民ノ保護ニ關シ時々内務省訓令ヲ發シタリ

國家ハ戦時自衛上必要ト認ムルトキハ固ヨリ敵國人ヲ抑留シ又ハ之ニ退去ヲ命

シ其他諸種ノ取締法ヲ設ケ是カ取締ヲ嚴ニスルヲ得ヘク今世界大戰ニ於ケル實例ニ照シ其取締手段ノ一斑ヲ示セハ左ノ如シ

イ 戰爭遂行上必要ト認ムル地方ヨリ敵國人ヲ退去セシム例ヘハ大戰間佛國カ北東地方及南東地方ノ一部並巴里、リヨン等ニ居住セル獨逸人ニ退去ヲ命シ殘留セル者ハ佛蘭西西部地方ニ移住セシメ又露國カ戰地附近並露都芬蘭灣沿岸地方ヨリ獨逸人ヲ退去セシメタルカ如シ

ロ 敵國人出入禁止地域ヲ定メ官憲ノ特別許可ヲ得ルニアラサレハ該地域ニ對スル出入ヲ禁止ス

ハ 敵國人ノ國內旅行ヲ制限ス大戰間英國ハ敵國人ハ警察官憲ノ許可ヲ得ルニアラサレハ各自ノ住宅ヨリ五哩以上旅行スルコトヲ禁シ獨逸ハ伯林居住敵國人ニ同市以外ニ出ツルコトヲ禁シ同市外ニ旅行セントスルトキハ其理由ヲ具シテ所轄警察署ニ願出ラシメタリ之カ爲敵國人ハ每週二回宛所轄警察署ニ出頭セシメ其動靜ヲ明瞭ナラシメタリ

ニ 敵國人ノ自動車、飛行機、信號器具、印刷器具、通信用具、寫真機、地圖、暗號書、武器

等ヲ攜帶使用スルコトヲ禁ス

ホ 戰爭遂行上必要ト認メタルトキハ場所ヲ定メテ之ヲ監禁ス獨逸ハ開戰ト同時ニ敵國人全部ヲ監禁シタリシカ其後自由居住ヲ許可シ英國ハ千九百十四年末頃迄ニ敵國人ノ大部ヲ「マン島」ニ監禁セリ

其他一般外國人ニ對スル取締規定ハ之ヲ敵國人ニモ適用スヘキハ勿論ナリトス

## 一一 新聞並刊行物ノ取締

新聞並刊行物ノ取締ハ軍機保護上最モ重要ナルノミナラス治安維持ノ爲ニモ亦頗ル要用ナリトス

戰時新聞ノ不謹慎不用意ナル報道カ敵ヲ利スルノ惡結果ヲ招來スルコトハ明白ニシテ近時通信並新聞ノ發達ノ益顯著ナルニ於テ特ニ然リトス彼ノ普墺戰役當時ノ伯林諸新聞ハ普國ノ戰備ヲ遠慮ナク掲ケテ獨逸ヲ利シ又普佛戰役當時ノ佛國新聞、日露戰役當時ノ露國新聞ハ屢々不謹慎且不用意ノ記事ヲ掲ケテ自國軍ノ企圖ヲ暴露シ敗戰ノ一原因ヲ作リタルハ周知ノ事實ニシテ千八百七十年八月獨逸

大本營ハ巴里ノ新聞ニ由リ始メテ佛ノ「シヤロン」軍カ白耳義國境ニ向ヒ出發シタルヲ知リ日露戰役當時露國新聞ノ不謹慎不用意ナル報道ハ歐洲ヨリ適時我國ニ電報セラレ我カ戰爭ノ指導ニ便益ヲ與ヘタルコト尠カラス奈翁一世ハ新聞ノ取締ニ關シ甚深ナル注意ヲ拂ヒタルト同時ニ之カ利用モ亦忽ニセス其對埃對普戰役ニ於テハ佛國及伊太利新聞カ佛軍ニ關シ一切ノ記事ヲ掲載スルコトヲ禁シ「獨逸諸邦ニ駐劄セル佛國代表者ニ敵軍ノ行動ニ關シ新聞記事ヲ精査スヘキコト」ヲ命シタリ

方今社會ノ發達ニ伴ヒ言論機關ノ社會人心ニ及ホス影響ハ實ニ輕視スヘカラサルモノアルヲ以テ單ニ軍機保護ノ爲ノミナラス治安維持ノ目的ノ爲ニモ新聞及其他ノ刊行物ノ取締ヲ嚴ニスルト同時ニ軍國ノ爲ニ巧ニ之ヲ利用スルコトト必要ニシテ且又頗ル困難ナル戰時事業ノ一タラスンハアラス

世界大戰ニ於ケル交戰列強ハ既往ノ史實ニ鑑ミ何レモ新聞其他刊行物ノ取締ヲ嚴ニシ由來最モ民論ノ自由ヲ尊重シ來レル英國ト雖千九百十四年八月七日內務大臣ノ隸下ニ新聞局ヲ新設シ自由ノ本家ヲ以テ任スル佛國ハ普佛戰役ノ失敗ニ

鑑ミ開戰直後陸相ノ下ニ新聞課ヲ創設シ獨逸亦各地方軍衙ニ新聞課ヲ置キ伯林ニハ戰時新聞局ヲ特設シテ陸軍當局ノ指揮下ニ置キ何レモ新聞並出版物ノ檢閲取締ノ中央機關ト爲シ且所要ノ法案規定ヲ發布シテ其檢閲並取締ヲ嚴重ニ實施シタリ」戰時新聞並刊行物取締ノ爲特別ノ機關ノ設置ヲ必要トスルコト明白ニシテ該機關ノ骨幹タルヘキモノハ平時ヨリ之ヲ常設シ置キ戰時所要ノ擴張ヲ行ヒ戰時業務ノ實施ヲ便ニスルヲ可トス戰時當該機關ノ隸屬並組織ヲ如何ニスヘキカハ研究ニ値スル問題ニシテ戰役當初英國ハ內務大臣ノ隸下ニ在ル新聞局ヲ以テ其中央機關ト爲シ最初陸海軍將校ノミヲ以テ組織シタリシカ輿論ノ反對ニ遭ヒ大新聞ノ代表的記者(辯護士、國會議員、學者)ヲモ參加セシムルニ至リ獨逸ハ各地方軍衙ノ新聞課及伯林ノ戰時新聞局ヲ陸軍ニテ統一指揮シ佛國ニ於テハ陸相ノ下ニ新聞課ヲ置キ新聞並刊行物ノ檢閲機關ト爲シ更ニ佛國全土ノ新聞社ヲ代表スル佛國新聞協會代表委員會ヲ設置シテ諮詢機關トシ官民間ノ調和緩衝ニ當ラシメタリ然ルニ戰局永續スルニ從ヒ益々大規模且周到ニ而モ統一的一ニ其ノ取締ヲ實行シ併セテ宣傳ヲ統一的一ニ實施スルノ必要ニ迫ラレ遂ニ戰役末期ニ於テハ英國ニ情

報省(民間)ノ情報部戰時新聞局及戰時宣傳局ヲ併合ス、ノ創設ヲ見米國ニ於テハ大統領ノ直下ニ戰時公報局ヲ置キ獨逸ニ於テモ宰相ノ下ニ新聞總長ヲ設ケ更ニ宣傳省ヲ創設セント企テシカ未タ其實現ヲ見サル中ニ戰役終結スルニ至レリ  
國家ノ統一シタル方針ノ下ニ言論ヲ指導監督シ且所要ノ宣傳ヲ行フ爲ニハ新聞檢閱及宣傳ニ任スル機關ハ合シテ一體ト爲シ之ヲ內閣總理大臣ノ直下ニ置キ軍事、外交、內政、經濟等ノ各部門ニ分チ各專門方面ノ人物ヲ拉シ來リ大局ノ利害ニ鑑ミ協同事ニ當ラシムルヲ可トスルカ如シ獨逸ノ新聞檢閱機關ハ陸軍當局ノ指揮ニ屬シ時トシテハ外務省側ニテ掲載ヲ承諾セシモノスラ陸軍側ノ主張ニ依リ掲載ヲ禁スル場合尠カラス屢議會ノ問題ト爲リ頗ル不評判ナリシト云フ

英國ノ如ク檢閱機關ノ中ニ若干ノ代表的新聞記者ヲ包含スルコトハ我國ノ現狀ヲ以テシテハ適當ナラサルヘク寧ロ佛蘭西ノ實施シタル如キ檢閱機關ノ諮詢機關タラシムル目的ヲ以テ全國新聞ノ代表的機關ヲ組織セシムルヲ可トセン  
言論取締機關ハ中央並地方ニ存在スルコト必要ナルヤ論ヲ俟タサル所ナリト雖成ルヘク中央ニテ行フノ主義ヲ採ルヲ便トスルカ如ク大戰間佛國ニ於テモ各地

方ニ於ケル數多ノ檢閱官ノ區々ノ檢閱ニ依リテ生スル見解判決ノ不同ヲ緩和是正スルコトニ就テハ大ニ苦心シタルモノノ如ク諸問題ヲ成ルヘク巴里ニ集中シ裁決スルヲ以テ唯一ノ解決策ト認メタルモノノ如シ

上述言論取締機關ニ與フヘキ職務權限ハ概ネ左ノ如クナルヘシ

イ 戰爭ニ關スル各省ノ公報ヲ發表ス

獨逸ハ内ニ「レーベル」通信ヲ設置シ各新聞社ニ送致シ強制的ニ之ヲ掲載セシメタリ

ロ 國內ニ於ケル電信電話郵便物ヲ檢閱シ新聞ニ掲載セントスル記事ニシテ軍事外交ニ關スルモノハ總テ其原稿ヲ檢閱シ直接間接ニ敵ヲ利スヘキ虞アル報道又ハ中立國ノ反感ヲ惹起シ自國民及同盟國民ノ人心ニ惡影響ヲ與ヘ之ヲ動搖乖離セシムル虞アル報道ノ掲載ヲ禁止ス

ハ 必要ト認メタルモノハ發賣及頒布ヲ禁止シ又ハ押收ス

新聞檢閱ノ程度其緩嚴公報發表ノ範圍ヲ適當ニ律スルコトハ極メテ必要ニシテ國家全局ノ利害、國民心理ノ實情、社會特ニ經濟界出版界通信業者等ニ及ホス利害

ヲ參酌考量シ毀譽褒貶ノ外ニ立チテ超然トシテ冷靜且公平ニ之ヲ實施スルコト必要ナルノミナラス能ク當業者ト意志ノ疏通ヲ圖リ掲載禁止又ハ發賣禁止等ノ處分ヲ行ヒタル時ハ其理由ヲ明確且徹底的ニ了解セシメ當業者ノ好意アル協力ヲ得ルコトニ努メサルヘカラス

戰時軍事上ノ報道ハ總テ官憲ニ於テ之ヲ供給シ各新聞社カ自由ニ其材料ヲ蒐集シテ發表スルコトヲ嚴禁スヘキハ當然ニシテ世界大戰間交戰列強ノ其ニ實施シタル所ナリ佛國政府ハ英國政府ト協定シ開戰當初新聞記者ノ從軍ヲ禁シタリシカ輿論ノ攻撃ニ遭ヒ何レモ此禁令ヲ解キ獨逸ハ最初ヨリ從軍記者ノ派遣ヲ許可シ其取扱英佛ニ比シ寛大ナリシト雖其報道ハ一切軍部ノ查閱ヲ經ヘキハ勿論ナルノミナラス時々軍部ニ都合好キ情報ヲ與ヘ又當局ノ要望スル論說ノ要旨ヲ掲載セシメタリト云フ

抑軍事並外交上ノ報道ノ精否、遲速等ハ方今ノ經濟界就中財界商業界等ニ甚大ナル關係ヲ有スルヲ以テ此間ノ手心ヲ誤ランカ論難不平ノ聲ハ先ツ此種ノ社會及當業者間ヨリ發生スヘキコトヲ豫期セサルヘカラス海外通信ノ關門ニシテ且世

界經濟ノ中樞タル倫敦ニ於ケル英國ノ新聞檢閲制度ニ對スル惡感カ中立國特ニ米國ニ於テ激成シタルハ大ニ注目ニ値ス

新聞及刊行物ハ單ニ國內ニ於テ發行セラルルモノノ取締ヲ嚴ニスルノミナラス敵國ノ出版物ノ輸入發賣頒布ヲ禁止シ又中立國同盟國等ニ於テ發行セラルル新聞並刊行物ニシテ有害ナルモノモ亦其輸入發賣頒布ヲ禁シ要スレハ之ヲ押收スルコト肝要ニシテ大戰間英國ハ米國「ハースト」系新聞ノ輸入ヲ禁止シタリ

既ニ許可ヲ得テ出版シタル自國發行ノ書籍、雜誌、新聞等モ其性質ニ依リ全然輸出ヲ禁止スルコト必要ニシテ大戰間獨逸ハ七十五萬分ノ一及八十萬分ノ一獨國鐵道圖六十萬分一及百萬分一普國鐵道圖ハ中立國及同盟國(埃國ヲ除ク)ニ對シテラ輸出ヲ禁シ特種地圖若干ハ埃國ニ對シテラ發送スルコトヲ許サス其他景色繪葉書、軍事ニ關スル出版物、新發明又ハ新學說ヲ載セタル學術上ノ出版物等ハ一切國外ニ輸出スルヲ禁止シ或ル種ノ新聞ハ內國版ト外國版トノ二種ヲ有シ前者ハ嚴ニ國外ニ發送スルヲ禁止シタリト云フ

我國ニ於テハ新聞及出版物ヲ取締ル爲ニハ新聞紙法及出版法ノ存スルアリテ內



務大臣、陸海軍大臣、外務大臣ニハ夫々相當ノ權限ヲ付與セラレアリト雖戰時廣汎且深刻ナル取締ヲ行フ爲ニハ單ニ現行法ノミヲ以テ足レルトスヘカラサルハ疑ナキカ如シ

### 三 通信ノ取締

通信郵便ノ檢閲ハ世界大戰間交戰列強ノ實施シタル所ニシテ其檢閲ヲ便利ナラシムル爲私人ノ發スル郵便、電報ニハ暗號又ハ外國語ノ使用ヲ禁止少クモ制限シタリ英國ハ大使ヨリ大使又ハ本國外務大臣宛ノモノニ對シテノミ暗號ノ使用ヲ許シ佛國ノ如キハ交戰同盟國以外ノ各國大公使ニ對シテモ亦暗號又ハ外國語電報ヲ禁止シ且瑞西カ各國間諜ノ集合所タリシ關係上戰爭ノ重要ナル時機ニ於テハ瑞西宛又ハ同國經由ノ電報ニ對シ一時其傳送ヲ拒絕シタルコトスラアリ

電話用語ノ制限モ亦交戰諸國ノ實施シタル所ニシテ英國ハ開戰當初英佛語以外ノ通話ヲ禁シタリシカ其後日本語ノ使用ハ自然ニ默認セララルコトト爲リ露國ハ千九百十五年六月左ノ規定ヲ制定セリ

〔露都及其附近ノ電話線ニ由リ露語以外如何ナル國語ト雖其使用ヲ禁ス何人ニ限ラス露語以外ノ通話ヲ聽取シタル者ハ直ニ該通話ヲ停止セシムル爲合法ノ手段ヲ取り且成ルヘク通話者ノ人物ヲ明ニシテ電話番號ト共ニ最寄警察署ニ通知ス〕

郵便電報ノ檢閲並使用文字用語ノ制限ノミナラス通信器具ノ所有又ハ其使用ヲ制限スルコト必要ニシテ特ニ無線電信無線電話ハ最モ嚴重ニ取締ルヲ要ス英國ノ如キハ大戰間全國無線電信所ヲ總テ政府ノ管轄ニ轉シ一般商船ハ區域ヲ限リテ其無線電信ノ使用ヲ禁シ又何人ト雖無線電信ニ因リ通信ヲ發受シ得ル器具ノ購買賣却又ハ所有ヲ禁シ佛國亦概ネ之ニ類スル處置ヲ採リ殊ニ戰前獨逸人ノ經營セル旅館ノ屋上ニ無線電信ノ裝置アルヲ發見セシ以來一層其取締ヲ嚴ニシタリト云フ

其他遠距離通信器具及傳書鳩ノ個人所有又ハ飼養ヲ禁止シ特種「インキ」ノ販賣使用ヲ禁スル等亦必要ナルヘシ

因ニ本邦現行法ノ範圍内ニ於ケル通信ノ取締ニ關スル官憲ノ權限ヲ陳フレハ左

ノ如シ

戒嚴令施行地方ニ於テハ別ニ法律規則ヲ要セス戒嚴司令官ハ信書ノ檢閲、電信暗號ノ禁止等ヲ爲スヲ得ヘク或ハ之ヲ主務省ニ委任スルヲ得  
戒嚴地帯外ニ於テハ電信法及無線電信法、萬國電信條約等ニ依リ(主務大臣ハ公安ノ爲必要ト認ムル時ハ區域ヲ定メ電信電話ニ由ル通信ヲ停止シ又ハ制限スルコトヲ得)遞信大臣ハ電報ノ檢閲用語ノ制限暗號ノ禁止ヲ行ヒ得ヘシト雖信書檢閲並通信器具ノ所有使用ヲ禁止又ハ制限スルノ權限ハ何人モ之ヲ有セス  
又軍部ハ電信電話ノ檢閲制限停止等ノ權能ヲ有セス  
是ヲ以テ戰時廣汎峻嚴ナル通信ノ取締ヲ必要トスル場合ニ於テハ現行法以外ニ諸種ノ規定ヲ必要トスヘキハ明白ナルヘシ

#### 四 其他一般ノ取締

其他ノ取締手段ヲ概説スレハ左ノ如シ

イ 旅行者ニ對スル取締並國境檢査

國外ニ旅行セントスル者ニ對スル旅券ノ下付並其査證ヲ嚴重ニシ其出願者ノ身元ヲ周密ニ調査シ疑ナキ者ニ對シテノミ之ヲ許可シ且其國境ヲ通過スヘキ時日場所等ヲ指定制限ス入國者ハ其出發地駐在自國官憲ヲシテ嚴重ニ審査セシメ其査證アルニアラサレハ國境通過ヲ許サス  
國境通過者ニ對シテハ嚴重ニ其旅券ヲ點檢シ之ニ出入國ノ檢印及時日ヲ記入シ携行品ヲ嚴密ニ檢査ス  
又國內旅行者ニ對スル取締ヲ行フ爲列車、汽船、電車等ニハ所要ノ官憲又ハ軍人ヲ乘込マシメ乗客ヲ監視シ且所要ニ際シ其檢査ヲ行ハシム之カ爲全國民ニ對シ時期ヲ劃シテ警察ニ届出テシメ之ニ身元證明書ヲ付與シ常ニ帶同セシム大戰間獨逸ニ於テハ鐵道員中若干ノ者ニ警察權ノ一部ヲ付與シアリタリ旅行者某市ニ到着シ宿泊シタルトキハ直ニ其地警察署ニ届告セシムルヲ要スルコトアルヘシ

ロ 重要地域ノ保護、民間飛行ノ禁止

軍機保護上必要ト認メタルトキハ某地域内ノ住民ニ立退キヲ命シ又ハ一般

人民ノ通行ヲ禁止シ且陸海軍ノ飛行機以外ハ特ニ許可ヲ得タルモノニアラ  
サレハ飛行機ノ飛翔ヲ禁ス

ハ 國境封鎖

大戰間獨逸カ重要ナル作戰ヲ開始セントスルヤ其企圖ノ漏洩ヲ避タル爲國  
境ヲ封鎖シ一般人ノ國境出入ヲ禁止シ一時通信ノ傳達ヲ中止シタルカ如キ  
亦軍機保護ノ一法タルヲ失ハス

ニ 一般人民ヘノ警告

一般人民ニ警告ヲ與ヘ民衆ヲシテ其言動ヲ慎マシメ特ニ汽車、汽船、電車、レ  
ス「トラン」「カフェー」、劇場等ニ於ケル言論ヲ慎マシムルコト亦必要ニシテ大戰間獨  
逸露國等ハ密偵ヲ派シ苟モ軍機事項ノ論議ヲ交フル者ハ容赦ナク之ヲ檢舉  
シタリ而シテ露國ハ此密偵トシテ婦人ヲモ使用シタリト云フ

ホ 其他兇器ノ携帶ヲ禁止シ保安上必要ト認メタルトキハ「レストラン」「カフェ  
ー」、妓樓、待合、興行場等ノ營業時刻ヲ制限シ又ハ酒類ノ販賣ヲ制限スル等ノ處  
置ヲ必要トスルコトアリ大戰間各國共ニ民衆娛樂機關即チ活動劇場、寄席等

ノ興行ハ禁止スルコトナカリシモ其取締並利用ニ就テハ相當注意ヲ拂ヒタ  
ルコト勿論ナリトス即チ敵ノ宣傳ニ利用セラレサル爲劇ノ脚本、活動ノ「フイ  
ルム」、放送無電、流行唄、繪葉書、寄席ノ落語講談等ヲモ取り締ル必要アルノミナ  
ラス我宣傳ノ爲ニ是等ヲ利用スルコト亦必要ナリトス

第三節 國民ノ精神的團結ヲ鞏固ナラシム

ヘキ特別政策

戰時民心ヲ作興振起シ國民ノ精神的團結ヲ鞏固ナラシムルコトハ戰勝ノ第一要  
件ニシテ之カ爲思想方面ヨリ國民ヲ指導スルノ必要ナルト同時ニ他方國民ノ實  
生活ヲシテ安固愉快ナラシメ不平ノ素因ヲ芟除シ國民ノ感情ノ惡化ヲ豫防スル  
コト亦極メテ切要ニシテ思想ノ善導ト善政ノ實施トハ共ニ不可分ノ關係ニ在ル  
コトヲ銘記セサルヘカラス是レ人ハ肉ト靈トニ生クルモノナル以上當然ノ結果  
ニシテ物質精神兩方面ノ施設全キヲ得テ始メテ國民ノ精神的團結ヲ維持シ戰勝  
ニ到達スルヲ得ヘシ

### 其一 負擔ノ公平

戰爭ニ對スル國民各個ノ負擔ヲ公平ナラシムルコトハ即チ不平ノ根本原因ヲ除キ繼戰意志ヲ振起スル所以ニシテ國家ハ此趣旨ニ適スル所要ノ施設ヲ行ハサルヘカラス而シテ戰時國民ノ負擔ヲ大別スレハ概ネ左ノ如シ

イ 財務上ノ負擔

ロ 經濟上ノ負擔

ハ 兵役義務就中戰場勤務ノ負擔

財務上ノ負擔ノ均衡ハ戰時財政政策ニ於テ、經濟上ノ其レハ戰時經濟政策ニ於テ實現セラルヘキモノニシテ是等ノ件ニ關シテハ次章ニ於テ說述スヘク本章ニ於テハ兵役義務就中戰場勤務ノ負擔ヲ公平ナラシムヘキ政策ニ就テ研究スル所アラントス

夫レ國民皆兵ト稱スルモ事實上兵役義務ヲ負擔實行スル者ハ國民ノ一部分ニシテ特ニ戰場ニ於テ死生ノ巷ニ出入スル者ハ又其ノ一部分ニ過キス國內ニ留リテ

平業ニ從事スル者國內ノ戰時業務ニ從事スル者軍人トシテ軍ノ後方勤務ニ服スル者戰場ニ於テ直接交戦ニ從事スル者等ノ間ニハ夫々ノ負擔ニ輕重大小ノ差異アルノミナラス國家ニ提供スル犧牲ニ於テ甚大ノ差異アルコト明白ナリトス而シテ此不平均ヲ醫スル爲ニハ勞働賃銀ノ公定、出征者ニ對スル租稅ノ輕減、戰時利得稅ノ制定、差別アル給與法ノ設定等種々ノ手段ヲ講スヘキハ勿論ナリト雖而モ此ノ如キ方法ヲ盡スモ到底其犧牲ノ均衡ヲ求メ得ヘキモノニアラス

固ヨリ總テノ國民悉ク戰場ニ於テ直接交戦ニ從事スルコトヲ得ルモノニアラサルノミナラス軍後方及國內ニハ所要ノ人員ヲ必要トス然レトモ戰爭久シキニ互ル際ニ於テハ單ニ或ル特定ノ國民ノミカ最モ困難ナル軍務ニ服シ又其中ノ或ル部分ノミヲ最モ危險ナル直接交戦ニ任セシムルコトハ決シテ國民ノ志氣ヲ作興振起シ其精神的團結ノ鞏固ヲ圖ル所以ニアラス國民間ニ不平ノ念ノ誘起シ戰爭呪咀ノ聲ノ生スヘキコト明瞭ニシテ將來思想ノ錯綜社會相ノ複雜化スル際ニ特ニ然リトス即チ敵ノ宣傳ニ對シ好餌ヲ呈スルモノニシテ危險甚シト言ハサルヘカラ

世界大戰ニ於ケル交戰諸國ハ前陳ノ危險ヲ顧ミ何レモ相當ニ施設スル所アリ就中獨逸最高統帥部ハ屢政府ヲ促シテ其施設ノ十全ヲ期シ祖國補助勤務法ノ如キモ一面勞働力補充ノ目的ニ出ラタルハ勿論ナリト雖又實ニ國民各個ニ課スル負擔ノ公平ヲ圖ラントスルノ意ニ基クヤ明白ナリ其他最高統帥部ハ勞働賃銀ノ公定、出征軍人給與ノ増額、出征軍人家族ノ救助、不具廢疾者ノ救護等ニ對シテモ努力スル所アリシカ政府ノ爲ス所常ニ統帥部ノ希望ニ副ハサリシモノノ如シ

佛蘭西ハ國民ニ課スル戰時義務ヲ公平ナラシムルコトニ就テハ最大ノ努力ヲ爲シタルモノニシテ其制定セル「ダールビエズ」法、「ムーリエ」法ハ最モ有名ナル法律ナリ彼ノ死傷總數約五百萬絕對損耗(死者及不具廢疾者)約二百五十萬ノ犠牲ヲ出タシタルニ拘ラス能ク終局迄國民ノ精神的團結ヲ維持シ聯合軍ノ中堅ト爲リテ勇戰健闘ヲ續ケタルモノ洵ニ故ナキニアラスト言フヘシ佛軍ノ花々シキ戰捷ニ驚嘆スル者ハ翻テ其內政上ニ於ケル苦心經營ノ跡ヲ考察セサルヘカラス

戰時實質上ニ於テ國民皆兵主義ヲ具體化シ兵役義務ノ均衡ヲ圖ル爲ノ實際的方  
法ハ概ネ左ノ如シ

一 兵役年限ノ擴張

兵役義務開始ノ年限ヲ繰リ上ケ且其終了年度ヲ繰リ下ケ延長シ以テ兵役義務ニ服スヘキ國民ノ數ヲ増大スルモノニシテ一ハ以テ兵員補充ヲ容易ナラシメ一ハ以テ義務ノ均衡ヲ圖ルニ適ス

今世界大戰ニ於ケル交戰諸國ノ實施シタル所ヲ觀ルニ左ノ如シ

佛國	露國	伊國	奧國
開戰前ノ兵役年限	開戰前ノ兵役年限	開戰前ノ兵役年限	開戰前ノ兵役年限
自滿二十歲	自滿二十歲	自滿二十歲	自滿十九歲
至滿四十八歲	至滿四十三歲	至滿三十九歲	至滿四十二歲
開戰後ノ兵役年限	開戰後ノ兵役年限	開戰後ノ兵役年限	開戰後ノ兵役年限
自滿十七歲	自滿十七歲	自滿十七歲	自滿十八歲
至滿四十八歲	至滿四十三歲	至滿四十四歲	至滿五十五歲

二 合格例規ノ低下、徵集免除及轉役者ニ對スル身體再検査、<sup>ハ</sup>猶豫特權ノ廢止

合格例規ヲ低下シ採用人員ヲ増加シ再三身體検査ヲ反覆シテ曩ニ不合格タリシ者又ハ徵集免除、兵役免除ト爲リタル者ノ中ヨリ更ニ兵員ヲ求ム此事ハ大戰間交戰各國ノ實施シタル所ニシテ兵員ノ補充ヲ容易ナラシムルト共ニ普ク國民ニ兵役義務ヲ實行セシムル爲ニ必要ナリ又徵集猶豫ノ特權ハ各國共ニ之ヲ廢止シタリ

三 不可充要員及準不可充要員ノ交代出征

兵役義務年限内ニ在ル者ト雖法律ニ依リ不可充要員又ハ準不可充要員トシテ軍ニ召集セラルルコトナク國內ノ諸勤務ニ従事スル者アリ是等ハ戰役久シキニ互ルニ從ヒ交代出征セシムルコト必要ニシテ此ノ如クニシテ一般ノ人心ニ良感響ヲ與ヘ當事者ノ敵愾心ヲ作興振起シ其精神ヲ緊張セシムルヲ得ヘシ

四 戰線勤務者ト後方勤務者トノ交代

危險ナル戰線勤務ニ従事スル者ト比較的安全ナル後方勤務ニ服スル者トヲ時々

交代セシムルコト亦必要ニシテ此際各自ノ境遇國家ノ爲ニ提供シタル犧牲等ヲモ考量參酌スルヲ要ス

五 佛國「ダールビエズ」法ノ要旨(千九百十五年八月制定)

- イ 法律ニ依リ餘人ヲ以テ代フヘカラサル職務ニ在ルモノトシテ殘置セラレタル者ニシテ補助勤務又ハ第二次後備ニ屬セサル者ハ退職官吏、同雇員、同備人、癩疾免役ノ軍人又ハ其妻、母、娘、姉、妹等ヲ以テ交代シタル後召集ス但シ事務ノ關係上交代セシメ得サル者ハ當該大臣ノ申請ニ依リ陸軍大臣之ヲ裁斷シ之ヲ其位置ニ留ラシムルコトヲ得
- ロ 動員セラレタル或ハ動員スヘキ年級ニ屬シテ補助勤務兵ニ編入セラレ又ハ一時免役又ハ第二種免役ニ入りタル者ハ編入或ハ免役決定後三箇月ヲ經テ特別委員會ノ検査ヲ受ケシム
- ハ 免役者並年齢ノ關係上有ユル兵役ノ義務ヲ免除セラレタル者ト雖能力審査ノ上必要ニ應シ戰役間ニ限り各自選定スル職ニ從ヒ軍務ニ服スルノ特別

契約ヲ結フコトヲ得

ニ 現役下士卒ニシテ内部地帯タルト野戰軍地帯タルトヲ問ハス室内勤務ニ従事スル者及内地ノ自動車勤務ニ従事スル者ハ前項ノ者又ハ補助勤務兵或ハ之ヲ缺ク時ハ第一次及第二次後備兵ヲ以テ交代ス其交代ノ爲第一次又ハ第二次後備兵ヲ用フル場合ニハ最大數ノ家族ヲ有スル父及最古年級ニ屬スル者ヨリ始ム

ホ 現役又ハ豫備役ノ年級ニ屬スル軍勤務下士卒ニシテ戰闘能力ヲ有シ而モ開戰以來未タ戰場ニ在リシコトナク本法律公布ノ際尙補充隊ニ在ル者ハ如何ナル理由アルモ向後後方ニ留メ置クコト能ハス

ヘ 軍検査總監ヲシテ三箇月毎ニ衛生隊及各種勤務部ニ就テ検査ヲ實行セシメ戰闘力ヲ有スル下士卒ニシテ不當ニ或ハ必要以上ニ此等ノ部隊ニ留マリツツアル者ハ之ヲ軍ニ轉入セシム

六 佛國「ムーリエ」法ノ要旨(千九百十七年八月制定)

佛國ニ於テハ曩ニ「ダルビエズ」法ヲ制定公布シタリト雖尙法網ノ密ナラサルモノアリシヲ以テ實際ノ運用ニ於テ此法ノ不備ヲ利用シ其間隙ヲ潛ル者アリシヲ以テ更ニ嚴密ナル法律ヲ必要トシ千九百十七年八月遂ニ本法ノ制定ヲ見ルニ至レリ其要點ハ左ノ如シ

イ 不可充要員及準不可充要員ニテ事務ノ關係上交代出征ノ不可能ナル者ハ陸軍大臣ノ裁斷ニ依リ依然其位置ニ留ルコトヲ得ルハ「ダルビエズ」法ノ明示スル所ナレトモ此除外例ノ濫用ヲ嚴ニ戒メ眞ニ已ムヲ得サル者ノ外交代出征セシム

ロ 不可充要員準不可充要員以外ノ者ニシテ開戰後未タ一回モ出征シタルコトナキ者並出征シタル者ノ内ニテ其期間一年未滿ノ者ヲ出征セシム

ハ 出征者中多數ノ子女ヲ有スル下士卒、一族中ヨリ多數ノ犠牲者ヲ出タシタル同族ノ下士卒等ヲ危險尠キ部隊ニ移ス

要スルニ「ダルビエズ」法及「ムーリエ」法ハ姉妹法ト稱スルヲ得ヘク兩法律相俟チテ兵役義務ノ均等ヲ實現セントスルニ在リ

## 其二 社會政策的施設

社會政策的施設ノ大部ハ國家ノ財政經濟政策ニ屬シ社會政策的稅制ノ設定、職業仲介、勞働保險、失業救濟、物價ノ規正、主要食料品ノ管理等皆然ラサルナシ而シテ是等ノ件ニ關シテハ次章ニ於テ說述スヘク本章ニ於テハ單ニ戰時社會政策ノ重要ナル所以並其重要ナル著眼ニ就テ述フル所アラントス

既ニ屢述ヘタル如ク戰爭ハ國民ノ生産消費ノ均衡ヲ破壞シ俄然トシテ其平和ナル生活狀態ヲ攪亂シ其所得ニ一大變動ヲ與フルモノナルカ故ニ國民ノ生活ヲ安定シ感情ノ惡化思想ノ頽廢ヲ防止セント欲セハ戰時特ニ社會政策ニ意ヲ須ヒサルヘカラサルハ蓋シ明瞭ナリト言フヘシ

就中出征軍人ノ家族、戰病死者ノ遺族、戰傷並不具癡疾者等ニ對スル精神及物質兩方面ノ慰安救濟ノ手段ヲ講スルコト最モ先要ニシテ是等ハ單ニ民間有志ノ慈善の一時事業ニ委スルコトナク政府ハ大規模且徹底的ノ施設ヲ爲ササルヘカラス露國勞農政府ハ既ニ戰ニ飽キ武器ヲ棄テテ家郷ニ歸リシ國民ヲ驅ツテ再ヒ對反

過激派戰對波蘭戰等ニ從事セシメタリシカ出征兵士ノ家族ニ對スル救護ニ就テハ多大ノ努力ヲ吝マス又鐵ノ如キ精神ヲ以テ獨逸國民ヲ率キ最後ノ一兵ニ至ル迄戰爭ヲ繼續セントシタル剛斷ナル「ルーデン」將軍ノ如キモ軍人ノ愛護其家族ノ救濟ニ就テハ多大ノ盡力ヲ爲シタリ即チ「ルーデン」救護團ヲ組織シ戰傷病者ニシテ軍隊ヨリ除隊後傷病ノ再發シタル者不具癡疾ト爲リタル者等ニ對シ治療療養ノ便宜ヲ與ヘ以上ノ者ノ生活ヲ助クル爲ニ是等ニ職業教育ヲ施シ且其家族ノ生活子女ノ教育ヲ幫助シ又出征軍人カ歸郷後ニ於ケル土地及住宅獲得ヲ容易ナラシムル爲ニ盡瘁シタルハ著名ナル事實ナリトス奈翁一世亦如何ニ軍人並其家族ノ救護ニ就テ努力シタルカハ史乘ニ明ナル事實ニシテ今茲ニ費スルヲ要セサルヘシ

其他一般人民ノ保健衛生ニ關スル施設モ亦戰時忽ニスヘカラサル一事業ニ屬ス

## 其三 愛國教育宣傳

凡ソ如何ナル政策ニモセヨ之ヲ實行セント欲セハ先ツ宣傳ヲ行ヒ國民ヲシテ其



政策ノ目的、之カ齋ス效果等ヲ明確ニ了解セシメ民衆ヲシテ當該政策ノ實現ニ協力セシムルコト肝要ニシテ困難ナル戰時政策ノ實施ニ於テ特ニ然リトス加之戰時敵國又ハ國內不逞分子ノ行フ惡宣傳ヲ壓倒擊滅シ國民ノ志氣ヲ振起スル爲ニハ機宜ニ適スル所要ノ宣傳ヲ行フコト必要ニシテ世界大戰間交戰諸國ノ其ニ大ニ努力シタル所ナリ

宣傳ニハ對內宣傳、對同盟國宣傳、對中立國宣傳、對敵國宣傳等アリテ戰時ニ於ケル其事業ハ頗ル廣汎多岐ナルヲ以テ到底單一ナル機關ヲ以テ其任務ヲ果サシムルコトハ不可能ニ屬シ各省各部各、相當ノ宣傳ヲ行フコト必要ナリト雖而モ國家ノ一定セル統一方針ノ下ニ諸機關カ協同事ニ當ルヲ必要トシ此ノ如クニシテ宣傳ノ統一ヲ保チ其威力ヲ増大スルヲ得ヘシ戰役末期英國カ遂ニ一省ヲ設ケテ宣傳業務ヲ擔當セシメタルカ如キハ洵ニ故アリト言フヘシ

獨逸最高統帥部ノ意見ニ從ヘハ獨逸ノ宣傳ハ對內對外共ニ統一ヲ缺キ其規模亦狹小ニシテ其威力微弱ナリシ爲遂ニ敗北ノ一原因ヲ爲シタリト云フ大戰間獨逸最高統帥部カ宣傳特ニ愛國教育宣傳ノ必要ヲ痛感シ大ニ畫策努力スル所アリシ

ハ著名ナル事實ニシテ政府ノ爲ス所最高統帥部ノ期待ニ副ハサリシコトモ亦事實ナルカ如シト雖獨逸ノ宣傳戰ニ於テ不利ニ陥リタル根本的原因ノ一トシテ看過スヘカラサルハ「ウイヘルム、グント」カ喝破セル如ク既ニ平時ヨリ國民思想上ニ病根ヲ有シ戰爭ニ對スル國民ノ根本觀念一致セス特ニ國民各階級ノ追及スル戰爭目的ノ一ナラサリシニ基クコト即チ是ナリ

宣傳ノ手段ハ通信社、新聞其他出版物、無線電信、電話、繪畫、映畫、演劇、口演等種々多端ニシテ要ハ各種ノ手段方法ヲ活用シ當時ノ民心ニ適應スル宣傳ヲ實行スルニ在リ之カ爲先ツ宣傳ノ畫策實行ニ任スル者カ民衆心理ヲ如實ニ理解スルコトヲ先要トシ一般民衆カ何物ヲ疑ヒ何物ヲ憂ヒ何物ヲ聽カント欲スルヤヲ正當ニ了解セサルヘカラス民衆ノ心理ヲ正當ニ理解セス此現實ノ國民心理ニ相反スルカ又ハ風馬牛相關セサル宣傳ノ何等ノ效果ナキハ蓋シ明白ナリト言フヘシ

是ヲ以テ宣傳ヲ畫策シ之カ指導ニ任スル人物ノ選擇銓衡ヲ適當ニスルト同時ニ民衆ノ心理ヲ正シク當局者ニ相反映セシムル爲ノ諸手段ヲ講スルコト亦極メテ緊要ナラスンハアラス是カ爲各部隊各國民間ニ「質問箱」等ヲ設置スルコトモ

亦一案タルヲ失ハサルヘシ

更ニ切言スレハ百ノ空文空語ハ一ノ活模範ヲ以テスル宣傳ニ如カス戰時資本家又ハ貴族等カ自ラ率先シテ大ナル犠牲心ヲ發揮シ義勇奉公ノ實ヲ示スコトハ最モ必要ニシテ世界大戰間交戦列國就中白耳義英國等ノ元首ヲ始メ其貴族富豪等カ如何ニ軍國ノ爲ニ盡シ且大ナル犠牲ヲ提供シタルカハ世間周知ノ事實ニ屬ス社會及政治上ニ於テ優越セル地位竝權利ヲ有スル階級カ戰時大ニ發奮盡瘁シ他ノ階級ニ比シ一層大ナル犠牲心ヲ發揮スルノ必要ハ將來戰ニ於テ特ニ緊要ニシテ此事無クンハ到底國民各階級ノ精神的團結ヲ維持スルコト能ハサルヘク忽ニシテ敵竝社會革命ヲ企圖スル一派ノ宣傳ニ乗セラルヘキコトヲ覺悟セサルヘカラス

戰時愛國心ヲ鼓舞シ國民精神ヲ作興スル爲如何ナル事項ヲ宣傳スヘキカハ一概ニ之ヲ論斷スルコト能ハス要ハ時ト場合トニ應シ機宜ニ適スル事項ヲ宣傳スルニ在リト雖少クモ左記事項ハ普ク國民ニ徹底セシムルヲ必要トス

イ 戰爭ノ目的竝其勝敗カ國民ノ運命就中國民ノ實生活ニ如何ナル關係ヲ有

スルカヲ適確明瞭ニ了解セシメ最善最大ノ努力ヲ盡シテ戰爭ヲ遂行スヘキコトノ必要ナル所以ヲ知ラシム

ロ 開戦ノ責任ハ敵ニ在ルコト竝人生ノ目的、民族ノ使命、世界思潮ノ大勢、國際政局ノ現狀等ニ照ラシ我カ戰爭目的カ正當且合理的ニシテ敵ノ戰爭目的カ不正ナル所以ヲ闡明シ國民ノ敵愾心ヲ鼓舞シ且其戰勝ニ對スル確信ヲ鞏固ナラシム

ハ 敵ハ如何ナル方策手段ヲ用ヒ我カ國民ノ精神的團結ヲ破壞シ我カ國家組織ヲ顛覆セントスルカヲ詳細明確ニ説明シ國民ハ如何ナル覺悟ト如何ナル注意トヲ必要トスヘキカヲ明示ス

ニ 機ニ投シ戰線ニ於ケル我カ將卒ノ勇戰健闘ノ情況及我カ國民各階級ノ協調精勵ノ實情ヲ紹介シ且戰爭ニ對スル國民各階級ノ負擔ノ公平、犠牲ノ均等等ヲ説明シ戰爭ノ遂行ハ國民全體ノ利益ト爲ルモノニシテ決シテ一部階級ノミノ幸福ヲ齎スモノニアラサル所以ヲ明ニス

ホ 苟モ敵國政府又ハ其軍隊、國民等ノ言動ニシテ不正不當ナルモノヲ發見セ

ハ機ヲ失セス之ヲ公示シ國民ノ敵愾心ヲ鼓舞ス

## 第四章 戰時財政及經濟

### 第一節 戰爭ト財政及經濟

既ニ前編第一第二章ニ於テ述ヘタル如ク古來經濟上ノ動機ハ屢、戰爭ノ有力ナル起因ト爲リ又戰爭ノ經濟上ニ與フル影響ハ頗ル甚大ナリ經濟ノ進歩發達ノ顯著ニシテ文明及文化發達ノ駁々タル方今ニ於テ特ニ然リトス「フリッツ、ノイビュルゲル」博士曰ク「現代ニ於ケル資本主義的經濟ハ戰爭ニ對シ著シキ反對ノ態度ヲ有ス然レトモ戰爭自體ヲ生物學上ノ必須トシ人心ノ内部ニ潜在スル膨脹慾ノ發現ト觀ルトキハ最大ノ利益ヲ得ンカ爲ニ無限ノ努力ヲ爲シツツアル現代經濟組織ノ如ク戰爭ヲ必要トスルモノハ亦存セサルヘシ」ト財貨及資本ハ總テノ罪惡ノ根源ヲ爲シ戰爭ノ有力ナル原因タルト同時ニ戰爭ヲ遂行スル爲ニモ亦莫大ナル財貨及資本ヲ必要トシ一國ノ利用シ得ル財貨及資本ノ多少並其調達方法ノ適否、運用ノ巧拙等ハ戰爭ノ勝敗ニ至大ノ關係ヲ有ス

抑、我財政經濟狀態ヲ良好ナラシメ陸、海、空軍等ノ要求ヲ充足スルト共ニ國民生活ノ安定ヲ期スルコトハ戰勝ニ缺クヘカラサル第一要件ニシテ敵ノ財政經濟狀態ニ壓迫ヲ加ヘ爲シ得レハ之ヲ攪亂破壞スルコトヲ努ムルコト亦必要ナリトス今ヤ經濟上ノ攻守ハ武力角逐ト相併ンテ頗ル重要ナル戰爭行動タルニ至レリ是レ戰爭カ益、大規模ト爲リ大國民戰ト爲レル自然ノ結果ニシテ特ニ世界大戰ノ如ク交戰兩團體ノ武力ニシテ相均衡センカ其平衡ヲ破リ戰局ノ決ヲ齎スモノ實ニ經濟的因子タラスンハアラス

戰爭ハ元來人カ物ヲ使用シテ行フ事業ニシテ人ト物ト金錢トハ戰爭ニ缺クヘカラサル要素タルコト明瞭ナリ從テ素質優秀ナル人間ト物件トヲ豊富ニ所有シ且多額ノ資金ヲ有スルコトハ戰勝ノ有力ナル素因タルコト論ヲ俟タサル所ナリト雖而モ單ニ其レタケニテハ未タ以テ足レリト稱スヘカラス其運用ノ準備完全ニシテ其運用組織良好而モ運用法宜シキヲ得ルコト亦極メテ須要ナリトス最近大戰間獨逸カ其卓越セル「準備」組織「運用法」ヲ以テ有限ノ戰爭諸資源ノ能率ヲ殆ント最大限ニ發揮シタルコトハ世間周知ノ事實ニシテ兎モ角モ聯合諸國ニ拮抗シ四

箇年餘ニ互リ勇戰健闘ヲ續行シタルコトハ正ニ世界ノ一大奇蹟タルノ感無クン  
ハアラス

之ニ反シ協商諸國カ數ニ於テ莫大ナル人間ト物料ト資金トヲ擁シタルニ拘ラス  
迅速ニ戰局ヲ解決スルコト能ハス所謂持久戰ニ陥リ米國ノ來援ヲ待タサルヘカ  
ラサルニ至リシ所以ハ實ニ其準備ニ於テ劣リ其運用ノ組織並運用法亦獨逸ニ及  
ハサリシニ存スト言フヲ得ヘシ

戰爭ニ要スル人ト物トヲ迅速ニ整備シ且有限ノ資源ヲ以テ其最大能率ヲ發揮セシ  
メント欲セハ周到ナル準備ノ存在ト運用ノ組織並運用法宜シキヲ得ルコトヲ必要  
トシ是カ爲國家諸般ノ制度組織ノ完備國民ノ教育訓練ニ努力スルコトハ直接ノ戰  
爭準備ト相俟テ最モ重要ナル戰爭準備タルコト第一章ニ於テ詳述シタル所ニシ  
テ此事ハ戰時財政經濟ニ關シテモ亦然リトス即チ國家ノ財政經濟組織ノ良好ナ  
ルコト財政經濟上ノ戰備ノ周到ナルコト及戰時財政經濟ノ運用宜シキヲ得ル爲  
人物ヲ教育訓練シ置クコトハ蓋シ極メテ重要ナル戰爭準備ノ一タラスンハアラス  
現時ノ戰爭ニ於テ戰時財政經濟ノ計畫、準備並其運營ノ極メテ重要ナルニ至リシ

所以ハ嘗ニ戰爭カ大規模ト爲リ莫大ナル人間ト資材ト財帛トヲ要スルカ爲ノミ  
ニアラス其有力ナル一原因ハ實ニ經濟ノ進歩、人文ノ發達、社會ノ進化殊ニ思想ノ  
複雜ナル進化錯綜ニ在ルコトヲ看過スヘカラス

國民ノ能力ヲ最大限ニ發揚セント欲セハ國民的團結ノ鞏固ナルコトヲ先要トシ  
國民的團結ノ鞏固ハ國民ノ感情及其思想ノ健全安定ニ依リテ得ラルヘキコト明  
白ナリ然ルニ經濟ノ發達顯著ニシテ人文ノ進歩生活ノ向上著シキ當今ニ於テハ  
戰爭ノ人間生活上ニ與フル影響ハ實ニ甚大ナルモノニシテ自ラ人間生活ヲ極度  
ノ窮迫ニ陥ラシムルノミナラス富ノ分配及負擔ノ不公平ヲ誘起ス是ニ於テカ既  
ニ戰爭テフ大變動ニ因リ震撼セラレタル人心ハ生活ノ窮迫ト所得負擔ノ不公平  
トノ爲益、動搖ノ度ヲ倍加スヘキハ自然ノ理ニシテ所謂危險思想ノ培養、生育、繁殖、  
爆發等ノ爲好個ノ地盤ヲ提供スルニ至ルコトハ世界大戰ノ明白ニ證明シタル所  
タラスンハアラス凡ソ世界大戰中程正義人道ノ絶叫セラレタルコトカク我國ノ  
如キモ正義人道ノ爲ニ參戰シ戰爭ノ犠牲ハ比較的少キニ拘ラス其利得ハ可ナリ  
ニ大ナリシナリ然ルニ人心ハ此正義人道ノ絶叫裡好景氣ノ最中ニ於テ却テ惡化

シタルハ吾人ノ記憶ニ尙新ナル所ナリトス  
人文ノ發達社會ノ進化ト共ニ社會思想ノ複雜ト爲リ思想ノ混亂錯綜ヲ來スハ免  
ルヘカラサル自然ノ歸結ニシテ如何ニ努力スルモ相反スル思想ノ對立拮抗ノ現  
象ヲ絶滅スルコトハ不可能ニ屬シ各其存在ヲ主張シ其正ヲ貫徹センコトヲ勉ム  
是レ人間意志ノ自由ニ由來スル當然ノ結果ニシテ戰爭ノ生スル所以階級軋轢ノ  
起コル所以且喧嘩、訴訟ノ絶エサル所以ナリトス是ヲ以テ程度形式ノ差コソアレ  
世ノ中ノ真相ノ一面ハ確ニ所謂總テノ者ノ總テニ對スル戰爭狀態ナリト言フヘ  
ク唯是レ人生ノ一面ニシテ其全面ニアラサルノミ  
彼上ノ次第ナルカ故ニ反對者ノ觀テ危險思想トスル所ノモノハ常ニ世ノ中ニ存  
在スヘク此存在カ人生ノ進歩ニ貢獻スルト共ニ又時トシテ人生ノ大不幸事ヲ惹  
起スルモノナリ而シテ戰爭ハ實ニ其レ自體人生ノ大不幸事ナルノミナラス更ニ  
他ノ大不幸事ヲ惹起セシムル有力ナル媒介者助成者タラスンハアラス殊ニ方今  
人間生活ノ向上文明ノ進歩ト共ニ人ハ營ニ政治的平等ヲ獲得スルヲ以テ満足セ  
ス進ンテ更ニ經濟的平等ヲ要求セントスルノ趨勢ニ在ルニ拘ラス戰爭ハ或ル意

味ニ於テ人ノ經濟的平等ヲ擾亂破壞スルモノナリ社會ノ危險ハ即チ是ヨリ生ス  
ルコトヲ看過スヘカラス

若シ大戰間獨逸及露國埃匈國等ノ一般民衆ニシテ戰爭ノ繼續カ結局彼等ノ利益  
ト爲ルヘキコトヲ確信シ居タランニハ恐ラクハ革命ヲ歡迎シ又ハ革命ニ對シ無  
關心タラサリシナルヘク彼等ノ或ル者カ或ハ革命ニ共鳴シ或ハ之ヲ歡迎シ或ハ  
之ニ對シ無關心タリシ所以ハ即チ戰爭ノ繼續カ主戰派タル軍閥又ハ資本家ノ利  
得ヲ生ムノミニシテ却テ彼等ノ損失ト爲ルモノト思惟シタルカ又ハ少クトモ之  
ニ對シ疑惑ノ念ヲ懷クニ至リタレハナリ凡ソ戰爭ニ對スル犧牲ノ負擔ヲ公平ニ  
シ戰爭ヨリ生スル利得ノ分配ヲ公正ナラシムルコトハ即チ國民的團結ヲ鞏固ナ  
ラシメ國民的能力ヲ最大限ニ發揮スル爲ノ根本要件ニシテ是レ戰時財政經濟ノ  
計畫準備並其運用上ニ於ケル大主眼ナリ戰時財政經濟政策ニ於テ社會政策的施  
設ノ緊要ナル所以實ニ此ニ存スト言フヘシ

第十七世紀迄ハ戰爭ハ高價ニシテ平和ハ通常之ニ反セリ蓋シ當時常備軍ノ數ハ  
僅少ニシテ新シキ戰爭ノ爲ニハ通常新軍ヲ募集シタレハナリ然ルニ其後國家主

義ノ發達著シク國際競爭ノ激甚トナルヤ各國共ニ常備軍ヲ増大シタルヲ以テ平和モ亦頗ル高價ナルニ至リ第十九世紀ニ於ケル英國ノ如キハ到底此高價ナル平和ニ堪フル能ハス遂ニ普國トノ開戦ヲ敢テスルニ至レリ此ノ如ク平和ヲシテ高價ノモノタラシメタルハ普王「フレデリック、ウヰリアム」二世ナリト稱セラル蓋シ王ハ近世式軍隊ノ創設者ナレハナリ

戰爭カ益、科學的ト爲ルニ從ヒ軍人ノ價ハ愈、高價ト爲リ戰爭ノ生長、戰爭ノ進化、物價勞銀ノ騰貴ト共ニ戰爭ハ益、高價ナルモノトナレリ今各大戰役ノ戰費ノ概額ヲ舉クレハ左ノ如シ（概ネ休戰迄ノ戰費）

「ナポレオン」戰役	一二五
南北戰役	一六〇
「クリミア」戰役	三四
普佛戰役	七〇
南阿戰役	二五
日露戰役	五〇

世界大戰ニ於ケル交戰諸國ノ直接戰費總計ハ約四千億圓（三千七百二十億圓）ト稱セラレ米國ノ如キハ參戰二年間一時間平均百萬弗以上ノ戰費ヲ消費シ戰爭直接ノ費用ハ殆ント米大陸發見ヨリ開戦當時迄全世界ニ產出シタル金ノ價格ヨリモ大ナリト云フ嘗テ「モンテクリー」ハ謂テ曰ク「戰爭ヲ爲スニ方リ必要ナル三事アリ第一ニ金錢第二ニ金錢第三ニ金錢ナリ」ト又或ル外人曰ク「日露戰役ニ於テ日本ノ財政問題ハ軍人ト同様ニ難戰苦闘シタリ」ト言ヤ何レモ中レルニ似タリト雖審ニ之ヲ按スルニ戰爭ニ絶對的必要ナルモノハ人及物即チ資本ト生産力トニシテ金錢ハ單ニ人ト物トヲ轉換移動セシムル爲ノ媒介物タルニ過キス人ト物トノ不足ハ人ト物トヲ以テ補ハサルヘカラス金錢ハ不足スル人及物ヲ調達運用スル爲ニ必要ナルモノナレトモ直ニ人ト物トノ代用ヲ爲ササルノミナラス金錢無ケレハ絶對ニ人ト物トヲ調達運用シ得サルニアラス即チ實際戰爭ニ必要ナルモノハ金錢ニアラス公債ニアラス是等ノ目的物タル生産物及勞働力ニ在リ戰爭ニ對スル金銀ノ價值ハ到底人ト物トノ價值ニ對比スヘカラス殊ニ大戰間ノ獨塊國ノ如ク被包圍ノ状態ニ在リテ國外ヨリノ物資、軍需品ノ購入意ノ如クナラサル國家ニ於

テ若シ戰後ノ財政整理ヲ考慮外ニ置クトキハ金錢問題ハ大戰前世人ノ考ヘタル如ク重大ナルノ意義ヲ有セサルコトハ大戰ノ結果明白ト爲レリ換言スレハ戰爭ニ於テ最モ重大ナルモノハ經濟問題ニシテ財政問題ハ戰後ノ整理ヲ度外視スルトキハ第二次的價値ヲ有スルニ過キヌ被包圍鎖國的狀態ニ在ル國家ニ於テ特ニ然リトス

戰時財政ト言フ言葉ヲ聞キ先ツ人ノ念頭ニ來ルモノハ金錢ナルヘシ然リ財政ト言フ以上ハ金錢カ頗ル重大ナル關係ヲ有スルコトハ論ヲ俟タサル所ナリト雖戰時財政ニ於テ金錢以外尙幾多ノ重要ナル要素ノ存在スルコトヲ閑却スヘカラス況ンヤ戰時經濟ニ於テオヤ國家ノ權力、國民ノ愛國心犧牲心、國家諸般ノ組織等即チ是ナリ

戰時困難ナル財政經濟政策即チ戰費ノ調達ノ爲ノ租稅政策及公債政策、金融ノ逼迫ヲ緩和スル爲ノ各種金融政策、國民生活ノ安定ヲ期スル爲ノ各種經濟的施設等ヲ斷行シ國民ヲシテ其要求ニ應シ其指示ニ從ハシムル爲ニハ大ナル國家ノ權力ヲ必要トシ之カ爲基礎鞏固ニシテ内外ノ信望ヲ荷フ強力ナル政府ハ戰時財政經

濟ノ運用ニ極メテ必要ナルコトヲ知ラサルヘカラス往年我國ニ於テ米價ノ暴騰ヲ見ルヤ寺內內閣ノ農相仲小路廉氏ハ極力米價ヲ調節センコトヲ企圖シ奮勵大ニ努ムル所アリシト雖此目的ノ爲ニ徹底的の方策ヲ斷行スルコト能ハスシテ已ミタリ識者ハ敍上ノ事實ヲ觀テ其主要ナル根本原因ヲ當時ノ內閣ノ政治的並法律的ニ微力ナリシコトニ歸スルニ於テ一致ス戰時並戰後獨佛、米等ノ政府カ如何ニ其強大ナル權力ヲ發揮行使シタルカニ想到スレハ蓋シ思半ハニ過キン

國民ノ犧牲心ノ大小、義勇奉公心ノ厚薄ハ戰時財政經濟ノ運用ニ大關係ヲ有シ最近大戰間交戰列強カ其財政經濟政策遂行ノ爲如何ニ其國民ノ愛國教育愛國宣傳ニ力ヲ用ヒタルカハ世人ノ記憶ニ尙新ナル所ナルヘシ即チ公債ノ募集、租稅ノ徵收、恐慌ノ防止、金融逼迫ノ緩和、生産ノ増加、消費ノ節約、勞力及物資ノ供給、物價騰貴ノ抑制、投機ノ防遏等何レカ國民ノ犧牲心愛國心ニ俟タサルモノアリヤ大戰間獨逸國民ハ大ニ愛國犧牲心ヲ發揮シ不利ナル環境ニ在リテ比較的良好ナル成績ヲ舉ケタルハ何人モ承認スル所ナリト雖仔細ニ檢スレハ尙幾多ノ非愛國的行爲ヲ爲シタル者亦尠シトセス特ニ千九百十七年以後人心ノ弛緩頹廢ト共ニ益、甚シカ

佛國ハ未タ財政整理ノ緒ニ就カサル不利ナル時機ニ於テ大戰ニ遭遇シタルニ拘ラス能ク厯大ナル戰時財政ヲ整理シ好成績ヲ擧ケ戰爭遂行上ニ遺憾ナカラシメタルモノ佛國民ノ愛國心ニ負フ所鮮カラサルハ明白ナリ  
抑國民ノ利己心、不節制、放漫、怠惰等ハ戰時財政經濟ヲ紊亂シ其處理ヲ困難ナラシムルモノニシテ財政經濟政策ノ圓滑ナル遂行ヲ望ミ其好成績ヲ擧ケント欲セハ官民一致極力民心ノ鼓舞作興ニ努メ其弛緩頹廢ノ防遏ニ努力セサルヘカラス  
戰時財政經濟運用ノ成績ハ政府ノ權力ノ大小、國民ノ犧牲奉公心ノ厚薄等ニ關スルノミナラス又實ニ財政經濟ノ組織ニ關スルコトヲ閑却スヘカラス大戰間獨逸カ其財政經濟ノ運用ニ於テ比較的良成績ヲ擧ケ得タルモ亦其財政經濟組織ノ優越ナルニ負フ所鮮少ナリトセス特ニ其工業組織、金融組織、商業組織ハ彼カ最モ誇トスルニ足ルヘキモノナリシコトハ萬人ノ齊シク首肯スル所ナルヘシ  
之ヲ要スルニ戰時財政經濟ニ必須ナル要素ハ當ニ物資ト資金トノミナラス國家ノ強大ナル權力、國民ノ旺盛ナル犧牲心、良好ナル財政經濟組織等ニ在リ然ルニ世

界大戰前ノ經濟學者ハ單ニ前者ヲ過重視シテ後者ヲ閑却シタルノ憾無クンハアラス既ニ此誤謬ニ坐ス方今ノ大戰爭カ財政經濟的理由ヨリ永續スルコト能ハスト速斷シタルモノ亦宜ナリト謂フヘシ  
戰時財政經濟ノ運用ヲ容易ナラシメ且其狀態ヲシテ良好ナラシムル爲ニ緊要ナル他ノ一要素トシテ輕視スヘカラサルモノハ武力ノ優越ト勝戰トニ在ルコトヲ銘記スルヲ要ス現時ノ戰爭ニ於テハ彼我共ニ或ハ封鎖手段ヲ以テ經濟的壓迫ヲ加ヘ又ハ航空機ヲ以テ經濟的中樞ノ破壞擾亂ヲ企圖スルノミナラス宣傳、陰謀其他各種ノ手段ヲ以テ内外債ノ募集ヲ妨害シ或ハ海外ヨリスル物資ノ補給ヲ遮斷スルコトヲ勉ムヘキヲ以テ武力ノ優越ハ即チ彼上ノ敵ノ行動ヲ壓倒排除スル爲ニ極メテ必要ナル要件タルコト明白ナリトス又勝戰ハ或ハ資源ヲ獲得シ或ハ同盟國相互及中立國トノ間ノ交通連絡ヲ開キテ物資、軍需品等ノ交換補給ヲ容易ナラシメ若ハ我カ當局ニ對スル内外ノ信用ヲ增加シテ内外債ノ募集ヲ有利ナラシムル等直接間接ニ戰時財政經濟ノ運用ニ至大ノ便益ヲ與フルモノナリ  
大戰間獨軍軍隊ノ勝利ニ因ル領土及資源ノ獲得カ同國ノ財政經濟上ニ與ヘタル



好影響並其戰況ノ推移ト公債募集ノ成績トノ關係、佛國ニ於ケル「マルヌ」會戰前後戰費調達ノ難易、日露戰爭ニ於ケル我戰局ノ進捗ト外債募集ノ成績トノ關係等ハ最モ雄辯ニ敍上ノ真理ヲ語ルモノト言フヘシ戰爭遂行ニ必要ナル戰爭資源ヲ確保又ハ獲得スル爲萬難ヲ排シテ某地方ニ對シ神速果敢ナル攻勢作戰ヲ實施シ所要地域ノ領有ヲ圖ルヲ要スルコトアルヘク其他各種ノ經濟的必要ヨリシテ所要ノ地方ニ對スル作戰ヲ企圖スルヲ要スルコトアルヘキハ勿論ナリトス

千九百十六年秋ニ於ケル中央同盟諸國ノ經濟的事情ハ絕對ニ羅國ノ「ワラキヤ」平地ノ領有ヲ必要トシ又千九百十八年ニ於テハ「ウクライナ」攻略ノ成否如何ハ實ニ中央同盟諸國ノ經濟的死活ヲ制スヘキ問題タリシナリ「ルーデンドルフ」將軍ハ其著「戰爭ノ指導ト政治」ニ於テ敍シテ曰ク「我カ經濟的狀態ハ決定的ニ我カ作戰指導ヲ左右シ時トシテハ作戰ヲ指向スヘキ方面迄モ決定セリ而シテ敵ノ經濟ヲ破滅セシメ以テ戰爭ノ解決ヲ齎サントスル希望モ亦我カ作戰指導ヲ左右シ某時期ニ於テハ作戰ノ主目的ト爲リタルコトアリ千九百十七年春陸上ニ於テ守勢ヲ取り潛航艇ヲ以テ海上ニ於テ攻勢ヲ取りタルコト即チ是ナリト

世界大戰ニ於ケル中央同盟諸國ノ如ク被包圍ノ狀態ニ在ルモノハ同盟國彼此ノ間ニ於ケル物資、軍需品等ノ相互融通補給ニ便且迅速ナルノ利アリト雖結局資源ノ缺乏ヲ來スノ不利ヲ免ルル能ハス而モ中立國ニ於ケル資源ノ利用ハ頗ル困難ニシテ時ニ全然不可能ニ陥ルコトアルヘク概シテ經濟上不利ナル地位ニ在リト

言フヘシ

之ニ反シ鎖國狀態ニ在ル國家ノ財政ノ運轉ハ常ニ必スシモ困難ナルニアラサルコトハ大戰間ノ獨逸之ヲ明證ス即チ外國ヨリノ輸入僅少ナルカ故ニ中央銀行ノ金保有高ハ殆ント減スルコトナク否却テ増加セルノ傾向ナキニアラス又政府カ手形、大藏省證券或ハ公債發行等ニ依リテ得タル收入ノ大部分ハ再ヒ軍事上ノ支拂ノ爲ニ民間ニ放出セラレテ實業界ニ入り國家ノ消費スル資金ハ難テ公衆ノ有スル資金ト爲リ公衆ノ資金ハ一定期ノ後公債トナリテ再ヒ國庫ニ進入シ支拂ト受領トハ廣大ナル範圍ニ於テ交互ニ行ハレ財政金融ノ施設良好ナルトキハ圓滑ナル循環作用繼續セラルルモノナリ但シ戰後ノ財政整理ニ於テ大ナル困難ノ生スヘキハ固ヨリ論ナキ所ナリトス

封鎖状態ニ在ル國家ノ資金ハ外國トノ取引ニ使用セラルルコトナク主トシテ内地ニ於ケル商工業ニ使用セラレ一方戰爭ニ關係ナキ事業ハ縮小又ハ見合セラルルヲ以テ單ニ此見地ノミヨリ觀察スレハ國內ニ於ケル金融ハ潤澤ニシテ内國債ノ募集モ亦從テ割合ニ困難尠キモノノ如シ

外線ニ位置スル國家ハ確實ニ戰略的包圍ノ利益ヲ收メ得サル間ハ相互ノ物資、軍需品等ノ彼此融通補給ノ爲ニ不便鮮カラス且長時日ヲ要スルノ不利アルモ其戰略的包圍ノ利益ヲ收メ得ルニ至ラハ外國資金資源ノ利用ニ便ニシテ資源ノ枯渴ヲ來スノ虞尠ク敵ニ經濟的壓迫ヲ加ヘ得ルノ利アリ

## 第二節 財政及金融上ノ戰爭準備

國家ハ其戰爭計畫ニ於テ戰時財政計畫ヲ策定シ平時所要ノ財政的戰備ヲ整ヘ置カサルヘカラス往昔戰爭ノ比較的小規模ナリシ時代ニ於ケル財政的戰爭準備トシテハ單ニ若干ノ軍用資金ヲ準備セシニ止マリ殆ント他ニ見ルヘキ施設無カリシト雖今ヤ戰爭ノ益、大規模ト爲リ財政經濟ノ愈、複雜ナル進化發達ヲ見ルニ於テ

ハ財政的戰爭準備モ亦昔日ノ如キ單純淺薄ニシテ小規模ナルモノヲ以テ足レリトセス一層廣汎多岐深刻ナル戰爭準備ヲ必要トスルヤ論ナキ所ナリトス

吾人ハ先ツ戰時財政計畫特ニ財政的戰備ノ基礎タルヘキ戰費並戰爭ノ金融市場及資本市場ニ及ホス影響ヲ觀察討究シ次テ本研究ニ入ラントス

戰爭ニ要スル費用ハ一ニ戰爭規模ノ大小其繼續期間ノ長短ニ關スルモノニシテ豫メ精確ナル見積リヲ爲スコト不可能ナリト雖少クトモ其概算特ニ開戰初期所要戰費ノ概數ヲ考定スルコトハ不可能ニアラス即チ既往戰役ニ於ケル兵員一人宛一日ノ戰費ヲ基礎トシ且物價指數、動員兵數等ヲ考慮シ戰爭初頭ニ於ケル戰費概算ヲ求ムルヲ得ヘシ

世界大戰間交戰各國軍兵員一人ニ對スル一日ノ所要戰費ノ概數ハ既ニ第一章ニ於テ述ヘタル所ノ如クニシテ動員兵數及軍需品ノ數量ノ益、増大シ且物價指數ノ愈、増加スヘキ傾向ニ在ル將來ノ戰爭ニ於テハ莫大ナル戰爭用資金ヲ必要トスヘキハ蓋シ明白ナルヘシ

戰爭ノ勃發スルヤ政府ハ軍ノ動員、集中、輸送等ノ爲民間商工業者等ハ軍需品其他

ノ供給準備並軍兵ノ戰地出向等ノ爲急遽多額ノ資金ヲ要シ民心大ニ動搖シテ所謂經濟界ノ恐慌ヲ惹起スルハ歐洲大戰勃發當時ニ於ケル歐洲列強ノ體驗セル所ニシテ金融ノ動員並國民ノ訓練ノ爲平時既ニ多大ノ努力ヲ拂ヒタル獨逸ト雖亦千九百十四年七月下旬風雲急ヲ告クルヤ民心動搖シ帝國銀行兌換要求者ハ同行ニ蟬集シ伯林株式取引所ハ遂ニ閉鎖スルノ已ムナキニ至リ財界及經濟界ハ大混雜ヲ惹起シタリ

國民ノ冷靜沈著ヲ以テ誇レル英國ニ於テモ亦同様否寧ロヨリ以上ノ大恐慌ヲ呈シ倫敦株式市場ハ七月三十一日遂ニ其取引ヲ閉鎖スルノ已ムナキニ至リ爲替相場ハ極度ノ混亂ニ陥リテ遂ニ下落ノ絶頂ニ達シ銀行貸出利率ハ暴騰シテ三分ヨリ一割ト爲リ兌換及有價證券ノ再割引要求ノ爲民衆ハ英蘭銀行ニ蟬集シ銀行ハ預金取付ニ遭ヒ若干ノ銀行ハ其得意客ノ小切手ニ對シ金貨仕拂ヲ拒ムニ至リ八月三日ヨリ六日ニ互リ諸銀行ハ休業スルノ已ムヲ得サルニ至レリ  
佛國ニ於テモ亦金融界ハ極度ノ恐慌狀態ニ陥リ俄然民衆ノ預金取付、兌換請求起リ一切ノ經濟機關ハ茲ニ其活動ヲ停止シ株式市場ハ閉鎖セサリシト雖取引皆無

ニシテ各投資家ハ資金ノ回收ヲ迫リ各銀行ハ新取引ナク商工業界ノ沈衰極度ニ達セリ

之ヲ要スルニ戰爭勃發ノ金融並資本市場ニ及ホス影響ヲ概言スレハ左ノ如シ

イ 中央銀行

振替預金額及預金額ノ減少

正貨準備額ノ減少(兌換請求者ノ續出)

手形割引及擔保貸付ノ増加

資金要求額ノ増加

銀行券流通額ノ増加

發券準備割合ノ減少

ロ 貯蓄機關

外國預金者ノ引出

內國預金者ノ取付(大都市貯蓄銀行ニ於ケル少額預金者ノ恐慌的取付)

ハ 一般金融市場

第三編 戰爭ノ計畫、準備及其遂行 第四章 戰時財政及經濟

各方面ニ於ケル利率ノ昂騰、銀行利率及市中利率日貸金及月末決済資金  
一般人民ノ金銀貨死蔵

ニ 資本市場

投資家ノ投資減退及手控

高利ヲ以テセサレハ投資準備金アルモ之ニ應セス

從テ確定低利附證券相場例ヘハ國債等ノ相場ノ下落投機的證券特ニ直  
取引證券相場ノ下落銀行側ノ乘換資金及證券擔保貸付ノ回收ニ因リテ  
此變動ヲ更ニ大ナラシム

抑、財政的戰爭準備ノ主眼トスル所ハ莫大ナル戰費ノ調達ヲ容易ニシ國家ノ戰爭  
行動ノ進捗ヲ圓滑ナラシメ且金融市場並資本市場ノ恐慌ヲ防止シ金融ノ逼迫  
塞ヲ緩和シテ其圓滑ヲ期スルニ在リ是ヲ以テ政府、中央銀行、各金融機關、一般市場  
及國民ハ疾風のニ激増スル戰時ノ決済資金ニ對シ各、應分ノ準備ヲ爲シ且所要ノ  
訓練ヲ經テ信用制度ノ確立、相互協同シテ財務ノ處理ニ當ル習慣ノ養成ヲ圖ルコ  
ト緊要ナリトス

財政的戰爭準備モ亦他ノ戰爭準備ト等シク一面戰爭ノ要求ニ應スヘキコトヲ努ム  
ルト同時ニ他面平時ノ財政經濟上ノ要求ヲ充足セサルヘカラス而シテ此平戰兩  
時ノ二要求ヲ如何ナル程度ニ斟酌緩和スヘキカハ一ニ時勢ニ應シ時宜ニ從テ決定  
セラルヘキモノニシテ以下述ヘントスル財政的戰備ノ具體的事項モ亦時勢ノ要求  
ニ鑑ミ適當ニ取捨選擇シ時宜ニ適スル施設ヲ行ハサルヘカラス而シテ平時ニ於  
ケル一國ノ財政力能ク國民ノ經濟力ニ適應シ其財政ノ基礎鞏固ニシテ國民ノ負  
擔過重ナラサルコト國民ノ經濟力強大ニシテ其負擔力ニ餘裕アルコト並金融組  
織完備シテ彈力アル信用制度ノ確立シアルコトハ戰時財政ノ運用ヲシテ圓滑ナ  
ラシムヘキ根本要件タルコトヲ忘ルヘカラス左ニ之カ具體的說明ヲ試ミントス

一 國家財政ノ整備並國民經濟ノ發展

平時國家ノ財政ヲシテ國民ノ經濟的實力ニ適應セシメ以テ其財政ノ基礎ヲ鞏固  
ナラシメ置クコトハ財政的戰備ノ根本ヲ爲スモノニシテ又他方國民ノ經濟力ヲ  
發達セシメ其負擔能力ヲ強大ニシ戰時ノ莫大ナル負擔ニ堪ヘ得ル如ク爲シ置ク

## 二 非常準備資金

中世紀ノ終頃ヨリ近世ノ中頃ニ至ル迄歐洲各國ノ政府ハ何レモ財政上不時ノ急ニ備フル目的ヲ以テ基金又ハ資金ヲ蓄積シ其蓄積ノ多キモノハ即チ戰爭場裡ノ勝者ニシテ戰備ノ充實セルモノナリト稱セラレタリ我國ニ於テモ往昔武士ハ常ニ若干ノ軍用金ヲ鎧櫃ノ中ニ蓄フルヲ以テ其嗜ミト爲シ軍資金ノ有無多寡ハ勝敗ヲ決スヘキ重要ナル一要素ナリキ

普魯西ノ「フレデリック」大王カ狹小ナル領土ヨリ興リテ獨逸帝國ノ基ヲ創建シ少クトモ「ルイ」十五世カ補償金ヲ送付シ來ル迄彼ノ「シレジア」戰爭ヲ繼續シ得タルハ其父王「フレデリック」ウキリアム一世カ非常ナル勤儉ト努力トヲ以テ貯ヘタル百三十五萬磅ノ遺金ニ負フ所尠カラス其後獨逸ハ該方法ヲ以テ傳統的ノ主義ト爲シ千八百七十年戰爭當時ハ四百五十萬磅ノ戰備金ヲ有シ普佛戰役ノ結果佛國ヨリ五十億法ノ償金ヲ得ルヤ一億二千萬馬克ノ正金ヲハ「スバンダウ」ノ「ユリウス」塔下ニ

貯藏シ戰時帝國銀行ニ移送シ銀行券發行ノ準備ニ充ツルコトト爲シタリ然ルニ「モロッコ」事件以來該非常準備金増加ノ必要ヲ認メ千九百十三年七月三日ノ法律ニ依リ更ニ一億二千萬馬克ヲ限リ帝國紙幣(五馬克及十馬克紙幣)ヲ發行スルノ權利ヲ帝國宰相ニ與ヘ之ニ依リテ得タル正貨ハ「スバンダウ」ノ軍資金ト同一目的ノ爲ニ帝國銀行ニ積ミ立ツルコトト定メ又一億二千萬馬克ノ銀貨ヲ鑄造シ總計三億六千萬馬克ノ正貨ヲ準備シ戰時ハ此準備ヲ基礎トシ其三倍即チ十億八千萬馬克ノ帝國銀行券ヲ發行スルノ計畫ナリシカ其計畫ノ全部ノ未タ實現セサル内ニ歐洲大戰勃發シ當時獨逸ノ有シタル非常準備資金ハ二億四千萬馬克ナリキ  
置スルノ制ヲ廢シタリ其主要ナル理由ハ左ノ如シ

イ 列強ノ軍備強大ト爲リ戰爭ハ大規模ト爲リタルヲ以テ戰費ハ莫大ノ額ニ達シ多少ノ資金ヲ蓄藏シ置クモ實際ニ臨ミテ大ナル效用ヲ收ムル能ハサルニ至レルコト

ロ 金融機關整備シタルヲ以テ強ヒテ此方法ニ依ルノ必要ナキコト

ハ 近世各列強ノ財政ハ益々膨脹シタルヲ以テ豫メ資金ヲ死藏セントスルモ事實財政状態之ヲ許ササルノミナラス此ノ如キ方法ハ經濟上ノ不利尠シトセサルコト

前陳ノ理由ノ下ニ獨逸以外ノ各國ハ所謂戰爭準備金ノ死藏ヲ廢止シ之ト同時ニ豫メ金融機關ヲ整備改善シ以テ一旦緩急アルニ際シテハ軍事資金ヲ調達スルノ用ニ供スルニ至レリ中央銀行制度即チ是ナリ我國ノ日本銀行、佛國ノ佛蘭西銀行、獨逸ノ帝國銀行、英國ノ英蘭銀行、露國ノ帝國銀行等ハ其組織制度ニ於テ多少ノ差異アリト雖皆一國ノ中央金融機關タルト同時ニ政府ノ金融機關トシテ活動スルニ於テ即チ一ナリ英蘭銀行カ「ナポレオン」戰爭當時、佛蘭西銀行カ普佛戰役當時各其政府ヲ助ケテ奉公ノ任ヲ盡シ最近世界大戰前及大戰間佛、獨、露國等ノ中央銀行カ國家ノ戰時財政ノ準備並其運用ノ爲如何ニ大ナル協力ヲ爲シタルカハ世人ノ記憶ニ尙新ナル所ナリトス

### 三 特別會計基金及資金ノ設定

日清日露兩戰役ニ際シ帝國政府ハ或ハ國庫剩餘金ヲ流用シ又ハ特別會計資金及基金ヲ運用シ以テ戰爭ヲ準備シタルハ世間周知ノ事實ニシテ日清戰役ノ軍資金收入約二億二千五百餘萬圓ノ内約二千三百四十四萬圓ハ明治二十六年國庫剩餘金約七千八百九十六萬圓ハ特別資金繰入ヨリ成リ日露戰役ノ軍事費歳入約十七億二千百二十一萬圓ノ中特別會計資金繰替六千九百三十一萬圓ヲ算セリ本邦ニ於ケル所謂三基金即チ教育基金、軍艦水雷艇補充基金、災害準備基金ハ戰爭準備金ノ作用ヲ爲シタルモノナレトモ今ヤ教育基金ヲ存スルノミ其他減債基金、森林資金、陸軍營繕費補充資金、大藏省預金利子支拂元金積立、簡易生命保險積立金、帝國鐵道積立金等ハ非常ノ際之ヲ軍事資金トシテ流用運轉スルヲ得ヘク此種ノ特別會計基金、資金及積立金ヲ巧ニ設定スルコトハ一種ノ財政的戰備ヲ整フル所以タラスンハアラス

凡ソ資金又ハ基金ハ現金及有價證券ヲ以テ蓄積セラレ年々利殖ノ方法ヲ圖ルモノトス常ニ巨額ノ正金ヲ死藏スルハ當ニ利子ノ損失アルノミナラス金融ノ圓滑ヲ妨害スルノ處アリ是ヲ以テ獨逸帝國ニ於ケルカ如ク最モ好機ニ乘シテ設置セ

ラレタル軍事資金ニアラサレハ到底正金ヲ以テ貯藏スルコト不可能ナルヘシ而シテ正金又ハ現金ハ中央銀行等ニ預金スルノ外ナカルヘシト雖適當ナル外國公債例ヘハ國際動産ニ投資セハ頗ル便利ナリトス但シ豫想敵國又ハ其同盟國ノ公債ナルトキハ思ハサル打擊ヲ受クルコトアルニ留意セサルヘカラス。内國債ハ戰時其價格必ス下落スヘキノミナラズ之ヲ賣却シ現金ニ代ヘントスルモ焦眉ノ急ニ間ニ合ハサルノ不利ヲ免ルル能ハス。

#### 四 中央銀行ノ戰備 (正貨集中策)

中央銀行ハ一國財界ノ統制ニ任シ且政府ノ金融機關タルノ職分ヲ有スルモノナルカ故ニ中央銀行ノ財政的戰備ハ頗ル重大ナル意義ヲ有スルモノナリト言ハサルヘカラス是ヲ以テ政府ハ中央銀行ヲ指導監督シ其地位ヲ鞏固ナラシメ其一國中央金融機關タルノ機能ヲ發揮シテ時宜ニ適スル財政的戰爭準備ヲ行ハシムルヲ要ス之カ爲歐洲大戰前佛蘭西政府ト佛蘭西銀行トノ間ニ見タル如ク戰時政府カ中央銀行ヨリ融通ヲ受クル豫定額ヲ豫メ秘密ニ協定シ置クヲ有利トスルコトア

ルヘシ

中央銀行ノ戰備トシテ重要ナルモノハ正貨ノ吸收増加ヲ策スルニ在リ千九百十一年「モロッコ」事件次テ千九百十二年巴爾幹戰爭ノ勃發ヲ見ルヤ歐洲列強ハ大ニ警戒スル所アリ佛蘭西、獨逸、露西亞、埃匈國等ノ中央銀行ハ何レモ頻リニ金貨ノ集中ヲ圖リタルト同時ニ一般民衆モ亦金銀貨ノ隱匿ヲ始メ當時獨逸、佛、埃國民ノ隱匿シタル金貨ハ七億圓以上ニ達シタリト云フ

彼上ノ結果千九百十三年歐洲ニ於ケル金相場ハ異常ニ騰貴シ又歐洲大戰前獨逸國內ニハ約十億圓ノ金貨流通シアリシニ拘ラス戰爭勃發ノ前後二、三週間ノ内ニ何處ヘカ隱匿セラレタルヲ以テ政府、軍隊、學校、新聞雜誌等ハ一致協力民衆ヲ促シテ獨逸帝國銀行ニ金貨ヲ集中センコトニ努力シタリ

元來獨逸財務當局ハ千九百五年「モロッコ」事件ノ際金融上ノ關係ヨリシテ佛國ニ對シ退嬰ノ策ニ出テサルヘカラサリシニ鑑ミ財政的戰備ヲ收ムルノ重要ナル所以ヲ悟リ上下一致ノ努力ヲ以テ著々金融上ノ戰備ヲ始メ居リシナリ即チ千九百六年二月政府ハ帝國議會ニ諮リ帝國銀行ニ對シ五十及二十馬克銀行券ノ發行ヲ許

可シ(同年迄法律ハ百馬克以下ノ銀行券發行ヲ許サス)次テ同年六月十馬克銀行券ヲ發行セシメ流通金貨ヲ帝國銀行ニ蒐集センコトヲ企テ且千九百九年六月一日銀行法ヲ改正シ帝國銀行券ニ法貨タルノ性質ヲ付與シ強制流通力ヲ與ヘタリ前記ノ小額面銀行券ノ發行額ハ三億馬克以內ニ制限セラレタリト雖巴爾幹戰爭以來諸銀行及貯金局ニ對スル取付起リ千九百十二年取付總額五億馬克ニ達シタルヲ以テ各預金機關ハ帝國銀行ニ對シ資金ノ融通ヲ請願シ帝國銀行ニ集中シタル金貨ハ漸次減少スルノ傾向アリシカハ帝國銀行ハ其制限ヲ超エテ小額面銀行券ヲ發行シ遂ニ千九百十三年一月帝國銀行總裁「ハーウエンシュタイン」ハ議會ヲシテ其制限ヲ撤廢セシメタリ

千九百十三年以來獨逸大會社ハ小額面銀行券ヲ以テ給料ヲ支拂フノ制ヲ採用シ鐵道郵便局等ニ於テハ銀行券及銀貨ノミヲ使用スルコトヲ決議シ官民一致ノ努力ヲ以テ民衆間ニ軟貨ヲ流通セシメ極力金貨ヲ中央銀行ニ集中センコトヲ努メタルヲ以テ千九百十二年十二月三十一日帝國銀行ハ七億七千六百萬馬克ノ金ヲ有シタルニ過キサリシカ千九百十四年七月二十三日ニハ十三億五千七百萬馬克

ニ達セリ(一説ニ依レハ約十六億三千萬馬克)

佛國中央銀行タル佛蘭西銀行亦千九百年頃ヨリ正貨増殖ノ方針ヲ取り來リシカ千九百十三年獨逸カ戰爭準備金ヲ増加スルニ決スルヤ政府ハ佛蘭西銀行ヲシテ銳意金ノ増加ニ努力セシメ千九百十三年五月同行ノ金保有高ハ三十二億三千萬法ナリシカ千九百十四年開戰當時ニハ四十一億四千萬法ヲ突破スルニ至レリ(一説ニ依レハ約四十七億法)此ノ如クシテ戰前佛蘭西銀行ノ正貨準備高ハ銀行券發行高ニ對シ概シテ八割以上ニ達シ兌換ノ基礎頗ル鞏固ト爲リタリ

露國ノ帝國銀行亦正貨ノ吸收ニ努メ佛蘭西資本家カ安心シテ露國ノ公債ニ投資シタルモノ主トシテ露國帝國銀行ニ正金ノ蓄積セララルカ爲債務ヲ完済スルコトヲ得ヘシトノ信念ニ因レリト稱セラル歐洲大戰勃發當時同行ノ保有セシ正貨準備ハ十八億留ヲ超エタリ

列強中央銀行ノ正貨吸收ニ孜々タルニ方リ獨リ超然トシテ自由放任ノ政策ヲ遵奉シ特別ノ處置ヲ講セサリシモノヲ英國ト爲ス英國ハ開戰當時英蘭銀行ニ約三千九百萬磅民間ニ約一億二千萬磅ノ正貨ヲ保有シタリシカ開戰後正貨不足ヲ叫



フノ聲朝野ニ盛ト爲リ其増加ヲ圖ルヘシテ主張有力ト爲リタリ  
 純財政經濟上ノ見地ヨリスルモ金貨ハ之ヲ中央銀行ニ集中シ置クヲ便トスヘク  
 所謂「金本位制」ノ觀念ヲ以テ「金貨」ヲ以テスル取引ノ觀念ト結合スルハ貨幣制度ニ  
 關スル幼稚ナル觀念ニ過キスト言フヘシ而シテ戰爭準備トシテ何故ニ正貨ヲ中  
 央銀行ニ集中セシムルノ必要アリヤト言フニ此ノ如クニシテ始メテ中央銀行ノ  
 地位ヲ鞏固ナラシメ以テ戰時多額ノ銀行券發行並公債ノ募集ヲ容易ナラシメ且  
 銀行券ノ價值ノ低落(物價ノ騰貴)ヲ防止シ爲替相場ヲ有利ニ維持シ尙對外決濟ニ  
 使用スルヲ得レハナリ

抑、戰時ハ多額ノ資金ヲ要スルヲ以テ平時ノ流通紙幣或ハ手形ノミニテハ不足ヲ  
 來シ紙幣ノ増發又ハ濫發ト爲リ國內ニ於テハ紙幣ノ洪水ヲ惹起シ兌換ノ基礎ヲ  
 危ウシ紙幣ノ購買力ヲ減退セシムルハ各戰役ノ明證スル所ナリ從テ物價騰貴シ  
 爲替相場ノ下落スルニ至ルハ自然ニシテ戰時莫大ナル正貨ヲ保有スルノ必要ハ  
 即チ之ニ備ヘンカ爲ナリ殊ニ一國中央銀行ニシテ多額ノ正貨ヲ保有センカ内外  
 ニ於ケル國債ノ募集ヲ容易ナラシメ且爲替決濟ニ便利ナルハ言ヲ俟タサル所ナ

ヲトス

中央銀行ニ正貨ヲ吸收集集中スル爲獨逸ノ採用シタル手段ハ(一)營業界及公衆ヲシ  
 テ現金ヲ要セサル仕拂方法即チ證券取引ニ慣熟セシメ實際ノ取引ハ證券的債權  
 ノ交換及計算上ノ決濟即チ小切手及振替制度ヲ以テ貸借關係ヲ決濟スルノ風習  
 ヲ馴致スルコト(二)中央銀行ヲシテ小額面券ヲ發行シ金購入ニ當ラシメタルコト  
 (三)金輸入ヲ獎勵シ金輸入者ニ無利子ノ前貸金ヲ與ヘ小額面銀行券ニテ交付シタ  
 ル額ヲ期間内ニ金ニテ返濟セシムルコト等ニ在リ即チ金吸收政策ハ國內ニ流通  
 セル金貨ノ吸收ヲ主トシ外國ヨリノ金ノ輸入ヲ從トセシモノノ如シ  
 然ルニ我帝國ニ於テハ國內ノ金貨ハ殆ント全部中央銀行及特殊銀行ニ集中セラ  
 レアリテ民間ニ流通シアルモノ無ク而モ目下ノ國際貸借關係ハ逐年正貨ノ減少  
 ヲ餘儀ナカラシムルノ状態ニ在リ是ヲ以テ我カ正貨ヲ増加セシメント欲セハ極  
 力貿易ノ振興ヲ策シテ輸入超過ノ現勢ヲ打破シ其他海外ニ於ケル經濟發展ヲ促  
 進シテ受取勘定ノ増大ヲ圖リ且產金ヲ獎勵スルト共ニ工業用金ノ減少ヲ期セサ  
 ルヘカラス換言スレハ金ノ吸收ハ國內ヨリモ寧ろ外國ヨリスルニ在リ但シ金ノ

増加ハ從テ兌換銀行券ノ膨脹トナルヘク結局物價ノ騰貴ヲ招來スヘキハ明白ナルヲ以テ現下ニ於ケル正貨ノ増加カ國民經濟上果シテ有利ナリヤ否ヤハ自ラ別問題ニ屬ス

其他中央銀行ハ國際政局ノ推移並財界ノ狀況ニ鑑ミ其經營資金ヲ増加シ且一般銀行ノ基礎ヲ鞏固ナラシムル爲中央銀行ニ對スル一般銀行ノ振替預金額ヲ増加セシムルコトハ重要ナル戰備ノ一ニシテ是レ大戰前獨逸ノ實施シタル所ニ屬ス此ノ如クニシテ中央銀行ノ地位ハ益々鞏固ト爲リ戰時財界ノ統制、金融逼迫ノ緩和ヲ爲スヲ得ヘシ

### 五 戰時用通貨ノ製造

戰時ハ到ル處莫大ナル資金ノ需要起リ平時流通セル紙幣、銀行券、手形、硬貨等ノミニテハ到底其需要ヲ充タス能ハサルハ明白ナリトス是ヲ以テ豫メ造幣印刷ノ動員計畫ヲ定メ要スレハ所要ノ紙幣又ハ銀行券、戰地仕拂用證券等ヲ印刷貯藏シ置クヲ有利トス佛國ニ於テハ千九百十一年「アカヂール」事件以來小額佛蘭西銀行券

ヲ準備シアリシヲ以テ歐洲大戰ニ於テ金融上尠カラズ利便ヲ得タリト云フ

### 六 各預金機關ノ戰備

戰時諸銀行及貯蓄銀行ハ最モ不安ニ驅ラレタル預金者ノ取付並外國預金ノ引出ニ因リテ屢々危險ニ遭遇スルモノナリ此恐慌的取付ノ效果ハ特ニ戰場ニ向フヘキ兵士ノ預金引出及事業擴張ノ爲ノ商工業者ノ需要ニ因リ更ニ激増ス是ヲ以テ各銀行ハ十分ナル仕拂準備ヲ有セサルヘカラス公衆カ一度其預金ヲ引出サントスルノ觀念ヲ懷クニ至ルヤ事實上之ヲ制シ得ヘキモノニアラサルコトハ既往戰役ニ於ケル歐洲ノ實狀之ヲ立證ス

總シテ不安時機ニ於テハ常ニ現金ニ對スル需要起リ民衆ハ多額ノ現金ヲ自己ノ囊中ニ死藏センコトヲ圖リ就中下級ノ貯蓄者最モ甚シク茲ニ通貨ノ流通ヲ阻碍シ金融逼迫シ預金機關ハ非常ナル危險ニ陥ルモノナリ

各預金機關カ有事ノ日十分ナル決濟力ヲ保有セント欲セハ其投資ニ對シ甚深ナル注意ヲ拂ハサルヘカラス就中貯蓄銀行ハ決シテ普通銀行ト爲ルヘカラスノ原

則ハ常ニ遵奉セララルコト必要ニシテ貯蓄銀行ハ勉メテ長期ノ投資ヲ避ケサルヘカラス貯蓄銀行ハ普通銀行ニ比シ現金在高ノ多額ナルヲ必要トシ其投資ハ成ルヘク外國ニ於テ金ヲ以テ仕拂ハルヘキ外國手形、利附振替預金、優良ナル國際的有價證券、國內第一流割引手形等ニ對シ行フヲ可トス  
敵國タルヘキ虞アル外國ノ銀行ニ預金スルコトハ之ヲ避クルヲ可トスト雖是等ノ國家カ國際市場ニ於テ重視セララルモノナルトキハ其國ノ手形、證券等ニ投資スルコトハ敢テ妨ナシ蓋シ是等ノ手形、證券等ハ國際動産タリ得レハナリ獨逸、ブリッ、ノイビュルゲル博士ノ貯蓄銀行ノ投資ニ對スル說戰備ノ見地ヨリハ左ノ如シ

- 五——一〇「バーセント」 現金、金預金、外國手形
- 五——一〇「バーセント」 最良短期外國證券(國庫手形等)
- 五——一〇「バーセント」 第一流割引手形
- 二〇「バーセント」 國債及地方債
- 六〇「バーセント」 不動産抵當證券

(但地方ノ狀況ヲ斟酌スルヲ要ス)

貯蓄銀行ノ地位ヲ鞏固ニシ其決濟力ヲ十分ナラシムル爲ニハ各貯蓄銀行ハ合同シテ組合ヲ組織スルヲ可トス戰前ノ獨逸ニ於ケル貯蓄銀行ノ多數ハ獨逸貯蓄銀行組合ニ加入シ此組合ハ千九百十年末ニ於テ千八百十六ノ銀行ヲ包含シ其會議ニ於テ共同ノ問題ヲ論議シ振替取引ヲ行ヒ且協同シテ國家證券ノ發行ニ參加シ獨逸ノ經濟界ニ著大ナル功績ヲ舉ケタリ  
其他國際關係逼迫シ國際間ニ事アラントスルノ徵候ヲ見ルヤ一般銀行ハ取引ノ適當ナル緊縮及貸出ノ適當ナル抑制ヲ行ヒ又中央銀行ハ一般銀行ノ基礎ヲ確實ナラシムル爲中央銀行ニ對スル預金ノ増加ヲ要求スルヲ可トス  
要スルニ平時ヨリ財界ヲ健全ナラシメ置クコトハ極メテ必要ニシテ之カ爲ニハ過度ナル信用ノ膨脹ヲ抑制シ各金融機關ノ基礎ヲ鞏固ニシ其營業狀態ヲ健全ナラシムル爲大藏省ノ銀行監督及其検査ヲ勵行シ且諸銀行ヲシテ屬、貸借對照表ヲ公示シテ其營業内容ヲ發表セシムル等ノ手段ヲ講スルヲ可トス加之不良銀行ヲ淘汰シ且銀行ノ合同ヲ策スルコトハ現下ノ我財界ノ狀況ニ鑑ミ特ニ必要ナラス

### 七 戰時財政運用ノ爲ニ要スル法案ノ準備

財界並經濟界ノ益、複雑ナル進化ヲ遂クルニ從ヒ戰時財政上ノ緊急處分ヲ必要トスヘキ事項尠カラス是等ノ法規ヲ準備シ置クゴトハ即チ財政的戰備ノ一種ニ屬ス今最近大戰ノ經驗ニ鑑ミ其一例ヲ舉クレハ左ノ如シ

- イ 中央銀行ノ銀行券兌換義務及發行稅免除ニ關スル法規
- ロ 減債基金教育基金等ノ戰費流用ニ關スル法規
- ハ 戰費財源トシテ大藏省證券及國庫債券ノ發行ニ關スル法規
- ニ 爲替手形等有價證券並預金支拂猶豫ニ關スル法規
- ホ 特別貸付ニ關スル法規(例ヘハ獨國ニ於ケル貸付金庫)
- ヘ 徵發受領票等ノ割引ニ關スル法規
- ト 小額紙幣ノ發行ニ關スル法規
- チ 戰費ノ調達運用ニ關シ政府ノ權限擴張ニ關スル法規

リ 戰時公債募集ニ關スル法規

ヌ 戰時特別稅ニ關スル法規

以上ハ單ニ一例ニ過キスシテ當時ノ實狀ニ照シ更ニ増減取捨スヘキハ當然ニシテ又前陳諸法規モ其性質ト時ノ要求トニ從ヒ憲法第七十條ニ據ル緊急勅令ヲ以テスヘキモノト法律案トシテ臨時軍國議會ニ提出スヘキモノトノ二種ニ分タルヘキハ勿論ナリトス

### 八 海外放資及募債上ノ注意

一國ノ財政的戰爭準備ノ見地ヨリ海外放資地ノ選定及其方法ニハ相當ノ注意ヲ拂ハサルヘカラス世界大戰前佛國ノ海外投資先ハ露國、土耳其、南米諸國ヲ主トシ西班牙、和蘭、瑞典、諾威等ノ諸國ヲ從トシタル關係上大戰間戰費ノ調達ニ方リ利便ヲ享有シタルコト尠ク又佛國民ハ單ニ利子ヲ得ルヲ以テ目的トシテ放資シタルヲ以テ國富ノ増進率ニ於テ獨逸ノ事業經營ヲ目的トスル放資ノ結果ニ及ハサルシハ大ニ參考トスルニ足ル

有事ノ際敵國ト爲ルヘキ虞アル外國ニ預金スルコトハ一考ヲ要スルモ此ノ如キ國家ノ證券ヲ有スルコトハ危險ヲ伴フモノニアラス蓋シ是等ノ國家ニシテ國際經濟界ニ相當ノ信用ヲ有スルモノナランカ其證券ハ國際動産トシテ國際市場ニ於テ取引セラルヘケレハナリ

戰時敵國ト爲ルヘキ外國又ハ其同盟國ニ於テ多額ノ外債ヲ募集シ居ル國家ハ戰時是等ノ國民ノ爲其公債ヲ投資リセラルル危險アルコトヲ閉却スヘカラス千八百七十六年ノ頃「アフガニスタン」事件ノ爲ニ將ニ英露間ニ事アラントスルヤ時ノ英國首相「グラッドストーン」ハ倫敦ノ金融市場ニ於テ露國債ヲ投資リセシメ以テ大ニ露國政府ヲ苦メタルコトアリ左ニ當時ノ事情ヲ略述スヘシ

露西亞カ「トルキスタン」ヲ征服シ「ボハラ」「サマルカンド」「タシケント」等ヲ略取シ「アフガニスタン」ノ國境ニ入ラントスルヤ英國政府ハ兵ヲ動カスコトナク財政的手段ヲ以テ露國ノ此企圖ヲ挫折セシメントテ企テタリ當時露國ノ財政ハ大ニ紊亂シ常ニ輸入超過ニ苦ミシ際ナルヲ以テ露國ハ軍用資金ヲ國內ノ財源ニ求ムル能ハス外債ニ頼ラサルヘカラサルノ境遇ニ在リタリ然ルニ從來露國ノ外債ハ多ク

倫敦市場ニ於テ募集セラレ之ヲ所有スル者ハ英國資本家ナリ是ヲ以テ「グラッドストーン」ハ機當ニ乘スヘシト爲シ倫敦ノ金融市場ニ於テ一齊ニ露國公債ヲ投資セシメ以テ露國ノ公債價格ヲ暴落セシメタリ是レ露國ノ大打撃ニシテ公債ノ募集ハ多大ノ損失ヲ忍フニアラサレハ之ヲ爲スコト能ハス否全然募集シ得サリシナリ是ニ於テカ露國モ遂ニ英國ノ前ニ膝ヲ屈スルノ已ムナキニ至レリ

### 九 信用制度ノ發達及金融機關ノ整備

英國ノ戰時金融政策カ平時ニ於ケル信用制度ノ發達ニ負フ所鮮少ナラサルハ周知ノ事實ニシテ獨逸ニ於テモ財政經濟學者ハ獨逸ノ財的戰備トシテ彈力アル信用制度ノ確立ノ必要ナル所以ヲ痛論シ當局及國民共ニ相當ノ努力ヲ爲シタリ平時ニ於ケル金融諸機關ノ整備カ戰爭ノ如キ大事變ノ際ニ於ケル金融政策ヲ容易ナラシムヘキハ自明ノ理ニシテ戰費ノ調達上多大ノ便益ヲ與フヘキハ必然ナリ又海外特ニ重要ナル國際金融市場ニ於ケル我カ金融機關ノ發展、財務官ノ設置等カ戰時外資ノ利用ニ利便ヲ與フヘキハ明白ナリト言フヘシ

其他戰時ノ我カ同盟國又ハ中立國タルヘキ國家ニ於ケル國際金融市場ト密接ナル金融關係ニ在ルコトハ即チ我カ外債ノ募集ヲ有利ナラシムル一法ニシテ豫想作戦地ニ對シ平時ヨリ我カ金融機關ノ勢力ヲ扶植シ置クコト亦緊要ナリトス

### 第三節 戰時財政ノ運用並金融政策

戰時財政ノ運用並金融政策ハ前陳財務上ノ戰爭準備ヲ基礎トシテ實行セララルヘキモノニシテ政府ハ憲法第七十條ニ據ル緊急勅令ヲ以テ先ツ財務上ノ緊急處分ヲ實施シ其他ノモノハ帝國議會ノ協賛ヲ得テ實行セサルヘカラス而シテ緊急勅令ヲ以テ實施シタルモノハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出シ其承諾ヲ求ムルヲ要スルコト勿論ナリ尙政府ノ權限ニ屬スル有ユル方策ヲ盡シテ機宜ニ適スル處置ヲ行ヒ所要ノ戰費ヲ調達スルノ外恐慌ノ救濟財政ノ基礎ヲ鞏固ナラシムヘキ方策等ヲ講セサルヘカラス

#### 其一 戰時財政政策

戰時財政政策ノ骨幹ハ戰費ノ調達ニシテ是カ財源適用ノ順位ノ適否ハ其成績ニ至大ノ關係ヲ有スルモノナリ而シテ開戦初頭ニ要スル戰費ノ調達ハ最モ迅速確實ナルヲ要ス歐洲大戰ニ於ケル交戦列強ノ動員費及開戦當初ノ戰費調達法ハ左ノ如シ

英國 英蘭銀行ヨリ一時借上金、減債基金流用、大藏省證券ノ發行等

佛國 佛蘭西銀行及「アルジエリ」銀行ヨリノ借上金、一般經費節約及陸軍既定費殘額ノ流用、國內大藏省證券

露國 帝國銀行ヨリノ借上金、國庫剩餘金繰入、經費節約繰延、內國發行國庫證券、同大藏省證券等

獨國 「スバンダウ」ノ非常準備資金、帝國銀行積立軍資金、大藏省證券等

奧匈國 奧匈銀行ヨリノ借上金  
中央銀行ノ借上金ハ各交戦國ニ共通シ而モ最主要ナル金額ヲ占ム是レ英國以外ノ各國カ中央銀行發行力ヲ維持スル爲其兌換停止ヲ斷行シタル所以ナリ減債基金流用、經費節約、事業繰延等ニ依リ捻出シタル金額ハ好財源ナリト雖其額大ナル

ヲ得ス大藏省證券ノ發行ハ開戦ノ如キ市場混亂ノ際ニハ多ク之ニ依頼スルヲ得サルモノノ如シ我國ニ於テモ開戦當初ノ戰費ニ充當シ得ヘキモノハ概ネ左ノ如クナルヘシ

イ 特別會計ニ屬スル各種基金及資金、積立金等ノ流用(減債基金、教育基金等)

ロ 國庫剩餘金ノ流用、經費節約及事業繰延ヨリ生スル金額ノ流用

ハ 大藏省證券ノ發行及日本銀行ヨリノ借上金(會計法第六條ニ依レハ大藏省證券及借入金ノ合計最大限ハ一億圓ニシテ毎年總豫算案ノ一部ニ掲上シ議會ノ協賛ヲ受ク)

開戦初頭ニ要スル戰費ハ總戰費ノ一部分ニ過キスシテ爾後更ニ莫大ナル調達ヲ爲ササルヘカラス而シテ其主要ナル手段ヲ租稅政策及公債政策ノ二ト爲ス中央銀行ヨリノ借上大藏省證券ノ發行ハ自然ニ兌換紙幣ノ増發ト爲リ從テ其價值ヲ低落セシメ物價騰貴ヲ誘起スルノ弊害アルヲ以テ是ニ依リテ調達シ得ル戰費ハ僅少ニ過キス

租稅ノ制定、賦課及其徵收ニハ長期間ヲ要スルノミナラス戰爭ノ如キ大變動ニ際

シテハ人必動搖スルモノニシテ租稅ノ増徴、戰時稅ノ設定ハ益々人心ノ動搖ヲ激成スルノ虞アルヲ以テ巨額ノ戰費ヲ租稅政策ニ因リテノミ調達セントスルカ如キハ甚タ無暴ト言フヘク特ニ開戦初期ニ於テ然リトス此ノ如キハ平時ニ於ケル現金拂ト同様ニシテ十年二十年ニ亙ル利益ノ爲ニスル支出ヲ僅々一兩年ヲ以テ負擔セシムルモノナリ又學理的ニ資源問題ヨリ之ヲ觀察スルモ租稅ハ所得ヨリ生シ公債ハ貯蓄ヨリ生スルモノナルニ戰時各國民ノ所得ハ甚タ變動シ易ク頗ル不確實ノ狀態ニ在リ從テ課稅ノ公正妥當ヲ期スルコトハ最モ困難ナリト言ハサルヘカラス

英國ハ古來其傳統的主義ニ因リ戰費ハ成ルヘク租稅ニ由リテ調達スルコトヲ努メ「ナポレオン」戰爭ニ於テハ戰費ノ四十七パーセント「クリミア」戰爭ニ於テハ五十二パーセント「南阿戰爭」ニ於テハ約三分ノ一ヲ租稅政策ヲ以テ調達シタリト雖最近大戰ニ於テハ僅ニ其總戰費ノ六分ノ一乃至七分ノ一ヲ租稅ニ由リタルニ過キス米國亦世界大戰參加ノ當初ハ戰費ノ半額ヲ増稅ニ由リ支辨スルノ方針ヲ採リシモ戰費ノ増加ト共ニ主ナル財源ヲ公債ニ仰クノ已ムナキニ至レリ

世界大戰ノ總戰費ハ約四千億圓ト稱セララルモ其約九割ハ皆公債ニ由リ租稅ハ僅ニ百七十億圓ニ過キス(不換紙幣モ亦一種ノ公債ナリ)元來租稅ハ永久的財源ニ適シ細ク長キ費用ヲ支辨スヘキ性質ヲ有シ且一般人民ノ負擔ニ歸シ負擔者ハ自ラ之ヲ好マサルヲ以テ戰爭ノ如キ大事變ニ際シ一時ニ莫大ナル費用ヲ調達スルニ適セス況ンヤ其制定、賦課、徵收ニ長日月ヲ要スルニ於テオヤ

公債ハ資金ヲ餘リアル所ニ取リテ必要ナル場所ニ用フルモノナルカ故ニ急速ニ多額ノ資金ヲ調達スルニ便ナリ唯公債ハ其負擔ヲ子孫ニ殘スモノナリト雖國家ノ戰爭ヲ行フハ當ニ現代國民ノ利害ノ爲ノミニアラス國家百年ノ計ヨリスルモノナルカ故ニ其負擔ヲ後世ニ遺スモ敢テ不可ナカルヘキノ理ナリ但シ爲シ得ル限リ將來ノ負擔ヲ輕減スルノ著意必要ナルノミナラス公債ノ信用ヲ維持シ其募集ヲ容易ナラシムル爲少クモ公債ノ利子ニ要スル財源ハ増稅又ハ戰時稅ノ設定ニ求メサルヘカラス日露戰爭ニ於テ日本ハ戰費ノ約一割ヲ増稅ニ求メ他ハ凡テ内外債ニ由リ露國ハ戰費調達ヲ直接増稅ニ求ムル所ナカリキ

以上陳ヘタル所ニ依リ戰費調達政策ノ骨幹ヲ爲スモノハ公債政策ニ在ルコトヲ

知り得ヘシト雖租稅政策モ亦一面ニ於テ重大ナル意義ヲ有スルコトヲ閑却スヘカラス蓋シ戰爭ハ俄然トシテ國民ノ所得及負擔ノ狀態ヲ一變スルモノニシテ國民中ノ或ル者ハ莫大ナル利得ヲ獲ルニ拘ラス其負擔比較的輕少ナルニ反シ或ル者ハ利得減少シテ却テ負擔加重スルニ至ル是ヲ以テ社會政策的稅制ノ設定ハ極メテ必要ニシテ況ンヤ社會思想ノ益、複雜錯綜ヲ極メ政治的平等ヲ獲得スルノミヲ以テ足レリトセス更ニ經濟的平等ヲ要求セントスルノ叫ヒノ益、盛ナラントスル將來ニ於テオヤ千九百十七年十月制定セル米國戰時稅法カ戰時利得稅ヲ六十「パーセント」ニ達セシメタルカ如キハ大ニ注目ニ値スト言フヘシ加之公債政策ハ租稅政策ニ比シ物價騰貴ヲ誘起シ易ク應募者カ之ニ要スル資金ヲ銀行ヨリ融通ヲ受クル場合ニ於テ特ニ然リ

世界大戰間交戰列強ハ其戰費ノ大部分ヲ公債ニ仰キ租稅ノ増徴又ハ新設ニ由リテ調達セルモノ極メテ僅少ナルコト前陳ノ如シト雖戰後ハ各國共ニ著シク増稅シ概ネ七八倍ノ増稅ヲ見ルニ至レリ是レ主トシテ戰時公債利拂ノ爲ニシテ英國ノ千九百二十二年度豫算總額約百億圓中五十億圓ハ悉ク戰時公債ニ對スル負擔



ニ屬スル有様ナリ而シテ此ノ如キ大増税ヲ斷行スルモ公債ノ利拂頗ル困難ニシテ從テ公債ニ關スル觀念ニ一大變化ヲ來サントシツツアリ公債ノ帳消論即チ是レニシテ往年露國過激派政府カ斷然内外債ノ帳消破棄ヲ宣告セルハ世人ノ記憶ニ尙新ナル所ナリトス而モ此帳消論ハ獨リ露國ノミナラス英、佛、獨等ニ於テモ可ナリ盛ニナリツツアルコトハ注目ニ値スト言フヘシ其詳細ハ戰後經營ノ部ニ於テ之ヲ述フヘキモ要スルニ有産階級ノ有スル公債ノ利子ヲ拂ハンカ爲増税ヲ行ヒ無産階級迄ニ其負擔ヲ課スルコトハ甚タ不都合ナルノミナラス有産階級自身モ亦公債ノ利子ヲ得ンカ爲ニ税ヲ拂フト言フ愚ヲ爲スノ必要ナキニアラスヤ人命ハ召集セラレ財産ハ公債トシテ任意ニ國家ニ對シ貸付ケラレテ高利ヲ得兵士ハ家ニ歸リテ公債ノ利子ヲ負擔セシメラル是レ強壯ナル身體ヲ有スル者ト財產ヲ有スル者トノ間ニ不公平ノ取扱ヲ爲スモノナリト言フニ在リ資本徵發稅ハ即チ此觀念ニ基キ生シタルモノナリ

此ノ如ク觀シ來レハ公債ノ募集ヲ容易ナラシムル點ヨリスルモ又社會政策的見地ヨリスルモ將タ又國家財政ノ基礎ヲ鞏固ナラシメ戰後ノ負擔ヲ成ルヘク輕減

シ且漸次ニ國民ヲ慣レシムル必要ヨリ觀ルモ租稅ノ増徴及戰時特別稅ノ新設ハ頗ル重要ニシテ開戰後經濟界及一般人心ノ安定ト共ニ成ルヘク速ニ所要ノ施設ニ著手シ且戰後財政整理ヲ顧慮シテ必要ナル租稅ノ増徴又ハ新設ヲ行ヒ國民ヲシテ徐々ニ重荷ノ負擔ニ慣レシムルヲ要ス又戰爭ノ避クヘカラサルヲ洞見スルヤ開戰ニ先チ新稅ヲ設定賦課スルヲ可トスルコトアルヘク我國カ日露開戰ノ已ムヘカラサルヲ見ルヤ特ニ煙草專賣法ノ制定ト共ニ所得稅ヲ新設シタルコト周知ノ如シ

公債政策ノ要ハ能ク金融市場ノ實情、内外政局戰局ノ推移等ニ鑑ミ其募集ノ時機、募集額、發行形式、發行條件等ヲ決定スルニ在リ戰局竝内外政局ノ進展如何カ公債ノ募集ニ影響スルコトハ内債ヨリモ外債ニ於テ甚シキハ自然ニシテ日露戰役ノ當初我外債ノ募集カ如何ニ困難ナリシカ又其後戰局ノ進捗ト共ニ漸次其困難ノ度ノ減少セシヤニ想到スレハ蓋シ思半ハニ過キン其概況左ノ如シ

時 日	場 所	募 集 額	擔 保	%	價 格 發 行	利 子 元 金	期 限
明治三十七年五月	倫敦	一、〇〇〇萬磅	關 稅	六	九三・一	六・四四	七 年

同	同	三	七	同
一月	一月	三月	七月	十月
同	同	同	同	同
紐育	紐育	倫敦	倫敦	倫敦
一、二〇〇萬磅	三、〇〇〇萬磅	三、〇〇〇萬磅	二、五〇〇萬磅	二、五〇〇萬磅
關稅	煙草專賣	煙草專賣	煙草專賣	無
六	四・五	四・五	四・五	四
九〇・一	九〇・〇	九〇・〇	九〇・〇	九〇・〇
六・六五	五	五	五	四・四
九年	二〇年	二〇年	二〇年	二五年

日露戰爭ノ經過中終ニ世界第一ノ銀行家タル「ロスチャイルド」ノ日本ノ公債ニ應スル迄ニハ我幾多ノ提議ヲ必要トシ又巴爾幹戰爭開始前勃爾牙利ハ巴里和蘭銀行及獨逸銀行カ代表スル「シンヂケイト」ト一億八千萬法ノ公債發行ニ關スル協定ヲ爲シタリシカ開戰ノ當初土耳其軍優勢ナリシヲ以テ此公債發行ニ關シテハ何等開ク所ナカリキ然ルニ「キルツキリッセル」ノ陷落アリ「ルーブル」カス「ノ會戰アリ遂ニ千九百十二年十一月月中旬ニ至リ新聞紙ハ勃爾牙利カ開戰前契約セル公債ニ依リ巴里銀行ヨリ四千萬法ノ一時貸付ヲ得タルコトヲ報道セリ要スルニ戰前特ニ開戰初期ノ軍事的成功ハ内外債ノ募集ヲ容易ナラシムル爲與リテ大ナル力アルコト此ノ如シ

内債ノミニ由リ莫大ナル戰費ヲ調達スルトキハ産業ヲ萎靡セシメ且貧富ノ懸隔ヲ益大ニシ社會状態ヲ不良ニ導クノミナラス縦ヒ國民ノ愛國心旺盛ナルモ漸次戰費調達ヲ困難ナラシムルモノナリ今日露戰役ニ於ケル經驗ヲ觀ルニ左ノ如シ

時	日	内債募集額	價格	利率	期限
明治三十七年	二月	一億圓	九五	五・二五	五年
同	五月	一億圓	九二	五・四三	七年
同	十一月	八千萬圓	九二	五・四三	無期
明治三十八年	三月	一億圓	九〇	六・六六	無期
同	四月	一億圓	九〇	六・六六	無期

日露戰爭ニ於ケル内國債ハ外債ト異ナリ逐次不利ナル條件ノ下ニ發行セラレタ  
ルコト前掲ノ如ク是レ國民ニ間斷ナキ要求ヲ爲ストキハ危險ニ陥ルコトヲ證明  
スルモノト言フヘシ世界大戰間獨逸ニ於テモ亦第四回公債募集ヨリ小額應募者  
減退シ第七回ニ於テハ小口應募者ノ減退一層著シク中下流及小資本家ハ應募ニ  
堪ヘサルニ至レリ

内國債ハ概言スレハ一般金融市場ヲ壓迫シ金融逼迫ヲ促シ事業不振ヲ結果スル

ノ作用ヲ爲スモ外債ハ一般ニ金融ヲ潤澤ナラシム又内國債ハ其利拂、整理、償還等ニ國家ノ權力及國民ノ犠牲心ヲ利用シ得ヘキモ外債ニハ之ヲ利用スルコト能ハス正金ヲ以テ利子ヲ仕拂ヒ期限到達セハ元金ノ償還又ハ借換ヲ要スルカ故ニ實際貸借ノ平準ヲ紊スコト内國債ノ比ニアラス但シ内國債常ニ必スシモ内國債ニアラス外國債常ニ必スシモ外國債ナラサルコトニ注意スルヲ要ス即チ外國債ニシテ内國債ト爲ルコトアルト同時ニ内國債ニシテ外國債ト爲ルコトアリ例ヘハ往年我國ノ募集セル内國債ハ多ク倫敦其他資本家ノ買收スル所トナリ内國債ノ一部ハ事實上既ニ外國債ニ化セシモノ尠カラサリシニ近年我國債ノ價格ハ寧ロ内國市場ニ高キヲ以テ嘗テ一旦輸出セラレタルモノ逆輸入セラレタルノ有様ナリ軍需品其他ノ物資ヲ自給自足シ之ヲ外國ヨリ輸入スルノ必要ナキ國家又ハ大戰間ノ獨逸ノ如ク被包圍ノ状態ニ在リテ國外ヨリノ輸入額極メテ僅少ナル國家ヲ除キ其以外ノ國家ニ在リテハ外國ニ於テ軍需品其他ノ物資ヲ購入スル爲外國爲替相場ハ益、不利ニ傾クヘキヲ以テ之ヲ救済スルモノハ外債ニシテ若シ此外債カ外國ニ於テ購入セル軍需品、物資等ノ支拂ノミニ使用セラレルトキハ通貨ノ膨張

ヲ來スノ虞尠キハ自然ナリ

戰費ノ大部分ハ之ヲ公債ニ由ラサルヘカラストセハ其公債募集ノ成否ハ戰局ノ進捗ニ大關係アリト言フヘク公債應募ノ成績ヲシテ良好ナラシムルコトハ極メテ緊要ナル國家ノ戰時業務タラスンハアララス然ラハ公債應募ノ成績ヲ佳良ナラシムヘキ方策如何ト言フニ之ヲ略述スレハ概ネ左ノ如シ

イ 戰局ノ進展有利ニシテ國際的地位良好ナルコト

ロ 政府ノ基礎鞏固ニシテ内外ノ信頼ヲ負ウテ立チ且其財政計畫適切ニシテ

財政ノ基礎鞏固ナルコト

ハ 速ニ經濟界ノ恐慌ヲ救済シ金融ノ逼迫ヲ緩和シ之ヲ圓滑ナラシムルコト

ニ 國民ニ愛國教育愛國宣傳ヲ行ヒ其愛國心ヲ鼓舞作興シ且官民一致ノ努力

ヲ以テ國民ヲシテ奉公心ヲ發揮セシムルコト

ホ 官民一致消費節約ヲ勵行シ勤儉貯蓄ノ美風ノ作興ニ努力シ一般人民ヲシ

テ成ルヘク手許ニ在ル資金又ハ貯金ヲ以テ應募セシムルコト

ヘ 金融市場ヲ壓迫セサル爲公債發行ニ先チ其募集ノ時期迄ニ滿期トナルヘ

キ短期ノ國庫證券ヲ發行シ之ヲ以テ公債ノ拂込ノ用ニ供セシメ或ハ貸付金庫ノ制度ヲ設ケ公債應募者ニ其資金ヲ一時融通スル等ノ方策ヲ講シ又戰時利得ハ成ルヘク國民一般ニ均霑セシムルコト

ト 中央銀行ハ極力政府ノ公債募集ヲ援助シ且金融界ノ救済及統制調節ニ努ムルコト

千九百十五年英蘭銀行ハ軍費調達ノ爲發行セラレタル公債ヲ擔保トシ時々ノ銀行貸付歩合ヨリ一分安ヲ以テ發行價格ニ等シキ金額ヲ三箇年間餘貸付ヲ承諾シタリ其他交戰各國ノ中央銀行カ公債募集ヲ援助シタルハ周知ノ事實ニ屬ス

チ 自國市場ニ於ケル内外國證券ノ發行ヲ禁止又ハ制限スルコト

千九百十四年末佛國ハ同國市場ニ於ケル内外國證券ノ發行ヲ禁止シタリ但シ内國證券中國防ニ關係アル會社ノ増資又ハ新設若ハ戰後國內産業ノ復舊發展ヲ目的トスル内國證券ノ發行ハ大藏大臣ノ許可ヲ受ケ發行シ得ル例外ヲ認ム要スルニ外國證券ノ發行ヲ絕對ニ禁止セルナリ

獨逸ニ於テモ聯邦都市公共團體ニハ單ニ短期債券ノ發行ヲ許可シ長期公債ノ發行ヲ禁止セリ又千九百十七年政府ハ株式會社ノ創設ヲ制限ス

リ 通貨政策ヲ適當ニシ通貨ノ量ヲ財界ノ需要ニ適應セシメ金融ノ圓滑ヲ期スルコト

抑公債ノ大部ハ之ヲ金融市場ニ於テ求メサルヘカラサルコト勿論ナリト雖成ルヘク全國ノ郵便局、稅務署、小銀行等ヲ利用シテ賣買讓渡ヲ便ニシ津々浦々ニ至ル迄成ルヘク多數ノ國民ヲシテ應募セシメ所謂公債ノ民衆化、社會化ヲ圖ルコト緊要ナリトス何トナレハ多數ノ國民ヲシテ國家ノ債主タラシムルトキハ彼等ハ常ニ國家ノ生存發達ヲ希望シ國家ニ忠實ナルヘキハ必然ナレハナリ佛蘭西ハ共和

政施行以來常ニ此方針ヲ採リ佛蘭西ノ公債ハ比較的國民的ト爲リ居タリ  
彼上ノ目的ヲ達成スル爲ニハ成ルヘク小額面ノ公債又ハ大戰間獨逸ノ實施セル公債貯金券等ヲ利用スルコト肝要ナリトス此事ハ公債ニ對スル觀念ノ漸次變化シツアル方今ニ於テ特ニ必要ニシテ又社會政策的見地ヨリスルモ公債ヲ民本化シテ小額面ヲ發行シテ之ヲ民衆ニ頒チ純無產階級ト純資本階級トノ中間階級

タル半資本勞階級ヲ増加スルヲ有利トスヘシ是レ即チ社會組織ヲ堅實ナラシメ  
 之カ脅威ト爲ルヘキ危險分子ヲ除去スルノ最良手段タラスンハアラス  
 公債ハ大戰間獨逸ノ實施シタル如ク成ルヘク最初ヨリ長期公債ヲ主義トシ其長  
 期公債ノ募集ヲ容易ナラシムル爲便宜ノ手段トシテ國庫債券等ヲ利用スルヲ可  
 トス英佛兩國ハ短期債券ニ依リ巨額ノ戰費ヲ調達セルヲ以テ之ヲ長期公債ニ借  
 換フル爲多大ノ困難ヲ感シタリト云フ又獨逸ニ於ケル公債募集ハ常ニ規則正シ  
 ク毎年春秋二回定期ニ實施セラレ民間ニ於テハ公債拂込期ヨリ次ノ拂込期ニ至  
 ル間ニ若干ノ資力ヲ増大スルヲ得以テ再ヒ應募ノ能力ヲ得タリ  
 戰時外債ノ募集ヲ敵國ノ同盟國ニ於テスルコトハ不可能ナルノミナラス我カ同  
 盟國ト雖交戰ニ從事シツツアルトキハ當該國ニ於ケル外債ノ募集モ亦頗ル困難  
 ナルコトヲ覺悟セサルヘカラス而シテ外債募集ニ於ケル成績ハ發行價格、利率、擔  
 保ノ有無及其價值等ニ關係シ特ニ我軍事的並外交的成否、我政府ニ對スル外人ノ  
 信用、我國民ニ對スル外人ノ同情ノ程度ニ關スルコト著大ニシテ是レ中立國ニ於  
 ケル宣傳ノ重要ナル所以タラスンハアラス

外債ヲ募集スル爲ニハ主要ナル金融機關及財團ヲシテ外債引受ノ「シンヂケート」  
 ヲ作ラシムルヲ有利トシ是カ爲ニハ正金銀行、財務官、外交官等ノ努力ニ待ツコト  
 甚大ナリトス日露戰役當時我外債ヲ引受ケタル銀行ハ左ノ如シ

橫濱正金銀行 「バース」銀行 香港上海銀行 「チャータード」銀行 「ロスチャ  
 イルド」商會 「クローン、ロエブ」商會 「ナシヨナル、シチー」銀行 「ナシヨナル」商業  
 銀行

日露戰爭ノ勃發スルヤ露國帝政府ニ對シ反感ヲ有スル猶太人ハ概シテ我國ニ同  
 情シ殊ニ紐育ノ「クローン、ロエブ」商會ノ「シフ」ハ大ナル同情ヲ寄セ明治三十七年初春  
 倫敦ニ於ケル我既發行公債ノ價格下落シ新公債ノ引受ヲ肯スル者鮮ク當時外債  
 募集ノ任ヲ帶ヒテ渡英セル高橋是清氏カ非常ニ困惑窮苦ニ陥リタリシ際彼ハ斷  
 然我外債一億圓ノ内五千萬圓ヲ引受ケタリ明治三十九年彼カ我國ヲ訪ルルヤ明  
 治天皇ハ彼ニ勳二等旭日章ヲ賜ヒ且御陪食ヲ仰付ケラレ剩ヘ「テーブル、スビーチ」  
 ヲ許シ給ヒタルコト世人ノ知ル所ノ如シ

國際金融市場並言論界學藝界等ニ於ケル猶太人ノ勢力ハ侮ルヘカラサルモノア

ルヲ以テ戰爭ノ場合如何ニ彼等ヲ利用スヘキカハ大ニ研究ノ價值アル問題タラスンハアラス

戰費調達政策ノ概要ハ前陳ノ如ク租稅政策内外公債政策ヲ主要ナルモノトスト雖是等ノ戰費ニ充當スヘキ財源ヲ如何ナル順序ニ適用スヘキカハ頗ル重要ナル問題ニシテ今大戦間ニ於ケル交戦列強ノ施設ヲ觀ルニ左ノ如シ(開戰當初ノ戰費ニ於テハ既ニ述ヘタルヲ以テ之ヲ省略ス)

英國 千九百十四年末ヨリ公債及租稅ヲ併用シ千九百十五年末ヨリ主トシテ米國ニ於テ外債ヲ募集シ千九百十七年後半期ヨリ國庫債券ヲ舊債券或ハ大藏省證券ノ償還、戰費充當、公債應募迄ノ一時資金放資ノ手段ニ供シ或ハ供セシムル爲發行シ千九百十八年後半期ニ於テ小額資金募集ノ爲戰時節約證券ヲ發行ス

佛國 千九百十四年九月國防大藏省證券ヲ千九百十五年二月國防國庫債券ヲ發行シ佛蘭西銀行借上金ト共ニ戰費ニ充當ス又英米兩國ニ於テ短期公債大藏省證券ヲ發行シ輸入超過ノ決濟ニ供ス

千九百十五年十一月第一回軍事公債ヲ爾後毎年十月又ハ十一月軍事公債ヲ發行シ四回ニ及フ是等ヲ以テ短期債ノ整理及戰費ヲ支辨ス

開戰後一年有餘ハ新稅ノ設定及增稅ヲ行フコトヲ得サル窮境ニ在リシカ千九百十六年增稅ヲ斷行シ一部戰費ニ充當シ且重稅ノ負擔ニ慣レシムルト共ニ戰後財政整理ノ準備ヲ爲ス

米國 千九百十七年六月以降內國公債ヲ發行シ同年十月戰時稅ヲ制定シ千九百十八年九月以降戰時貯蓄證券ヲ發行ス

獨國 千九百十四年九月第一回ノ戰爭公債ヲ發行シ爾來年二回整然トシテ三月及九月ニ於テ第九回ニ至ル迄之ヲ續ケ千九百十六年ヨリ新増稅ヲ斷行シ戰費ニ伴フ永續的性質ヲ有スル經費ノ支辨ニ供シタリ又公債募集ノ間ニ於テ滿期ト爲ル如ク國庫證券ヲ發行シ公債ノ拂込ノ用ニ供セシム

露國 千九百十四年十月以降外國發行大藏省證券及公債ヲ發行シ千九百十五年二月以降外國ヨリ借入金ヲ爲シ千九百十六年十一月外國發行國庫債券ヲ發行シ租稅ノ新増設ハ千九百十四年以降逐次ニ施行ス

世界大戦ニ於ケル交戦列強ノ戦費財源區分左ノ如シ(單位百萬圓)

國名	戦争準備金	借入金	公債	租稅	其他	計
英	三、三九〇	五、〇四九	一一、四七三	七、八八四	七三、七九六	
佛	七、五六五	四〇、二六七	?	四、四〇一	五二、二三四	
米		三五、二五三	九、〇七〇		四四、三二三	
露		二九、七四五	一、五七五	七、四〇七	三八、七二七	
獨	一四四	五六、六八二	五、四四二	一、〇六三	六三、三八一	

財源適用ノ順序ハ國家ノ財政經濟狀態及傳統的財政經濟方針等ニ依リテ一ナラスト雖要スルニ開戦當初ハ先ツ中央銀行ヨリノ借入金、特別會計基金資金積立金、大藏省證券、戦争準備資金、國庫剩餘金等ヲ以テ戦費ニ充テ次テ財界金融市場等ノ安定ト共ニ短期公債ヲ募集シ爲シ得レハ短期長期ノ公債ヲ併用シ後短期公債ヲ長期ノ公債ニ轉化セシメ租稅ハ一般人心及財界ノ安定ヲ待チテ先ツ直接稅次ニ間接稅其他ノ稅率ヲ増加シ其後更ニ新稅ヲ創設スルノ順序ニ從フヲ可トスルカ如シ間接稅ヨリモ直接稅ヲ先ニスルハ其伸縮力ノ優レルカ爲ニシテ平素所得稅

ヲ輕減シ稅源ヲ涵養シ置キ一朝事アルヤ之ヲ増徴スルハ英國慣用ノ手段ナリ

## 其二 戦時金融政策

戦時人心ノ動搖、信用ノ破壊等ヨリ生スル經濟界ノ恐慌ヲ救済シ金融ノ逼迫ヲ緩和シテ其圓滑ヲ期スルコトハ即チ一面ニ於テ戦費ノ調達ヲ容易ナラシメ他面國民ノ經濟生活ヲ安定シ且各種ノ經濟動員即チ工業動員、食料動員、燃料動員等ノ進捗ヲ圓滿ナラシムル所以ナリトス而シテ此戦時金融政策ノ中心トナルヘキ機關ハ即チ財界ノ統制ニ任スル中央銀行ニシテ政府及中央銀行ハ協力シテ軍國ノ要求ヲ充足センコトヲ努メサルヘカラス今戦時金融政策中主要ナル事項ヲ述ヘントス

### 一 恐慌ノ救済

既ニ述ヘタル所ノ如ク戦争ノ勃發スルヤ人心動搖シ民衆ハ成ルヘク多クノ金銀ヲ貯藏センコトヲ努メ有價證券類ハ總テ其價格暴落シ銀行ハ兌換ノ要求、預金ノ

取付ニ遭ヒ商工業者ヲ始トシ各方面ニ資金ノ需要激増シ利率奔騰スルノミナラス貸付金ノ取立困難トナリ金融界ハ茲ニ一大恐慌ヲ惹起スルコト世界大戰ノ證明スル所ナリ固ヨリ我國ノ金融組織及金融界ノ實情ハ歐米ノ其レト多少ノ差異ナキニアラスト雖大體ハ同様ニシテ金融界ノ恐慌ハ延イテ一般經濟界ノ恐慌ト爲ルノ虞アリ是ヲ以テ先ツ此金融界ノ恐慌ヲ救濟防止スルコトハ最モ肝要ナル金融上ノ施設タラサルヘカラス而シテ前陳財政的戰爭準備就中中央銀行及各金融機關ノ戰備ニシテ整備シアランカ恐慌ヲ適當ニ制限緩和シ得ヘキハ勿論ニシテ恐慌救濟ノ方策ハ當時ノ經濟界ノ實情ニ鑑ミ時宜ニ適スル方法ヲ講セサルヘカラスト雖世界大戰ノ經驗ニ徴シ其重要ナル方策ヲ舉クレハ左ノ如シ

イ 中央銀行ノ銀行券發行制限ノ緩和即チ其制限額ノ撤廢、擴大若ハ發行税ノ免除、保證準備タル證券種類ノ増加

千九百十四年八月五日佛國ハ法律ヲ以テ佛蘭西銀行ノ銀行券最大發行額六十八億法ヲ百二十億法ニ、アルジェリヤ銀行ノ三億法ヲ四億法ニ擴張シ尙該法律ヲ以テ必要ニ際シテハ大藏大臣ノ上申ニ依リ國防參議院ヲ經タル勅令

ヲ以テ此制限以上ニ達セシメ得ヘキコトヲ規定シ事實ニ於テ銀行券發行ヲ無制限ト爲シタリ

英國ハ開戰ト同時ニ英蘭銀行ノ銀行券發行制限ヲ超ユルコトヲ許可シタリト雖同行ハ約一週間之ヲ利用シタルニ過キス嚴重ニ銀行券發行ヲ制限シタリ

獨逸ハ其中央銀行ノ銀行券發行條例カ比較的伸縮性ヲ有スル關係上英佛等ニ於ケルカ如ク法律上ノ銀行券發行制限額ノ撤廢、擴張等ヲ行フヲ要セス銀行券増發ノ爲ニハ千九百十四年八月四日銀行條例ヲ修正シ其制限外發行ニ對スル課税ヲ廢シタルニ過キス然ルニ千九百十五年以來帝國銀行ニ對シ戰爭税一億馬克ヲ課シ千九百十七年一億三千萬馬克ニ増加シ其他銀行ノ純利益ニ對シ臨時税ヲ賦課シタリ

我日本銀行ニ於テ戰時多額ノ銀行券ノ發行ヲ要スル場合ニハ大藏大臣ノ許可ヲ得テ之ヲ行フコトヲ得ヘク緊急勅令又ハ法律等ヲ用フルノ必要ナシト雖制限外發行額ニ對スル發行税ノ免除ヲ要スル場合ニハ緊急勅令又ハ法律



ニ據ルヘキモノナリ兌換銀行券條例第二條ニ曰ク「日本銀行ハ……(中略)……大藏大臣ノ許可ヲ得テ前二項ノ發行高ノ外更ニ政府發行ノ公債證書大藏省證券其他確實ナル證券若ハ商業手形ヲ保證トシ兌換銀行券ヲ發行スルコトヲ得此場合ニ於テハ其發行額ニ對シ一箇月百分ノ五ヲ下ラサル割合ヲ以テ發行稅ヲ納ムヘシ但シ其割合ハ其時々大藏大臣之ヲ定ム」ト

ロ 紙幣又ハ中央銀行ノ銀行券ヲ法貨トシ強制流通力ヲ與ヘ且政府紙幣特ニ小額紙幣ヲ發行スル等ノ處置ヲ講シ通貨ノ増加ヲ圖ル

英國ニ於テハ開戰後英蘭銀行券ノ強制流通ヲ實施セサリシト雖藏相(ロイドジョージ)ノ英斷ニ依リ金貨ヲ以テ償還スヘキ一磅及十志ノ政府紙幣ヲ發行シ英蘭銀行ノ金ノ貯藏ヲ保護シ且一時債權ノ回收不可能ニ陥リタル株式銀行ヲ救濟シ又郵便爲替ニ強制流通ノ效力ヲ與ヘタリ佛國ニ於テモ佛蘭西銀行銀行券ノ強制流通ヲ布告シ且佛蘭西銀行ノ本支店出張所等ニ準備シアリシ二十法及五法ノ銀行券十五億ヲ使用セシメ其後更ニ十法ノ小銀行券ヲ發行シ且商業會議所ニ補助貨紙幣發行ノ權ヲ付與セリ獨逸亦千九百十四年八月

四日ノ法律ヲ以テ帝國紙幣及銀行券ヲ法貨タラシメ更ニ貸付金庫證券(Dahlehnkassenschein)ヲ設定發行セリ

我國ニ於テモ大戰ノ影響ヲ受ケ銀ノ價格騰貴シタルト通貨殊ニ小額通貨ノ需要激增シタルトノ爲小額紙幣ヲ發行シ硬貨ノ代用ヲ爲サシメタルハ周知ノ事實ニシテ小額紙幣ノ代リニ爲シ得レハ小額硬貨ヲ以テスルノ可ナルヤ論ナキ所ナリト雖戰時倥傯ノ際多額ノ硬貨鑄造ハ甚タ困難ナルヘク漸ヲ逐ウテ紙幣ヲ回收スルノ外ナカルヘシ

ハ 戰時貸付金庫等貸出機關ノ設置又ハ中央銀行ノ貸出

戰時貸付金庫ナル制度ハ獨逸カ普墺戰役及普佛戰役等ニ於テ既ニ實施シタル所ニシテ有價證券又ハ商品貨物、公債等ヲ擔保トシテ貸出ヲ爲シ經濟市場ニ於ケル資金ノ供給ヲ豐富ナラシメ商業取引ノ圓滑、工業資金ノ需要ニ應スルヲ以テ目的ト爲ス而シテ同金庫一切ノ債務ハ其地方自治團體若ハ商工業團體ノ保證スル所タルノミナラス缺損ヲ生シタル場合モ亦是等團體ヨリ補填スル組織ナリ

此金庫ハ五馬克、十馬克、二十馬克、五十馬克、後一馬克、二馬克ノ貸付金庫證券ヲ發行シテ其經營資金ニ充當シ此證券ハ合法貨幣タラス亦法貨資格ヲ有セス從テ私人間ノ取引ニ於テハ強制流通力ナシト雖帝國銀行ハ之ヲ正貨準備ニ組入レ三倍ノ兌換券ヲ發行シ得ルヲ以テ間接ニ合法貨幣ヲ創出シ得タル結果ヲ生セリ

戰時貸付金庫ハ其發行スル證券ヲ帝國銀行ニ交付シ同額ノ銀行券ヲ受領シ拂渡ヲ行ヒ大額面證券ハ帝國銀行ノ庫中ニ入り小額面券ハ其儘市場ニ流通セリ同金庫ハ帝國銀行ヨリ獨立セルモ同行ノ支援監督ヲ受ケ帝國銀行ハ政府ニ對スル貸出ニ專念セリ

佛國政府ハ株式市場ノ恐慌防止ノ爲佛蘭西銀行ヨリ確實ナル有價證券ヲ擔保トシテ貸付ヲ爲シ此資金ヲ以テ一部辨濟ヲ爲サシメ又株式仲買人組合連帶責任ノ下ニ特別證券ノ發行ヲ認可シ之ニ佛蘭西銀行ヨリ資金ヲ融通シ更ニ債務者ヨリ確實ナル證券ヲ擔保トシテ必要ノ資金ヲ貸付ケ一部辨濟ヲ爲サシメタリ

英國ニ於テモ諸銀行ノ仕拂準備金ヲ増加セシムル爲國庫ハ政府手形(政府紙幣)ヲ英蘭銀行割引歩合ヲ以テ貸付ケタルコト周知ノ如シ

以上ノ施設ハ當ニ商工業者ノ資金需要ニ應シ金融逼迫ヲ緩和スルノ效力アルノミナラス貸付金庫ノ設置ハ公債應募者ニ一時其資金ヲ融通シ又公債所有者ニシテ現金ヲ必要トスル場合ハ公債ヲ擔保トシ何時ニテモ同金庫ヨリ借り受ケ得ルヲ以テ公債應募者ニ多大ノ安心ヲ與ヘ間接ニ公債ノ應募ヲ良好ナラシメタルノ效鮮カラス

ニ 一切ノ債務即チ商業手形預金仕拂、家賃借地料仕拂、利札及配當金仕拂等ノ仕拂延期 (Moratorium)

歐洲大戰勃發ト共ニ英佛ノ實施シタル所ニシテ英國ニ於テ仕拂延期ヲ廢止シ得タルハ開戰三箇月ノ後ナリトス獨逸ハ極力此支拂延期ヲ排斥シタルモ實際ニ於テハ全然之ヲ避クル能ハスアルサス地方及東部普魯西ニ於テ特別支拂延期令セラレタル外若干ノ例外的支拂延期ヲ規定シタリ尙獨逸カ應召員ニ對シテハ總テ負債ノ法律的強制ヲ行フコトヲ得ヌ又獨逸人ニ對スル外

國人ノ有スル爲替ノ債權ニ對シ債務ノ責任ヲ解除シタルハ注目ニ値ス  
〔モラトリウム〕ハ最近ノ震災ニ於テ我國ニ於テモ實施セル所ニシテ不慮ノ大  
事變ニ際シ財界ノ恐慌ヲ防止スル爲必要ナルモノナリト雖好シテ採用スヘ  
キ手段ニアラス故ニ開戰前後ノ獨逸ノ如ク有ユル手段ヲ盡シテ金融ノ圓滑  
ヲ期シ支拂延期ハ成ルヘク小範圍ニ局限シ其目的ヲ達成スルヲ理想トスヘ  
シ

ホ 徵發書ノ割引

徵發ハ物件ノ引渡ト同時ニ賠償金ノ交付ヲ受クルモノニアラスシテ現金仕  
拂ハ後日ニ讓ルヲ通常トスルカ故ニ物件ノ供給者ハ其間資金ノ融通ニ窮ス  
ルニ至ルヘシ是ヲ以テ中央銀行ハ徵發委員ヨリ物件供給者ニ交付シタル徵  
發書ニ對シ割引ヲ行ヒ民間資金ノ融通ヲ圓滑ナラシムルコト肝要ナリトス

二 國家財政ノ基礎ヲ鞏固ナラシムル  
爲ノ特別方策

前陳恐慌ノ防止モ亦財政ノ基礎ヲ鞏固ナラシムル爲ノ一方策タルニ相違ナシト  
雖尙他ニ重要ナル一二ノ方策ニ就テ説述セントス

イ 銀行券、政府紙幣ノ兌換停止

戰爭ト兌換停止トハ形影ノ相伴フカ如ク常ニ隨伴スル現象ニシテ英蘭銀行  
モ、ナポレオン戰爭當時ハ約二十年ノ久シキニ互リ、普佛戰役當時ノ佛蘭西銀  
行ハ約七年ニ互リテ何レモ兌換ヲ停止シ南北戰爭ノ際ノ米國、露土戰爭ニ於  
ケル露國何レモ兌換停止ヲ行ヒ世界大戰ニ於テハ交戰列強何レモ兌換停止  
ヲ斷行シ英國ニ於テモ事實上兌換ヲ溢ルニ至レリ  
銀行券又ハ政府紙幣ノ兌換停止ハ正貨ノ中央銀行ヨリ流出スルヲ防止スル  
爲必要ニシテ獨逸帝國銀行ノ如キハ千九百十四年七月二十三日ヨリ三十一  
日ニ互リ金貯藏高ノ減少一億馬克ニ達シタリト云フ戰時ハ巨額ノ銀行券、紙  
幣等ヲ發行セサルヘカラサルカ故ニ其兌換ノ基礎ヲ確實ニスルコト特ニ必  
要ニシテ是カ爲兌換停止ハ已ムヲ得サル所ナリト言フヘシ

ロ 補助貨ト本位金貨トノ交換停止

銀貨、白銅貨、銅貨等ト金貨トノ交換ヲ停止スルモノニシテ其目的ハ銀行券又ハ紙幣等ノ兌換停止ニ同シ

ハ 金ノ輸出禁止ト輸入及産金ノ獎勵

歐洲大戰ノ勃發スルヤ各交戰國何レモ金ノ輸出ヲ禁止シ金ノ自由市場タリシ英國亦法律ヲ以テ之ヲ禁止シタルコト周知ノ事實ナリトス

ニ 中央銀行ノ民間貯藏金銀吸收策

歐洲大戰勃發前ヨリ既ニ露、佛、獨、奧等ハ其中央銀行ニ金銀ヲ吸收集中センコトニ勉メツツアリシカ開戦後亦大ナル努力ヲ以テ金銀ノ吸收ヲ策シ特ニ獨逸ノ如キハ學校、教會、新聞、雜誌等一致シテ國民ニ金貨提供(銀行券ト交換)ノ必要ヲ説キ政府、軍隊、銀行何レモ民間ノ金銀ヲ中央銀行ニ吸收スル爲ニ努力シ爲ニ獨逸帝國銀行ノ有スル金貨ハ戰後却テ戰前ヨリモ増加シタリト稱セラレ又佛蘭西ニ於テモ開戦後發行シタル二十法、十法、五法ノ小額銀行券ヲ以テ回收シタル金貨ハ約二十億法ニ達シタリト云フ

要スルニ銀行券又ハ紙幣ヲ法貨タラシメ之ニ強制流通力ヲ付與スルコト、小

額面銀行券紙幣等ヲ發行スルコト、愛國宣傳教育ヲ實施スルコト、正貨ヲ以テスル公債應募ニ有利ナル條件ヲ付與スルコト等ハ兌換停止ト相俟チテ中央銀行ニ金銀ヲ吸收シ之ヲ増加スル爲ニ有效ナル方策タルカ如シ

#### 第四節 經濟上ノ戰爭準備

平時國民ノ經濟力ヲ培養發達セシメ國民經濟ノ基礎ヲ鞏固ナラシメ置クコトハ即チ有力ナル戰爭準備タルニ相違ナシト雖平時經濟ト戰時經濟トノ間ニハ自ラ其差異ノ存スルモノアルコトヲ看過スヘカラス今經濟現象ニ於ケル兩者ノ差異ヲ舉クレハ左ノ如シ

イ 戰爭ハ莫大ナル原料、物資ヲ消費スルヲ以テ平時ニ於ケル生産消費ノ均衡ヲ破壞シ原料及物資ノ不足ヲ來スニ至ル而モ國外ヨリノ原料及物資ノ補給ハ常ニ必スシモ胸算スルヲ得ス

ロ 壯丁及馬匹ノ大部ハ戰爭ニ從事スルヲ以テ國內勞働力不足ス

ハ 戰爭ハ物價及勞銀ヲ騰貴セシム

ニ 貨幣ノ購買力並有價證券ノ價格ハ下落スルヲ以テ債權債務ノ關係ヲ攪亂ス

ホ 國民ノ所得ニ大變動ヲ生シ富ノ分配及負擔ノ公平ヲ失シ人心惡化シ易シヘ 管ニ國內ノ生産ト消費トノ均衡ヲ破壞スルノミナラス交戰國ノ増加、戰爭規模ノ増大ト共ニ全世界ニ於ケル生産消費ノ均衡ヲ破壞スルニ至ル

經濟上ノ戰備ノ主眼トスル所ハ即チ戰爭ニ因ル經濟上ノ大變動ヲ緩和シ一方國軍作戰上ノ要求ヲ充足スルト共ニ他方國民ノ經濟生活ヲ安定スルカ爲必要ナル諸準備ヲ整フルニ在リ然ルニ國家ノ經濟上ノ戰備ハ頗ル廣汎多岐ニシテ其全部ヲ列舉説述セントスルカ如キハ本書ノ目的ニアラサルヲ以テ吾人ハ單ニ經濟上ノ戰爭準備ノ主要ナル著眼ヲ述フルニ止メントス

古來財政上ノ戰爭準備ハ何レノ邦家王侯ト雖多少之ヲ整ヘサリシモノナク世界大戰前ノ列強亦夫々相當ノ財政的戰備ヲ收メタルコト前陳ノ如シト雖經濟上ノ戰爭準備ニ至リテハ殆ント閉却セラレ財政的戰備ノ周到ナリシ獨逸ノ如キモ經濟上ノ施設ニ關シテハ何等見ルヘキモノナク千九百十四年七月迄ハ戰爭材料ノ

輸出ヲ禁止セス就中裸麥ノ如キハ續々露國ニ向ヒ輸出セラレタル有様ナリキ

### 一 國民經濟ノ根本方針

抑、一國國民經濟ノ根本方針ヲ自給自足經濟主義ニ置クヘキカ將タ又國際自由經濟主義ニ置クヘキカハ一ニ國家ノ經濟的實情詳言スレハ國民ノ需要ト天然資源並工業力技術力等トノ關係ニ因リテ決定セラルヘキモノニシテ米國ノ如ク廣大ナル領土上ニ比較的稀薄ナル人口ヲ有シ其天然資源豐富ニシテ且此資源ノ開拓精製ニ要スル工業力技術力ノ發達セル國家ニ於テハ自給自足主義ヲ採用シ得ヘク此主義ノ採用ハ毫モ國民ノ經濟發展ヲ阻碍セサルノミナラス戰時ノ爲最モ安全ナリト雖我國ノ如ク領土狹小人口稠密而モ天惠ニ乏シク紡績、造船、製鐵等ノ大工業ノ原料ノ大部及食料肥料ノ一部等ヲ國外ヨリ輸入セサルヘカラサル邦家ニ於テハ國民ノ需要ヲ充足スル點ヨリ觀ルモ將タ又國富増進ノ見地ヨリスルモ自給自足ノ到底忍フヘカラサルハ明白ナリト言ハサルヘカラス

凡ソ一國ノ經濟力ノ發達スルニ從ヒ輸入超過殊ニ原料ノ輸入超過トナリ海外ニ

對スル販路ノ擴張ト爲ルハ一般的事實ニシテ英國ハ千八百五十五年以降、獨逸ハ千八百八十二年以降、佛蘭西ハ千八百七十五年以降、何レモ輸入超過國ト爲リ海外ニ於ケル其販路ハ益々擴張セラレ國際經濟關係ハ益々密接ト爲リテ一部經濟學者ヲシテ大戰争ノ永續不可能ナルヲ感知セシムルニ至リタリ

世界ニ於ケル資源ノ分布狀態、各民族特異ノ經濟的能力等ノ事實ヲ基礎トシテ考察スルモ國際的分業經濟ハ最モ自然ニシテ世界經濟發達ノ爲ニ必要ナルモノノ如ク國際間有無相通スルコトカ平時經濟ノ理想タルニ似タリ然ルニ一度思フ戰争ニ馳スルヤ國際分業、國際自由經濟ニ信賴スルノ甚タ危險ナルハ明白ニシテ戰時ノ場合ノミヲ基礎トシテ論スレハ縱ヒ若干平時經濟ノ理想ニ反ストモ自給自足經濟ノ確立ハ極メテ必要ニシテ是レ最モ確實安全ナル經濟主義タリト言フヘシ英國ハ世界第一位ノ大海軍ヲ有シタルニ拘ラス獨逸カ一度潛航艇戰ヲ開始スルヤ英國國民經濟ハ忽ニシテ非常ナル危機ニ瀕シタル事實ニ想到セハ蓋シ思半ハニ過キン

國際分業、國際自由經濟主義ニ偏スルノ危險ナルコト夫レ此ノ如シ然レトモ單ニ

自給自足主義ノミヲ固執セハ國民經濟ノ發展國富ノ増進得テ期スヘカラス虎兒ヲ獲ント欲セハ虎穴ニ入ラサルヘカラス苟モ進歩ヲ望ミ金儲ケヲ欲セハ若干ノ冒險ハ之ヲ避クルヲ得ス是ヲ以テ國際分業主義ニ偏スルノ危險ナルト同時ニ自給自足主義ニ偏スルモ亦適當ナラス是レ人生ノ目的カ單ナル平和ニモアラス又單ナル戰爭ニモアラスシテ人生其者ノ發達ニ在ルコトヲ知ル者ノ容易ニ了解スルヲ得ル所ナルヘシ世界大戰ノ試練ヲ經タル各列強ハ何レモ某程度ノ自給自足經濟——國民經濟ノ獨立——ノ必要ヲ痛感シ其戰後貿易政策ノ如キモ戰前ニ比シ著シク保護政策ノ色彩ヲ濃厚ナラシメタリト雖自給自足ニ終始セントスルカ如キ國家ハ存在セサルカ如シ

我國ハ人口ノ増加ト食料生産トノ調和ヲ失ヒ今ヤ農業立國ヨリ漸次商工立國ニ推移シツツアルモノノ如ク大正十年ニ於ケル總生産高八十四億圓中農産ハ三十六億六千圓ニシテ製造工業品ハ三十七億五千ニ達シ且土地ニ限定セラレサル事業例ハハ海運、保險業等漸次旺盛トナリツツアリ商工立國主義ハ國際分業經濟自由主義ト同シク經濟ノ發達及國富増進ノ爲ニ必要ナルヤ論ヲ俟タサル所ナリト

雖戰時自給自足ノ必要上ヨリ觀ルトキハ過度ニ商工立國ニ偏スルノ危險ナルコト亦自明ノ理タラスンハアラス般鑑遠カラス大戦間ニ於ケル英國ノ實例ハ明ニ之ヲ立證スルノミナラス獨逸具眼ノ士亦戰前ノ獨逸カ商工ニ偏シテ稍、農業ヲ開却シタルヲ悔イツツアルモノノ如シ

是ヲ以テ爲政家ハ能ク我國家ノ經濟的實情ニ鑑ミ且時代ノ要求ヲ斟酌シ國際分業經濟自由主義ト自給自足經濟主義トノ要求ヲ調節緩和シ一面工業ノ發達ヲ促シテ我經濟ノ發展國富ノ増進ヲ策シ他面原料自給ヲ工夫シ且農水産業ヲ獎勵シテ國民經濟ノ基礎ヲ鞏固ナラシメサルヘカラス

大正九年以降五箇年間ニ於ケル本邦貿易ノ平均情況ヲ觀察スルニ我國ハ生絲、絹織物ヲ輸出シ其金ニテ棉花、羊毛ヲ仕入レ其棉花ノ二分ノ一ハ國內ニテ消費シ他ノ二分ノ一ハ半製品トシテ輸出シ其賣上金ヲ以テ米ヲ主トスル食料、肥料、機械類ヲ買入レ差引殘金ナキ有様ニテ更ニ必要ナル鐵類及其他ノ物資ノ入超ハ四億三千萬圓ニ達スルモ本邦金産額ハ二千萬圓ニ過キサルヲ以テ入超額ハ貿易外ノ受取勘定ト正貨トヲ以テ決濟セサルヘカラス

主要輸出品カ國民生活上相對的必要品ナルニ拘ラス主要輸入品カ絕對的必要品ナルコトハ我國貿易ノ根本ニ横ハル大ナル弱點ニシテ是レ我カ經濟政策ニ於テ特別ノ考慮ヲ須ヒサルヘカラサル所以タラスンハアラス

國家ノ經濟政策ハ其對外政策及軍事政策ト密接ナル關係ヲ有スヘキモノニシテ對外政策及ヒ軍事政策ハ須ラク一國ノ國民經濟ノ大方針ニ適應セサルヘカラス極端ナル自給自足經濟主義ヲ奉スル國家カ概シテ排他主義、保護貿易政策ニ偏スルノミナラス侵略主義、軍國主義等ニ陥リ易キハ自然ニシテ之ニ反シ國際分業經濟自由主義ヲ重ニスル國家ハ概シテ自由貿易政策、平和主義、各民族ノ經濟的機會均等主義ヲ尙ヒ海運ノ發展、海軍ノ擴張等ニ努ムルハ當然ナリトス

我國ハ工業原料ノ大部及工業用機械等ヲ輸入セサルヘカラサルノミナラス農業ニ要スル肥料及食料品ノ一部各、約一億圓、燃料等ヲ海外ニ仰カサルヘカラサル實狀ニ在ルヲ以テ遠キ將來ハ兎モ角目下自給自足主義ノ如キハ到底夢想タモ及フ所ニアラス須ラク國際經濟自由主義ヲ旗幟トシテ海外ニ進ミ以テ原料品其他ノ購入及我カ製品ノ販賣ニ自由ト利便トヲ享有スルノミナラス過剩人口ノ海外發

展經濟的利益ノ均霑ヲ圖ラサルヘカラス就中天惠乏シキ狹小ナル領土上ニ過多ノ人間密集シ居ルトキハ幾多經濟上ノ難問題並社會上ノ難問題ヲ惹起スヘキヲ以テ我カ移民問題ハ頗ル重要ニシテ我カ移民カ海外到ル處ニ於テ經濟的ニ自由ニ活動シ他民族ト同様機會均等ヲ享有シテ經濟上ノ利益ニ均霑スヘキコト甚ク必要ナリト言ハサルヘカラス是レ國際經濟自由主義カ我カ經濟狀態殊ニ移民問題ノ解決ニ適スル所以ニシテ我對外政策並軍事政策亦此大方針ニ適應セサルヘカラス

然レトモ事實ニ於テ此國際經濟自由主義ハ到ル處ニ於テ難關ニ衝突シ特ニ濠洲、加洲等ニ於テ甚シキコトハ吾人ノ現ニ體驗シツツアル所ナリ加之一方發達ノ中途ニ在ル我產業ヲ保護發育セシムルコトモ必要ニシテ某程度ノ保護關稅政策亦決シテ排スヘキニアラス且夫レ一旦緩急ノ場合絕對必要ノ戰爭資源ハ之ヲ確保セサルヘカラサルヲ以テ豐富ナル資源ヲ有スル國家トノ經濟同盟又ハ提携極メテ必要ナリトス

世界大戰間獨逸國民カ經濟上幾多ノ苦難ニ逢遭スルヤ將來モ長期戰ノ場合ヲ顧

慮シ中央諸國ハ宜シク經濟同盟ヲ締結スヘシテフ意見識者間ニ熟シツツアリシモノノ如キモ一敗地ニ塗レ、ウエルサイユ條約ニ調印セサルヘカラサルニ至リタル爲遂ニ其實現ヲ見ルニ至ラスシテ止ミタリ

國家間ノ經濟的接近提携ヲ實現スヘキ方法ハ概ネ左ノ如シ

- イ 關稅政策ノ協定 提携スヘキ各國相互間ニ特別有利ナル關稅ヲ設定スルニ在リ
- ロ 共同企業團ノ設立 經濟提携ヲ爲スヘキ國家共同シテ經濟的企業團ヲ設立スルニ在リ例ヘハ大戰間「ルーマニア」ノ穀物輸入ノ爲獨逸會社ヲ設立シタルカ如シ
- ハ 相互間ノ交通關係ノ改善整備
- ニ 郵便、鐵道ニ關スル特別協定 相互間ニ郵稅ヲ輕減シ(例ヘハ獨逸間ノ如シ)且鐵道運輸ニ關スル特別協定ヲ締結シ交通通信費ヲ廉價ニシ相互ノ便益ヲ圖ル
- ホ 手形法及商法ニ關スル協定 經濟的提携ヲ爲スヘキ各國相互間ニ於テハ



同一原則ニ據ル手法及商法ヲ施行スルヲ可トス

ヘ 通貨本位ノ統一 締盟各國間ニ共通本位通貨ヲ制定スルヲ可トス 日支間金銀兩本位制ノ相違カ兩國間ノ貿易上至大ノ不便ヲ有スルコト周知ノ事實ナリ

ト 經濟上優越權ノ設定 提携各國間ニ相互ノ國民ニ對シ經濟上ノ優越權ヲ付與ス

以上ハ所謂經濟的提携ノ各種手段ヲ示シタルニ過キス是等ノ手段方法ヲ如何ニ取捨選擇調節斟酌シテ具體化スヘキカハ一ニ四圍ノ情勢時代ノ要求ニ應ジテ施行セラレサルヘカラス我國ハ一般的情勢ヨリスレハ國際經濟自由主義ヲ標榜スルヲ可トスルモ日支兩國間ノ經濟的實情ヲ基礎トシテ考フレハ經濟同盟乃至提携ヲ必要トスヘキハ明白ナリ然ルニ此兩者ハ互ニ相矛盾スルノ主張ナリ是レ帝國ノ對外政策カ必スシモ一本調子ノミニテ進ムコト能ハサル所以タラスンハアラス

### 一 大規模ナル經濟調查研究機關ノ設立

## 及其實行

經濟動員ノ中央機關ト爲ルヘキ所謂經濟參謀本部ハ戰時我國ノ利用ヲ豫期シ得ル内外諸國ニ於ケル資源ノ數量並其分布狀態及物資ノ生産、移動ノ狀態等ヲ調査研究シ且戰時各方面ノ需要ヲ計量シ以テ國民戰時經濟計畫ヲ策定シ且平時ニ於ケル經濟上ノ戰爭需要ヲ畫策指導スヘキモノニシテ實ニ國家總動員ノ準備上必要ナルノミナラス國民ノ平時經濟ヲ指導スル上ニ於テモ亦極メテ重要ナリト言フヘシ

此機關ハ平時廣範圍ニ亙リ資源ノ分布及物資ノ生産、分配ノ狀態ヲ調査シ且國民ノ消費量ヲ調査計量シテ資源並物資ノ過不足ヲ算計シ其不足資源ニ對シテハ平時ノ生産獎勵生産保護方策並資源ノ貯藏蓄積ノ方法等ヲ考案工夫シ以テ國家ノ經濟政策策定ノ準據ヲ與ヘ戰時ハ各動員機關ノ要用ヲ計リテ資源ヲ按排配當シ且戰時國民經濟ノ統制指導ニ任スルヲ要ス

### 三 海外ニ於ケル資源及物資ノ取得竝 其輸送ヲ確保スル手段

戰時海外ニ於ケル資源竝物資ハ無爲ニシテ取得シ得ルモノニアラスシテ平時ヨリ相當ノ準備ヲ爲シ置クニアラサレハ海外殊ニ外國ノ資源物資ノ取得カ甚タ困難ナルヘキコトハ推想ニ難シトセス加之敵ノ有ユル妨害ヲ排シテ之ヲ國內又ハ所要ノ方面ニ輸送スルコトハ亦頗ル困難ナルヘク是ニ對シ相當ノ平時準備ヲ要スヘキコト論ヲ俟タサル所ナリト言フヘシ是ニ於テモ亦國家ノ經濟政策ト軍事政策トハ極メテ密接ナル協調ヲ要シ特ニ海運ノ發達、海軍及空軍活動ノ據點ノ獲得及所要ノ軍事施設等ハ頗ル考慮ヲ要スヘキ問題タラスンハアラス英國カ「シンガポール」ニ於ケル軍事施設ヲ重要視スル一面ノ理由ハ蓋シ這般ノ消息ヲ解セルニ在ルカ如シ

### 四 科學特ニ理化學ノ發達普及

天惠ニ乏シキ我國ハ人智ヲ以テ之ヲ補ハサルヘカラス大戰間獨逸ハ智利ヨリノ硝石輸入杜絶スルヤ空中窒素固定法ヲ案出シ雷ニ戰時經濟ノミナラス平時經濟ノ進歩ニ多大ノ貢獻ヲ爲シタルハ周知ノ事實ナリトス我國ニ於テモ科學的ニ自然及廢物ヲ利用シテ原料不足ヲ補ヒ若ハ有效ナル代用品ヲ案出スルコトヲ努メサルヘカラス太陽「エネルギー」ノ利用ノ如キハ人生ニ遺サレタル一大問題タラスンハアラス是カ爲大規模ナル科學特ニ理化學研究機關ノ整備、學者ノ優遇、發明ノ獎勵等ヲ必要トスルヤ明白ナリ

科學特ニ理化學ノ發達普及及熟練職工ノ養成等ハ雷ニ原料政策上ヨリ必要ナルノミナラス生産ノ増加、勞力ノ節約、優良品生産等ノ爲極メテ肝要ナリトス

### 五 生産企業組織ノ改善整備

最少ノ生産費ヲ以テ最大ノ生産ヲ爲シ廉價ニシテ且優良ナル物ヲ生産スルノミナラス需要ヲ計リテ生産ヲ律シ經濟上ノ恐慌來ヲ防止セント欲セハ優良ナル生産企業組織ニ待タサルヘカラサルハ自明ノ理ニシテ獨逸工業ノ發達カ其「カルテ

ル組織ニ負フ所甚大ナルハ周知ノ事實ニ屬ス加之平時ニ於ケル生産企業組織ハ戦時ノ生産組織ヘノ轉向容易ニシテ産業動員ノ實施ニ便ナルヲ可トス彼ノ獨逸ニ於ケル「カルテル」カ大戦間能ク政府ト協力シ物價ノ激變ヲ防止シ國民生活ノ安定ニ貢獻シ特ニ工業動員ノ實行ヲ援助シタルノ功績ハ頗ル大ナルモノアリ抑、産業動員ノ見地ヨリスレハ生産企業ノ合同又ハ聯合カ甚タ歡迎スヘキコトタルハ言ヲ俟タサル所ニシテ平時經濟ノ發達ヲ無視スレハ産業國營カ總動員就中戦時ニ於ケル生産消費ノ均衡ヲ維持スル爲ニ最モ便利ナルカ如シ然レトモ産業國營カ國民經濟ヲ破滅ニ導クコトハ吾人近ク之ヲ「ソウイェット」露國ニ於テ實見シタルコトヲ忘ルヘカラス

生産機關ト科學研究機關及實業諸學校トノ連絡ノ良好ナルヘキコトハ輕視スヘカラサル問題ニシテ産業ノ科學化ヲ要スル方今ニ於テ特ニ然リトス

## 六 交易及分配組織ノ整備

戦時物資及勞力ノ配給ヲ圓滑ナラシメ物價及勞銀ノ暴騰ヲ抑制シ以テ國民生活

ヲ安定センカ爲ニハ交易及分配組織ノ完備ヲ必要トスルヤ明白ニシテ陸海交通ノ整備、取引所ノ整頓、消費組合ノ發達、職業仲介機關ノ整備等ハ經濟上ノ戦備トシテ決シテ閑却スルヲ許ササル重要問題タラスンハアラス  
從來ノ經濟政策ハ餘リニ生産偏重ニ傾キ一般消費者ノ利益ヲ犠牲トシテ生産者ノ保護ニ努メタルノ憾ナキニアラス然ルニ世相ノ變遷、社會思想ノ複雑化ハ分配政策ノ甚タ重大ナルコトヲ痛感セシメ將來ハ益々分配ノ公正ヲ必要トスルニ至レリ大正八年ニ於ケル米騒動ノ如キハ實ニ帝國ノ一大恨事タルト共ニ如何ニ分配政策ノ重大ナルカヲ語ルモノタラスンハアラス  
戦時分配政策ノ一トシテ大戦前獨逸經濟學者ノ多クカ主張セルハ取引所ノ抵抗力ヲ増大シ其機能ヲ十分ニ利用スルニ在リ彼ノ定期取引活潑ナル時ハ市場ハ益々擴大シ延取引ニシテ益々多ケレハ相場ノ變動ハ益々尠キモノニシテ戦時ニ於ケル有價證券價格ノ低落、債權債務ノ擾亂、物價ノ暴騰ヲ抑制センカ爲ニハ取引所ノ此機能ヲ巧ニ利用スルコト肝要ナリトス即チ取引所ノ組織ヲ善良ナラシムルヲ要スル所以ナリ

### 七 勞資協調機關及其法制並勞動者保護 施設ノ整頓

勞資協調ノ必要ナルハ言ヲ俟タサル所ニシテ經濟ノ發達複雜化、社會思想ノ錯綜複雜化ニ伴ヒ勞資協調機關並其法制ノ整頓ハ益々切要ナルニ至ルヘシ戰時ハ一般ニ人心緊張シ無用ノ爭議ヲ止メ奉公ノ誠ヲ致スモノナルカ如シト雖而モ最近大戰間同盟罷工ヲ頻發シタルハ吾人ノ記憶ニ尙新ナル所ニシテ殊ニ英國ニ於テ甚シク獨逸ニ於テモ戰役末期ニ於テ數次之ヲ見タリ是ヲ以テ一面勞資協調機關及其法制ノ整頓ヲ必要トスルノミナラス他面社會道德ノ振作向上、社會的制裁ノ發達ヲ必要トスヘキハ明瞭ナリ

戰時勞力ノ不足セル際勞動者ノ能率ヲ十分ニ發揮セシムヘキコト極メテ必要ニシテ且戰爭ヨリ生スル國民所得ノ大變動ニ方リ窮境ニ在ル勞動者ヲ救済スルノ施設亦頗ル緊要ナリト言フヘシ即チ強制的勞動保險ノ制定、工場法ノ改善、簡易保險ノ普及並勞動者ノ教育訓練等ノ必要ナル所以ナリ

### 八 關稅政策

我國ハ其工業原料ノ大部及肥料等ヲ海外ニ仰カサルヘカラサルヲ以テ外國カ是等ノ原料品ニ輸出稅ヲ賦課セサルコト及我カ製造品ニ對シ外國カ輸入稅ヲ課セサルコトハ最モ希望スル所ニシテ我カ關稅政策ハ敍上ノ趣旨ニ基キテ策定セララルヲ要ス加之今尙發達ノ中途ニ在ル工業ヲ保護發展セシメ戰時或ル程度ノ自給自足ヲ爲シ得ル如ク某程度ノ保護關稅ヲ設定スルコトハ要用ナリトス

### 九 國民ノ經濟訓練

資源貧弱ニシテ狹小ナル領土上ニ極メテ稠密ニ生存スル我國民ハ平時ヨリ其生活ノ簡易化經濟化ヲ努メ極力消費ヲ節約シ勤儉貯蓄ノ美風ヲ作興シ濫費冗費ヲ戒メ專ラ經濟力ノ蓄積ニ向ツテ努力セサルヘカラス是レ國民ニ經濟訓練ヲ施スノ必要ナル所以ニシテ學校、社會、家庭ノ三者一致シテ其國民ニ經濟教育ヲ施シ經濟思想ノ普及徹底ヲ期スルヲ要ス

天惠ニ乏シキ獨逸ノ森林内ニ稠密ニ繁殖シタル「ゲルマン」族カ今日彼ノ如キ經濟的發展ヲ爲シタルモノ實ニ科學ノ發達、勤儉努力ノ國民性等ノ外又實ニ經濟思想ノ普及徹底ニ負フ所尠シトセス一家ノ經濟ハ國民經濟ノ基礎ナリ瑞穂ノ國ニ生レ比較的多幸寬悠ナル生活ニ慣レ來リタル我國民ニ經濟思想ヲ普及徹底セシメ經濟訓練ヲ實施スルコトハ最モ必要ニシテ是カ爲我カ上流階級ハ大ナル反省ヲ爲ササルヘカラスト信ス

### 十 其他ノ準備

其他經濟上ノ戰爭準備トシテハ國內ニ於ケル經濟諸機關ノ配置ヲ適當ナラシメ敵ノ爲縦ヒ領土ノ一部ヲ占領セラルルモ直ニ經濟上ノ大打撃ヲ蒙ルコトナク且敵空軍ノ襲來ニ際スル經濟諸機關ノ被害ヲ減少センコトヲ努ムルコト緊要ナリトス戰雲急ヲ告クルヤ戰爭諸材料ノ輸出ヲ禁止シ又ハ國境附近ニ在ル資源ヲ國內ニ搬送シ或ハ經濟機關ノ撤去ヲ行フ等亦一種ノ經濟上ノ戰備タルヲ失ハス例ヘハ千九百十四年秋獨逸東方戰線司令官ハ露軍ノ「シレジア」侵入ノ場合ヲ顧慮シ該

地方ニ於ケル鑛業諸設備ノ破壞ヲ準備セシメタルカ如シ

### 第五節 戰時經濟ノ梗概

國民ノ經濟的活動ヲシテ成ルヘク自由ナラシムヘキコトハ經濟發達ノ爲ニ缺クヘカラサル所ニシテ各立憲國ニ於ケル憲法ハ何レモ其國民ノ經濟活動ノ自由ヲ保障シ帝國憲法亦然リトス露國「ソウヴェット」政府ハ初メ極度ニ國民ノ經濟的活動ヲ束縛シタリシカ遂ニ露國國民經濟ヲ破滅ニ陥ラシメ其經濟政策ノ根本方針ヲ變更セサルヘカラサルニ至リタルコト周知ノ如シ

戰時ハ必スシモ平時經濟ノ理想ニノミ執著スルコト能ハス是レ戰爭ハ國民ノ經濟生活ヲ攪亂シ之ニ一大變動ヲ與フルモノナレハナリ是ニ於テカ政府ハ或ル程度迄ハ國民經濟ノ統制ヲ圖ルコト極メテ必要ニシテ平時ノ如ク國民ノ經濟的自由活動ニ放任スルヲ得ス是レ最近ノ大戰ニ於テ交戰列強ノ共ニ或ル程度ノ強制經濟ヲ實行シタル所以ニシテ政治經濟各方面ニ於テ自由主義ヲ尙フ英國ニ於テスラモ或ル程度ノ強制經濟ノ實行ヲ見タルコト世人ノ普ク知ル所タリ

戰時國民經濟ノ統制指導ニ任スル政府ハ實ニ政治的ニ強力ナルノミナラス法律的ニモ亦權力ノ強大ナルヲ必要トス就中農林、商工、大藏、內務、司法、鐵道、遞信等各省ノ協心戮力ノ極メテ必要ナルコトハ往年寺內內閣ノ米價調節失敗ノ歴史ニ徵スルモ明瞭ナリ是ヲ以テ政府ハ憲法第九條ニ基ク權限ヲ以テ臨機處置スルト共ニ議會ハ必要ナル權限ヲ政府ニ與フルコトニ躊躇スヘキニアラス政府ノ經濟政策ハ直接國民ノ實生活ニ影響ヲ與フルモノナルカ故ニ政府ハ民間ノ各種經濟團體協會等ヲ利用スルノ外國國民經濟ニ精通シ學識經驗ニ富メル練達ノ士ヲ集メテ顧問機關ヲ組織シ官民ノ調和ヲ圖ラシムルヲ可トス

大戰間獨逸ハ國民經濟統制ノ一手段トシテ特種會社ヲ創設シ政府ノ監督下ニ活動セシメタリ戰時金屬株式會社戰時穀物有限責任會社等ノ如キハ即チ是ニシテ營利ヲ目的トセス從テ其配當ヲ制限シ過剩利得ハ之ヲ國庫ニ納付セシメタリ

### 其一 食料政策

戰爭ハ多數ノ勞働力ヲ農産、水産、畜産場等ヨリ奪ヒ去ルノミナラス肥料及或ル種

ノ食料品等ノ輸入ハ局限セラレヘキコトヲ覺悟セサルヘカラサルヲ以テ國民給養問題ハ頗ル重要ニシテ我國ノ如ク毎年ノ米産額ニ於テ數百萬石不足シ食料品ニ於テ約一億圓(大正十年)肥料ニ於テ約一億圓(大正十年)ノ輸入ヲ爲ササルヘカラサル國家ニ於テハ本問題ハ特ニ重大ナル意義ヲ有スルヤ極メテ明白ナリトス況ンヤ食料問題ハ經濟上並社會上最モ重大ナル問題タルニ於テオヤ

世界大戰間交戰各列強ハ多少遲速寬嚴ノ差コソアレ結局ニ於テハ何レモ政府ニ於テ重要食料品ノ管理ヲ行ヒ英ノ食糧省、佛ノ補給省、米ノ食料管理局、獨ノ戰時食料局等ハ即チ食料管理ノ中央機關ニシテ國ニヨリ多少其任務ヲ異ニスト雖概シテ食料ノ輸出入、生産、分配、消費、徵發、價格等ニ關スル必要ナル統制ヲ行ヒタリ以下戰時食料政策ニ關スル要點ヲ摘記スヘク燃料衣料政策亦概ネ之ニ準シテ實施スルヲ可トス

### 一 食料品輸出入ニ關スル施設

或ル種食料品ノ輸出ヲ禁止シ且輸入税ノ輕減又ハ全廢ヲ行フコトハ動モスレハ

不足ヲ告ケントスル食料品ノ供給ヲ潤澤ナラシムル爲最モ必要ナルコト言フ俟  
タサル所ニシテ這次大戰間多クノ交戰國ノ何レモ實施シタル所ナリ但シ輸入税  
ノ輕減又ハ撤廢ハ國庫ノ收入ニ大關係ヲ有スルヲ以テ其利害ヲ比較考量スルコ  
ト肝要ナリトス

不足食料輸入ノ爲ニハ民間商事會社ヲシテ行ハシムル外政府自ラ外國市場ニ於  
テ購入シ又ハ特種會社ヲ設立シ政府ノ監督補助ノ下ニ活動セシムルヲ可トスル  
コトアリ例ヘハ大戰間「ルーマニア」ヨリ穀物ヲ購入スル爲ノ獨塊會社ノ如シ其他  
輸入穀物價格ノ暴騰ヲ防止スル爲政府ハ所要ノ船舶ヲ徵發シ以テ輸入穀物ノ運  
搬ヲ爲サシムルヲ可トスルコトアルヘシ

### 一 食糧生産ノ獎勵

食糧ノ供給ヲ潤澤ナラシメント欲セハ其生産ヲ獎勵スルコト必要ニシテ此生産  
獎勵ハ平時ヨリ續イテ戰時ニ互リ實行セラルルヲ要ス是カ爲農業、水産業、畜産業  
等ノ金融機關ノ整備、資金ノ政府補助又ハ融通、開墾助成、食料品最高及最低價格ノ

規定、農業労働者ノ最低賃金規定等ヲ必要トスルコトアルヘシ

### 二 重要食料品ノ專賣

戰時不足ヲ來スヘキ虞アル重要食料品ハ政府又ハ政府監督下ニ在ル機關ヲシテ  
專賣ヲ行ハシムルヲ可トスルコトアリ蓋シ分配、消費、價格ノ規正等ノ爲便利ナレ  
ハナリ古來自由主義ヲ尊重シ國家ノ過度ナル強制ヲ厭ヒ來レル英國モ對獨斷交  
ト共ニ獨逸ヨリノ砂糖ノ輸入不可能トナルヤ茲ニ政府ノ砂糖專賣ヲ實施シ獨逸  
ハ大戰第二年戰時穀物有限責任會社ヲ設立シ政府監督下ニ穀物ノ專賣ヲ行ハシ  
メタリ此會社ハ營利ヲ目的トセス配當率ヲ五分以下ニ制限シ其以上ノ利得ハ之  
ヲ國庫ニ納付セシメ又製粉所及「パン」屋ヲ其代理店トシ穀物ノ管理、製粉販賣等ヲ  
一手ニ行ヒタリ

奧太利ニ於テモ千九百十五年五月ヨリ穀物專賣制度實施セラレ各穀物ハ耕地ヨ  
リ分離スルト共ニ直ニ差押ヘラレ其所有者ハ自家用穀物ヲ除キ他ハ全部自由處  
分權ヲ失ヒ更ニ之ヲ國家ニ賣却スヘキ義務ヲ負ヒ國家ハ戰時穀物販賣所ヲ通シ

一定ノ價格ヲ以テ之ヲ國民ニ分配シタリ  
大戰間ノ米、佛、伊何レモ其重要食料品ニ關シテハ右ニ類スル方法ヲ以テ國家之ヲ管理シ食料ノ逼迫ニ從ヒ益其管理ヲ嚴重ニシタルコト周知ノ如シ

#### 四 消費制限及節約

教養訓練ノ完全ニシテ節制アル國民ニ於テハ單ニ其自覺心ニ訴ヘ食料ノ節約ヲ行ハシムルコトヲ得サルニアラスト雖而モ食糧ノ極メテ豐富ナル國家ニアラサルヨリハ單ニ國民ノ自覺心ニノミ信賴スルハ危險ナラストセシ是ヲ以テ官民一致シテ消費節約ヲ宣傳勵行スルト共ニ政府ハ強制的ニ消費ノ制限ヲ行ハシムルコト亦必要ナリトス大戰間ニ於ケル交戦列強ノ採用シタル消費制限ノ手段ハ概ネ左ノ如シ

- イ 酒類製造ノ爲或ル種ノ穀物使用ノ禁止又ハ制限
- ロ 小麥ヨリ製造スル麥粉ノ割合ノ制定及「パン」製造ニ黑麥粉混用
- ハ 公席、旅館「レストラン」等ニ於ケル料理皿數ノ制限

- ニ 砂糖牛乳穀類ノ用途制限例ヘハ菓子製造ニ用フル砂糖牛乳等ノ制限
- ホ 家畜早殺禁止
- ヘ 「パン」用穀物及穀粉ヲ飼料ニ使用スルコトノ禁止
- ト 庖厨殘滓及食物殘物ノ利用
- チ 肉無シ日又ハ菓子無シ日ノ制定
- リ 重要食料品ノ日額決定
- ヌ 禁酒

#### 五 食料切符制度

該制度ハ大戰間獨逸ノ創設ニ屬シ爾後各交戦國ノ採用スル所ト爲リ供給ヲ量リテ需要ヲ調節シ濫費ヲ禁シ消費ヲ節約スル爲ニ頗ル有效ナリ

#### 六 公定價格ノ制定

重要食料品ノ價格ノ暴騰ヲ抑制スル爲ニ其最高價格ヲ公定シ又生産獎勵ノ爲ニ



其最低價格ヲ規定ス

最高價格ノ公定ハ一利一害ノ存スルアリテ多少ノ非難ハ免レサル所ナリト雖大局ヨリ觀テ食料品價格ノ暴騰ヲ抑制スル爲ニ有效ナル一手段タルコトハ否認スヘカラサルカ如シ而シテ政府ハ重要食料品ノ最高價格ヲ規定スルト同時ニ嚴重ナル監督檢察ヲ斷行シ賣惜ミ死藏品ノ徵發不當賣買ノ檢舉ヲ行フニアラサレハ狡猾ナル商人ハ價格ノ騰貴ヲ見越シテ其持荷ヲ出シ溢リ又ハ買占メ賣惜ミヲ爲シ市場ハ穀物ノ供給ナク密賣買ノ増加スヘキヤ必然ナリトス即チ食料政策モ亦單ニ主務省一個ノ力ヲ以テ遂行スルコト能ハサル所以ナリ

## 七 國民榮養ニ關スル事項及代用食料

### 品ノ研究調査

是等ノ研究調査試驗等ハ既ニ平時ヨリ實行セラレアルコト必要ナリト雖戰時モ亦之ヲ續行スルコト極メテ須要ナリトス

## 其二 工業政策

莫大ナル軍需品ヲ必要トスル方今ノ大國民戰爭ニ於テハ一國工業ノ全力及工業資源ノ全部ハ統一組織ノ下ニ置キ一貫セル經營方針ヲ以テ統一のニ運營セサルヘカラス即チ國內ニ於ケル平時ノ各種工業ハ豫定ノ計畫ニ基キ逐次戰時組織ニ移リ茲ニ戰時ノ活動ヲ開始シ其大部ハ軍需品製造ニ轉向集中セラル歐洲大戰ノ勃發スルヤ英佛等ニ於ケル各種工場ノ熟練職工モ亦召集セラレ戰場ニ到リシカ其後間モナク之ヲ舊工場ニ呼ヒ戻スノ已ムヲ得サルニ至リ閉鎖セル工場ヲ再ヒ開設スル等平時準備ノ杜撰ヲ表白シタリシカ大戰ノ試鍊ヲ經ルヤ工業ノ動員ハ運クモ國軍動員ト同時ニ開始セラレサルヘカラサルコト一般ニ承認セララルニ至レリ從テ平時ニ於ケル各種ノ研究、計畫及準備ノ周到ナルヲ必要トスルノミナラス平時ノ工業組織ハ爲シ得レハ戰時ノ工業組織ヘノ轉向容易ナルヲ可トス獨逸ノ「カルテル」組織カ獨逸ノ工業動員ノ實行ヲシテ著シク容易ナラシメタルコト前陳ノ如シ

工業動員ハ各方面ニ關係ヲ有スト雖之ヲ主管スヘキ中央機關ノ必要ナルヤ言フ  
 須ヒス最近大戦間交戦列強ハ軍需工業ノ重大ヲ感知スルヤ何レモ特ニ其中央機  
 關ヲ設置シタリ英國ノ軍需品省、佛國ノ兵器彈藥省等即チ是ナリ是等ノ中央機關  
 ハ一般ノ統制指導ニ任シ又地方各機關ハ所管工場ノ指導監督、注文ノ分配、製品ノ  
 検査等ヲ實施スルモノトス

## 一 工場問題

戦争ノ開始セララルヤ輸出及輸入ノ状態並需要供給ノ關係ニ一大變化ヲ生シ或  
 ル種ノ工業ハ之ヲ縮小又ハ中止セサルヘカラサルニ反シ或ル種ノ工業ハ大ニ之  
 ヲ擴張セサルヘカラス即チ從來製造セシ工業品ノ輸出不可能ニ陥リタル工業、外  
 國ヨリ原料ヲ輸入シテ加工販賣シツツアリシ工業ニシテ原料ノ輸入不可能トナ  
 リタルモノ及奢侈品製造業等ハ共ニ大ナル打撃ヲ被ルヲ以テ此ノ如キ經營困難  
 ニ陥リタル工業ノ救済ハ忽ニスルヲ得ス而シテ是等工業ノ縮小ヲ促スト同時ニ  
 其合同ヲ策スルハ即チ有力ナル救済策ノ一タラスンハアラス

國民生活必需品及軍需品ノ製造ニ任スヘキ工業ハ大擴張ヲ行ハサルヘカラス  
 ヲ以テ前陳ノ業ヲ失ヒ又ハ經營困難ニ陥リタル工場ヲ之ニ轉向セシメ或ハ政府  
 自ラ之ヲ使用若ハ收用スルヲ要スルコトアルヘシト雖成ル可ク政府ノ直接干涉  
 ヲ尠クシ國民ノ自覺ニ基ク企業ヲ行ハシムルヲ要ス戦時ハ軍需品及生活必需品  
 等ノ價格ハ概シテ騰貴スヘク且其賣捌ニ便ナルヲ以テ競ウテ之ニ赴カントスル  
 ノ傾向ヲ利用スルトキハ比較的容易ニ上述ノ目的ヲ達成スルヲ得ヘシ工場備付  
 機械器具類ノ配當轉換亦然リトス  
 民間工業力利用ニ於テ家内手工業ノ利用モ亦輕視スヘカラサル所ナリト雖統一  
 ナキ分離家内工業ハ諸種ノ不便アルヲ以テ之ヲ團結セシメ一ノ組織的團體ヲ作  
 リ注文生産ヲ爲サシムルヲ可トス

軍需工業ハ短時日ニ大量生産ノ目的ヲ達成セサルヘカラスアルヲ以テ分業法及大  
 工業組織ヲ採用スルノ可ナルコト論ヲ俟タサル所ナリ是レ分業ハ多數分散セル  
 工場或ハ家内工業ノ利用ニ便ナルノミナラス職工ノ作業ヲ容易ナラシメ未熟勞  
 働者ヲモ利用シ得ルノ利アリ又大工業組織ハ工場一般ノ設備及機械器具ノ整備

ヲ完全ナラシメ原料、人員ノ供給、融通等ニ便ナレハナリ  
分業ニシテ且大量生産ノ目的ヲ達成スル爲ニハ製品ノ標準主義ヲ採用シ制式ヲ  
一定スルカ或ハ標準型ヲ設クルヲ可トス最近大戦間自動車又ハ船舶ノ標準型ヲ  
設定シタル國家アリ

## 一一 原料問題

原料問題ノ骨幹ハ原料ノ補給問題並其分配問題ニ在リ  
戦時工業原料ノ補給問題ハ我國ニ取リテハ實ニ戦争ノ運命ヲ決スヘキ重大問題  
ニシテ其補給ノ途ノ確實ニ胸算セラルルニアラスンハ開戦ニ決スルハ極メテ危  
険ナリト言ハサルヘカラス  
戦時原料補給ヲ確實ナラシムル第一手段ハ隣邦トノ經濟同盟又ハ提携ヲ益々鞏固  
確實ナラシムルカ又ハ速ニ武力ヲ以テ所望ノ地域ヲ領有スルニ在リ第二ノ手段  
ハ確實ニ制海權ヲ獲得シ我カ海運ノ安全ヲ圖ルニ存ス其他原料ノ補給ヲ確保ス  
ル爲願慮スヘキ要件ヲ擧クレハ左ノ如シ

イ 原料品輸出ノ禁止、輸入税ノ撤廢

ロ 政府自ラ外國ニ於テ原料ノ買付ヲ爲スコト

ハ 國內及占領地ニ於テ人民間ニ散在スル微細ナル原料品ヲ蒐集スルコト

ニ 平時用品製作ノ爲ニスル原料ノ需要ヲ制限シ爲シ得レハ代用品ニ依ラシ

ムルコト(使途ニ因ル原料配給ノ手加減)

ホ 新發明ヲ以テ人工的原料ノ製造ヲ獎勵スルコト

ヘ 代用品ノ試験研究

ト 原料ノ取引及移動ヲ制限又ハ禁止シ其散逸ヲ防止スルコト

チ 天然資源ノ探究開發

平時工業カ盛大ナルトキハ一旦戦争トナルモ多量ノ原料カ各工場ノ倉庫内ニ殘  
存スヘク特ニ原料工業ノ盛大ナル場合ニ於テ然リトス平時原料ノ輸入ヲ獎勵シ  
之ニ加工シテ官民間ニ流用シ國內ニ存置セシムルモ亦戦時原料ノ補給ヲ確保ス  
ル爲ニ有效ナルヤ勿論ナリトス  
戦時重要ナル原料ノ統制ハ國家之ニ當リ各工業機關ノ使途ニ鑑ミ且需要ヲ量リ

テ規則正シク之ヲ配當スルヲ要ス但シ原料ノ購買、保存、分配等ノ實際業務ヲ取扱ハシムル爲政府監督ノ下ニ戦時特設會社ヲ設立スルヲ可トスルコトアリ獨逸ノ戦時金屬株式會社ノ如キ即チ是ナリ

### 三 勞働力ノ問題

開戦當初ニ於テハ多數ノ壯丁カ軍ニ召集セラルルニ拘ラス一般工業ハ不振ヲ極メ失業者ノ續出ヲ見タルハ歐洲大戰勃發當時各交戰國ニ共通セル現象ニシテ此失業救済ハ社會上經濟上國家ノ一大問題タリシナリ豫メ工業動員ヲ準備シタル國家モ亦開戦ノ場合ニ於テ此ノ如キ運命ニ遭遇スヘキヤ否ヤ疑ナキ能ハスト雖一時多少ノ失業者ヲ生スルコトハ免ルル能ハサルカ如シ然ルニ其後軍需工業動員ノ發展スルニ從ヒ益多數ノ勞働力ヲ必要トスルニ至ルヘク歐洲大戰ノ如キ性質ヲ有スル戦争ニ於テハ直接間接軍需工業ニ従事スル人員數ハ戰場兵員數ノ約二倍ニ達スヘキコト前既ニ述ヘタル所ナリ是ヲ以テ勞働力ノ需要供給ヲ調節シ且勞働力ヲ統制シテ各方面ニ按排配當スヘ

キ勞働統制中央機關ト需要供給ヲ媒介スル職業仲介機關ノ活動トヲ要スルコト甚大ニシテ世界大戰ニ於ケル交戰列強ハ何レモ其機能ノ發揮ニ努メタルコト周知ノ如シ

戦争ノ益、大規模ト爲リ且戦局持久ニ陥ルヤ勞働力問題ハ頗ル重大ト爲リ千九百十六年乃至十七年ノ期間ノミニ於テ獨逸カ國內勞力ノ不足ヲ補ハンカ爲ニ除隊セシメタル兵員ハ約十二萬五千ノ數ニ達シタリト云フ此ノ如キ場合ニ於ケル勞働力捻出手段ハ概ネ左ノ如クナルヘシ

- イ 直接戦争ニ關係ナキ工場ニ使用スル勞働者ノ數ヲ制限シ是ヨリ得タル勞働力ヲ戦争用品製造工場ニ指シ向クルコト
- ロ 徒衣徒食ノ輩ヲシテ進ンテ勞働ニ従事セシムルコト
- ハ 俘虜及婦人ノ使用
- ニ 占領地又ハ中立國ヨリ勞働者ノ輸入
- ホ 軍事勤務ニ堪ヘサル者ニ職業教育ヲ施スコト
- ヘ 勞働者ノ轉業ノ自由ヲ制限スルコト

ト 戰爭ニ關係ナキ土木建築等ノ起工ノ制限又ハ禁止

要スルニ國民ノ犧牲奉公心ノミニ訴ヘ勞働ノ需要供給ヲ調節スルコトハ理想ト  
スル所ナリト雖常ニ必スシモ之ヲ期スルヲ得ス或ル程度ノ國家的強制ハ已ムコ  
トヲ得ス最近大戰ニ於テハ交戰列強ハ何レモ或ル程度迄ハ勞働ノ統制ノ爲ニ強  
制ヲ行ヒ獨逸ハ遂ニ千九百十六年十二月祖國補助勤務法律ヲ制定シ滿十七歳ヨ  
リ滿六十歳ニ至ル男子ニシテ軍隊ニ召集セラレサル者ニハ總テ補助勤務ノ義務  
ヲ課シタリ

然ルニ獨逸ノ此強制勞働カ失敗ニ歸シタルコトハ周人ノ認ムル所ナリ然レトモ  
是レ政府自ラ該法律ニ對スル信賴ト熱心トヲ缺キ且既ニ一般人心惡化頹廢ノ傾  
向ニ在リタルノミナラス法律其物ニモ多少ノ缺陷ヲ有シタルコトヲ看過スヘカ  
ラス

英國ニ於テハ獨逸ノ祖國補助勤務法ノ實施ヲ見ルヤ「ロイドヂョーヂ」内閣ハ普遍的  
國民勞役ノ主義ヲ採用セントシ「チエンバーレン」氏ヲ國民勞役總監ニ任命シタリ  
ト雖政府ハ嘗テ勞働黨ニ與ヘタル言質ニ拘束セラレ「先ツ」志願制度ニ依リ實行ス

ルコトトナリ千九百十七年二月ヨリ志願者ヲ募集シ始メ且戰爭遂行ニ直接關係  
ナキ事業ニ對スル勞働ノ供給ニ制限ヲ加ヘ志願者一八乃至六一ノ男子ヲ主トシ  
婦人ヲ補助トスハ政府ノ指定スル場所ト職業トニ使用シタリ

#### 四 軍需品價格問題

國民生活用品ノ價格公定ハ諸種ノ弊害ヲ伴フヲ免ルル能ハスト雖軍需品ノ價格  
公定ハ比較的弊害尠キモノノ如シ是レ軍需品ハ他ニ流用スルヲ得ス結局軍ニ提  
供セサルヘカラサレハナリ而シテ一面ニ於テ戰時軍需品製造業者ハ多クハ莫大  
ナル利益ヲ獲得スヘキヲ以テ國家ハ其原料ヲ統制スルト共ニ軍需品ノ價格ヲ公  
定シ以テ戰費ヲ節シテ國家ノ負擔ヲ輕減スルト共ニ社會人心ニ與フル惡影響ノ  
免除ニ努ムルヲ可トス

#### 其三 商業政策

開戦ト共ニ原料又ハ製成品ニシテ自國ニ必要ナルカ又ハ敵國ノ交戦ヲ利スルモ

ノハ總テ輸出ヲ禁止スルヲ要ス中立國ニ對シテモ亦然リ蓋シ敵ハ中立國ヲ介シテ此種ノ物料ヲ購買スルヲ得レハナリ是ヲ以テ戰時ノ外國貿易ハ自然政府ノ監督下ニ置カルルニ至ルヘク是カ爲外國貿易業ハ成ルヘク一大組織ノ下ニ行ハルルヲ便トシ政府監督下ニ在ル特設會社ヲ設置スルカ或ハ各外國貿易業者ノ合同又ハ聯合ヲ策スルヲ可トス

上述ノ如ク輸出ニ制限ヲ加ヘ而モ戰爭用物料ノ輸入ハ激増スヘキヲ以テ中立國ニ對スル爲替相場ハ著シク我ニ不利ニ傾クヘキハ必然ナリ故ニ直接間接戰爭ニ必要ナキ物資例ヘハ酒類、化粧品其他ノ贅澤品等ハ極力其用ヲ節シテ之ヲ輸出ニ向ケ爲替相場ノ維持ニ勉ムルコト肝要ナリ戰時中立國ハ概シテ富豊ト爲リ好景氣ヲ生スヘキヲ以テ贅澤品ノ需要ハ寧ロ増加スヘク交戰國ハ即チ此傾向ヲ利用スルヲ要ス

直接間接ニ戰爭ニ要スル原料及物資ノ補給ハ成ルヘク潤澤ナラシムルヲ要スルヲ以テ所要ノ中立國及同盟國トノ間ニハ左ノ如キ施設ヲ必要トス

イ 前陳ノ原料及物資ノ輸入ニ便利ナル關稅ノ協定

ロ 「シンジゲート」ノ組織 獨塊カ「ル」マニア穀物輸入ノ爲國家ニ於テ設置シタル獨塊會社ノ如シ

ハ 運輸交通關係ノ改善、郵便電信協定

ニ 金融機關ノ整備

國內商業モ亦或ル程度ニ國家ニ於テ束縛ヲ加フルノ必要ナルコト食料政策及工業政策ニ於テ述ヘタル所ノ如ク而シテ其程度ハ一ニ其國家ノ經濟狀態ニ由ラサルヘカラス

我國ノ如ク既ニ食料品、衣料品ヲ自給スル能ハス殊ニ多大ノ工業原料ヲ國外ヨリ輸入セサルヘカラサル國家ニ於テハ此種商業取引ニ對シ國家カ所要ノ統制ヲ行フコトハ極メテ必要ニシテ價格ノ調節、數量ノ調節共ニ頗ル重要ナラスンハアラス、國家ノ商業上ニ加フル束縛制限ハ當時ニ於ケル經濟狀態逼迫ノ程度ニ應シ逐次ニ行フヲ可トスルモノノ如キモ而モ計畫的ニ行フコト頗ル緊要ナリ世界大戰ニ於ケル交戰列強ノ施設ヲ概觀スルニ左ノ如シ

イ 先ツ地方的ニ商品ノ最高價格ヲ公定ス

ロ 次ニ全國ニ互リ最高價格ヲ公定ス

ハ 重要ナル物資ノ取引ハ政府監督下ニ在ル會社又ハ政府自ラ之ヲ行フ

ニ 經濟狀態ノ愈々逼迫スルヤ重要ナル物資ハ政府ニ於テ之ヲ徵發シ且分配ヲ行フ

戰局持久シ國民經濟極端ニ逼迫スルニ於テハ結局民間ノ自由商業ハ杜絶シ重要物資ノ取引ハ國營又ハ政府監督下ニ在ル特設會社ノ獨占ト爲ルニ至ルヘシ大戦間獨逸ハ政府監督下ニ數多ノ特種會社ヲ設立シテ之ヲ利用シ利益配當ヲ制限シ過剩利得ハ之ヲ國庫ニ納付セシメタルコト前陳ノ如シ

戰爭ハ物價ノ暴騰ヲ招來スルモノニシテ物價問題ハ實ニ戰時經濟ノ重大問題タラスンハアラス生活必需品軍需品等ノ最高價格ノ公定ノ必要ナルコトハ前陳ノ如シト雖而モ爲シ得レハ人爲的手段ヲ避ケ自然ノ調節ニ待ツヲ可トスルヤ論ナシ是カ爲最モ重要ナルハ取引所ノ機能ヲ巧ニ發揮セシメ爲シ得ル限リ取引ヲ廣範圍ニ於テ行ハシムルヲ可トス但シ一面ニ於テ取引所ニ對スル嚴重ナル監督亦忽ニスルヲ得ス

#### 其四 戰時利得問題

戰爭ハ國民ノ所得及負擔ノ狀態ヲ一變シ其均衡ヲ破リ國民中ノ或ル部分就中軍需工業者、船舶所有者、勞働者等ハ莫大ナル利得ヲ獲ルニ反シ或ル部分ハ却テ所得ノ減少ヲ來シ負擔加重シ生活費ノ騰貴ト共ニ益、悲境ニ沈淪スルニ至ル特ニ戰線ニ在ル軍人ハ有ユル艱苦缺乏ト戰ヒ生死ノ巷ニ出入シテ且ニ夕ヲ測ルヘカラサル運命ニ在ルニ拘ラス其給料ハ概ネ低廉ニシテ鄉閭ノ一族亦生活難ニ苦ミ不安憂慮ノ中ニ其生ヲ送ルニ反シ戰時成金、或ル種ノ勞働者等ハ莫大ナル利得ヲ獲テ豪奢歡樂ニ耽ル者ヲ生スルニ至ルハ最近大戦ニ於ケル交戰列強ノ實證スル所タリ

國家若シ彼上ノ現象ヲ自然ノ推移ニ放任センカ軍隊ノ志氣ハ忽チ衰ヘ國民ノ精神亦自然ニ弛緩シテ遂ニ戰時ノ自覺ヲ失ヒ無意味ニ戰爭ヲ呪咀シテ平和ヲ慕フノ情ヲ激成スルニ至ルヘキハ蓋シ必然ナリ大戦間ノ獨逸亦戰局ノ永續ト共ニ前陳ノ現象ヲ生シヒンデンブルグ「ルー」デンドルフ等ノ諸將軍ハ大ニ憂慮スル所ア

リ屢政府ヲ促シテ極力其對應策ヲ講セシメンコトヲ努メタリト雖遂ニ果サス戰役末期ニ於テハ或ハ戰線ヨリ逃亡シ又ハ休歸兵ニシテ戰線ニ歸還スルコトナク製造工場等ニ隱匿スル者續出スルニ至リタリ

國民精神ヲ作興維持スル爲ニモ國民ノ消費ヲ節約シ物價騰貴ヲ抑制スルカ爲ニモ將タ又國家ノ戰費調達ニ便センカ爲ニモ戰時莫大ナル利得ヲ獲得スル者ニ對シ同時ニ之ニ伴フ負擔ヲ課シ又ハ其他ノ手段ニ依リテ其利得ヲ制限シ成ルヘク國民ノ所得負擔ノ公平均衡ヲ圖ルコト極メテ切要ニシテ斷乎タル經濟政策ノ實行ヲ必要トス例ヘハ軍需品ノ價格ノ公定、最高勞銀ノ公定、思ヒ切ツタル戰時利得稅ノ賦課等其一法タルヘク同時ニ軍人給與ノ增額、其家族扶助ノ手段ヲ講スルコト亦緊要ナリト言フヘシ

## 第五章 和戰及戰後經營

### 第一節 和戰

治ニ居テ亂ヲ忘ルヘカラサル如ク戰爭ニ處シテ平和ヲ忘レサルコト亦緊要ナリ

トス是ヲ以テ國家ハ開戰ノ時機ヲ誤ルヘカラサルト同様ニ和戰ノ時機ヲ誤ルヘキニアラス而シテ和戰ノ時機ヲ誤ラサラント欲セハ常ニ明確ナル戰爭目的ヲ確立シ絶エヌ彼我ノ交戰能力ヲ正當ニ比較考量シ特ニ彼我ノ國民心理ノ實情ニ精通シ國際關係ノ推移ニ注意スルト同時ニ武力攻勢ノ斷行ト相俟チテ巧ニ平和攻勢ヲ實施シ自ら主動的ニ和戰ノ機ヲ熟セシメンコトヲ努メサルヘカラス  
今日識者ハ世界大戰ニ於ケル獨逸カ和戰ノ機ヲ誤リタリトスルニ於テ一致シ其根本ノ原因トシテ左ノ如ク論決スル者多シ

一 獨逸ニハ其全國民カ一致シテ追及スル明確ナル戰爭目的無ク各階級各社會各異ナレル戰爭目的ヲ抱懷シ居タルコト而シテ其然ル所以ハ獨逸ノ國民思想ニ病根ヲ有シ從來ノ政治、教育、社會組織等ニ缺陷アリ而モ戰時是等ノ國民的缺陷ヲ補正シ全國民ノ思想ヲ統一シテ之ヲ率キルニ足ルヘキ偉人無カリシコト  
二 既ニ國民間ニ一致セル明確ナル戰爭目的無シ從テ和戰ノ時機並其條件ニ關シ軍部、政府、議會間ノ意見一致セス國民各階級各社會ニ於テモ亦然リシコト  
普埃戰爭ニ於ケル普國、日清日露戰爭ニ於ケル我帝國ノ如キハ和戰ノ時機ヲ得タ



ル好個ノ範例ニシテ就中日露戰役當時ニ於ケル我先輩ノ英明慧眼竝其熱誠ナル努力ニ至リテハ今日吾人ノ滿腔ノ畏敬感謝ノ情ヲ禁スル能ハサラシムルモノ無クンハアラス今暫ク當時ノ實情ヲ記セハ左ノ如シ

彼ノ奉天會戰ハ幸ニシテ帝國軍ノ勝利ニ歸シタリト雖而モ戰局ハ尙遠遠ニシテ其前途逆睹スヘカラサルモノアルヤ我大本營ハ如何ニシテ敵ヲ屈伏セシメ平和ニ到達シ得ヘキカニ關シ焦心苦慮スル所アリ偶滿洲軍總司令部モ亦帝國向後ノ戰爭指導ニ於テハ政略戰術ノ緊密ナル協調即チ國軍ノ作戰ニ平行シテ外交上ノ活動必要ニシテ國軍ノ作戰指導ハ帝國政府ノ政策ニ一致セシメサルヘカラサルコトヲ痛感シ明治三十八年三月十三日頃大本營ニ意見ヲ具申ス

帝國政府ハ素ヨリ戰敗者タル敵國ニ先ンシ和議ヲ提出スルノ意無カリシモ米國大統領ニ對シ韓國、旅順、滿洲ノ善後策及償金ニ關スル政府ノ意見ヲ開陳セリ彼上ノ史實ハ一見頗ル單純平凡ナルニ似且各其立場ニ應スル行動ハ相異ナレリト雖而モ成ルヘク速ニ平和ヲ招來セントスル大精神ノ下ニ努力スル點ニ於テハ即チ一ナリト言ハサルヘカラス就中帝國政府カ米國大統領ニ對シ進ンテ韓國、旅順、滿洲

ノ處分及償金ニ關スル帝國政府ノ意見ヲ開陳シタル事實ヲ彼ノ千九百十六年九月獨逸政府カ自ラ米大統領、ウイルソンニ講和斡旋ヲ懇請シナカラ十二月十八日同大統領カ獨逸ノ戰爭目的及其要求條件ノ開示ヲ求メ來リタルニ拘ラス獨逸政府ハ之ニ答ヘス却テ十二月二十六日突如トシテ敵國ニ對シ其代表者ト會商センコトヲ提議シタルノ事實ト對照シ更ニ之ヲ彼此戰爭終局ノ勝敗ニ對比考察スレハ蓋シ思半ハニ過クルモノアラシ

明治三十八年三月二十三日參謀總長山縣元帥ハ寺內陸相ト協定ノ上所謂政戰兩略論ヲ立案シ桂首相、小村外相、曾根藏相等ニ開示シ更ニ向後ノ戰爭續行ニ必要トスル内外諸般ノ施設ヲ行ヒ帝國ノ戰力ヲ遺憾ナク發揮スル爲ニ努力セラレンコトヲ要求シタリシカ滿洲軍總參謀長兒玉大將ハ四月上旬東京ニ來リ大本營、政府、元老ヲ説キ廻リ遂ニ四月七日左ノ決議ヲ見ルニ至レリ

- 一 作戰ニ於テハ從來我軍ノ占メタル地位ヲ確保シ尙事情ノ許ス限リ一層優勝ノ地位ヲ築クニ努力スヘシ
- 二 外交ニ於テハ事情ノ許ス限リ迅速且満足ニ平和克復ヲ圖ル爲今日ノ時機

ニ於テ適當ナル手段ヲ取リ我終局ノ目的ヲ達成スルコトヲ期スヘシ且列國トノ關係ヲ親密ニシ特ニ帝國ニ對シ友情ヲ有スル國家トハ十分意志ヲ疏通シ以テ我ニ不利ナル列國ノ干涉ヲ防遏スルト同時ニ我終局ノ目的ヲ貫徹スル爲便宜ヲ圖ラシムルコトニ努力スヘシ

三 今後ハ政略軍略ノ步調ヲ緊密ニ一致セシメ終局ノ目的達成ヲ期スヘシ當時偶佛國外相「デルカッセ」ハ我駐佛公使ニ對シ講和ヲ提起シ我國ニ於テモ講和促進ノ爲ノ外交指導ノ手段ニ關シ伊藤、山縣兩侯ト桂、小村兩相トノ意見一致セサリシモ總參謀長ノ努力ニ依リ四月十七日ノ元老會議ニ於テ廟議一致シ遂ニ米國大統領「ルーズヴェルト」ヲ介シ我ヨリ進ンテ講和促進ノ爲相當ノ手段ヲ採ルニ決シ政府ハ之ヲ高平公使ニ訓令セリ是レ即チ吾人ノ所謂武力攻勢ト相俟チテ平和攻勢ヲ實施セントスルモノニシテ我帝國カ日露戰役ヲ最モ適當ナル時機ニ切り上ケ得タルモノハ實ニ明治大帝ノ崇高偉大ナル御人格否寧ロ其「神格」ト輔翼ノ任ニ膺レル先輩ノ英明並其一致協力ノ美德ニ負フモノナリト雖又實ニ我戰爭目的カ公明正大ニシテ何等ノ野心ヲ包藏セス上下一致シテ此正當ニシテ合理的ナル大

目的ノ達成ニ努力シタルニ因ラスンハアラス

抑萬人ノ一致協力ハ純一正當ナル目的ニ向ヒテノミ實行セラルヘク不純ナル目的ニ對シテハ能ク億兆ノ心ヲ歸一セシムルヲ得ルモノニアラス不正當ナル野心、不純ナル慾望ヲ以テ戰フ國家カ概シテ和戰ノ機ヲ誤ルハ古今ノ歴史ノ明證スル所ナリ

國家ヲシテ和戰ノ機ヲ誤ラサラシメンカ爲ニハ政略戰略ノ指導ニ任スル者ノ緊密ナル一致協力極メテ必要ニシテ「ビスマーク」カ「戰爭ト平和ニ關スル諸問題ハ戰時ニ於テモ尙全責任ヲ有スル國務大臣ノ權限内ニ屬シ此問題ハ技術的ノ軍統帥部ニ於テ決シ得ヘキモノニアラス」ト言ヒタル如キ偏見ニ陷ルコトナク政府統帥部一體ト爲リ協心戮力其功ヲ爭ハス至誠至公國家全局ノ利害ニ鑑ミテ努力スルコト日露戰役當時ニ於ケル山縣、桂、大山、兒玉ノ如クナラサルヘカラス

國家カ和戰ノ機ヲ誤ラサル爲必要ナル要件ノ一ハ彼我ノ實力ヲ正當ニ比較判斷シ就中彼我國民ノ心理ヲ如實ニ正解スルト共ニ國際關係ノ推移ヲ明察シテ適時正當ナル講和條件並外交進行ノ手段ヲ決定スルニ在リ是カ爲内外情報諸機關ノ

有爲ナル活動ヲ必要トスルハ勿論ニシテ敵國民及中立國民ノ心理ヲ正解センカ爲ニハ廣汎多岐ナル範圍ニ於テ而モ精細深刻透徹セル觀察ヲ爲サナルヘカラス最近大戦ニ於テ獨逸カ和戰ノ機ヲ誤リタル一因ハ敵國民及中立國民ノ心理ノ理解ノ不十分ナルニ存スルコト前陳ノ如シ

元來國家ノ戰爭諸行動即チ國軍ヲ以テスル作戰行動、經濟上思想上ノ交戰ノ共同目的ハ我ニ有利ナル條件ノ下ニ速ニ平和ヲ招來セントスルニ在リ吾人ハ此速ニナル意義ニ重大ナル價值ヲ附セントス何トナレハ國家國民ノ存在ハ永久ニ互ルモノニシテ如何ニ今日ノ敵ニ徹底的打撃ヲ與フルモ我カ國力ヲ過度ニ消耗シ去ルコトハ邦家永遠ノ爲ニ甚タ不利ナレハナリ國際關係ハ絶エス變遷推移スルモノニシテ今日ノ敵ハ他日ノ友邦ト爲リ今日ノ同盟國カ他日ノ敵國ト爲リ得ヘキコトハナポレオン時代以前ト其後ニ於ケル英佛、英獨關係ノ變遷日清日露戰爭前後ニ於ケル日清日露關係ノ變化特ニ千九百十二年「バルカン」戰爭以前ト其後ニ於ケル「バルカン」諸邦ノ關係ノ變調等ニ鑑ルモ明白ナリ是ヲ以テ如何ナル場合ニ於テモ國家ハ單ニ今日ノ敵ヲ倒サンカ爲ニ無意義ニ其國力ヲ過度ニ消耗スルハ賢ナリ

トセス若シ夫レ我帝國カ日清戰爭ニ於テ必要以上ニ戰爭ヲ續行シ又普埃戰爭ニ於ケル普國カ必要以上ニ戰爭ヲ繼續シテ過度ニ其國力ヲ消耗シアリタリトセハ其後兩國ハ果シテ如何ナル運命ニ到達シタリヤ本能寺ニ至ル過程トシテ戰ヲ交フル場合例ヘハ普埃戰爭ハ勿論然ラサル場合ニ於テモ國家ハ必要以上ニ戰爭ヲ繼續シ過度ニ其國力ヲ消耗スルコトヲ慎マサルヘカラス是レ國家及國民ハ自ラ其使命ヲ有シ戰爭センカ爲ニ戰爭スヘキモノニアラサル根本則ヨリ生スル自然ノ歸結ナリトス身體疲勞衰弱スレハ新ナル疾病相次テ襲ヒ來ル如ク縱ヒ戰ニ勝ツトモ國家カ過度ニ疲勞衰弱スルトキハ新ナル敵國ニ乘セララル危險ノ増大スルコトヲ忘ルヘカラス加之現今國際分業疏通經濟ノ發達ニ伴ヒ敵國產業ヲ絶滅スルコトハ勿論敵國ニ對シ必要以上ノ損害ヲ與フルコトハ戰後自ラ其損害ヲ蒙ルコトトナル場合尠カラス

國軍ノ作戰目的ハ或ハ敵主力軍ノ擊破ニ在ルコトアリ又ハ軍事、政治、經濟上重要ナル地方ノ占領ニ在ルコトアリト雖既ニ和戰ノ機ノ近ツクヲ洞察スルヤ國軍作戰指導ノ要領モ亦自ラ其以前ト異ナル所ナカルヘカラス即チ自軍ヲ維持スルノ願

慮ハ從前ヨリモ一層重要ニシテ或ハ第三國ノ干涉ヲ防遏シ又ハ平和克復後ノ「獲得物ヲ占領」スル爲所要ノ手段ヲ講スルコト緊要ナリトス然レトモ是レ最高統帥部ノ畫策ニ屬シ軍隊ハ常ニ徹底的ニ敵軍ヲ擊破スルノ氣概ヲ失フヘキニアラス又最高統帥部ニ於テモ時宜ニ適スル作戰ヲ斷行シ益、優勝ノ地位ヲ開拓スルコトニ努メ且我國軍ノ戦力ノ充實發展ノ爲有ユル努力ヲ各マサルコト肝要ナリトス」此時機ニ於テハ管ニ政府及國軍カ緊張味ヲ失フヘカラサルノミナラス一般國民モ亦最モ緊張セル精神ヲ以テ其言動ヲ慎ミ秋毫モ其内兜ヲ見透サルル愚擧ヲ演スヘカラス此際議會、政黨、言論機關等ノ節制自重ノ特ニ緊要ナルコトハ世界大戰ニ於ケル獨逸帝國議會並或ル種ノ言論機關ノ言動カ如何ニ獨逸ヲ禍シタルカニ想到スルトキハ自ラ明瞭ナルヘシ政府、軍隊、國民ハ一體ト爲リ其精神的團結ノ鞏固毅然タル國民意志ノ存在ヲ表示シ且嚴ニ中立國ノ態度ヲ監視シ巧妙ナル外交並宣傳ヲ以テ或ハ其干涉ヲ防遏シ又ハ自ラ求メテ其干涉ヲ促進シ少クトモ中立國ノ輿論ヲシテ我ニ有利ナル方向ニ向ハシムル如ク努ムルコト切要ナリトス之ヲ要スルニ戰爭ハ手段ニシテ目的ニアラス目的ハ我ニ有利ナル條件ノ下ニ於

ケル平和克復ニ依リテ達成セララルモノニシテ莫大ナル犧牲ヲ賭シテ行ヒタル戰爭ノ總決算ハ講和談判ニ於テ行ハラルモノトス即チ講和談判ハ收穫ニシテ國家ノ戰爭諸行動ハ單ニ之ニ到達スル途中ノ事業タルニ過キササルナリ講和ノ條件カ國家百年ノ計ヲ基礎トシ當時ノ實情ニ鑑ミ決定セラルヘキコトハ論ヲ俟タサル所ニシテ不正當ナル講和條約ハ禍ヲ後世ニ遺スモノタルコト明白ナリトス「ピスマーク」カ普埃戰爭ニ於テ軍部ノ意見ヲ排シテ埃太利ヨリ割地ヲ爲サス又普佛戰爭ニ於テハ獨逸ノ將來ヲ顧慮シテ「モルトケ」其他ノ主張タル「アルサス」「ローレン」ノ併合ニ反對シタルハ天下著名ノ事蹟タラスンハアラス

## 第二節 戰後經營ノ一般著眼

戰後經營トハ國家ノ總復員並之ニ繼續スル戰後諸般ノ施設ヲ總稱スルモノニシテ其或ルモノノ如キハ既ニ戰時中ヨリ準備ニ著手シ又ハ既ニ實行ニ移ラサルヘカラス世界大戰ニ於ケル交戦列強ハ戰役中途ヨリ或ハ老年兵ノ召集ヲ解除シ又ハ新ナル租稅ヲ設定スル等何レモ著々戰後經營ノ準備ニ著手シ特ニ獨逸最高統

帥部ハ戰後軍人ノ境遇ヲ顧念シ其住宅問題、土地分與問題、救護問題等ニ就テ大ニ畫策スル所アリシハ著名ノ事實ニ屬ス

戰時中戰後經營ヲ顧慮シテ著々諸般ノ施設ヲ行フニ方リテハ周到ナル注意ヲ拂ヒ苟モ敵ニ我カ繼戰意志ノ衰頹ヲ表白スルカ如キコトアルヘカラス又單ニ敵ニ對スル關係ノミナラス我國民ノ志氣ニ及ホス感響如何ヲ考慮スルコト亦緊要ナリトス

戰後經營ハ戰爭ノ準備ト等シク頗ル廣汎多岐ニシテ詳細ニ之ヲ說述スルカ如キハ到底吾人ノ能クシ得ル所ニアラサルノミナラス本文ノ目的ニアラス本章ニ於テハ單ニ其主要ナル一般著眼ヲ敘スルニ止メントス

戰後經營事業中最重要ナルモノハ左ノ如シ

- 一 戰後ニ於ケル外交
- 二 戰後國民思想ノ指導並其教育
- 三 戰後ノ軍備ニ關スル施設
- 四 戰後財政ノ整理及經濟復興
- 五 戰後ノ社會政策的施設

抑講和談判ハ戰爭ノ總勘定ナリト雖講和ノ成立ハ未タ以テ戰爭事業ノ完了ヲ意味セス戰爭ノ總勘定ノ後更ニ拮据經營大ニ奮勵努力スルニアラサレハ國運ノ發展邦家ノ安泰ハ得テ期スヘカラス敗戰セル國家ニ於テ特ニ然リトス由來戰勝國ニシテ其戰後經營ヲ誤リタル爲ニ次ノ戰爭ニ於テ大敗シ又戰敗國ニシテ其戰後經營宜シキヲ得タルカ爲次ノ戰爭ニ勝利ヲ博シタル史例ハ頗ル多ク一部ノ學者ヲシテ戰勝戰敗何レカ國家隆昌ノ因タルカヲ疑ハシムル程ナリ

戰後經營事業ノ如何ニ困難ナルカハ日露戰爭ノ勝者タル我帝國「ナポレオン」戰爭ニ於ケル戰勝者タル英國、世界大戰ニ於ケル勝者タル英、佛、伊國等ノ事蹟ニ鑑ルモ明白ニシテ此大事業ヲ遂行センカ爲ニハ戰時中ト等シク國民精神ノ緊張、鞏固ニシテ有能ナル政府ノ存在、國民上下ノ一致協力極メテ必要ナリトス然ルニ戰後ハ勝者タルト敗者タルトヲ問ハス戰時中ニ比シ一般ニ國民精神ノ弛緩ヲ來スハ人性ノ自然ニシテ加フルニ人心ノ動搖ハ政局ノ安定ヲ困難ナラシメ彼ノ冷靜沈著健實ヲ其特性トシ内閣ノ壽命ノ他國ニ比シ常ニ永キ英國ニ於テモ世界大戰後數年間ハ其内閣ノ更迭頻繁ニシテ其壽命ノ短カカリシコト到底戰前ノ比ニアラス

若シ夫レ佛、伊、獨、奧諸國ニ於ケル政情ノ不安定ニ至リテハ茲ニ言ヲ俟タサル所ナリトス是レ即チ戰後經營ノ至難ナル所以タラスンハアラス  
戰後經營中財政ノ整理、經濟復興問題ハ最モ重要ニシテ特ニ研究ヲ要スルモノアルヲ以テ節ヲ改メテ之ヲ敘スヘシ

### 一 戰後ニ於ケル外交

戰爭ハ外交上ニ一新紀元ヲ劃スルモノニシテ國際關係ニ一大變動ヲ與ヘ一國ノ國際的境遇ヲ一變スルコト多シ從テ戰後一國ノ對外政策ハ新ナル方針ノ下ニ指導セララルルヲ通常トス例ヘハ普奧戰爭後ノ普魯西、日清日露戰爭後ニ於ケル日本、世界大戰後ニ於ケル英國ノ外交方針等ヲ戰前ノ其レト比較セハ何人ト雖顯著ナル變化ヲ認識スルヲ得ヘシ

戰後新ナル國際政局ニ處シ鞏固ナル國際的地位ヲ築キ有利ナル外交關係ヲ設定スルコトハ戰後經營トシテ頗ル重要ナル事業ノ一ニシテ彼ノ普佛戰爭後獨逸帝國ノ歐洲ニ於ケル地位ヲ堅固ナラシメント欲シ「ビスマー」ク「カ致セル外交上ノ努

力ハ實ニ甚大ナルモノニシテ千八百七十二年ノ獨奧露三帝同盟、千八百七十九年「ガスタイン」ニ於テ獨國外相「アンドラシー」ト締結シタル獨奧同盟、次テ千八百八十三年ノ獨奧伊三國同盟、佛國ノ植民地經營ニ對スル援助其共和派ノ支持等其當否ハ別問題トシテ彼カ外交上ノ戰後經營ニ對スル苦心努力ノ跡ヲ窺フヲ得ヘシ  
日清戰爭後ニ於ケル我帝國ハ夙ニ他日ニ備フルノ必要ヲ痛感シテ日英同盟ヲ締結シ該同盟ノ存在ニ因リテ日露戰爭ヲ決行シ第三國ノ干涉ヲ豫防シ得タリ日露戰爭終ルヤ日英同盟ハ依然存續セラレ帝國外交ノ樞軸ヲ爲シタリト雖不言理ニ自ラ變調ヲ生シ我國ハ東亞ニ於ケル其地位ヲ益々鞏固ナラシムル爲日露協商ヲ締結シ世界大戰間日露同盟ノ成立遠キニアラサルヤノ感ヲ催サシメタルニ露國革命ノ爲茲ニ不測ノ變態的外交關係ノ現出ヲ觀タルハ世人ノ記憶ニ尙新ナル所ナリトス

戰後速ニ外交ノ根本方針ヲ確立シ官民一致ノ努力ヲ以テ有利ナル國際的地位ヲ開拓設定スルコトハ實ニ戰後諸般ノ對内施設就中財政ノ整理、經濟ノ復興ヲ迅速ナラシムル所以ニシテ戰後ノ外交關係カ其國ノ貨幣ノ爲替相場並戰後經營ニ要

スル外資輸入ノ難易ニ甚大ナル關係ヲ有スルコトハ吾人世界大戰後ノ歐洲ニ於テ之ヲ實見シタリ例ヘハ千九百十九年「ヴェルサイユ」講和條約締結後數年間ニ於ケル獨逸ノ外交方針ハ頗ル不徹底ニシテ「アンタント」就中佛白兩國ノ危懼不安ノ情ヲ激成シ益々其壓迫ヲ急ナラシメタルヲ以テ馬克ノ爲替相場ハ爾他ノ諸因ト相俟テ暴落ニ次クニ暴落ヲ以テシ其資本ヲ外國ニ移轉スル獨逸人尠カラサルノミナラス外國人亦獨逸ニ對シ資本ヲ貸付クルコトニ躊躇シ獨逸ノ經濟復興ニ多大ノ支障ヲ來シ千九百二十三年佛白軍ノ「ルール」占領之ニ對スル所謂獨逸ノ「消極的抵抗」ニ至リテ其極ニ達シ獨逸國民經濟ハ正ニ其危機ニ瀕シタリ

然ルニ千九百二十四年七月「ロンドン」會議ニ於テ獨逸ハ從前ニ比シ妥協的態度ニ出テ所謂「ドウズ」案ノ成立ヲ見此獨逸外交ノ一轉機カ其通貨ノ安定、外國資本ノ輸入、國民經濟ノ復興等ニ甚大ナル影響ヲ與ヘタルハ其後ノ獨逸明ニ之ヲ證明ス特ニ戰後ノ爲替相場ノ如キハ必スシモ經濟上ノ法則ノミニ從ヒテ上下スルモノニアラス政治的事實カ頗ル重大ナル影響ヲ與ヘ貨幣爲替ヨリ政治爲替ナル現象ニ到達シタルコトハ世界大戰後ニ於テ吾人ノ經驗シタル所ナリ

彼ノ「ナポレオン」戰爭後ニ於ケル英國ノ財政及經濟カ非常ナル危機ニ陥リタル際之ヲ救済シ得タルモノハ大政治家タル「ハスキツソン」氏ノ財政的手腕ニ待ツコト勿論ナリト雖又實ニ外交家タル「カンニング」ノ機宜ニ適セル對外政策ニ負フ所大ナラスンハアラス

更ニ一國外交ノ指導カ其國民ノ思想上ニ及ホス影響ヲ看過スヘキニアラス戰後殊ニ大戰争ノ後ニ於ケル國際關係ハ頗ル複雜錯綜スヘク國家ノ外交亦必スシモ一本調子ヲ以テ直進スルコト能ハサルハ明白ナリト雖要ハ大局ヲ達觀明察シテ堂々ト正道ヲ邁進シ外交上ノ小刀細工ヲ避クルコト必要ナリトス彼ノ大戰後數年間ニ於ケル獨逸ノ不徹底ナル外交特ニ佛白軍ノ「ルール」占領ニ對スル「消極的抵抗」政策カ結局ニ於テ單ニ自縛自縛ノ結果ヲ招來シタルニ過キササル事實ニ鑑レハ蓋シ思半ハニ過キン

戰後國民ノ思想ハ一般ニ動搖シ其心理カ懷疑狀態ニ在ルハ通常ニシテ此際健全ナル思想ニ歸一セシメ健實ナル氣風ヲ作興シテ先ツ精神上ノ基ヲ築キ戰後經營ノ大事業ヲ遂行セント欲セハ國家ノ外交方針モ亦徒ラニ技巧の權道ヲ辿リ術數

ヲ弄スルコトナク堂々トシテ正道ヲ濶歩直進スルヲ必要ナリトス。

### 一 戰後國民思想ノ指導及其教育

戰勝戰敗何レニ拘ラス戰後國民思想ノ善導竝國民教育問題ハ國家將來ノ爲頗ル重大ナル意義ヲ有シ今日ノ戰勝國カ他日ノ戰敗國ト爲リ又ハ其レト反對ノ現象ヲ呈スルハ戰後ノ國民思想指導竝其教育ノ當否ニ關スルモノ尠カラズ彼ノ千八百六十六年大敗後ニ於ケル普魯西、普佛戰役ニ敗北シタル佛國等カ其國民思想ノ指導國民教育ニ致シタル努力ハ實ニ莫大ナルモノニシテ他日戰勝ノ基礎ハ實ニ此ニ胚胎シタリト言フモ過言ニアラス。

概シテ戰敗國民ハ國民思想ヲ統一スル爲ニ明瞭ナル目標ヲ有シ其敢愾心ハ國民思想ヲ統一スル爲ニ頗ル有效ナル作用ヲ爲スニ反シ戰勝國民ノ思想ノ統一ハ頗ル困難ナルニ似タリ世界大戰ハ戰敗國民ノ思想道德ノ頹廢ヲモ實證シタルカ如キ觀ナキニアラスト雖古來ノ史實ニ徵スレハ戰勝國民ノ方カ思想的ニハ墮落シ易キヲ一般トシ此間當局ニシテ其國民教育ノ方針ヲ誤ランカ他日戰敗ノ素因ハ

茲ニ胚胎スヘキコト必然ナリ

普佛戰爭後獨逸ニ於テハ漸ク驕奢華美成金風ヲ馴致シ人口ノ増殖率ハ從前ヨリモ減少シ事業濫興投機流行シテ遂ニ經濟ノ恐慌期ニ入りタリ若シ夫レ日露戰爭後ニ於ケル我帝國國民ノ思想氣風ヲ其以前臥薪嘗膽ノ實ヲ示セル時代ノ其レニ比スレハ果シテ如何 明治大帝カ痛ク軫念遊ハサレ明治四十年戊申詔書ヲ下シ給ヒタルハ追憶スルタニ長キ次第ナリ

元來戰爭テフ人生ノ大慘劇ノ後ニ於テ人々安怡生活平和享樂ヲ憧憬スルハ人性ノ自然ニシテ從テ大戰爭後ニ於テハ常ニ平和思想カ勃興スルモノニシテ動タル戰爭ノ益、慘烈ナルニ從ヒ其反動タル平和追及ノ思想モ愈盛ナルコト亦當然ナリトス彼ノ三十年戰爭後、フーゴ、グロチウスノ思想カ翕然トシテ大勢力ヲ得遂ニ今日ノ國際法ノ基礎ノ設定セラレタル如キ又世界大戰後俄然トシテ文化至上主義平和主義國際主義ノ勃興シタルカ如キ即チ彼上ノ真理ヲ實證スルモノタラスンハアラス

國民ヲ指導教育スヘキ地位ニ在ル者ハ能ク前陳ノ真理ヲ辨へ無自覺ニ當時ノ濶



中ニ捲キ込マルルコトナク超然トシテ其眞諦ヲ捉ヘ國民ノ舵ヲ取ラサルヘカラス然ルニ國民ノ指導者ニシテ眞個ノ大勢ヲ達觀セス俗勢ニ媚ヒテ其施設ヲ誤ラシカ即チ國家百年ノ計ヲ誤ルモノト言ハサルヘカラス

戰爭ハ平和ノ一原因ニシテ平和ハ戰爭ノ一原因タルコト吾人ノ既ニ論述シタル所ニシテ戰爭ト平和トハ恰モ晴雨寒暑ノ如ク絶エス循環ス識者ハ須ラク戰爭ノ中ニ平和ヲ觀平和ノ中ニ戰爭ヲ觀サルヘカラス

### 三 戰後ノ軍備ニ關スル施設

戰後ノ軍備問題ハ戰勝戰敗何レニ論ナク戰後經營中ノ重大問題タリ蓋シ戰爭ハ國際關係ニ一大變動ヲ齎スノミナラス政治、軍事、經濟ニ關スル思想上ニ一大變革ヲ與ヘ交戰手段、用兵術、軍用技術等ニ著大ノ變化ヲ及ホスモノナレハナリ

戰後一國ノ軍備ヲ擴張スヘキカ又ハ整理緊縮スヘキカノ問題ハ民族本來ノ使命、現在及將來ニ於ケル國家ノ境遇並國際關係、政治、軍事ニ關スル思潮ノ大勢等ヲ慎重ニ考察熟慮シテ決定スヘキ問題ニシテ無意義ニ世界ノ大勢ニ逆行スルノ不可

ナルト同時ニ民族本來ノ使命自國ノ境遇ヲ忘レテ徒ラニ世界ノ俗勢ニ迎合スルモ亦斷シテ不可ナリト言ハサルヘカラス

丁抹戰爭普塊戰爭後ニ於ケル普國、普佛戰後ニ於ケル獨佛兩國、日清日露戰爭後ニ於ケル帝國等ハ何レモ戰後軍備ヲ擴張シ世界大戰迄ハ列強競ウテ軍備擴張ニ熱中シタリシカ世界大戰後ハ一面ヨリ觀レハ各國共ニ軍備ノ整理緊縮ヲ行フ趨勢ニ在リ是レ國際關係ニ一大變化ヲ觀タルト共ニ政治、經濟、軍事ニ關スル思想ニ顯著ナル變革ヲ來シタルト財政ノ整理、經濟ノ復興カ交戰列強最先ノ急務ト爲リタルニ因ラスンハアラス

然レトモ廣義ノ軍備ナル見地ヨリ觀察スルトキハ世界大戰後ノ一般趨勢カ必スシモ軍備ノ縮小ナリト斷スルコト能ハサルカ如シ蓋シ戰爭規模ノ増大、交戰方法ノ進歩、用兵術、軍用技術等ノ發達ノ結果大戰前ノ軍備ト其以後ニ於ケル軍備トハ其内容ニ著大ナル變化ヲ來シ從テ軍備ノ重點、軍備ヲ整フル形式手段亦往昔ト相同シカラサルモノアレハナリ是ヲ以テ廣義ノ軍備ノ見地ヨリ觀察スルトキハ世界大戰後ノ趨勢カ軍備ノ縮小ニ在リト斷スルハ失當ナルカ如シ

從來ノ意味ニ於ケル軍備即チ軍備ノ第一線ヲ緊縮シ其間口ヲ狭メテ奧行ヲ深カラシメントスルハ正ニ大戰後ニ於ケル列強軍事政策ニ共通セル主義方針ニシテ軍ニ軍備ノ第一線ノミニ就テ觀察スルトキハ方今列強ノ趨勢ハ軍備ノ縮小ニ在ルカ如シト雖廣義ノ軍備ナル見地ヨリ觀察スルトキハ必スシモ然ラサルノミナラス第一線軍備ノ内容形式範圍亦大ニ昔日ト其趣ヲ異ニスルモノ無クンハアラス」軍備ノ擴張又ハ縮小ハ別問題トシテ軍備ノ改善ハ如何ナル戰爭ノ後ト雖之ヲ實行セサルヘカラス是レ戰爭ハ國軍ノ組織、編制、裝備等ノ改善ノ爲最モ貴重ナル教訓ヲ與フルモノナレハナリ

千八百六年「ナポレオン」一世ノ爲ニ蹂躪歴伏セラレタル普國ノ勃興カ「シャルンホルスト」ノ軍備改善ニ負フ所甚大ナルハ普ク人ノ知ル所ニシテ若シ戰爭ノ貴重ナル經驗ヲ究メス至當ナル軍備ノ改善ヲ怠ランカ國軍ノ前途ハ頗ル危險ナリト言ハサルヘカラス但シ戰爭ノ經驗ハ最モ尊重スルヲ要スト雖飽迄過去ノ戰爭ノ經驗ナルコトニ注意セサルヘカラス將來戰力悉ク之ト同一ナルモノト速斷スルハ大ナル誤謬ニシテ過去ノ戰爭ノ經驗ヲ精査審究シ軍備改善ノ基礎タラシムルト同

時ニ更ニ將來ニ於ケル未然ノ趨勢ヲ洞察達觀スルノ明ナカルヘカラス方今單ニ世界大戰ノ經驗ノミニ心醉シ他ヲ顧サルカ如キ說ヲ爲ス者ハ其一ヲ知リテ未タ其二ヲ知ラサルモノト言フヘシ

#### 四 戰後社會政策的施設

戰役間社會政策的施設ノ極メテ重要ナルコトハ前既ニ陳ヘタル所ナリト雖戰後亦然リトス平和ノ克復セラルルヤ軍需工業ハ茲ニ終焉ヲ告ケ多數ノ軍人ハ戰地ヨリ歸還シ國家ノ總復員行ハルルヲ以テ失業者續出スルハ理ノ當然ニシテ戰後ノ不景氣ハ益、此現象ヲ甚シカラシム世界大戰後ノ英國ニ於テハ失業者二百萬以上ニ達シ歴代ノ政府ハ失業救済ニ苦心シ本問題ハ其對外政策就中對露對獨政策ニ迄モ影響ヲ及ホシタル事實アリ

失業救済問題以外物價問題、住宅問題、土地問題、不具廢疾者並戰病死者ノ遺族救護問題等ハ頗ル重要ニシテ世界大戰間ノ獨逸最高統帥部ハ既ニ戰時中ヨリ本問題ノ研究ヲ行ヒ歸郷兵ノ東部地方移住、小住宅ノ建築、地價ノ暴騰家賃ノ騰貴ヲ防遏

スル爲ノ對策等ヲ立案シ政府ノ注意ヲ促ス所アリシハ著名ナル事實タリ  
 社會政策の施設ハ戰後ノ財政經濟政策ト最モ密接ナル關係ヲ有シ失業救濟問題  
 ノ如キモ其根本的解決ハ經濟ノ發展、産業ノ振興、海外發展等ニ依ラサルヘカラス  
 資金ノ融通、報償金ノ下付等ハ單ニ應急的手段トシテ價值アルニ過キス其他ノ社  
 會政策の施設亦然リトス

### 第三節 財政ノ整理及經濟復興

如何ナル戰後經營ト雖其中核ヲ爲スモノハ財政ノ整理及經濟復興ニシテ其施設  
 ヲ誤ランカ國民生活及人心ノ安定得テ期スヘカラス國運ノ衰微ヲ來スヘキコト  
 當然ニシテ彼ノ好戰國民タル土耳其帝國カ過早ニ衰微シタル有力ナル一原因ハ  
 彼等カ戰後財政ノ整理、經濟復興ヲ策スルノ能力ト努力ヲ缺如セルニ在リ又佛蘭  
 西大革命ノ有力ナル一原因カ、ルイ十四世以來數戰役ノ後ニ於ケル戰後經營就中  
 財政ノ整理宜シキヲ得サリシニ在ルコト普ク人ノ知ル所ノ如シ  
 方今國家ノ全力ヲ舉テスル大戰爭ニ於テハ一國ノ財政經濟上ニ與フル打撃到底

昔日ノ比ニアラス從テ戰後財政ノ整理、經濟復興ニ關スル問題ハ實ニ戰後經營ノ  
 核心ヲ爲スモノニシテ國家諸政策ノ骨幹タリト言フモ過言ニアラス世界大戰後  
 ニ於ケル歐米諸國ノ對内對外諸政策ヲ審ニ觀察スレハ其ノ樞軸ヲ爲スモノ亦實  
 ニ財政經濟問題タルコトヲ看取スルヲ得ヘシ即チ失業問題、通貨問題爲替問題、物  
 價問題等ノ國內問題ハ勿論對外政策ノ基調モ亦其財政經濟問題ニ存スルニ似タ  
 リ彼ノ歐洲外交ノ中心問題タリシモノハ賠償問題ニシテ此賠償問題ハ聯合國間  
 ノ戰債問題ト關聯シ此兩者ハ共ニ交戰列強ノ財政經濟ト全然不可分ノ關係ニ在  
 リシコト周知ノ事實ニ屬ス

戰後ノ財政經濟政策ハ戰時財政經濟政策ト密接ナル關係ヲ有シ縱ヒ平和ノ克復  
 ヲ觀ルモ戰後若干年ノ間ハ戰時財政經濟政策中ノ或ル種ノ政策ハ依然トシテ繼  
 續セラルヘキハ當然ニシテ大戰後ノ交戰列強ノ施設亦然リトス  
 財政經濟ハ主トシテ物質的方面ニ關スルモノノ如キモ人間ノ精神ハ此間偉大ナ  
 ル作用ヲ爲スモノナルコトヲ忘ルヘカラス彼ノ「ナポレオン」戰爭後ニ於ケル英國  
 ノ如キ財政ノ窮乏其極ニ達シ貿易ハ衰微シ事業沈衰シ失業者續出シテ工業勞動

者及農民ノ窮境名狀スヘカラサルニ至リ英蘭銀行ハ二十年ノ久シキニ互リ兌換ヲ停止シ平和克復後ノ七年間ハ英國財政經濟史上暗黒時代ト稱セラレタル程ナリシカ能ク此難關ヲ突破シ國運ノ隆昌發展ヲ見タルモノ固ヨリ「ハスキツソン」カ  
ンニング等ノ手腕ニ待ツ所大ナリト雖亦實ニ不撓不屈萬苦ヲ忍ンテ奮勵努力シタル英國國民ノ精神力ノ優越セル賜物タラスンハアラス  
普佛戰爭ニ於テ佛國ノ受ケタル財政經濟上ノ打撃ハ決シテ鮮少ナリトセス然ルニ佛國國民上下一致ノ臥薪嘗膽ノ前ニハ敵ナク當代ノ智者タル「ビスマーク」ノ豫想ヲ裏切り數年ニシテ莫大ナル償金ヲ支拂ヒ而モ著々トシテ經濟復興ノ實ヲ示セリ

由是觀之戰後財政ノ整理、經濟復興ニ緊要ナルモノハ單ニ黃白ノミニアラスシテ國民ノ愛國奉公心、勤儉努力ノ美風カ如何ニ重大ナル關係ヲ有スルカヲ了解シ得ヘク與望ヲ荷ヒ強大ナル權力ヲ有スル鞏固ナル政府ニアラサレハ決シテ此大事業ヲ遂行スルコト能ハサルヤ明白ナリトス

### 其一 財政ノ整理

戰後財政整理ノ難易ハ戰時中ノ財政政策ノ當否ニ關スルコト頗ル大ニシテ戰時財政政策ノ實行ハ戰後ノ整理ヲ度外視スルヲ許サス而モ戰時中既ニ戰後ニ於ケル其整理ヲ顧慮シ適時所要ノ施設ヲ爲シ置クコト極メテ緊要ニシテ世界大戰間交戰列強ハ戰役半ハヨリ或ハ増稅ヲ行ヒ又ハ新稅ヲ設定シ徐ロニ國民ヲシテ其負擔ニ慣レシムルト同時ニ戰後整理ヲ容易ナラシムルノ手段ヲ講シタルコト既述ノ如シ

財政カ經濟ト密接不可分ノ關係ニ在ルコトハ茲ニ贅スル迄モナキ所ニシテ戰後財政ノ整理ヲ迅速ナラシメント欲セハ其經濟政策ヲ正當ニ確立シ且之カ實行宜シキヲ得サルヘカラス又經濟復興ヲ容易ナラシメント欲セハ速ニ其財政ノ整理ヲ斷行セサルヘカラサルヤ明白ナリトス「ナポレオン」戰争後英國歷代ノ内閣ヲ儲マシタル財政整理問題カ「ハスキツソン」氏ニ依リ解決セラレタルハ前既ニ陳ヘタル所ナルカ其成功ハ航海條例ノ改正次テ其全廢、關稅ノ改正等時宜ニ適セル經濟

政策ノ實施ニ負フ所多大ナラズンハアラス  
抑、財政ノ根本ハ國家歳入歳出ノ均衡ヲ得ルニ在リ然ルニ國家ハ戰後公債利子ノ支拂並其整理ノ爲莫大ナル支出ヲ爲ササルヘカラサルノミナラス戰後經營就中年金恩給等ノ支拂、經濟ノ復興、失業救濟其他ノ社會政策的施設、軍備ノ改善等ノ爲多大ノ經費ヲ要スト雖戰後民力ハ疲弊シテ縱ヒ増税スルモ大ナル收入ヲ期スルコト能ハサルノミナラス到底多額ノ公債ヲ消化スルノ力ヲ有セス戰後經濟界ノ不景氣ハ却テ國庫收入ヲ減少セシメ歳入ニ大不足ヲ生スルヲ一般トス戰後財政整理ノ難關ハ實ニ此ニ存シ如何ニシテ此難關ヲ突破スヘキカハ最も重要ナル問題ナルモ爲政者ノ時宜ニ適スル財政經濟政策ノ斷行ト國民一致ノ愛國的努力ノ外ニ途ナキモノノ如シ

### 一 公債整理問題

現時ノ戰爭ニ於ケル戰費カ莫大ナル額ニ達シ而モ其大部カ公債ニ由リ調達セラ  
ルルコト前章ニ於テ述ヘタル所ニシテ其莫大ナル公債整理問題ハ戰後財政整理

問題ノ核心ヲ爲スモノト言フモ過言ニアラサルヘク豫算ノ均衡モ兌換制度ノ確立モ皆此問題ニ相關聯ス

世界大戰間交戰列強カ租税ニ依リテ調達シタル戰費ノ割合ハ比較的僅少ナリト雖戰後ハ俄ニ租税ヲ増徴シ概ネ七八倍ノ増税ヲ斷行シタルコト前陳ノ如シ「ナポレオン」戰爭後ノ英國ノ如キハ「シドニー」スミス「カ」口ニ入ルモノ背ヲ被フモノ足ニ穿クモノ見ルモノ聞クモノ嗅クモノ味フモノ一トシテ課税ノ目的タラサルモノ無ク地上ノモノ地下ノモノ外國ヨリ來ルモノ外國ニ行クモノ悉ク課税セラレタリト稱シタル如ク當時英國人ノ負擔ノ苛重ハ其極ニ達セリ蓋シ公債其物ハ之ヲ借り換ヘ償還期限ヲ延長スルコトヲ得ヘシト雖其利子ハ之ヲ支拂ハサルヘカラス而モ大戰後ニ於ケル公債利子ハ頗ル莫大ナル金額ニ達スルモノナレハナリ」千九百二十二年英國ノ歳出豫算ヲ見ルニ總支出約百億圓中約二十億カ從來ノ財政約五十億カ戰時公債ニ對スル負擔其他ハ戰後經營費用ニシテ戰時中勉メテ公債ノ發行ヲ差シ控ヘタル英國ニシテ尙且此ノ如シ彼ノ「ワーテルロー」戰後約百年以上ヲ經過シタル今日尙英國ニハ當時ノ未償還公債存在スト稱セラル

公債整理ノ一手段トシテ戰後増税ヲ行ヒ又ハ新税ヲ設定スルハ已ムヲ得サル所ニ屬シ戰後ノ税制問題ハ頗ル重大ナリト言ハサルヘカラス  
公債整理ノ一法トシテハ公債償還基金制度ノ屢採用セラルルハ世人ノ知ル所ノ如ク我國ニ於テモ日露戰爭ノ結果國債ノ激増スルヤ明治三十九年桂内閣ハ減債基金制度ヲ採用シタリ元來此制度ハ「ナポレオン」戰後英國大宰相「ビット」ノ創設シタルモノニシテ常ニ必スシモ有利ナリト言フコト能ハス一國ノ財政經濟狀態如何ニ因リテハ何等ノ效果ヲ齎ササル制度ナルコトヲ閉却スヘカラス是ヲ以テ「ビット」以來千八百二十九年迄英國ニ存積セラレタル國債整理基金制モ「ハスキツソン」ノ英斷ニ依リ撤廢セラレ本邦ニ於テモ亦減債基金増減並其存廢問題ハ幾度カ政界ノ難題ト爲リタルコト周知ノ如シ

宰相「ビット」ノ爲ニ減債基金制度ヲ發案獻策シタル「ブライス」氏ハ一方ニ金ヲ借リツツ他方ニ有益ナル基金ヲ維持スルハ策ノ得タルモノナリ何トナレハ借金ハ其利子單利ナレトモ基金ノ利子ハ複利ナレハナリト辯明シ當時英國朝野ノ共鳴信用ヲ博シタリ然ルニ「バックストン」氏ハ之ヲ非難シテ曰ク「彼等ハ借金ノ利子ヲ支拂

フ爲ニハ増税ニ依ルノ外ナク然ラスンハ借金ハ複利的ニ増加スルノ事實ヲ忘却セリ基金ヲ加ヘテ年々ノ支出カ收入ヲ超エサル限リハ基金制度ニ誤謬ナシト雖一度之ヲ超過スル以上基金ヲ維持スル爲ニハ借金ヲ手段ニ依ラサルヘカラス基金アラハ寧ロ直ニ之ヲ公債ノ銷却ニ充ツルノ便且費用尠キニ如カンヤ國民ハ一方ニ於テ基金カ年々増加シツツアルト同時ニ他方ニ於テ公債ハ年々減少シツツアリト信セリ然ルニ事實ハ之ニ反シ公債ハ年々増加セルナリ……(中略)……要スルニ基金制度ハ一個ノ長キ詐欺ナリシナリ云々ト本邦ニ於テモ減債基金制度ノ設定セラレタルニ拘ラス公債ハ却テ増加シタル事實ヲ閉却スルヲ得ス明治三十九年減債基金制創設當時二十三億内外ニ過キサリシ國債ハ今ヤ殆ント五十億ニ達セントスル事實之ヲ明證ス

然リト雖國家ノ財政經濟狀態ニ依リテハ減債基金制モ亦有效ナル作用ヲ爲シ特ニ公債價格ヲ維持向上セシメ更ニ公債發行ヲ容易且有利ナラシムルノ效益アルコトヲ忘ルヘカラス

近時思想ノ變遷ニ從ヒ公債ニ關スル觀念モ亦變化シ今ヤ「公債借換」ノ如キ微温的

方策ヲ超越シ公債ノ帳消論ヲ主張スル者尠カラス此思想ハ嘗ニ勞農露國ニ於テノミナラス歐米諸國ニ相當勢力ヲ有スル學說タルハ特ニ注目ニ値ス  
公債帳消論ハ英國ニ於テハ所謂資本徵發稅、獨逸ニ在リテハ國難犧牲稅ト爲リテ現ハレ約百年前既ニ「リカルド」ハ此意味ノ學說ヲ提唱シタリト稱セラル最近ニ於テハ英國勞働黨ノ學者「シドニー、ウエップ」カ「パーセント」ノ資本課稅ヲ唱道シタルニ始マリ其意ハ莫大ナル國債ヲ整理スル爲富豪ノ財產ニ高率ノ一時的稅ヲ課シ國債ノ一部又ハ大部ヲ償還シ爾餘ノ公債ニ對スル利率ヲ引キ下ケ一般國民ノ負擔ヲ輕減セントスルニ在リテ資本ノ一部徵發ニ外ナラス即チ稅ト稱スルモ永久的ノ稅ニアラス全然一時的ノ非常特別ノモノニ過キサレナリ  
其内容ニ於テ夫々若干ノ差異アリト雖獨逸、奧、太利、伊、太利、匈牙利、チ、リ、ク等既ニ富豪資本ノ一部徵發ヲ實行シ勞農露國ハ最モ大膽且徹底的ニ之ヲ實行シタルコト世人ノ記憶ニ尙新ナル所タラスンハアラス

## 一 爲替相場問題

戰後一國貨幣相場ノ下落スルハ一般ノ現象ニシテ從テ債權債務ノ關係ヲ攪亂スルコト頗ル大ナリ是ニ於テカ戰後內國債ノ評價ハ國家ノ財政上經濟上並社會上極メテ重大ナル問題ニ屬シ最近獨逸ハ紙幣馬克公債ノ評價ヲ額面ノ二・五乃至五「パーセント」ニ決定セントスルモノノ如シ(大正十四年夏)

一國貨幣ノ對外價值ノ上下即チ爲替相場ノ高低ハ其國ノ財界並經濟界ニ與フル影響甚大ニシテ國家財政上ニ及ホス關係亦決シテ輕視スルヲ許サス古來交戰國ノ爲替相場カ戰後下落スルハ一般ニシテ最近ノ大戰後ニ於テハ英、佛、露、伊、獨、奧、何レノ國家ノ貨幣相場モ總テ下落シ殊ニ露國ノ「ルーブル」紙幣、獨逸ノ「マーク」紙幣、奧國ノ「クローネ」紙幣ノ如キハ其下落極度ニ達シ遂ニ貨幣ノ重要ナル機能タル評價、支拂、貯蓄ノ三機能迄モ喪失シ貨幣經濟ハ破壞セラレ原始時代ノ經濟ニ逆戻リ物々交換、物品ヲ以テスル支拂實物公債等ノ現象ヲ生スルニ至レリ

一國貨幣ノ對外價值下落スレハ物價ノ騰貴ヲ誘起スルヲ通常トシ其程度ハ物資ノ輸入ノ愈々大ナルニ從ヒ益々甚シ而シテ物價騰貴ハ國家ノ支出ヲ膨脹セシムルニ拘ラス租稅其他ノ國庫收入ハ戰後經濟界ノ疲弊動搖混亂ノ結果比較的大ナル能

ハス公債ヲ募集スルモ民間ニ消化ノ力ナク勢政府ハ政府紙幣ヲ濫發スルカ又ハ大藏省證券ヲ發行シテ中央銀行ヲシテ融通セシムルノ已ムナキニ至ル其結果ハ必然通貨ノ膨脹ト爲リ中央銀行ハ大藏省證券ニ對シ銀行券ヲ發行ス更ニ貨幣相場ヲ下落セシメ一方人民ハ自國貨幣價值ノ下落ニ從ヒ爭ウテ外國貨幣ニ走り貯金取引等ニモ外國貨幣ヲ以テスルニ至リ富豪ハ海外ニ其財産ヲ保存セントシ又貿易商人ノ取引ノ爲外國爲替ノ需要激増シ加フルニ内外人ノ國內及外國市場ニ於ケル爲替投機行ハルルヲ以テ益其崩落ヲ激成ス千九百二十三年末迄ニ獨逸資本ノ海外流出額ハ五十七億乃至七十八億金貨馬克ニシテ國內ニ流入セル外國貨幣ハ十二億金貨馬克ニ達セリト傳ヘラル

爲替相場ハ以上ノ經濟的事情ノ外更ニ國內及國際間ノ政治的事情、社會秩序、民衆心理ノ狀態ニ因リ變動スルモノニシテ爲替相場ノ安定ハ國家當局ノ至當ナル財政經濟政策ノ實施時宜ニ適セル對外政策ノ遂行、國民一致ノ愛國的努力等相依リ相俟ツニアラサレハ到底庶幾スルヲ得サルモノトス

貨幣相場ヲ安定セシムルコトハ國家財政ノ整理ヲ容易ナラシムル爲ニモ國民生活

活ヲ安定セシムル爲ニモ將タ又經濟復興ヲ容易ナラシムル爲ニモ極メテ必要ニシテ速ニ其安定策ヲ講スルコトハ國家喫緊ノ急務ニ屬シ大戰後交戰列強ノ何レモ苦心經營至ラサル所ナキ有様ナリ

戰後爲替相場下落ノ根本原因カ不換紙幣又ハ銀行券ノ濫發ニ在リトスレハ之ヲ阻支スルノ手段ヲ講スルコトハ即チ通貨安定ノ根本策タルコト明白ナリ而シテ不換紙幣又ハ銀行券ノ濫發ハ政府豫算ノ不均衡即チ歲入ノ大不足ヨリ生スルモノナルヲ以テ先ツ政府歲出入豫算ノ均衡ヲ得シムルヲ以テ最先ノ急務トス之カ爲ニハ一方極力支出ノ大緊縮大節約ヲ斷行シ他方歲入ノ増加ヲ策セサルヘカラス然ルニ國家ハ戰後經營事業ノ爲多大ノ經費ヲ要シ特ニ公債整理ニ莫大ナル經費ヲ必要トスルコト前陳ノ如シ是ニ於テカ歲出入豫算ノ均衡ヲ得シムル爲ニハ戰後經營事業ノ緩急ヲ顧慮シ不急ノ事業ノ中止又ハ繰延ヘテ行フト共ニ公債整理ノ爲斷乎タル方策ヲ講セサルヘカラス

次ニ爲替相場下落ノ原因ノ一ハ通貨ノ量ニ對スル正貨準備ノ割合ノ減少ニ在ルヲ以テ外債ヲ募集シ正貨ノ増加補充ヲ圖ルコトハ有效ナル一手段ニシテ千九百



二十二年冬ヨリ二十三年春ニ互リ佛國法ノ慘落ヲ防止シ得タルハ倫敦及紐育ノ金融並銀行業者カ佛國ニ貸付ケタル資金ニ負フ所大ナラスンハアラス又獨逸通貨ノ安定ヲ圖ル爲聯合國カ獨逸ニ資金ヲ貸付ケントスル「ドウズ」案ノ期スル所亦此ニ在リ而シテ奧國「クローネ」ノ安定カーニ聯合國貨金ノ賜物タルコトハ周知ノ知シ

不換紙幣ノ濫發ヲ防止スル爲ノ一法トシテ中央銀行ト政府トノ關係ヲ適當ニ律スルコトハ必要ナリ獨逸「ライヒ」スペイン「カ」際限ナク紙幣ヲ濫發シタルハ同行カ餘リニ政府ニ從屬シ過キタルカ爲ナルコト衆論ノ一致スル所ナリトス其他中央銀行ノ發券權ニ制限ヲ加ヘ「千九百二十三年三月」エリゼー「宮殿」ニ於ケル佛國首腦會議ハ法慘落ノ善後策ノ一トシテ「フランス」銀行ノ無準備紙幣發行高ヲ遞減スヘキコトヲ決議ス又ハ中央銀行ヲシテ割引利率ヲ引キ上ケシメ或ハ爲替銀行ヲシテ市場ニ出動セシメ若ハ爲替機資本ノ輸出ヲ嚴重ニ取締ル等亦通貨安定ノ爲ニ有效ナル一手段タルヲ失ハスト雖其根本的方策ハ財政ノ整理産業ノ振興ニ在リ

### 三 兌換復舊問題

戰時ハ兌換基礎擁護ノ見地ヨリ正貨ノ輸出ヲ禁止シ且其充實ヲ努ムルト共ニ兌換ノ停止ヲ行ハサルヘカラサルヲ通常トスルコト前章ニ於テ述ヘタル所ナリ而シテ戰後經濟界ノ健全ナル發達ヲ期スルカ爲ニハ成ルヘク速ニ兌換制度ヲ復舊スルノ可ナルヲ論ナキ所ナリト雖事實ニ於テ兌換復舊ハ頗ル困難ナル問題タラスンハアラス

世界大戰ニ於テハ交戰列強何レモ正貨ノ輸出ヲ禁止シ多クハ其兌換ヲ停止シ金本位制ハ事實上一時廢止セラレタルコト周知ノ如ク富力世界ヲ壓スル英國ニ於テスラ千九百二十五年晚春ニ於テ始メテ同國藏相カ金輸出解禁ノ方針ヲ宣言シ次テ之ヲ斷行シタル位ニシテ獨佛伊等ハ勿論我國ト雖未タ金輸出解禁ヲ見サル有様ナリ(大正十四年初夏)

英國ハ大戰間法律ヲ以テハ兌換停止ヲ行ハサリシト雖英蘭銀行カ兌換ヲ濫リタルハ事實ニシテ縱ヒ兌換ノ名アリト雖金ノ輸出ヲ禁止セル以上其實ナキモノト

言ハサルヘカラス是レ金本位制ハ外國ニ對スル關係ニ於テ始メテ其意義ヲ有スルモノナレハナリ

戰後兌換復舊ノ困難ナル事情ハ紙幣ノ膨脹、爲替相場ノ下落ニ在リ是ヲ以テ成ルヘク速ニ兌換制度ヲ復舊シ財界ノ健全ナル發達ヲ欲セハ先ツ通貨ノ收縮ヲ斷行シ且正貨ノ充實ヲ圖ルト共ニ速ニ爲替相場ヲ恢復セシコトヲ勉メサルヘカラス是カ爲政府及國民ノ努ムヘキ所ハ前ニ陳ヘタルヲ以テ茲ニ贅セス

兌換復舊、金輸出解禁問題ト爲替相場問題トハ互ニ密接ナル關係ヲ有シ爲替相場恢復ノ爲ニハ金輸出解禁カ有效ナルト同時ニ國際貸借ノ均衡ヲ得爲替相場カ或ル程度ニ恢復シタル後ニアラサレハ金輸出解禁ハ大ナル危險ヲ伴フコトヲ忘ルヘカラス英國カ金ノ輸出解禁ヲ斷行シタルハ即チ其爲替相場カ殆ント平價ニ恢復シタルニ因ラスンハアラス

## 其二 經濟復興

戰後經濟復興ノ難易ハ戰爭ノ與ヘタル經濟上ノ打擊ノ大小ニ關シ三十年戰爭後

ノ獨逸、ナポレオン戰爭後ノ英國等ハ其經濟復興ニ長年月ヲ要シタリト雖南北戰爭後ニ於ケル合衆國、普佛戰爭後ニ於ケル佛國ノ經濟復興ハ比較的迅速ニ實現セラレタリ

如何ナル戰爭ト雖其國民經濟ニ多少ノ打擊ヲ與ヘサルモノナク戰爭ノ直接影響ハ經濟上ニ不利ナルモノ多キコトハ否認スヘカラス然ルニ戰爭ニ根柢ヲ有スル科學技術等ニ關スル諸種ノ發明行ハレ且人間ノ冒險心旺盛ナル企業心ノ勃興ヲ見又組織能力ノ向上スル結果戰後或ル期間ヲ經過シタル後ニ於テハ却テ經濟ノ進步發達ヲ見タル事例ノ尠カラサルコト前陳ノ如シ彼ノ「ナポレオン」戰爭後英國ニ於ケル鐵道、汽船、郵便、電信等交通上ノ發明南北戰爭後ニ於ケル石油鑛脈等ノ發見カ夫々當該國經濟ノ發展ニ寄與スル所大ナリシハ著明ノ事實ニ屬ス

## 一 財政ノ整理並金融施設

經濟復興カ財政ノ整理ト密接ナル關係ヲ有スルコトハ單ニ理論上然ルヘキノミナラス實ニ歴史ノ明證スル所タリ國家ノ財政紊亂シ爲ニ通貨ノ安定ヲ缺キ國民

ハ過重ノ負擔ニ呻吟スル有様ニテハ其經濟復興ハ到底庶幾スルヲ得サルナリ  
國民經濟ノ復興カ一國ノ金融施設ノ當否ト密接不可分ノ關係ニ在ルコトモ亦明  
瞭ニシテ國家ハ金融上必要ナル施設ヲ行ハサルヘカラス大戰後佛國カ戰爭地域  
内ノ農工業、交通、鑛業等復興ノ爲其所有權者ニ損害ヲ賠償セントシ一方戰爭被害  
賠償法ヲ制定スルト共ニ他方該法律ノ運用ヲ容易ナラシムル爲戰時貸付銀行ヲ  
創立シ金融上ノ便宜ヲ與ヘタルカ如キ即チ此趣旨ニ出テタルモノタラスンハア  
ラス

戰爭ノ終熄ト共ニ軍需品製造工業者、造船業者、海運業者等ハ甚大ナル打撃ヲ受ク  
ヘク是等ノ者ニ對シテハ戰時中ヨリ既ニ所要ノ警告ヲ與ヘ豫メ戰後ニ備ヘシム  
ルト共ニ平和克復後モ爲シ得レハ政府ニ於テ金融上必要ナル援助ヲ與ヘ且時宜  
ニ適スル金融施設ヲ行フヲ必要トス

大戰後獨逸ノ實例ニ徴スレハ爲替相場ノ極端ナル下落、通貨ノ大動搖ト共ニ資本  
ハ漸次固定化セラレ縦ヒ通貨ノ安定ヲ見タル後ニ於テモ運轉資本ノ缺乏ヲ來シ  
從テ金利ハ甚タ高率ナル有様ナリ是ニ於テカ外國資本ノ輸入ハ必要ニシテ此ノ

如クシテ能ク萎靡セル産業ヲ振興セシメ經濟ノ發展ヲ期スルヲ得ヘシ

## 一 企業ノ統一合同

戰爭終熄ノ爲ニ大ナル打撃ヲ蒙リ悲境ニ沈淪セル諸種ノ事業ヲ救済スル爲ニハ  
政府ハ各種企業ノ合同ヲ指導シ之カ實現ヲ期スルコト必要ニシテ世界大戰後交  
戰列強ハ何レモ之ヲ實施シ特ニ獨逸ニ於テハ頗ル大規模且徹底的ニ實行セラレ  
タリ此企業ノ統一合同ハ困難ナル經濟事情ニ處シ資本ノ經濟的能力ヲ擴大スル  
唯一ノ方法タラスンハアラス

## 二 貿易政策

英國ハナポレオン戰後經濟ノ衰微甚シカリシカ遂ニ自由貿易主義ヲ採用スルニ  
至リ始メテ復興ノ緒ニ就キ爾來益々經濟ノ發展ヲ見タリシカ普佛戰後ノ獨逸經濟  
ノ發展ハ却テ「ビスマルク」ノ保護貿易政策ニ負フ所甚大ナリトス  
自由、保護何レノ貿易政策ヲ可トスルヤハ一ニ其國ノ産業發達ノ程度其他ノ經濟

事情ニ關スルモノニシテ一概ニ之ヲ論斷スルコト能ハサルハ言フ俟タス且一國ノ貿易政策ハ國家ノ財政、通貨問題、物價問題等ト相關聯スルヲ以テ是等諸般ノ關係ヲ考量シ時宜ニ適スル政策ヲ採用スルコト緊要ナリトス

戰後國家ハ成ルヘク輸出貿易ノ促進ヲ圖ルコトハ財政特ニ爲替問題解決上必要ニシテ是カ爲ニハ保護關稅政策ヲ採用シ輸入ヲ防遏シ國產品ノ使用ヲ獎勵スルコト一方法タルヲ失ハスト雖其根本策ハ經濟組織ヲ改善シ技術ノ向上ヲ圖リ且物價問題ヲ解決シテ優良廉價品ノ製造販賣ヲ爲スコトニ努ムルト共ニ海運ノ發展其他運輸交通ノ發達改善ヲ期スルニ在リ

大戰後獨逸カ海外貿易ノ促進ヲ圖ル爲生産ノ統一改善ヲ目的トシテ「カルテル」組織ノ上ニ更ニ共同販賣機關ヲ設置シ經濟戰ニ於ケル共同戰線ヲ張リタルカ如キハ注目ニ値スル施設ニシテ我國ニ於テモ近時工業組合、輸出組合等ノ漸次組織セラレントスル傾向ニ在リ其他貿易促進ノ爲貿易金融機關ノ改善ノ必要ナルコト論ヲ俟タサル所ナリトス

#### 四 物價問題

國民生活ヲ安定セシムル爲ニモ輸出貿易ヲ促進スル爲ニモ物價問題ハ最モ重要ニシテ社會相ノ益、複雜ト爲リ思想ノ愈、錯綜スヘキ將來ニ於テ特ニ然リ而シテ物價問題ヲ解決スル根本策ハ財政ヲ整理シテ速ニ通貨ノ安定ヲ圖リ經濟ヲ復興シテ産業ノ發展ヲ期スルニ在リト雖尙臨機應急ノ對策トシテ戰後或ル期間ハ暴利ノ取締、食糧品公設市場ノ存置、主要食料品標準相場ノ公定、生活必需品國立製造所ノ存置、生活必需品生産費並其販賣價格ノ檢分制度ノ採用等戰時政策ヲ續行スルコト亦必要ナラスンハアラス戰勝國カ一時ニ莫大ナル償金ヲ取り寄スルコトハ物價ノ騰貴ヲ促シ經濟界ニ惡影響ヲ及ホスコト普佛戰後獨逸ノ經驗ニ鑑ルモ明白ナリトス

#### 五 經濟研究調查機關ノ設置

戰役ハ經濟上ニモ貴重ナル經驗ヲ與フルモノニシテ戰後は等ノ經驗ヲ綜合統一

第三編 戰爭ノ計畫、準備及其遂行 第五章 和戰及戰後經營  
シ深厚ナル調査研究ヲ遂ケ一國經濟發展ノ基礎ヲ作ルコト必要ナリ  
六三四

# 戰爭要論終

大正十四年十二月二十一日印刷  
大正十四年十二月二十五日發行

## 陸軍大學校將校集會所

東京市麴町區下六番町十七番地

發行者兼印刷者 前田岩太郎

東京市麴町區下六番町十七番地

印刷所 同 勞 舍

終